

塩川砂井戸遺跡(2) 池石田遺跡

(都)3.3.2 吉井北通り線社会資本整備総合交付金
(防災・安全/活力基盤)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

塩川砂井戸遺跡(2) 池 石 田 遺 跡

(都)3.3.2 吉井北通り線社会資本整備総合交付金
(防災・安全/活力基盤)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

塩川砂井戸遺跡および池石田遺跡は群馬県高崎市吉井町にあります。

都市計画道路「吉井北通り線」の建設工事に伴い群馬県高崎土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を3次に分けて実施してきました。

平成25年8月～26年1月に実施した塩川砂井戸遺跡の第1次調査の成果は、すでに平成27年3月に報告書を刊行し公開されております。縄文時代後期の柄鏡形住居と弧状に繋がる列石、および古代の集落や中世の溝・井戸などが調査されました。

2次調査は平成27年1月～3月、3次調査は平成28年6月～7月に実施しました。この度その成果を、県文化財保護課により立ち合い調査された池石田遺跡の調査成果とともに報告する運びとなりました。2次・3次調査では古墳時代後期から平安時代の集落、特に奈良時代の多胡郡に関連するとみられる集落の状況や、天明3(1783)年に噴火した浅間山起源の軽石を除去・復旧した痕跡等が発見されました。

このように明らかになった貴重な埋蔵文化財を、地域研究の歴史資料や地域史を学ぶ教材として役立てていただけたら幸いです。発掘調査から報告書作成にいたるまで、群馬県高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会ならびに地元関係者の皆様からは多くのご指導・ご協力を賜りました。報告書を上梓するにあたり、関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序といたします。

平成30年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1 本書は、平成27年度・28年度(都)3.3.2吉井北通り線社会資本整備総合交付金(防災・安全／活力基盤)事業に伴い発掘調査された、塩川砂井戸遺跡の埋蔵文化財調査報告書第2冊である。なお、平成29年度に群馬県教育委員会文化財保護課により実施された事業地内の池石田遺跡の立ち合い調査の成果も併載した。

2 遺跡の所在地は下記の通りである。

塩川砂井戸遺跡：群馬県高崎市吉井町大字吉井字柵693-2、694-3、694-6、694-7、694-10、694-11、695-1、695-2、710-1、710-3、714-1、714-2、714-4、714-5、715-1、716、717-1、717-2、718-1、720-1、720-3、720-4、721-5、734-1、734-2、734-3、734-8、735-1、744-3、同字鍛冶町746-1、746-2、746-3、746-6、甲803、804、808、747-1、747-2、747-4、747-5、802-1、803-2、803-3、803-4、805-1、807-1、807-4、811-1、811-2、同字腰巻651-5、652-2、651-2、651-3、653-2、650-1、650-6、651-4、651-6、652-1番地

池石田遺跡：群馬県高崎市吉井町大字池36-1他

3 事業主体 群馬県高崎土木事務所

4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。

平成27年度

調査期間 平成28年1月1日～平成28年3月31日 (履行期間 平成27年12月1日～平成28年3月31日)

発掘担当者 主任調査研究員 笹澤泰史、専門調査役 相京建史・間庭 稔

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

地上測量：株式会社シン技術コンサル 空中写真撮影：技研コンサル株式会社

平成28年度

調査期間 平成28年6月1日～平成28年7月31日 (履行期間 平成28年5月1日～平成28年9月30日)

発掘担当者 主任調査研究員 坂本和之、専門調査役 木津博明

遺跡掘削請負工事 スナガ環境測設株式会社 地上測量：株式会社シン技術コンサル

6 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 平成29年4月1日～平成30年1月31日

(履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日)

整理担当 主任調査研究員・資料統括 齊田智彦(4月1日～7月31日)、専門調査役 小島敦子

遺物保存処理 専門員 板垣泰之、専門調査役 関 邦一

遺物洗浄・注記：株式会社シン技術コンサル

7 本書作成の担当者は次の通りである。

編集 小島敦子 デジタル編集 齊田智彦

遺物写真撮影 小島敦子(土師器・須恵器)、専門調査役 石坂 茂(縄文土器)・徳江秀夫(陶磁器等)

資料2課長 津島秀章(石器・石製品)、板垣泰之(金属器)

執筆 資料部長 神谷佳明(本文：第V章2(1)) 小島敦子(本文：前記以外(第II章は『塩川砂井戸遺跡』2015より加筆・転載))

徳江秀夫(遺物観察表：土師器・須恵器・陶磁器・中世土器類)

石坂 茂(遺物観察表：縄文土器) 津島秀章(遺物観察表：石器・石製品)

板垣泰之(遺物観察表：金属製品)

- 8 出土石製品の石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)にお願いした。
- 9 発掘調査諸資料および出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 10 発掘調査および報告書作成に際しては、下記の方々・機関にご協力・ご指導いただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)

群馬県高崎土木事務所、群馬県教育委員会、群馬県立文書館、高崎市教育委員会、高崎市吉井郷土資料館、甘楽町教育委員会、神保佑史、関口荘右、樫沢恭子、秋山正典、滝沢 匡、小根澤雪絵、小安和順

凡 例

- 1 本文中に使用した座標・方位はすべて国家座標「世界測地系(測地成果2000 / 平面直角座標第IX系)」である。また、調査区中央付近のX=29,100、Y=-76,200の真北方向角は東偏0° 30' 05.61" である。
- 2 グリッドは、遺構挿図中に+記号と数値を併せて座標値を表した。数値は国家座標値X・Y値の下3桁を用いて表記した。
- 3 遺構の種別および遺構番号は、混乱を避けるため調査時の番号を踏襲することを原則とした。
- 4 遺構断面図に記した数値は、標高(単位:m)を表した。
- 5 遺構図・遺物図の縮率は原則として以下の通りとし、各挿図にスケールを添えた。同一の遺物図内に異なる縮率の図が加わる場合は、必要に応じて該当するスケールの下に遺物番号を記した。

遺構図 竪穴建物1:60 竈1:30 掘立柱建物・柱穴列1:60 井戸1:60 溝1:100 土坑1:40

ピット平面図1:160・同断面図1:40 畑1:60 復旧痕平面図1:160・同断面図1:40

遺物図 土師器・須恵器1:4 陶磁器1:4 縄文土器破片1:3

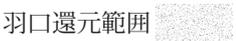
金属製品1:2 石製品/紡輪・砥石1:2 磨石・石臼・棒状礫1:3 台石・石皿1:4

- 6 遺物写真は遺物図とおおよそ同縮率となるようにした。
- 7 遺構図内で使用したトーンおよびドットは次のことを示している。

焼土  粘土  攪乱(断面) 
 ● 土器 ▲ 石器 ■ 金属製品 ○ 羽口

その他、個別図面で使用したトーン・記号については各挿図内に凡例を加えた。

遺物で使用したトーンは次のことを示している。

羽口溶融範囲  羽口還元範囲  鉄錆  黒色物質 

- 8 遺構の主軸方向・走向を示すため、座標北を基準として東に傾いた場合はN-○°-E、西に傾いた場合はN-○°-Wというように表記した。
- 9 住居等の面積は、デジタルプランメーターにより1/20縮小印刷図上で3回計測し、その平均値を記した。
- 10 遺物観察表の凡例については観察表冒頭のP.248に記した。
- 11 本書で掲載した地図は以下の通りである。

国土地理院地形図1:25,000 「高崎」(平成22年12月1日発行)、「上野吉井」(平成14年12月1日発行)

「富岡」(平成15年3月1日発行)、「藤岡」(平成2年8月1日発行)

国土地理院地形図1:200,000 「宇都宮」(平成10年7月1日発行)、「長野」(平成10年2月1日発行)

高崎市都市計画図1:2500 (平成29年11月7日付測量成果の複製申請認可済)

目次

序
例言
凡例
目次

第Ⅰ章 調査の経過と方法	1	第Ⅳ章 池石田遺跡の遺構	213
1. 塩川砂井戸遺跡調査に至る経緯	1	1. 調査の方法	213
(1)平成27年度	1	2. 溝	213
(2)平成28年度	2		
2. 発掘調査の経過	2	第Ⅴ章 総括	216
(1)平成27年度の調査	2	1. 塩川砂井戸遺跡の集落変遷について	216
(2)平成28年度の調査	4	2. 塩川砂井戸遺跡の出土遺物について	218
(3)池石田遺跡の調査	4	(1)11区36号竪穴建物出土	
3. 発掘調査の方法	5	底部丸底の須恵器長頸壺について	218
(1)調査区とグリッドの設定	5	(2)7区57号土坑出土石製品について	221
(2)基本土層と遺構確認面	5	3. 塩川砂井戸遺跡調査の成果	222
(3)調査と記録の方法	7		
4. 整理業務の経過と方法	8	引用・参考文献	
		遺構計測一覧表	227
第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境	9	遺物観察表	248
1. 遺跡の位置と地形	9	非実測遺物一覧表	282
2. 周辺の遺跡	10		
		写真図版	
第Ⅲ章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物	15	報告書抄録	
1. 調査区の概要	15	付図1 塩川砂井戸遺跡(6～11区)全体図	1:400
2. 竪穴建物	16	付図2 塩川砂井戸遺跡ピット(10-2区)分布図	1:100
3. 竪穴状遺構	140		
4. 掘立柱建物	141		
5. 柱穴列	141		
6. 井戸	143		
7. 溝	148		
8. 鍛冶関連遺構	154		
9. 土坑	158		
10. ピット	190		
11. 畑	208		
12. 復旧痕	209		
13. 遺構外の出土遺物	212		

挿図目次

第1図	塩川砂井戸遺跡と周辺の地勢 (群馬県埋蔵文化財調査事業団『塩川砂井戸遺跡』2015 第1図より転載)	1	第47図	8-2区76号竪穴建物掘り方と出土遺物	64
第2図	塩川砂井戸遺跡調査区位置図	3	第48図	8-2区77号竪穴建物と出土遺物	65
第3図	基本土層計測地点と土層柱状図	6	第49図	8-2区105号竪穴建物と出土遺物	66
第4図	遺跡周辺の地形 (群馬県埋蔵文化財調査事業団『黒熊中西遺跡』1992 第3図より転載、一部修正・加筆)	9	第50図	8-2区106号竪穴建物と出土遺物	66
第5図	周辺遺跡の分布 (群馬県埋蔵文化財調査事業団『塩川砂井戸遺跡』2015 第6図より転載、一部加筆)	11	第51図	8-2区107号竪穴建物	67
第6図	6区47号竪穴建物と出土遺物	17	第52図	8-2区108号竪穴建物と出土遺物	68
第7図	6区48号竪穴建物と出土遺物	18	第53図	8-2区109号竪穴建物	69
第8図	6区49号竪穴建物と出土遺物	19	第54図	8-2区110号竪穴建物と出土遺物	70
第9図	6区50号竪穴建物	20	第55図	8-2区120号竪穴建物	71
第10図	6区50号竪穴建物竈と出土遺物	21	第56図	8-2区120号竪穴建物出土遺物	72
第11図	6区51号竪穴建物と出土遺物	22	第57図	8-2区121号竪穴建物と出土遺物	73
第12図	6区52号竪穴建物と出土遺物	23	第58図	8-2区122号竪穴建物と出土遺物	74
第13図	6区53号竪穴建物と出土遺物	24	第59図	9区38号竪穴建物	75
第14図	6区61号竪穴建物と出土遺物	25	第60図	9区38号竪穴建物竈	76
第15図	6区62号竪穴建物	27	第61図	9区38号竪穴建物出土遺物	77
第16図	6区62号竪穴建物竈と出土遺物	28	第62図	9区39号竪穴建物	78
第17図	6区63号竪穴建物と出土遺物	29	第63図	9区39号竪穴建物出土遺物	79
第18図	6区64号竪穴建物	30	第64図	9区40号竪穴建物	80
第19図	6区64号竪穴建物掘り方と出土遺物	31	第65図	9区40号竪穴建物出土遺物	81
第20図	6-2区69・70号竪穴建物	32	第66図	9区41号竪穴建物	82
第21図	7区24号竪穴建物と出土遺物	33	第67図	9区41号竪穴建物出土遺物	83
第22図	7区27号竪穴建物と出土遺物	35	第68図	9区42号竪穴建物	84
第23図	7区28・29号竪穴建物と28号竪穴建物出土遺物	36	第69図	9区42号竪穴建物掘り方と出土遺物	85
第24図	7区29号竪穴建物出土遺物	37	第70図	9区43号竪穴建物と出土遺物	86
第25図	7区30号竪穴建物と出土遺物	39	第71図	9区44号竪穴建物	87
第26図	7区31・32号竪穴建物と出土遺物	41	第72図	9区44号竪穴建物出土遺物	88
第27図	7区33号竪穴建物と出土遺物	42	第73図	9区45号竪穴建物	89
第28図	7区34号竪穴建物と出土遺物	43	第74図	9区45号竪穴建物掘り方と出土遺物	90
第29図	7区35号竪穴建物と出土遺物	44	第75図	9区46号竪穴建物	90
第30図	7-2区71号竪穴建物	45	第76図	9区54号竪穴建物	91
第31図	7-2区71号竪穴建物竈	46	第77図	9区55号竪穴建物	92
第32図	7-2区71号竪穴建物出土遺物	47	第78図	9区65号竪穴建物と出土遺物	92
第33図	7-2区72号竪穴建物と出土遺物	48	第79図	9区66号竪穴建物と出土遺物	94
第34図	7-2区73号竪穴建物と出土遺物	49	第80図	9区67号竪穴建物と出土遺物	95
第35図	7-2区73号竪穴建物竈	50	第81図	10区56号竪穴建物と出土遺物	97
第36図	7-2区74・75号竪穴建物	51	第82図	10区57号竪穴建物	98
第37図	7-2区74号竪穴建物出土遺物	52	第83図	10区57号竪穴建物出土遺物	99
第38図	7-2区100号竪穴建物と出土遺物	53	第84図	10区58号竪穴建物と出土遺物	100
第39図	7-2区101・104号竪穴建物と101号竪穴建物出土遺物	55	第85図	10区59号竪穴建物と出土遺物	101
第40図	7-2区104号竪穴建物竈と出土遺物	56	第86図	10区68号竪穴建物	102
第41図	7-2区102号竪穴建物	58	第87図	10区68号竪穴建物竈と出土遺物	103
第42図	7-2区102号竪穴建物竈と出土遺物	59	第88図	10区60号竪穴建物と出土遺物	104
第43図	7-2区103号竪穴建物	60	第89図	10-2区78・80号竪穴建物	105
第44図	7-2区103号竪穴建物竈と出土遺物(1)	61	第90図	10-2区78・80号竪穴建物出土遺物	106
第45図	7-2区103号竪穴建物出土遺物(2)	62	第91図	10-2区79号竪穴建物と出土遺物	107
第46図	8-2区76号竪穴建物	63	第92図	10-2区81・82・89号竪穴建物と82号竪穴建物出土遺物	108
			第93図	10-2区81・82・89号竪穴建物掘り方と 89号竪穴建物出土遺物	109
			第94図	10-2区99号竪穴建物	110
			第95図	10-2区83号竪穴建物と出土遺物	111
			第96図	10-2区84号竪穴建物	112
			第97図	10-2区85号竪穴建物	113

第98図	10-2区85号竪穴建物出土遺物(1)	114	第152図	6区・6-2区土坑出土遺物(5)	170
第99図	10-2区85号竪穴建物出土遺物(2)	115	第153図	7区・7-2区円形土坑	171
第100図	10-2区86・87・93号竪穴建物と 87・93号竪穴建物出土遺物	117	第154図	7区・7-2区楕円形・隅丸方形土坑	172
第101図	10-2区86号竪穴建物出土遺物	118	第155図	7区・7-2区隅丸長方形土坑	173
第102図	10-2区88号竪穴建物	119	第156図	7区・7-2区土坑出土遺物	174
第103図	10-2区90号竪穴建物	120	第157図	8-2区円形・楕円形土坑	175
第104図	10-2区91号竪穴建物	121	第158図	8-2区土坑出土遺物	176
第105図	10-2区91号竪穴建物出土遺物	122	第159図	9区円形土坑	176
第106図	10-2区92号竪穴建物と出土遺物	123	第160図	9区円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・不定形土坑	177
第107図	10-2区96号竪穴建物	124	第161図	10区・10-2区円形土坑	178
第108図	10-2区94号竪穴建物	124	第162図	10区・10-2区円形土坑	179
第109図	10-2区95号竪穴建物	125	第163図	10区・10-2区円形土坑	180
第110図	10-2区97・111号竪穴建物と97号竪穴建物出土遺物	126	第164図	10区・10-2区円形土坑	181
第111図	10-2区98号竪穴建物と出土遺物	127	第165図	10区・10-2区円形土坑・楕円形土坑	182
第112図	10-2区112号竪穴建物	128	第166図	10区・10-2区楕円形土坑	183
第113図	10-2区113号竪穴建物と出土遺物	129	第167図	10区・10-2区楕円形土坑	184
第114図	10-2区114号竪穴建物	130	第168図	10区・10-2区隅丸方形・隅丸長方形土坑	185
第115図	10-2区115号竪穴建物と出土遺物	131	第169図	10区・10-2区隅丸長方形・不定形土坑	186
第116図	10-2区117号竪穴建物と出土遺物	132	第170図	10区・10-2区不定形土坑	187
第117図	10-2区119号竪穴建物	133	第171図	10-2区土坑出土遺物	188
第118図	10-2区123号竪穴建物	133	第172図	11区円形土坑	188
第119図	11区23号竪穴建物	134	第173図	11区楕円形・不定形土坑	189
第120図	11区25号竪穴建物と出土遺物	134	第174図	ピット全体図	190
第121図	11区26号竪穴建物	135	第175図	ピット出土遺物	191
第122図	11区36号竪穴建物	136	第176図	ピット位置図(1)	192
第123図	11区36号竪穴建物掘り方と竈	137	第177図	ピット位置図(2)	193
第124図	11区36号竪穴建物と出土遺物	138	第178図	ピット位置図(3)	194
第125図	11区37号竪穴建物	139	第179図	ピット位置図(4)	195
第126図	11区37号竪穴建物出土遺物	140	第180図	ピット位置図(5)	196
第127図	11区1号竪穴状遺構	141	第181図	ピット位置図(6)	197
第128図	6-2区2号竪穴状遺構	141	第182図	ピット位置図(7)	198
第129図	10-2区1号掘立柱建物	142	第183図	ピット位置図(8)	199
第130図	10-2区1号柱穴列	143	第184図	ピット位置図(9)	200
第131図	6区4号井戸と出土遺物	144	第185図	ピット位置図(10)	201
第132図	10区5・6・7号井戸と7号井戸出土遺物	146	第186図	ピット位置図(11)	202
第133図	10-2区9・10・11号井戸と10号井戸出土遺物	147	第187図	ピット位置図(12)	203
第134図	6区17号溝	148	第188図	ピット土層断面図(1)	204
第135図	6区17号溝出土遺物(1)	149	第189図	ピット土層断面図(2)	205
第136図	6区17号溝出土遺物(2)	150	第190図	ピット土層断面図(3)	206
第137図	6区21号溝と出土遺物	151	第191図	ピット土層断面図(4)	207
第138図	10-2区18・19・20B号溝	153	第192図	10-2区1号畑	208
第139図	10-2区20A号溝	154	第193図	7区復旧痕出土遺物	209
第140図	7-2区1号廃棄土坑と出土遺物(1)	156	第194図	7区復旧痕	210
第141図	7-2区1号廃棄土坑出土遺物(2)	157	第195図	7区復旧痕土層断面と出土遺物	211
第142図	6区・6-2区円形土坑	160	第196図	遺構外出土遺物	212
第143図	6区・6-2区円形・楕円形土坑	161	第197図	池石田遺跡 立ち合い調査区位置図	213
第144図	6区・6-2区楕円形・隅丸方形土坑	162	第198図	池石田遺跡 1・2号溝	214
第145図	6区・6-2区隅丸方形土坑	163	第199図	池石田遺跡 調査区・トレンチ位置図	215
第146図	6区・6-2区隅丸長方形土坑	164	第200図	塩川砂井戸遺跡6~11区の竪穴建物数の変化	217
第147図	6区・6-2区隅丸長方形・不定形土坑	165	第201図	塩川砂井戸遺跡11区36号竪穴建物出土須恵器長頸壺	218
第148図	6区・6-2区土坑出土遺物(1)	166	第202図	群馬県内の丸底長頸壺	219
第149図	6区・6-2区土坑出土遺物(2)	167	第203図	長頸壺の形式変化(文献68より)	219
第150図	6区・6-2区土坑出土遺物(3)	168	第204図	凸帯(リング状)貼付長頸壺及び口縁部の類例	220
第151図	6区・6-2区土坑出土遺物(4)	169	第205図	7区57号土坑出土石製品の赤外線写真と釈文	221
			第206図	吉井段丘の遺跡と塩川砂井戸遺跡	223

表 目 次

第1表	塩川砂井戸遺跡 遺構名称新旧対照表	8
第2表	周辺遺跡一覧表	13
第3表	周辺の古墳群一覧表	14
第4表	調査区別遺構数一覧表	15
第5表	調査区別・時期別竪穴建物数一覧表	16
第6表	10-2区1号掘立柱建物柱穴計測表	142
第7表	10-2区1号柱穴列計測表	143
第8表	7-2区1号廃棄土坑出土鉄関連遺物 分類および計量表	155
第9表	平面形別土坑一覧表	158
第10表	時期別竪穴建物数一覧表	217

写真目次

PL. 1	1. 塩川砂井戸遺跡全景(東上空から)右奥に鑛川と浅間山 2. 塩川砂井戸遺跡全景(西上空から)左奥は観音山丘陵
PL. 2	1. 6区全景(西から) 2. 6区北半部全景(南上空から) 3. 6区南半部全景(東から) 4. 6区西部全景(西から) 5. 6区南東部全景(北から) 6. 6区南西部全景(北から) 7. 6区東南部作業状況(西から) 8. 6-2区全景(南から)
PL. 3	1. 7-2区西半部(北西から) 2. 7-2区東半部(南西から) 3. 8-2区東半部(東から) 4. 8-2区東端部(東から) 5. 8-2区東半部作業状況(西から) 6. 9区全景(南上空から) 7. 9区西半部全景(南上空から) 8. 10区西半部全景(南上空から)
PL. 4	1. 10区作業状況(南西から) 2. 10-2区東半部全景(西から) 3. 10-2区西半部全景(南東から) 4. 10-2区遺構重複状況(南から) 5. 10-2区遺構重複状況(南から) 6. 10-2区南東隅トレンチ調査状況(西から) 7. 11区全景(北東から) 8. 11区作業状況(南から)
PL. 5	1. 6区47号竪穴建物全景(西から) 2. 6区47号竪穴建物竈全景(西から) 3. 6区48号竪穴建物全景(西から) 4. 6区48号竪穴建物竈全景(西から) 5. 6区49号竪穴建物全景(東から) 6. 6区49号竪穴建物竈全景(東から) 7. 6区50号竪穴建物全景(南から) 8. 6区50号竪穴建物竈全景(南から)
PL. 6	1. 6区50号竪穴建物竈土層断面D-D' (南から) 2. 6区50号竪穴建物遺物出土状態(西から) 3. 6区51号竪穴建物全景(南から)

4.	6区51号竪穴建物竈全景(南から)
5.	6区51号竪穴建物遺物出土状態(東から)
6.	6区52号竪穴建物全景(西から)
7.	6区52号竪穴建物竈全景(西から)
8.	6区53号竪穴建物全景(北から)
PL. 7	1. 6区62号竪穴建物全景(南から) 2. 6区62号竪穴建物竈遺物出土状態(南から) 3. 6区62号竪穴建物竈煙道部(東から) 4. 6区62号竪穴建物竈土層断面D-D' (南から) 5. 6区62号竪穴建物遺物出土状態(北から) 6. 6区62号竪穴建物遺物出土状態(南西から) 7. 6区63号竪穴建物全景(西から) 8. 6区63号竪穴建物竈全景(西から)
PL. 8	1. 6区64号竪穴建物全景(南から) 2. 6区64号竪穴建物全景(西から) 3. 6区64号竪穴建物竈全景(南から) 4. 6区64号竪穴建物竈土層断面D-D' (東から) 5. 6区64号竪穴建物遺物出土状態(東から) 6. 6区64号竪穴建物掘り方全景(西から) 7. 6-2区69・70号竪穴建物全景(西から) 8. 7区24号竪穴建物全景(南から)
PL. 9	1. 7区24号竪穴建物竈全景(南から) 2. 7区24号竪穴建物貯蔵穴全景(南西から) 3. 7区27号竪穴建物全景(南から) 4. 7区27号竪穴建物遺物出土状態(東から) 5. 7区27号竪穴建物遺物出土状態(西から) 6. 7区28号竪穴建物全景(北西から) 7. 7区28号竪穴建物土層断面B-B' (南西から) 8. 7区28号竪穴建物土層断面B-B' (南西から)
PL. 10	1. 7区28号竪穴建物竈全景(北西から) 2. 7区28号竪穴建物竈土層断面D-D' (南西から) 3. 7区29号竪穴建物遺物出土状態(南西から) 4. 7区29号竪穴建物竈全景(南西から) 5. 7区29号竪穴建物遺物出土状態(北西から) 6. 7区29号竪穴建物全景(南西から) 7. 7区30号竪穴建物全景(北西から) 8. 7区30号竪穴建物竈全景(北西から)
PL. 11	1. 7区31号竪穴建物全景(北西から) 2. 7区31号竪穴建物竈全景(北西から) 3. 7区31号竪穴建物竈土層断面C-C' (南西から) 4. 7区32号竪穴建物全景(南から) 5. 7区32号竪穴建物竈全景(南から) 6. 7区32号竪穴建物貯蔵穴土層断面H-H' (南から) 7. 7区32号竪穴建物貯蔵穴全景(南から) 8. 7区33号竪穴建物全景(西から)
PL. 12	1. 7区33号竪穴建物竈全景(西から) 2. 7区33号竪穴建物竈使用面全景(西から) 3. 7区33号竪穴建物竈土層断面C-C' (南から) 4. 7区34号竪穴建物全景(南西から) 5. 7区34号竪穴建物遺物出土状態(南西から) 6. 7区34号竪穴建物P1土層断面B-B' (南から) 7. 7区34号竪穴建物高杯出土状態(東から) 8. 7区35号竪穴建物全景(西から)
PL. 13	1. 7区35号竪穴建物竈全景(西から) 2. 7区35号竪穴建物竈土層断面C-C' (南から)

- 3. 7区35号竪穴建物遺物出土状態(西から)
- 4. 7-2区71号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
- 5. 7-2区71号竪穴建物遺物出土状態(北東から)
- 6. 7-2区71号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
- 7. 7-2区71号竪穴建物全景(北西から)
- 8. 7-2区71号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
- PL.14 1. 7-2区71号竪穴建物竈全景(北西から)
- 2. 7-2区71号竪穴建物竈土層断面E-E'(北西から)
- 3. 7-2区72号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 4. 7-2区72号竪穴建物竈掘り方全景(西から)
- 5. 7-2区73号竪穴建物全景(西から)
- 6. 7-2区73号竪穴建物竈全景(西から)
- 7. 7-2区73号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 8. 7-2区73号竪穴建物竈土層断面E-E'(西から)
- PL.15 1. 7-2区73号竪穴建物遺物出土状態(南西から)
- 2. 7-2区74・75号竪穴建物全景(北西から)
- 3. 7-2区74号竪穴建物粘土出土状態(北から)
- 4. 7-2区74号竪穴建物土層断面A-A'(北から)
- 5. 7-2区74・75号竪穴建物掘り方全景(北西から)
- 6. 7-2区100号竪穴建物上面礫出土状態(西から)
- 7. 7-2区100号竪穴建物全景(西から)
- 8. 7-2区100号竪穴建物竈全景(西から)
- PL.16 1. 7-2区100号竪穴建物礫出土状態(東から)
- 2. 7-2区101・104号竪穴建物全景(西から)
- 3. 7-2区104号竪穴建物竈全景(南から)
- 4. 7-2区101・104号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 5. 7-2区102号竪穴建物全景(西から)
- 6. 7-2区102号竪穴建物全景(西から)
- 7. 7-2区102号竪穴建物遺物出土状態(北から)
- 8. 7-2区102号竪穴建物竈全景(西から)
- PL.17 1. 7-2区102号竪穴建物竈使用面全景(西から)
- 2. 7-2区102号竪穴建物竈土層断面E-E'(西から)
- 3. 7-2区102号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 4. 7-2区103号竪穴建物上面礫出土状態(西から)
- 5. 7-2区103号竪穴建物竈遺物出土状態(西から)
- 6. 7-2区103号竪穴建物掘り方(西から)
- 7. 7-2区103号竪穴建物竈土層断面D-D'(西から)
- 8. 8-2区76号竪穴建物全景(西から)
- PL.18 1. 8-2区76号竪穴建物1号竈全景(西から)
- 2. 8-2区76号竪穴建物2号竈全景(南から)
- 3. 8-2区76号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 4. 8-2区77号竪穴建物全景(南から)
- 5. 8-2区77号竪穴建物土層断面A-A'(南東から)
- 6. 8-2区77号竪穴建物掘り方全景(南から)
- 7. 8-2区105号竪穴建物全景(北から)
- 8. 8-2区106号竪穴建物全景(北から)
- PL.19 1. 8-2区106号竪穴建物竈全景(西から)
- 2. 8-2区106号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 3. 8-2区107号竪穴建物全景(北西から)
- 4. 8-2区108号竪穴建物全景(南から)
- 5. 8-2区108号竪穴建物1号・2号竈全景(南から)
- 6. 8-2区108号竪穴建物掘り方全景(南から)
- 7. 8-2区109号竪穴建物全景(西から)
- 8. 8-2区110号竪穴建物全景(北西から)
- PL.20 1. 8-2区110号竪穴建物竈全景(西から)
- 2. 8-2区120号竪穴建物全景(南から)
- 3. 8-2区120号竪穴建物竈全景(南から)
- 4. 8-2区120号竪穴建物竈袖芯材出土状態(南から)
- 5. 8-2区120号竪穴建物遺物出土状態(南から)
- 6. 8-2区120号竪穴建物遺物出土状態(南から)
- 7. 8-2区121号竪穴建物全景(南から)
- 8. 8-2区121号竪穴建物竈全景(西から)
- PL.21 1. 8-2区121号竪穴建物遺物出土状態(西から)
- 2. 8-2区122号竪穴建物全景(南から)
- 3. 8-2区122号竪穴建物竈全景(南から)
- 4. 9区38号竪穴建物全景(南から)
- 5. 9区38号竪穴建物1号竈全景(南から)
- 6. 9区38号竪穴建物2号竈遺物出土状態(南から)
- 7. 9区38号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(南から)
- 8. 9区38号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
- PL.22 1. 9区38号竪穴建物1号竈土層断面E-E'(南から)
- 2. 9区38号竪穴建物2号竈全景(南から)
- 3. 9区38号竪穴建物2号竈掘り方全景(南から)
- 4. 9区38号竪穴建物掘り方全景(南から)
- 5. 9区39号竪穴建物全景(西から)
- 6. 9区39号竪穴建物竈全景(西から)
- 7. 9区39号竪穴建物竈土層断面D-D'(西から)
- 8. 9区39号竪穴建物全景(北から)
- PL.23 1. 9区39号竪穴建物全景(西から)
- 2. 9区40号竪穴建物全景(西から)
- 3. 9区40号竪穴建物竈と貯蔵穴全景(西から)
- 4. 9区40号竪穴建物竈土層断面D-D'(西から)
- 5. 9区40号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 6. 9区41号竪穴建物全景(西から)
- 7. 9区41号竪穴建物竈全景(西から)
- 8. 9区41号竪穴建物遺物出土状態(西から)
- PL.24 1. 9区41号竪穴建物P5遺物出土状態(西から)
- 2. 9区41号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状態(西から)
- 3. 9区41号竪穴建物竈使用面全景(西から)
- 4. 9区41号竪穴建物竈袖芯材出土状況(西から)
- 5. 9区41号竪穴建物竈袖芯材出土状態(西から)
- 6. 9区41号竪穴建物竈掘り方全景(西から)
- 7. 9区41号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 8. 9区42号竪穴建物全景(西から)
- PL.25 1. 9区42号竪穴建物遺物出土状態(西から)
- 2. 9区42号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 3. 9区43号竪穴建物全景(南西から)
- 4. 9区43号竪穴建物掘り方全景(南西から)
- 5. 9区44号竪穴建物全景(南東から)
- 6. 9区44号竪穴建物竈全景(南西から)
- 7. 9区44号竪穴建物礫出土状態(北東から)
- 8. 9区44号竪穴建物竈土層断面C-C'(南西から)
- PL.26 1. 9区44号竪穴建物掘り方全景(南東から)
- 2. 9区45号竪穴建物全景(西から)
- 3. 9区45号竪穴建物竈土層断面C-C'(北から)
- 4. 9区45号竪穴建物竈土層断面D-D'(西から)
- 5. 9区45号竪穴建物掘り方全景(西から)
- 6. 9区46号竪穴建物竈全景(南西から)
- 7. 9区54号竪穴建物全景(北から)
- 8. 9区55号竪穴建物全景(西から)

- PL.27 1. 9区65号竪穴建物全景(南西から)
 2. 9区66号竪穴建物全景(南西から)
 3. 9区66号竪穴建物竈全景(南西から)
 4. 9区66号竪穴建物竈遺物出土状態(南西から)
 5. 9区66号竪穴建物竈掘り方全景(南西から)
 6. 9区66号竪穴建物掘り方全景(南西から)
 7. 9区67号竪穴建物全景(南西から)
 8. 9区67号竪穴建物竈全景(南西から)
- PL.28 1. 10区56号竪穴建物全景(西から)
 2. 10区56号竪穴建物竈全景(西から)
 3. 10区56号竪穴建物土層断面A-A'(南から)
 4. 10区57号竪穴建物全景(南から)
 5. 10区57号竪穴建物竈全景(南から)
 6. 10区58号竪穴建物全景(南から)
 7. 10区58号竪穴建物竈全景(南から)
 8. 10区59・68号竪穴建物全景(東から)
- PL.29 1. 10区59号竪穴建物土層断面D-D'(南西から)
 2. 10区68号竪穴建物土層断面C-C'(南東から)
 3. 10区60号竪穴建物土層断面B-B'(北から)
 4. 10-2区78・79・80・81・82・89号竪穴建物全景(西から)
 5. 10-2区78号竪穴建物掘り方全景(西から)
 6. 10-2区78号竪穴建物竈土層断面D-D'(西から)
 7. 10-2区89号竪穴建物全景(南から)
 8. 10-2区89号竪穴建物竈全景(南から)
- PL.30 1. 10-2区99号竪穴建物全景(南から)
 2. 10-2区83号竪穴建物全景(南から)
 3. 10-2区83号竪穴建物竈と貯蔵穴全景(南から)
 4. 10-2区84号竪穴建物全景(西から)
 5. 10-2区85号竪穴建物全景(西から)
 6. 10-2区85号竪穴建物掘り方全景(西から)
 7. 10-2区85号竪穴建物竈掘り方全景(西から)
 8. 10-2区85号竪穴建物遺物出土状態(西から)
- PL.31 1. 10-2区86・87・93号竪穴建物全景(西から)
 2. 10-2区88号竪穴建物全景(西から)
 3. 10-2区88号竪穴建物掘り方全景(西から)
 4. 10-2区88号竪穴建物北壁下鋤跡(南東から)
 5. 10-2区90号竪穴建物全景(西から)
 6. 10-2区91号竪穴建物全景(西から)
 7. 10-2区91号竪穴建物貯蔵穴全景(西から)
 8. 10-2区91号竪穴建物掘り方全景(西から)
- PL.32 1. 10-2区92号竪穴建物掘り方全景(西から)
 2. 10-2区96号竪穴建物全景(西から)
 3. 10-2区94号竪穴建物全景(南西から)
 4. 10-2区95号竪穴建物全景(南西から)
 5. 10-2区97・111号竪穴建物全景(南西から)
 6. 10-2区98号竪穴建物全景(西から)
 7. 10-2区112号竪穴建物全景(南西から)
 8. 10-2区113号竪穴建物全景(北から)
- PL.33 1. 10-2区114号竪穴建物全景(南西から)
 2. 10-2区115号竪穴建物と10号井戸全景(北西から)
 3. 10-2区115号竪穴建物(北西から)
 4. 10-2区119号竪穴建物全景(南西から)
 5. 10-2区123号竪穴建物全景(北東から)
 6. 11区23号竪穴建物全景(西から)
 7. 11区23号竪穴建物竈全景(西から)
8. 11区25号竪穴建物土層断面A-A'(南から)
- PL.34 1. 11区26号竪穴建物全景(西から)
 2. 11区36号竪穴建物全景(南から)
 3. 11区36号竪穴建物竈全景(南から)
 4. 11区36号竪穴建物遺物出土状態(南から)
 5. 11区36号竪穴建物竈全景(南から)
 6. 11区36号竪穴建物土層断面D-D'(南から)
 7. 11区36号竪穴建物遺物出土状態(北西から)
 8. 11区36号竪穴建物遺物出土状態
- PL.35 1. 11区36号竪穴建物土層断面C-C'煙道部(南東から)
 2. 11区36号竪穴建物竈煙道部(南東から)
 3. 11区36号竪穴建物掘り方全景(南から)
 4. 11区37号竪穴建物全景(北西から)
 5. 11区37号竪穴建物竈全景(南から)
 6. 11区37号竪穴建物遺物出土状態(東から)
 7. 11区37号竪穴建物竈使用面全景(南から)
 8. 11区37号竪穴建物掘り方全景(南から)
- PL.36 1. 11区1号竪穴状遺構と49号土坑全景(南から)
 2. 6-2区2号竪穴状遺構全景(北西から)
 3. 10-2区1号掘立柱建物全景(西から)
 4. 10-2区1号柱穴列全景(西から)
 5. 6区4号井戸全景(西から)
 6. 10区5号井戸全景(南東から)
 7. 10区6号井戸全景(東から)
 8. 10区6号井戸土層断面A-A'(東から)
- PL.37 1. 10-2区9号井戸全景(北西から)
 2. 10-2区9号井戸土層断面A-A'(南から)
 3. 10-2区10号井戸全景(北から)
 4. 10-2区11号井戸全景(北東から)
 5. 6区17号溝遺物出土状態(南から)
 6. 6区21号溝土層断面A-A'(東から)
 7. 6区21号溝全景(東から)
- PL.38 1. 6区21号溝土層断面B-B'(東から)
 2. 6区21号溝遺物出土状態(北から)
 3. 10-2区20A号溝全景(南西から)
 4. 7-2区1号廃棄土坑全体確認状況(北から)
 5. 7-2区1号廃棄土坑(南西から)
 6. 7-2区1号廃棄土坑(南西から)
 7. 7-2区1号廃棄土坑(東から)
 8. 7-2区1号廃棄土坑鉄滓等堆積状況(東から)
- PL.39 1. 6-2区142号土坑土層断面(南から)
 2. 6-2区142号土坑全景(南から)
 3. 6区122号土坑土層断面(南から)
 4. 6-2区147号土坑土層断面(南から)
 5. 6-2区147号土坑全景(南から)
 6. 6区70号土坑土層断面(南から)
 7. 6区70号土坑全景(南から)
 8. 6区72号土坑土層断面(南から)
 9. 6区72号土坑全景(南から)
 10. 6区67号土坑全景(南から)
 11. 6区96号土坑土層断面(南から)
 12. 6区96号土坑全景(西から)
 13. 6-2区143号土坑土層断面(南東から)
 14. 6-2区143号土坑全景(南東から)
 15. 6-2区143号土坑全景(南から)

- PL.40 1. 6-2区148・149号土坑土層断面(南西から)
2. 6-2区148・149号土坑全景(南西から)
3. 6-2区148・149号土坑全景(南西から)
4. 6-2区144号土坑土層断面(南から)
5. 6-2区144号土坑全景(南から)
6. 6区76号土坑土層断面(南西から)
7. 6区76号土坑全景(南西から)
8. 6-2区145号土坑土層断面(南から)
9. 6-2区145号土坑全景(南から)
10. 6-2区145号土坑遺物出土状態(南から)
11. 6区84号土坑土層断面(南西から)
12. 6区84号土坑全景(西から)
13. 6区100号土坑土層断面(西から)
14. 6区100号土坑全景(東から)
15. 6区77号土坑土層断面(南西から)
- PL.41 1. 6区77号土坑全景(南から)
2. 6区87号土坑土層断面(北東から)
3. 6区87号土坑全景(北から)
4. 6区92号土坑土層断面(北から)
5. 6区95号土坑土層断面(西から)
6. 6区91号土坑土層断面(東から)
7. 6区121号土坑土層断面(東から)
8. 6区121号土坑全景(西から)
9. 6区85号土坑土層断面(南西から)
10. 6区81号土坑土層断面(南から)
11. 6区81号土坑全景(西から)
12. 6区89号土坑土層断面(西から)
13. 6区102号土坑土層断面(北から)
14. 6区102号土坑全景(北から)
15. 6区78号土坑土層断面(南から)
- PL.42 1. 6区78号土坑全景(南から)
2. 6区69号土坑土層断面(南西から)
3. 6区69号土坑全景(南西から)
4. 6区80号土坑土層断面(西から)
5. 6区104号土坑全景(北から)
6. 6区90号土坑土層断面(南から)
7. 6区90号土坑全景(南から)
8. 6区82号土坑土層断面(西から)
9. 6区82号土坑全景(西から)
10. 6区119号土坑全景(南から)
11. 6区93号土坑土層断面(南西から)
12. 6-2区141号土坑土層断面(東から)
13. 6-2区141号土坑全景(南から)
14. 6区79・88号土坑土層断面(西から)
15. 6区79・88号土坑全景(西から)
- PL.43 1. 6区66号土坑土層断面(南から)
2. 6区66号土坑全景(南から)
3. 6区86号土坑土層断面(北から)
4. 6区101号土坑土層断面(南から)
5. 6区101号土坑全景(北から)
6. 6区103号土坑土層断面(東から)
7. 6-2区146号土坑土層断面(東から)
8. 6-2区146号土坑全景(南から)
9. 6区83号土坑土層断面(西から)
10. 6区73号土坑土層断面(南から)
11. 6区73号土坑全景(北から)
12. 6区94号土坑土層断面(西から)
13. 6区94号土坑全景(西から)
14. 6-2区140号土坑土層断面(南東から)
15. 6-2区140号土坑全景(西から)
- PL.44 1. 6区71号土坑土層断面(南から)
2. 6区71号土坑全景(南から)
3. 6区68号土坑土層断面(南から)
4. 6区68号土坑全景(南から)
5. 7区53号土坑土層断面(南から)
6. 7区53号土坑全景(南から)
7. 7-2区178・179号土坑土層断面(北から)
8. 7-2区178・179号土坑全景(北から)
9. 7-2区178・179号土坑掘り方全景(北から)
10. 7区55号土坑土層断面(南から)
11. 7区55号土坑全景(南から)
12. 7区63号土坑土層断面(南から)
13. 7区63号土坑全景(南から)
14. 7区52号土坑土層断面(西から)
15. 7区52号土坑全景(西から)
- PL.45 1. 7-2区154号土坑全景(南から)
2. 7-2区152号土坑土層断面(南から)
3. 7-2区152号土坑全景(南から)
4. 7-2区153号土坑土層断面(南東から)
5. 7-2区153号土坑全景(南西から)
6. 7区62号土坑土層断面(南東から)
7. 7区62号土坑全景(南東から)
8. 7-2区151号土坑土層断面(南から)
9. 7-2区151号土坑全景(南から)
10. 7区64号土坑全景(北から)
11. 7区61号土坑全景(北西から)
12. 7-2区150号土坑土層断面(南から)
13. 7-2区150号土坑遺物出土状態(南から)
14. 7-2区150号土坑全景(南から)
15. 7-2区150号土坑床粘土断面(北西から)
- PL.46 1. 7-2区150号土坑掘り方全景(南から)
2. 7-2区204号土坑礫出土状態(北西から)
3. 7-2区204号土坑全景(北から)
4. 7区59号土坑土層断面(南から)
5. 7区59号土坑全景(南から)
6. 7区58号土坑土層断面(南から)
7. 7区58号土坑全景(南から)
8. 7区60号土坑土層断面(東から)
9. 7区60号土坑全景(南から)
10. 7区54号土坑土層断面(南から)
11. 7区54号土坑全景(東から)
12. 7区56号土坑土層断面(南から)
13. 7区56・57号土坑全景(西から)
14. 7区57号土坑土層断面(南から)
15. 7区57号土坑全景(西から)
- PL.47 1. 7-2区206号土坑全景(北から)
2. 8-2区230・250・251号土坑全景(北から)
3. 8-2区227号土坑全景(北から)
4. 8-2区231号土坑全景(北から)
5. 8-2区229号土坑全景(北から)

- 6. 8-2区226号土坑全景(北から)
- 7. 9区105号土坑土層断面(南から)
- 8. 9区105号土坑全景(南から)
- 9. 9区97号土坑全景(南から)
- 10. 9区124号土坑土層断面(南東から)
- 11. 9区124号土坑全景(南から)
- 12. 9区125号土坑土層断面(南から)
- 13. 9区125号土坑全景(南から)
- 14. 9区74号土坑土層断面(南から)
- 15. 9区74号土坑全景(南から)
- PL.48 1. 9区75号土坑土層断面(南から)
- 2. 9区75号土坑全景(南から)
- 3. 9区114号土坑土層断面(西から)
- 4. 9区114号土坑全景(南から)
- 5. 9区106号土坑土層断面(西から)
- 6. 9区106号土坑全景(東から)
- 7. 9区99号土坑土層断面(西から)
- 8. 9区139号土坑土層断面(西から)
- 9. 9区139号土坑全景(南から)
- 10. 9区98号土坑土層断面(西から)
- 11. 9区98号土坑全景(西から)
- 12. 9区127号土坑土層断面(南から)
- 13. 9区127号土坑全景(西から)
- 14. 9区118号土坑土層断面(南から)
- 15. 9区118号土坑全景(西から)
- PL.49 1. 9区120号土坑土層断面(西から)
- 2. 9区120号土坑全景(西から)
- 3. 9区123号土坑土層断面(西から)
- 4. 9区123号土坑全景(南から)
- 5. 10-2区160号土坑全景(北から)
- 6. 10-2区161号土坑全景(北から)
- 7. 10-2区198号土坑全景(北から)
- 8. 10-2区256号土坑全景(北から)
- 9. 10-2区195号土坑全景(北から)
- 10. 10-2区173号土坑全景(北から)
- 11. 10-2区164号土坑・517号ピット全景(北から)
- 12. 10-2区197号土坑全景(北から)
- 13. 10-2区168号土坑全景(北から)
- 14. 10-2区252号土坑全景(北から)
- 15. 10-2区181号土坑全景(東から)
- PL.50 1. 10-2区181号土坑全景(北から)
- 2. 10-2区245号土坑全景(北から)
- 3. 10-2区248号土坑全景(北から)
- 4. 10-2区265号土坑全景(北から)
- 5. 10-2区193号土坑全景(北から)
- 6. 10-2区219号土坑全景(北から)
- 7. 10-2区165号土坑全景(北から)
- 8. 10-2区182・183・184号土坑全景(西から)
- 9. 10-2区183号土坑全景(北から)
- 10. 10-2区184号土坑全景(北から)
- 11. 10-2区190号土坑全景(北から)
- 12. 10-2区182号土坑・499号ピット全景(北から)
- 13. 10-2区255号土坑全景(北から)
- 14. 10-2区199号土坑全景(北から)
- 15. 10-2区222号土坑全景(北から)
- PL.51 1. 10-2区223号土坑全景(北から)
- 2. 10-2区236号土坑全景(北から)
- 3. 10-2区260号土坑全景(北から)
- 4. 10-2区257号土坑全景(北から)
- 5. 10-2区166号土坑全景(北から)
- 6. 10-2区186号土坑全景(北から)
- 7. 10-2区258号土坑全景(北から)
- 8. 10-2区188号土坑全景(北から)
- 9. 10-2区220号土坑全景(北から)
- 10. 10-2区176号土坑全景(北から)
- 11. 10-2区187号土坑全景(北から)
- 12. 10-2区216号土坑全景(北から)
- 13. 10-2区213号土坑全景(北から)
- 14. 10-2区249号土坑全景(北から)
- 15. 10-2区土坑検出状況(南東から)
- PL.52 1. 10-2区212号土坑全景(北から)
- 2. 10-2区170号土坑全景(西から)
- 3. 10-2区171号土坑全景(北西から)
- 4. 10-2区172号土坑全景(北西から)
- 5. 10-2区162号土坑全景(北から)
- 6. 10-2区185号土坑全景(北から)
- 7. 10-2区169号土坑全景(北から)
- 8. 10-2区234号土坑全景(北から)
- 9. 10-2区167号土坑全景(北から)
- 10. 10-2区201号土坑全景(北から)
- 11. 10-2区217号土坑全景(北から)
- 12. 10-2区189号土坑・564号ピット全景(北から)
- 13. 10-2区191・192号土坑全景(北から)
- 14. 10-2区221号土坑全景(北から)
- 15. 10-2区156号土坑全景(北から)
- PL.53 1. 10-2区157号土坑全景(北西から)
- 2. 10-2区235号土坑全景(北から)
- 3. 10-2区158号土坑全景(南から)
- 4. 10-2区242号土坑全景(北から)
- 5. 10-2区174号土坑全景(北西から)
- 6. 10-2区175号土坑全景(北から)
- 7. 10-2区224号土坑全景(北から)
- 8. 10区116号土坑土層断面(南から)
- 9. 10-2区262号土坑全景(北から)
- 10. 10-2区159号土坑・446・447号ピット全景(北から)
- 11. 10-2区155号土坑全景(北から)
- 12. 10-2区264号土坑全景(北から)
- 13. 10-2区218号土坑全景(北から)
- 14. 10-2区225号土坑全景(北から)
- 15. 10区112号土坑土層断面(南から)
- PL.54 1. 10-2区196号土坑全景(北から)
- 2. 10-2区196号土坑全景(北から)
- 3. 10-2区163号土坑479・481号ピット全景(北から)
- 4. 10-2区254号土坑全景(北から)
- 5. 10-2区180号土坑全景(北から)
- 6. 10区111号土坑土層断面(西から)
- 7. 10-2区268号土坑全景(北から)
- 8. 10-2区232号土坑全景(北から)
- 9. 10区113号土坑土層断面(南から)
- 10. 10-2区215号土坑全景(北から)

11. 10-2区209号土坑全景(北から)
12. 10-2区210号土坑全景(北から)
13. 10-2区205号土坑全景(北から)
14. 10区115号土坑土層断面(西から)
15. 10区117号土坑土層断面(南西から)
- PL.55 1. 10-2区263号土坑全景(北から)
2. 10-2区239号土坑全景(北から)
3. 10-2区240号土坑全景(北から)
4. 10-2区241号土坑全景(北から)
5. 10-2区200号土坑全景(北から)
6. 10-2区270号土坑全景(北から)
7. 10-2区194号土坑全景(北から)
8. 10-2区214号土坑全景(北から)
9. 10-2区237号土坑全景(北から)
10. 10-2区261号土坑全景(北から)
11. 10-2区253号土坑全景(北から)
12. 10-2区233号土坑全景(南から)
13. 10-2区211B号土坑全景(北から)
14. 11区45号土坑土層断面(南から)
15. 11区45号土坑全景(南東から)
- PL.56 1. 11区50号土坑全景(南から)
2. 11区46号土坑全景(南から)
3. 11区48号土坑土層断面(南から)
4. 11区48号土坑全景(南から)
5. 11区47号土坑土層断面(北から)
6. 11区65号土坑土層断面(北から)
7. 11区65号土坑全景(南から)
8. 11区49号土坑全景(南から)
9. 11区44号土坑土層断面(東から)
10. 11区44号土坑全景(南から)
11. 6区321号ピット土層断面(南から)
12. 6区339号ピット土層断面(西から)
13. 6区341号ピット土層断面(西から)
14. 6区342号ピット土層断面(西から)
15. 6区344号ピット土層断面(西から)
- PL.57 1. 6-2区402号ピット土層断面(南から)
2. 6-2区403号ピット土層断面(南から)
3. 6-2区404号ピット土層断面(南から)
4. 6-2区405号ピット土層断面(南東から)
5. 7区308号ピット土層断面(南から)
6. 7区311号ピット土層断面(南から)
7. 7区312号ピット土層断面(南から)
8. 7-2区585号ピット土層断面(北から)
9. 7-2区592号ピット土層断面(南から)
10. 8-2区420号ピット土層断面(南から)
11. 8-2区421号ピット土層断面(南から)
12. 8-2区422号ピット全景(南から)
13. 9区336号ピット土層断面(南から)
14. 9区355号ピット土層断面(西から)
15. 9区357号ピット土層断面(南から)
- PL.58 1. 10-2区土坑・ピット検出状況(西から)
2. 9区371号ピット全景(南から)
3. 10区345号ピット土層断面(南から)
4. 10区346号ピット土層断面(南から)
5. 11区347号ピット土層断面(南から)
6. 11区352号ピット土層断面(南から)
7. 11区302号ピット土層断面(南から)
8. 11区303号ピット土層断面(東から)
9. 11区306号ピット土層断面(南から)
10. 11区307号ピット土層断面(北から)
- PL.59 1. 10-2区1号畑全景(北から)
2. 10-2区1号畑土層断面(北東から)
3. 10-2区1号畑土層断面(北から)
4. 10-2区1号畑土層断面(北から)
5. 7区復旧痕全景(北から)
6. 7区3・4・5・6号復旧坑(北から)
7. 7区2号復旧坑土層断面B-B'(西から)
8. 7区3号復旧坑土層断面C-C'(西から)
- PL.60 1. 7区4号復旧坑土層断面D-D'(西から)
2. 7区6号復旧坑土層断面E-E'(西から)
3. 7区7号復旧坑土層断面G-G'(西から)
4. 7区8号復旧坑・16号溝全景(北西から)
5. 7区8号復旧坑土層断面J-J'(南から)
6. 7区8号復旧坑土層断面K-K'(西から)
7. 7区8号復旧坑土層断面K-K'(西から)
8. 7区8号復旧坑土層断面H-H'(東から)
- PL.61 6区・6-2区竪穴建物出土遺物
- PL.62 6区・7区竪穴建物出土遺物
- PL.63 7区竪穴建物出土遺物
- PL.64 7区竪穴建物出土遺物
- PL.65 7区・7-2区竪穴建物出土遺物
- PL.66 7-2区竪穴建物出土遺物
- PL.67 7-2区竪穴建物出土遺物
- PL.68 8-2区・9区竪穴建物出土遺物
- PL.69 9区竪穴建物出土遺物
- PL.70 9区竪穴建物出土遺物
- PL.71 10区・10-2区竪穴建物出土遺物
- PL.72 10-2区竪穴建物出土遺物
- PL.73 10-2区竪穴建物出土遺物
- PL.74 11区竪穴建物出土遺物
- PL.75 11区竪穴建物、6区・10区・10-2区井戸、6区溝出土遺物
- PL.76 6区溝出土遺物
- PL.77 6区溝、7-2区廃棄土坑出土遺物
- PL.78 7-2区廃棄土坑、6区・6-2区土坑出土遺物
- PL.79 6区・6-2区土坑出土遺物
- PL.80 6区・6-2区土坑出土遺物
- PL.81 6区・6-2区土坑出土遺物
- PL.82 6区・6-2区、7区・7-2区土坑出土遺物
- PL.83 7区~11区土坑・ピット・復旧痕出土遺物
- PL.84 7区復旧痕、6区~11区遺構外出土遺物

池石田遺跡

- PL.85 1. 1号溝検出状況(北東から)
2. 1号溝近景(南東から)
3. 1号・2号溝土層断面A-A'(南西から)
4. 1号・2号溝土層断面B-B'(南西から)
5. 1号・2号溝全景(北東から)
6. 1号・2号溝全景(南西から)

第 I 章 調査の経過と方法

1. 塩川砂井戸遺跡調査に至る経緯

(1) 平成27年度

国道254号は東京都文京区を基点として埼玉県・群馬県を通過し長野県松本市へ至る一般国道である。群馬県内では藤岡市・高崎市・甘楽郡甘楽町・富岡市・甘楽郡下仁田町の県西部地域を東西に横切っている。この路線のうち、群馬県内の広範な部分が江戸時代に中山道の脇往還として使われた旧街道を踏襲している。かつて宿場町であった市街地とその周辺では幅員が狭いうえに交通量が多く、特に大型車の通行が目立つ、渋滞と安全対策が課題の道路であった。市街地北側に国道254号バイパスを造る工事は昭和51(1976)年より事業化され、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団ではこれまでに工事に伴う遺跡の発掘調査を行ってきた。西側から東方へ向かって富岡市田島から甘楽町福島まで全長8.27kmの「富

岡バイパス」が平成12(2000)年に開通した。平成6(1994)年度から7(1995)年度に田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿島下遺跡などの埋蔵文化財発掘調査を実施した。

その東に繋がる「甘楽吉井バイパス」は甘楽町福島から高崎市吉井町本郷を結ぶ全長3.2kmの路線で、高崎市吉井町片山までが平成23(2011)年に開通している。平成10(1998)年度に甘楽条里遺跡(大山前地区)、平成18(2006)年度に甘楽条里遺跡(庭屋深町地区・造石大町地区)・塚田遺跡などの埋蔵文化財発掘調査を実施した。

都市計画道路「吉井北通り線」は、「甘楽吉井バイパス」のさらに東側へ繋がる高崎市吉井町本郷と高崎市吉井町池を結ぶ全長1.5kmの道路で、平成14(2002)年度より建設事業が開始されている。この路線上の大沢川以西では平成24(2012)年度に包蔵地(高崎市遺跡番号02746)内の本郷畑内遺跡の調査を実施し、弥生時代後期から平安時代にかけての集落等を確認した。平成25(2013)年度に



第1図 塩川砂井戸遺跡と周辺の地勢(群馬県埋蔵文化財調査事業団『塩川砂井戸遺跡』2015 第1図より転載)

第I章 調査の経過と方法

は、大沢川以東に広がる塩川砂井戸遺跡(高崎市遺跡番号02748)の調査が開始され、西部の1区～5区の調査を実施した。古墳時代から平安時代にかけての集落が調査された。

さらに、道路用地は塩川砂井戸遺跡内に計画されていることから、群馬県教育委員会文化財保護課は群馬県高崎土木事務所の照会を受け、用地確保が終了した東半の区間について、平成26(2014)年1月、8月、平成27(2015)年1月、6月に事業対象地において、重機を用いたトレンチ試掘調査を実施した。その結果、一部(6区西半部・10区東半部)を除き、竪穴建物や土坑・溝および土師器・須恵器包含層の存在を確認し、試掘対象地内の8200㎡について埋蔵文化財調査が必要と判断された。

文化財保護課と高崎土木事務所の調整を受け、平成27年12月1日、群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約がかわされ、平成28年1月より3月までの期間で発掘調査が実施されることとなった。

塩川砂井戸遺跡の発掘調査は当初平成27年度で完了する予定であったが、27年度の調査を進めたところ、試掘調査によって想定された遺構数を上回る遺構が検出されたことや未買地が点在していたこと等から、調査期間の変更を協議・調整する必要が生じた。文化財保護課と高崎土木事務所の調整の結果、平成27年度は調査面積を減じて契約期間内の調査終了を図ることとなった。群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で平成28年2月18日付の委託業務打ち合わせ書を取り交わして平成27年度の調査面積を7481㎡に減じることとし、変更契約書を取り交わして、平成28年3月31日に平成27年度調査を終了した。

(2)平成28年度

平成27年度に調査できなかった部分の対応については、継続して文化財保護課と高崎土木事務所の調整がおこなわれた。その結果、平成28年度には、平成27年度調査から面積を減じた地点、用地が解決した部分、および周囲の遺構検出状況から発掘調査が必要という修正判断が出された地点(6区西半部・10区東半部)の調査を実施することとなった。それらの調査対象面積は4550㎡となり、上半期2か月の発掘調査工程が組まれることになった。

この調整を受け、平成28年4月18日に群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で発掘調査委託契約がかわされ、平成28年6月より7月までの期間で発掘調査が実施されることとなった。

調査開始後、一部の市道部分及び防火用水敷地部分が調査不能であったことから、平成28年7月13日付委託業務打ち合わせ書を取り交わして平成28年度の調査面積を4405㎡に減じることとし、変更契約書を取り交わした。平成28年7月31日に平成28年度調査を終了した。

2. 発掘調査の経過

(1)平成27年度の調査

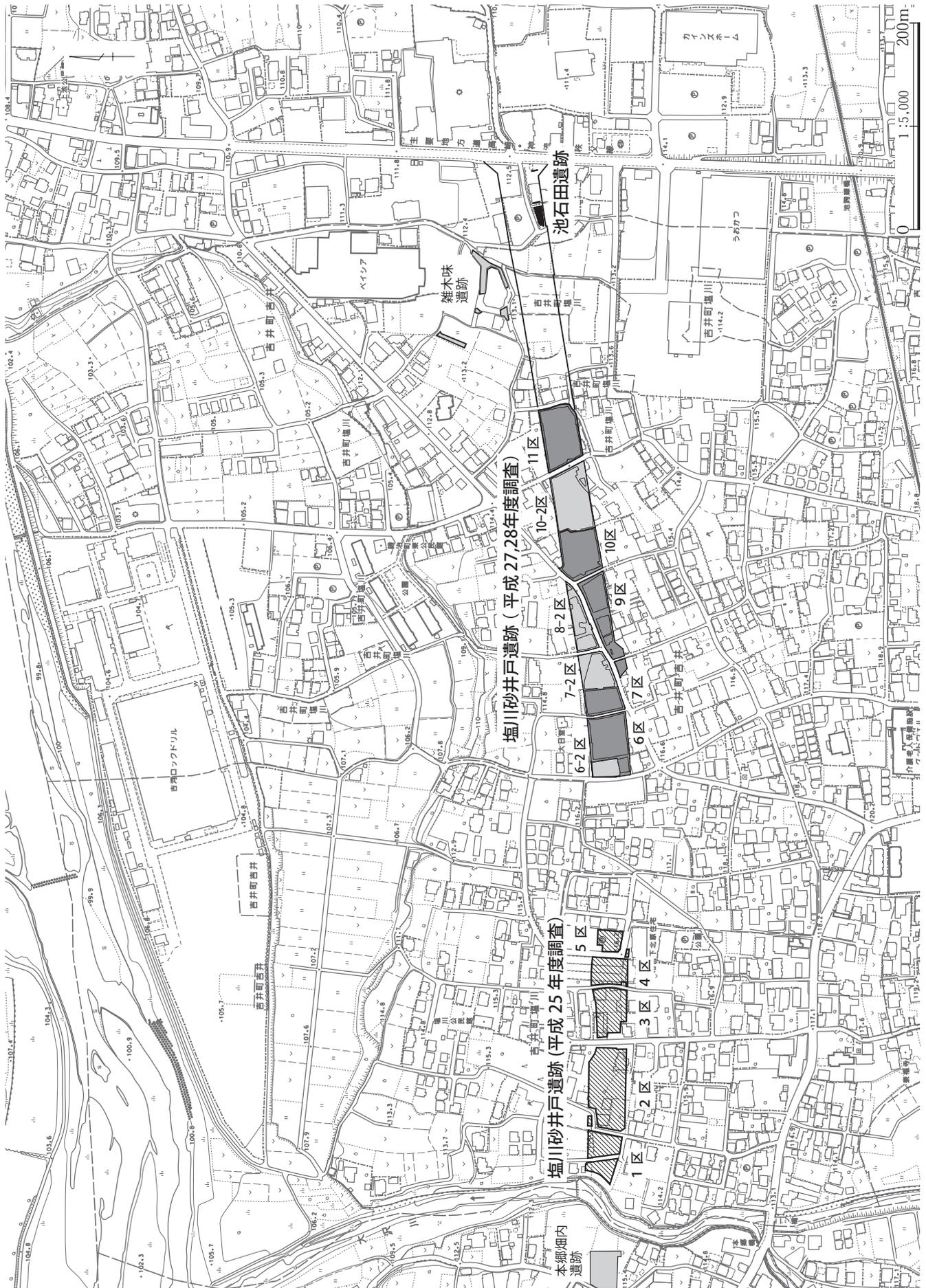
平成28年1月4日に調査に着手した。調査着手にあたって、調査区は平成25年度発掘調査した「塩川砂井戸遺跡」と同じ遺跡内にあることから、区名称・遺構番号は、平成25年度発掘調査の方針を踏襲・継続することとした。

今年度の調査対象地は幅約25m、東西約250mで、市道を境に西から東へ順に6～11区と呼称した。試掘調査の結果を踏まえて、竪穴建物などの遺構が比較的少ないとされた東西両端の7区と10区からおこなうこととした。竪穴建物その他の遺構については表土層を50cmほど掘り下げたところで確認されているが、7区のみ、その上面に近世浅間A軽石下面が残っていたことから2面調査となった。

発掘調査を進めたところ、古墳時代から古代の集落が調査区の全域に及んでいることが判明し、当初の想定以上の遺構量となった。調整の結果、今年度の調査面積を減じて対応することとなり、6区・7区・8区・10区の調査が平成28年度に継続となった。旧石器調査については古代集落の調査が終了したのち、当該層の残る地点で、その有無を確認したが、旧石器は検出されなかった。

平成27年調査日誌抄

- 1月4日 調査開始
- 1月5日 機材搬入
- 1月6日 7区・11区表土掘削・遺構確認開始
- 1月12日 7区1面浅間A軽石下面復旧痕調査開始
11区遺構掘削開始
- 1月14日 10区表土掘削開始
- 1月15日 7区1面浅間A軽石下面調査終了



第2図 塩川砂井戸遺跡調査区位置図

第I章 調査の経過と方法

1月19日 7区2面調査開始
1月20日 6区表土掘削開始
1月25日 9区表土掘削開始
2月1日 7区空中写真撮影
2月2日 7区調査終了
2月4日 7区埋め戻し作業終了
2月8日 11区調査終了
2月9日 11区埋め戻し作業終了
2月24日 28年度調査を現地で調整・確認
3月3日 6区・9区・10区空中写真撮影
3月7日 6区・9区・10区旧石器確認調査開始
3月18日 9区埋め戻し作業終了
3月22日 10区埋め戻し作業終了・6区調査終了
3月25日 6区埋め戻し作業終了
3月30日 撤収

(2)平成28年度の調査

平成28年度の調査は6月1日に着手した。平成25年度に発掘調査した「塩川砂井戸遺跡」と同じ遺跡内にあることから、27年度調査と同様に区名称や遺構番号は平成25年度発掘調査の方針を踏襲・継続することとした。28年度の遺構番号は27年度の調査遺構番号に連続するように付した。

平成28年度調査区域は、27年度に西から東へ順に6～11区を付した範囲のうちの未買収地等であった箇所である。同じ区の中に年度の異なる調査区が混在することになったことから、調査・記録時には区番号に「-2」を付して区別した。本報告書でも基本的に「-2」を付したが、第Ⅲ章9土坑の本文および平断面図では煩雑さを避けるため「-2」の記載を省略している。

発掘調査の実施にあたっては、工事等の優先箇所を先行させ、調査対象区西端の6-2区から実施した。また調査区中央を市道が横断し、民家への出入り通行への配慮が必要であったことから、分割された調査区内部での頻繁な排土移動を行わざるを得なかった。また、28年度調査区にも古代集落が全域に濃密に分布し、遺構数は想定を超えることとなった。27年度に7区で確認された近世面は、28年度のいずれの調査区でも削平されており、28年度は全調査区とも1面調査となった。10-2区南東隅は、トレンチ調査を実施したが、遺構は検出されなかった。

また、旧石器確認調査は、調査の進捗に伴い当該地域

では基盤層が河川堆積により形成されていることが判明したことから、実施しなかった。

平成28年度調査日誌抄

6月1日 調査開始
6月6日 6-2区表土掘削開始
遺構確認作業
6月7日 6-2区表土掘削作業終了
遺構掘り下げ作業開始
6月8日 7-2区表土掘削作業開始
6月10日 6-2区全景写真撮影
10-2区表土掘削開始
6月14日 6-2区調査終了
8-2区東全景写真撮影
6月15日 8-2区西表土掘削開始
6月28日 7-2区東調査終了
7-2区西表土掘削開始
6月29日 7-2区東埋め戻し作業
6月30日 7-2区東表土掘削終了
8-2区西北埋め戻し作業
7月1日 8-2区西南表土掘削開始
7月7日 10-2区北西全景写真撮影
7月16日 7-2区西埋め戻し作業
7月25日 10-2区東全景写真撮影
7月23日 地元住民対象現地説明会
7月29日 作業終了 撤収

(3)池石田遺跡の調査

池石田遺跡は塩川砂井戸遺跡11区東端から東側175mにある。平成28年10月26日の県文化財保護課による試掘調査の結果、浅間Bテフラ堆積層の下層より溝跡が検出されたことから、本調査が必要と判断された。高崎土木事務所との調整により、平成29年6月26日～28日に県文化財保護課により立ち合い調査が実施され、溝2条が検出された。検出された溝が東西方向で直線的であったことから、遺跡地の東500mにある多胡郡衛正倉跡や、北西50mにある仏教関連遺構が推定されている雑木味遺跡との関連を考慮して、県文化財保護課は東方への溝の延長の有無を確認するために、10月17日に再度立ち合い調査を実施した。なお、池石田遺跡調査の方法と成果については、第Ⅳ章で記載した。

3. 発掘調査の方法

(1) 調査区とグリッドの設定

塩川砂井戸遺跡の調査にあたっては平成25年度調査区に連続して、調査対象地を分断する市道を境に、西側より6区から11区までの調査区を設定した。市道の安全確保や、近隣民家への進入路確保、調査年度の違い等のために掘削を控えた部分が多くなり、各調査区内も分断された部分が生じた。

調査区名称は調査工程管理や表採・包含層内遺物取上げ等のために用いた。遺構番号はこれにかかわらず通し番号とした。したがって個別遺構の名称に調査区名は関与するものではないが、遺構の位置が把握しやすいように、本報告では煩雑になる土坑を除いて、区名を付して遺構名を記載した。

調査段階では調査区内に方眼杭を設定することはなかったが、遺構に伴わない遺物取上げのためグリッド呼称を使用した部分がある。これは平面直角座標系(世界測地系測地成果2000座標IX系)を用いた座標値の下3桁を呼称したもので、本報告書挿図で例示すれば、座標 $X=29,063$ と $Y=-76,305$ の交点を+記号と共に(063、-305)と略して記し、この地点を南東隅とする1m四方の範囲を063-305グリッドと呼称した。また、本書でも、遺構の位置を示す際にこのグリッドを使用した。

(2) 基本土層と遺構確認面

本遺跡の基本土層は、第3図(P.6)に示した通りである。調査時に各調査区の基本土層を記録した5地点の土層図を示すとともに、文化財保護課による試掘調査時の土層記録で3地点の土層柱状図を補完した。調査区内の一部で現代の宅地等造成工事に伴う客土があるが、これについてはいわゆる表土とは区別し分層した。

遺跡地の地形は全体として、大沢川の東側台地の中央部から、東方の西谷川(矢田川の支流)へ向かって南西から北東、西から東へ下がり傾斜する。本遺跡の土層は、主に河川氾濫の影響および後世の土壌攪乱の状況により地点ごとに若干の差異が見られたが、基本的にはローム層上に礫混じりの土壌が古墳時代以前に堆積し、その上位に中世・近世の礫の少ない土壌があり、その上位に天明3(1783)年の浅間山噴火起源の浅間A軽石層が7区の

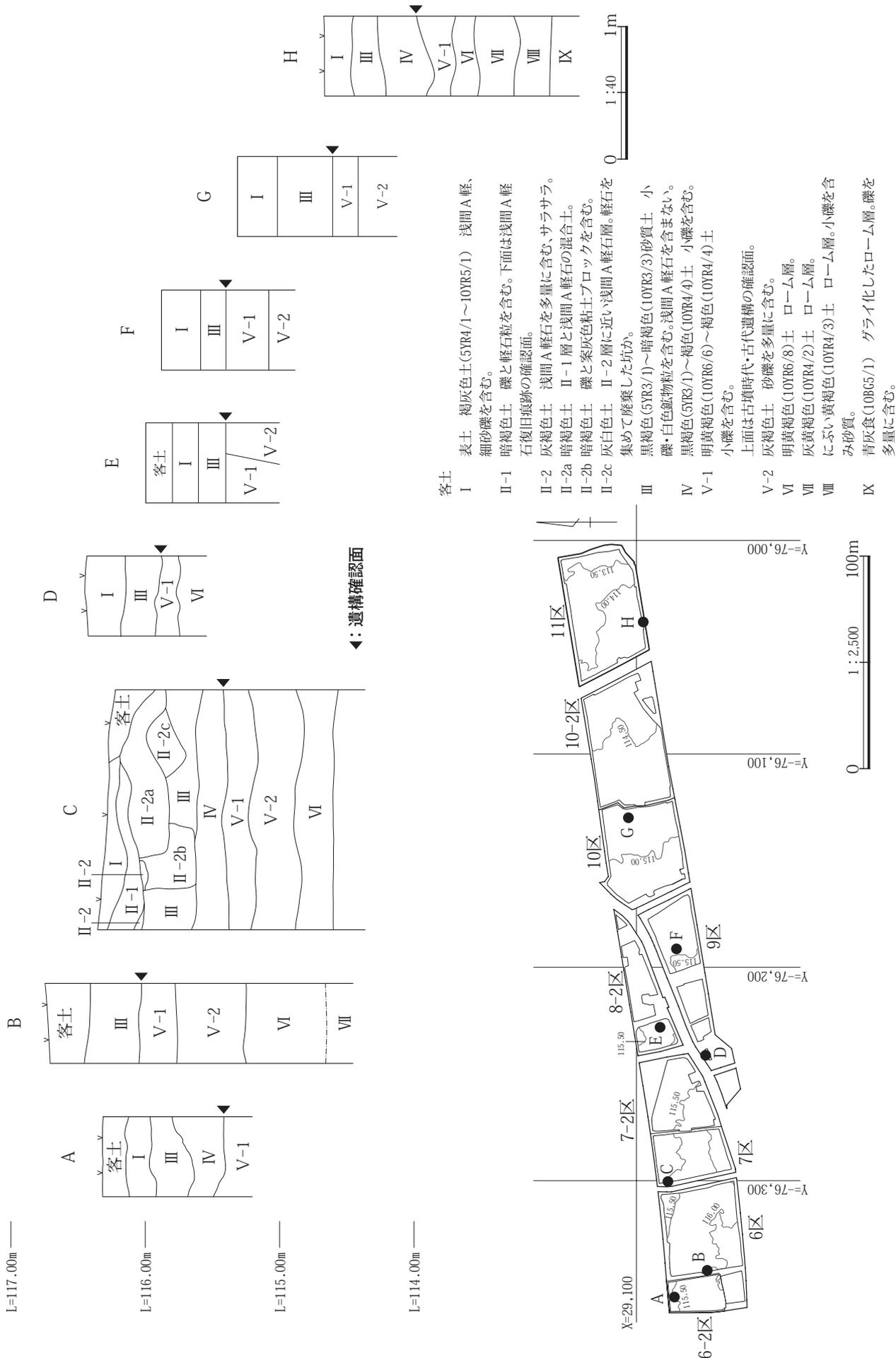
一部に残っている状況であった。

基本土層の層序は、I層表土、II層浅間A軽石に関連する暗褐色土、III層小礫を含む黒褐色土、IV層小礫を含む黒褐色～暗褐色土、V-1層小礫を含む黄褐色土、V-2層砂礫を多量に含む灰褐色土、VI層明黄褐色粘質土である。全体として礫を含有することが本遺跡の土層の特徴であるが、含まれる礫の大きさや含有状況は一様でなく、同層位とみられる土層でも地点差があった。I層の上位には現代の建築に伴う客土が認められる地点もあった。II層は7区のみ認められ、II-1層下面で天明3(1783)年の浅間山噴火起源の軽石被災の復旧痕跡を確認することができた。各区ともV層上面で古墳時代から古代の遺構を確認した。VI層以下は11区のH地点で記録した。V層以下はローム層に似るが、いわゆる関東ローム層の層序を示す指標テフラは確認できていない。なお、本報告では遺構埋没土の夾雑物の説明中に「ローム」の表記があるが、ローム土に類似・相当するV・VI層(地山)の黄褐色土を示す汎用的な用語として用いている。下位のIX層はグライ化し礫を多量に含んでいた。以下に各地点の土層を記載する。

6区・6-2区はほぼ平坦な地形であるが、西北部は北側へ傾斜が始まっており、A地点(6-2区北壁)ではやや標高の低い土層断面となった。B地点(6区西壁)では、現代の造成によって中世・近世から現代の表土(I・II層)が欠落していたが、礫混じりのIII層・IV層の堆積はみられ、その下位に明黄褐色粘質土が堆積していた。古墳時代から古代の遺構はV層上面で確認した。本区は礫混じりのIII層・IV層が他の区より厚く堆積しており、古墳時代から古代の竪穴建物の掘り方面は小礫が多く混入するV-2層中にあり、同様に礫を含む遺構埋土との判別が困難であった。

7区・7-2区はやや北東に傾斜する発掘区で、C地点では基本土層のほぼ全体を確認することができた。特に表土(I層)の下位では明確に天明3(1783)年の浅間山噴火に伴う軽石の二次堆積(II層)が7区のみに残されており、復旧痕として記録することができた。下位には6区と同様にIII～VI層の基本土層が堆積していた。古墳時代から古代の遺構はV層上面で確認した。

8-2区は基本土層の記録ができなかったが、試掘調査時の記録(E地点)によれば、20cmほどの客土の下に、



第 3 図 基本土層計測地点と土層柱状図

礫を少量混じる褐色土の表土(I層)が堆積し、さらに下位に砂礫を混じる暗褐色土(III層)が堆積しており、ここでは浅間A軽石を混じるII層は残されていなかった。古代の遺構は礫を少量混じる黄褐色砂質土(V-1層)上面で確認され、下位には一部砂礫層が堆積していた。

9区は東西に長く、西端でD地点、東部でF地点の土層堆積を確認した。D地点では白色軽石粒を含む褐灰色土の表土(I層)と、下位に小礫を多く含む暗褐色砂質土(III層)が堆積していた。さらに小礫を含む褐色土(V-1層)が堆積しており、その上面で古墳時代から古代の遺構を確認した。F地点ではD地点と同様の堆積であった。

10区・10-2区も試掘調査時の記録によれば、現表土(I層)が堆積し、さらに下位に砂礫を多量に混じる褐色土(III層)が堆積しており、古代の遺構は礫を少量混じる黄褐色砂質土(V-1層)上面で確認され、下位には砂礫層が堆積していた。

11区は浅間A軽石を含む褐灰色土(I層表土)の下位に小礫を含む暗褐色砂質土(III層)、小礫を含む褐色土(IV層)が堆積し、その下位の小礫を多く含む褐色土(V-1層)上面で遺構確認した。ここではVI層以下も記録した。

(3)調査と記録の方法

調査では、試掘調査データを元に遺物包含層・遺構確認面などを把握したうえで、遺物包含層のやや上位まで重機による土砂除去を行った。その後、ジョレンを用いて人力で遺構確認を行った。把握できた遺構は、埋没土断面観察のため、小規模な遺構は一方向、大型遺構は十字・二方向に埋没土層観察ベルトを残して掘り下げを行った。ただし、ピットに関しては土層断面図の記録を省略した遺構がある。その際は埋土の特徴を記載した。

竪穴建物は基本的に床面および掘り方面の調査を実施し、竈についても使用面と掘り方面の調査を実施した。しかし、地山および遺構埋没土に等しく礫が著しく堆積していた地点では、掘り方面の検出が困難で調査・記録ができなかった遺構もあった。

記録図化はトータルステーションによる平面測量を地上測量委託して行った。手描きの断面測量は発掘作業員、土層の観察は調査担当者が行った。断面測量の図根点は平面測量図に加筆し、断面図はデジタルトレースを行って後日のデジタル版下作成に備えた。

遺構写真はデジタルカメラによる撮影と、ブローニー版モノクロネガフィルム撮影を併用して調査担当者が行った。また平成27年度調査では遺跡全体のラジコンヘリによる空中写真撮影を委託した。



1. 遺構確認作業



2. 竪穴建物掘り下げ作業



3. 遺物出土状態のデジタル測量作業



4. 竈遺物出土状態の手描き測量作業

4. 整理業務の経過と方法

整理事業の実施にあたっては、群馬県教育委員会文化財保護課の調整を受け、群馬県高崎土木事務所と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団との間で、平成28年4月1日に整理事業の委託契約がかわされ、平成28年4月1日より同事業団本部にて整理作業を開始した。

出土した土器・石器類のうち平成28年度調査分は、調査年度に洗浄・注記作業まで実施できなかったことから、平成28年4月～6月に委託して実施した。

遺物整理は土器(土師器・須恵器)、陶磁器、石器類、金属製品に分類し、それぞれ接合や図化作業を実施した。特に7区の鍛冶関連廃棄土坑から多量の鉄滓や羽口などが出土したが、種別や大きさに分類して計量した。出土土器類は遺構とその周辺遺物ごとに接合し、遺構ごとに図化個体を選定した。その後、必要なものは復元して、写真撮影・実測・採拓・観察表作成作業を行った。石器類や金属製品も種別を分類し、図化資料を選択して実測した。

遺物実測は長焦点実測用写真撮影や三次元計測機を併用しながら等倍の手描き図を作成した。掲載サイズの2倍に調整してトレース図を作成後、スキャニングによりデジタルデータ化した。遺物写真は当事業団写真室でデジタルカメラを用いて撮影し、画像修正を行って印刷原稿データとした。併行して非掲載遺物の分類・カウント作業を実施した。石器の石材同定は、群馬県地質研究会の飯島静男氏に依頼した。

金属製品も当事業団で修復・保存処理作業を行い、写真撮影・実測・観察作業を行った。錆の影響で本来の形

第1表 塩川砂井戸遺跡 遺構名称新旧対照表

	旧(調査での記録)	新(報告書掲載)
6区	暗渠	21号溝
7-2区	1号鍛冶穴	鍛冶関連廃棄土坑
10-2区	116号住居	271号土坑
10-2区	118号住居	10号井戸
10-2区	249B号土坑	11号井戸
10-2区	115号住居内土坑	272号土坑
10-2区	249A号土坑	249号土坑
10-2区	675B号ピット	675A号ピット
10-2区	1218号ピット	1218A号ピット
10-2区	1219号ピット	1219B号ピット

状が不明瞭なものはX線写真により旧状を復元した。

遺構図面は調査段階でデジタルデータ化しており、これらを一部修正・編集して図版データを作成した。本作業を通して遺構種の変更があり、遺構番号とともに変更したものがあ。その内容は第1表遺構名称新旧対照表に示した。

遺構写真は発掘調査で撮影・記録保存したデータから、報告書掲載写真を選定し画像修正を行って印刷原稿データとした。

これらの遺構・遺物に関する印刷原稿データと調査成果や出土品の観察等の文字原稿をアドビ社インデザインで組版して、デジタル印刷原稿として編集した。編集作業後は、出土遺物・図面・写真類の収納作業を終了させた。

報告書印刷は委託して実施し、平成30年3月に発掘調査報告書『塩川砂井戸遺跡(2)・池石田遺跡』を刊行した。



1. 鍛冶関連廃棄土坑出土遺物の分類作業



2. 土師器の接合作業

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

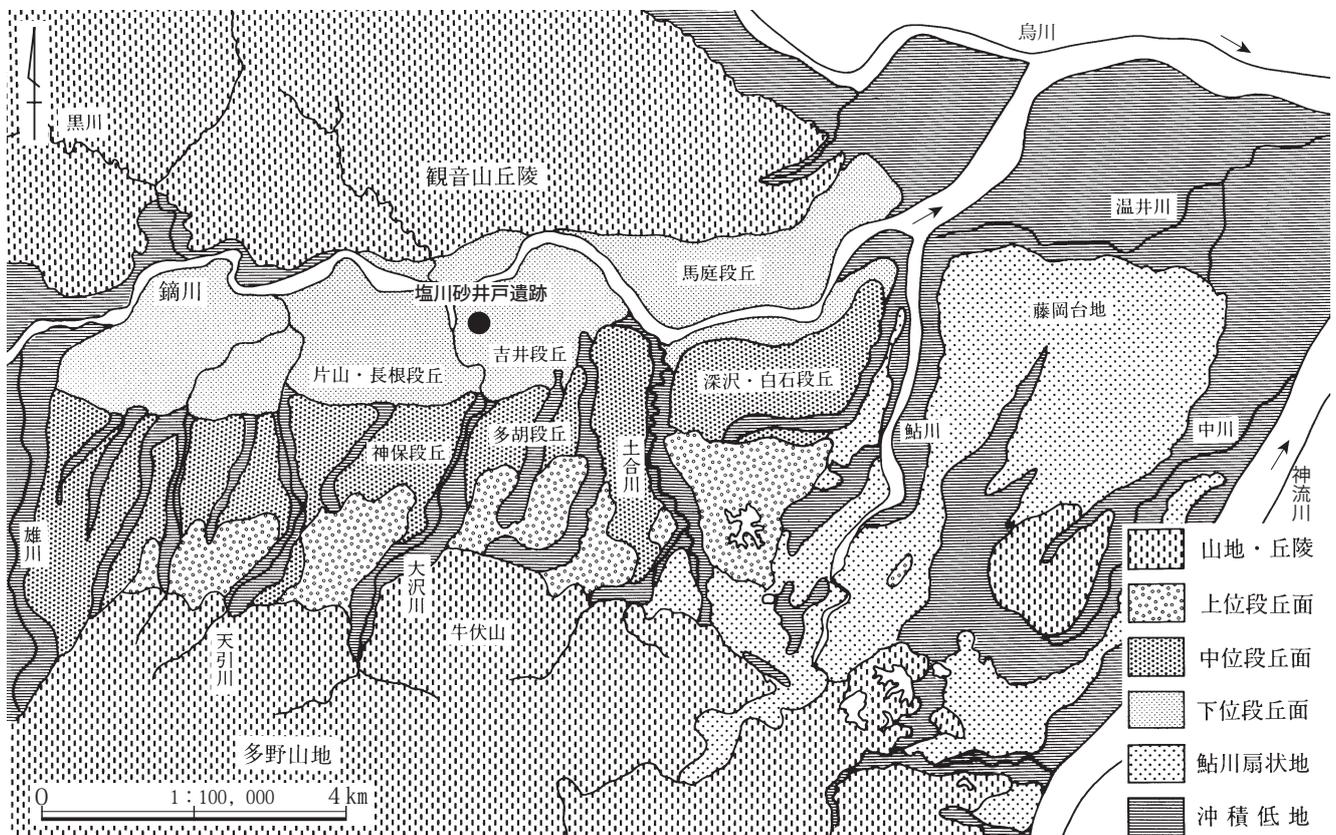
1. 遺跡の位置と地形

鑄川砂井戸遺跡のある群馬県高崎市吉井町(明治22年吉井町・矢田村・本郷村・塩川村など多胡郡内9町村の合併により生まれ、平成21年高崎市と合併により現在の地名となる。本文中では旧吉井町と呼称)は、関東平野の北西隅・群馬県南西部に位置している。北側・東側は高崎市が広がり、南側を藤岡市、西側を甘楽郡甘楽町・富岡市と接している。町のほぼ中央部に下仁田町と長野県佐久市の境界付近にある物見山(標高1375m)を源とする延長58.8km、流域面積632km²の利根川水系一級河川の鑄川が西から東へ流れ、高崎市阿久津町付近で利根川一次支流の烏川に合流している。

鑄川流域は古くから「甘楽の谷」「鑄の谷」と称されてきた地域である。この流域は、西側に進めば内山峠を経て長野県佐久市に至る、中部地方と関東地方を結ぶ重要

な交通路であった。現在の交通路もこの流域に沿っており、高崎-下仁田間を結ぶ上信電鉄や、東京都文京区と長野県松本市を結ぶ国道254号も鑄川の両岸を行き交うようにして東西を繋いでいる。関越自動車道から藤岡市で分岐し、新潟県上越市で北陸自動車道へ繋がる上信越自動車道は、主に鑄川南の丘陵北隅を走向している。

鑄川流域は西側に位置する富岡市街から甘楽郡甘楽町、本遺跡のある旧吉井町にかけて、広く富岡層群と呼ばれる第三紀中新世の海成層を基盤としている。旧吉井町市街地と周辺は南側にある丘陵地から続く富岡層群中の吉井層と呼ばれる泥岩・砂岩層を主体とする面にある。鑄川が作る段丘は左右非対称で、旧吉井町周辺の左岸北側では下位段丘が崖線を隔て丘陵地形に接している。東西に繋がる平坦なこの丘陵地・富岡丘陵は、碓氷川と鑄川の間で発達した東西約16kmにおよぶ丘陵である。標高200~300mにあってなだらかな丘頂部をもち、裾部は特



第4図 遺跡周辺の地形(群馬県埋蔵文化財調査事業団『黒熊中西遺跡』1992 第3図より転載・一部加筆)

に南側で樹枝状の開析谷が発達している。丘陵東隅にあたる高崎市街地に面した周辺は観音山丘陵と呼ばれ、周辺住民から親しまれている。付近ではこの名で呼称されることが一般的である。

旧吉井町から西側に隣接する甘楽町にかけての鑄川右岸では二段の河岸段丘が広がり、さらに南側は関東山地の北隅、多野山地へ繋がっている。右岸の河岸段丘は南側から鑄川へ流れ込む雄川・天引川・大沢川・土合川等多数の小河川による浸食をうけ、細かく分断されている。

このうち大沢川(全長約6km)は東谷川・八東川・折茂川・長根川などの小河川を集めた旧吉井町域で流域面積、長さ、水量等、最大規模の河川である。

塩川砂井戸遺跡のある旧吉井町市街地北側は吉井段丘と呼ばれる下位段丘上にあり、西側を流れる大沢川を挟んで片山・長根段丘と接している。南側の上位段丘は多胡段丘と呼ばれ、さらに丘陵地を隔て周辺のランドマークである牛伏山(標高490m)へ至っている。

塩川砂井戸遺跡は下位段丘(吉井段丘)の北西隅、鑄川河床から比高6m前後の段丘崖より南側40m前後に位置している。付近の標高は調査区西側で114m前後、調査区東側で116m前後を測る。北側の鑄川よりも西側の大沢川へ向かって緩やかに傾斜している比較的平坦な地形である。周辺は高崎市・藤岡市のベッドタウン化し、調査前は住宅地を中心として一部に畑地が入り込む土地利用であったが、明治18年の迅速測図では、南側に点在する塩川村の集落の北方にあたり、畑地が全面に広がっていた。

2 周辺の遺跡

ここでは塩川砂井戸遺跡で主な調査対象となった縄文時代および古墳時代から中世にかけての歴史的景観を理解するために、これらの時代を中心とした周辺の歴史環境について概略を記す。

個別の遺跡については第5図に、調査報告書が刊行された遺跡を中心にドットと算用数字で示し、第2表にその内容を記した。矢田遺跡など周辺で数次におよぶ広範な調査を実施した遺跡については、代表的な地点のみの掲載となっている。また長根遺跡群として11次にわたって報告された多数の遺跡はドットを示しきれず、代表的

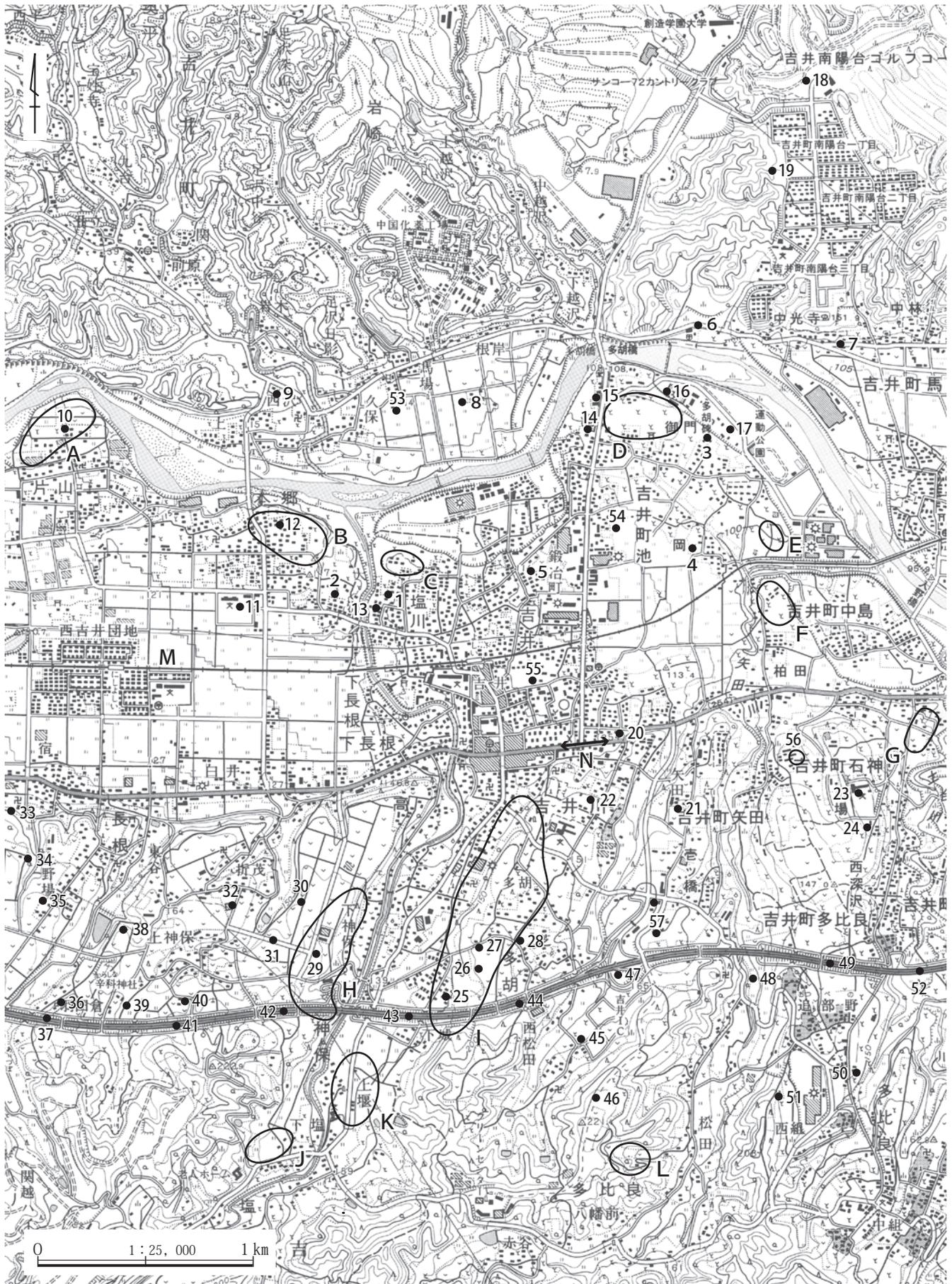
な遺跡のみの図示となった。古墳群の範囲やその他の面的な遺跡はアルファベットで示し、第3表にその内容を記した。本文中では初出の遺跡にのみ番号・アルファベットを付した。引用・参考文献はP.226に一括して記した。

【旧石器時代】この時代の遺跡は上信越自動車の発掘調査で、多胡蛇黒遺跡(44)・多比良追部野遺跡(49)などが確認された。いずれも鑄川右岸上位段丘面において、約同3万年前のA T(始良・丹沢)火山灰層下から確認されるものである。また、羽田倉Ⅱ遺跡(36)でも多数の石器出土が報告されている。

【縄文時代】縄文時代草創期・早期の遺跡はほとんど調査されていないが、本郷畑内遺跡(2)の石鏃など、点在するように出土例がある。集落が確認されるのは前期からで、鑄川右岸上位段丘上の椿谷戸遺跡(21)・神保富士塚遺跡(41)などの調査例がある。中期に入ると遺跡の範囲はやや広がり、鑄川右岸上位段丘の神保植松遺跡(42)など大規模な土坑群等の確認がある他、左岸でも東吹上遺跡(9)に土器群が見られる。本遺跡には中期後半から後期前半にかけての遺物が見られる。後期後半以降は再び遺跡が少なくなる。

【弥生時代】弥生前期から中期も遺跡は少ないが、神保富士塚遺跡では弥生中期の土坑群が調査され注目されている。弥生時代後期になると上位段丘上で集落が増加し、馬場遺跡(24)のように一旦途切れる集落もあるが、多比良追部野遺跡など古墳時代前期まで継続する大集落が多い。これらは古墳時代後期以降の集落占地と共通することを特徴としている。本郷畑内遺跡では下位段丘上の弥生時代後期住居が1棟だけだが調査され、この地区では数少ない調査例となっている。小規模ながら古墳時代前期まで集落が繋がる点は、鑄川右岸上位段丘上の主な集落と共通している

【古墳時代】旧吉井町域は方形周溝墓の調査例が少なく、前期・中期の大型古墳の見られない地域である。古式の古墳調査例には片山古墳群(A)内で粘土槨の小円墳例がある。後期の古墳群は鑄川沿いと、上位段丘上の小河川沿いに見られる。鑄川沿いでは特に下位段丘の広がる右岸側に密集している。自然堤防状の微高地が主な占地となっているようで、片山古墳群の他に本郷古墳群(B)・下池古墳群(D)などがある。小河川沿いでは北側から流下して本遺跡北側で鑄川に合流する大沢川両側の中位段



第5図 周辺遺跡の分布(群馬県埋蔵文化財調査事業団『塩川砂井戸遺跡』2015 第6図より転載、一部修正・加筆)

丘部に、神保古墳群(H)や多胡古墳群(I)などこの地域最大の古墳群が展開している。

集落は古墳時代前期まで上位段丘上を中心に見られるが、後期になって急激に増大し、入野遺跡(23)・長根羽田倉遺跡(37)など枚挙にいとまがない。旧吉井町南側に隣接する藤岡市や西側に隣接する甘楽町で滑石を産出することから滑石製品を製作する工房が古くから注目され、昭和37年群馬大学によって調査された入野遺跡はその嚆矢となった。下位段丘での古墳時代後期集落は、鐮川左岸の川福遺跡(6)、右岸中位段丘直下の吉井川下宿遺跡(20)などわずかに見られ、鐮川右岸縁で片山遺跡群などにややまとまった例がある。町域の広い範囲に古墳群が展開しており、それを支える集落の存在は不可欠であるが、下位段丘での集落数は十分でない。該当地が現在の市街地と重複するため、調査例が少ないものと思われる。本遺跡および本郷畑内遺跡の調査は、片山遺跡群に続く鐮川右岸自然堤防状微高地の集落展開を示す好例となった。

【奈良・平安時代】律令期の町域は倭名類聚抄記載の多胡郡にあたる地域である。本遺跡のある旧吉井町の西側に隣接する甘楽町は「から」を語源とする半島からの帰化人の多い地域と古くから推測されている。和銅4(711)年、周辺の三郡から300戸を割譲し多胡郡を建郡したことが刻まれた日本三古碑の一つ国史跡多胡碑(3)は、本遺跡東側1.8kmの鐮川右岸で本遺跡と同じ下位段丘面にある。江戸時代から盛んに論考されたこの碑については、明治以降にも黒板勝美、高橋健自、柴田常恵、喜田貞吉、原田淑人、尾崎喜佐雄、坂本太郎など論考に加わった研究者の顔ぶれは特筆されるものである。続日本紀には甘楽郡の織茂(おりも)・韓級(からしな)・矢田(やた)・大家(おおやけ)の4郷、緑野郡の武美(むみ)1郷・片岡郡の山等(やまな)1郷を併せた6郷名が記され、倭名類聚抄には俘囚郷を加えた7郷が記されている。本遺跡周辺にはこれら郷名の名残が今も数多く見られる。折茂(おりも)の地名が南側1.1km周辺に、辛科(からしな)神社が南西側2.3kmに、矢田の地名が南東側2km周辺に、山名(やまな)の地名が東側5.5km周辺にあるなどきわめて密集した状態であり、多胡碑周辺の御門(みかど)の地名をもって郡衙推定地とする検討も古くから行われている。雑木味遺跡(5)は瓦出土地として古くから知られ、2013年度

より行われている多胡碑周辺遺跡(4)の調査で正倉と推定される礎石建物が確認され、炭化米が出土した。現在は多胡郡正倉跡(4)と改称され調査研究が進められている。また、矢田遺跡(47)は多数の出土文字資料から矢田郷内の中核的な集落と比定されている。

本遺跡周辺は現代の地名より通常織茂郷と大家郷に比定される地域の中間点付近にあたる。調査成果からは郷に関する新たな知見は得られなかったが、多胡郡建郡の時期には確実に存在していた集落である。

古墳時代後期に見られた大規模な集落は、この時期にさらに拡大し広範囲にわたって確認される。上位段丘(多胡段丘)上の入野遺跡・矢田遺跡、および長根遺跡群として報告された神保段丘上の北高原遺跡(30)・神保境遺跡(31)などの諸遺跡は、ともに住居総数が数百棟規模の大集落である。他にも神保富士塚遺跡・長根羽田倉遺跡など周辺でも集落の調査が続き、群馬県内でも有数の集落が調査された地域である。下位段丘面では鐮川右岸縁は自然堤防状の微高地で古墳時代後期に続き集落がみられ、本遺跡や本郷畑内遺跡西側に隣接する道六神遺跡(11)の他、上河原遺跡(16)・御門遺跡(17)などの集落の広がり確認されている。しかし、古墳時代後期同様中位段丘上の集落にくらべ著しく小規模で、現市街地と重複して古代の集落が存在するものと推定する。生産遺跡では鐮川左岸でヌカリ沢A窯址(18)など平安時代初頭を中心とする時期の須恵器窯跡が調査されている。また、本遺跡南西側一帯の下位段丘面は長根条里(M)と呼ばれる条里区画地と推定されているが、明治39年からの耕地整備事業によって条里地割は姿を消し、現在の地形からその痕跡は窺えない。道六神遺跡では条里地割を留めると思われる溝が調査されている。

【中世の城館】戦国時代の西上州は後北条氏・上杉氏・武田氏の勢力が拮抗する地であった。甘楽の谷は長く小幡氏の支配下にあり、後北条氏・武田氏・織田氏などの侵攻による戦乱があった。山城・城柵の多い地域であり、下条遺跡(25)で城跡が調査されている。下位段丘には本遺跡南側に隣接する可能性のある塩川の砦(13)・大沢川を隔てて本遺跡西側の本郷の砦(12)など戦国期の城柵群が推測されているが、実体は明らかではない。

【江戸時代】信州との国境へ向かう中山道は群馬県西部では碓氷川に沿った安中市周辺を横断しているが、鐮川沿

いには中山道脇往還である下仁田街道(N)が通っていた。信州街道・富岡街道などの呼称の他、比較的起伏が少なく参勤交代に用いられなかったことから庶民に用いられることが多く、姫街道とも呼ばれた。吉井町は藤岡宿と富岡宿の間にある宿場町であった。

天明3(1783)年の浅間山噴火の際の降下軽石を集めて埋めた痕跡が吉井川下宿遺跡の井戸で見られるが、畑の一面に軽石を寄せた「灰掻き山」と呼ばれる復旧痕が甘楽町の天引向原遺跡で調査されている。

火打金は江戸時代吉井宿の名産品であったが、吉井川

下宿遺跡で工房と推定される一部が調査され、東シメ木遺跡(27)や多胡蛇黒遺跡に出土例がある。

平成26年6月、富岡製糸場が世界文化遺産に登録された。製糸場は本遺跡の西側約8kmの鍋川および鍋川支流の高田川に囲まれた通称富岡盆地にある。明治5年の製糸場開業には交通の便、豊富な水や木材、煉瓦や瓦造りの粘土と窯業技術、施設建設のための平坦地の存在などが求められた。これらの要件を満たし、養蚕地帯であった信濃・上野・武蔵を結ぶ要所としてこの地域が選ばれるに至った、歴史的な裏付けが看取できる。

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	縄文			弥生		古墳				奈・平		中・近世	遺跡の概要 その他の遺構・遺物	参考文献	
		前	中	後	中	後	前	中	後	周	墳	生				集
1	塩川砂井戸遺跡			○								○		○	本報告の遺跡。(25年度調査は既報告)	55
2	本郷畑内遺跡		○	●	○	○	○					◎		▲	弥生時代後期から平安時代までの集落。	54
3	多胡碑													※	711年多胡郡建郡を記す日本三古碑の一つ。	4
4	多胡郡正倉跡													※	正倉と考えられる大型礎石建物。	53・63
5	雑木味遺跡													※	瓦散布地	4
6	川福遺跡							○				○			須恵器工人の集落か。土錘多量に出土。	9・37
7	中林遺跡											○			8世紀後半～9世紀主体。瓦多量に出土。	49
8	富岡遺跡	▲	▲									○			9世紀前半頃の集落。	15
9	東吹上遺跡		▲	▲				○								3
10	片山遺跡群					○	○	○			○			▲	片山古墳群内。粘土柳を持つ円墳より仿製鏡等出土。古墳後期・平安の集落。	45
11	道六神遺跡											○	※		条里地割を留める可能性持つ溝。	8
12	本郷の砦													※	築城形跡ないが、御門・堀込・的場の地名。	2
13	塩川の砦													▲	永禄六年武田信玄攻略か。平館の地名。	2
14	竹腰遺跡	▲				▲	▲				○				平安後期主体の大集落の一部か。	17
15	釜ヶ淵遺跡										○					
16	上河原遺跡										○				鍋川右岸緑部で多胡碑の北西に近接。	43
17	御門遺跡					○					○			●	地名より多胡郡衙推定地。	28
18	ヌカリ沢A窯址										○				8世紀後半から9世紀前半の須恵器窯。	27
19	彦田谷窯跡										○				ヌカリ沢窯と同時期の須恵器窯。	27
20	吉井川下宿遺跡						○	○						※	近世の鍛冶工房と道跡。	52
21	椿谷戸遺跡	○	○				○				○			▲		14・18・41
22	川内遺跡		▲				○				○			※	土壇墓。	7・38
23	入野遺跡	○			○	○	◎			※	◎			●	古墳後期滑石製品工房址調査の学史的遺跡。その後周辺で集落調査続行。	1・4・10
24	馬場遺跡				○		○	○			●				入野遺跡群南側の集落遺跡。	29
25	下条遺跡						○	○						※	多胡古墳群内。中世館。	44
26	多胡松原遺跡						○				○				古墳後期～平安集落。	48
27	東シメ木遺跡							○						※	多胡古墳群中の円墳6基。玉類他遺物豊富。	48
28	多胡薬師塚古墳							○								4
29	南高原遺跡						◎	○			◎					46・47
30	北高原遺跡					○	○	○			◎				古墳後期～平安大集落。	30
31	神保境遺跡					○	○	○			◎				古墳後期～平安大集落。	30
32	折茂東遺跡				○	○	○	○			○					11
33	恩行寺裏古墳										○					4
34	西馬脇 長根宿遺跡	▲	▲			○	○				○				広範な集落の一隅か。石帯(巡方)出土。	40・46・51
35	上の場遺跡					○	○				◎					34・40
36	羽田倉遺跡						○	○			○				II遺跡で旧石器時代遺跡確認。	40・50
37	長根羽田倉遺跡	▲	▲	▲		○	◎			※	◎	○			滑石模造品・石製紡輪の工房含む集落。	20

第二章 遺跡の立地と歴史的環境

No.	遺跡名	縄文			弥生		古墳			奈・平		中・近世	遺跡の概要 その他の遺構・遺物	参考文献
		前	中	後	中	後	集落	墓	生	集	生			
38	折茂Ⅲ遺跡	○											古墳後期～平安集落。暗文土器豊富。	50
39	富士塚遺跡													40
40	宮西遺跡												古墳時代後期から11世紀まで続く集落。	40
41	神保富士塚遺跡	○	●	●	○	◎				◎			古墳後期～平安大集落。弥生中期土坑群。	24
42	神保植松遺跡	●	●	●						○		○	弥生中期・縄文前期資料豊富。中世城郭。	32
43	神保下條遺跡		●		○	○				○		○	豊富な埴輪。As-A下の水田・畑。	21
44	多胡蛇黒遺跡		●							◎			古墳後期～平安大集落。	25
45	柳田遺跡									○			矢田遺跡の南側に繋がる集落か。	16
46	多比良笠掛遺跡	▲	○							○			1棟だけ離れた10世紀の住居。	39
47	矢田遺跡	▲	○	▲	○	○	○	◎		◎		○	古代多胡郡矢田郷中心地に比定される大集落。「八田」刻書石製紡輪出土。	19・36
48	多比良観音山遺跡										○		As-B下の水田。	35
49	多比良追部野遺跡	○			○	○	○			◎		※	旧石器。椀型滓等鍛冶に関わる遺物。	33
50	東沢遺跡									○				11
51	多比良遺跡		▲		○	○				○				22
52	黒熊中西遺跡									◎	○	※	平安時代の寺院跡、鍛冶遺構など。	23
53	岩崎馬場遺跡									◎			西側の岩崎06号墳の周溝の一部の可能性が高い。	57
54	池字岡田地内		●							○			縄文時代中期埋設土器。平安時代住居跡	58
55	石神字千歩地内					○							古墳時代中・後期の竪穴住居	59
56	吉井城東遺跡											○	溝	60
57	矢田・天王原遺跡												古墳時代後期の竪穴住居	61

縄文・弥生の項で●は竪穴住居の確認はないが、土坑等の確認や多量の遺物出土のあるものを表す。◎は大規模な遺構の確認のあったことを示し、集落であれば竪穴住居ではおおよそ30軒以上の調査である。※は備考欄に説明を加えている。▲はその他若干の痕跡が見られたことを表す。参考文献はP.226に記した。

第3表 周辺の古墳群一覧表

No.	古墳群・遺跡名	備考	参考文献
A	片山古墳群	鑄川右岸。粘土礫を有す中期古墳を調査し、小型仿製内行花文鏡・鉄剣・鉄斧・石製模造品等豊富な遺物出土。他に後期横穴式石室の円墳調査。	10・45
B	本郷古墳群	鑄川右岸で本遺跡西側に隣接する本郷畑内遺跡の北側。21基の後期古墳群。	4
C	北原古墳群	本遺跡北側の大沢川右岸で、鑄川に合流する地点付近の4基が確認されている小規模な古墳群。前方後円墳を含む可能性があるが不明瞭。塩川古墳群とも呼ばれる。	4
D	下池古墳群	鑄川右岸、多胡碑上流側に隣接。	4
E	高木古墳群	鑄川右岸、多胡碑下流側に隣接。6基現存。	4
F	塚原古墳群	矢田川右岸で付近には少ない前方後円墳を含む後期古墳群。蛇田古墳の調査。	4・13
G	石神古墳群	土合川左岸の小規模な後期古墳群。	4
H	神保古墳群	大沢川左岸で対岸の多胡古墳群に次ぐ63基の後期古墳群。	4
I	多胡古墳群	大沢川右岸のこの地域最大規模の91基以上の後期古墳群。	4
J	塩Ⅱ古墳群	12基の後期古墳群。	4
K	塩Ⅰ古墳群	10基の後期古墳群。塩Ⅱ古墳群と共に塩古墳群と呼ばれる。	4
L	山ノ神古墳群	7基の後期古墳群。	4
M	長根条里	片山・長根段丘上に広がる条里跡で道六神遺跡で一部を調査。明治期の区画整備事業のため範囲など明確ではなく、古地図などから存在が推定されている。	11
N	下仁田街道	中山道の脇往還。旧吉井町域では国道254号線とほぼ重複する。	5

第Ⅲ章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

1. 調査区の概要

塩川砂井戸遺跡は、平成25年度に第1次調査として1区から5区を発掘調査した。調査成果として平成27年3月に発掘調査報告書を刊行している。今回の平成27年、28年度調査は、それに続けて東側の調査区を6区から11区に分けて実施した(第2図)。発掘区は調査年度および保全が必要な現道等によって分けられたもので、小規模で入り組んだ調査区となった。そこで調査では、28年度調査区に「-2」を付し、遺構番号は27年度調査からの通し番号を付した。

各調査区から検出された遺構は、竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、柱穴列、井戸、溝、鍛冶関連遺構、土坑、ピット、畑、復旧痕である。各区の遺構数は第4表に示した通りである。今回の発掘調査によって、本地域の古墳時代後期から古代にかけての集落の一部を調査することができた。特に8世紀における竪穴建物群の分布の変化をとらえることができた。これは多胡郡衙から西250mにある本遺跡が、建郡への地域の動きを直接的にみせている可能性がある。一方、出土遺物のなかには明らかに中世・近世の遺物があり中世以降の遺構の存在は明らかであるが、調査では遺構として明確に判明しなかった。特に10-2区で検出された多数のピットの中には、当該期の建物の柱穴も存在すると思われる。

以下、区ごとに調査区の様相をまとめておく。

6区・6-2区ではV層上面で古墳時代6世紀後半の竪穴建物7棟が分布しており、そのうち3棟は古墳時代中葉の大型竪穴で集落の中核をなしていたと推定される。その大型竪穴建物群を二分するような位置にある17号溝は、大型竪穴建物と同時期の直線の溝であり、集落

域を区分する溝と考えられる。その後の遺構としては7世紀1棟、9世紀2棟、10世紀1棟の竪穴建物が検出された。6区中央部にはやや大型の土坑が直線的に並ぶ地点があり、21号溝等とともに地割等を示す遺構であろう。また、壁に沿い粘土を巻き込む特殊な構造の土坑が検出された。内側には桶の箍と判断される痕跡が残っており、桶が据えられた遺構である。江戸時代後期から末期ころの土坑と推定される。この土坑は6-2区で2基、7-2区で3基検出された。また近世土坑・溝から羽口破片や鉄滓が数点出土した。周辺には「鍛冶町」の小字名が残っており、吉井名産の「火打金」生産に関連するものと推定される。

7区・7-2区は西半部に削平を免れて浅間A軽石層が残っており、II層上面とV層上面の2面調査となった。上層のII層上面では全体に攪乱部分が多かったが、浅間A軽石を埋め込んだ復旧坑が9基散在しており、北端には軽石を埋めた状態の溝が残されていた。下位のV層上面では、古墳時代から古代にかけての竪穴建物が20棟検出された。このうち16棟は6世紀後半から7世紀で、古代の竪穴は9世紀4棟とごく少なかった。7-2区西端で中世と推定される鍛冶遺構に伴う廃棄土坑1基が検出された。

8-2区は平成28年度調査のみであった。V層上面で、竪穴建物11棟が検出された。そのうち8棟が6世紀後半、1棟が7世紀の古墳時代で、1棟は羽釜を出土する10世紀以降の竪穴建物であった。

9区・9-2区では14棟の竪穴建物が検出されているが、そのうち7棟が6世紀後半、4棟が7世紀の古墳時代の竪穴建物であった。その後の遺構としては8世紀1棟、9世紀1棟の竪穴建物が検出された。一辺3.5~4.0

第4表 調査区別遺構数一覧表

	竪穴建物	竪穴状遺構	掘立柱建物	柱穴列	井戸	溝	鍛冶関連遺構	土坑	ピット	畑	復旧痕
6区・6-2区	13	1			1	2		59	38		
7区・7-2区	20						1	24	9		10
8-2区	11							8	42		
9区	14							15	45		
10区・10-2区	36		1	1	6	4		112	745	1	
11区	5	1						9	6		
合計	99	2	1	1	7	6	1	227	885	1	10

mの小型竪穴が多く、西半部の遺構重複が著しかった。

10区・10-2区は竪穴建物36棟が検出された。古墳時代の竪穴建物は12棟で、6世紀後半が4棟、7世紀が8棟であった。特筆されるのは、8世紀の竪穴が17棟検出されたことで、以降9世紀1棟、10世紀が1棟、不明が5棟であった。特に古墳時代の竪穴は10区に偏在しており、10-2区には検出されなかった。古墳時代の竪穴建物の分布は6区・7区を中心に10区まで散在していたが、8世紀になって一気に10区・10-2区に集中する様相が判明した。10-2区の北東側200mには瓦出土地として古くから知られ、近年は仏教関連施設の可能性が示唆されている雑木味遺跡がある。10-2区の10世紀後半の竪穴建物からは多胡郡正倉跡や雑木味遺跡等で使用されていた瓦と同型式の瓦破片が出土している。本遺跡の8世紀における竪穴建物分布の変化は、周辺の多胡郡関連遺跡との関連のなかで検討することが必要であろう。

また、10-2区では土坑・ピットが多数検出された。調査時には掘立柱建物1棟、柱穴列1基を確認した。これらの遺構の時期は不明であるが、多数のピット群を柱穴とする建物がさらに存在した可能性は高いと思われる。出土遺物から中世とみられる井戸や、江戸時代の土坑や埋桶等も確認されており、中世および近世の居宅等があった可能性がある。また、10-2区では天明3年に降下した浅間A軽石に埋もれた溝群を検出したが、畝間溝と推定される。

11区は5棟の竪穴建物が検出された。時期は7世紀が3棟、8世紀が2棟である。土坑・ピットも検出したが、西側に隣接する10-2区に比べ遺構の分布は少なかった。11区中央部を境に東側の遺構分布は希薄になっていることが判明した。

2. 竪穴建物

竪穴建物は99棟が検出された。調査区別、時期別の棟数は第5表の通りである。本報告書では竪穴建物出土土器の詳細な分類・編年作業をおこなっていないが、出土土器から竪穴建物の時期を推定し記載した。おおむね6世紀後半・7世紀・8世紀・9世紀・10世紀の竪穴建物が確認できた。出土遺物の特徴から細別時期を記載できる場合には、それも記載した。出土遺物がなく時期が不明な場合は不明とした。

99棟の竪穴建物のうち全形が判明したのは65棟の竪穴建物である。このうち竈が敷設されていないことが判明したのは、6世紀後半の竪穴建物で1棟、8世紀の竪穴建物で1棟、時期不明の竪穴建物で5棟のみであった。この他に全掘できなかつた竪穴もあり確定できないが、竈が敷設された多くの竪穴建物は「住居」と考えられる。上記7棟の竈が敷設されていない竪穴は集落内の別の用途を考える必要があるが、調査では確定できなかった。

竪穴建物には一辺7mから2mまで規模に違いがあるが、6m以上の大型は3棟検出されており、6世紀後半の6区に集中していた。2m以下の2棟は小型であり、1棟は竈がなく、もう1棟は竈はあるが不定形な竪穴であった。一辺が2mから5mの竪穴の規模分布は漸移的に変化する。視覚的には3.5m前後で規模の分類が可能と考えられたが、数値的な分類は困難であった。竪穴の規模は集落の時期や集落内構成に関わると想定され、別途、詳細な分析が必要となろう。

竪穴建物の竈は北壁あるいは東壁に敷設されている例が多かった。竈には両袖の先端に棒状礫を据え、焚口部の天井構築材として使用されたと推定される大型板状礫を竈周辺に残している竪穴建物が、6世紀後半で11棟、7世紀で4棟あり、本地域での特徴的な竈構築法と推定される。

第5表 調査区別・時期別竪穴建物数一覧表

	全体	6世紀後半	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	不明
6区・6-2区	13	7	1	0	2	1	2
7区・7-2区	20	10	7	0	2	0	1
8-2区	11	8	1	0	0	1	1
9区	14	7	4	1	1	0	1
10区・10-2区	36	4	8	17	1	1	5
11区	5	0	3	2	0	0	0
合計	99	36	24	20	6	3	10

6区47号竪穴建物

(第6図 PL. 5・61 遺物観察表P.249)

グリッド 063~067・-303~-308

重複 66号、73号、80号、101号土坑より古い。

形状 ほぼ正方形

規模 長軸3.98m 短軸3.78m 残存壁高0.10m

面積 13.23㎡ 長軸方位 N-76°-E

埋没土 少量の地山礫と焼土粒を含み、黄褐色土粒が塊状に混入する暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁ほぼ中央に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.87m、屋外長0.48m、燃烧部長0.70m、焚口幅0.42mで、粘土貼り付けの袖構造下部が左0.37m、右0.42mの長さで屋内に張り出し残存していた。竈内壁面

はほとんど焼けていなかった。

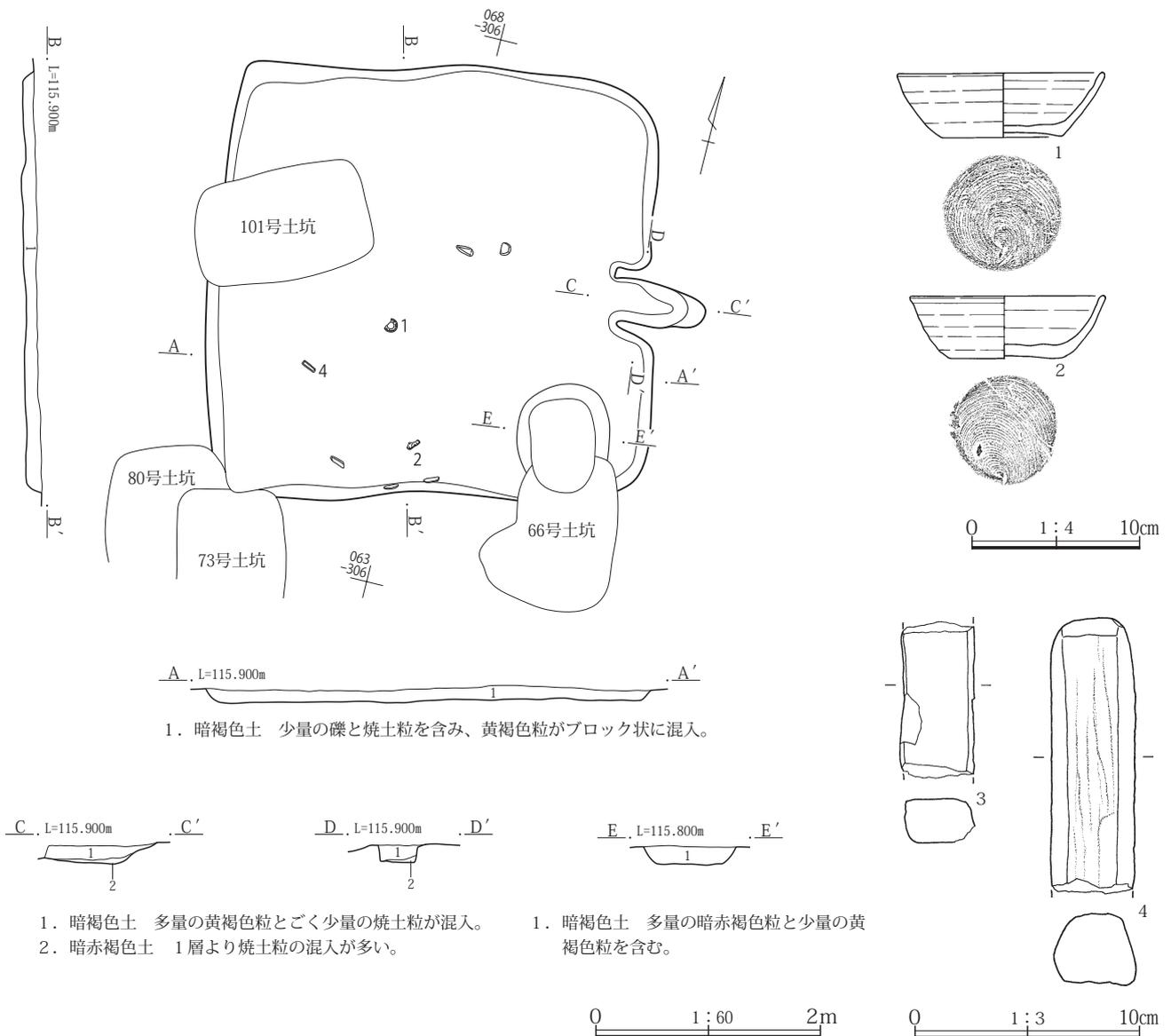
柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 南東隅に、長軸推定0.97m、短軸0.83m、深さ0.15mの貯蔵穴が掘られていた。出土遺物はなかった。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 口縁部が一部欠損した須恵器杯(第6図1)が中央部床面直上で、2/3ほどの須恵器杯破片(同図2)が南壁寄り床面直上で出土した。また、棒状礫が南東部を中心に床面近くで散在していた。(同図4)は緑色片岩製の棒状礫で角柱状に成形されていた。埋没土中から出土した牛伏砂岩製の棒状礫(同図3)も角柱状に成



第6図 6区47号竪穴建物と出土遺物

形されており、砥石として使用された可能性もある。この他、土師器破片69点、須恵器破片1点が出土した。
所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。

6区48号竪穴建物

(第7図 PL.5 遺物観察表P.249)

重複 なし。

グリッド 057~060・-315~-320

形状 西壁がやや外側に膨らむ長方形

規模 長軸4.13m 短軸3.14m 残存壁高0.27m

面積 10.72㎡ **長軸方位** N-90°-E

埋没土 黄褐色土粒と礫を含み、極少量焼土粒を含む暗褐色土で埋まっていた。西側には多量の黄褐色土粒を含む暗黄褐色土が堆積していた。

竈 東壁ほぼ中央に竈が敷設されていた。残存する竈の

規模は確認長0.98m、屋外長0.61m、燃烧部長0.60m、焚口幅0.74mで、粘土貼り付けの袖構造下部が左0.44m、右0.32mの長さで屋内に張り出し残存していた。竈内壁面はほとんど焼けていなかった。

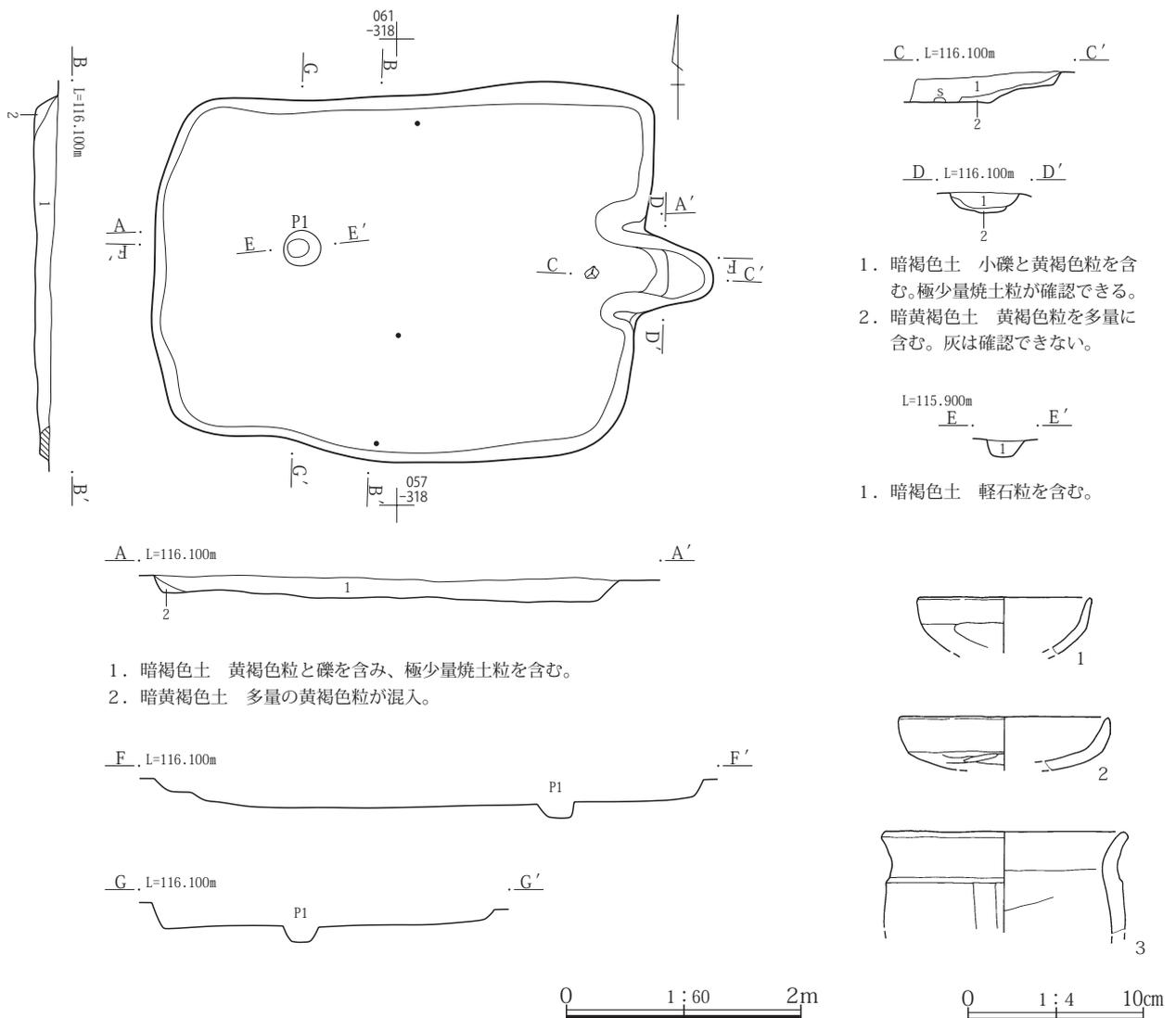
柱穴 床面の精査では主柱穴は確認できなかった。住居西半部ほぼ中央で、長径0.32m、短径0.3m、深さ0.14mのP1を検出したが、柱穴かどうかは判断できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 竈埋没土中から土師器杯口縁部破片(第7図1)、土師器小型甕口縁部破片(同図3)が、住居埋没土中から土師器杯口縁部破片(同図2)が出土した。



第7図 6区48号竪穴建物と出土遺物

この他、埋没土中から土師器破片26点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

6区49号竪穴建物

(第8図 PL.5 遺物観察表P.249)

グリッド 051~054・-327~-330

重複 343号、344号ピットより古い。

形状 南東部が調査区域外となることから全形は判明しなかったが、東壁がやや短くなる台形と推定される。

規模 長軸(2.77)m 短軸2.7m 残存壁高0.29m

面積 計測不能 **長軸方位** N-19°-E

埋没土 少量の炭化物・焼土粒を含み、黄褐色土粒の混入が他の竪穴より多い暗褐色土で埋まっていた。

竈 西壁中央よりやや北側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.31m、屋外長0.18m、燃烧部長0.31m、焚口幅0.63mで、袖はほとんど残存していなかった。

た。焚口部床面直上で、竈構築材の一部と推定される長さ40cm、幅18cm、厚さ8cmの大型板状礫が出土した。

竈内に立っている棒状礫2個はその出土位置から竈支脚の可能性はある。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

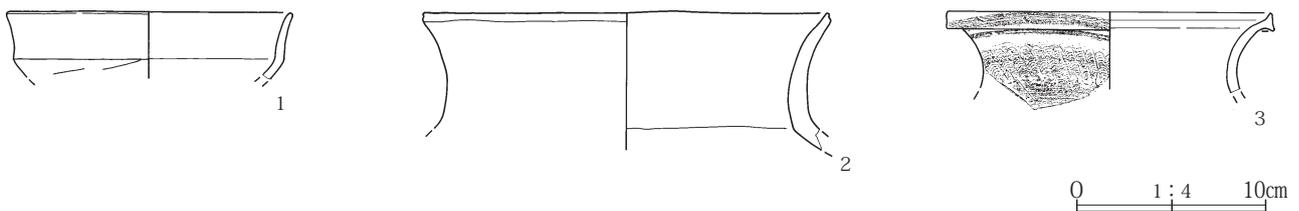
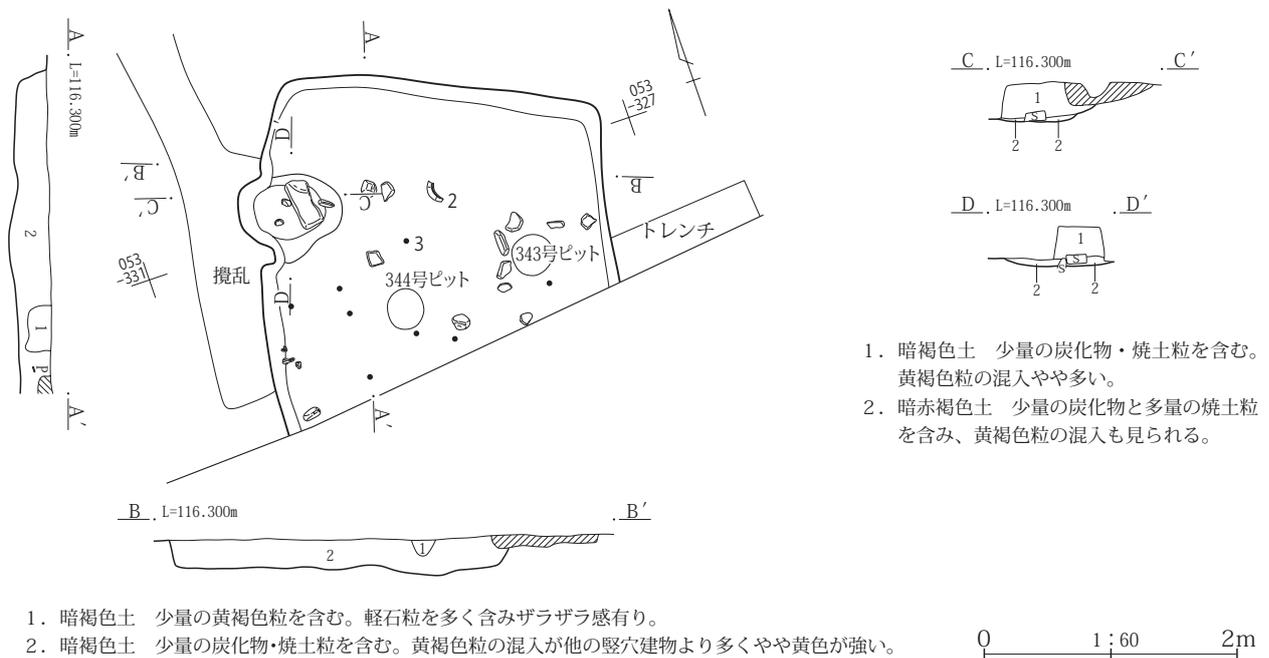
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 埋没土上層には掌大の礫が混入しており、遺物も同層位から出土したものが多く、土師器甕(第8図2)は中央部床面直上で出土した。須恵器甕口縁部破片(同図3)は中央部床面上19cm、土師器杯口縁部破片(同図1)は埋没土中から出土した。この他、埋没土中から土師器破片72点、須恵器破片2点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第8図 6区49号竪穴建物と出土遺物

6区50号竪穴建物

(第9・10図 PL.5・6・61 遺物観察表P.249)

グリッド 055~062・-323~-331

重複 4号井戸、100号土坑より古い。

形状 南東壁がやや短くなる台形である。

規模 長軸6.52m 短軸5.70~6.10m 残存壁高0.31m

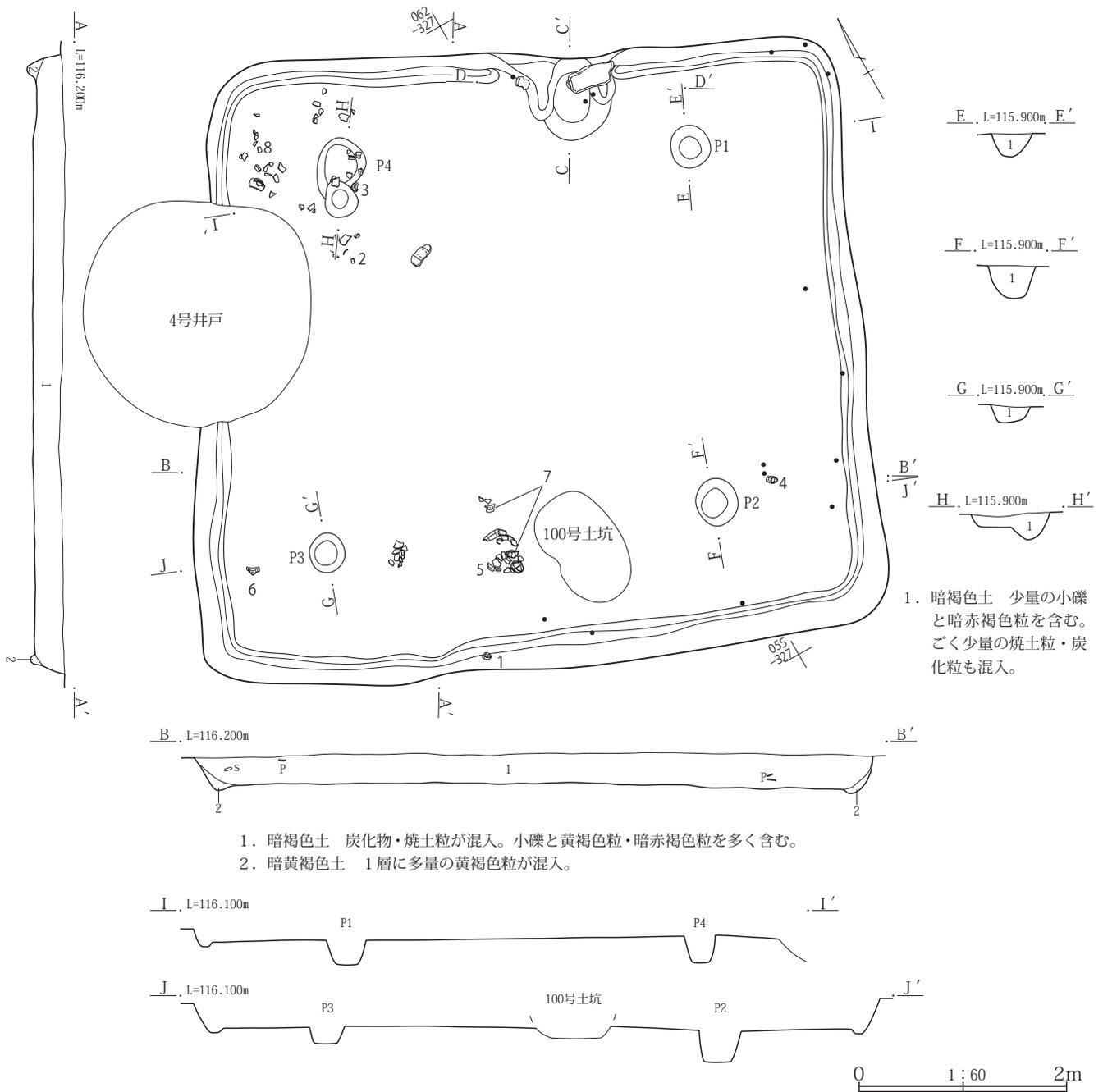
面積 31.14㎡ 長軸方位 N-60°-W

埋没土 炭化物粒・焼土粒が混入し、小礫と黄褐色土粒・暗赤褐色土粒を多く含む暗褐色土で埋まっていた。壁際溝部は多量の黄褐色土粒が混入する暗黄褐色土で埋ま

ていた。

竈 北東壁中央よりやや東側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.52m、屋外長0m、燃烧部長0.52m、焚口幅0.62mで、粘土貼り付けの袖構造下部が左0.67m、右0.54mの長さで屋内に張り出し残存していた。燃烧部中央やや奥側には長さ27cmの棒状礫を立てて半分ほど埋め込んだ支脚が設置されていた。また、燃烧面上20cmの位置に、長さ48cm、幅22cm、厚さ7cmの大型板状礫が右袖残存部にかかるようにして残されていた。

柱穴 床面で主柱穴4本が検出された。4本を結んだ線



1. 暗褐色土 少量の小礫と暗褐色土粒を含む。ごく少量の焼土粒・炭化物粒も混入。

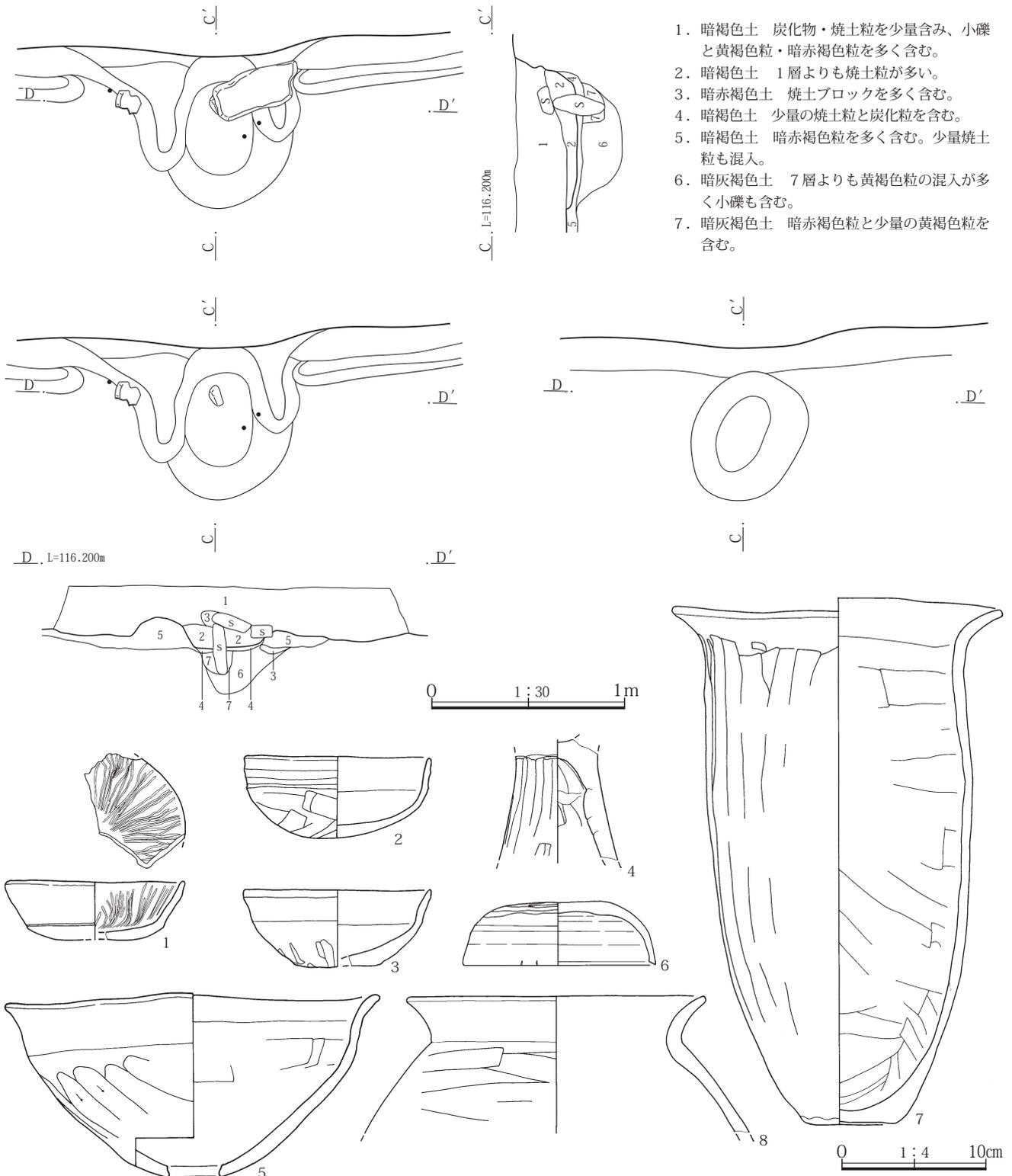
1. 暗褐色土 炭化物・焼土粒が混入。小礫と黄褐色土粒・暗赤褐色土粒を多く含む。
2. 暗黄褐色土 1層に多量の黄褐色土粒が混入。

第9図 6区50号竪穴建物

は正方形でなく、住居の平面形に準じて台形である。これは①壁際溝上端から柱穴中心までの距離がほぼ1mで一定であること、②北東部P1のみ北東壁壁際溝上端からの距離が0.75mで短いことに起因していると推定される。したがって支柱穴の柱通りは直交しないことになる。

支柱穴の規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.42m 短径0.39m 深さ0.24m
- P 2 長径0.47m 短径0.40m 深さ0.21m
- P 3 長径0.39m 短径0.34m 深さ0.27m
- P 4 長径0.37m 短径0.31m 深さ0.27m



1. 暗褐色土 炭化物・焼土粒を少量含み、小礫と黄褐色粒・暗赤褐色粒を多く含む。
2. 暗褐色土 1層よりも焼土粒が多い。
3. 暗赤褐色土 焼土ブロックを多く含む。
4. 暗褐色土 少量の焼土粒と炭化粒を含む。
5. 暗褐色土 暗赤褐色粒を多く含む。少量焼土粒も混入。
6. 暗灰褐色土 7層よりも黄褐色粒の混入が多く小礫も含む。
7. 暗灰褐色土 暗赤褐色粒と少量の黄褐色粒を含む。

第10図 6区50号竪穴建物竈と出土遺物

柱間の距離はP 1・P 2間が3.46m、P 2・P 3間が3.77m、P 3・P 4間が3.46m、P 4・P 1間が3.40mである。P 4の北東脇には抜き取り痕と思われる深さ0.13mの掘り込みが残っていた。

壁際溝 幅10~12cm、深さ2~8cmの壁際溝が全周していた。南西壁中央の壁際溝上層で土師器杯(第10図1)が出土した。

貯蔵穴 検出されなかった。

掘り方 全体の掘り方地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方は確認できなかった。竈部分のみ掘り方を調査したところ、長径1.40m、短径1.11m、周囲の掘り方面からの深さ0.14mの楕円形の土坑状に掘られていた。

遺物と出土状況 須恵器蓋(第10図6)が南西隅床面直上で、南西壁沿い中央部の床面直上で土師器有孔鉢(同図5)や土師器甕(同図7)の破片がまとまって出土した。土師器高杯(同図4)は南東部床面上8cmで出土した。土

師器杯(第10図3)は北部P 4の抜き取り穴周辺の床面直上で出土した。土師器杯(同図2)はP 4南脇の床面上6.6cmで出土した。北隅の遺物出土状態は埋没途中における投棄を示しており、土師器甕(同図8)は床面上23.5cmで出土した。その他、埋没土中から土師器破片480点、須恵器破片2点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

6区51号竪穴建物

(第11図 PL. 6・61 遺物観察表P.249)

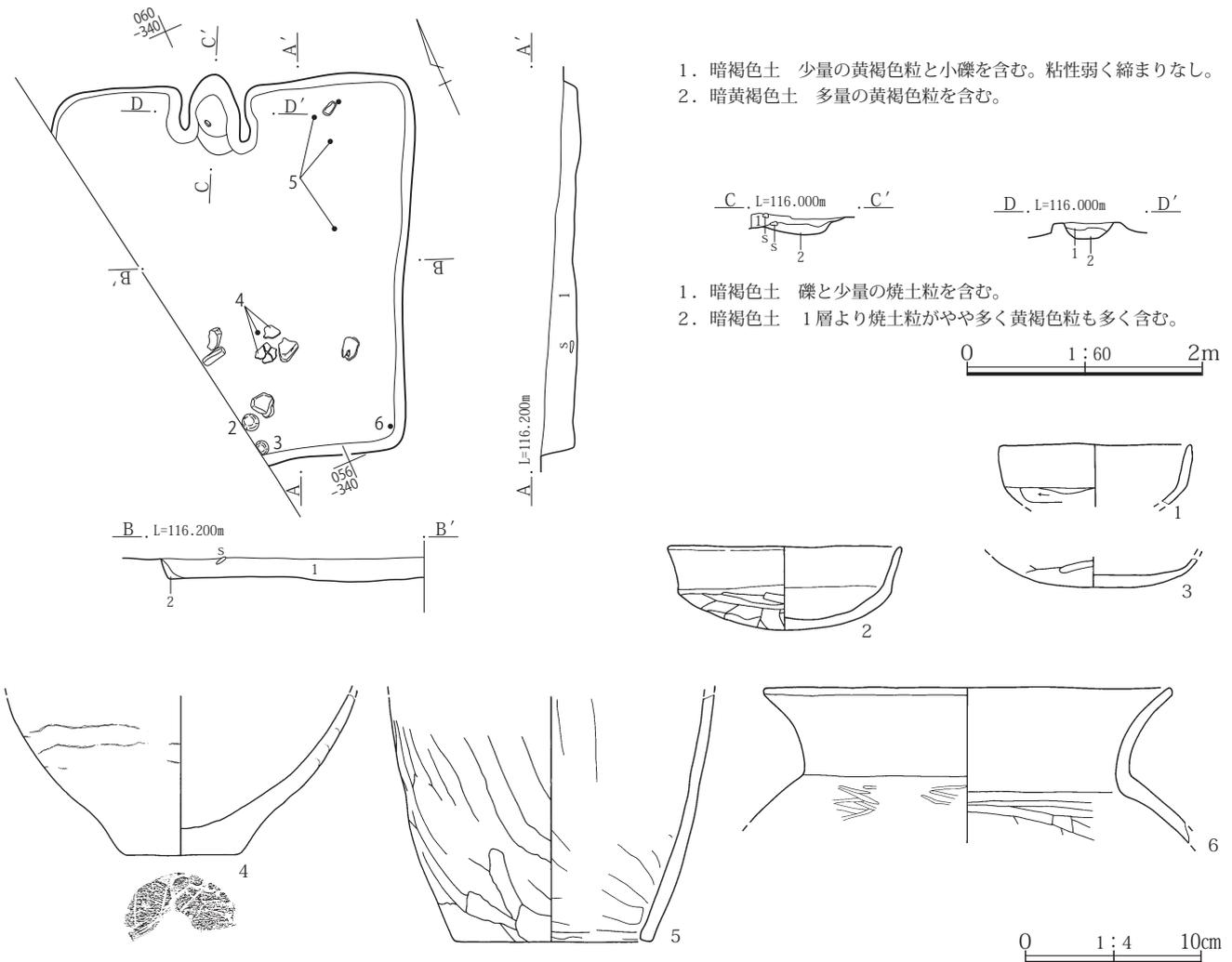
グリッド 056~059・-338~-341

重複 なし。

形状 南西部が調査区域外となることから全形は判明しなかったが、ほぼ正方形と推定される。

規模 長軸3.22m 短軸3.09m 残存壁高0.28m

面積 計測不能 **長軸方位** N-22°-E



第11図 6区51号竪穴建物と出土遺物

埋没土 少量の黄褐色土粒と小礫を含む暗褐色土で埋まっていた。壁際部分には多量の黄褐色土粒を含んでいた。

竈 北東壁中央よりやや北側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.64m、屋外長0.07m、燃烧部長0.64m、焚口幅0.51mで、粘土貼り付けの袖構造下部が左0.51m、右0.61mの長さで屋内に張り出し残存していた。燃烧部中央やや左側には棒状礫が直立して出土したが、支脚かどうか判然としなかった。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 全体として遺物は床面から浮いた状態で出土した。中央やや南寄り出土した土師器鉢(第11図4)は床面直上、南壁寄り出土した土師器杯(同図2)は床面直上で出土した。土師器杯(同図3)は南壁際床面上4.4cm、土師器甕口縁部破片(同図6)は南隅床面上9.6cmで出土した。南東隅で散在していた土師器甕(同図5)は床面直上の破片と6~8cm浮いた遺物が接合したが、埋没途中の投棄によるものと推定される。土師器杯

口縁部破片(第11図1)は埋没土中から出土した。この他、埋没土中から土師器破片21点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

6区52号竪穴建物

(第12図 PL.6 遺物観察表P.250)

グリッド 067~070・-336~341

重複 なし。

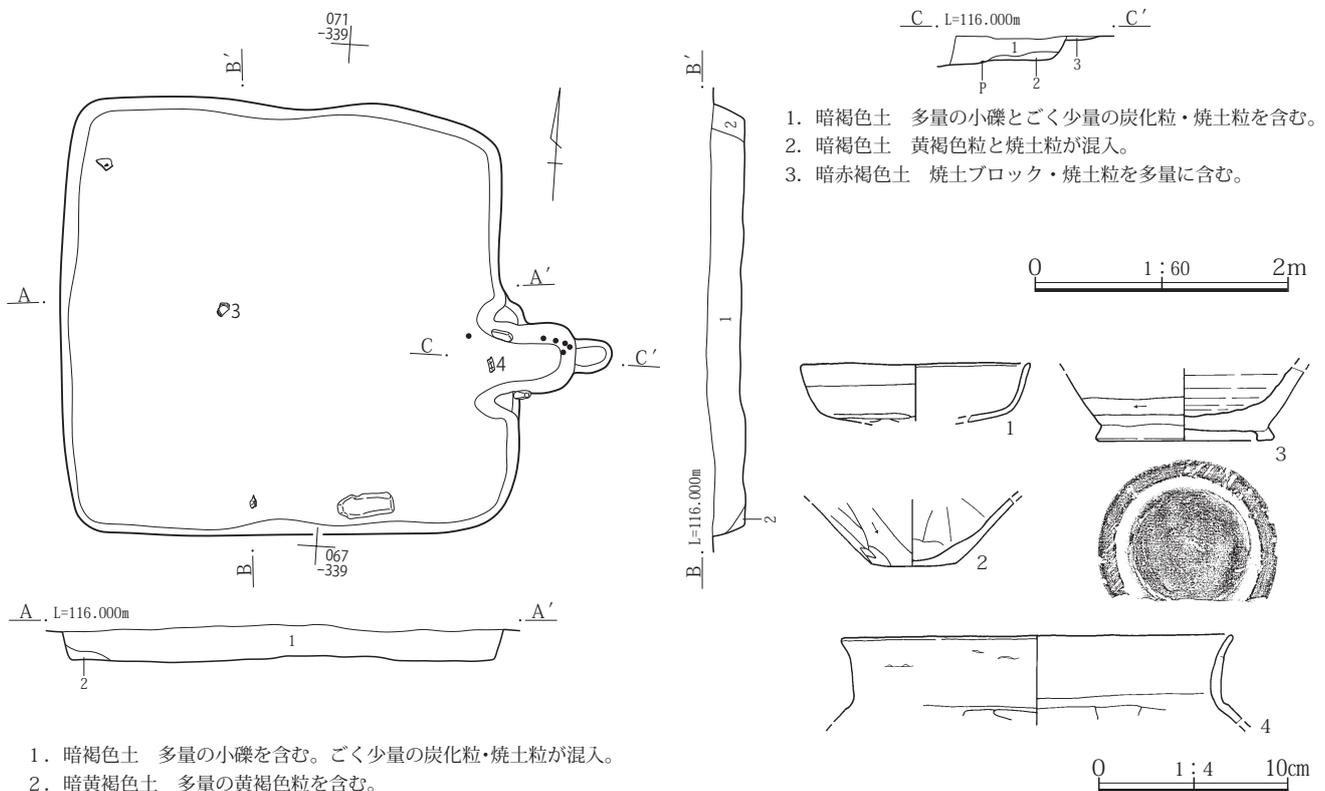
形状 ほぼ正方形

規模 長軸3.60m 短軸3.48m 残存壁高0.23m

面積 10.52㎡ **長軸方位** N-86°-E

埋没土 多量の小礫を含み、極少量の炭化物粒・焼土粒を混入する暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央よりやや南側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.08m、屋外長0.81m、燃烧部長0.79m、焚口幅0.66mで、燃烧部の外側に深さ0.03mではあるが煙道が残存していた。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左0.22m、右0.32mの長さで張り出し残存していたが、右袖の残存は極めて低くなっていた。竈袖構築時に芯としたと推定される棒状礫が左右ともに残置されていた。焚口部燃烧面直上で土師器甕口縁部破片(第12



第12図 6区52号竪穴建物と出土遺物

図4)が出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 中央部床面直上で須恵器壺か(第12図3)が出土した。土師器杯(同図1)、土師器甕(同図2)が埋没土中から出土した。また、南壁際床面上12cmで大型板状礫(長さ44cm、幅18cm、厚さ15cm)が残されていた。この他、埋没土中から土師器破片99点、須恵器破片2点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。南壁際で出土した大型板状礫は他の竪穴建物の出土例から竈構築材の一部と推定される。

6区53号竪穴建物

(第13図 PL. 6・61 遺物観察表P.250)

グリッド 051~057・-348~-352

重複 337号、338号、339号、342号ピットより古い。

形状 南北に長い長方形

規模 長軸4.70m 短軸3.13m 残存壁高0.12m

面積 計測不能 **長軸方位** N-11°-W

埋没土 少量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 不明

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

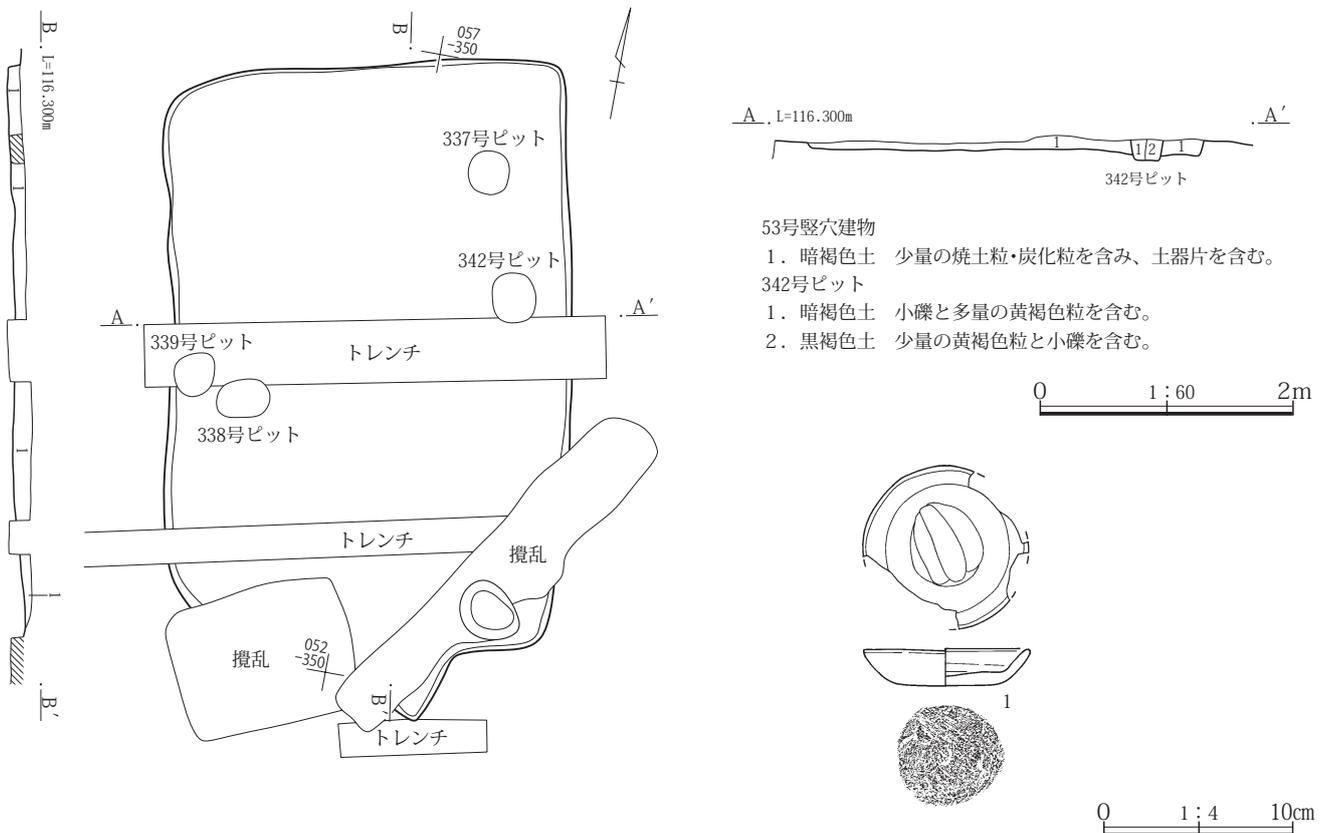
壁際溝 なし。

貯蔵穴 南東隅に、長径0.52m、短径0.41m、深さ0.34mの楕円形の掘り込みが検出された。貯蔵穴との確定はできないが、埋没土の類似性から本建物に伴うと判断した。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から完形に近い須恵器杯(第13図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片8点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀後半以降の竪穴建物と考えられるが、出土遺物が少なく確定はできなかった。竈は検出できなかったが、東壁南端部の攪乱部分にあった可能性は否定できない。本建物の用途も明確にできなかった。



第13図 6区53号竪穴建物と出土遺物

6区61号竪穴建物

(第14図 PL.61 遺物観察表P.250)

グリッド 080~084・-336~-342

重複 なし。

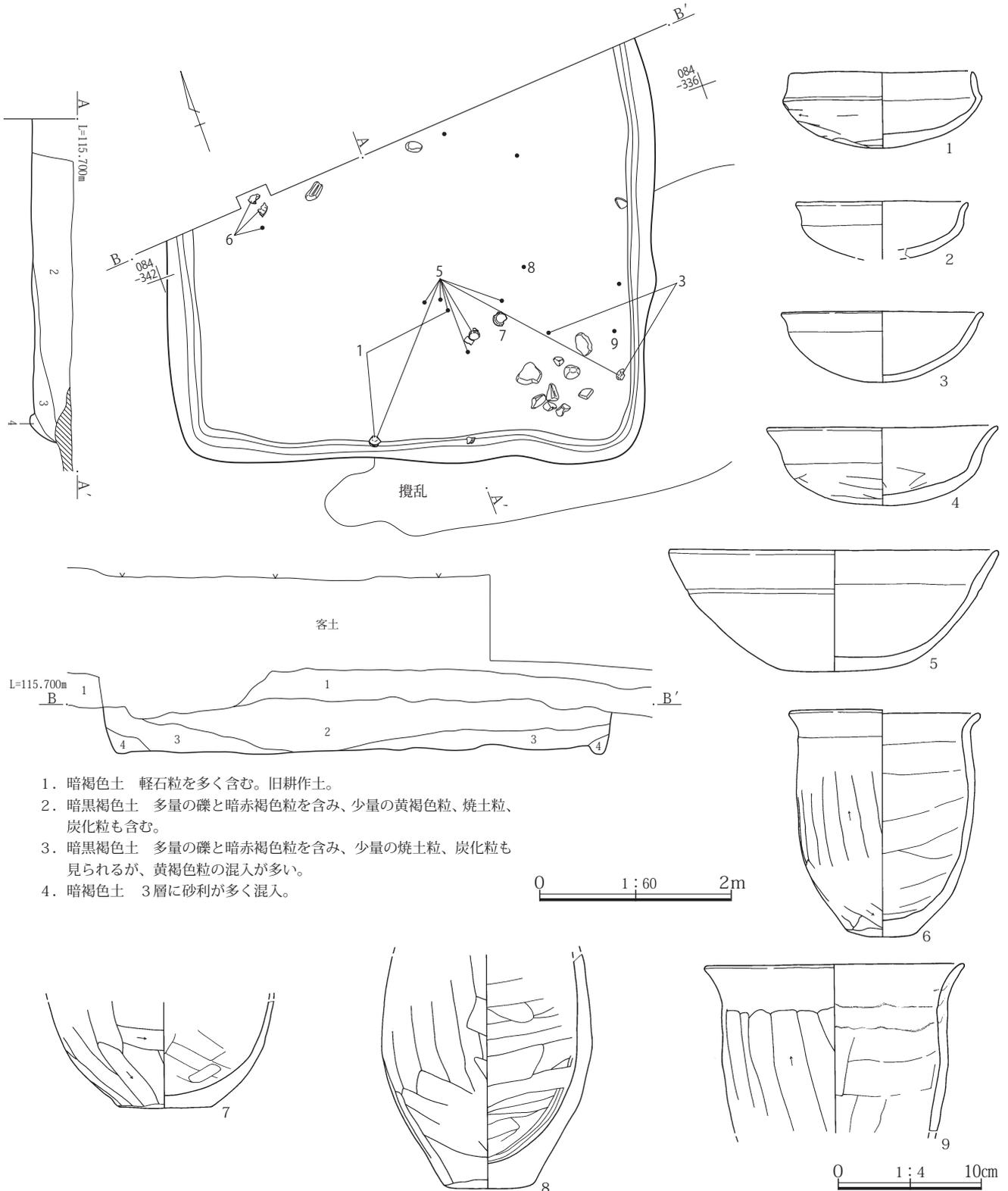
形状 北西部が調査区域外となることから全形は判明し

なかった。東壁北端がやや西へ回り込む様子があることから、長方形になる可能性がやや高い。

規模 東西軸5.05m 南北軸(3.44)m 残存壁高0.41m

面積 計測不能 長軸方位 N-19°-E

埋没土 多量の礫と暗赤褐色土粒を含み、黄褐色土粒、



1. 暗褐色土 軽石粒を多く含む。旧耕作土。
2. 暗黒褐色土 多量の礫と暗赤褐色粒を含み、少量の黄褐色粒、焼土粒、炭化粒も含む。
3. 暗黒褐色土 多量の礫と暗赤褐色粒を含み、少量の焼土粒、炭化粒も見られるが、黄褐色粒の混入が多い。
4. 暗褐色土 3層に砂利が多く混入。

第14図 6区61号竪穴建物と出土遺物

焼土粒、炭化物粒を混入する暗黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査区域内では検出されなかった。出土遺物の時期からすると北壁に敷設されていた可能性が高い。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 幅12～20cm、深さ5～8cmの壁際溝が調査できた範囲では全周していた。

貯蔵穴 調査区域内では検出されなかった。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 南半部特に南東部に多く遺物が出土した。土師器杯(第14図3)は南東隅床面上4.5cmで、土師器鉢(同図5)は南東隅床面直上で散在していた破片が接合した。土師器杯(同図1)は南壁ほぼ中央の壁際溝内側の底面上12.7cmで出土した。土師器小型甕(同図6)は北西壁寄りの床面直上で散在していた破片が接合した。土師器甕(同図8)は中央やや東寄りの床面上11.7cmで、土師器甕底部破片(同図7)が南東部床面直上で、土師器甕(同図9)が南東部壁際床面上7.2cmで出土した。土師器杯(同図2)、土師器杯(同図4)は埋没土中から出土した。その他、埋没土中から土師器破片119点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

6区62号竪穴建物

(第15・16図 PL.7・62 遺物観察表P.250・251)

グリッド 072～080・-306～-314

形状 南東部および南東隅を後世の攪乱で壊されているために全形は判明しなかったが、東西にやや長い長方形と推定される。P3の東壁までの距離が、P2と西壁の距離に比して短いことから、北東隅がやや掘り足りなかった可能性もある。

重複 119号土坑より古い。

規模 長軸7.52m 短軸6.90m 残存壁高0.35m

面積 計測不能 **長軸方位** N-77°-W

埋没土 小礫と暗赤褐色土粒を多量に含み、少量の黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋まっていた。壁際には多量の黄褐色土粒を混入していた。

竈 北壁中央よりやや東側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長2.21m、屋外長1.37m、燃烧部長0.73

m、焚口幅0.62mで、燃烧部の外側に深さ0.06mではあるが煙道が1.38m残存していた。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左0.83m、右0.82mの長さで張り出し残存していた。袖内には竈袖構築時に芯としたと推定される棒状礫が左右ともに残されていた。左袖手前の床面直上には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ67cm、幅22cm、厚さ9cm)が残されていた。竈右袖脇には、ほぼ完形の土師器甕(第16図11)と土師器甕(同図13)が立てかけるような状況で出土した。

柱穴 攪乱で壊された南東隅を除いて、3本の支柱穴が検出された。支柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.56m 短径0.48m 深さ0.66m

P2 長径0.53m 短径0.44m 深さ0.56m

P3 長径0.60m 短径0.51m 深さ0.50m

柱間の距離はP1・P2間が4.44m、P2・P3間が4.52mである。

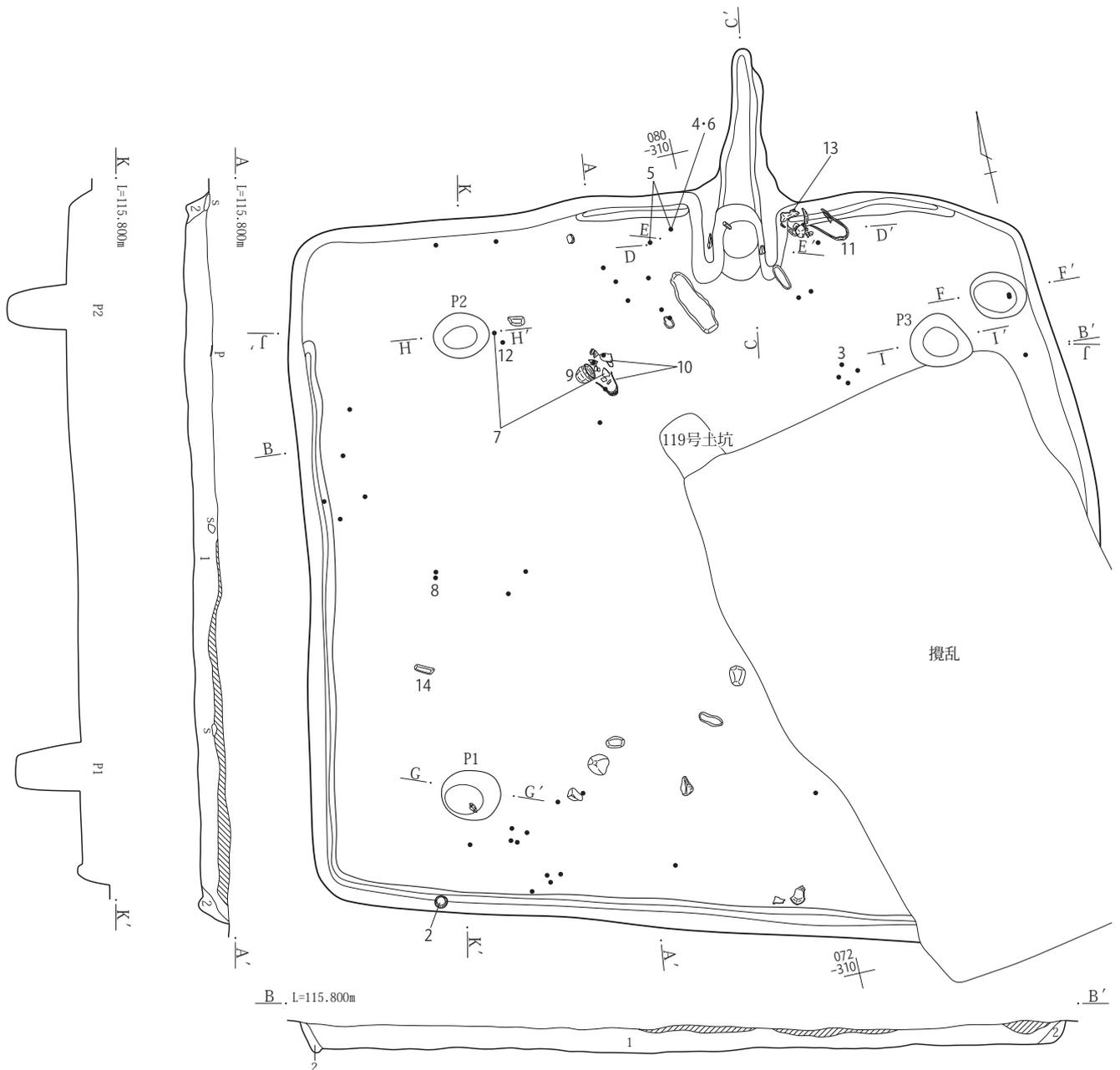
壁際溝 北壁の竈両側と西壁から南壁にかけてに、幅7～28cm、深さ2～6cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 北東隅に長径0.54m、短径0.44m、深さ0.37mの楕円形の掘り込みが検出された。住居の規模からすれば小型であるので、貯蔵穴との判断はできなかった。

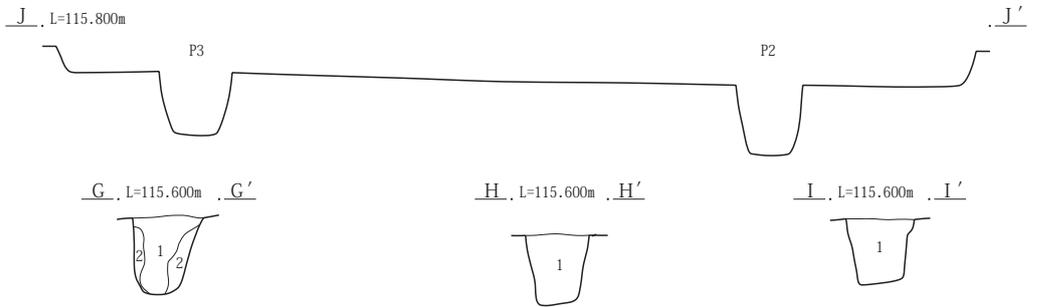
掘り方 竪穴全体の掘り方調査は、地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。竈部分のみ掘り方を調査したところ、長軸1.10m、短軸0.92m、周囲の掘り方面からの深さ0.12～0.20mの隅丸長方形の土坑状に掘られていた。

遺物と出土状況 土師器杯(第16図4)、土師器杯(同図5)、土師器杯(同図6)は竈左脇の床面直上で出土した。土師器杯(同図7)はP2東側床面直上の破片と竈左前出土の破片が接合した。土師器甕(同図12)はP2東側床面上9.7cmで出土した。土師器小型甕(同図9)、土師器甕(同図10)は竈前床面上2.3cm、3.9cmで出土した。土師器杯(同図3)はP3西部の床面上2.6cmで出土した。土師器杯(同図2)は南西部壁際で、土師器鉢(同図8)は西部床面直上で出土した。また西部床面直上で緑色片岩の棒状礫(同図14)が1点出土した。埋没土中から土師器手捏ね(同図1)が出土した。その他、埋没土中から土師器破片364点が出土した。

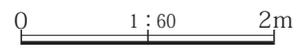
所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



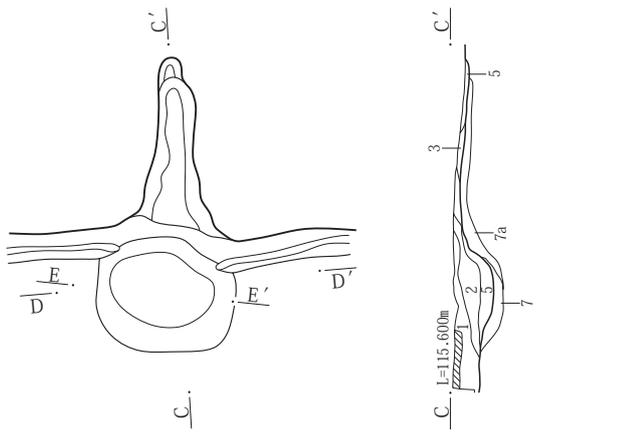
1. 暗褐色土 小礫と暗赤褐色粒を多量に含み、少量の黄褐色粒・焼土粒・炭化粒を含む。
2. 暗黄褐色土 1層に多量の黄褐色粒が混入。



- | | | | |
|--|---|--|--|
| <p>F, L=115.700m .F'</p> <p>1. 暗褐色土 黄褐色粒・ブロック・暗赤褐色粒を多く含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。</p> | <p>G, L=115.600m .G'</p> <p>1. 暗褐色土 小礫と黄褐色粒・暗赤褐色粒を多く含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。</p> <p>2. 暗黄褐色土 1層に砂利が多量に混入。</p> | <p>H, L=115.600m .H'</p> <p>1. 暗褐色土 黄褐色粒・ブロック・暗赤褐色粒を多く含み、焼土粒や炭化粒を少量含む。</p> | <p>I, L=115.600m .I'</p> <p>1. 暗褐色土 黄褐色粒・ブロック・暗赤褐色粒を多く含み、焼土粒や炭化粒を少量含む。</p> |
|--|---|--|--|

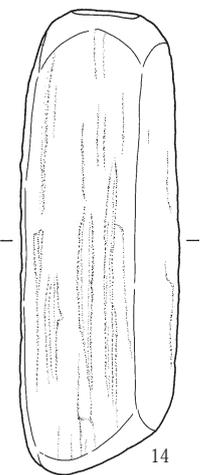
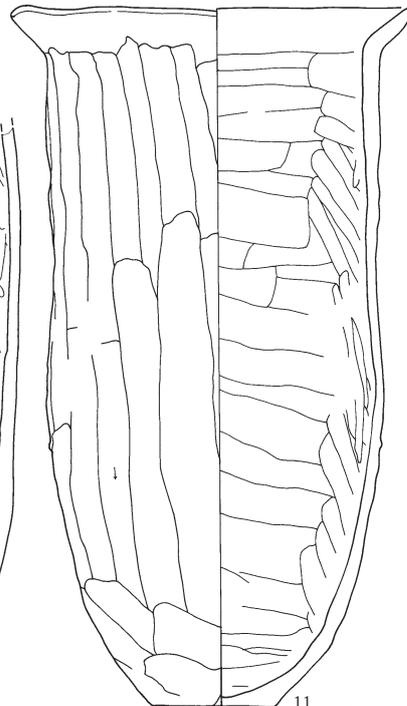
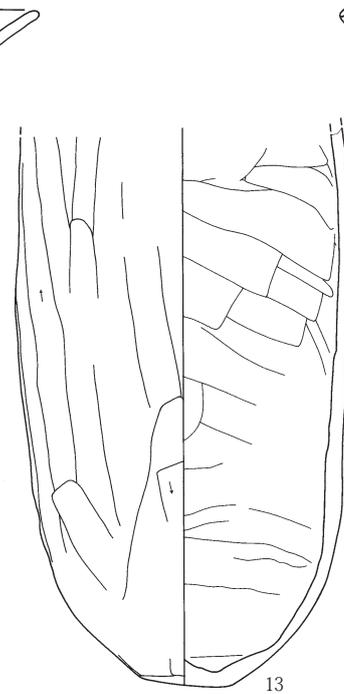
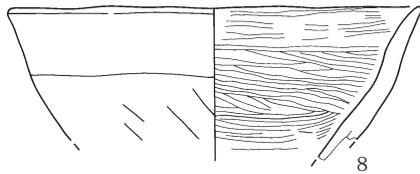
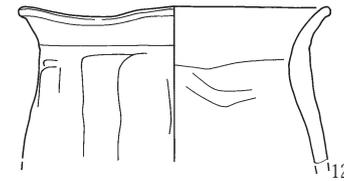
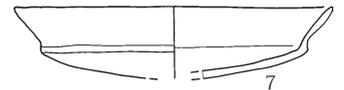
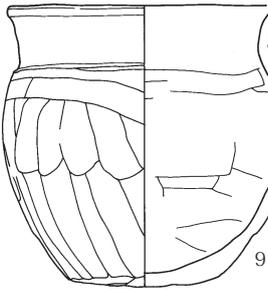
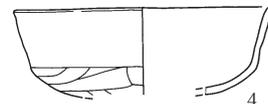
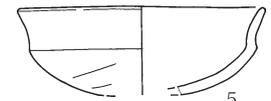
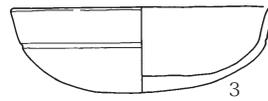
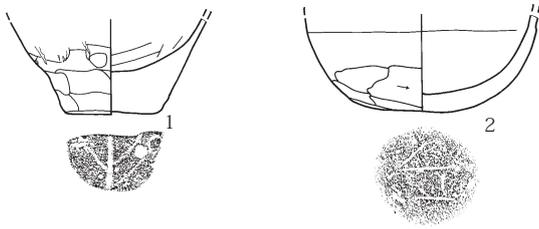
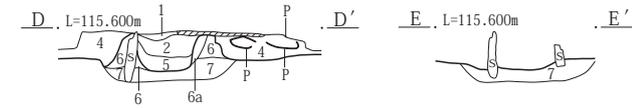


第15図 6区62号竪穴建物



1. 暗褐色土 小礫と黄褐色粒・焼土粒・炭化粒を含む。
2. 暗赤褐色土 小礫と黄褐色粒を少量含み、多量の焼土粒・ブロックが見られる。
3. 暗赤褐色土 焼土粒・焼土ブロックを含み、小礫と黄褐色粒・暗赤褐色粒も含む。7a層よりも黄褐色粒の量が多い。
4. 暗褐色土 小礫と暗赤褐色粒を多量に含み、少量の黄褐色粒と焼土粒を含む。
5. 暗赤褐色土 多量の焼土粒・焼土ブロックを含む。
6. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒と少量の小礫と焼土粒を含む(袖)。
- 6a. 暗赤褐色土 6層が焼けた焼土層(袖)。
7. 暗赤褐色土 焼土粒・ブロックと多量の暗赤褐色粒を含み、黄褐色粒も含む。
- 7a. 暗赤褐色土 7層よりも黄褐色粒の量が多い。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第16図 6区62号竪穴建物竈と出土遺物

6区63号竪穴建物

(第17図 PL. 7・61 遺物観察表P.251)

グリッド 082~086・-308~-313

重複 122号土坑より古い。

形状 東西方向が長い長方形

規模 長軸4.79m 短軸3.37m 残存壁高0.28m

面積 13.66㎡ 長軸方位 N-87°-W

埋没土 礫や焼土粒・炭化物粒黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋まっていた。壁際には黄褐色土塊の混入が多い。

竈 東壁中央よりやや北側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.61m、屋外長0.04m、燃焼部長0.61m、焚口幅0.59mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左0.53m、右0.60mの長さで張り出し残存していた。竈右袖脇には、土師器杯(第17図1)、土師器杯(同図2)が床面直上で、土師器甕(同図5)が床面上11.7cmで出土

した。

柱穴 床面の精査では南東隅に支柱穴の一部と推定されるP1を検出したにとどまった。支柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.38m 短径0.31m 深さ0.17m

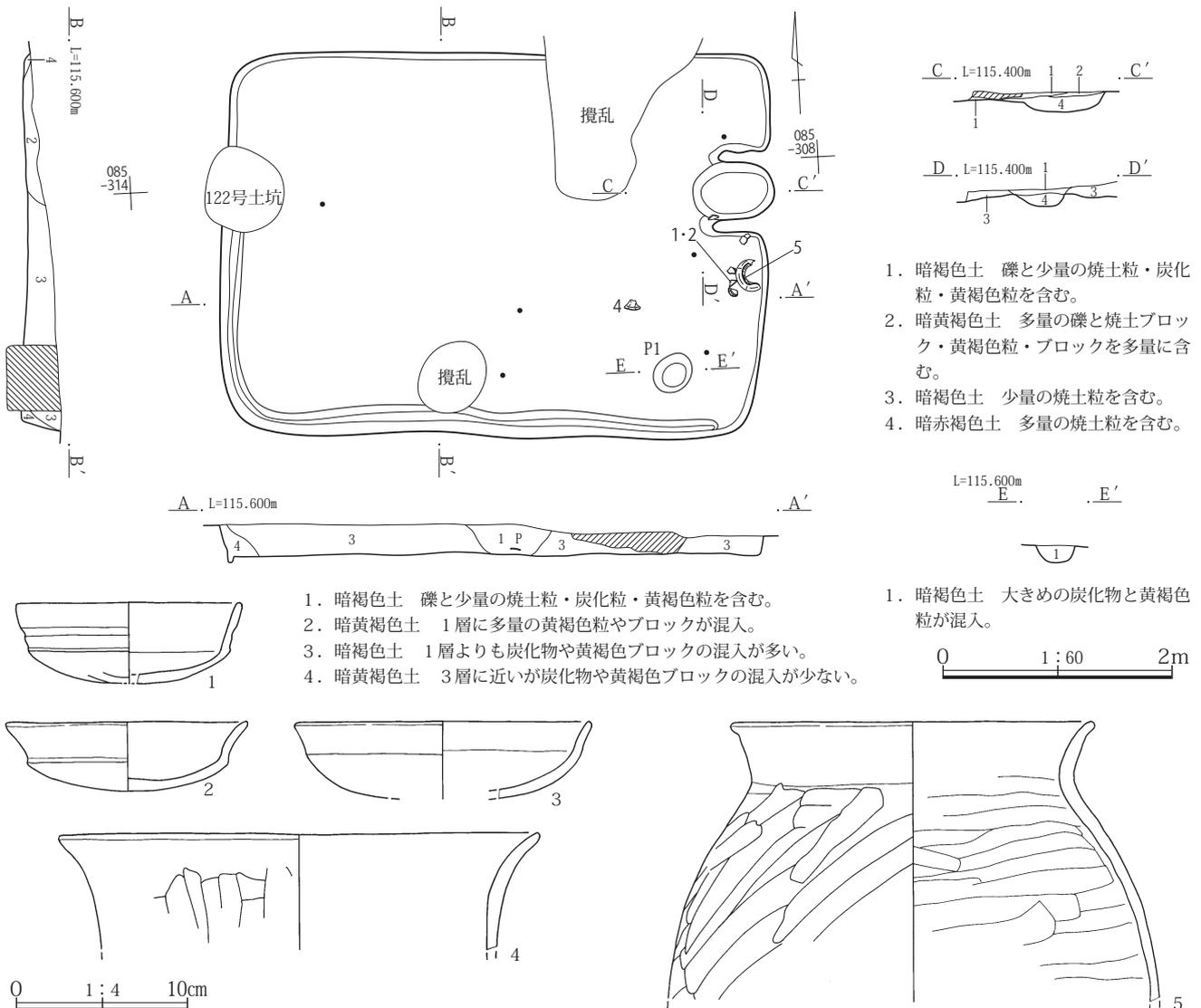
壁際溝 西壁の中央から南壁にかけて、幅8~18cm、深さ2~3cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 P1北脇で土師器甕(第17図4)が床面上2cmで出土した。また、埋没土中から土師器杯(同図3)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片119点

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第17図 6区63号竪穴建物と出土遺物

6区64号竪穴建物

(第18・19図 PL. 8・61 遺物観察表P.251)

グリッド 072~080・-339~-347

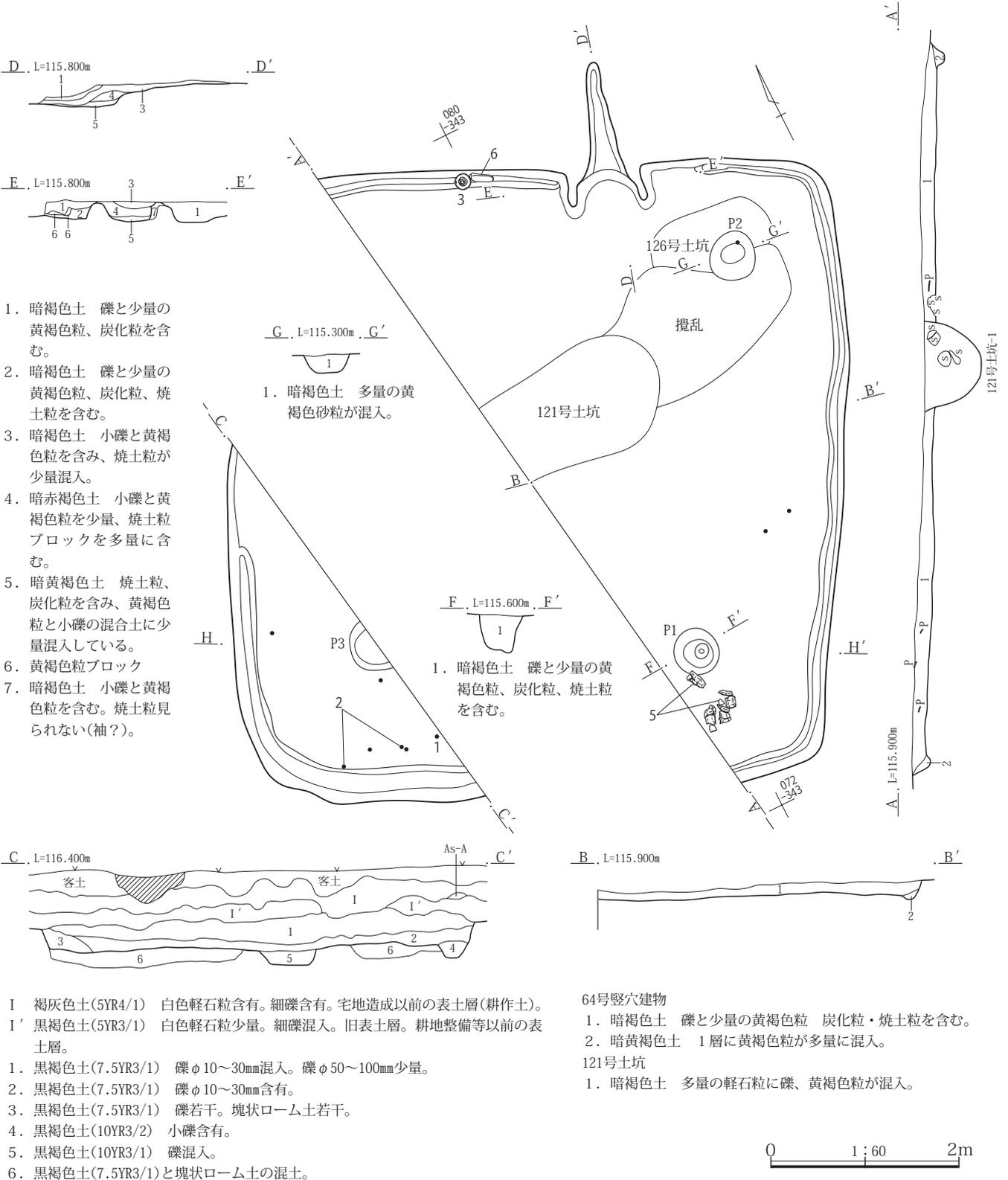
重複 121号土坑、126号土坑より古い。

形状 北隅が現道維持のため調査区域外となったことか

ら、全形は判明しなかったが、ほぼ正方形と推定される。
現道より東側を平成27年度、西側を平成28年度に調査したため、平面図はその調査成果の合成図である。

規模 長軸6.74m 短軸6.49m 残存壁高0.29m

面積 計測不能 長軸方位 N-27°-E



第18図 6区64号竪穴建物

64号竪穴建物

- 1. 暗褐色土 礫と少量の黄褐色粒 炭化粒・焼土粒を含む。
- 2. 暗黄褐色土 1層に黄褐色粒が多量に混入。

121号土坑

- 1. 暗褐色土 多量の軽石粒に礫、黄褐色粒が混入。

埋没土 礫と少量の黄褐色土粒・炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。壁際には黄褐色土が多量に混入していた。

竈 北東壁中央よりやや東側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.63m、屋外長1.09m、燃烧部長0.48m、焚口幅0.59mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左0.57m、右0.53mの長さで張り出し残存していた。竈の掘り方調査を実施できなかったので竈構築の構造は不明である。出土遺物も無かった。

柱穴 現道下に位置する北西隅を除き、3本の支柱穴を検出した。支柱穴の規模は下記の通りである。

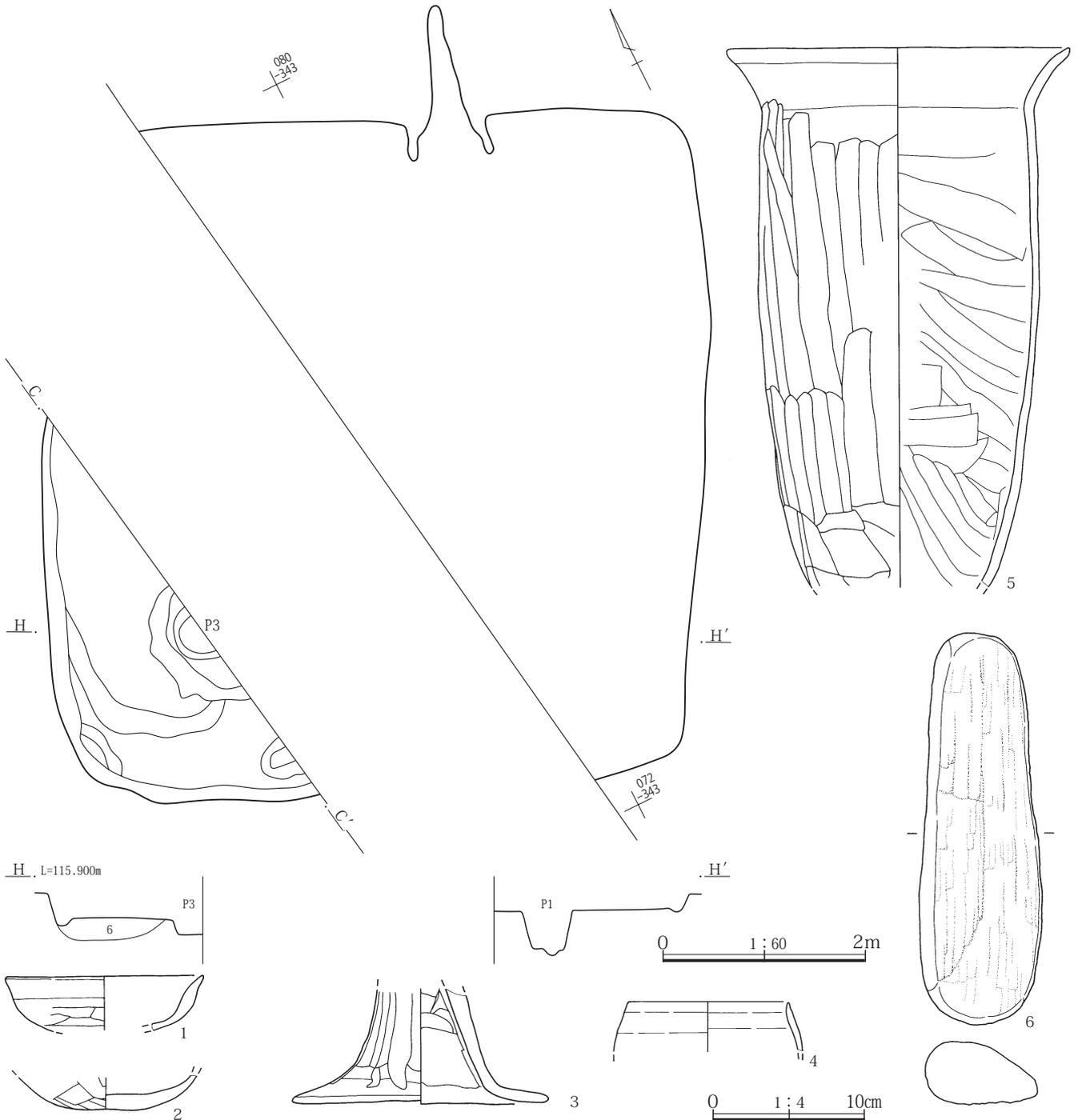
P 1 長径0.50m 短径0.47m 深さ0.45m

P 2 長径0.53m 短径0.48m 深さ0.20m

P 3 長径0.61m 短径(0.29)m 深さ0.17m

柱間の距離はP 1・P 2間が4.30m、P 1・P 3間が3.50mである。

壁際溝 西壁中央部を除き、幅15~22cm、深さ5~9cmの壁際溝が掘られていた。



第19図 6区64号竪穴建物掘り方と出土遺物

貯蔵穴 なし。

掘り方 平成28年度調査した南西部のみ掘り方調査を実施した。壁沿いに凹地があり掘り込んだ様子が看取できた。

遺物と出土状況 土師器杯(第19図1)が南壁際床面上13cmで、土師器杯か(同図2)が南西隅床面上8cmで出土した。北東壁際床面上4cmで、土師器高杯(同図3)と黒色片岩の棒状礫(同図6)が並んで出土した。土師器甕(同図5)がP1南部の床面上8cmで出土した。埋没土中から須恵器椀か口縁部破片(同図4)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片120点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

6-2区69号竪穴建物

(第20図 PL. 8)

グリッド 070~075・-348~-352

重複 70号竪穴建物より新しく2号竪穴状遺構より古い。

形状 南東隅を2号竪穴状遺構により壊されていることから全形は判明しなかったが、南北方向に長い隅丸の長方形と推定される。

規模 長軸4.66m 短軸3.72m 残存壁高0.03m

面積 計測不能 長軸方位 N-6°-W

埋没土 細礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

柱穴 床面の精査では北西隅に支柱穴の一部と推定されるP1を検出したにとどまった。支柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.48m 短径0.44m 深さ0.17m

壁際溝 なし。 貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。53号竪穴建物と形態が類似している。

6-2区70号竪穴建物

(第20図 PL. 8)

グリッド 068~070・-348~-352

重複 69号竪穴建物、2号竪穴状遺構より古い。

形状 69号竪穴建物、2号竪穴状遺構に竪穴の多くの部

分を壊されているので全形は判明しなかったが、方形と推定される。

規模 長軸(2.23)m 短軸(1.95)m 残存壁高0.06m

面積 計測不能 長軸方位 N-84°-E

埋没土 礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

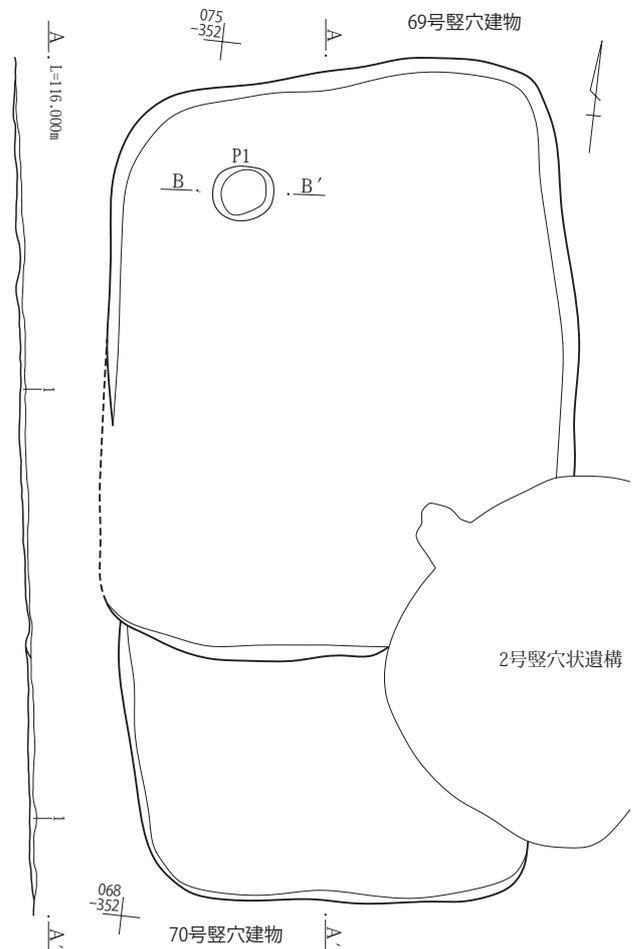
壁際溝 なし。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。



69号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫含有。

70号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

0 1:60 2m

第20図 6-2区69・70号竪穴建物

7区24号竪穴建物

(第21図 PL. 8・9・62 遺物観察表P.251)

グリッド 060~064・-290~-295

重複 61号土坑より新しい。

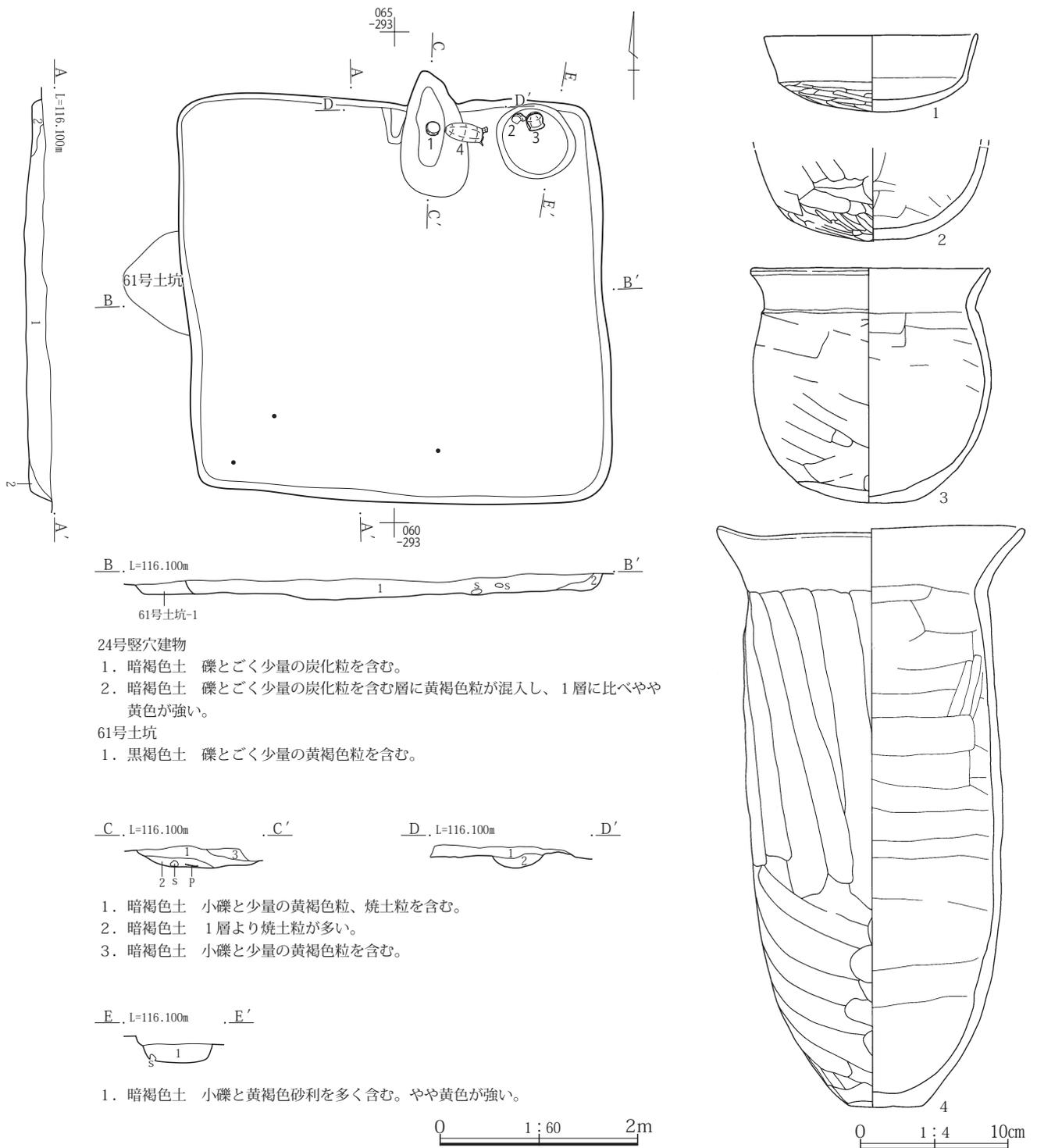
形状 ややゆがんだ正方形

規模 長軸4.23m 短軸4.10m 残存壁高0.20m

面積 15.76㎡ 長軸方位 N-90°-E

埋没土 礫とごく少量の炭化物粒を含む。中央付近には礫が集中して出土している部分があった。壁際部分には黄褐色土粒が多量に混入していた。

竈 東壁中央よりやや北側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.76m、屋外長0.28m、燃燒部長0.76m、焚口幅0.73mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側のみ0.46mの長さで張り出し残存していた。竈

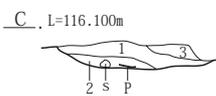


24号竪穴建物

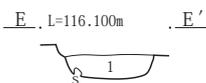
1. 暗褐色土 礫とごく少量の炭化粒を含む。
2. 暗褐色土 礫とごく少量の炭化粒を含む層に黄褐色粒が混入し、1層に比べやや黄色が強い。

61号土坑

1. 黒褐色土 礫とごく少量の黄褐色粒を含む。



1. 暗褐色土 小礫と少量の黄褐色粒、焼土粒を含む。
2. 暗褐色土 1層より焼土粒が多い。
3. 暗褐色土 小礫と少量の黄褐色粒を含む。



1. 暗褐色土 小礫と黄褐色砂利を多く含む。やや黄色が強い。

第21図 7区24号竪穴建物と出土遺物

右袖部には完形の土師器甕(第21図4)が横たわって出土した。袖部の解体の後、倒れ込んだのであろう。また、焚口部中央で土師器杯(同図1)が正位で出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 北東隅の竈右脇に、長径0.79m、短径0.74m、深さ0.21mのほぼ円形の貯蔵穴が検出された。北側から落ち込むように土師器小型甕(第21図2・3)が出土した。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 竈や貯蔵穴から完形に近い土師器が出土した。埋没土中から土師器破片46点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

7区27号竪穴建物

(第22図 PL. 9・63 遺物観察表P.251・252)

グリッド 060~064・-286~-290

重複 なし。

形状 北壁の一部が攪乱で壊されているが、ほぼ正方形である。北東隅は他の三隅に比してやや丸みがある。壁には地山と判断される小礫が確認できたことから、この形状で記録した。

規模 長軸3.95m 短軸3.83m 残存壁高0.17m

面積 12.72㎡ **長軸方位** N-78°-W

埋没土 多量の小礫と少量の黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。北壁中央の攪乱によって壊された可能性が高い。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 北東部から、土師器杯(第22図1)が床面直上で出土した。北東壁沿いに床面直上で散在していた土師器甕(同図4)破片が接合した。土師器埴か(同図2)は西部床面上8cmで、土師器甕(同図3)口縁部破片が北東部床面上11.6cmで出土した。北西部床面直上で粗粒輝石安山岩の台石(同図9)が出土した。南西隅には棒状礫が7点集中して床面直上で出土した。このうち図化

した(第22図5・7)は黒色片岩、(同図6・8)は雲母石英片岩である。この他、埋没土中から土師器破片45点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

7区28号竪穴建物

(第23図 PL. 9・10 遺物観察表P.252)

グリッド 064~070・-283~-288

重複 出土遺物の時期から29号竪穴建物より古い。

形状 ほぼ正方形

規模 長軸4.52m 短軸4.25m 残存壁高0.29m

面積 16.47㎡ **長軸方位** N-55°-W

埋没土 多量の小礫と少量の黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.25m、屋外長0.51m、燃焼部長0.46m、焚口幅0.45mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.75m、右側0.72mの長さで張り出し残存していた。両袖の先端には棒状礫が直立し、構造材として機能していたと推定される。また燃焼部左奥にも棒状礫が直立して残存していた。支脚の可能性もあるが、埋まり方が浅いので断定はできない。さらに袖の先端手前には長さ53cm、幅23cm、厚さ7cmの大型板状礫が床面直上に残されていた。焚口の天井部の構築材と推定される。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

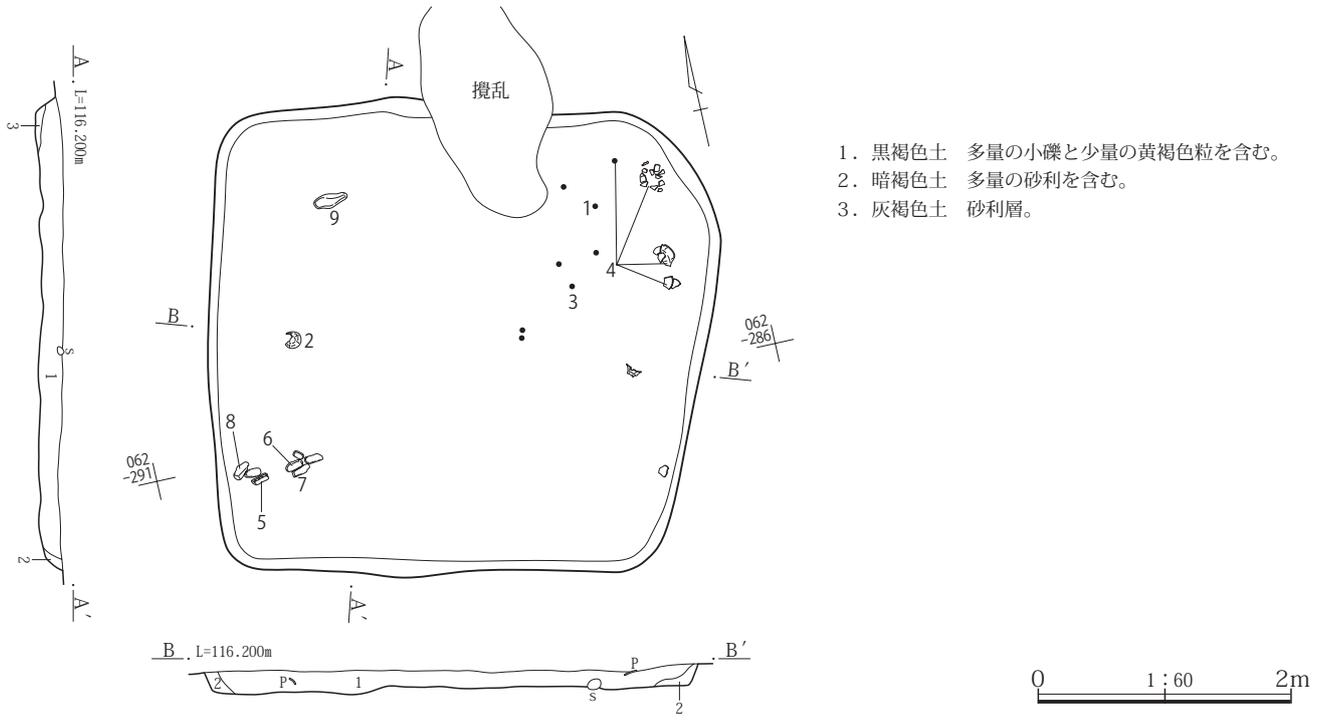
貯蔵穴 住居南東隅、竈右脇に長径0.67m、短径0.57m、深さ0.25mの楕円形の貯蔵穴が検出された。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

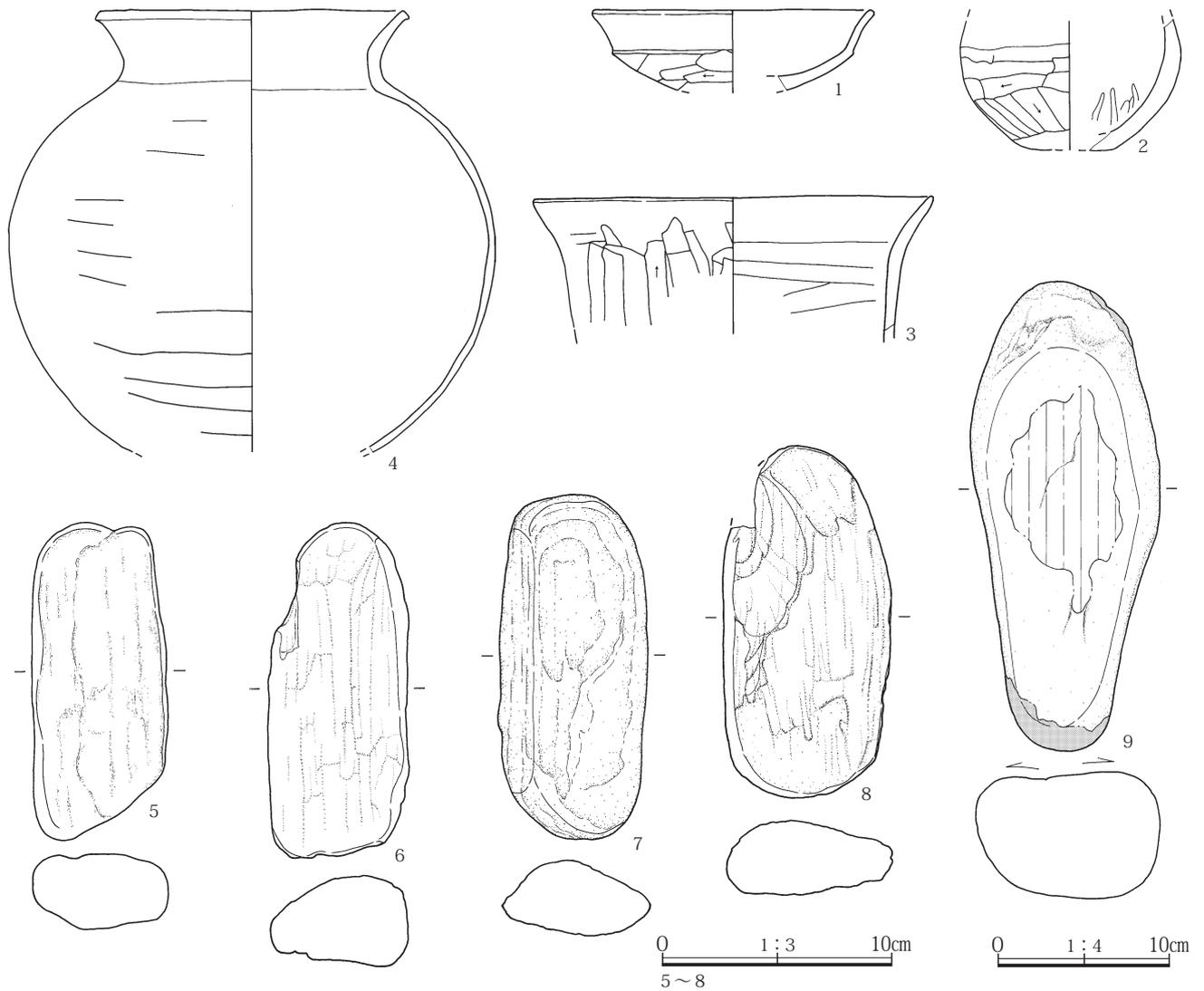
遺物と出土状況 遺物の出土は少なかった。南壁・西壁沿いにわずかに出土した。南部壁際床面上4cmで土師器甕口縁部破片(第23図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片17点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀前半の竪穴建物と考えられる。

2. 竪穴建物



- 1. 黒褐色土 多量の小礫と少量の黄褐色粒を含む。
- 2. 暗褐色土 多量の砂利を含む。
- 3. 灰褐色土 砂利層。



第22図 7区27号竪穴建物と出土遺物

7区29号竪穴建物

(第23・24図 PL.10・64 遺物観察表P.252)

グリッド 067~071・-280~-284

重複 出土遺物の時期から28号竪穴建物より新しい。

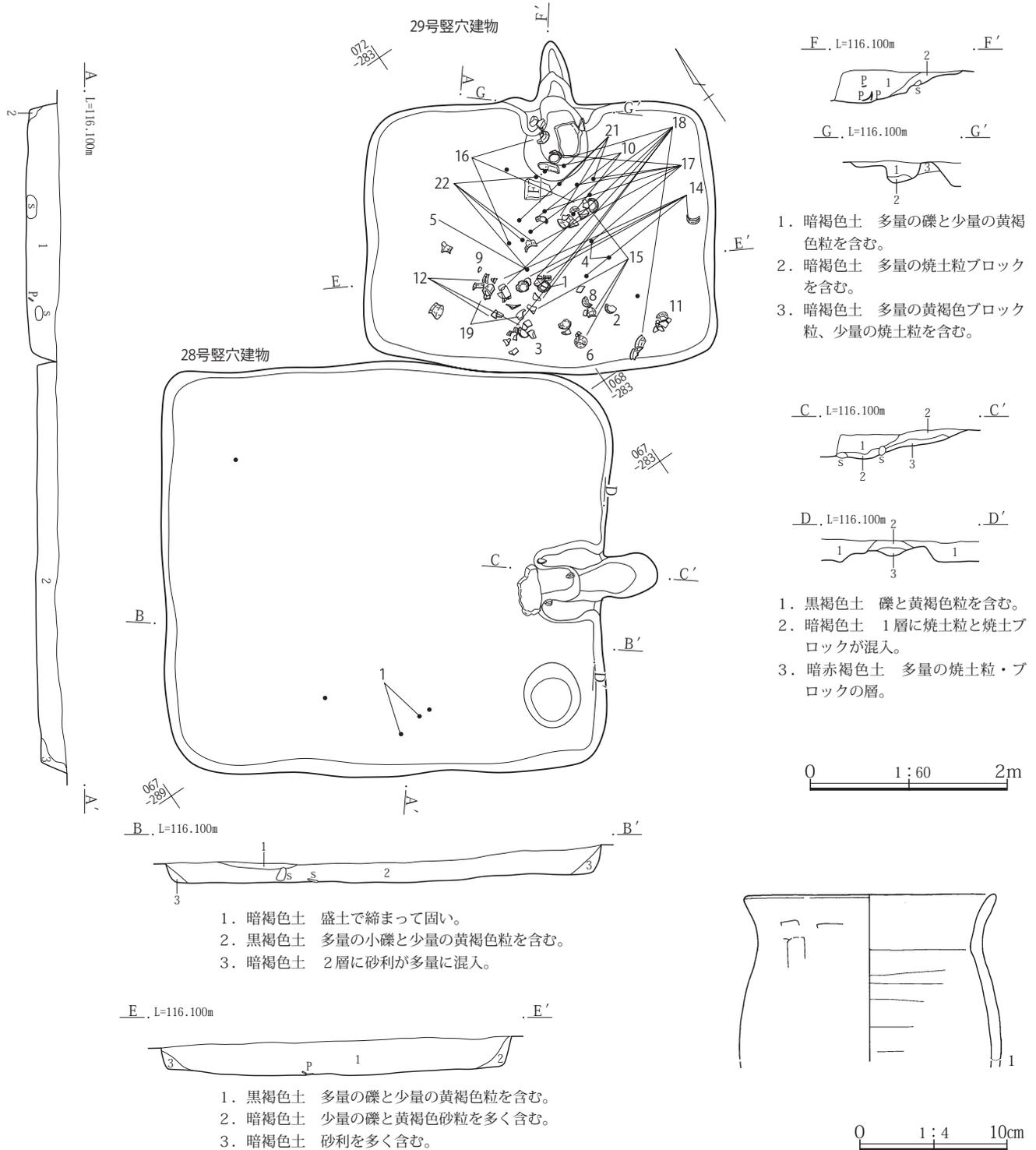
形状 南北方向に長い長方形

規模 長軸3.55m 短軸2.74m 残存壁高0.29m

面積 8.21㎡ 長軸方位 N-55°-W

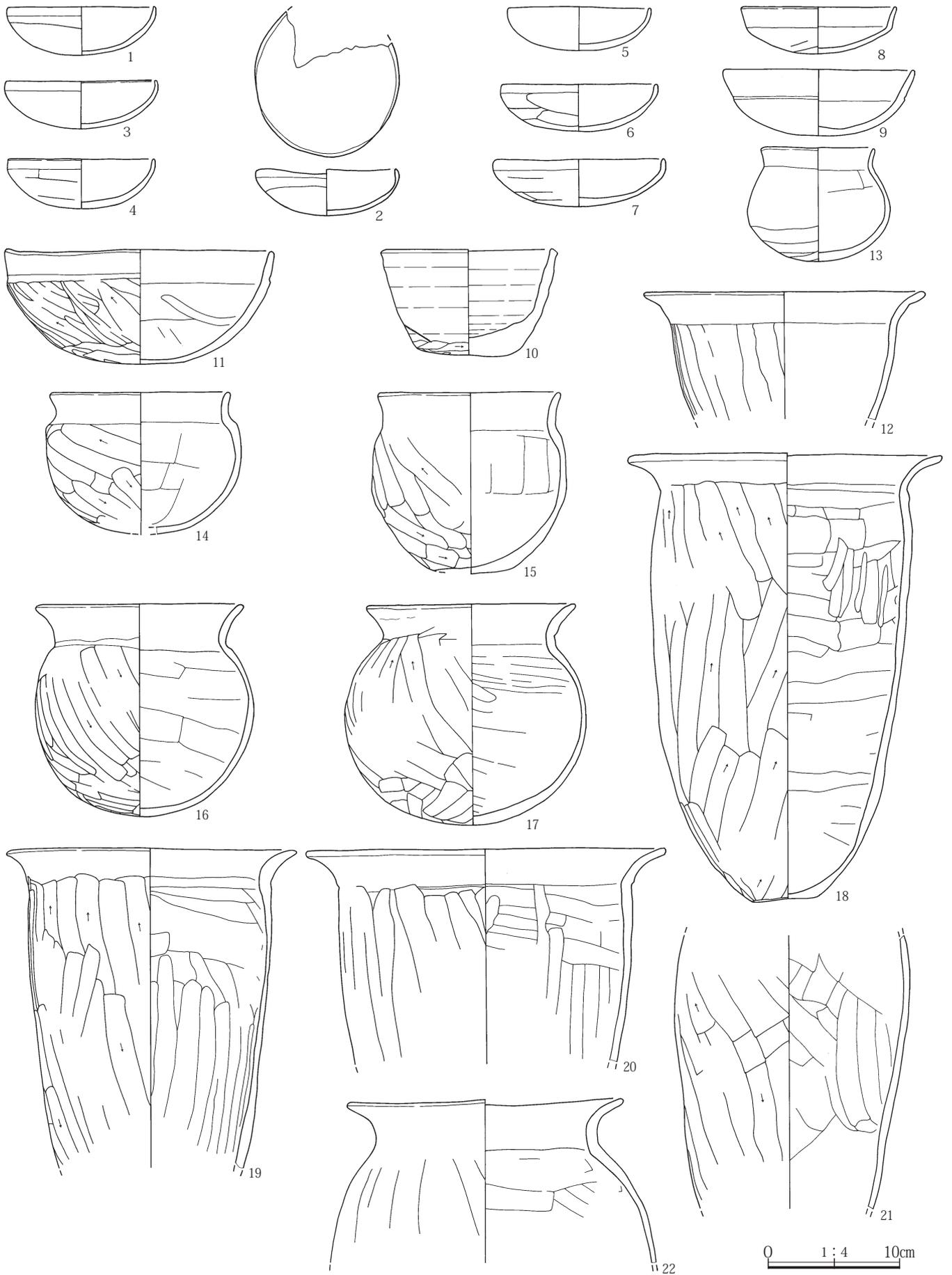
埋没土 多量の礫と少量の黄褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁のほぼ中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.25m、屋外長0.64m、燃烧部長0.40m、焚口幅0.55mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.36m、右側0.30mの長さで張り出し残存していた。両袖の先端には棒状礫が直立し、構造材として機



第23図 7区28・29号竪穴建物と28号竪穴建物出土遺物

2. 豎穴建物



第24图 7区29号豎穴建物出土遺物

能していたと推定される。また、焚口部から竈手前にかけて大型板状礫3点が床面直上に残されていた。焚口の天井部の構築材と推定される。焚口部にかかる板状礫は長さ36cm、最大幅25cm、厚さは不明である。他の2点は長さ8cm、最大幅22cmと、長さ28cm、最大幅22cmでいずれも厚さは不明である。3点の板状礫が接合するかどうかは未確認である。

焚口部手前では土師器小型甕(第24図17)が出土しているが、これは住居中央部および南西壁の出土土器と接合している。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 住居南半部床面直上に土器が集中して散在し、やや離れた破片が接合する状況であった。土師器杯(第24図1・3・5・9)は南西部の土器集中部の中から出土した。土師器杯(同図2・6・8)は南東部壁寄り床面直上で出土した。土師器鉢(同図11)は南東隅床面直上で出土した。土師器杯(同図4)は中央部やや東寄り床面直上で出土した。土師器甕(同図18)は南東隅の破片と南壁中央部の土器集中の中の広範囲に出土した破片が接合した。土師器甕(同図19)は竈前床面直上で出土した。土師器甕(同図21)、土師器小型甕(同図16)は竈前周辺で床面直上で出土した大型破片他が接合した。土師器小型甕(同図14)は南東壁沿いの口縁部破片と南西壁沿いの土器集中部内の破片が接合した。土師器小型甕(同図15)は竈前の大型破片と南壁寄りの破片が接合した。土師器甕(同図22)、土師器小型甕(同図17)、須恵器鉢(同図10)は竈前に残在していた破片がそれぞれ出土した。土師器有孔鉢か(同図12)は南西部に散在していた破片が接合した。

埋没土中から土師器杯(同図7)、土師器小型甕(同図13)、土師器甕(同図20)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片108点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀末から8世紀初頭の竪穴建物と考えられる。

7区30号竪穴建物

(第25図 PL.10・63 遺物観察表P.253)

グリッド 074~079・-289~-295

重複 なし。

形状 正方形

規模 長軸4.22m 短軸4.12m 残存壁高0.25m

面積 13.85㎡ **長軸方位** N-47°-W

埋没土 礫と少量の黄褐色砂粒と黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁の中央わずかに南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.70m、屋外長1.12m、燃烧部長0.65m、焚口幅0.51mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.53m、右側0.63mの長さで張り出し残存していた。焚口部には両側の袖に架かるように長さ36cm、最大幅25cm、厚さ8cmの大型板状礫が使用面から12cm浮いた状態で残されていた。板状礫は中央で割れていた。焚口の天井部の構築材と推定される。左袖の左右には棒状礫が1点ずつ残されていたが、竈袖構築材との確証は得られなかった。その左脇からは土師器杯(第25図2)、土師器小型甕(同図5)が床面直上で出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 北東壁北半部を除き、幅10~17cm、深さ3~6cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 住居南隅、竈右脇に長径1.03m、短径0.55m、深さ0.14mの楕円形の凹地が検出されたが、貯蔵穴としての深さは認められなかった。

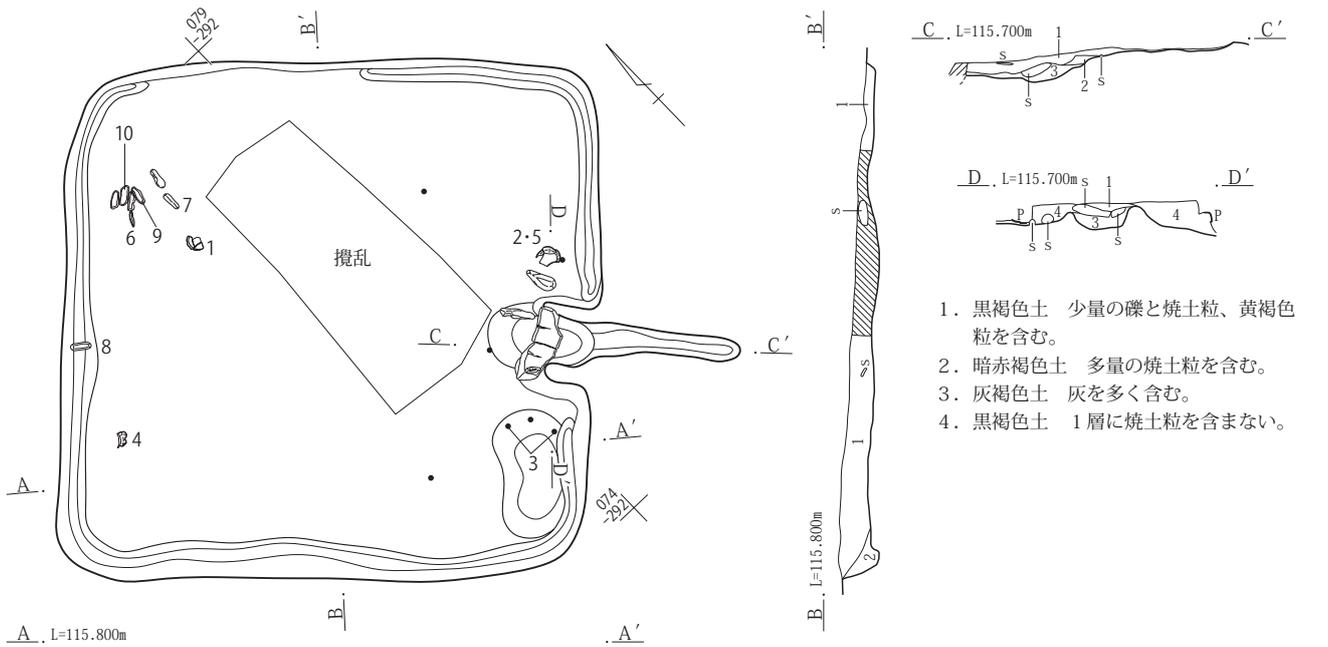
掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 竈周辺と西壁沿いにやや偏って遺物が出土した。土師器杯(第25図1)が北西部床面直上で、土師器小型甕(同図4)が西隅床面直上で出土した。また竈右脇の貯蔵穴状の掘り込みで土師器有孔鉢(同図3)が底面上22cmの位置で出土した。

また、棒状礫が北隅床面直上で7点集中して、北西壁際溝内で1点出土した。いずれも円礫あるいは直角礫で顕著な使用痕跡はなかった。うち5点(6~10)を図示した。この他、埋没土中から土師器破片40点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

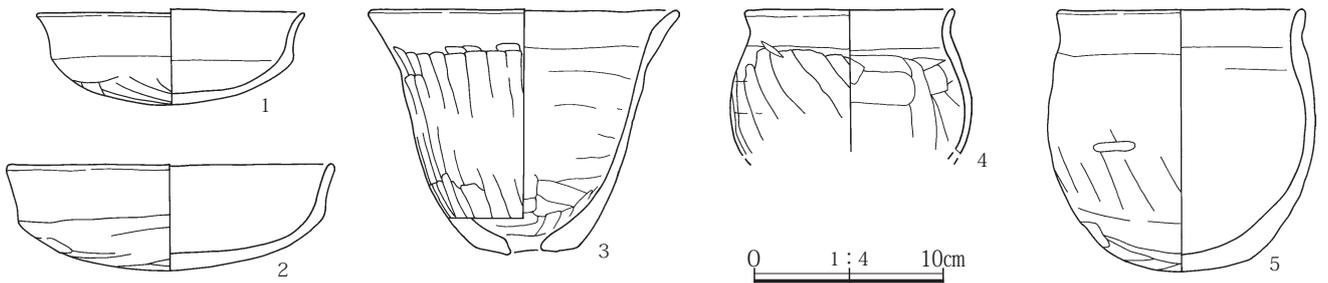
2. 竪穴建物



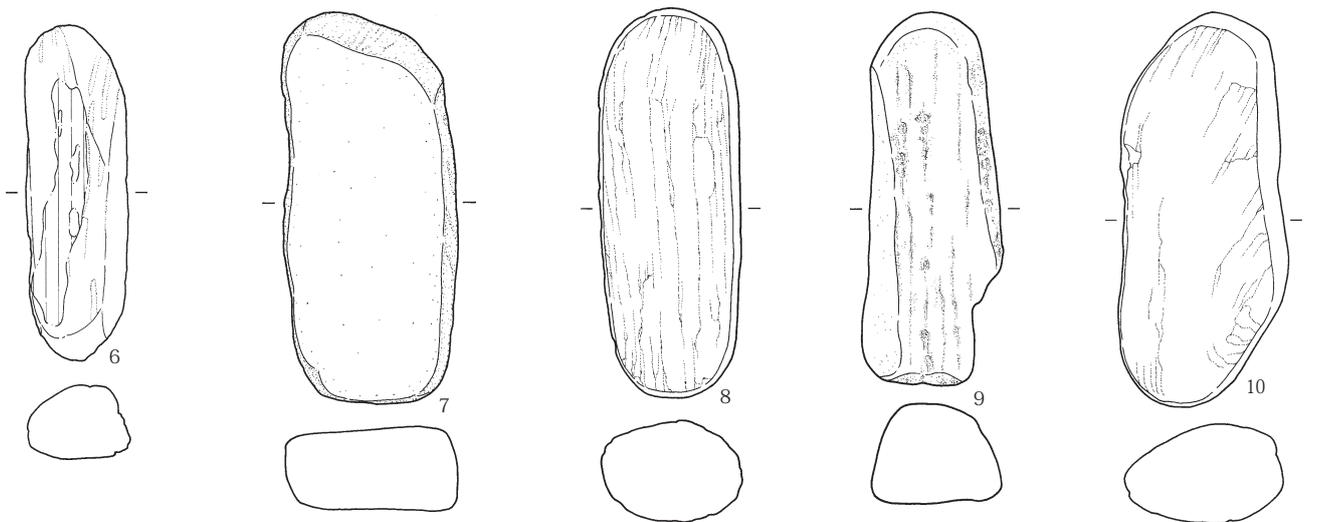
- 1. 黒褐色土 少量の礫と焼土粒、黄褐色粒を含む。
- 2. 暗赤褐色土 多量の焼土粒を含む。
- 3. 灰褐色土 灰を多く含む。
- 4. 黒褐色土 1層に焼土粒を含まない。

- 1. 黒褐色土 礫と少量の黄褐色砂粒を含む。少量の黄褐色粒ブロックが混入。
- 2. 黄褐色土 多量の黄褐色砂粒が混入。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm



0 1:3 10cm
(6~10)

第25図 7区30号竪穴建物と出土遺物

7区31号竪穴建物

(第26図 PL.11 遺物観察表P.253)

グリッド 076~080・-295~-299

重複 32号竪穴建物より古い。

形状 短軸の北西壁がやや短い台形

規模 長軸3.62m 短軸2.85m 残存壁高0.22m

面積 計測不能 長軸方位 N-58°-W

埋没土 礫と暗赤褐色土粒・黄褐色土粒を混入する暗褐色土で埋まっていた。壁沿いには多量の黄褐色土塊が混入していた。

竈 南東壁の中央わずかに南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.91m、屋外長0.34m、燃烧部長0.57m、焚口幅0.78mで、燃烧部奥は0.09mの段差があった。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.48m、右側0.51mの長さで張り出し残存していた。燃烧部中央からは土師器破片が出土したが小片のため図示できなかった。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 竈埋没土中から土師器杯(第26図1)破片が、埋没土中から土師器杯(同図2)破片が出土した。この他、埋没土中から土師器破片62点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

7区32号竪穴建物

(第26図 PL.11・63 遺物観察表P.253)

グリッド 080~084・-294~-299

重複 31号竪穴建物より新しい。

形状 南北方向にやや長い長方形

規模 長軸4.30m 短軸3.82m 残存壁高0.23m

面積 14.45m² 長軸方位 N-6°-W

埋没土 暗赤褐色土粒を多く含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北壁の中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.66m、屋外長0m、燃烧部長0.66m、焚口幅0.56mで、燃烧部奥は0.07mの段差があった。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.74m、右側0.56m

の長さで張り出し残存していた。左袖部の残存状態は不良で、短い可能性がある。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 住居北東隅、竈右脇に長径0.59cm、短径0.52m、深さ0.25mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。底面から18cm浮いた状態でほぼ完形の土師器杯(第26図3)が出土した。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 出土遺物は、全体に散在していた。中央部床面直上で土師器甕口縁部破片(第26図4)が、南東隅床面上4cmで土師器甕底部破片(同図5)が、埋没土中から須恵器甕破片(同図6)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片117点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

7区33号竪穴建物

(第27図 PL.11・12・63 遺物観察表P.253)

グリッド 085~090・-280~-287

重複 なし。

形状 南北方向にやや長い平行四辺形

規模 長軸4.18m 短軸3.86m 残存壁高0.24m

面積 12.13m² 長軸方位 N-4°-W

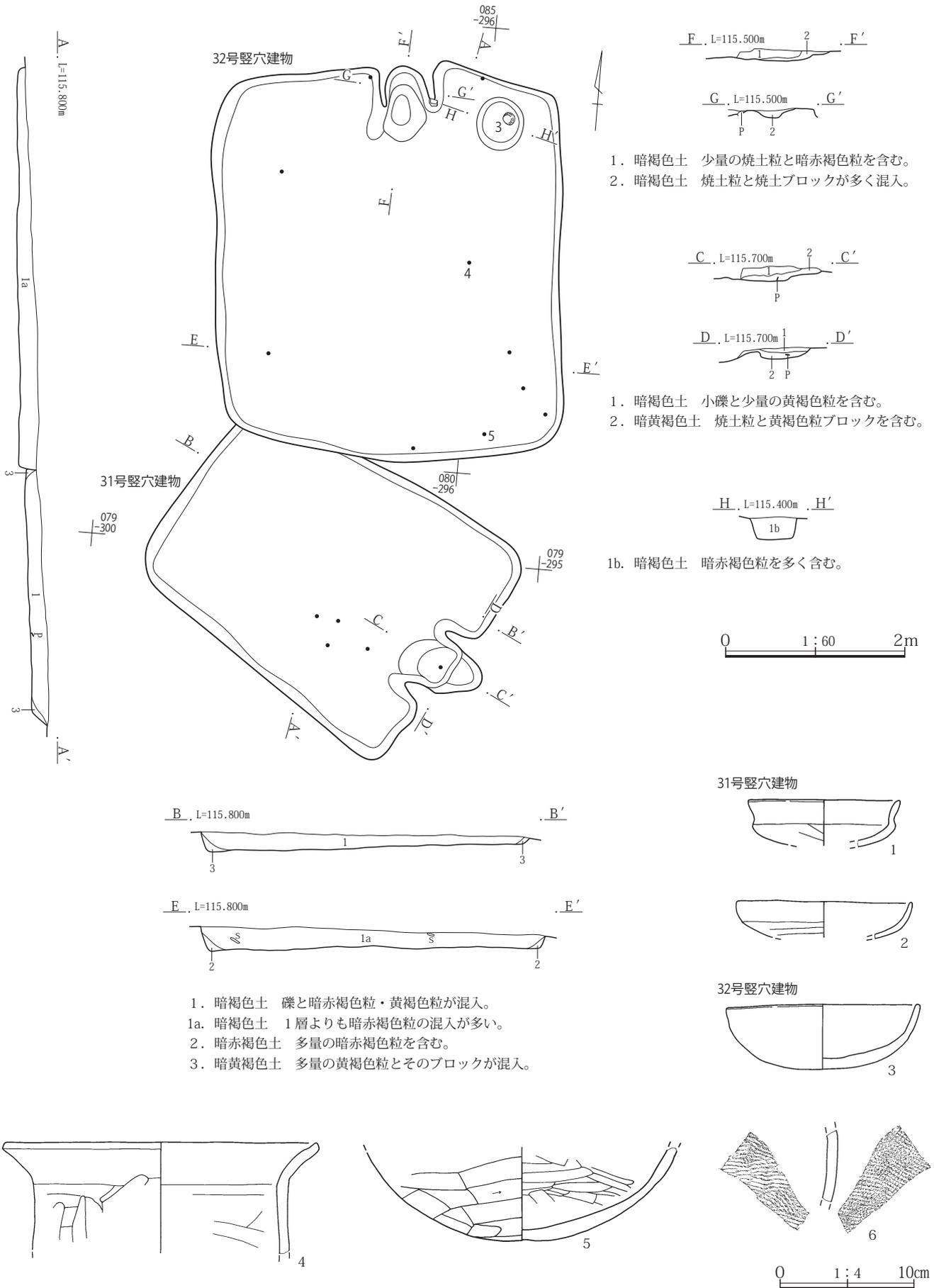
埋没土 暗赤褐色土粒と黄褐色土粒、小礫を多量に含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央よりやや南側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.66m、屋外長0.32m、燃烧部長0.44m、焚口幅0.45mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.24m、右側0.33mの長さで張り出し残存していた。袖先端内には竈袖構築時に芯としたと推定される垂角礫が左右ともに残されていた。焚口部手前の床面直上には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ62cm、幅26cm、厚さ推定8cm)が残されていた。燃烧部には、中に重なるように土師器小型甕(第27図2)を入れた、ほぼ完形の土師器甕(同図3)が燃烧面に斜めに置かれた状態で出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 幅6~20cm、深さ3~7cmの壁際溝が掘られていた。

2. 竪穴建物



第26図 7区31・32号竪穴建物と出土遺物

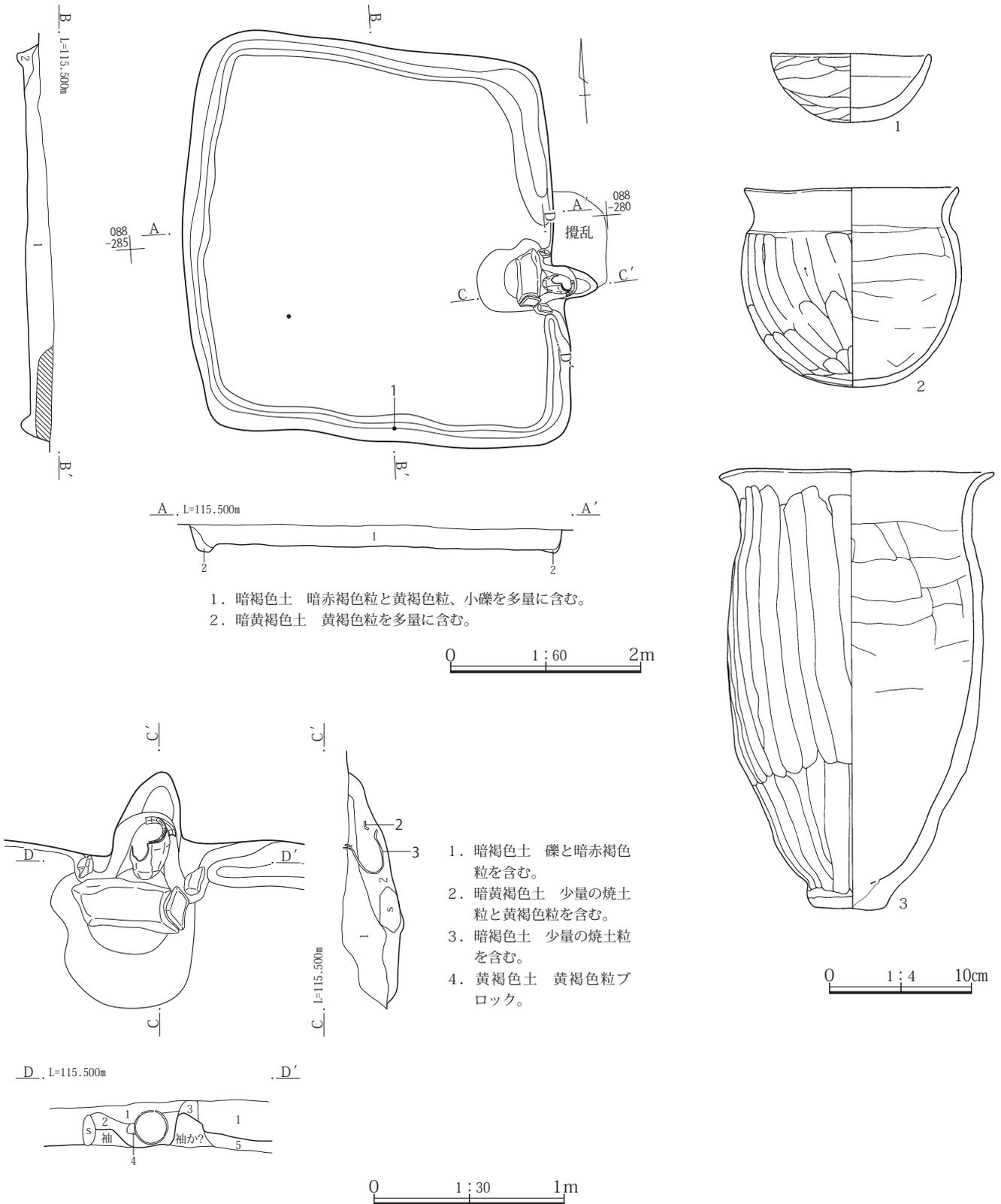
貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 南壁中央の壁際溝内底面上5cmで土師

器杯(第27図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片67点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の堅穴建物と考えられる。



第27図 7区33号堅穴建物と出土遺物

7区34号竪穴建物

(第28図 PL.12・63 遺物観察表P.253・254)

グリッド 088~090・-285~-290 重複 なし。

形状 竪穴の南東部のみの調査で、全体形状および規模は判明しなかった。方形と推定される。

規模 東西軸(3.20)m 南北軸(2.48)m 残存壁高0.22m

面積 計測不能 長軸方位 N-56°-W

埋没土 多量の礫と少量の黄褐色土粒・塊が混入する暗褐色土で埋まっていた。壁際および壁際溝内には多量の黄褐色砂を混じる暗黄褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかった。

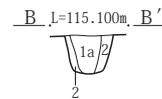
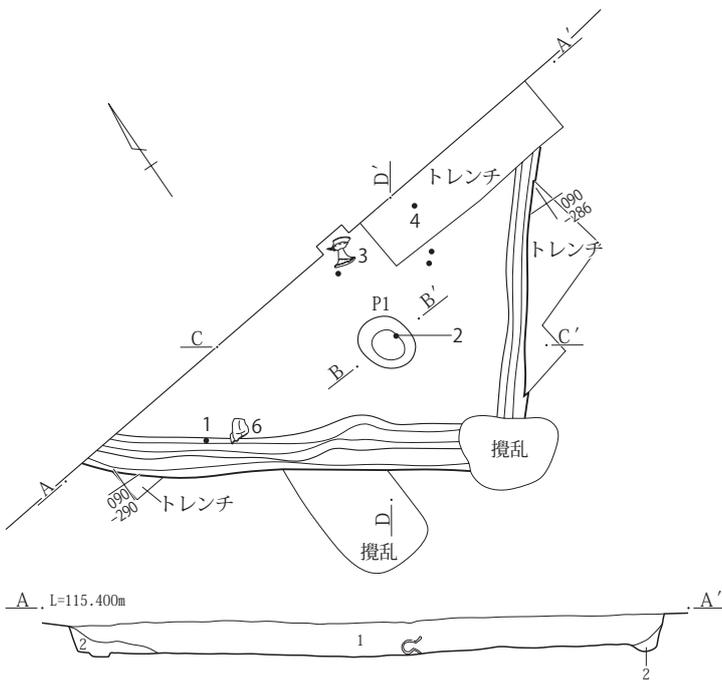
柱穴 南隅の主柱穴と推定されるP1を検出した。主柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.46m 短径0.39m 深さ0.32m

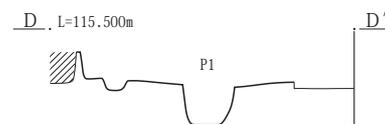
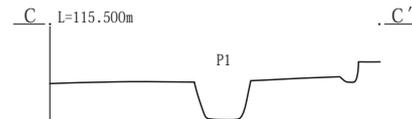
壁際溝 調査できた範囲の中では全周していた。規模は幅12~22cm、深さ4~6cmである。南西壁沿いには土師器杯か底部破片(第28図1)が床面上4cm、土師器甑(同図6)が床面上2cmで出土した。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

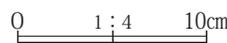
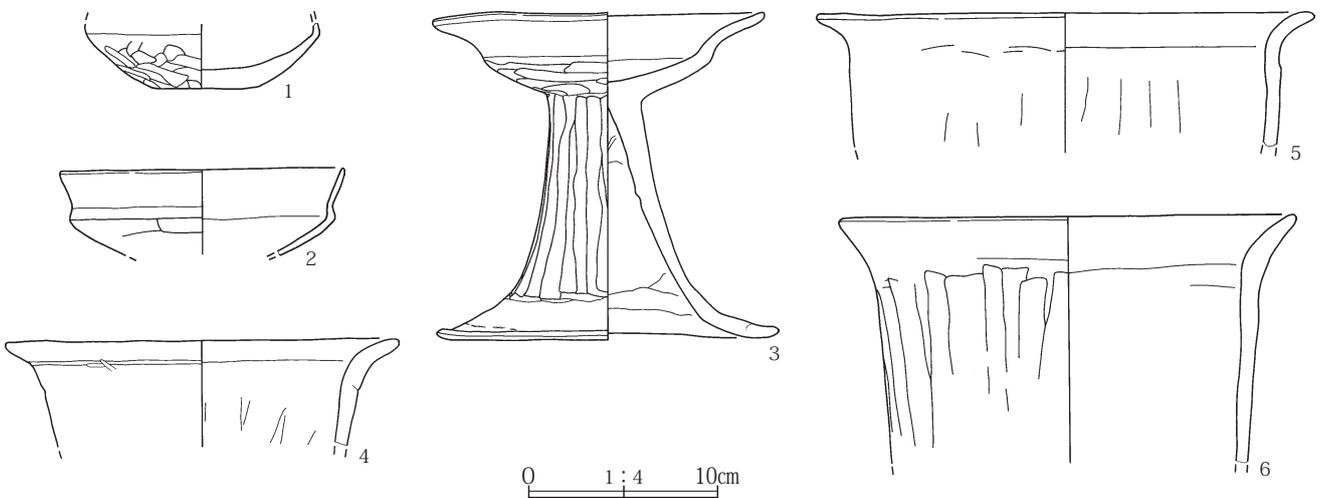
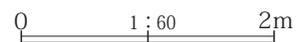
掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方は



- 1a. 暗褐色土 竪穴建物の1層より黄褐色砂粒の量が多い。
- 2. 暗黄褐色土 多量の黄褐色砂粒と極少量の炭化粒が混入。



- 1. 暗褐色土 多量の礫と少量の炭化粒 黄褐色砂粒ブロックが混入。
- 2. 暗黄褐色土 多量の黄褐色砂粒と極少量の炭化粒が混入。



第28図 7区34号竪穴建物と出土遺物

確認できなかった。

遺物と出土状況 土師器杯(第28図2)が支柱穴埋没土上層で出土した。支柱穴北側からは土師器高杯(同図3)が床面直上で、土師器甕か(同図4)が床面上2cmで出土した。埋没土中から土師器甕(同図5)が出土した。この他、埋没中から土師器破片27点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

7区35号竪穴建物

(第29図 PL.12・13・65 遺物観察表P.254)

グリッド 071~075~-281~-285 **重複** なし。

形状 東壁がやや短い台形

規模 長軸3.30m 短軸3.11m 残存壁高0.20m

面積 8.88㎡ **長軸方位** N-71°-E

埋没土 小礫と黄褐色土粒を少量含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央より南側に敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.92m、屋外長0.68m、燃烧部長0.92m、焚口幅推定0.66mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下

部が左側0.38m、右側0.08mの長さで張り出し残存していた。右側の袖は攪乱土坑に切られて残存しなかった。燃烧部左壁や焚口部右袖付け根部には礫が置かれており、竈構築材の一部と推定される。燃烧部からは多くの土器が出土したが、燃烧部手前使用面直上で須恵器杯完形(第29図1)が出土した。燃烧部奥には土師器甕底部破片(同図4)が使用面直上で、また竈埋没土中から土師器甕口縁部破片(同図3)が出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

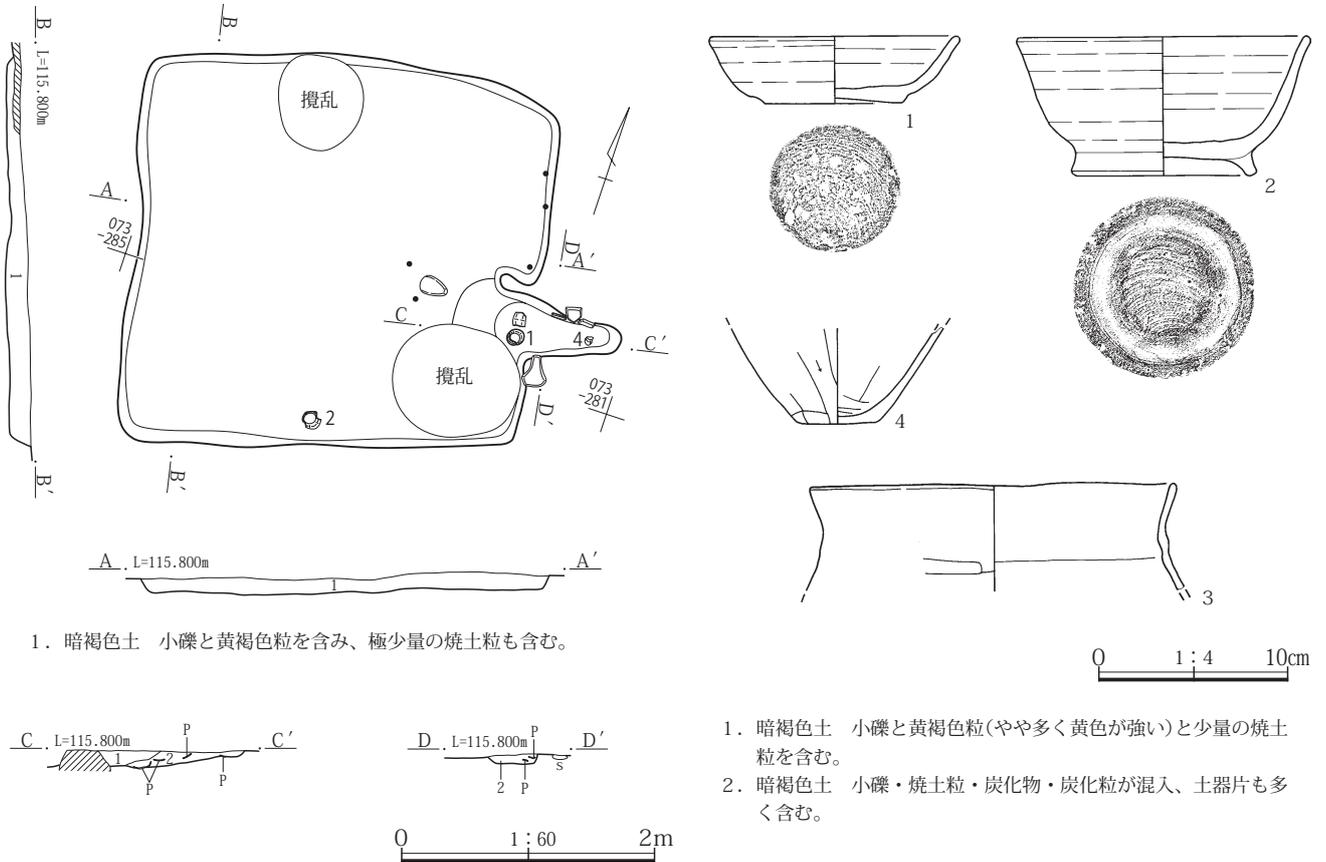
壁際溝 なし。

貯蔵穴 貯蔵穴の掘られていた可能性がある南東隅の竈右側には攪乱があり、貯蔵穴があったかどうかは判断できなかった。

掘り方 地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 南壁中央の壁沿い床面上2cmで須恵器碗(第29図2)が出土した。この他、埋没中から土師器136点、須恵器3点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。



第29図 7区35号竪穴建物と出土遺物

7-2区71号竪穴建物

(第30~32図 PL.13・14・66 遺物観察表P.254・255)

グリッド 077~081・-246~-250

形状 東西方向にやや長い方形

重複 なし。

規模 長軸3.40m 短軸3.10m 残存壁高0.38m

面積 8.94㎡ 長軸方位 N-71°-W

埋没土 上層は小礫や明黄褐色土粒を含む黒褐色土で、下層は小礫や焼土塊・焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。南西隅は、礫の少ない土で埋まっていた。竈上位や竈前には大型の角礫と完形に近い土師器甕などが多く残されていた。

竈 東壁の中央やや南寄りに竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.67m、屋外長0.07m、燃烧部長0.54m、焚口幅0.59mで、燃烧部奥は0.18mの緩やかな段差があった。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.59m、右側0.62mの長さで張り出し残存していた。

左右とも袖の先端には芯として板状の垂角礫が壁状に立てられていた。焚口部手前の床面直上には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ56cm、幅28cm、厚さ10cm)が残されていた。

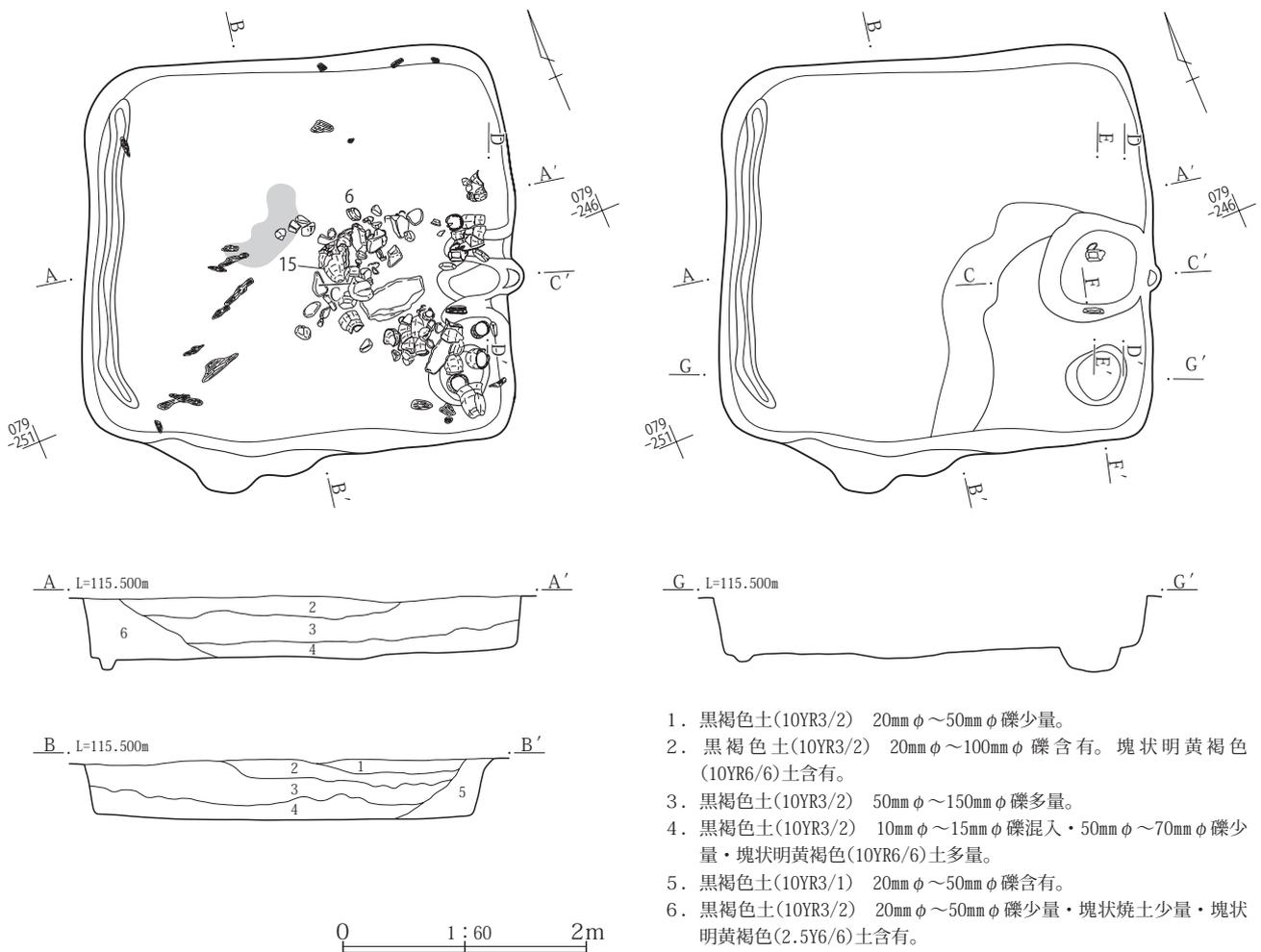
竈燃烧部には遺物は出土しなかったが、右袖脇で土師器杯(第32図1)が床面直上で出土し、その上に土師器鉢(同図7)が重なって出土した。左袖脇では完形の土師器杯(同図2)が床面直上で、壁際で土師器有孔鉢(同図9)が出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 掘り方面で西壁際のみ幅14~18cm、深さ5~10cmの壁際溝を検出した。

貯蔵穴 南東隅、竈右脇に長径0.55m、短径0.26m、深さ0.26mの不定楕円形の貯蔵穴が掘られていた。底面上4cmで土師器杯(第32図3)が、6cmで土師器杯(同図4)が、その上位に重なって土師器杯(同図5)が出土した。

掘り方 竈のみ掘り方面の調査を実施した。竪穴全体に



1. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~50mmφ礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~100mmφ礫含有。塊状明黄褐色(10YR6/6)土含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 50mmφ~150mmφ礫多量。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 10mmφ~15mmφ礫混入・50mmφ~70mmφ礫少量・塊状明黄褐色(10YR6/6)土多量。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 20mmφ~50mmφ礫含有。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~50mmφ礫少量・塊状焼土少量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。

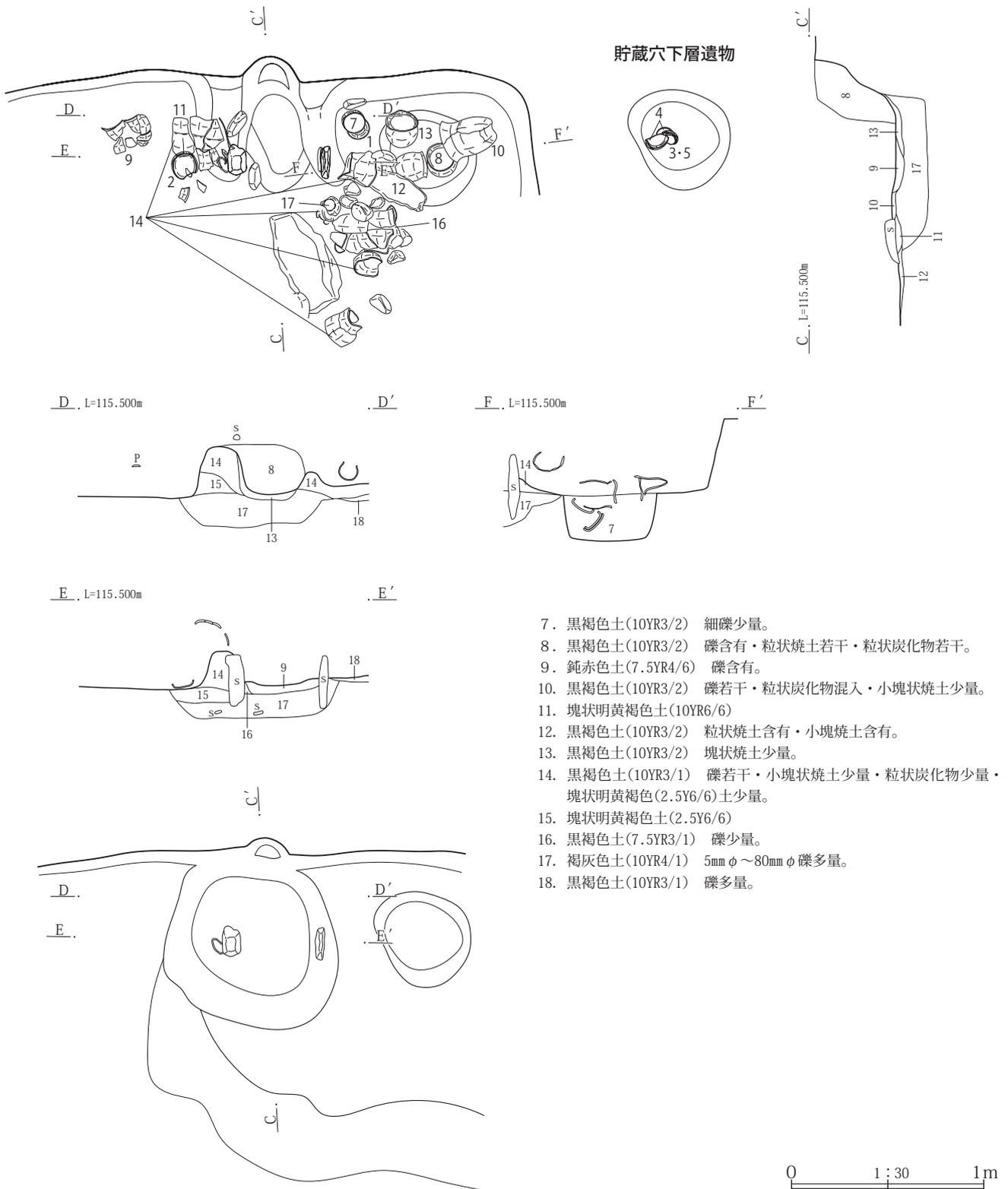
第30図 7-2区71号竪穴建物

については地山との判別が困難であり、明瞭な掘り方面は確認できなかった。

遺物と出土状況 南東隅の貯蔵穴が埋まった時点で、完形の土師器鉢(第32図8)、土師器小型甕(同図13)、土師器小型甕(同図12)、土師器甕(同図10)が転がったような

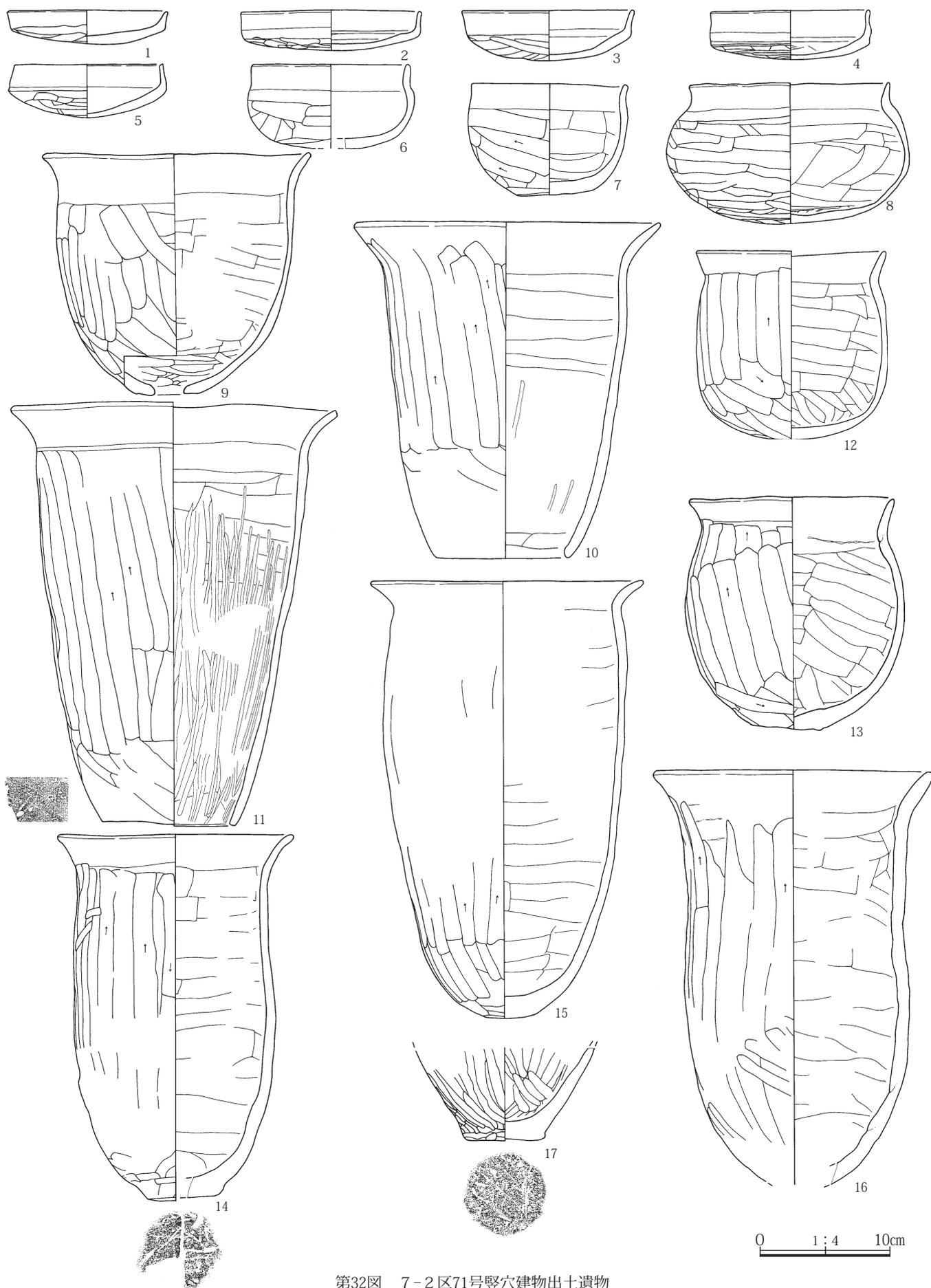
状態で出土した。竈周辺の土師器杯か(同図6)、土師器甕(同図14・15・16・17)、土師器甕(同図11)は、礫とともに倒れこんだような位置で出土した。この他、埋没土中から土師器破片78点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀末の竈穴建物と考えられる。



- 7. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量。
- 8. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・粒状焼土若干・粒状炭化物若干。
- 9. 鈍赤色土(7.5YR4/6) 礫含有。
- 10. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・粒状炭化物混入・小塊状焼土少量。
- 11. 塊状明黄褐色土(10YR6/6)
- 12. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状焼土含有・小塊状焼土含有。
- 13. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状焼土少量。
- 14. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・小塊状焼土少量・粒状炭化物少量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土少量。
- 15. 塊状明黄褐色土(2.5Y6/6)
- 16. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量。
- 17. 褐灰色土(10YR4/1) 5mmφ～80mmφ礫多量。
- 18. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量。

第31図 7-2区71号竈穴建物竈



第32图 7-2区71号竖穴建物出土遺物

7-2区72号竪穴建物

(第33図 PL.14・65 遺物観察表P.255)

グリッド 086~090・-261~-264

重複 151号土坑より古い。

形状 南北方向にやや長い台形

規模 長軸3.20m 短軸3.00m 残存壁高0.07m

面積 計測不能 長軸方位 N-5°-E

埋没土 礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南側に竈が敷設されていた。焼土等の痕跡は明瞭ではなく、掘り方面として、長軸0.84m、短軸0.48m、深さ0.10mの不正楕円形の形状で確認された。屋外長は0.04m。

柱穴 掘り方面でP1・P2を確認したが、いずれも主柱穴とは確定できなかった。規模は下記の通りである。

P1 長径0.37m 短径0.34m 深さ0.11m

P2 長径0.57m 短径0.51m 深さ0.15m

壁際溝 なし。

貯蔵穴 竪穴南東隅に、長径0.68m 短径0.60m 深さの貯蔵穴が確認された。底面上5cmで須恵器杯(第33図1)が、埋没土中から鉄製品釘(同図2)が出土した。

掘り方 明瞭な深い掘り方は検出されなかったが、竈の底面およびピット2基を検出した。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片37点が出土した。図示できる遺物は無かった。

所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。

7-2区73号竪穴建物

(第34・35図 PL.14・15・65 遺物観察表P.255)

グリッド 077~081・-253~-257

重複 152号土坑、153号土坑より古い。

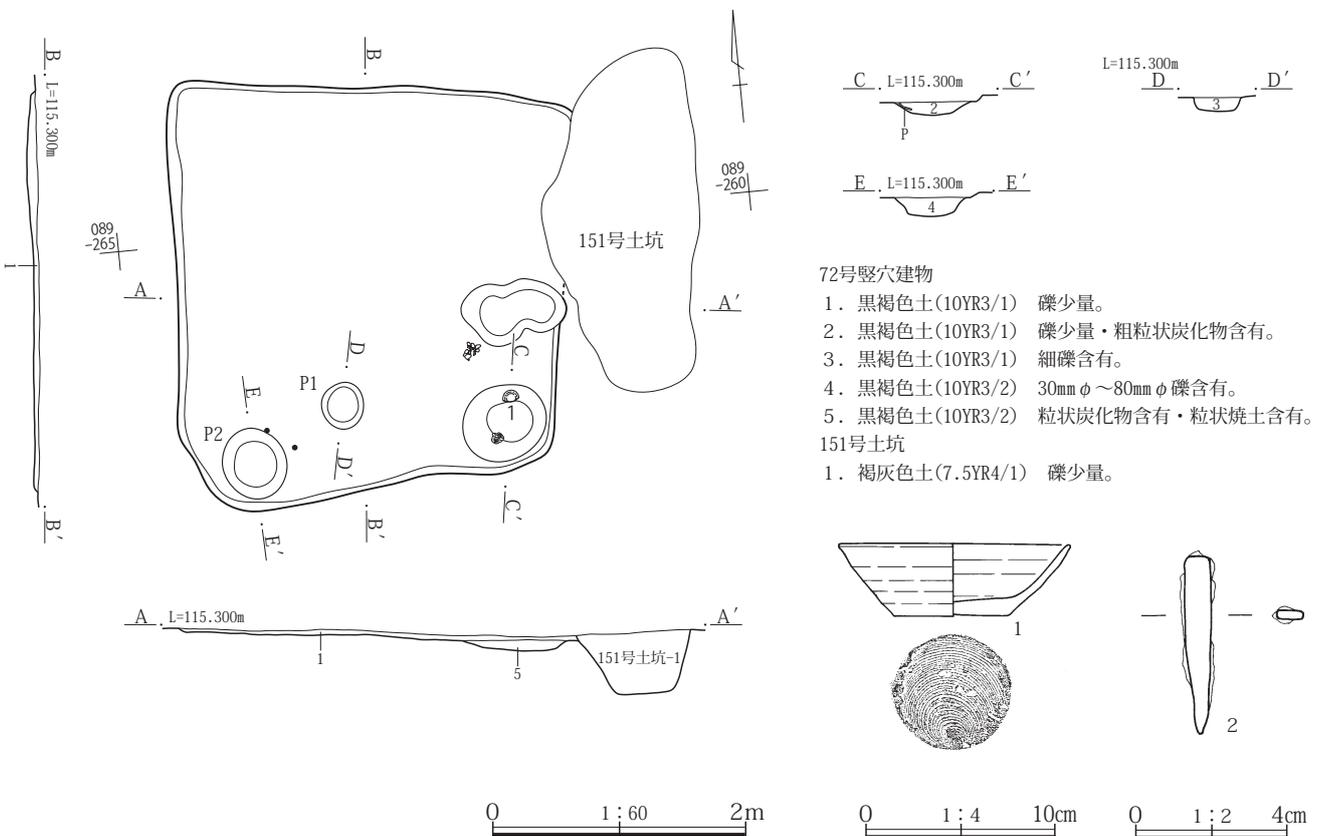
形状 ほぼ正方形

規模 長軸3.64m 短軸3.26m 残存壁高0.28m

面積 9.58㎡ 長軸方位 N-60°-E

埋没土 直径18~20cmの礫を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁の中央やや東寄りに竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.96m、屋外長0.27m、燃烧部長0.66m、焚口幅0.48mで、燃烧部奥は0.11mの緩やかな段差があり、その奥は0.60mの煙道が残されていた。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.70m、右側



第33図 7-2区72号竪穴建物と出土遺物

0.66mの長さで張り出し残存していた。左右とも袖の先端には芯として板状の垂角礫が壁状に立てられていた。竈左袖部内には土師器小型甕破片(第34図3)が出土した。

柱穴 掘り方面も精査したが、柱穴と断定できるものは確認できなかった。

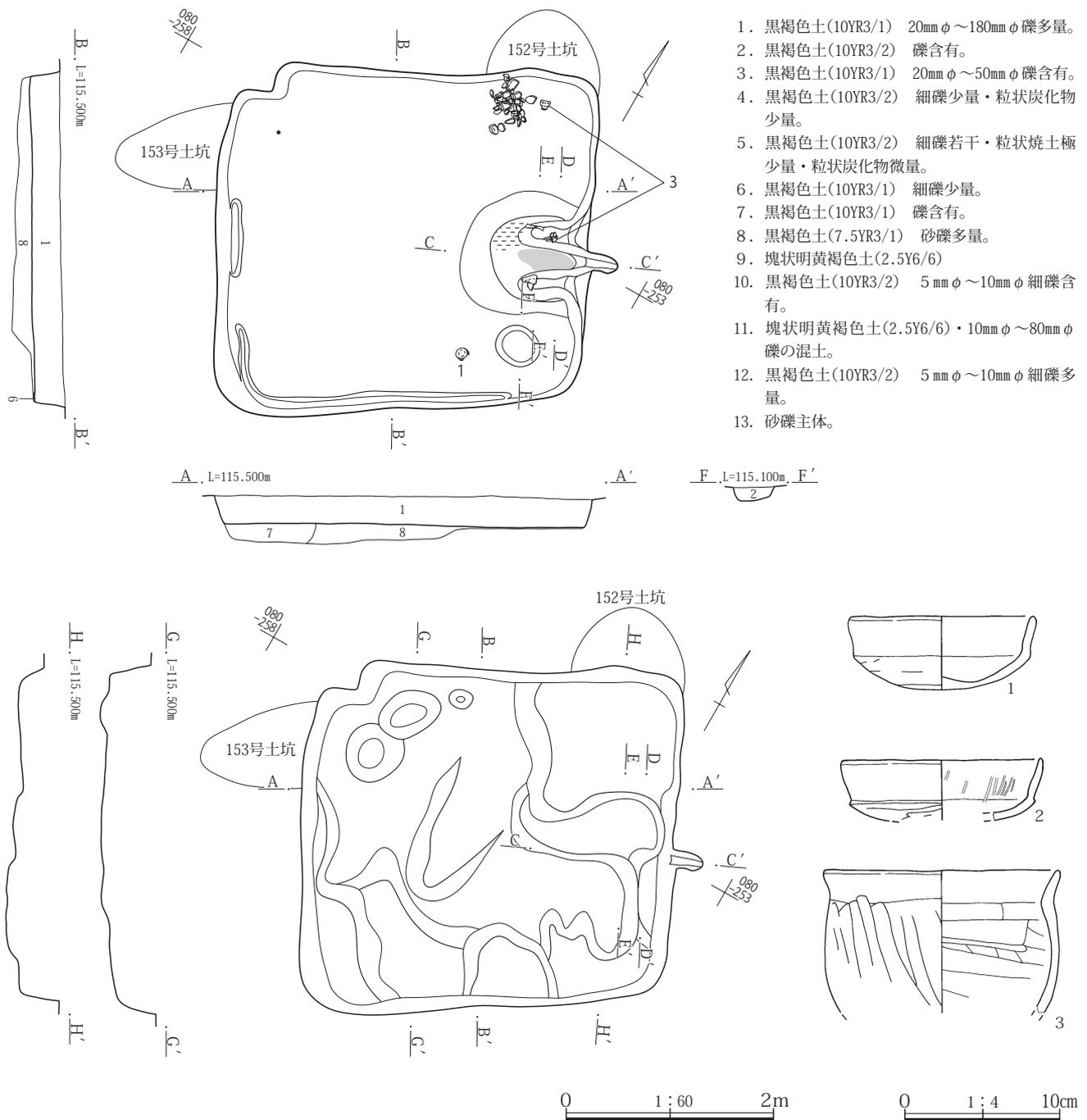
壁際溝 南西壁中央、南隅から南東壁にかけての2か所で、幅10~12cm、深さ2cmほどの壁際溝を検出した。

貯蔵穴 竈右脇で長径0.43m、短径0.38m、深さ0.15mの楕円形土坑が検出された。貯蔵穴の可能性が高い。

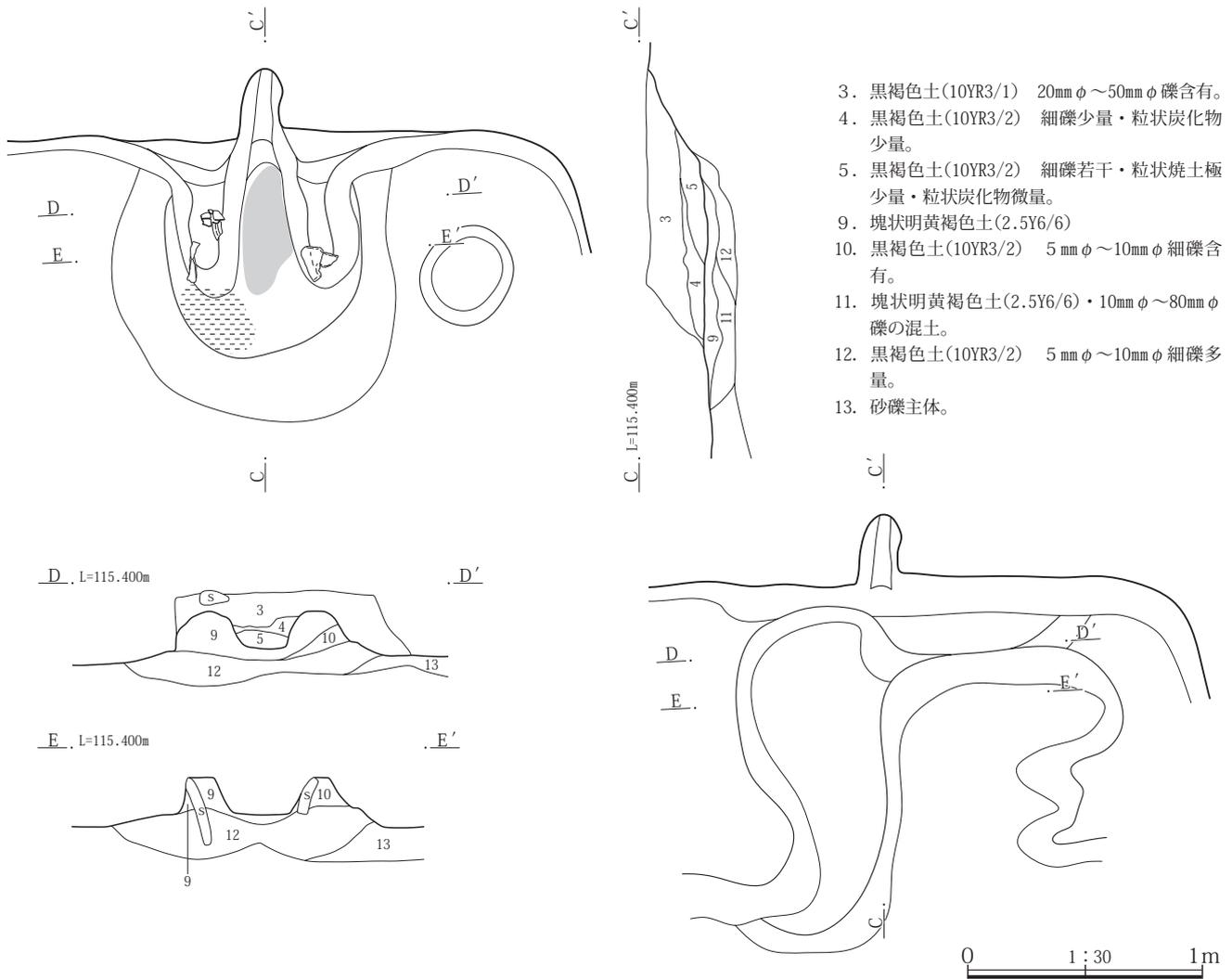
掘り方 竪穴南東部を中心に凹凸がある掘り方面を検出した。砂礫を多く含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 貯蔵穴南側の床面上10cmで土師器杯(第34図1)が出土した。北隅には竈左袖部内で出土した土師器小型甕破片(同図3)に接合する破片や垂角礫が数十個集まって出土した。また、埋没土中から土師器杯(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片48点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第34図 7-2区73号竪穴建物と出土遺物



第35図 7-2区73号竪穴建物竈

7-2区74号竪穴建物

(第36・37図 PL.15・65 遺物観察表P.255)

グリッド 071～076・-251～-256

重複 75号竪穴建物より新しい。

形状 南東部の大部分が電柱の保全のため調査不能地域となったが、東西にやや長い台形を推定される。

規模 長軸5.03m 短軸4.57m 残存壁高0.31m

面積 計測不能 長軸方位 N-64°-E

埋没土 直径1～2cmと、18～22cmの礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 床面の精査でP1・P2、掘り方面の精査でP3を検出した。いずれも支柱穴との確定はできなかった。

規模は下記の通りである。

P1 長径0.52m 短径0.40m 深さ0.27m

P2 長径0.31m 短径0.29m 深さ0.11m

P3 長径0.52m 短径0.41m 深さ0.30m

柱間の距離はP1・P2間が2.50mである。

P1・P3を結んだ線は、南西壁にほぼ平行することから柱通りと考えることも可能である。P2は想定される竪穴の四隅を結んだ線上にあり支柱穴の可能性もあるが、他の2ピットに比べて浅い。

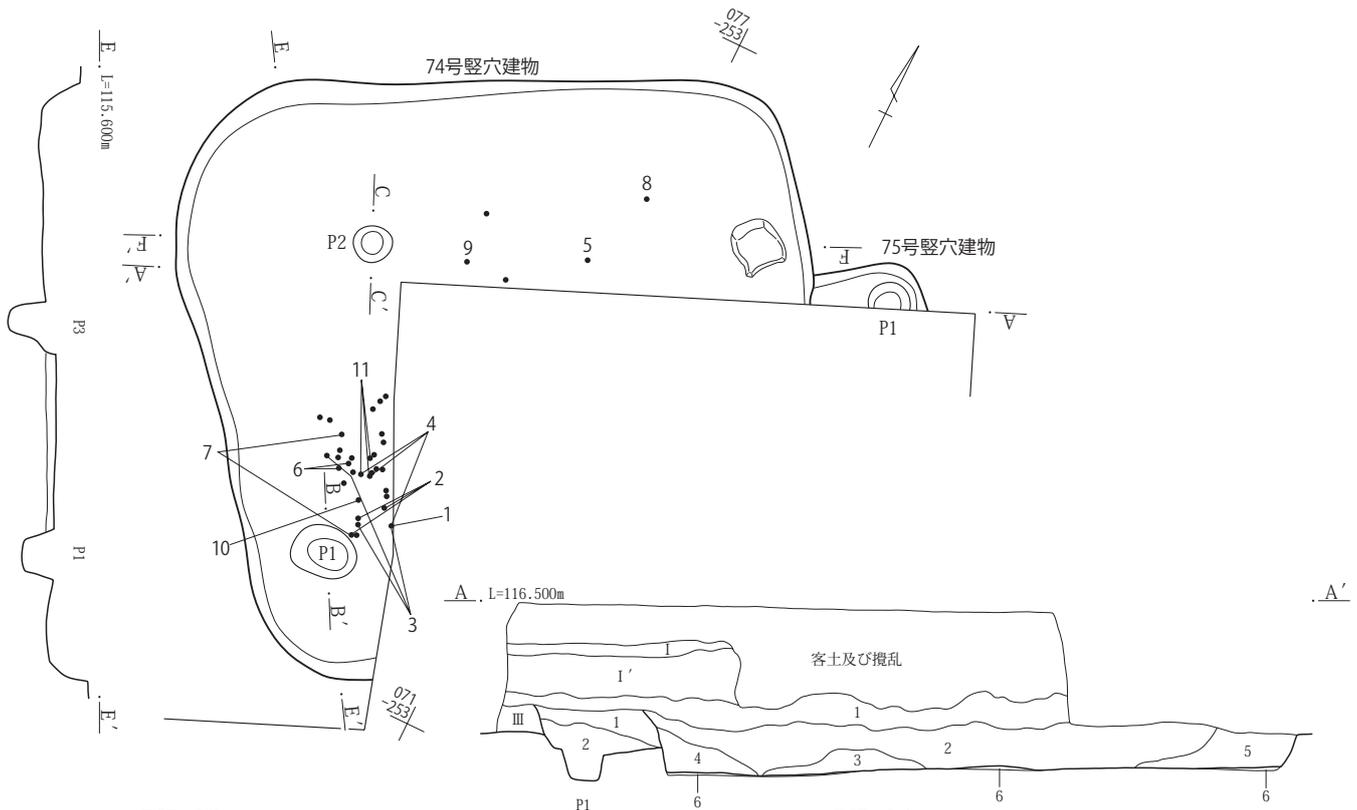
壁際溝 なし。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 竪穴北西部を掘り込んだ掘り方面を検出した。

遺物と出土状況 南西部に偏って遺物が出土した。竪穴北部床面直上には厚さ13cmの粘土塊が出土した。

北西部からは土師器甕(第37図8)が床面直上で、土師

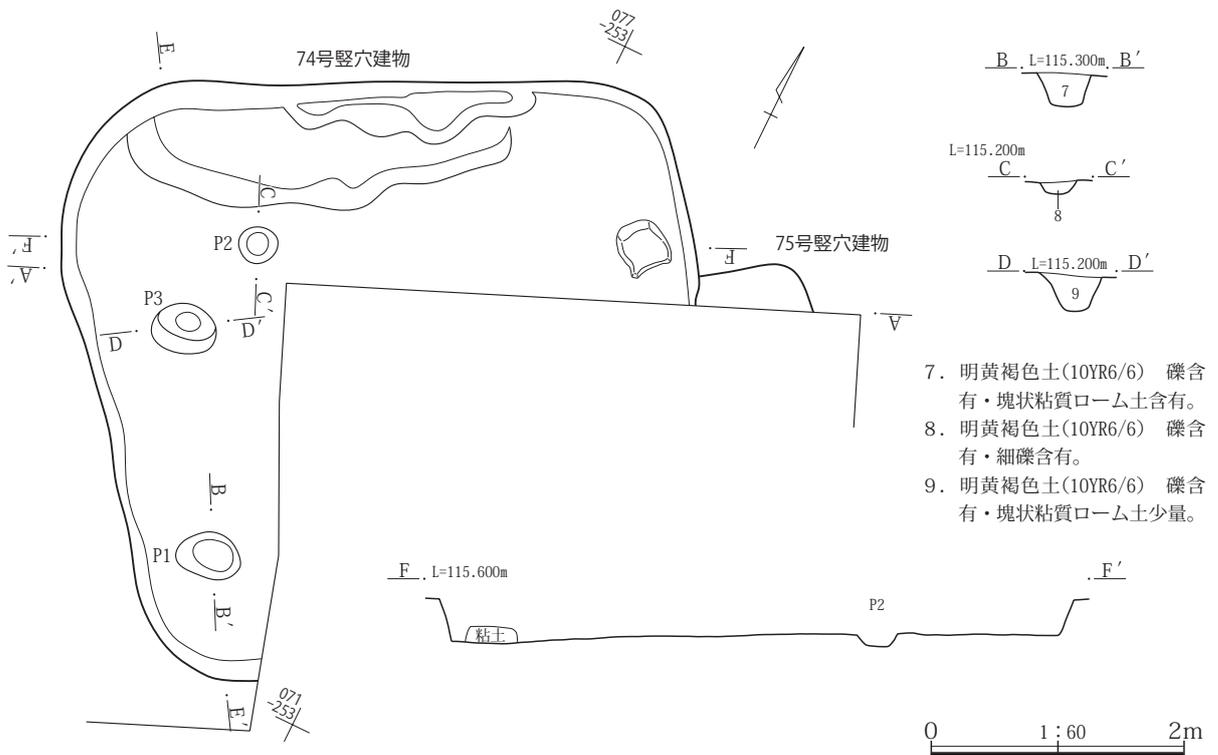


74号竖穴建物

- I 褐灰色土(5YR4/1) 白色軽石粒含有。細礫含有。
- I' 黒褐色土(5YR3/1) 白色軽石粒少量。細礫混入。
- 1. 黒褐色土(10YR3/1) 20mm φ ~ 80mm φ 礫含有。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) 20mm φ ~ 100mm φ 礫含有・180mm φ ~ 220mm φ 礫少量。
- 3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
- 4. 黒褐色土(10YR3/2) 20mm φ ~ 30mm φ 礫含有。
- 5. 黒褐色土(10YR3/2) 20mm φ ~ 50mm φ 礫含有。
- 6. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫少量。

75号竖穴建物

- 1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫混入。
- 2. 黒褐色土(10YR3/2) 20mm φ ~ 50mm φ 礫含有。



- 7. 明黄褐色土(10YR6/6) 礫含有・塊状粘質ローム土含有。
- 8. 明黄褐色土(10YR6/6) 礫含有・細礫含有。
- 9. 明黄褐色土(10YR6/6) 礫含有・塊状粘質ローム土少量。



第36図 7-2区74・75号竖穴建物

器甕(第37図9)、土師器甕か(同図5)が床面から15cmほど浮いた状態で出土した。南部P1周辺からは床面から10~20cmほど浮いた状態で、土師器杯(同図1)、土師器鉢(同図2・3)、土師器甕(同図10・11)、土師器甕(同図4・6・7)の破片が集まった状態で出土した。この他、埋没土中から土師器破片173点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

7-2区75号竪穴建物

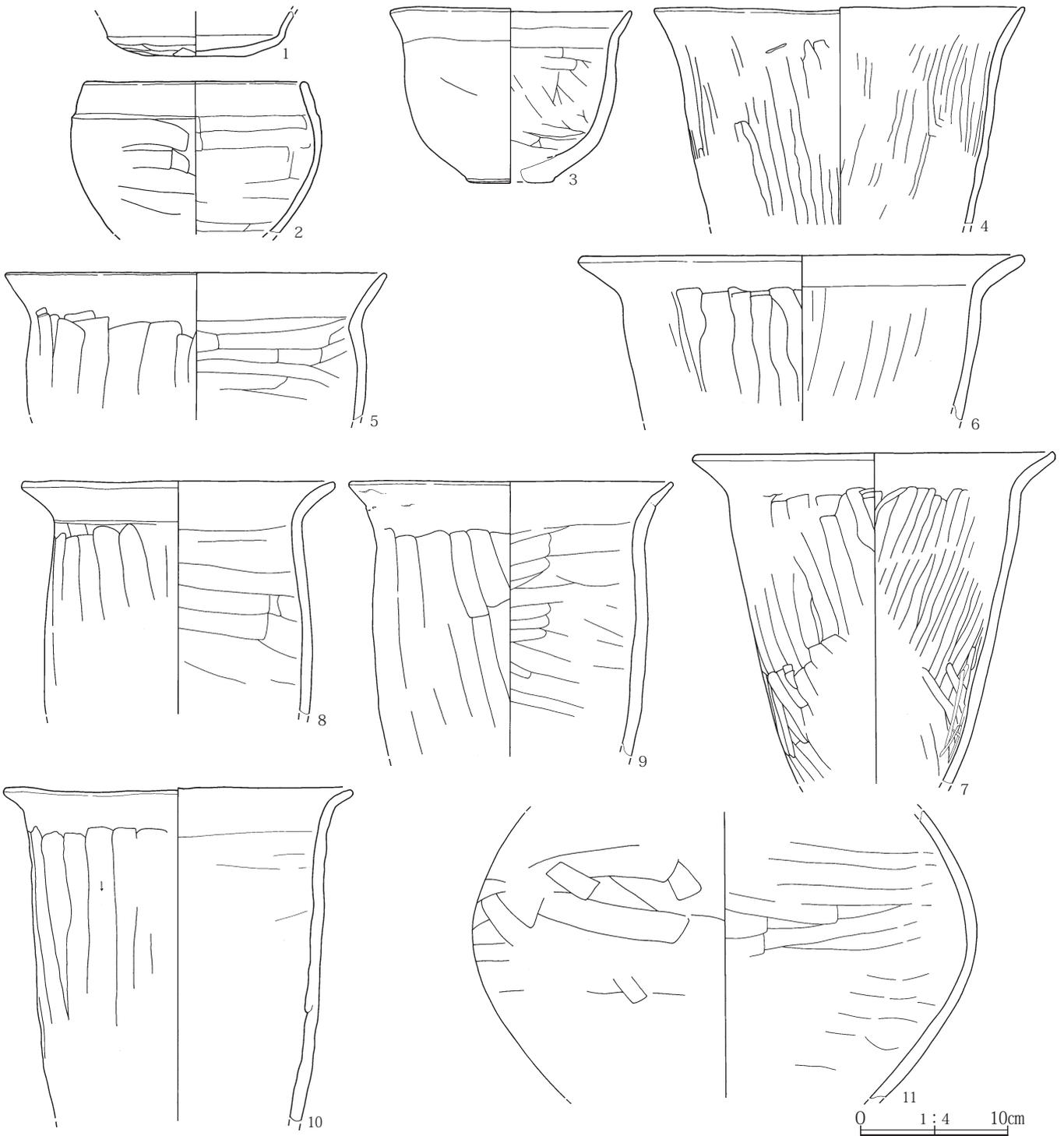
(第36図 PL.15)

グリッド 075・-250~-251

重複 74号竪穴建物より古い。

形状 北隅の一部が確認できたのみであるが、方形と推定される。

規模 長軸・短軸測定不能 残存壁高0.12m



第37図 7-2区74号竪穴建物出土遺物

面積 測定不能 **北西壁方位** N-65°-E
埋没土 礫を混入した黒褐色土で埋まっていた。
竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。
柱穴 北隅でP1を検出したが、壁に近く柱穴とは断定できない。規模は下記の通りである。
 P1 直径0.31m 深さ0.24m
壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。
貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。
遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。
所見 出土遺物がなく時期は不明であるが、7世紀の74号竪穴建物より古いことから7世紀以前の竪穴建物と考えられる。

7-2区100号竪穴建物

(第38図 PL.15・16・65 遺物観察表P.255・256)

グリッド 075~079・-271~-275

重複 204号土坑より古い。

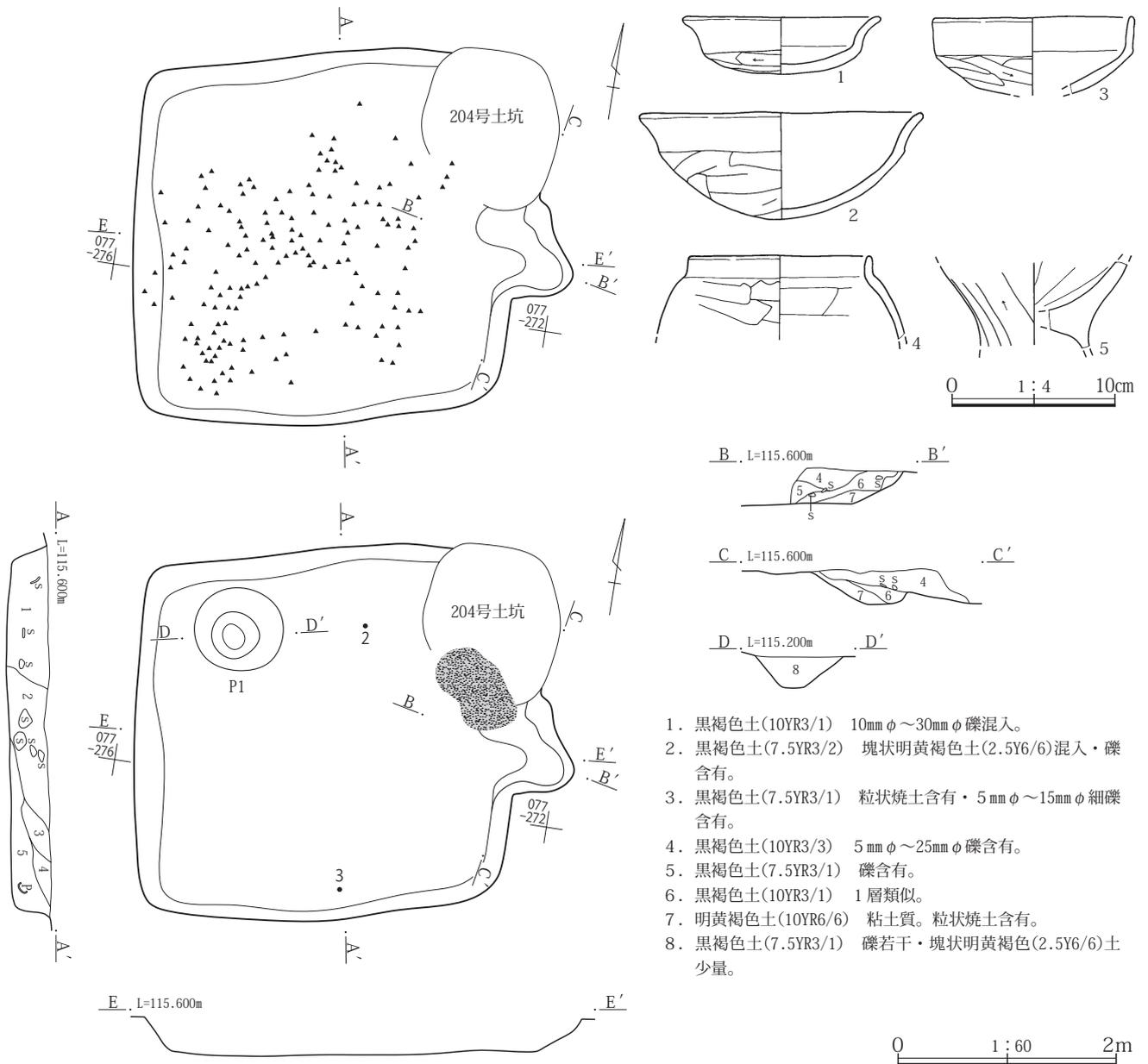
形状 正方形

規模 長軸3.45m 短軸3.43m 残存壁高0.34m

面積 10.02㎡

長軸方位 N-81°-E

埋没土 小礫、明黄褐色土塊、焼土粒等を混じる黒褐色土で埋まっていた。埋没土中には礫や土器等が投げ込まれた状態で出土した。埋没土中から土師器杯(第38図1)、土師器小型甕(同図4)、土師器台付甕(同図5)が出土した。



第38図 7-2区100号竪穴建物と出土遺物

竈 東壁中央やや南寄りに竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.80m、屋外長0.48m、燃燒部長不明、焚口幅0.68mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.50m、右側0.19mの長さで張り出し残存していた。竈前北側には焼土混じり粘土が堆積していた。

柱穴 床面下の精査で、竪穴北西隅でP 1を確認した。やや壁に近いことから柱穴との確定はできなかった。規模は下記の通りである。

P 1 長径0.82m 短径0.76m 深さ0.33m

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 明瞭な掘り方は確認されなかった。

遺物と出土状況 竪穴北部床面上34cmで土師器杯(第38図3)、南壁際床面上2cmで土師器杯(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片47点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

7-2区101号竪穴建物

(第39図 PL.16 遺物観察表P.256)

グリッド 064~067・-271~-273

重複 104号竪穴建物より新しい。202号土坑より新しい。203号土坑との新旧関係は不明。

形状 隅丸の方形と推定される。

規模 長軸3.45m 短軸測定不能 残存壁高0.19m

面積 計測不能

長軸方位 N-22°-W

竈 西壁北寄りに竈を想定し、土層等の記録をしながら掘り進めたが、竈と確定するに至らなかった。

柱穴・壁際溝・貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 明瞭な掘り方は確認できなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第39図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片103点が出土した。

所見 西壁沿いに後出する竪穴を想定し調査を開始したが、床面及び掘り方面で明瞭な建物の形状を記録することはできなかった。範囲内からは7世紀の土師器が出土しており、その時期の竪穴建物を想定したい。

7-2区104号竪穴建物

(第39・40図 PL.16・65 遺物観察表P.256)

グリッド 063~067・-269~-273

重複 101号竪穴建物より古い。

形状 隅丸のほぼ方形。

規模 長軸3.80m 短軸推定3.73m 残存壁高0.10m

面積 計測不能

長軸方位 N-25°-W

埋没土 小礫・明黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.84m、屋外長0.04m、燃燒部0.52m、焚口幅0.45mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.73m、右側0.69mの長さで張り出し残存していた。竈の解体は著しく進み、構築に使用されたと推定される粘土は、ほとんど残されていなかった。両袖の先端には芯として、左に土師器甕(第40図4)と右に土師器甕(同図5・6)が伏せて立てられており、右の土師器甕の上位には土師器小型甕(同図3)、さらに土師器鉢(同図2)が載せられた状態で出土した。この土師器甕の出土位置によって、敷設された竈の規模が推定できた。燃燒部にあたる部分からも土師器甕の大型破片が出土した。

柱穴 掘り方面の精査で、支柱穴4本を検出した。柱穴はいずれも楕円形で、規模は下記の通りである。

P 1 長径0.72m 短径0.55m 深さ0.45m

P 2 長径0.65m 短径0.60m 深さ0.28m

P 3 長径0.63m 短径0.51m 深さ0.37m

P 4 長径0.59m 短径0.47m 深さ0.39m

柱間の距離はP 1・P 2間が1.70m、P 2・P 3間が1.66m、P 3・P 4間が1.70m、P 4・P 1間が1.76mである。

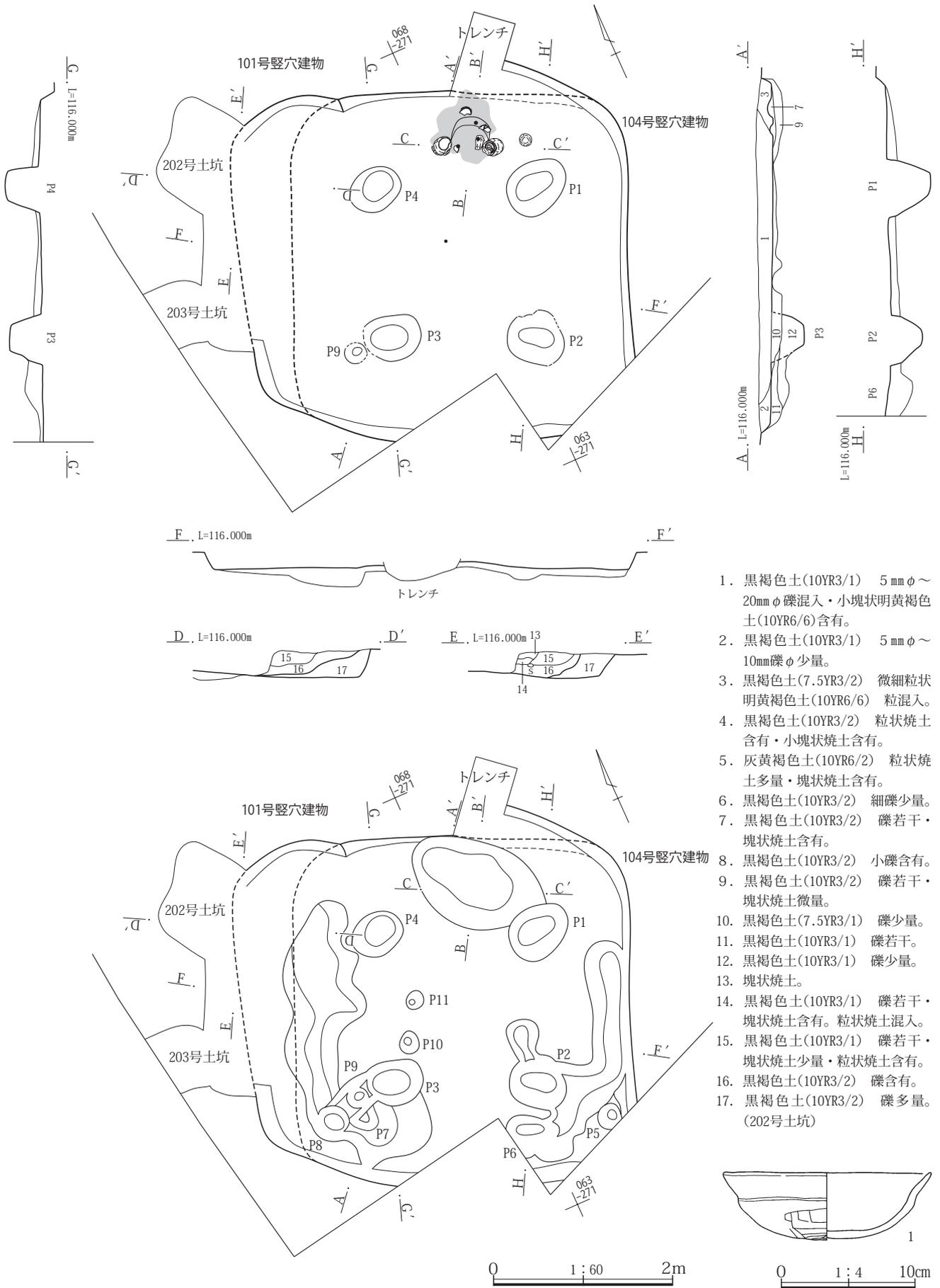
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 北西壁と南東壁沿いに凹地状の掘り方を検出した。また上記の支柱穴は掘り方面精査で検出した。

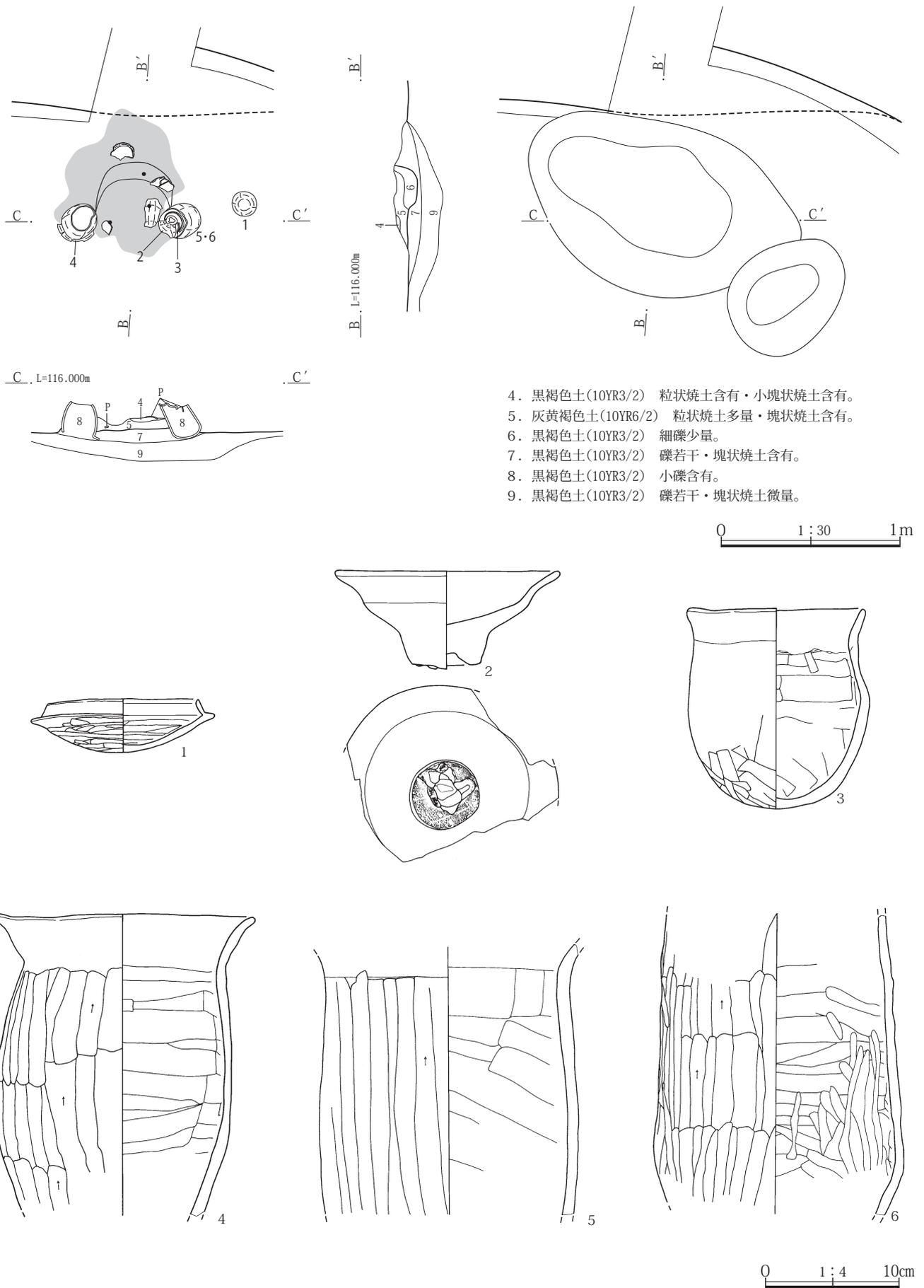
遺物と出土状況 ほとんどの遺物は上記のように竈内で出土したが、竈右脇で須恵器杯完形(第40図1)が床面直上で出土した。この他、埋没土中から土師器破片115点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/1) 5mmφ～20mmφ 礫混入・小塊状明黄褐色土(10YR6/6)含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 5mmφ～10mmφ 礫少量。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) 微細粒状明黄褐色土(10YR6/6) 粒混入。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状焼土含有・小塊状焼土含有。
5. 灰黄褐色土(10YR6/2) 粒状焼土多量・塊状焼土含有。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状焼土含有。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫含有。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状焼土微量。
10. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量。
11. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
12. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
13. 塊状焼土。
14. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状焼土含有。粒状焼土混入。
15. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状焼土少量・粒状焼土含有。
16. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。
17. 黒褐色土(10YR3/2) 礫多量。(202号土坑)

第39図 7-2区101・104号竪穴建物と101号竪穴建物出土遺物



- 4. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状焼土含有・小塊状焼土含有。
- 5. 灰黄褐色土(10YR6/2) 粒状焼土多量・塊状焼土含有。
- 6. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量。
- 7. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状焼土含有。
- 8. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫含有。
- 9. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状焼土微量。

第40図 7-2区104号竪穴建物竈と出土遺物

7-2区102号竪穴建物

(第41・42図 PL.16・17・65 遺物観察表P.256)

グリッド 074~079・-265~-270

重複 なし。北西隅と南壁中央部が後世の攪乱によって壊されている。

形状 南北方向に長いやや長方形

規模 長軸4.49m 短軸4.16m 残存壁高0.17m

面積 14.94㎡ **長軸方位** N-14°-E

埋没土 小礫や塊状の明黄褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁の中央わずかに南寄りに竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.43m、屋外長0.86m、燃烧部長0.45m、焚口幅0.48mで、燃烧部奥は0.10mの緩やかな段差があり、その奥は0.99mの煙道が残されていた。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.57m、右側0.58mの長さで張り出し残存していた。左右とも袖の先端には芯として板状の垂角礫が壁状に立てられていた。また、焚口部竈使用面直上には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ49cm、幅32cm、厚さ9cm)が残されていた。

竈の右側には貯蔵穴の上位にかけて、多くの土器が出土した。竈右床面上7cmで土師器小型甕(第42図9)が、左脇壁際床面上12cmで土師器杯(同図3)が出土した。

柱穴 床面の精査で、支柱穴4本を検出した。柱穴はいずれも楕円形で、規模は下記の通りである。

P 1 長径0.47m 短径0.29m 深さ0.46m

P 2 長径0.36m 短径0.35m 深さ0.50m

P 3 長径0.50m 短径0.42m 深さ0.38m

P 4 長径0.42m 短径0.33m 深さ0.44m

柱間の距離はP 1・P 2間が2.25m、P 2・P 3間が2.40m、P 3・P 4間が2.30m、P 4・P 1間が2.48mである。

P 4底面上6cmで土師器鉢(第42図8)が出土した。

壁際溝 北壁中央部と東壁に南半部を除いて、幅10~12cm、深さ6~13cmほどの壁際溝を検出した。

貯蔵穴 南東隅で長径0.59cm、短径0.49m、深さ0.31mの楕円形の貯蔵穴が検出された。貯蔵穴内から土器は出土しなかった。いずれも上層の埋没土中から出土したものである。

掘り方 四周の壁に沿って、幅0.50~0.80mの帯状の掘り方が掘り込まれていた。南壁の中央部は攪乱があり、

掘り方が連続していたかどうかは不明である。また、支柱穴P 3・P 4のほぼ中央にP 6(長径0.23m、短径0.18m、深さ0.11m)を検出した。

遺物と出土状況 土師器杯(第42図4)が西壁際床面上7cmで出土した。南東隅には埋没土中に投棄された状態で土師器杯(同図1・2)、土師器甕か(同図10・11)、土師器杯か(同図5)、土師器高杯(同図6・7)がまとまって出土した。また、棒状礫(同図12・13)が中央部床面直上、竈前床面上7cmでもう1点出土した。この他、埋没土中から土師器破片211点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

7-2区103号竪穴建物

(第43~45図 PL.17・67 遺物観察表P.257)

グリッド 067~072・-263~-267

重複 178号土坑、179号土坑より古い。

形状 南北方向に長い長方形

規模 長軸5.17m 短軸4.55m 残存壁高0.25m

面積 21.00㎡ **長軸方位** N-1°-W

埋没土 埋没土下層は細かな礫を含む黒褐色土で床面が覆われており、上層にはやや大きな礫を多量に含む黒褐色土が堆積していた。特に中央部に礫が集中して出土した。

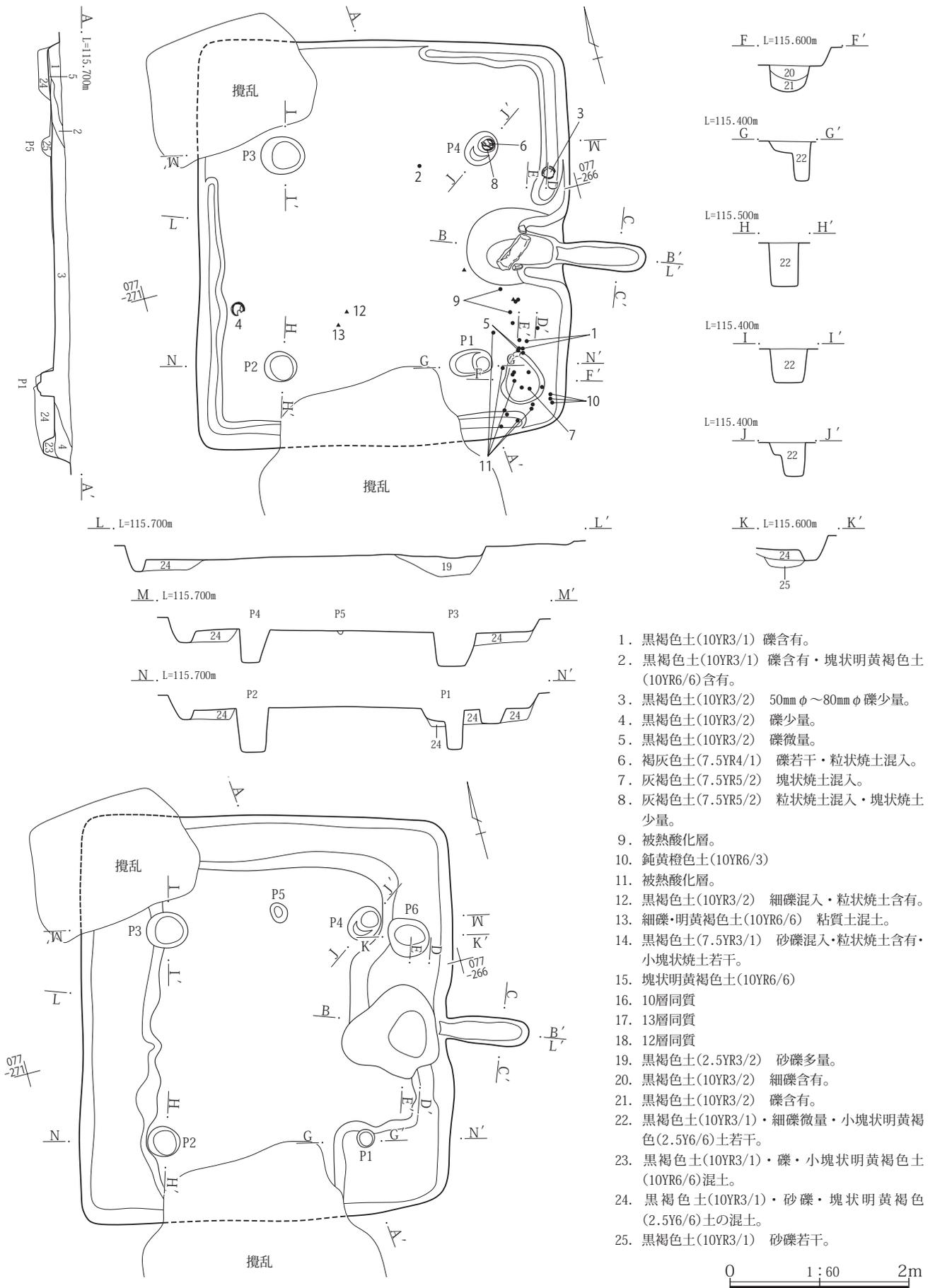
竈 東壁の中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.74m、屋外長0.05m、燃烧部長0.74m、焚口幅0.46mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.71m、右側0.68mの長さで張り出し残存していた。左右とも袖の先端には芯として板状の垂角礫が壁状に立てられていた。また、焚口部竈使用面からやや浮いた位置で竈構築材の一部と推定される大型板状礫が2片に割れた状態で出土した。竈左側の床面上8cmで出土した板状礫と、竈左前床面上3cmで出土した板状礫もその破片と推定される。全体の大きさは長さ60cm、幅20cm、厚さ6cmと推定される。

竈燃烧部には使用面上16cmで土師器甕(第45図13)が横たわった状態で出土した。竈左脇では楕円形皿状の土師器杯(第44図6)が床面上6cmで出土した。

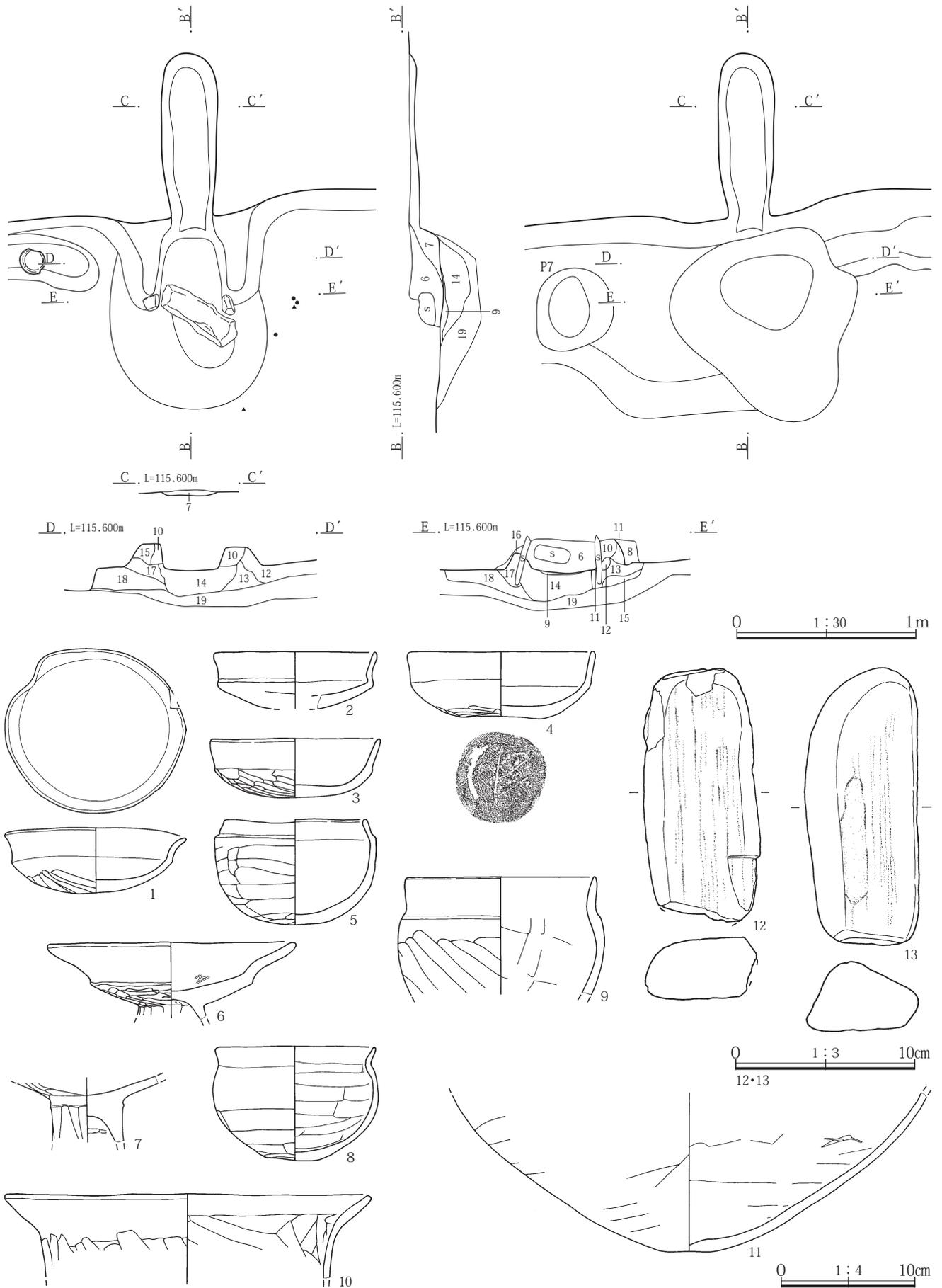
柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 住居南東隅に長径0.53m、短径0.45m、深さ

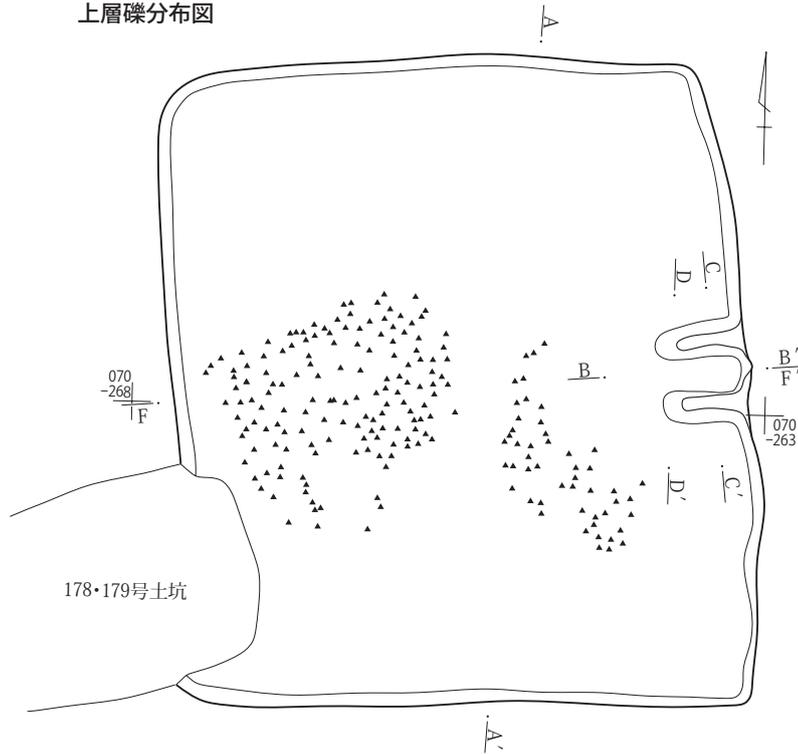


第41図 7-2区102号竪穴建物

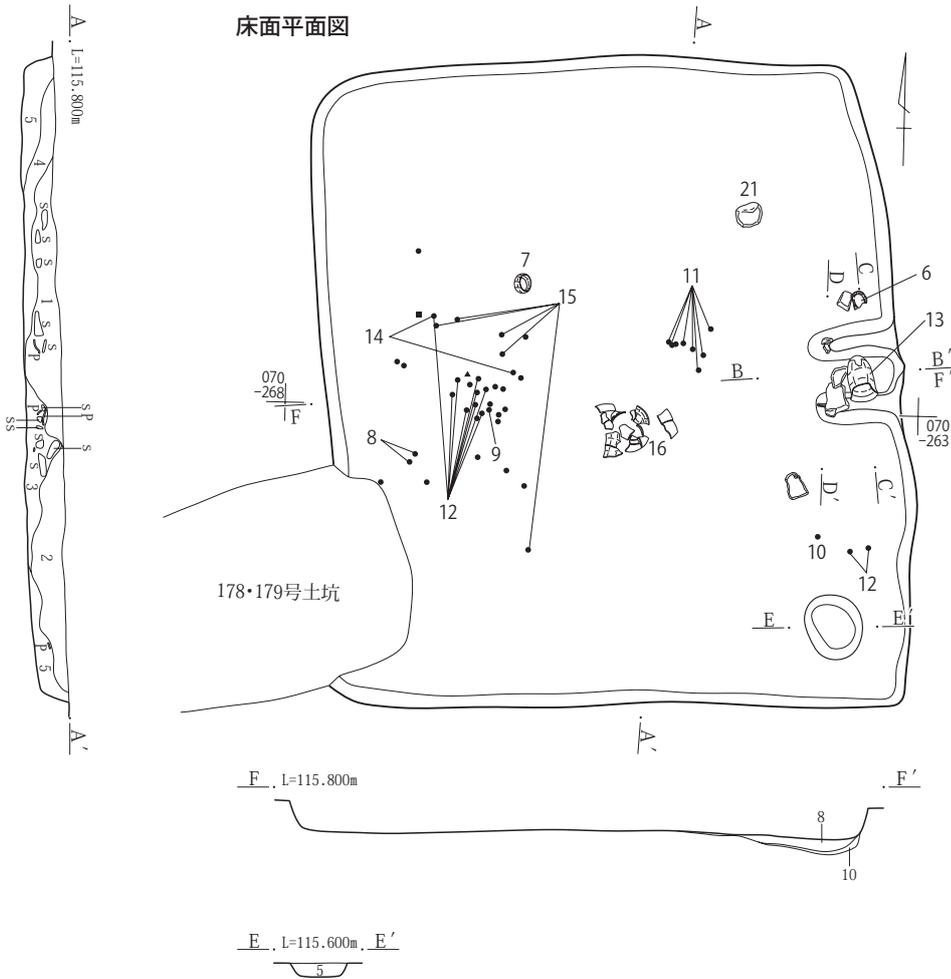


第42図 7-2区102号竪穴建物竈と出土遺物

上層礫分布図



床面平面図



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量(200mm φ~250mm φ含有)。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量(20mm φ~50mm φ含有)。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫主体(100mm φ~200mm φ含有)。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有(20mm φ~50mm φ含有)。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫微量。



第43図 7-2区103号竪穴建物

0.12mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。北脇には床面上1.6cmで土師器杯(第44図2)、床面直上で土師器小型甕(同図10)が出土した。

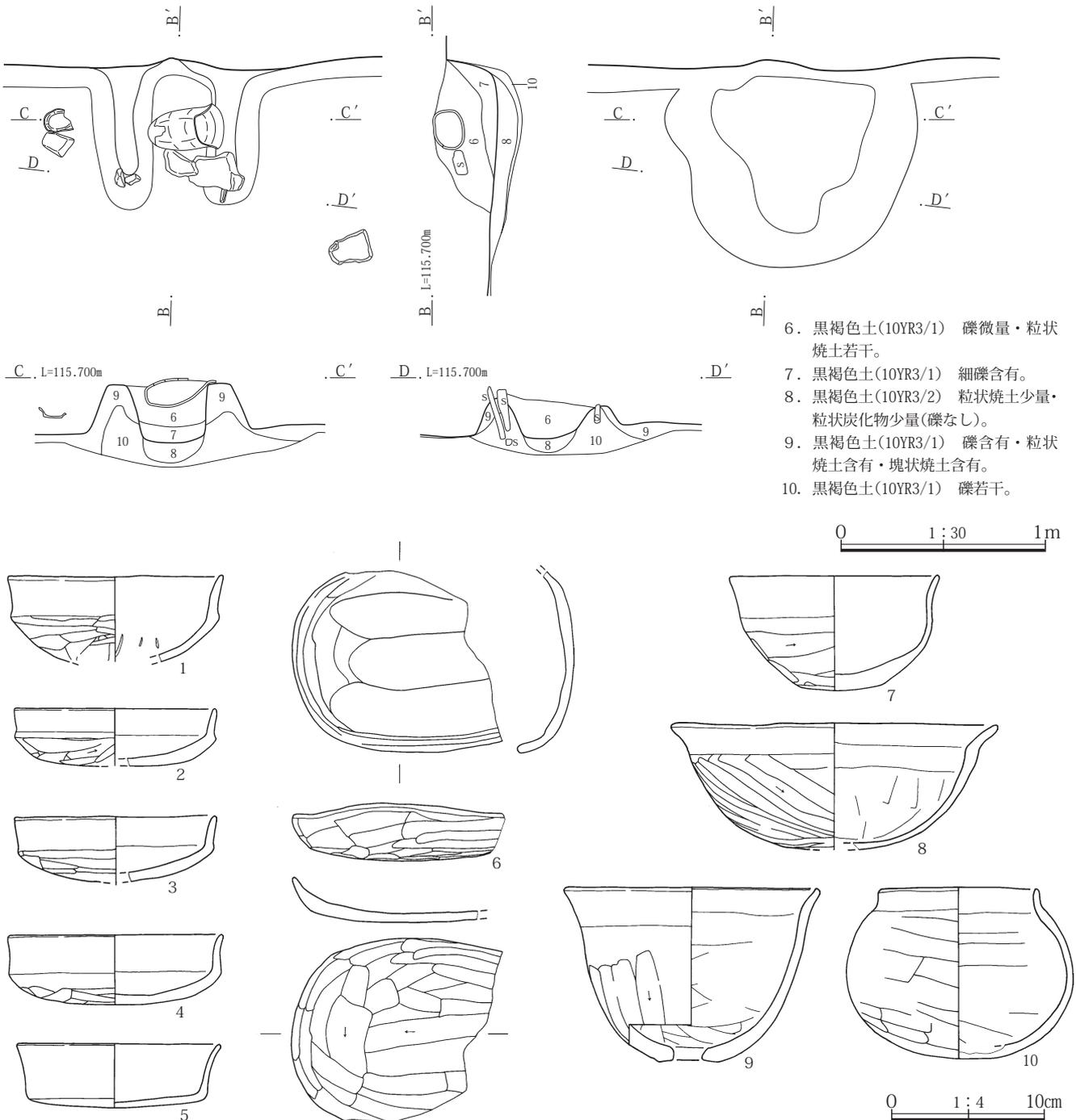
掘り方 明瞭な掘り方は竈以外では確認できなかった。

遺物と出土状況 竈前床面上2cmで土師器甕(第45図11)が、中央部床面上2cmで土師器甕(同図16)が出土した。ほぼ完形の土師器鉢か(第44図7)は中央部床面上5cmで出土した。土師器鉢(同図8)、土師器甕(第45図12・14・15)、土師器有孔鉢(第44図9)は、西部の床面上5

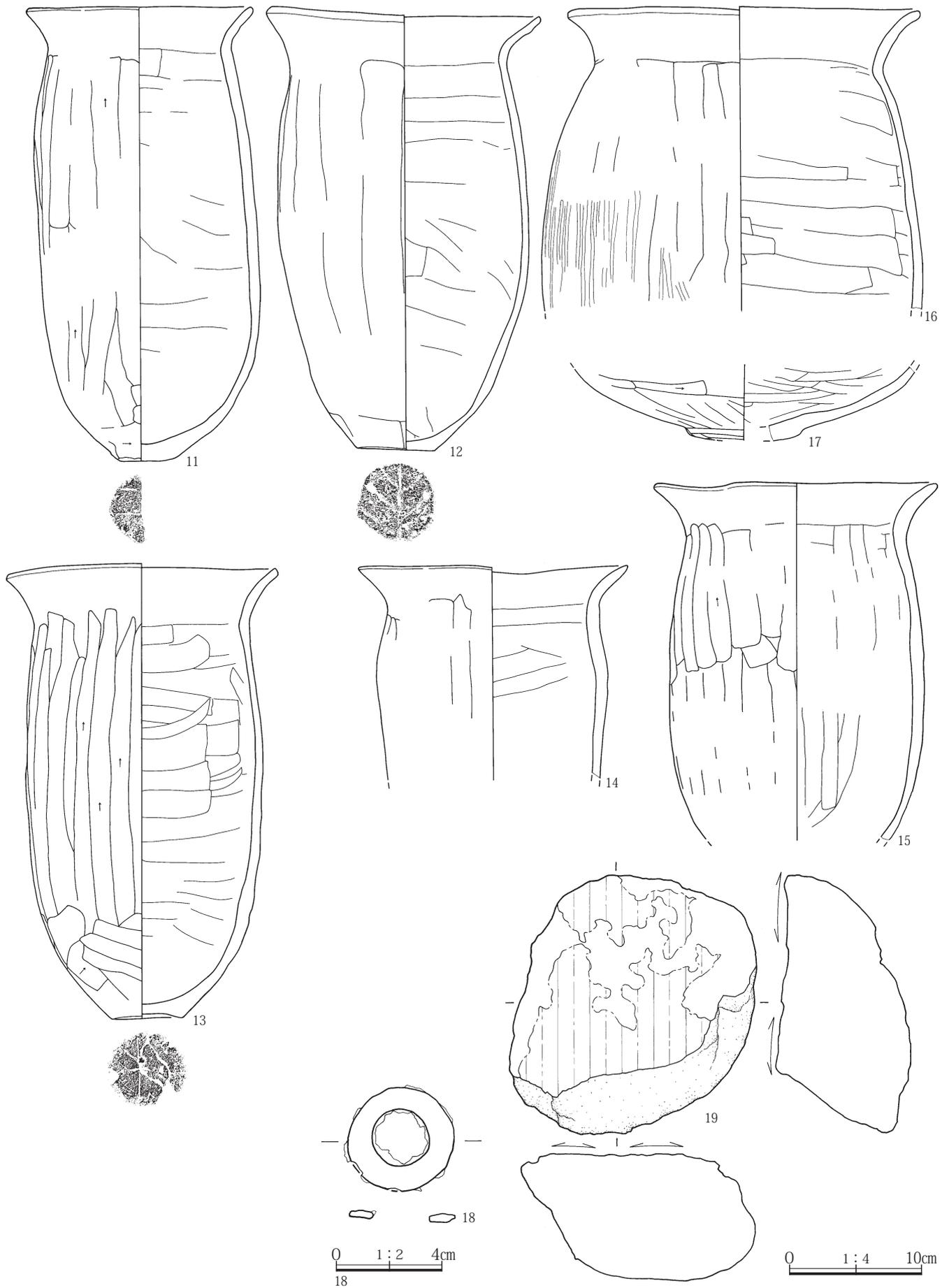
~15cmで出土した。また、北東部床面上7cmで牛伏砂岩製台石(第45図19)、西部から二次加工ある剥片と不明鉄製品(同図18)が出土した。

埋没土中から、土師器杯(第44図1・3・4・5)、土師器甕(第45図17)、石鏃(第196図5)、棒状礫(同図6・7)が出土した。石鏃、石棒礫は縄文時代の遺物であり混入である。この他、埋没土中から土師器破片322点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第44図 7-2区103号竪穴建物竈と出土遺物(1)



第45図 7-2区103号竪穴建物出土遺物(2)

8-2区76号竪穴建物

(第46図 PL.17・18 遺物観察表P.257)

グリッド 098~102・-190~-196

重複 なし。南東部は既存施設の保全のため調査できなかった。

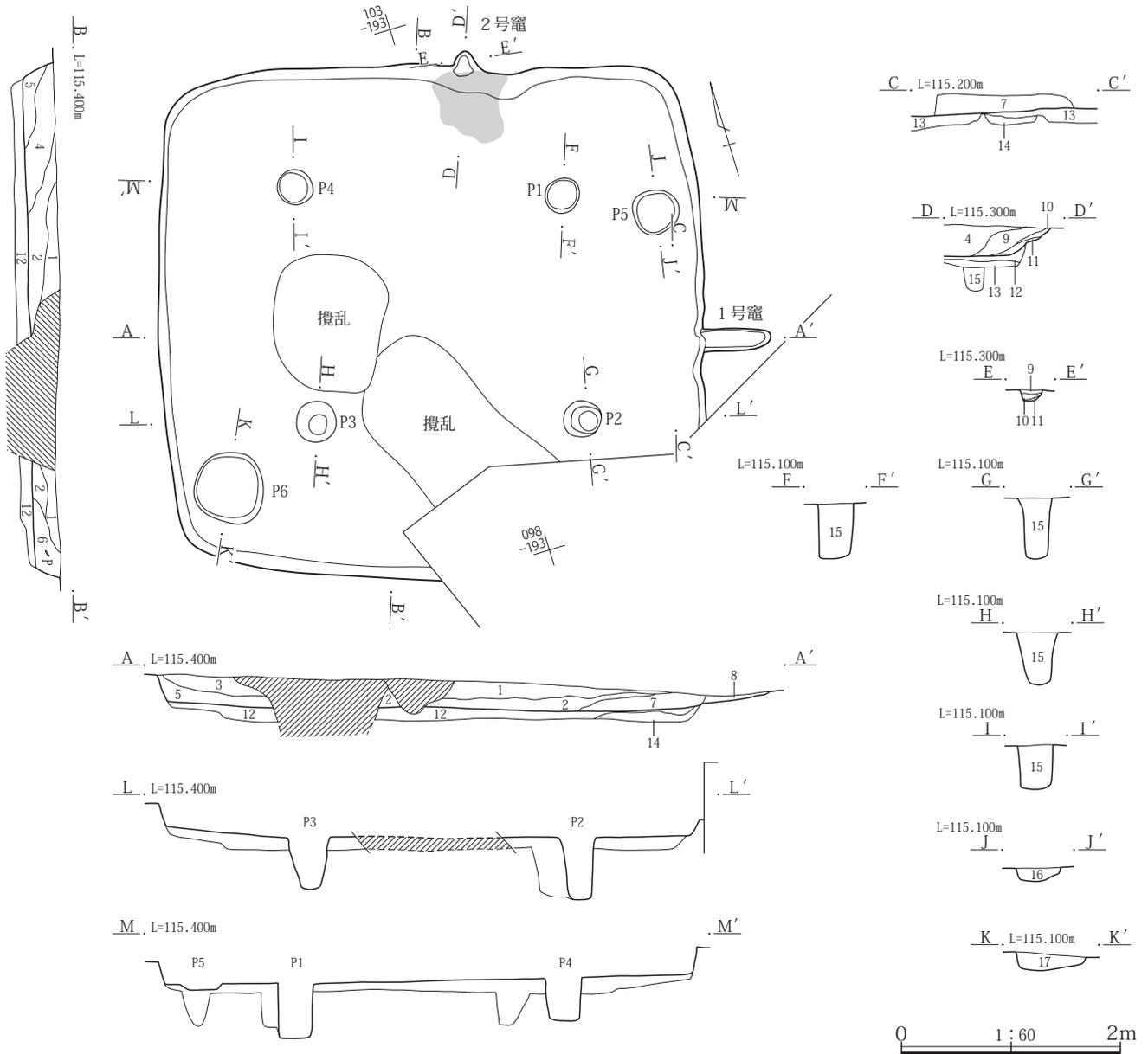
形状 東西方向にやや長い長方形

規模 長軸4.97m 短軸4.75m 残存壁高0.20m

面積 計測不能

長軸方位 N-73°-W

埋没土 小礫や塊状の明黄褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。



- | | |
|---|---|
| 1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土若干。 | 10. 塊状焼土主体。 |
| 2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。 | 11. 黒褐色(10YR3/2)・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土の混土。 |
| 3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土少量・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。 | 12. 塊状焼土主体。 |
| 4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土若干。 | 13. 塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土・塊状焼土の混土。 |
| 5. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土微量。 | 14. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極微量・粒状焼土混入。 |
| 6. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・粗粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。 | 15. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土若干・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)少量。 |
| 7. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土微量。 | 16. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土少量。 |
| 8. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状焼土含有。 | 17. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土少量。 |
| 9. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状焼土多量・粒状炭化物含有。 | |

第46図 8-2区76号竪穴建物

竈 東壁中央やや南側に1号竈、北壁中央やや東側に2号竈を検出した。残存状況から1号竈が古く、その廃棄後2号竈を再築したものと推定される。

1号竈は床面では屋外の掘り込みのみ確認された。屋外長は0.60mである。掘り方面では両袖部ともに袖上に掘り残された地山粘質土の一部と焼土の広がりが見出された。

2号竈の残存する規模は確認長0.78m、屋外長0.12mで、両袖の残存は明確でなく、縦横0.35mの楕円形の範囲に焼土分布が確認されたのみである。

柱穴 床面の精査で、支柱穴4本を検出した。柱穴はいずれも楕円形で、規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.33m 短径0.31m 深さ0.51m
- P 2 長径0.34m 短径0.34m 深さ0.57m
- P 3 長径0.37m 短径0.36m 深さ0.52m
- P 4 長径0.32m 短径0.33m 深さ0.41m

柱間の距離はP 1・P 2間が2.14m、P 2・P 3間が2.48m、P 3・P 4間が2.20m、P 4・P 1間が2.46mである。

壁際溝 床面では確認できなかったが、掘り方面で北東隅に幅15cm、深さ7～13cmほどの壁際溝を検出した。

貯蔵穴 床面では検出されなかった。

掘り方 支柱穴P 1・P 2・P 4の周囲および2号竈の左右壁際に掘り込みを確認した。また西壁沿いで0.57～0.72m内側に2～4cmの、南壁沿いにも0.45m内側に3～5cmの段を検出した。これらの位置関係からすると、このL字形の段と支柱穴P 1・P 2・P 4の周囲のピットは、1号竈使用時の竪穴の壁と支柱穴であった可能性がある。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第47図1)が出土した。その他、埋没土中から土師器破片97点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。本建物は掘り方面で検出したピットと段の存在から、1号竈を壊した後、北壁・東壁はそのままで西・南に拡張して建て替えた可能性がある。

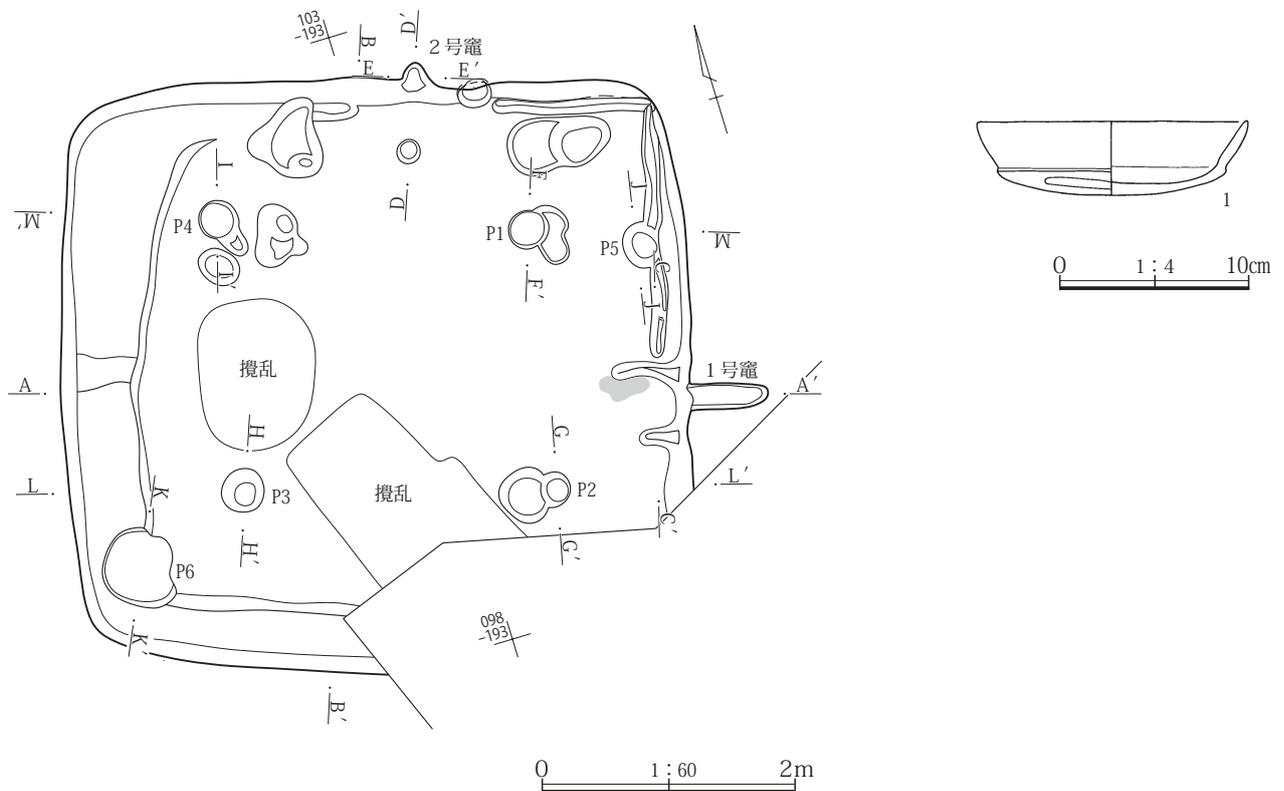
8-2区77号竪穴建物

(第48図 PL.18・68 遺物観察表P.257)

グリッド 092～097・-228～-234

重複 なし。

形状 東西方向に長い台形。北東壁に比べ、南西壁が長



第47図 8-2区76号竪穴建物掘り方と出土遺物

く不定形となった。

規模 長軸4.85m 短軸4.18m 残存壁高0.10m

面積 16.47㎡ **長軸方位** N-62°-E

埋没土 小礫や塊状の明黄褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北西壁の中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.04m、屋外長0.54m、燃燒部長0.68m、焚口幅0.55mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側はなく、右側には0.38mの長さでかすかに残存していた。焼土等の残存も不良であった。

柱穴 床面の精査で、西部で不定楕円形のP1(1.0m×0.69m×0.18m)、南部で隅丸方形のP2(0.44m×0.40m×0.09m)を検出したが、位置や深さからすると柱穴とはいえない。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

掘り方 明瞭な掘り方は竈以外では確認できなかった。

遺物と出土状況 中央部床面上7cmで土師器杯(第48図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片40点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

8-2区105号竪穴建物

(第49図 PL.18 遺物観察表P.257)

グリッド 087~091・-229~-233

重複 231号土坑

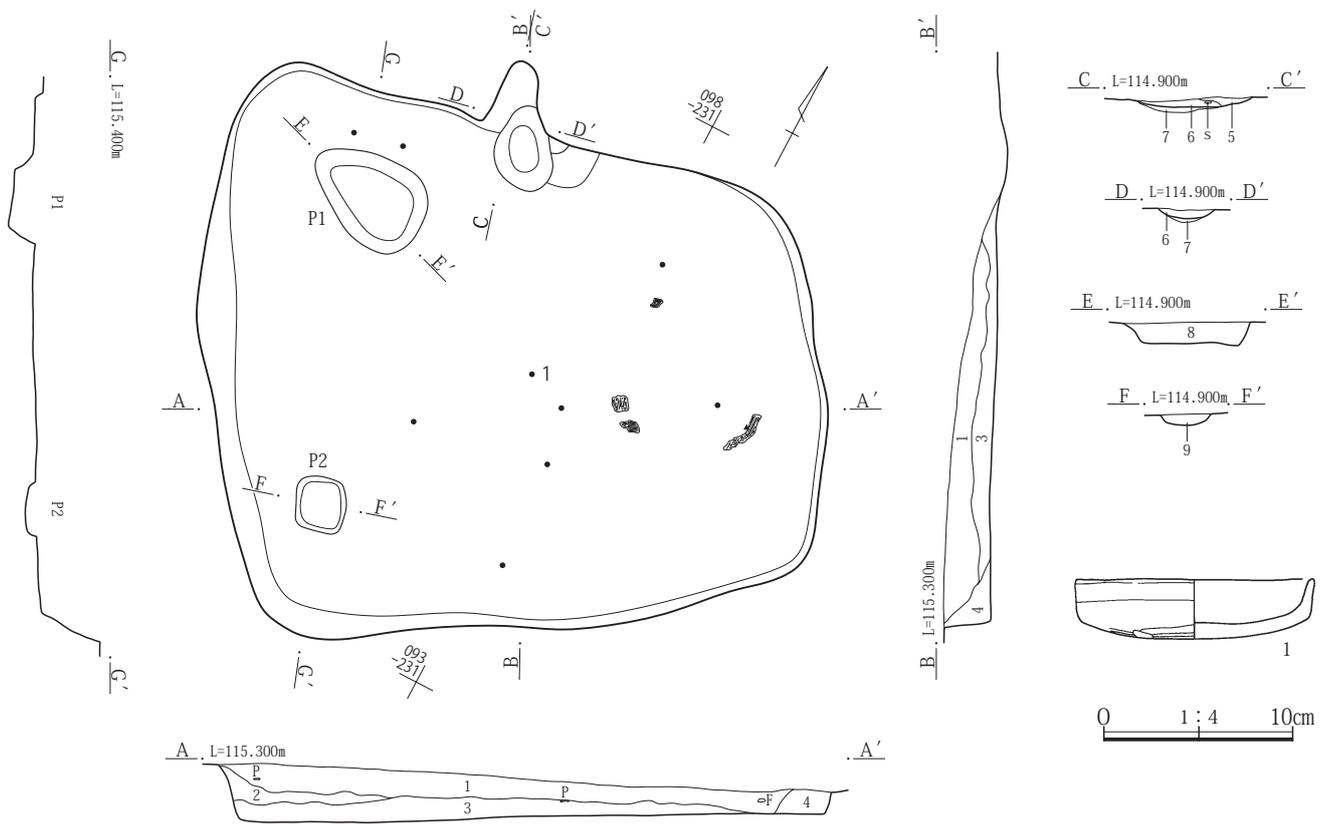
形状 東西に長い隅丸長方形

規模 長軸3.76m 短軸2.93m 残存壁高0.15m

面積 8.83㎡ **長軸方位** N-76°-E

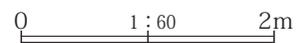
埋没土 礫を多く含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~50mmφ礫混入・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有・粗粒状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~50mmφ礫含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 20mmφ~50mmφ礫少量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土多量。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 5mmφ~10mmφ礫含有。

5. 塊状焼土主体。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状焼土含有・細礫含有。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫混入・粒状焼土少量。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 5mmφ~10mmφ礫若干。



第48図 8-2区77号竪穴建物と出土遺物

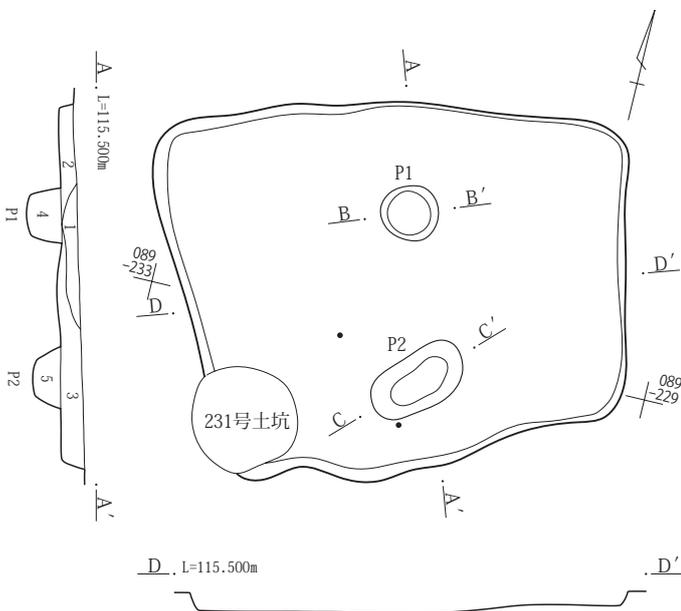
柱穴 床面の精査で、北部で円形のP1(0.45m×0.45m×0.27m)、南部で楕円形のP2(0.80m×0.43m×0.23m)を検出した。位置からすると柱穴の可能性もあるが、浅いので柱穴と断定できなかった。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

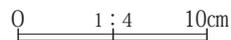
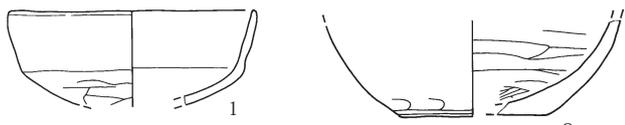
掘り方 明瞭な掘り方は確認できなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から、土師器杯(第49図1)土師器小型甕(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片16点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。竈がなく2本柱穴の可能性のある建物であり、住居とは別の用途であろう。



- 1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
- 2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量。
- 3. 黒褐色土(10YR3/1) 100mmφ~150mmφ礫含有・50mmφ~80mmφ礫含有。
- 4. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫含有。
- 5. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫多量。

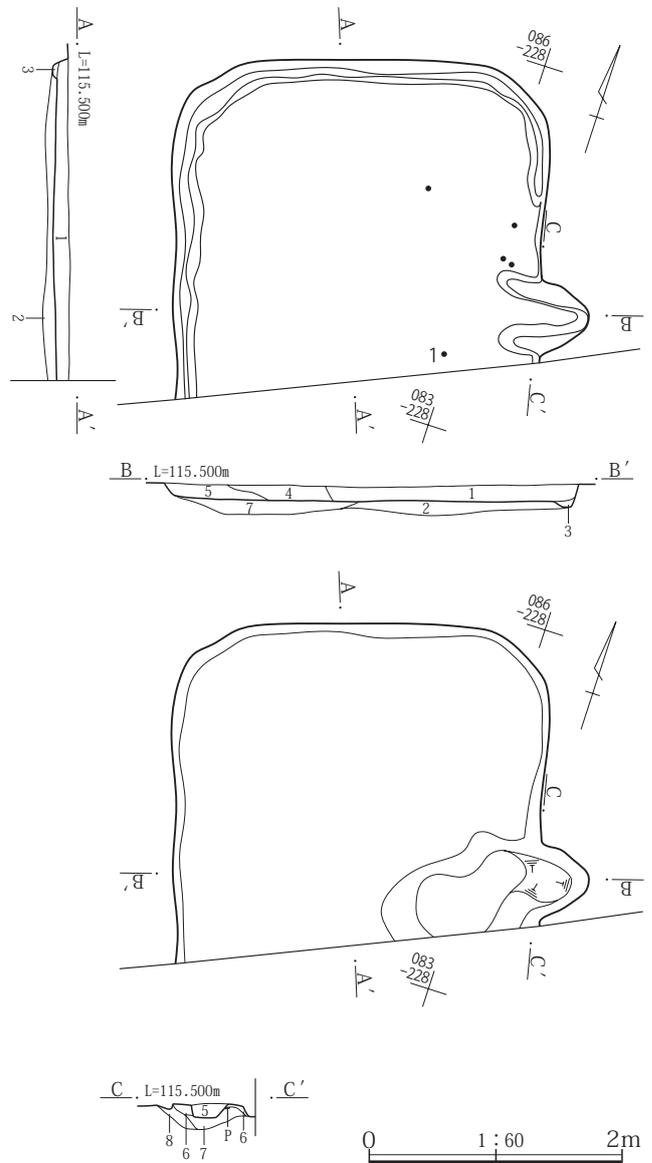


第49図 8-2区105号竪穴建物と出土遺物

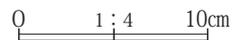
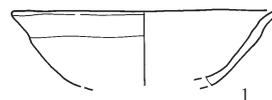
8-2区106号竪穴建物

(第50図 PL.18・19 遺物観察表P.258)

グリッド 082~085・-227~-230



- 1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
- 2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入。
- 3. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫若干。
- 4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・粒状焼土若干。
- 5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・粒状焼土微量。
- 6. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・細礫含有。
- 7. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫混入・礫少量・粒状焼土若干。
- 8. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫含有。



第50図 8-2区106号竪穴建物と出土遺物

2. 竪穴建物

重複 なし。

形状 南半部が調査区域外となることから全形は判明しなかったが、南北に長い長方形と推定される。

規模 東西軸2.95m 南北軸(2.61)m 残存壁高0.17m

面積 計測不能 **長軸方位** N-70°-E

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.75m、屋外長0.38m、燃烧部長0.75m、焚口幅0.50mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.38m、右側0.33mの長さで張り出し残存していた。焼土や竈構築に使われた粘土の残存状況は不良である。竈前には床面直上で土師器杯(第50図1)が出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

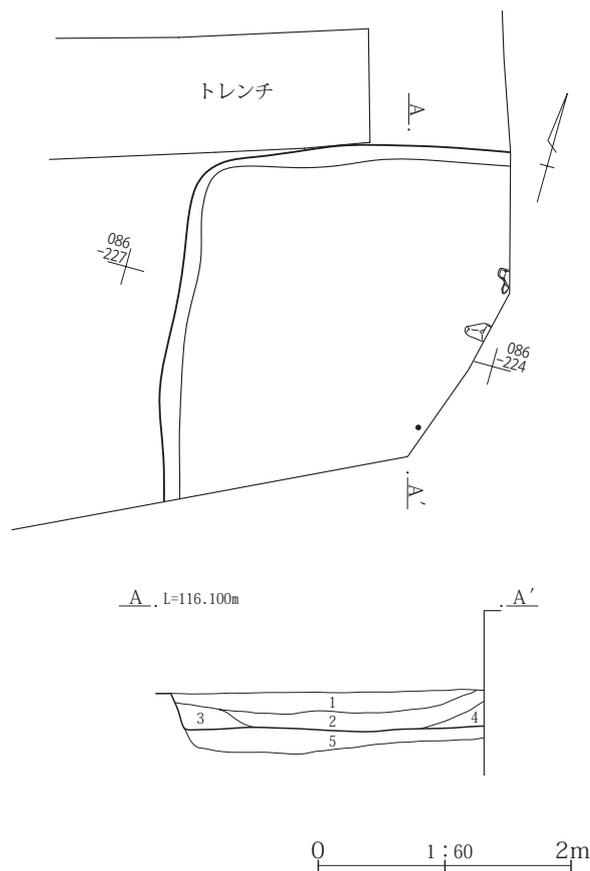
壁際溝 東壁の竈北0.6mのところから、北壁、西壁沿いに、幅10~17cm、深さ2~5cmの壁際溝が検出された。

貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ0.1mほどの掘り方充填土が確認された。楕円形の竈の掘り方の他、土坑状の掘り込みは認められなかった。

遺物と出土状況 竈周辺に遺物が出土した。埋没土中から土師器破片18点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土若干。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・小塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土多量。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・塊状ローム土少量。

8-2区107号竪穴建物

(第51図 PL.19)

グリッド 084~087・-224~-226

重複 なし。

形状 南部・東部が調査区域外となることから全形は判明しなかった。方形であることは推定できる。

規模 東西軸(2.62)m 南北軸(2.58)m

残存壁高0.19m

面積 測定不能

長軸方位 N-74°-E

埋没土 礫と明黄褐色土を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

第51図 8-2区107号竪穴建物

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片13点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

8-2区108号竪穴建物

(第52図 PL.19 遺物観察表P.258)

グリッド 098~104・-201~-206

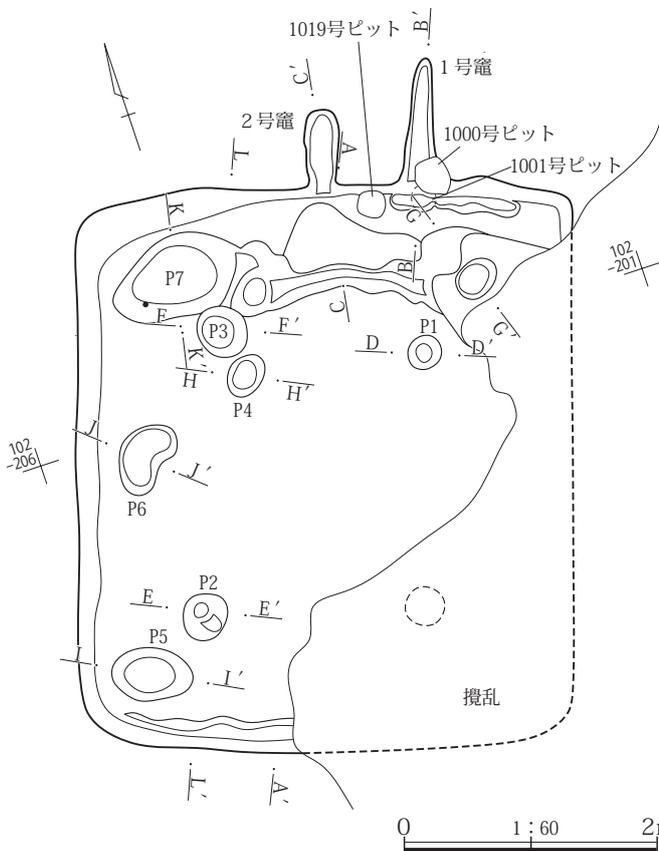
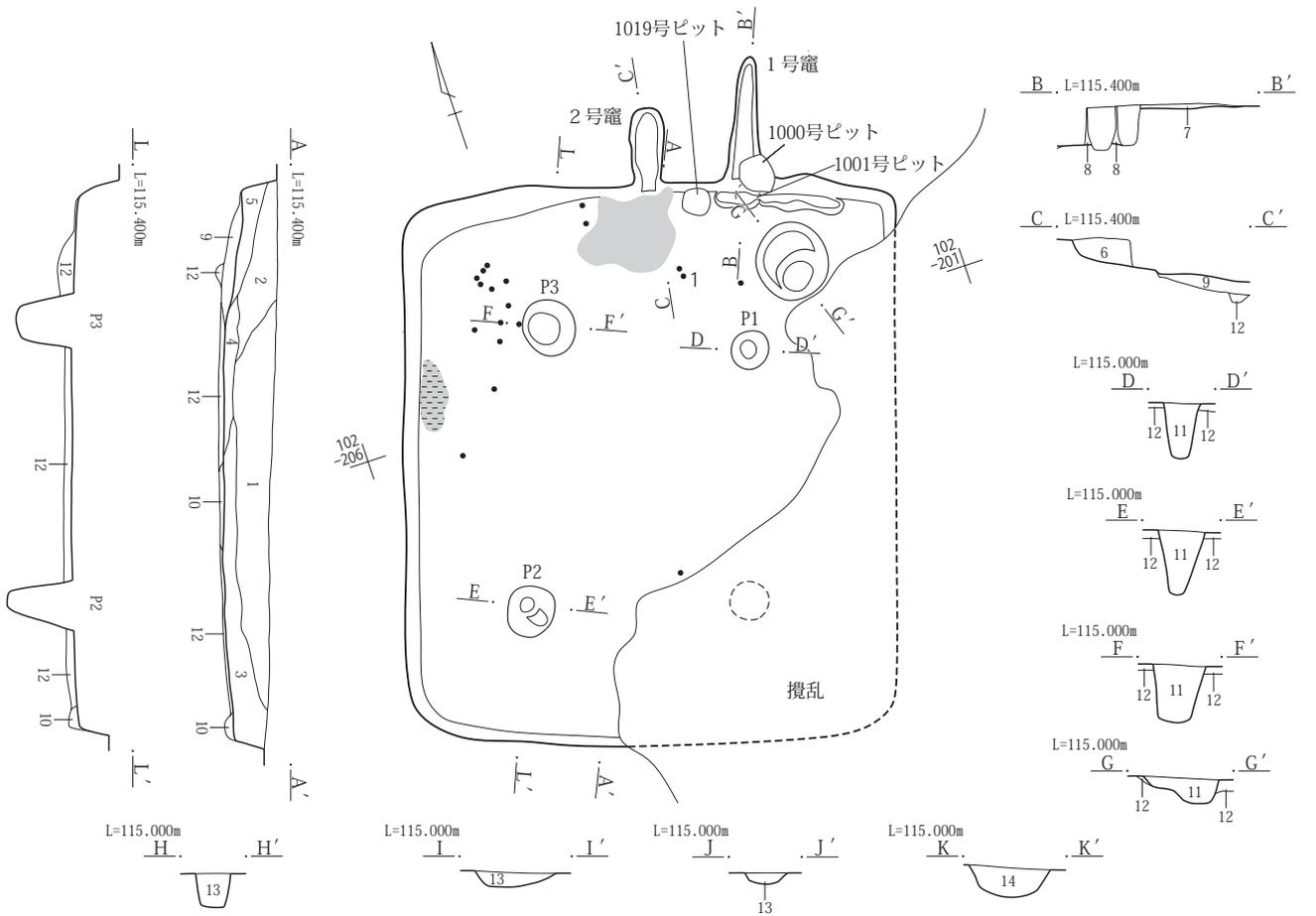
重複 1000号・1001号ピットより古い。

形状 南部が後世の攪乱で壊されていたことから全形は判明しなかったが、南北方向にやや長い長方形である。

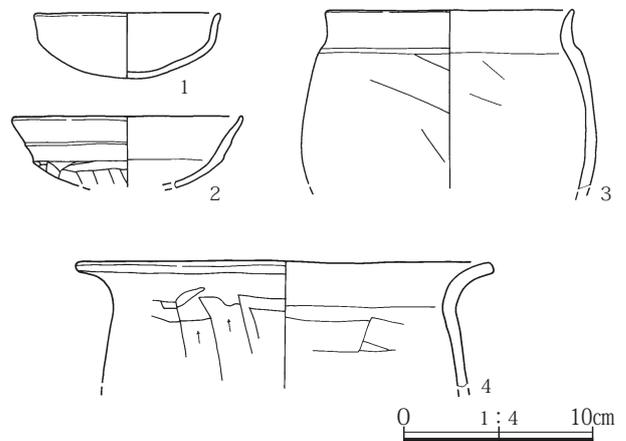
規模 長軸4.48m 短軸3.90m 残存壁高0.31m

面積 計測不能 **長軸方位** N-18°-E

埋没土 礫と塊状のローム土を含む黒褐色土で埋まっていた。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・粒状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・塊状ローム土混入。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・塊状ローム土含有・粒状炭化物若干。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・小塊状ローム土混入。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・塊状焼土多量。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状焼土混入・塊状焼土混入。
7. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極微量・粒状焼土若干。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状ローム土混入。
9. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫無し・塊状ローム土含有。
10. 塊状ローム土主体。
11. 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒含有・塊状ローム土含有。
12. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・粒状焼土少量。
13. 灰褐色土(7.5YR4/2) 塊状ローム土少量。
14. 灰褐色土(7.5YR4/2) 塊状ローム土少量・粒状焼土少量。



第52図 8-2区108号竪穴建物と出土遺物

2. 竪穴建物

竈 北壁中央より0.76m東に1号竈、北壁中央に2号竈が敷設されていた。当初は1号竈が使用されていたが、2号竈に造り替えたと思われる。

残存する1号竈の規模は確認長1.09m、屋外長1.00m、燃焼部や焚口は残っていなかった。

新設された2号竈の残存規模は確認長0.66m、屋外長0.61m、袖や燃焼部、焚口は明瞭に残存しておらず、0.60m×0.80mの不定形の範囲に焼土が残存していたのみである。竈前には床面直上で土師器杯(第52図1)が出土した。

柱穴 床面の精査で、支柱穴3本を検出した。全体としては4本柱穴と推定されるが南東隅の1本は攪乱のため検出できなかった。柱穴はいずれも楕円形で、規模は下記の通りである。

P 1 長径0.32m 短径0.30m 深さ0.44m

P 2 長径0.41m 短径0.37m 深さ0.54m

P 3 長径0.46m 短径0.42m 深さ0.47m

柱間の距離はP 2・P 3間が2.33m、P 3・P 1間が1.61mである。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 北東隅に長径0.61m、短径0.57m、深さ0.22mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。

掘り方 厚さ10cmほどの充填土の下位に掘り方を検出した。西壁に沿って3基の土坑状の掘り込みが認められた。

遺物と出土状況 埋没土中から、土師器杯(第52図2)、土師器甕(同図4)、土師器小型甕(同図3)と、土師器破片178点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

8-2区109号竪穴建物

(第53図 PL.19)

グリッド 104・-203~-206

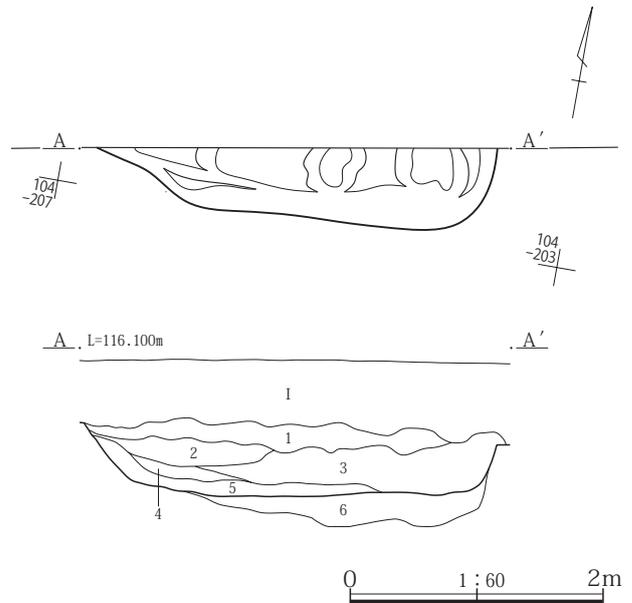
重複 なし。

形状 竪穴の大半が調査区域外となることから全形は判明しなかった。かろうじて検出された南壁の形状からすれば方形と推定される。

規模 東西軸3.07m 南北軸(0.58)m 残存壁高0.18m

面積 測定不能 **長軸方位** N-82°-E

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていたが、東半部には塊状ローム土が多く堆積していた。



- I 宅地造成以前の表土層(耕作土) 褐灰色土(5YR4/1) 白色軽石含有・細粒礫含有。
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入・粒状ローム土混入。
 2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫混入・粒状ローム土混入・塊状ローム土含有。
 3. 塊状ローム土主体・黒褐色土の混土。
 4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・粒状ローム土少量・粒状炭化物若干。
 5. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土含有。
 6. 塊状ローム土主体・黒褐色土少量。

第53図 8-2区109号竪穴建物

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 塊状ローム土を主体とする厚さ20cmの掘り方充填土が土層断面で確認できた。

遺物と出土状況 埋没土中から、土師器破片3点が出土したのみである。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

8-2区110号竪穴建物

(第54図 PL.19・20 遺物観察表P.258)

グリッド 090~093・-208~-213

重複 なし。

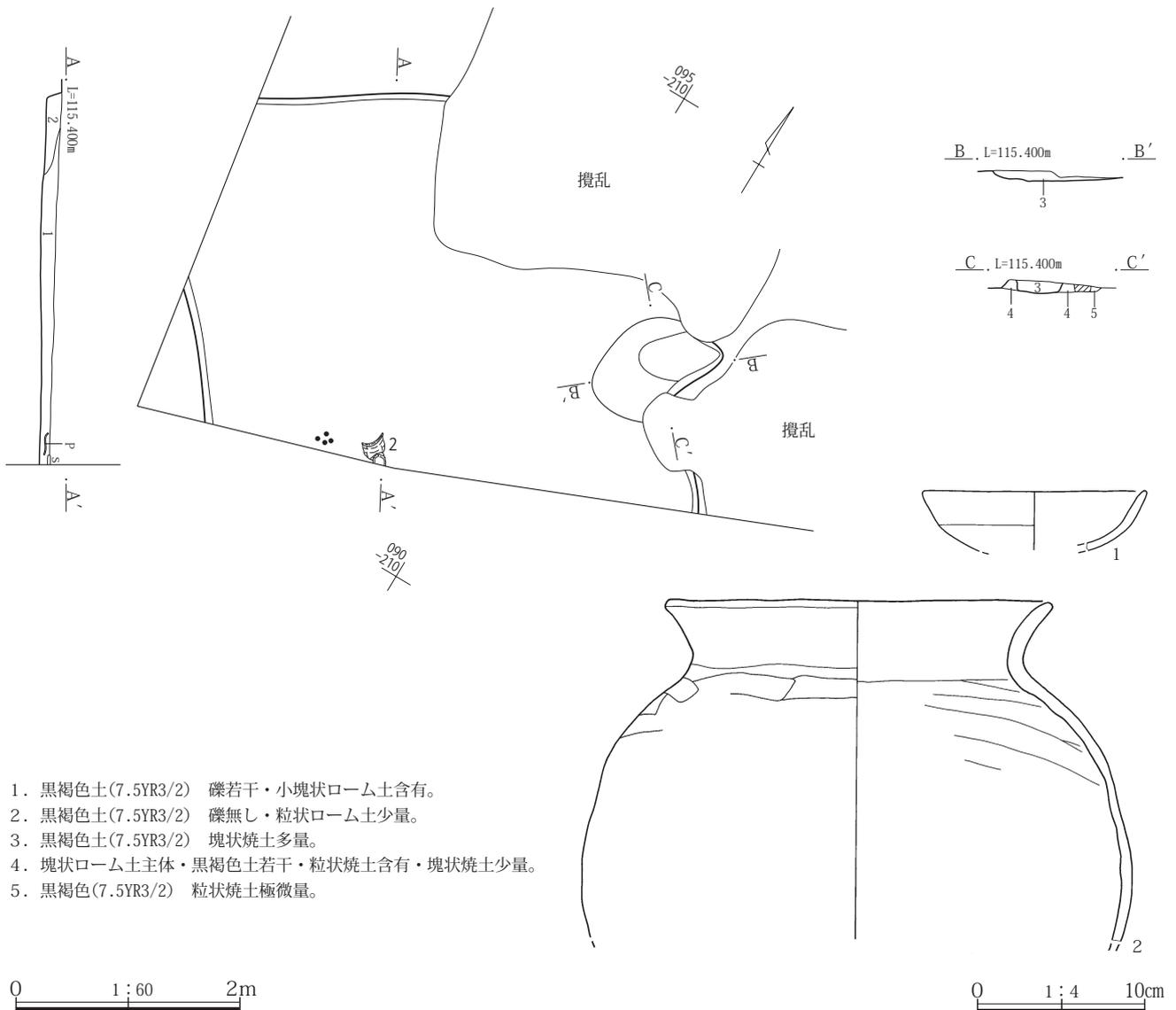
形状 竪穴の南半部と北西隅が調査区域外となっており、北隅も後世の攪乱で壊されていたが、南北方向にやや長い長方形と推定される。

規模 東西軸4.25m 短軸(3.37)m 残存壁高0.09m
面積 測定不能 **長軸方位** N-58°-E
埋没土 少量の礫と小塊状ローム土を含む黒褐色土で埋まっていた。
竈 北東壁に竈が敷設されていた。ほとんどが削平されており、痕跡を記録した。
柱穴 床面の精査では確認されなかった。
壁際溝 なし。
貯蔵穴 調査できた範囲では確認されなかった。
掘り方 明瞭な掘り方は竈以外では確認できなかった。
遺物と出土状況 南部床面上6cmで土師器甕(第54図2)が、埋没土中から土師器杯(同図1)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片41点が出土した。
所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

8-2区120号竪穴建物

(第55・56図 PL.20・68 遺物観察表P.258)

グリッド 093~097・-217~-221 **重複** なし。
形状 竪穴の東隅が調査区域外となっているが、東西方向にやや長い長方形である。
規模 長軸3.37m 短軸2.96m 残存壁高0.20m
面積 9.03㎡ **長軸方位** N-66°-E
埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。
竈 北西壁のほぼ中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.43m、屋外長0.34m、燃烧部長0.43m、焚口幅0.40mで、燃烧部奥は0.27mの明確な段差があった。屋内には粘土を貼り付けた袖構造が認められなかったが、左右に長さ23cmの棒状礫が1本ずつ立てられており、袖の芯材として据えたものと推定される。その



1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫若干・小塊状ローム土含有。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫無し・粒状ローム土少量。
3. 黒褐色土(7.5YR3/2) 塊状焼土多量。
4. 塊状ローム土主体・黒褐色土若干・粒状焼土含有・塊状焼土少量。
5. 黒褐色(7.5YR3/2) 粒状焼土極微量。

第54図 8-2区110号竪穴建物と出土遺物

棒状礫の上位には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ46cm、幅17cm、厚さ15cm)が残されていた。石材はデイサイト凝灰岩である。

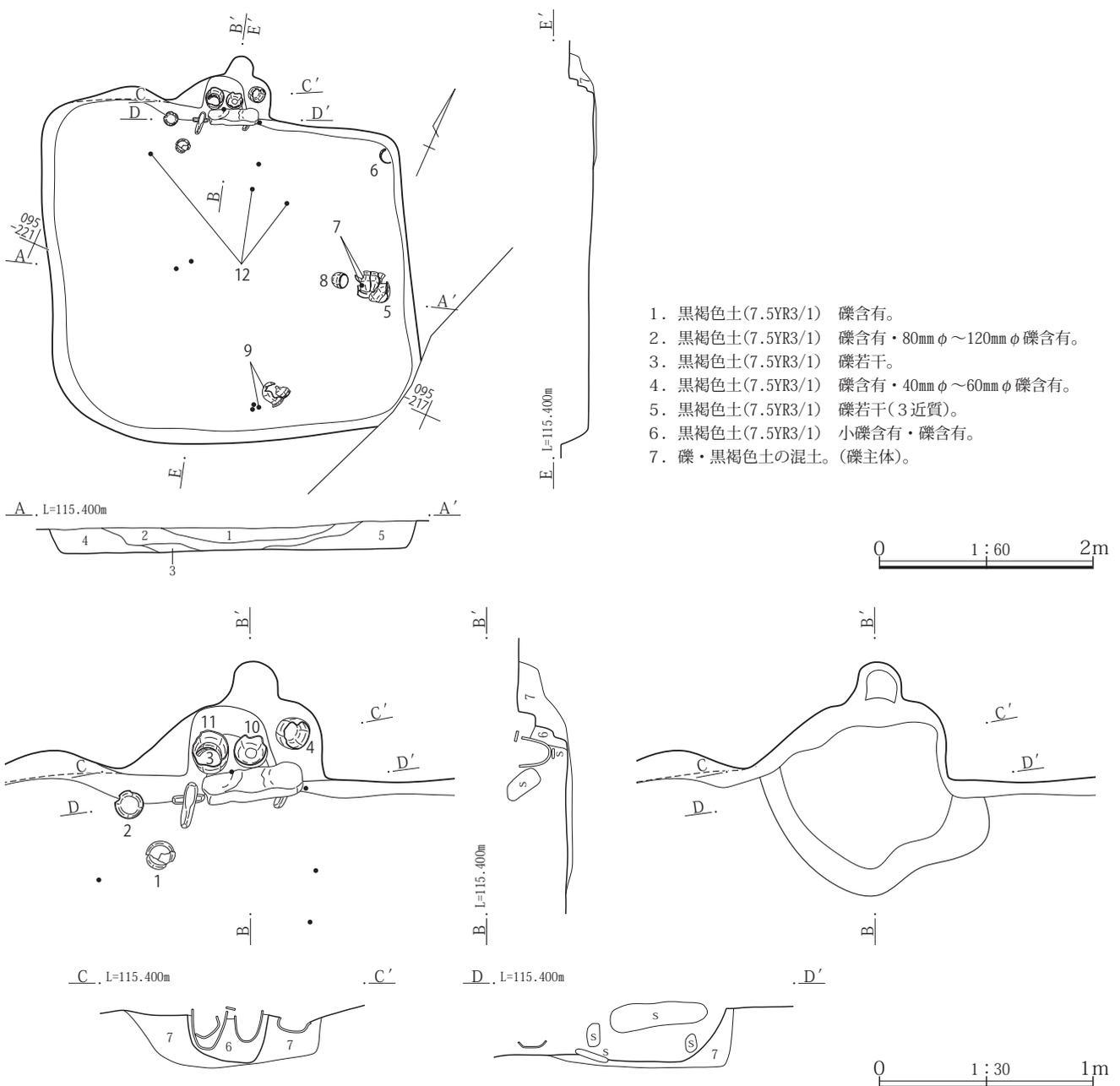
竈燃焼部の左側には土師器杯(第56図3)が中に入った状態で土師器甕(同図11)、右側には土師器甕(同図10)が礫に載った状態で2個体並んで出土した。その右脇には土師器鉢(同図4)が斜位で竈掘り方充填土あるいは崩落土中から出土した。また竈左脇にはほぼ完形の土師器杯が2個体(同図1・2)床面直上で出土した。竈前には土師器甕(同図12)の破片が散在していた。

柱穴 床面の精査では確認されなかった。

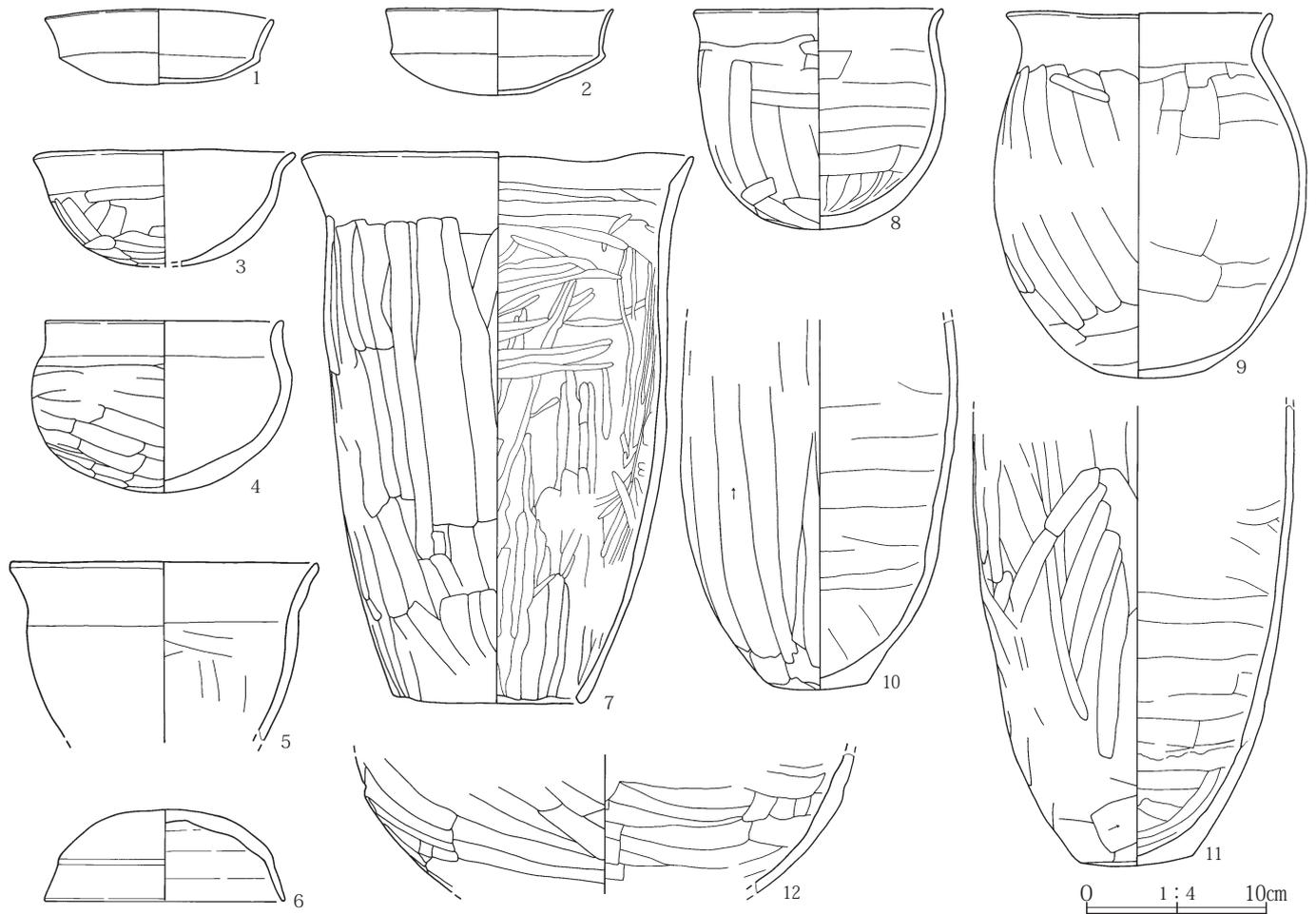
壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

掘り方 明瞭な掘り方は竈以外では確認できなかった。
遺物と出土状況 竈周辺および東壁・南壁沿いに完形に近い土器が出土した。北壁隅で須恵器蓋(第56図6)が床面直上で出土した。北東壁際で土師器小型甕(同図8)が床面直上で、床面直上の土師器有孔鉢(同図5)の上にはほぼ完形の土師器甕(同図7)が重なって出土した。南東壁沿いでは土師器甕(同図9)が床面上3cmで出土した。この他、埋没土中から土師器破片131点、塊状の鉄滓1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第55図 8-2区120号竪穴建物



第56図 8-2区120号竪穴建物出土遺物

8-2区121号竪穴建物

(第57図 PL.20・21・68 遺物観察表P.258)

グリッド 099~103・-208~-214

重複 なし。

形状 竪穴の北西部が調査区域外となることから全形は判明しなかった。検出された形状からすれば正方形と推定される。

規模 長軸4.83m 短軸(3.77)m 残存壁高0.26m

面積 計測不能 長軸方位 N-67°-E

埋没土 礫やローム粒を含有する黒褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は屋外の長さ1.21m、幅0.47mの煙道部のみで、燃烧部や袖は残存していなかった。壁際溝が掘られていることから、東壁の竈が壊されて、竈が北壁に造り直されている可能性もある。竈前床面上29cmで土師器羽釜(第57図7)が出土した。

柱穴 床面の精査で、支柱穴4本を検出した。柱穴は円形あるいは楕円形で、規模は下記の通りである。

P 1 長径0.39m 短径0.39m 深さ0.21m

P 2 長径0.45m 短径0.33m 深さ0.24m

P 3 長径0.36m 短径0.35m 深さ0.24m

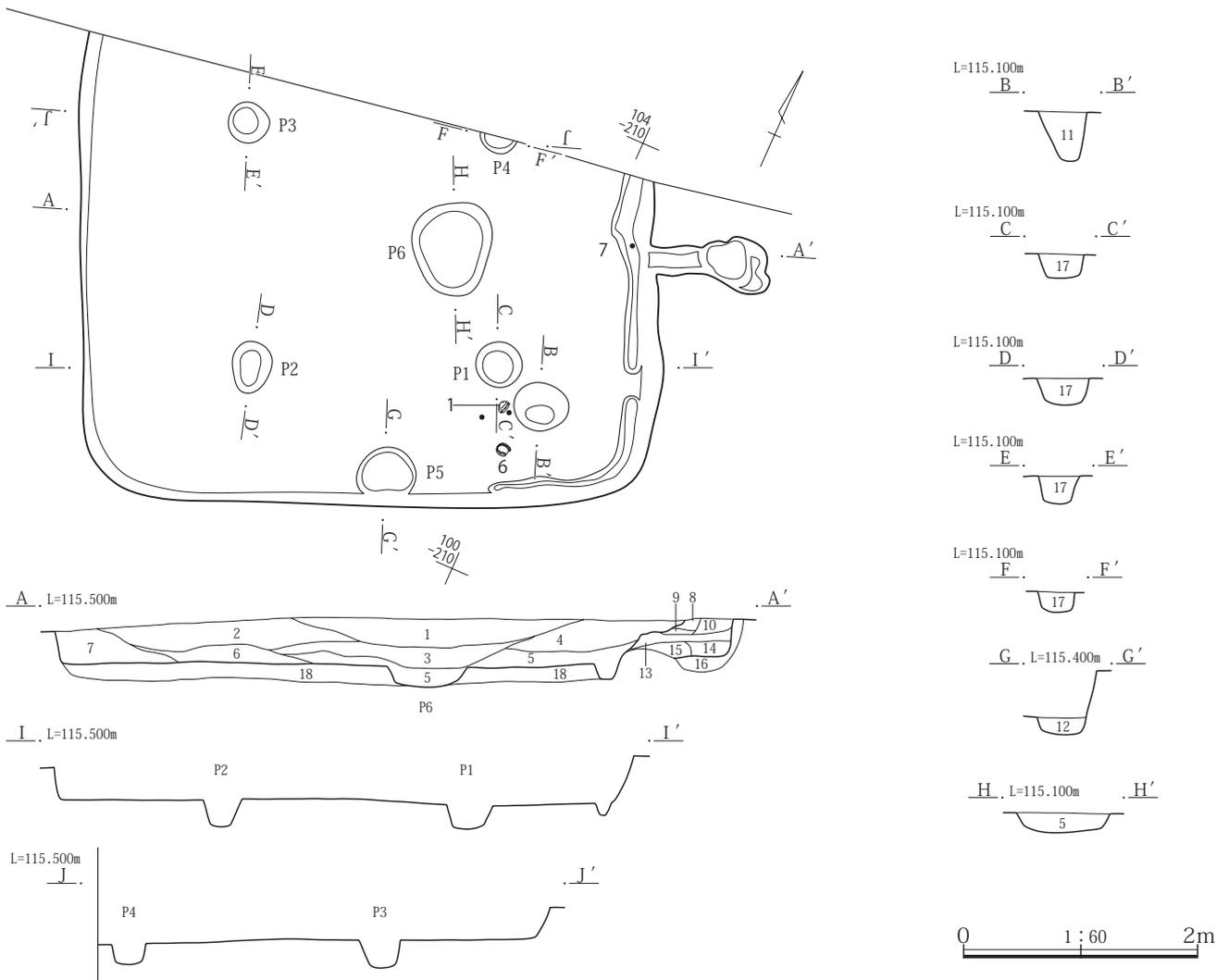
P 4 長径0.32m 短径 不明 深さ0.17m

柱間の距離はP 1・P 2間が2.10m、P 2・P 3間が2.10m、P 3・P 4間が2.12m、P 4・P 1間が2.10mである。

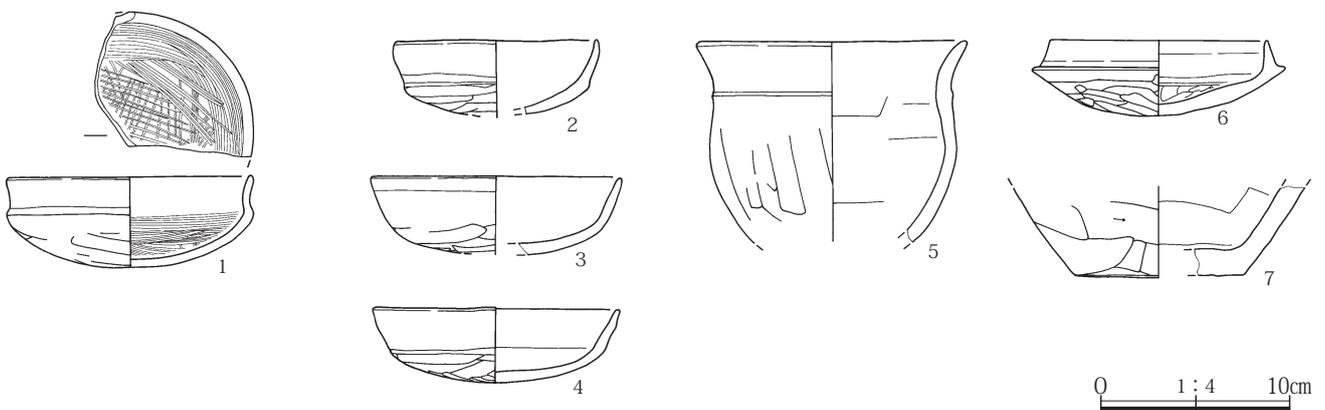
壁際溝 北東壁から東隅、南東壁にかけての壁際に、幅10~18cm、深さ1~15cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 竪穴東隅に長径0.47m、短径0.42m、深さ0.42mの貯蔵穴が検出された。貯蔵穴南東脇には土師器杯(第57図1)が床面上6cmで、須恵器杯(同図6)が床面上23cmで出土した。

また、竪穴中央部に長径0.79m、短径0.66m、深さ0.18mの楕円形の土坑(P 6)と、南東壁中央の壁際に長径



- | | |
|---|--|
| <p>1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土若干・粒状ローム土含有。</p> <p>2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入。</p> <p>3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・粗粒状ローム土若干。</p> <p>4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・粒状炭化物少量。</p> <p>5. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・小塊状ローム土含有。</p> <p>6. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・100mmφ～150mmφ礫含有。</p> <p>7. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。</p> <p>8. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・粗粒状ローム土含有。</p> <p>9. 塊状ローム土 粒状焼土少量。</p> | <p>10. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫極微量・粒状ローム土若干・粒状焼土若干。</p> <p>11. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干・粒状ローム土含有。</p> <p>12. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量。</p> <p>13. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫極微量。</p> <p>14. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫極微量・塊状ローム土少量。</p> <p>15. 塊状ローム土(改築前の煙道天井崩落土)。下面是旧竈煙道底面。</p> <p>16. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・粒状ローム土含有・粒状焼土少量。</p> <p>17. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状ローム土少量。</p> <p>18. 黒褐色土(10YR3/1)・礫・塊状ローム土の混土。</p> |
|---|--|



第57図 8-2区121号竪穴建物と出土遺物

0.50m、短径0.47m、深さ0.15mの楕円形の土坑(P 5)が床面で検出された。

掘り方 厚さ17cmの掘り方充填土を確認した。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第57図2・3・4)と土師器鉢か(同図5)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片220点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀の竪穴建物と考えられる。

8-2区122号竪穴建物

(第58図 PL.21・68 遺物観察表P.259)

グリッド 097~100・-221~-225

重複 なし。

形状 やや東辺が長い台形

規模 長軸2.95m 短軸2.74m 残存壁高0.13m

面積 7.15㎡ **長軸方位** N-78°-E

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.59m、屋外長0.17m、燃烧部長0.59m、焚口幅0.49mで、焼土や竈構築に使われた粘土はほとんど残存していなかった。焚口部にあたると推定される位置から土師器甕(第58図5)の口縁部破片が出土した。

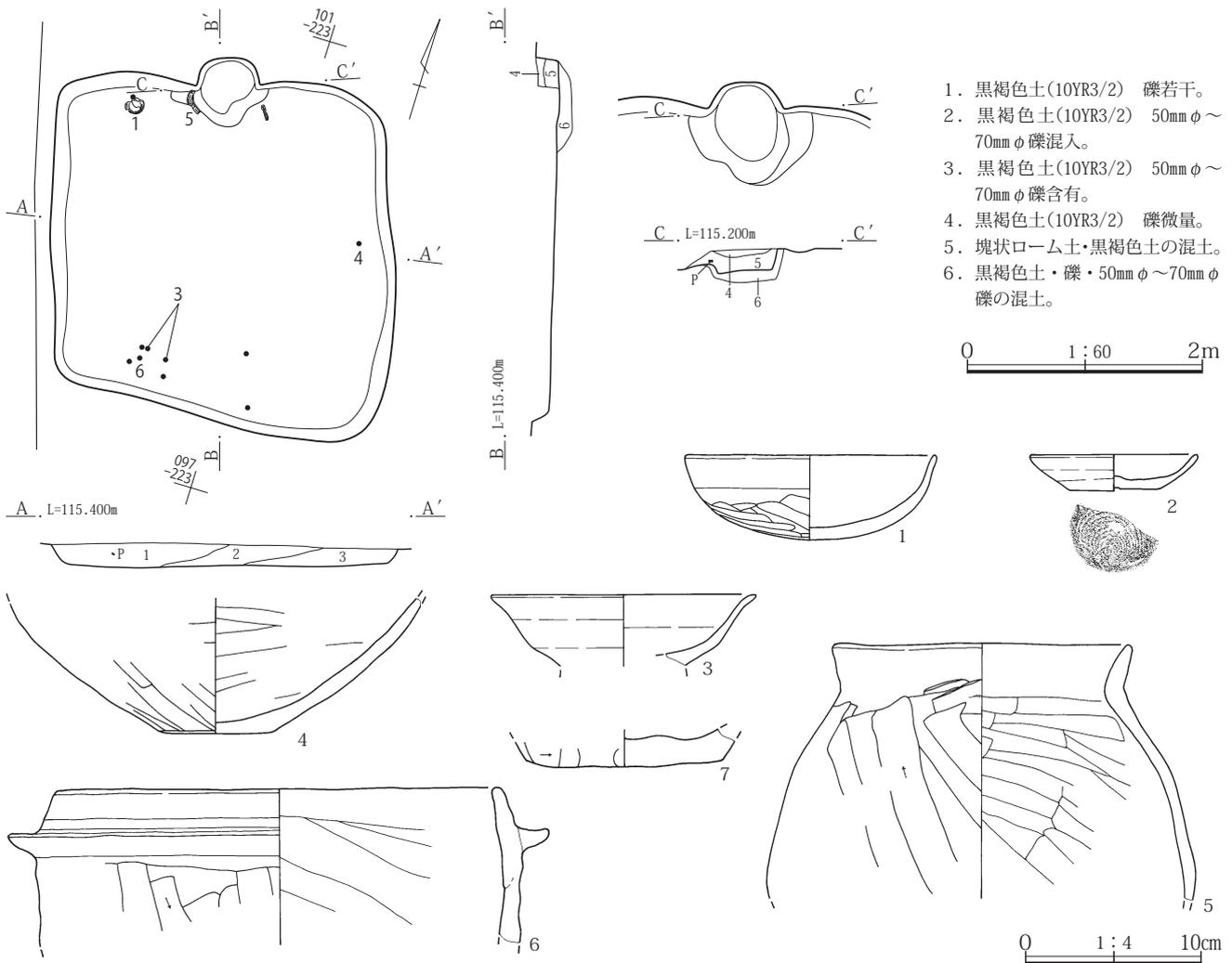
柱穴 床面の精査では確認されなかった。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 北西隅床面上13cmで土師器杯(第58図1)が、南西部で土師器甕か(同図4)が床面上12cm、土師器羽釜(同図6)が床面上12cmで出土した。東壁中央部壁際の床面上4cmで須恵器椀(同図3)が出土した。1は混入である。埋没土中から須恵器杯(同図2)、土師器羽釜(同図7)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片40点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀後半の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 50mmφ~70mmφ 礫混入。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 50mmφ~70mmφ 礫含有。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量。
5. 塊状ローム土・黒褐色土の混土。
6. 黒褐色土・礫・50mmφ~70mmφ 礫の混土。

第58図 8-2区122号竪穴建物と出土遺物

9区38号竪穴建物

(第59～61図 PL.21・22・69 遺物観察表P.259)

グリッド 068～073・-227～-232

重複 なし。

形状 東西方向がやや長い長方形

規模 長軸4.04m 短軸3.70m 残存壁高0.38m

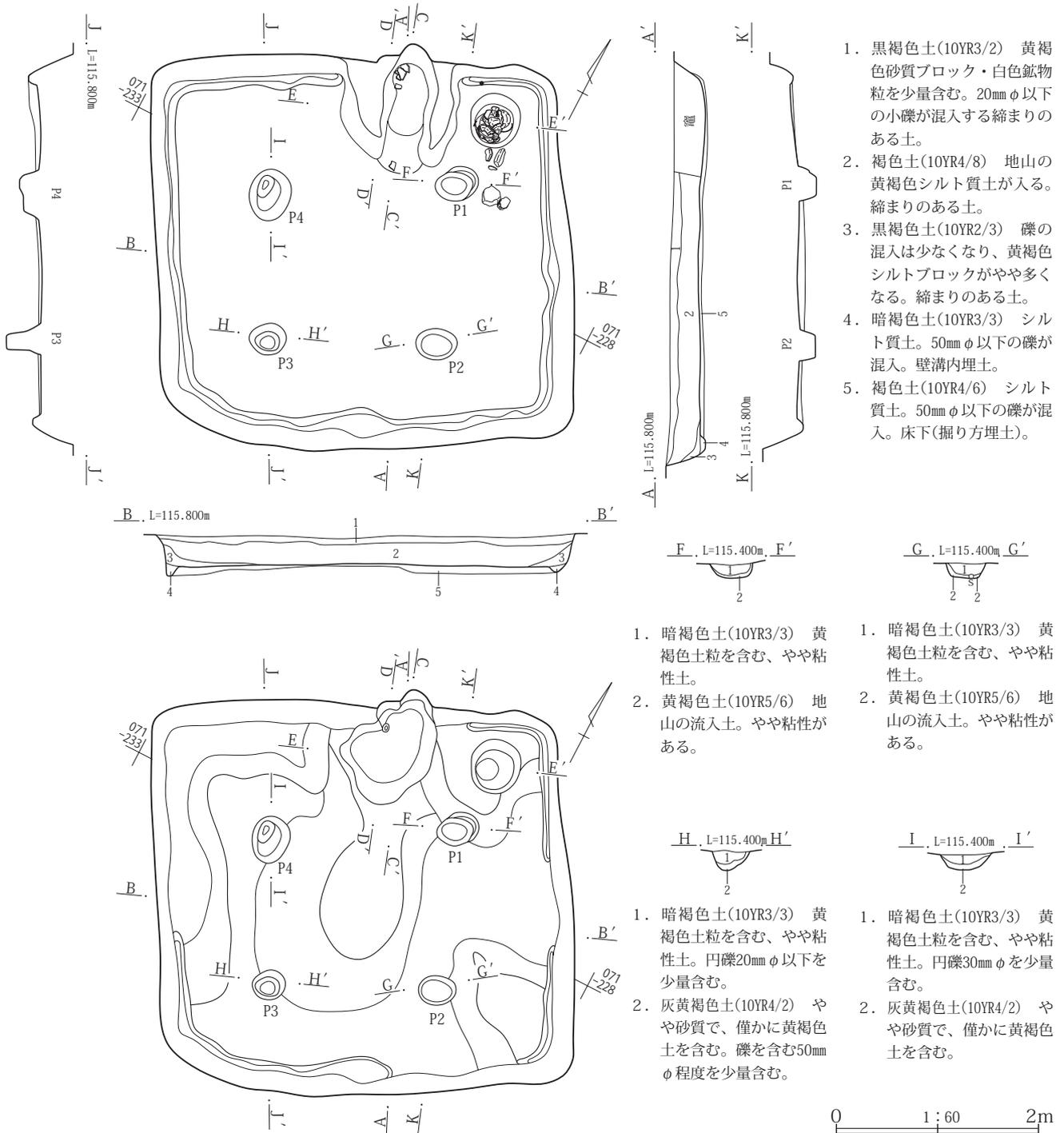
面積 10.68㎡ 長軸方位 N-63°-E

埋没土 上層は黄褐色砂質土塊、白色鉍物粒を少量含む

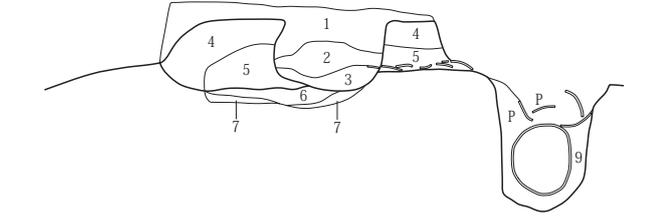
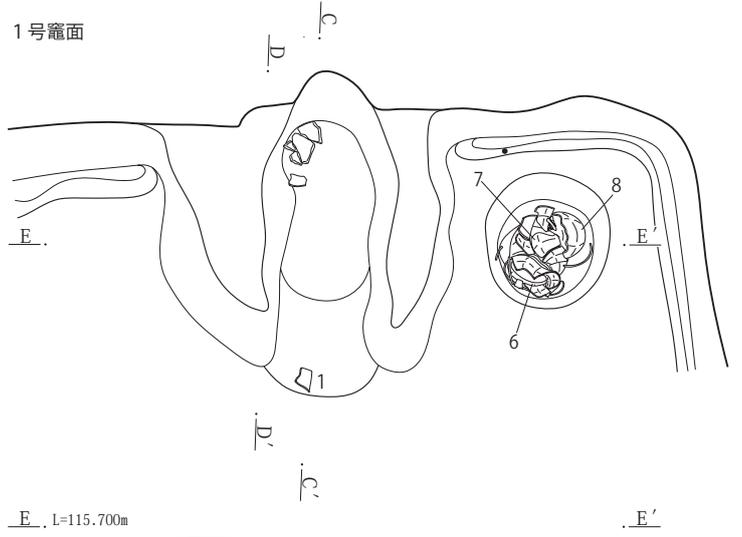
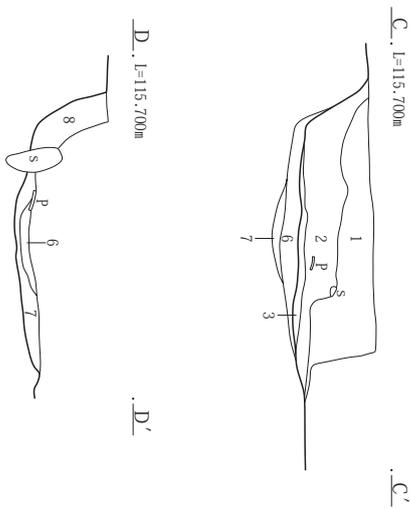
黒褐色土で、下層は黄褐色シルト質土を含む褐色土で埋まっていた。

竈 北西壁中央よりやや東側に竈が敷設されていた。本建物居住時に西から東へずらして竈を1回造り替えている。新しい竈を1号竈、古い竈を2号竈と呼ぶ。

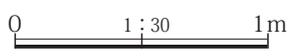
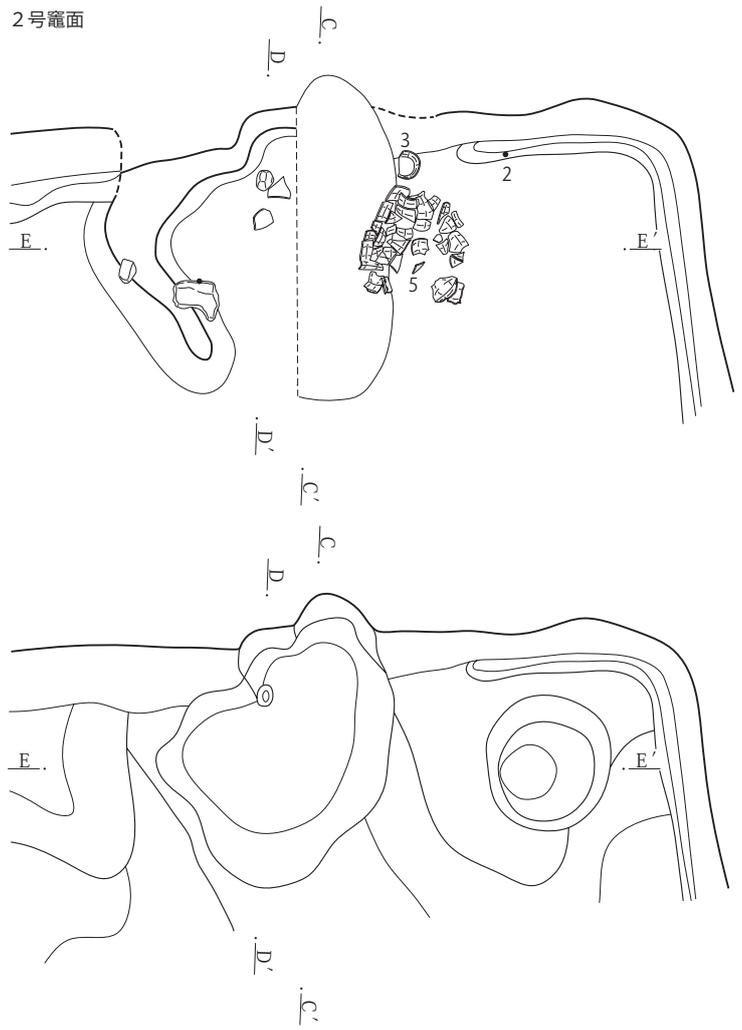
1号竈は、残存する規模は確認長1.29m、屋外長0.16m、燃烧部長1.29m、焚口幅0.50mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側1.01m、右側1.04mの長さで



第59図 9区38号竪穴建物



1. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色シルト質ブロック土が混入している。
2. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質である。焼土ブロックが混入する。縮まりがある。
3. 褐灰色土(10YR4/3) 2層に灰が混入する。やや粘性がある。床面直土である。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 白色鉍物粒と焼土ブロックを含む、硬く縮まりのある土。竈の袖構築材。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 白色鉍物粒・黄褐色シルト質土まじりで、竈内側寄りが僅かに焼土化している。縮まりのある土。竈の袖構築材。
6. 褐色シルト質(10YR4/4)が被熱をうけて赤褐色化している。
7. 褐色シルト質(10YR4/4)が被熱をうけて赤褐色ブロック状にある。
8. 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックが50%程度含まれる、かたく縮まった土。
9. 褐色土(10YR4/4) シルト質でロームブロックが30%程度入る。縮まりのある土。(貯蔵穴)



第60図 9区38号竈穴建物竈

張り出し残存していた。焚口部使用面直上で土師器杯(第61図1)が出土した。また、右脇床面直上で土師器杯(同図3)が出土した。

2号竈は左半分の袖下部と使用面が残存しているのみであった。1号竈の右袖部下には2号竈使用時にその右脇にあたる位置に土師器甕(同図5)が押しつぶされたような状態で出土した。

柱穴 床面で支柱穴4本が検出された。4本を結んだ線は正方形でなく、東隅のP2がやや西にずれており台形である。したがってP1・P2間とP2・P3間の柱通りは直交しないことになる。支柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.43m 短径0.34m 深さ0.18m

P2 長径0.40m 短径0.33m 深さ0.16m

P3 長径0.35m 短径0.33m 深さ0.34m

P4 長径0.52m 短径0.41m 深さ0.19m

柱間の距離はP1・P2間が1.57m、P2・P3間が1.68m、P3・P4間が1.57m、P4・P1間が1.88m

である。

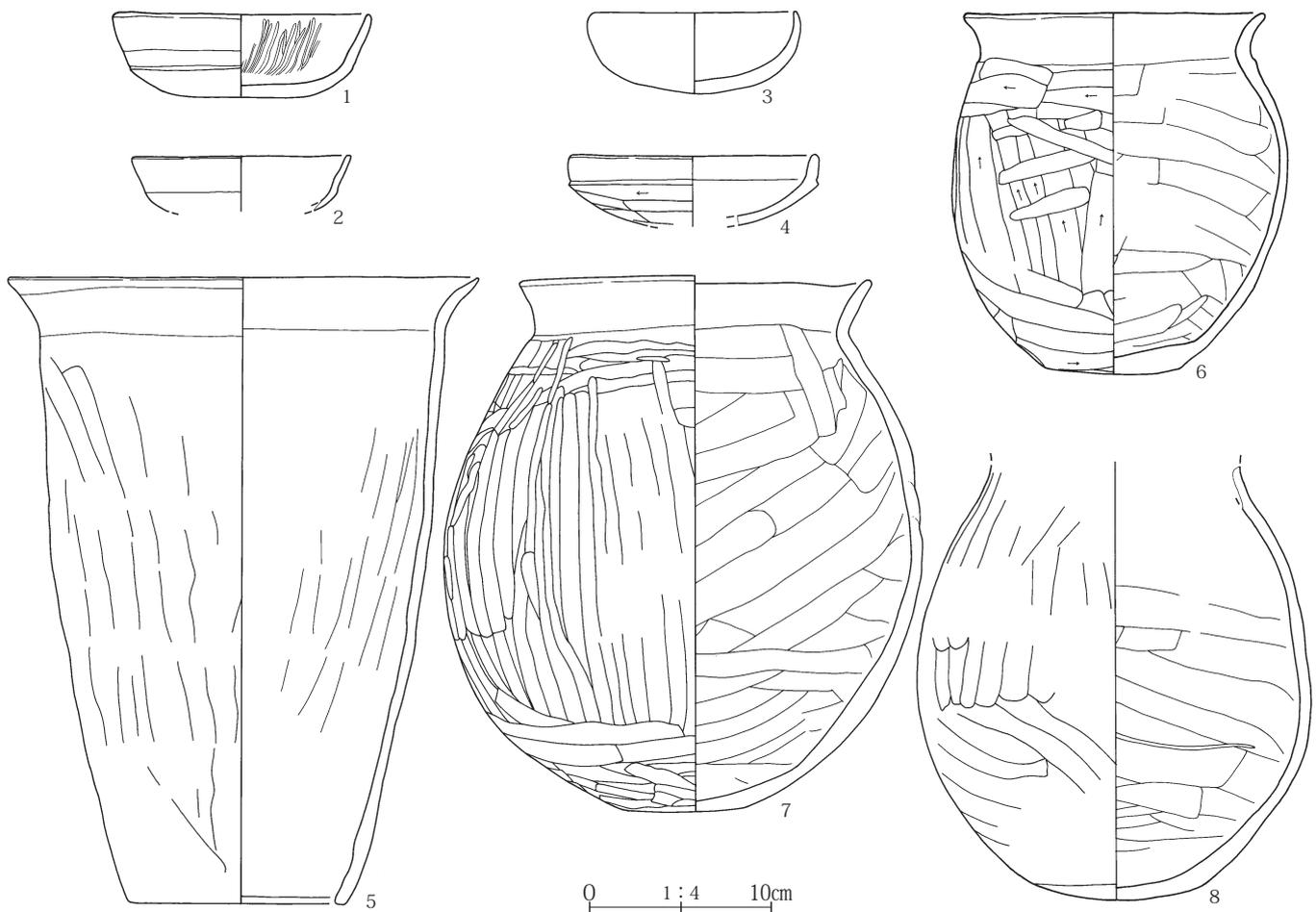
壁際溝 幅8~17cm、深さ5~9cmの壁際溝が全周していた。

貯蔵穴 北隅の1号竈右脇に、長軸0.54m、短軸0.52m、深さ0.51mのほぼ円形の貯蔵穴が掘られていた。貯蔵穴内には完形に近い土器3個体が埋まっていた。底面上6cmに土師器甕(第61図7)が完形で、その上に土師器甕(同図6)と土師器甕(同図8)が重なって出土した。貯蔵穴の北壁際溝内には土師器杯(同図2)が出土した。

掘り方 中央部で厚さ5cm、壁際周縁部で10cmの掘り方充填土の下に掘り方面を検出した。中央部は平坦であったが、壁際周縁部は幅1.4mほどが壁に沿って深く掘り込まれていた。

遺物と出土状況 前述したように竈と貯蔵穴に集中して遺物が出土した。埋没土中から土師器杯(第61図4)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片156点、二次加工ある剥片1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第61図 9区38号竪穴建物出土遺物

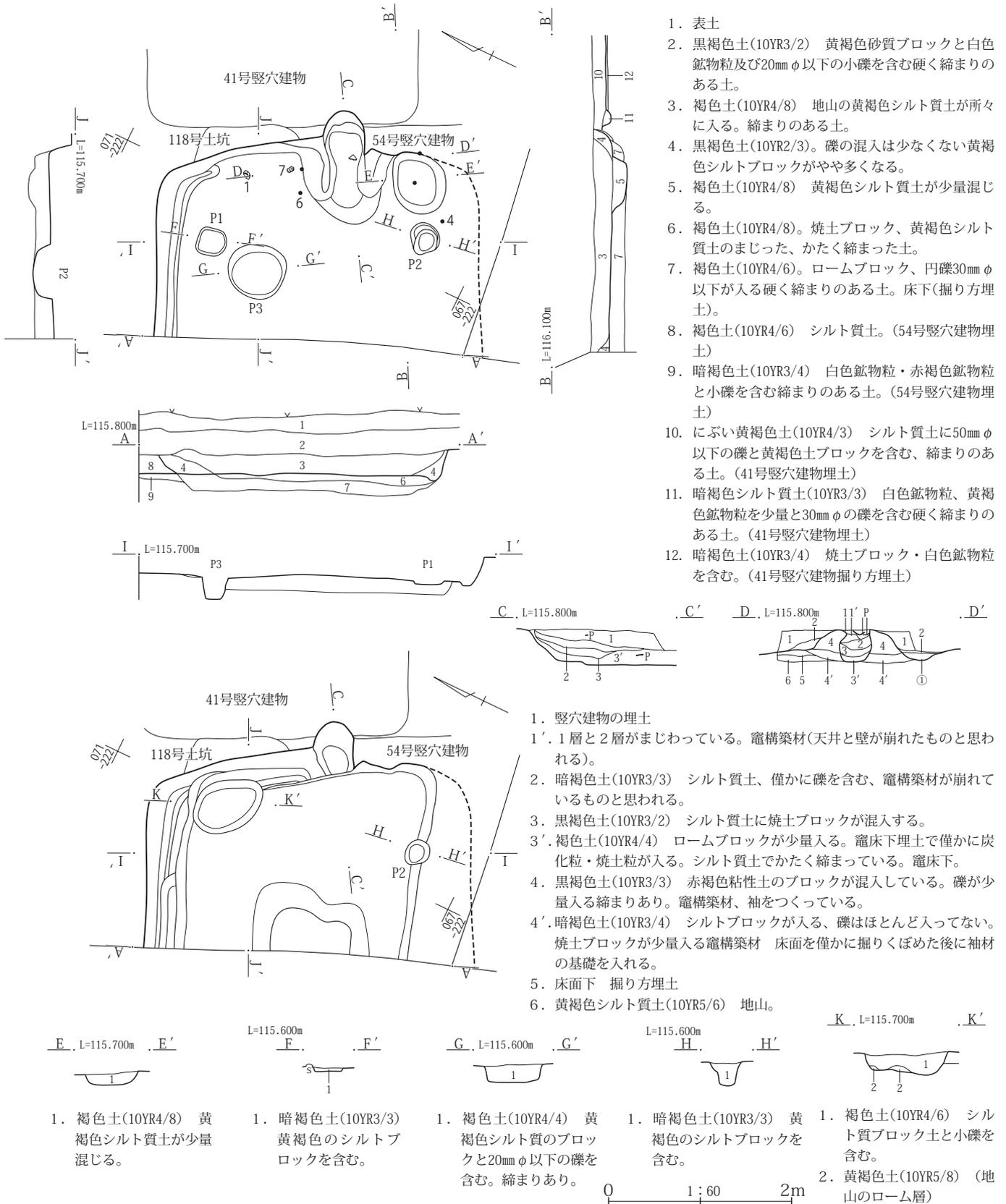
9区39号竪穴建物

(第62・63図 PL.22・23・69 遺物観察表P.259)

グリッド 067~070・-220~-223

重複 41号竪穴建物、54号竪穴建物より新しく、118号土坑より古い。

形状 西側は既存道路の保全のため、南側は54号竪穴建



第62図 9区39号竪穴建物

物との重複で全形を把握することができなかったが、南北方向に長い長方形と推定される。西側には54号竪穴建物の北西隅があることから、39号竪穴建物の西壁は既存道路部分に位置すると推定される。南壁については明瞭に確認することができなかったが、支柱穴と推定されるP1・P2の位置から推定した。

規模 東西軸(2.13)m 南北軸3.14m 残存壁高0.28m

面積 計測不能 **長軸方位** N-23°-E

埋没土 黄褐色シルト質土を混じる褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.96m、屋外長0.40m、燃烧部長0.82m、焚口幅0.48mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.59m、右側0.53mの長さで張り出し残存していた。竈左脇床面直上で土師器台付甕脚部(第63図7)が出土した。埋没土中から土師器杯(同図2・3)と土師器甕(同図8)が出土した。また掘り方埋没土中から土師器鉢(同図5)が出土した。

柱穴 床面で支柱穴と推定されるピットが2本検出された。その規模は下記の通りである。

P1 長径0.32m 短径0.29m 深さ0.41m

P2 長径0.35m 短径0.33m 深さ0.25m

P1・P2の柱間の距離は2.30mである。

壁際溝 北西壁際に幅10~16cm、深さ4~7cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 南東隅の竈右脇に、長軸0.67m、短軸0.57m、深さ0.15mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。少量の土器破片が出土したのみであった。

掘り方 中央部で厚さ16cm、壁際周縁部で19cmの掘り方充填土の下に掘り方面を検出した。中央部は平坦であっ

たが、壁際周縁部は幅1.0mほどが壁に沿って深く掘り込まれていた。特に南東部はやや内側に高さ15cmほどの明瞭な段が認められた。

遺物と出土状況 北東部壁際で土師器杯(第63図1)が床面直上で出土した。竈左脇で土師器甕(同図6)が床面上9cmで出土した。貯蔵穴南脇では土師器高杯(同図4)が床面上11cmで出土した。その他、埋没土中から土師器破片121点、掘り方埋没土中から二次加工のある剥片も出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。遺構の形状については不明な点が多く、推定にとどまる。

9区40号竪穴建物

(第64・65図 PL.23・68 遺物観察表P.259・260)

グリッド 068~071・-214~-218

重複 41号竪穴建物より新しく、106号土坑より古い。床面中央部は現代の掘削機械により一部壊されていた。

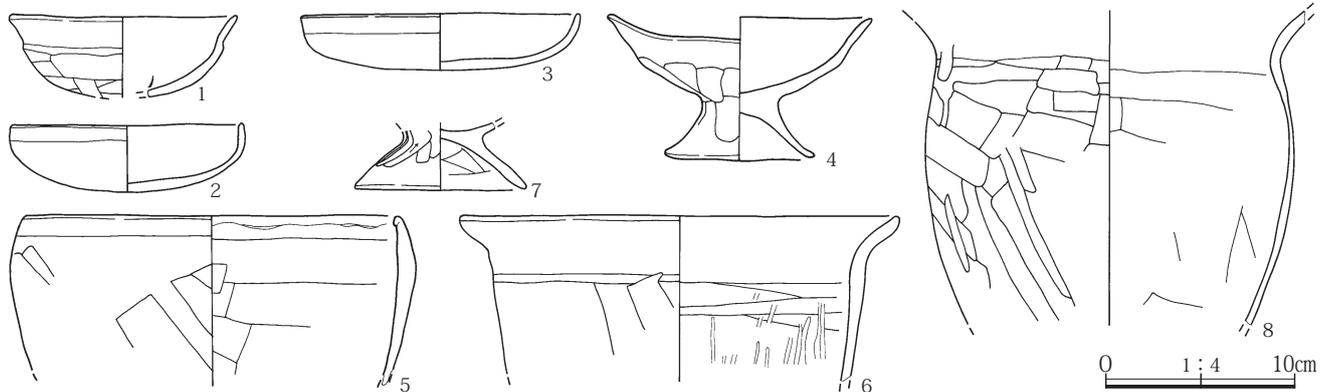
形状 正方形

規模 長軸3.28m 短軸3.01m 残存壁高0.22m

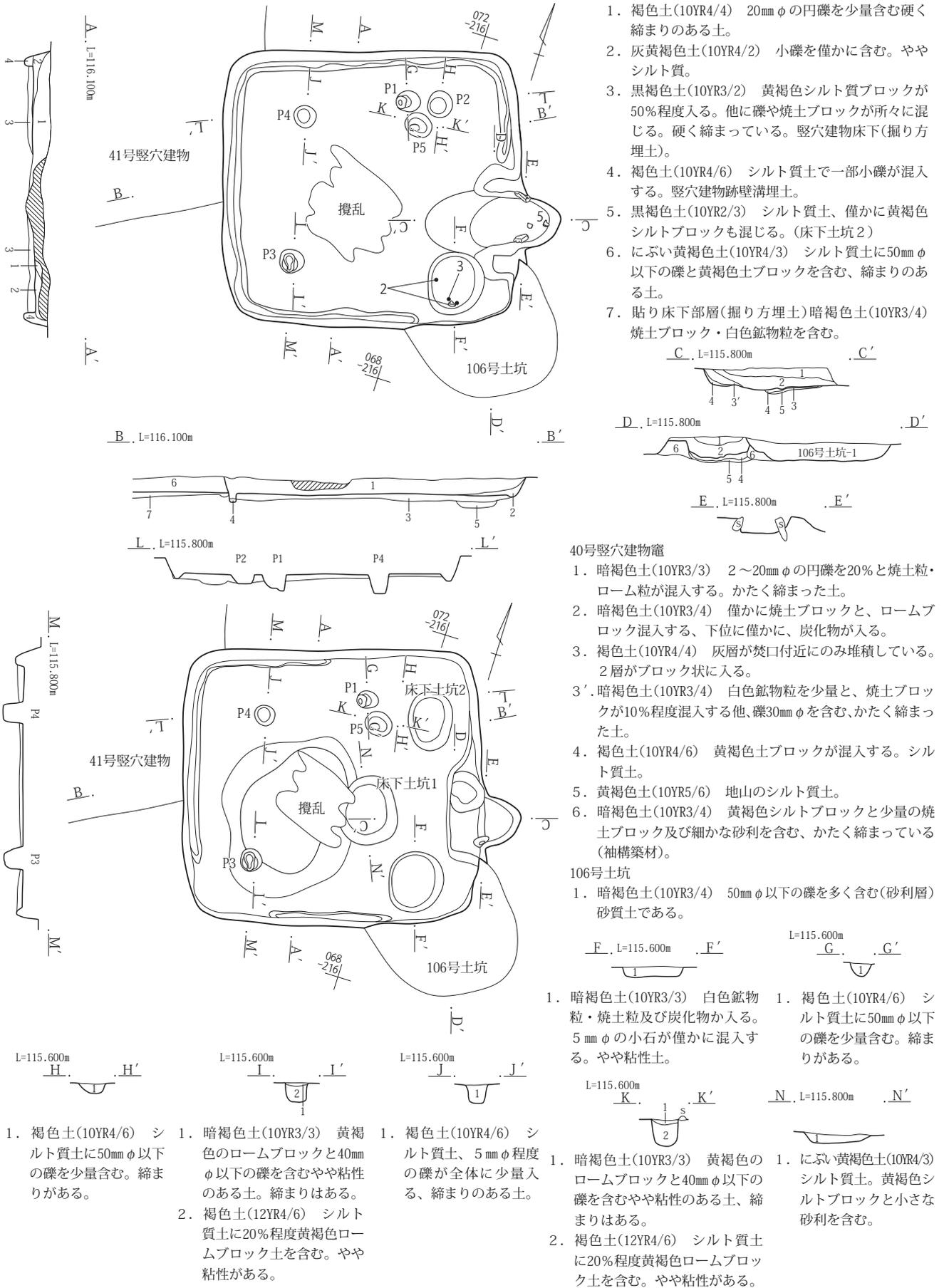
面積 7.44㎡ **長軸方位** N-72°-E

埋没土 円礫を少量含む褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.96m、屋外長0.48m、燃烧部長0.96m、焚口幅0.82mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.51m、右側0.44mの長さで張り出し残存していた。燃烧部の両側に角礫が2点残されていた。竈と竪穴壁の交点に立てられており、竈内壁を形成していたと推定される。煙道底面上8cmで土師器杯(第65図5)が出土した。また竈埋没土中から土師器杯(同図4)、土師器小型甕(同図6)が出土した。



第63図 9区39号竪穴建物出土遺物



第64図 9区40号竪穴建物

柱穴 床面で4本の柱穴の可能性のあるピットを検出した。このうち、深さや位置から支柱穴と考えられるのはP3・P4であり、P1・P2は位置や深さが支柱穴とするには問題があった。また掘り方でP1に近接してP5を検出した。P2は掘り方面まで達していなかった。なお、南東隅の支柱穴は床面および掘り方面を精査したが、検出できなかった。各ピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.27m 短径0.24m 深さ0.18m

P2 長径0.30m 短径0.27m 深さ0.10m

P3 長径0.28m 短径0.26m 深さ0.21m

P4 長径0.25m 短径0.25m 深さ0.22m

P5 長径0.31m 短径0.27m 深さ0.33m

柱間の距離はP3・P4間が1.64mである。

壁際溝 南東隅を除き、幅8～15cm、深さ4～10cmの壁際溝がほぼ全周していた。

貯蔵穴 南東隅、竈右脇に長軸0.72m、短軸0.64m、深さ0.14mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。土師器杯(第65図3)が底面上2cmで、土師器杯(同図2)が底面上9cmで出土した。

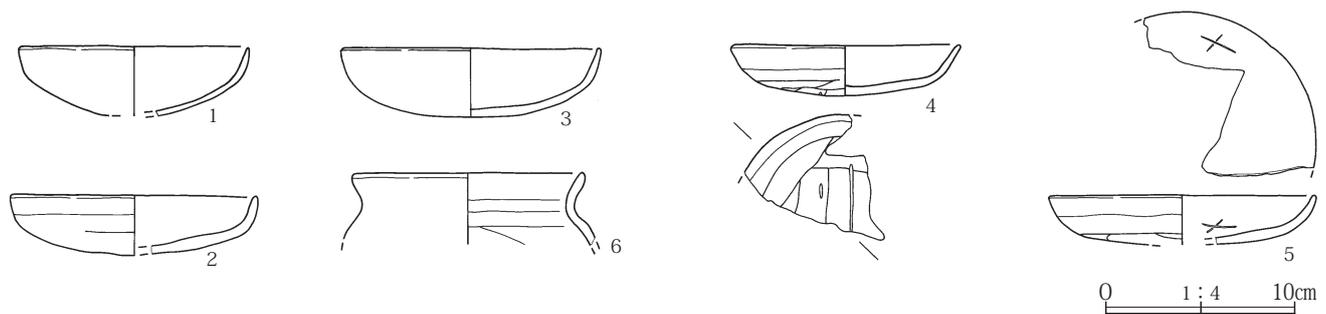
掘り方 中央部では掘り方は認められなかった。周縁部には4～7cm掘り込まれた掘り方面が検出された。床面で検出されたP2は浅いために、掘り方面では掘り込みが見られなかった。中央やや竈寄りには1号、竈左脇には2号床下土坑が検出された。それぞれの規模は下記の通りである。

1号 長径0.78m、短径0.65m、深さ0.11m

2号 長径0.66m、短径0.49m、深さ0.06m

遺物と出土状況 埋没土中から、土師器杯(第65図1)と二次加工ある剥片1点が出土した。この他に埋没土中から土師器破片69点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第65図 9区40号竪穴建物出土遺物

9区41号竪穴建物

(第66・67図 PL.23・24・69 遺物観察表P.260)

グリッド 068～071・-218～-221

重複 39号竪穴建物、40号竪穴建物、42号竪穴建物、118号土坑より古い。

形状 東壁が一部を除き40号竪穴建物に、北東隅が42号竪穴建物に壊されているが、東西方向にやや長い方形と判断できる。

規模 長軸3.35m 短軸2.95m 残存壁高0.19m

面積 計測不能 **長軸方位** N-63°-E

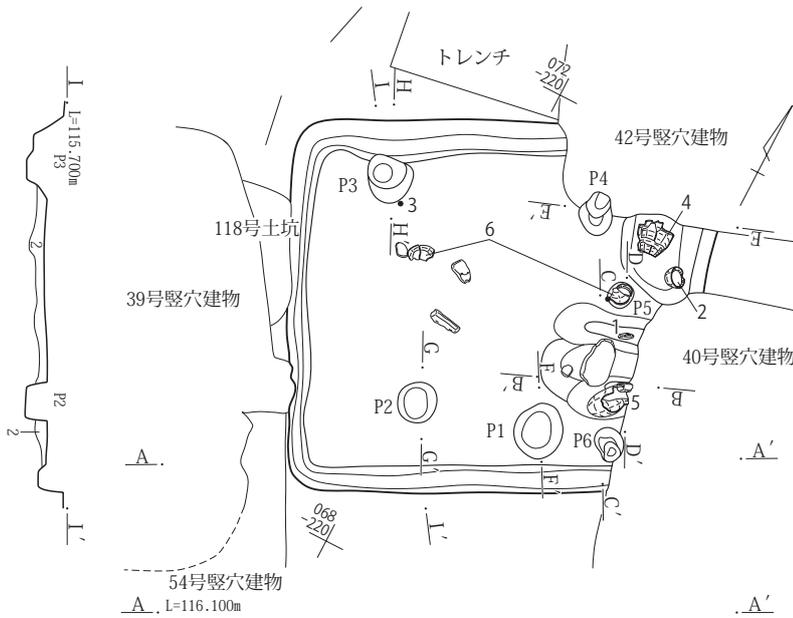
埋没土 小礫と黄褐色土塊を含むにぶい黄褐色シルト質土で埋まっていた。

竈 東壁中央の南側に竈が敷設されていた。竈の煙道側部分は41号竪穴建物の掘り込みによって壊されていた。残存する竈の規模は確認長0.75m、残存燃焼部長0.60m、焚口幅0.66mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.69m、右側0.48mの長さで張り出し残存していた。燃焼部のほぼ中央の左右壁には左に長さ30cm、右に長さ24cmの棒状礫が小穴を穿って1本ずつ立てられており、袖の芯材として据えたものと推定される。この礫が袖の先端であった可能性もある。その棒状礫のすぐ手前には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ34cm、幅12cm、厚さ9cm)が竈使用面から3cm浮いた位置で残されていた。

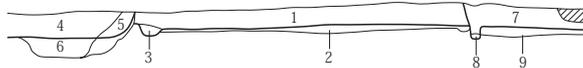
竈右袖の崩落土の中には、口縁部を欠いた状態の土師器甕(第67図5)が横位で出土した。

柱穴 床面で6本の柱穴と考えらるピットを検出した。このうち支柱穴は、建物対角線上にあるP2とP4である。P1・5・6は他の用途が考えられるが、特にP5・P6は竈先端の両脇にあり規格性がある。竈周辺の構造物に関連したものと推定される。竈左脇のP5底面直上では土師器杯(第67図1)がほぼ完形で二つに割れた状態

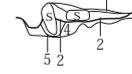
第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物



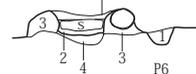
1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト質土に50mmφ以下の礫と黄褐色土ブロックを含む、締めりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土ブロック・白色鉱物粒を含む。貼り床下部層(掘り方埋土)。
3. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 白色鉱物粒、黄褐色鉱物粒を少量と30mmφの礫を含む硬く締めりのある土。
4. 褐色土(10YR4/8) 地山の黄褐色シルト質土が所々に入る。締めりのある土。
5. 黒褐色土(10YR2/3) 礫の混入は少ない黄褐色シルトブロックがやや多くなる。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色シルト質土(地山)が混じる。
7. 褐色土(10YR4/4) 20mmφの円礫を少量含む硬く締めりのある土。
8. 竖穴建物跡壁溝埋土 褐色土(10YR4/6) シルト質土で一部小礫が混入する。
9. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色シルト質ブロックが50%程度入る。他に礫や焼土ブロックが所々に混じる。硬く締まっている。竖穴建物床下(掘り方埋土)。



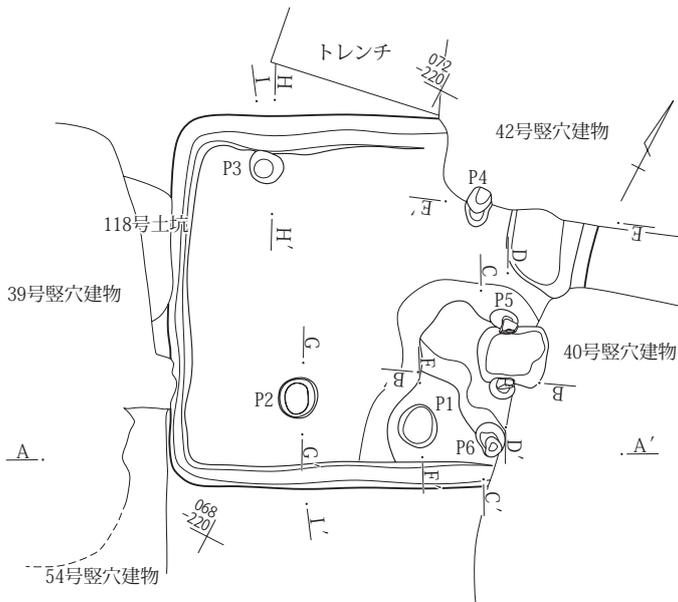
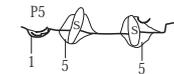
B, L=115.800m B'



C, L=115.800m C'



D, L=115.800m D'



41号竖穴建物竈

1. 黒褐色土(10YR3/2) 20~30mmφの礫を多く含む。締めりのある土。
2. 褐色土(10YR4/3) シルト質土。竈内の埋土。白色鉱物粒を少量含む。
3. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を含むシルト質土。袖が崩れている。
4. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに小礫・炭化物・焼土を含む。締めりのある土。
5. 黒褐色土(10YR2/3) 小さいロームブロックを多く含む。

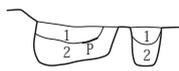
41号竖穴建物ピット5

1. 褐色土(10YR4/6) 締めりのある土。

41号竖穴建物ピット6

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小礫を少量含む。

E, L=115.800m E'



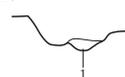
F, L=115.800m F'



G, L=115.800m G'



H, L=115.800m H'



41号竖穴建物貯蔵穴

1. 褐色土(10YR4/4) 焼土ブロック、小礫を含む、締めりのある土。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに焼土粒が混じるシルト質土。

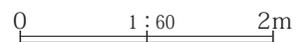
41号竖穴建物ピット4

1. 褐色土(10YR4/6) 20mmφ以下の礫を少量とロームブロックが混入する。締めりのある土。
2. 暗褐色シルト質土(10YR3/3)

1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) ロームブロックを50%程度と礫を少量含む。締めりのある土。

1. 暗褐色シルト質土(10YR3/4) 小礫と小さなロームブロックを20%程度含む。

1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) ロームブロックを20%程度と礫を少量含む。締めりのある土。



第66図 9区41号竖穴建物

で出土した。P 5は浅く後述する掘り方面までは達していなかった。

各ピットの規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.44m 短径0.38m 深さ0.14m
 P 2 長径0.32m 短径0.30m 深さ0.18m
 P 3 長径0.39m 短径0.34m 深さ0.17m
 P 4 長径0.34m 短径0.24m 深さ0.37m
 P 5 長径0.22m 短径0.19m 深さ0.08m
 P 6 長径0.27m 短径0.21m 深さ0.16m

壁際溝 残存していた北壁・西壁・南壁に沿って、幅8～16cm、深さ2～7cmの壁際溝が全周していた。

貯蔵穴 竈左脇の東壁沿いに残存長径0.68m、短径0.62m、深さ0.30mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。大小の土師器甕(第67図2・4)が、それぞれ貯蔵穴底面上2cm、床面直上で出土した。

掘り方 厚さ4～7cmの掘り方充填土の下に掘り方面を検出した。竈部分はやや掘り込みが浅く台状になっていた。

遺物と出土状況 西部床面直上から土師器甕(第67図6)が出土した。この土器にはP 5出土の破片が接合した。またP 3東脇の床面上3cmで土師器鉢か(同図3)の口縁

部破片が出土した。その他、埋没土中から土師器破片87点、須恵器破片5点出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

9区42号竪穴建物

(第68・69図 PL.24・25・70 遺物観察表P.260)

グリッド 071～078・-215～-221

重複 41号竪穴建物、120号土坑より新しい。

形状 南北方向にやや長い長方形

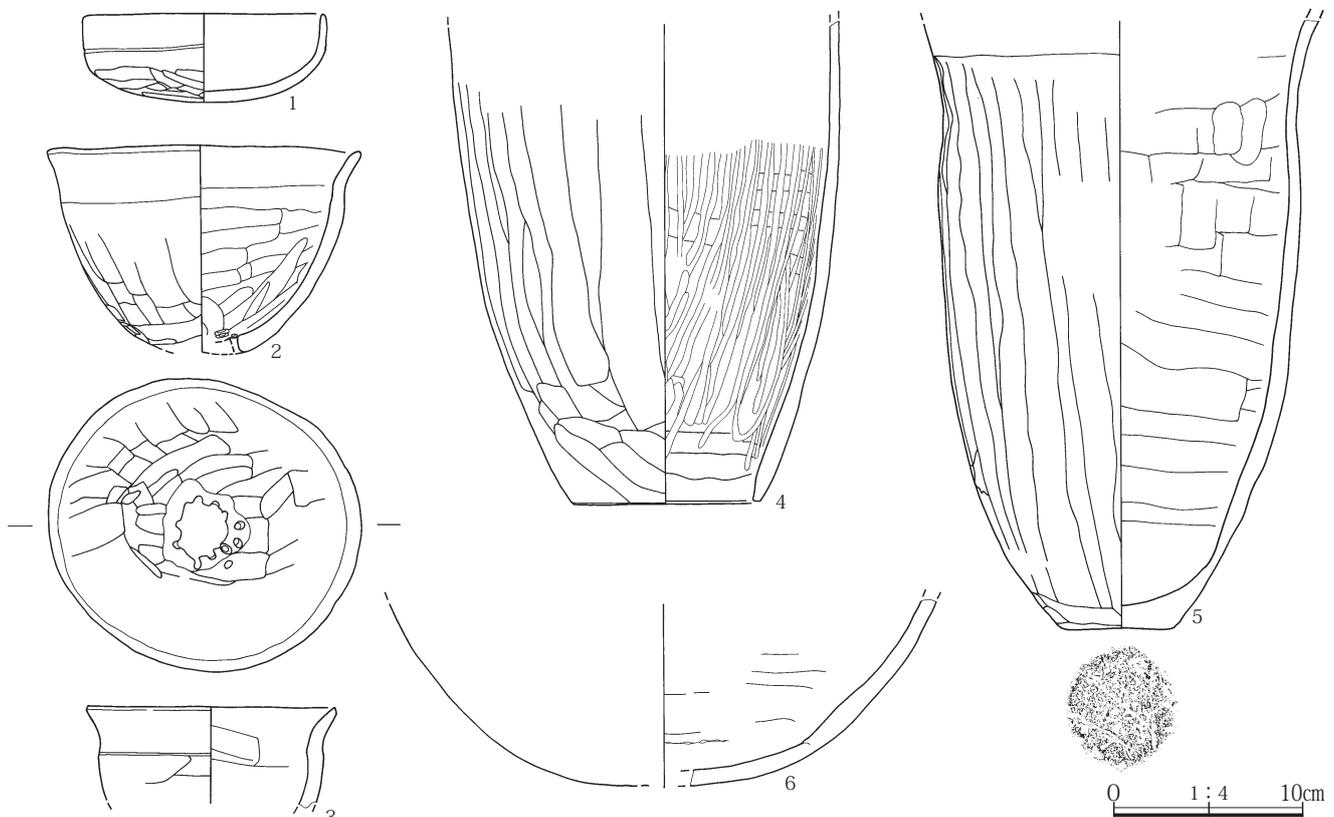
規模 長軸5.61m 短軸4.93m 残存壁高0.48m

面積 20.93㎡ **長軸方位** N-21°-W

埋没土 礫や炭化物粒、黒色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。床面直上は褐色のシルト質土が覆っていた。

竈 東壁中央のすぐ北側の位置に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.22m、屋外長0.37m、燃焼部長1.22m、焚口幅0.91mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.81m、右側0.89mの長さで張り出し残存していた。構造に関わる礫や使用されたとみられる大型の土器は残されていない。

柱穴 床面で支柱穴4本を検出した。このうち南東隅のP 2はやや北側にずれた位置にあった。また、P 3の南



第67図 9区41号竪穴建物出土遺物

側には壁周溝の縁にP 5が検出された。

各柱穴の規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.35m 短径0.35m 深さ0.36m
- P 2 長径0.36m 短径0.36m 深さ0.34m
- P 3 長径0.41m 短径0.37m 深さ0.35m
- P 4 長径0.40m 短径0.40m 深さ0.21m
- P 5 長径0.34m 短径0.32m 深さ0.12m

柱間の距離はP 1・P 2間が2.50m、P 2・P 3間が2.94m、P 3・P 4間が2.72m、P 4・P 1間が2.84mである。

壁際溝 竈のある東下壁を除いて、幅10~20cm、深さ7

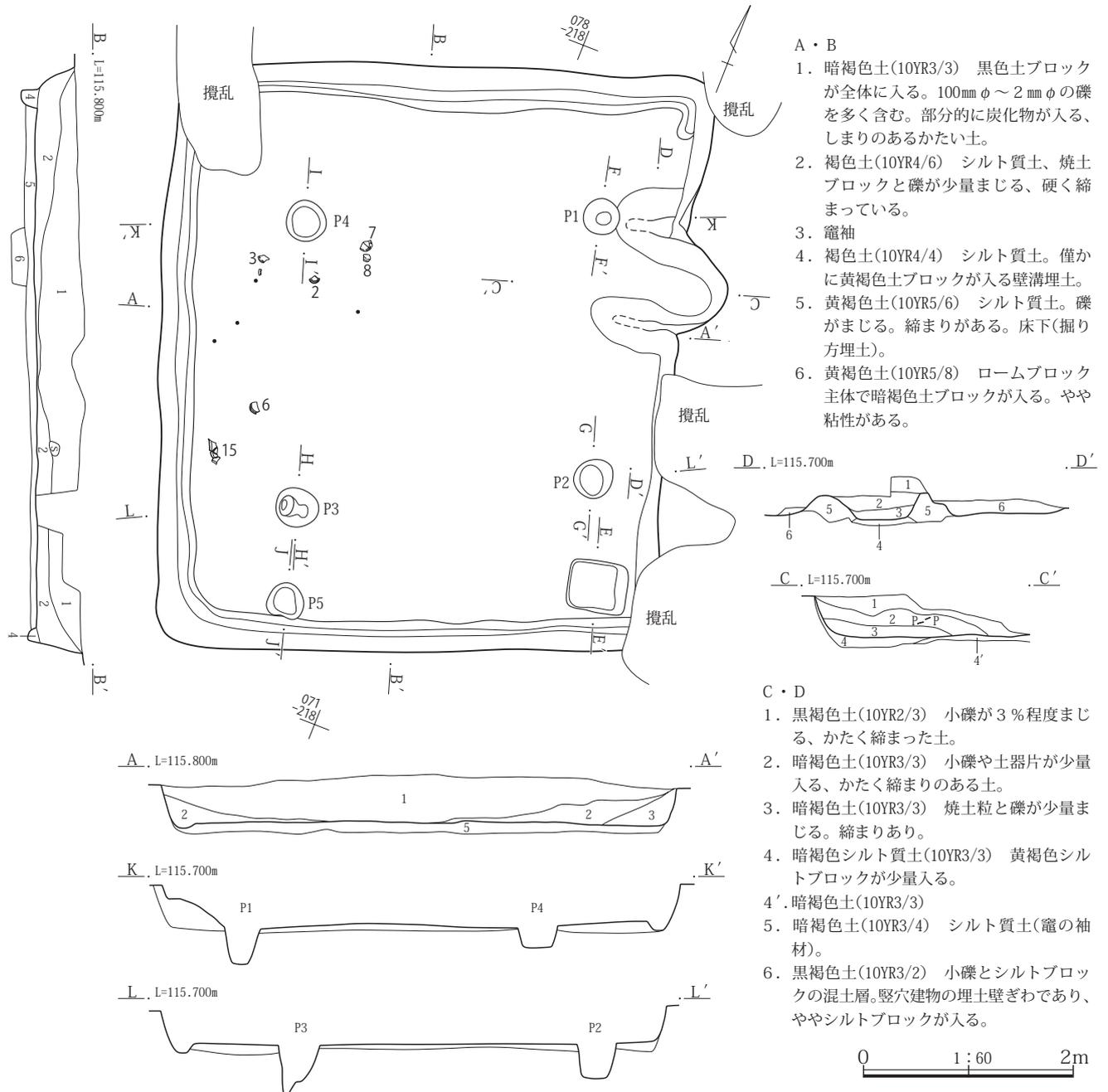
~15cmの壁際溝が全周していた。

貯蔵穴 南東隅に長軸0.56m、短軸0.49m、深さ0.25mの方形の貯蔵穴が掘られていた。

掘り方 厚さ5~7cmの掘り方充填土の下に掘り方面を検出した。掘り方面には緩やかな凹凸がみられた。中央やや北側に、方形の1号床下土坑が検出された。

1号 長軸0.62m 短軸0.51m 深さ0.12m

遺物と出土状況 南西部壁際溝脇で、土師器杯(第69図6)が床面上6cm、土師器甕(同図15)が床面上4cmで出土した。主柱穴P 3南東部では土師器杯(同図3)が床面上12cmで、土師器杯(同図2)が床面上8cmで、土師器杯

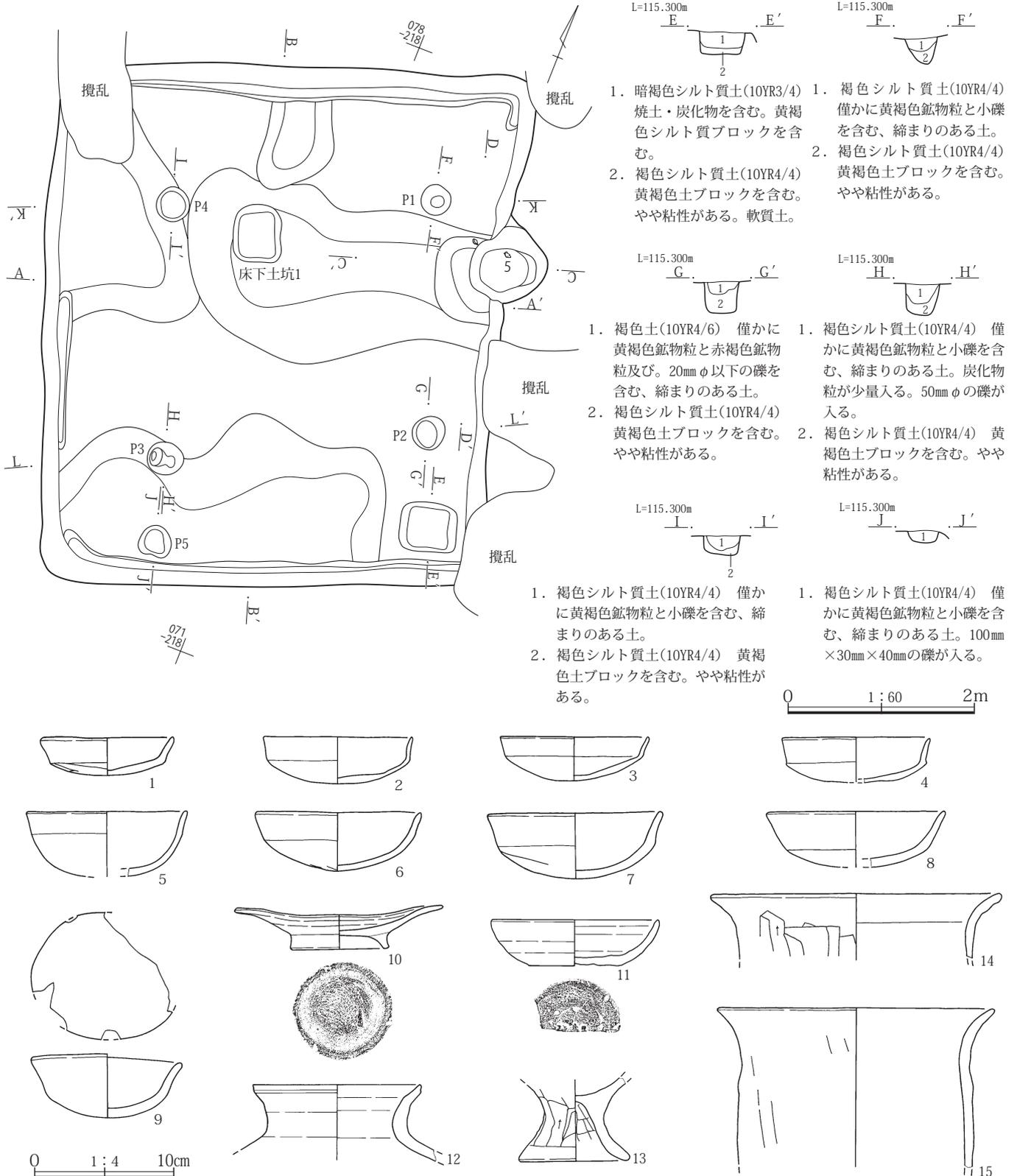


第68図 9区42号竈穴建物

(第69図8)が床面上16cmで、土師器杯(同図7)が床面上11cmで出土した。また、土師器杯(同図5)が竈掘り方面上4cmで出土した。土師器杯(同図1・4・9)、土師器台付甕(同図13)、土師器甕(同図14)、須恵器皿(同図

10)、須恵器杯(同図11)、須恵器壺か(同図12)が埋没土中から出土した。この他、土師器破片345点、須恵器3点が埋没土中から出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第69図 9区42号竪穴建物掘り方と出土遺物

9区43号竪穴建物

(第70図 PL.25 遺物観察表P.261)

グリッド 077~081・-208~-212

重複 なし。

形状 北西隅が調査区域外になり全形は把握できなかったが、方形と推定される。

規模 長軸(3.53)m 短軸3.52m 残存壁高0.43m

面積 計測不能 長軸方位 N-24°-E

埋没土 小礫と黄褐色・赤褐色鉍物粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では竈は検出されなかったが、北隅の土層断面には竈崩落土が堆積しており、北東壁に竈が敷設されていたと推定される。

柱穴 床面および掘り方面の精査では確認できなかった。

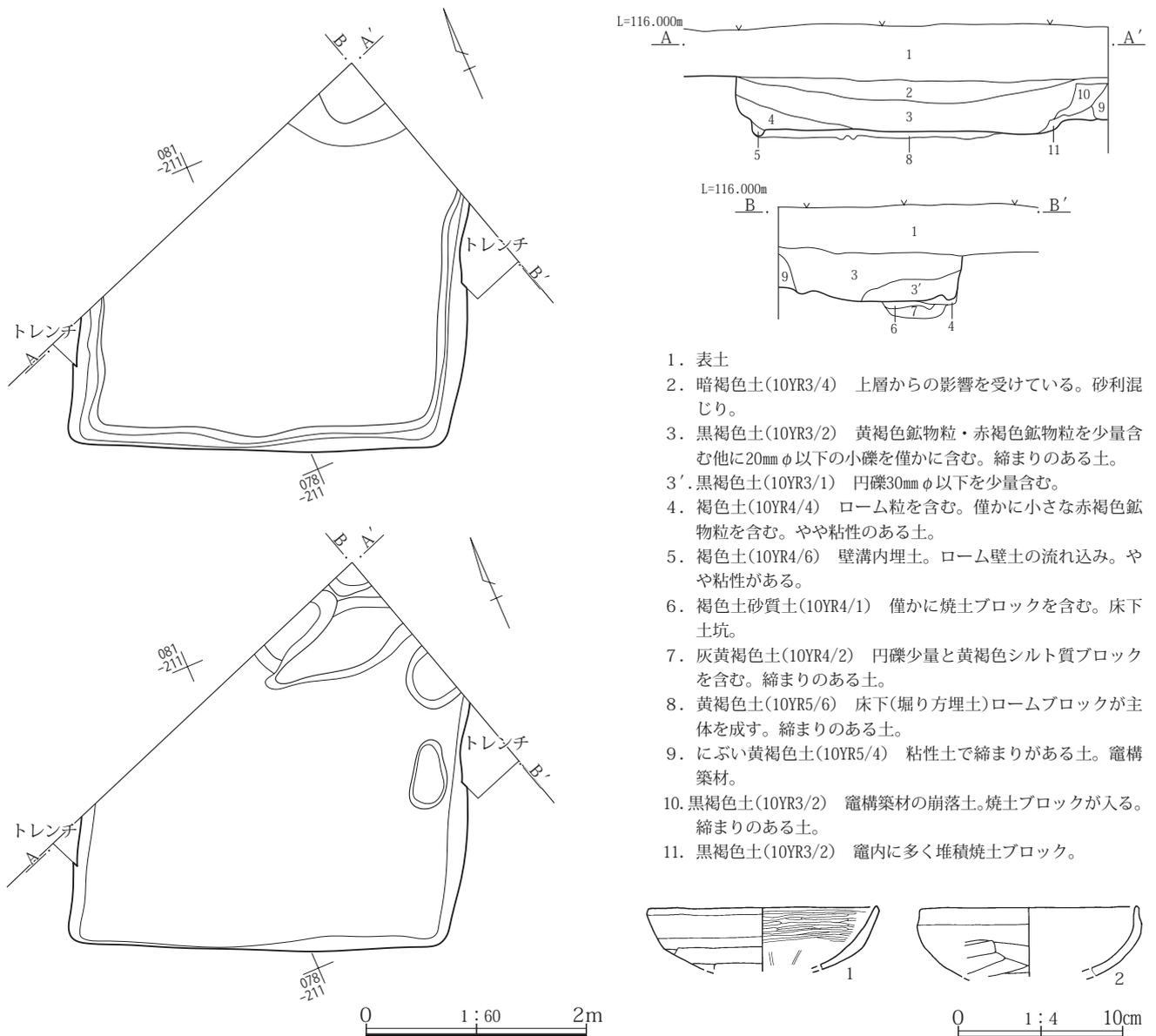
壁際溝 調査できた範囲の西壁、南壁、東壁に幅10~18cm、深さ4~6cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

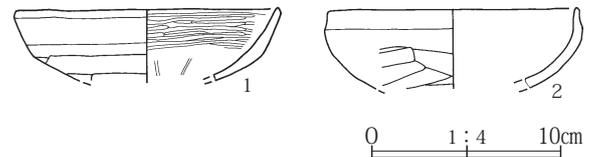
掘り方 5cmほどの厚さの掘り方充填土の下に掘り方面を検出した。竈があると推定される北東隅は段状に掘り込みがあった。また、北東壁沿いにも小規模な掘り込みが見られた。

遺物と出土状況 床面からの出土遺物はなかった。土師器杯(第70図1・2)は埋没土中から出土した。この他、土師器破片94点、須恵器破片3点が埋没土中から出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 表土
2. 暗褐色土(10YR3/4) 上層からの影響を受けている。砂利混じり。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色鉍物粒・赤褐色鉍物粒を少量含む他に20mmφ以下の小礫を僅かに含む。締まりのある土。
- 3'. 黒褐色土(10YR3/1) 円礫30mmφ以下を少量含む。
4. 褐色土(10YR4/4) ローム粒を含む。僅かに小さな赤褐色鉍物粒を含む。やや粘性のある土。
5. 褐色土(10YR4/6) 壁溝内埋土。ローム壁土の流れ込み。やや粘性がある。
6. 褐色土砂質土(10YR4/1) 僅かに焼土ブロックを含む。床下土坑。
7. 灰黄褐色土(10YR4/2) 円礫少量と黄褐色シルト質ブロックを含む。締まりのある土。
8. 黄褐色土(10YR5/6) 床下(掘り方埋土)ロームブロックが主体を成す。締まりのある土。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 粘性土で締まりがある土。竈構築材。
10. 黒褐色土(10YR3/2) 竈構築材の崩落土。焼土ブロックが入る。締まりのある土。
11. 黒褐色土(10YR3/2) 竈内に多く堆積焼土ブロック。



第70図 9区43号竪穴建物と出土遺物

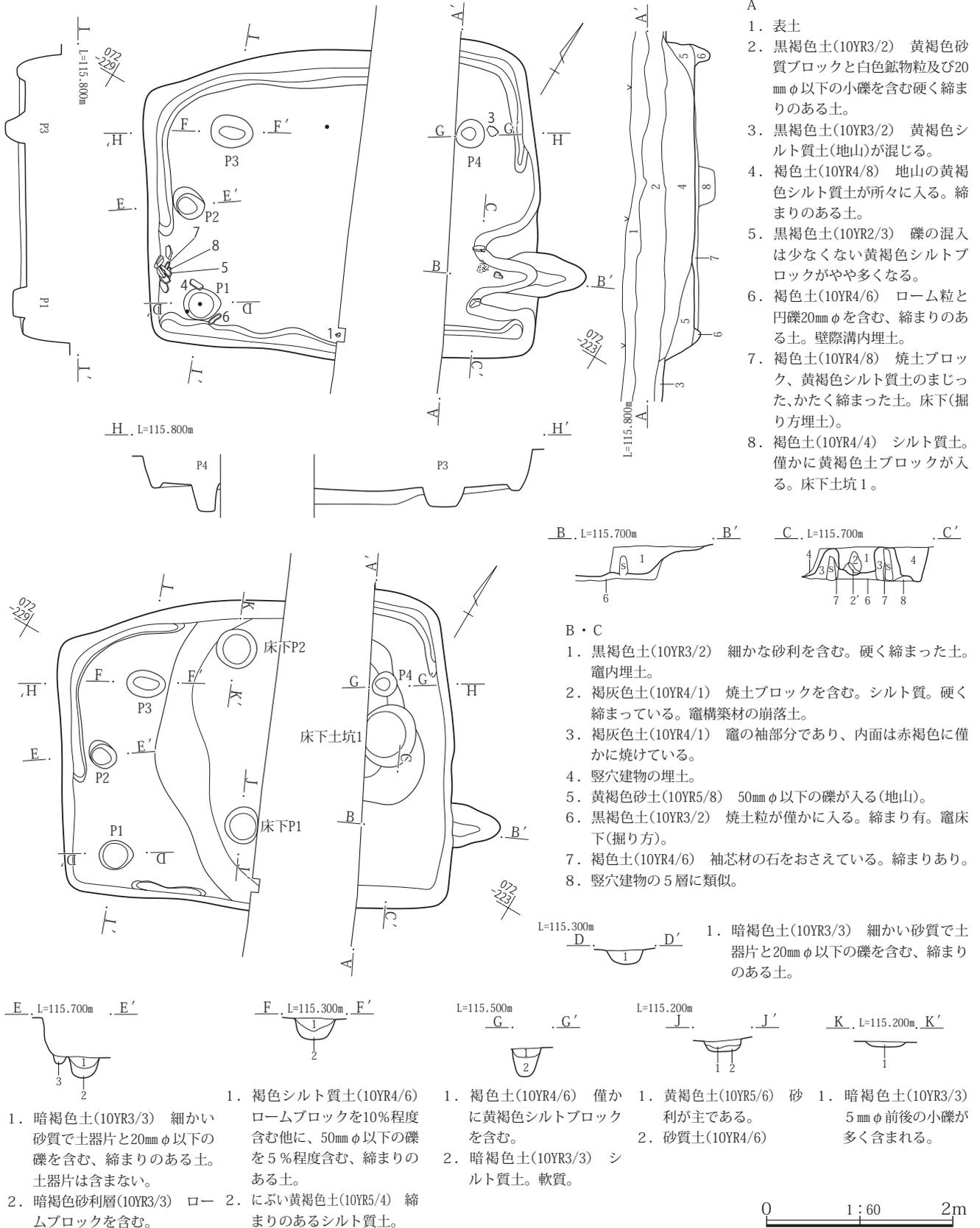
9区44号竪穴建物

(第71・72図 PL.25・26・70 遺物観察表P.261)

グリッド 069~074・-223~-228

重複 なし。

形状 やや東壁が長い長方形。東半部に現道があり、維持する必要があったため、未調査となった。



第71図 9区44号竪穴建物

規模 長軸4.18m 短軸3.33m 残存壁高0.42m

面積 9.54㎡ **長軸方位** N-57°-E

埋没土 黄褐色シルト質土を含む褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁の南部に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.24m、屋外長0.52m、燃烧部長0.71m、焚口幅0.54mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.71m、右側0.74mの長さで張り出し残存していた。袖の先端内部には板状の垂角礫が竈の壁になる方向に立てられていた。また、燃烧部中央にも、板状礫が立てて埋められており、支脚として機能していた。

柱穴 床面で柱穴の可能性のあるP1・P3・P4を検出した。このうち、深さや位置から支柱穴と考えられるのはP3・P4である。

P1は位置や深さが支柱穴とするには問題があった。P1の両脇からは2点の棒状礫(第72図4・6)が出土しており、周囲の壁沿いにも後述するように棒状礫が密集して出土している。また南西壁際でP2を検出したが、柱穴との確認は得られなかった。

各柱穴、ピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.40m 短径0.34m 深さ0.15m

P2 長径0.38m 短径0.29m 深さ0.24m

P3 長径0.45m 短径0.34m 深さ0.34m

P4 長径0.30m 短径0.30m 深さ0.31m

柱間の距離はP3・P4間が2.54mである。

壁際溝 竈の両脇と、南隅の0.84m部分を除き、幅12~20cm、深さ5~17cmの壁際溝が掘られていた。南隅の壁際溝が途切れた部分には8点の棒状礫が床面直上で密集して出土した。そのうち3点の棒状礫(第72図5・7・8)を図示した。

貯蔵穴 検出されなかった。

掘り方 厚さ20cmほどの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。全体として東半部が深く掘り込まれていた。北西部にP5、南東部にP6を検出した。いずれも壁近くにあり、相対する位置にある。機能は明らかにできなかった。規模は下記の通りである。

P1 長径0.27m 短径0.24m 深さ0.18m

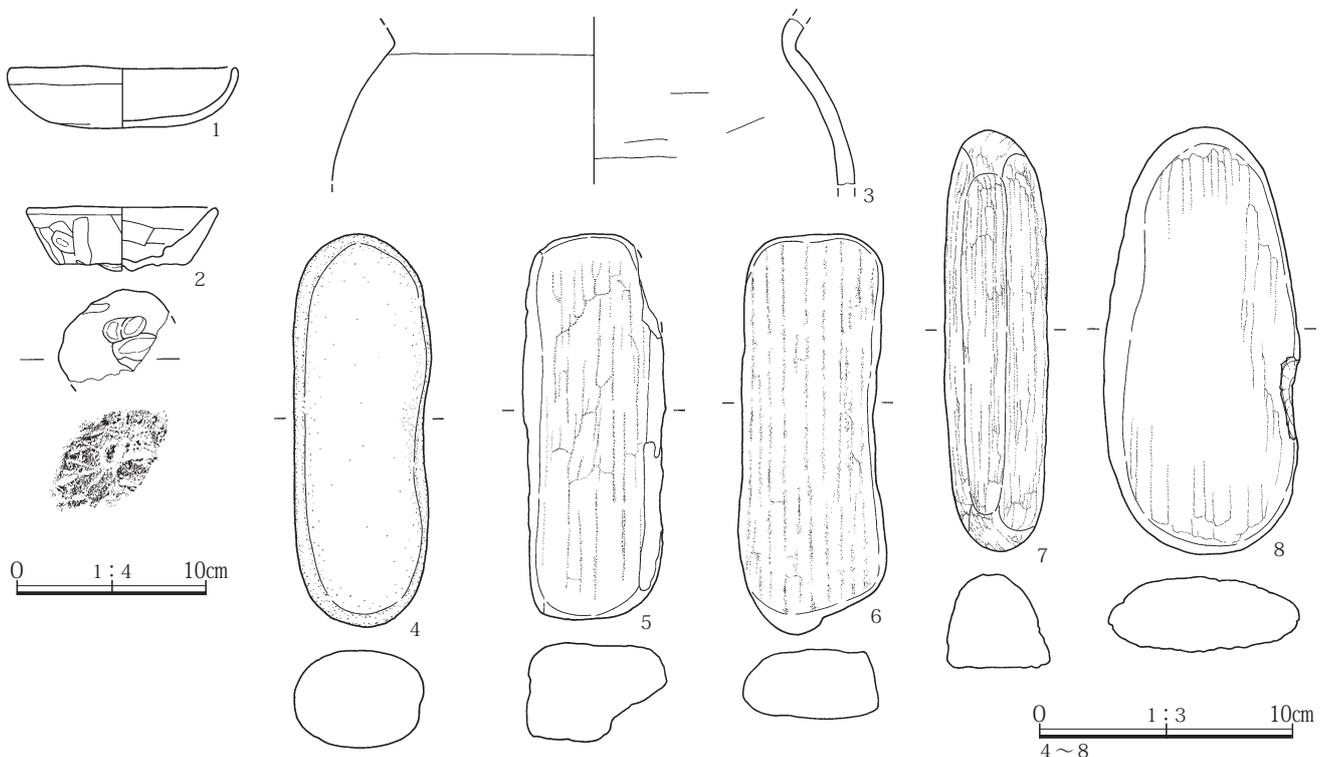
P2 長径0.30m 短径0.27m 深さ0.10m

また、東部P4南東側にやや深く掘り込まれた1号床下土坑を検出した。

1号 長径0.68m 短径0.53m 深さ0.19m

遺物と出土状況 南東壁際床面直上で土師器杯(第72図1)が、北部P4脇床面上13cmで土師器甕(同図3)が、埋没土中から土師器杯(同図2)が出土した。その他、埋没土中から土師器破片98点、須恵器破片4点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第72図 9区44号竪穴建物出土遺物

9区45号竪穴建物

(第73・74図 PL.26・70 遺物観察表P.261)

グリッド 075~079・-211~-216

重複 43号竪穴建物、120号土坑より新しい。

形状 北西隅が調査区域外となったが、やや東壁が長い台形である。

規模 長軸3.63m 短軸3.58m 残存壁高0.41m

面積 9.13㎡ 長軸方位 N-0°-E

埋没土 小礫・焼土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央より南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.53m、屋外長0.75m、燃烧部長1.26m、焚口幅1.05mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.81m、右側0.77mの長さで張り出し残存していた。燃烧部から煙道部にかけては2段の立ち上がりがあり、屋外の煙道部分には土師器甕2个体(第74図4・5)を組み合わせて煙り出しの構造を造っていたと推定される。左袖先端の内部には板状の垂角礫が傾いた状況で出土した。構造材であったかどうかは断定できなかった。竈埋没土中から土師器杯(同図2)が出土した。

柱穴 床面の精査では支柱穴を確認できなかったが、掘り方面の精査で支柱穴4本を検出した。P4の位置がやや南西にずれている。各柱穴の規模は下記の通りである。数値はいずれも掘り方面での計測値である。

- P1 長径0.25m 短径0.25m 深さ0.29m
- P2 長径0.28m 短径0.24m 深さ0.26m
- P3 長径0.34m 短径0.34m 深さ0.27m
- P4 長径0.21m 短径0.21m 深さ0.32m

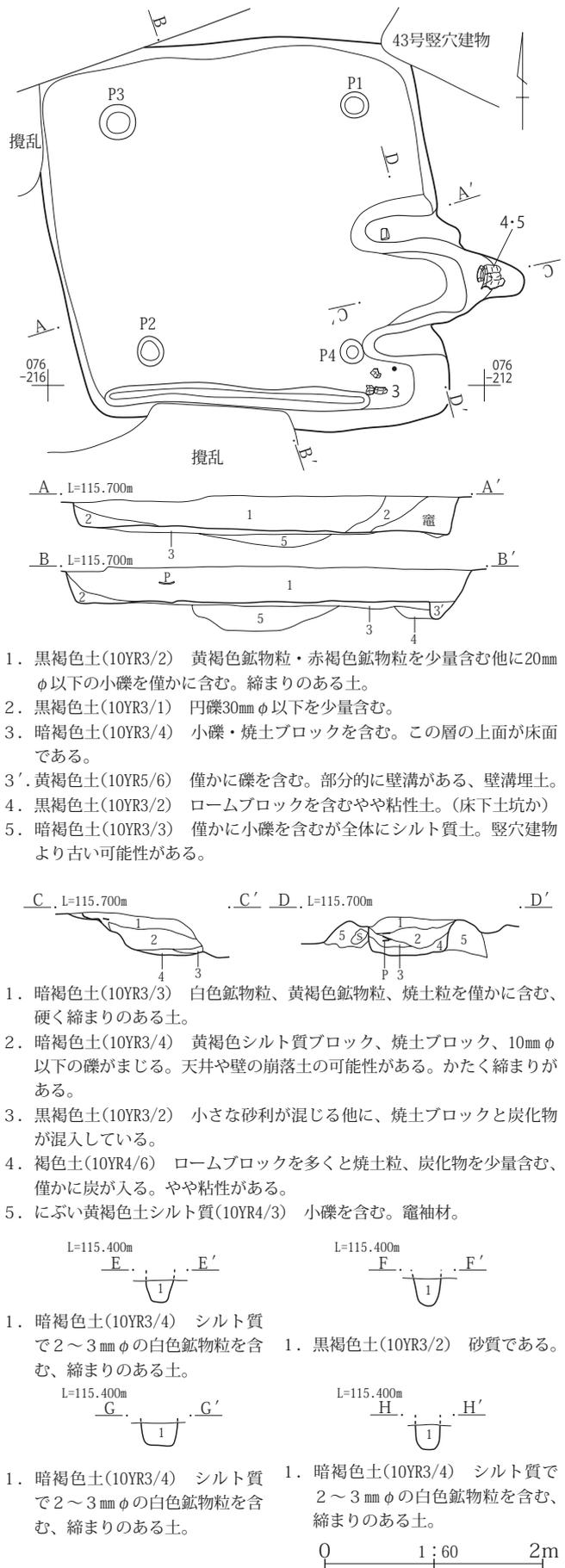
柱間の距離はP1・P4間が2.30m、P4・P2間が2.1.86m、P2・P3間が2.17m、P3・P1間が2.20mである。

壁際溝 床面で南壁沿いのみに、幅18~25cm、深さ10cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ14~20cmの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。竪穴建物ほぼ中央に長径2.01m、短径1.19m、深さ0.26mの不定楕円形の床下土坑が掘られていた。また南壁ほぼ中央壁際に、長径0.54m、短径0.45m、深さ0.11mの楕円形土坑が掘られていた。

遺物と出土状況 南東隅、竈右脇の床面上11cmで土師器

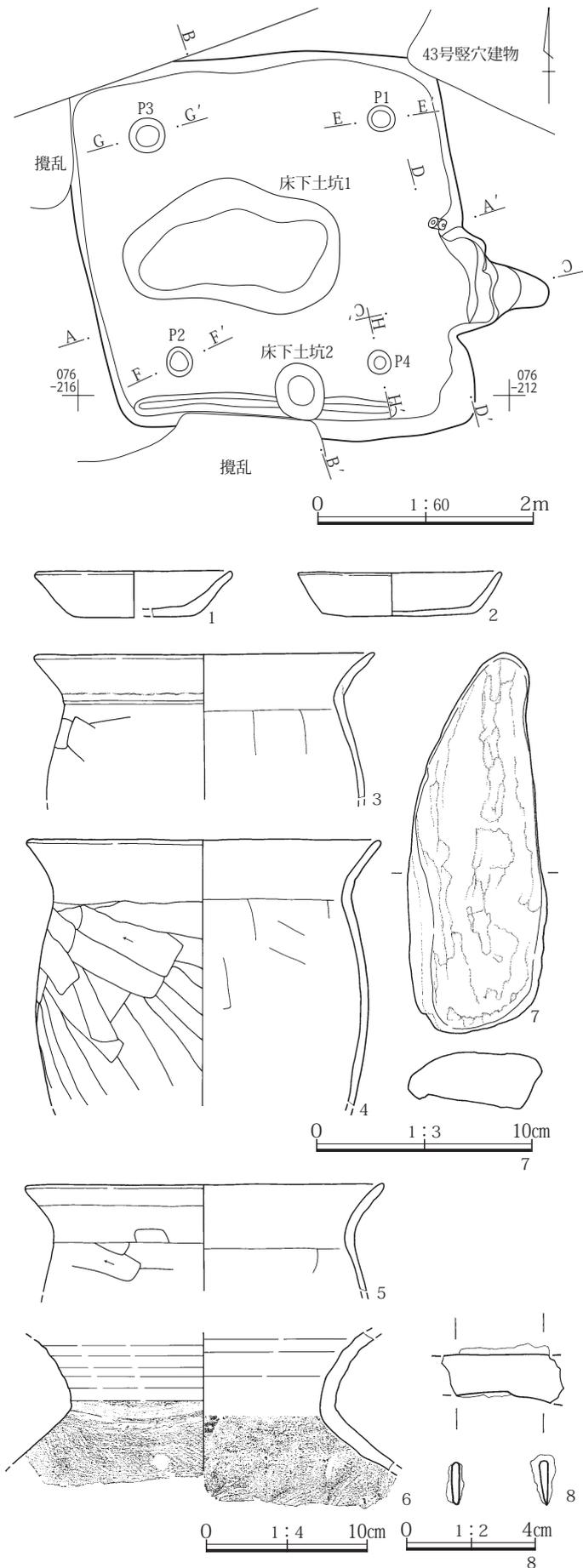


1. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色鋳物粒・赤褐色鋳物粒を少量含む他に20mmφ以下の小礫を僅かに含む。締まりのある土。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 円礫30mmφ以下を少量含む。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 小礫・焼土ブロックを含む。この層の上面が床面である。
- 3'. 黄褐色土(10YR5/6) 僅かに礫を含む。部分的に壁溝がある、壁溝埋土。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックを含むやや粘性土。(床下土坑か)
5. 暗褐色土(10YR3/3) 僅かに小礫を含むが全体にシルト質土。竪穴建物より古い可能性がある。

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色鋳物粒、黄褐色鋳物粒、焼土粒を僅かに含む、硬く締まりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色シルト質ブロック、焼土ブロック、10mmφ以下の礫がまじる。天井や壁の崩落土の可能性はある。かたく締まりがある。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 小さな砂利が混じる他に、焼土ブロックと炭化物が混入している。
4. 褐色土(10YR4/6) ロームブロックを多くと焼土粒、炭化物を少量含む、僅かに炭が入る。やや粘性がある。
5. にぶい黄褐色土シルト質(10YR4/3) 小礫を含む。竈袖材。

1. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質で2~3mmφの白色鋳物粒を含む、締まりのある土。
1. 暗褐色土(10YR3/2) 砂質である。
1. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質で2~3mmφの白色鋳物粒を含む、締まりのある土。
1. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質で2~3mmφの白色鋳物粒を含む、締まりのある土。

第73図 9区45号竪穴建物



第74図 9区45号竪穴建物掘り方と出土遺物

甕(第74図3)が出土した。床下の掘り方埋没土から棒状礫(同図7)が出土した。また、埋没土中から土師器杯(同図1)、須恵器甕(同図6)、鉄製品刀子(同図8)が出土した。この他に土師器破片222点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

9区46号竪穴建物

(第75図 PL.26)

グリッド 073~074・-217~-219

重複 42号竪穴建物より新しい。

形状 竈部分のみが残っていた。竪穴建物の全体形状は不明。

規模 計測不能 面積 計測不能

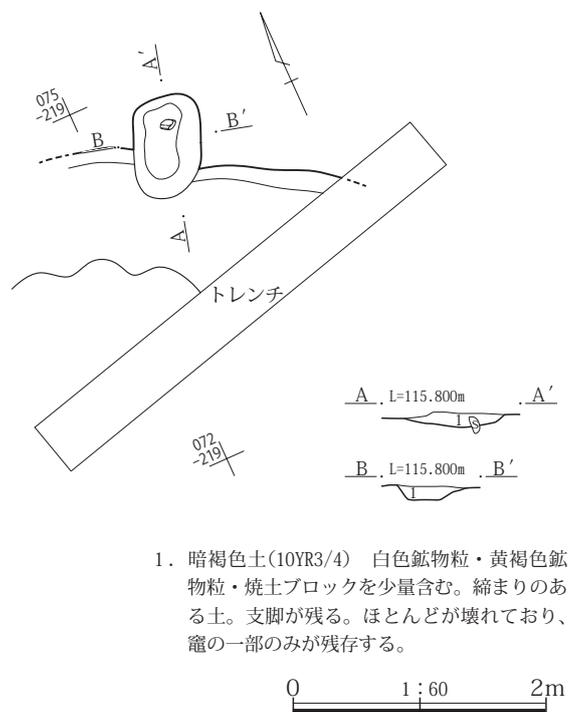
推定竈長軸方位 N-25°-E

埋没土 白色鈹物粒・黄褐色鈹物粒・焼土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 竈と推定される凹地のみ残存していた。規模は確認長0.85m、屋外長0.38m、推定焚口幅0.48mである。中央部に棒状の垂角礫が立った状態で出土しており、支脚の可能性はある。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片11点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。



第75図 9区46号竪穴建物

1. 暗褐色土(10YR3/4) 白色鈹物粒・黄褐色鈹物粒・焼土ブロックを少量含む。縮まりのある土。支脚が残る。ほとんどが壊れており、竈の一部のみが残存する。

9区54号竪穴建物

(第76図 PL.26)

グリッド 066~068・-219~-224

重複 39号竪穴建物より古い。

形状 中央より南部が調査区域外で、北壁は39号竪穴建物に壊されているため全形は判明しなかったが、東壁の一部と西隅の形状から方形と推定される。

規模 東西軸4.58m 南北軸(0.96)m

残存壁高0.23m

面積 計測不能 北壁方位 N-64°-E

埋没土 上層は礫が混入する褐色土、下層は白色・赤色鉱物粒や礫が混入する暗褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では検出されなかった。

柱穴 床面の精査で北東隅の主柱穴と推定されるP1を検出した。その規模は長径0.23m、短径0.20m、深さ0.09mである。

壁際溝 調査できた範囲では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲では検出されなかった。

掘り方 厚さ5cmほどの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。壁沿いにやや深く掘り込まれていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

9区55号竪穴建物

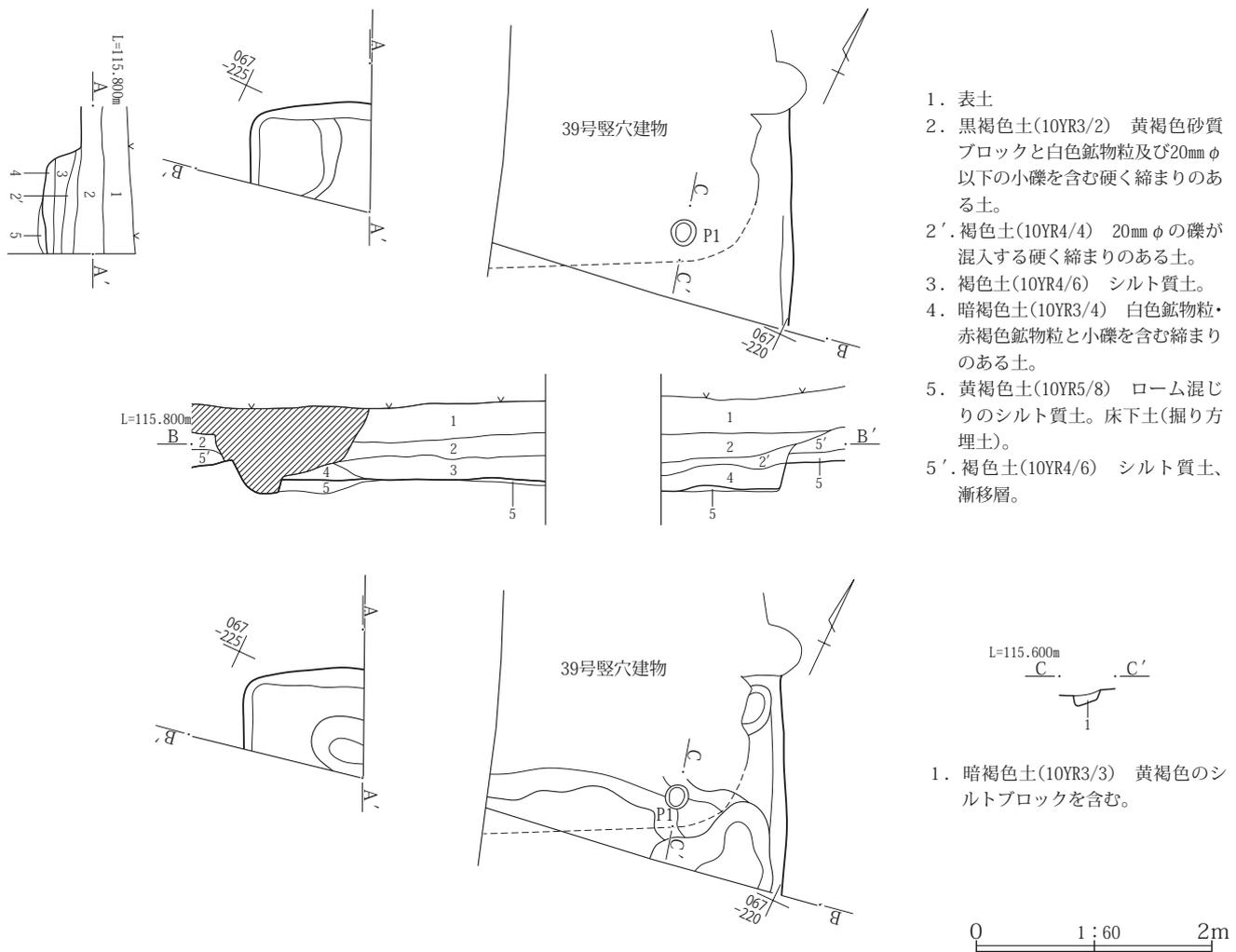
(第77図 PL.26)

グリッド 075~078・-215~-216

重複 42号竪穴建物、45号竪穴建物より古く、120号土坑より新しい。

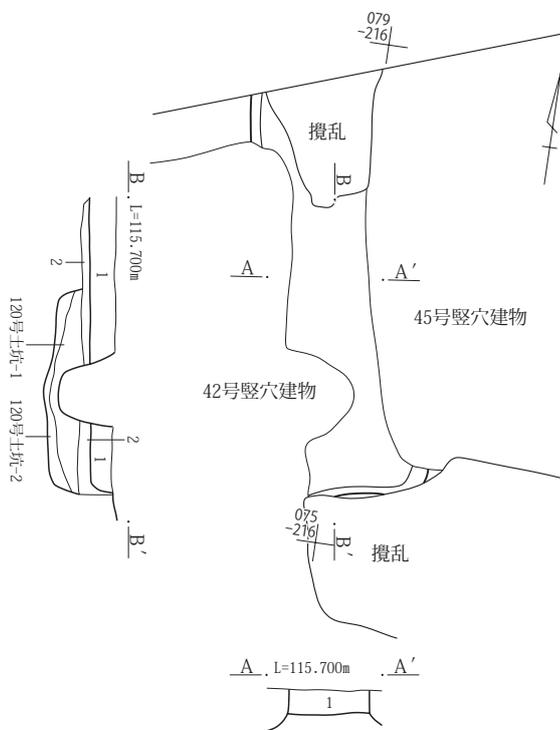
形状 ほぼ全体を42号竪穴建物、45号竪穴建物に壊されており、西壁・南壁の一部を検出したのみである。それらの位置からすると方形と推定される。

規模 東西軸(0.96)m 南北軸(3.32)m 残存壁高0.24m



第76図 9区54号竪穴建物

面積 計測不能 **西壁方位** N-9°-W
埋没土 礫と炭化物・焼土塊を含む褐色シルト質土で埋まっていた。
竈 調査できた範囲では検出されなかった。
柱穴 調査できた範囲では検出されなかった。
壁際溝 調査できた範囲では検出されなかった。
貯蔵穴 調査できた範囲では検出されなかった。
掘り方 厚さ6~7cmの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。ほぼ平坦であった。
遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片12点が出土した。
所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

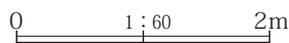


55号竪穴建物

1. 褐色シルト質土(10YR4/4) 30mmφ以下の礫と炭化物・焼土ブロックを含む締まりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物粒・焼土粒を少量含むやや軟質のシルト質土。床下(掘り方埋土)。

120号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに小さなロームブロックを含むシルト質土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに小さなロームブロックを3層よりもやや多く、僅かに細かな砂利を含む。



第77図 9区55号竪穴建物

9区65号竪穴建物

(第78図 PL.27・69 遺物観察表P.261)

グリッド 077~080・-166~-169

重複 なし。

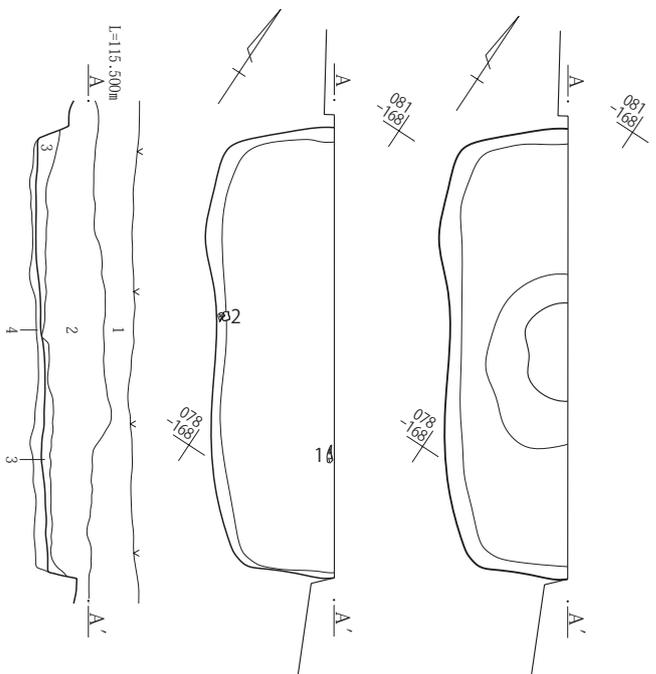
形状 遺構の大部分が調査区域外となり、南西壁沿いのみの調査となったが、方形と推定される。

規模 東西軸(0.96)m 南北軸3.58m 残存壁高0.29m

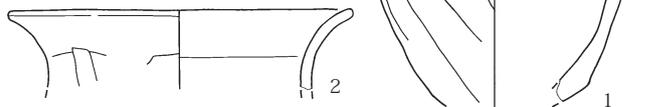
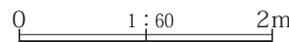
面積 計測不能 **南西壁方位** N-34°-W

埋没土 礫や砂を混じる黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では検出されなかった。



1. 表土(現地表)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 100mmφ以下の角礫と円礫が20%程度混入している。やや砂が混じる。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 砂質であるが礫が混じる。ローム層の壁際のため2層よりもやや黄色みが強い。
4. 黄褐色土(10YR5/8) 礫を多く含む砂質土。(掘り方埋土)



第78図 9区65号竪穴建物と出土遺物

柱穴 調査できた範囲では検出されなかった。

壁際溝 調査できた範囲では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲では検出されなかった。

掘り方 厚さ4～10cmの掘り方充填土の下位で掘り方面を検出した。中央部がやや高く、壁沿いが比較的深く掘り込まれていた。

遺物と出土状況 南西部床面直上で土師器甕(第78図1)が、南西壁中央部壁際の床面上17cmで土師器甕(同図2)が出土した。この他に埋没土中から土師器破片8点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

9区66号竪穴建物

(第79図 PL.27・70 遺物観察表P.262)

グリッド 072～075・-180～-185

重複 なし。

形状 遺構の南半分が調査区域外となり全形は把握できなかったが、調査できた範囲の状況から正方形と推定される。

規模 東西軸3.51m 南北軸(1.94)m 残存壁高0.25m

面積 計測不能 **長軸方位** N-53°-E

埋没土 ローム小塊・礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁の中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.67m、屋外長1.13m、燃烧部長0.97m、焚口幅0.57mで、煙道部との先には0.05mの段があった。屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.59m、右側0.48mの長さで張り出し残存していた。煙道部には土師器杯破片(第79図2)が出土した。左袖崩落部分には土師器杯(同図5)と鉢(同図4)が重なって出土した。焚口部手前には土師器杯(同図1)が床面直上で出土した。

柱穴 床面の精査で北西壁沿いの支柱穴2本を検出した。P2はやや壁に近い位置に掘られていた。各柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.28m 短径0.28m 深さ0.19m

P2 長径0.31m 短径0.31m 深さ0.28m

柱間の距離はP1・P2間が2.04mである。

壁際溝 竈左の北東壁から北西壁、南西壁にかけて、幅10～15cm、深さ4～8cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 調査できた範囲では検出されなかった。

掘り方 厚さ1～5cmほどの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。中央部がやや深く掘り込まれていた。掘り方面では竈下面や竈右側北東壁沿いにも壁際溝が連続して検出された。

遺物と出土状況 P1南側床面直上で土師器鉢か(第79図3)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片34点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

9区67号竪穴建物

(第80図 PL.27・70 遺物観察表P.262)

グリッド 078～082・-171～-175

重複 なし。

形状 南西壁がやや長い台形

規模 長軸3.78m 短軸2.96m 残存壁高0.17m

面積 9.16㎡ **長軸方位** N-51°-E

埋没土 砂利・礫が混入する黒褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁中央右側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.83m、屋外長0.57m、燃烧部長0.83m、焚口幅0.89mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が右側に0.44mの長さで張り出し残存していた。竈の燃烧部から左側にかけては掘り込まれて壊された状態であった。左脇手前には土師器甕(第80図5)が床面直上で出土した。また、右側には土師器杯(同図1)、土師器小型甕(同図4)、土師器甕(同図6)が床面上6～10cmほど浮いた位置に散乱した状態で出土した。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

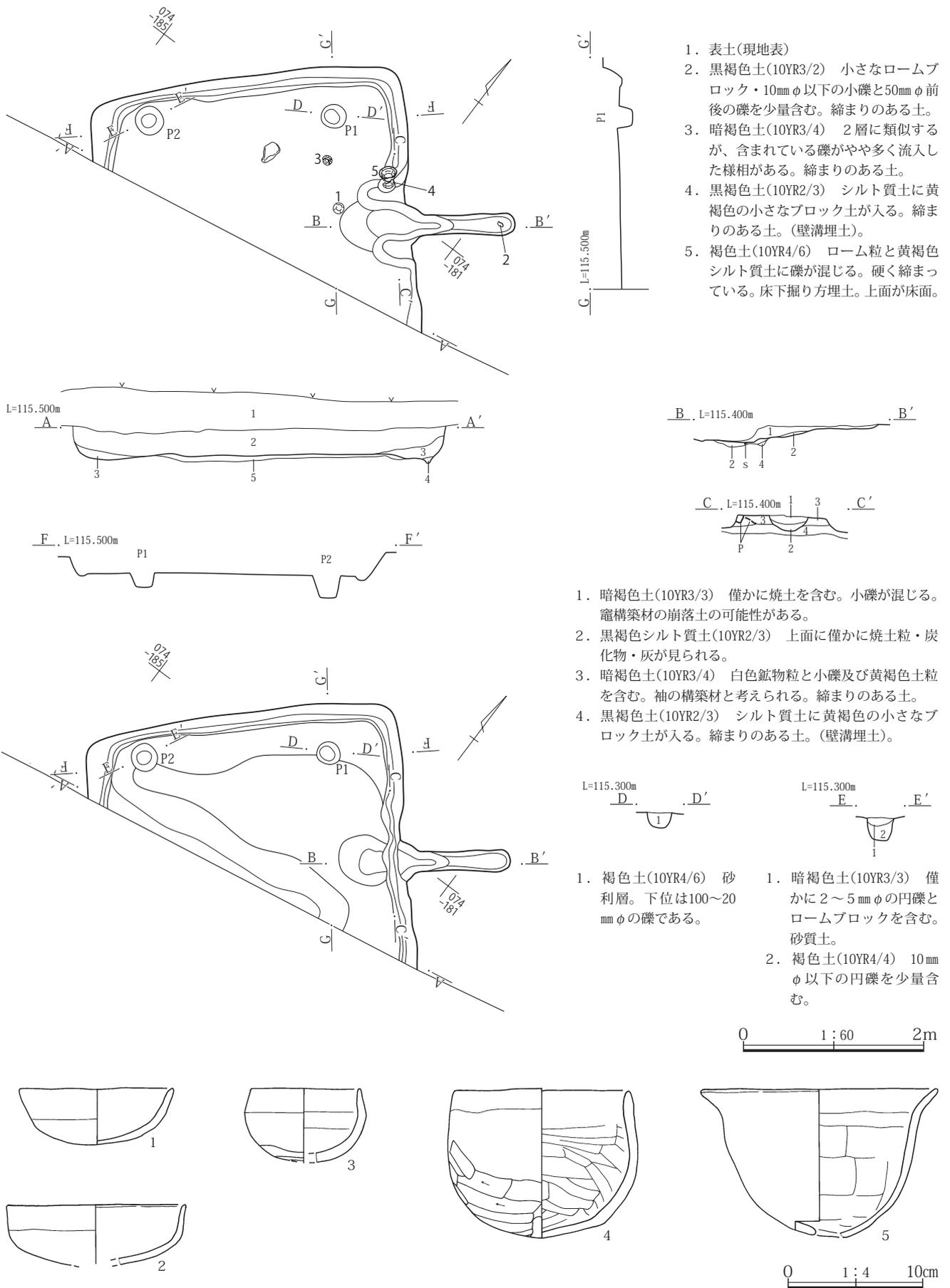
壁際溝 なし。

貯蔵穴 床面の精査では検出されなかった。

掘り方 厚さ5～20cmの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。掘り方面は南西部は比較的平坦であったが、北西壁寄りや東隅が深く掘り込まれていた。東隅の掘り込みは貯蔵穴の可能性もあるが、規格的な形状ではなかった。

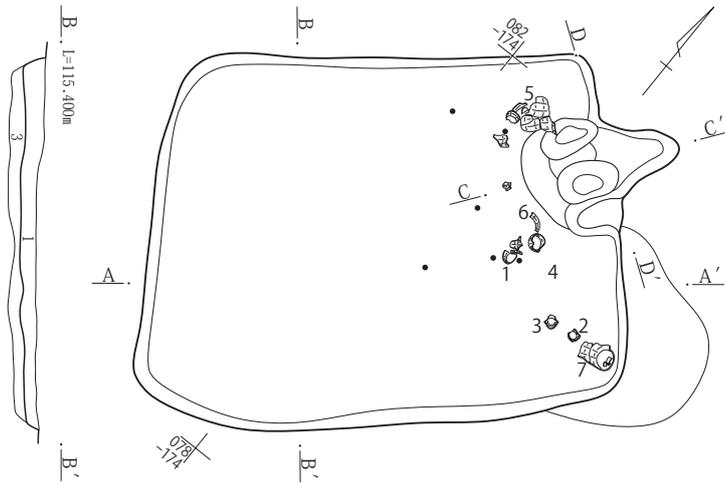
遺物と出土状況 東隅で土師器杯(第80図2)、土師器小型甕(同図3)が床面上11cmで、土師器甕(同図7)が床面上5cmで出土した。この他、埋没土中から土師器破片91点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第79図 9区66号竪穴建物と出土遺物

2. 竪穴建物

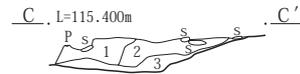
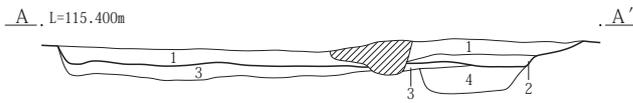


1. 黒褐色土(10YR2/3) 5mmφ砂利層に、50mmφ前後の礫が混入している。締まりのある土。
2. 黒褐色土(10YR2/3) 1層よりもやや大きめの礫を含む。ややシルト化している土が混じる。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 上位は床面である。ローム粒を含む極薄い土が観察できる。全体として100mmφの礫が散在する。
4. 貯蔵穴(床下で確認した)黒褐色砂質土(10YR3/2) 2~50mmφの礫を20%程度含む。東壁寄りには黄褐色土ブロックを少量含む。

L=115.400m E. E' F. F'

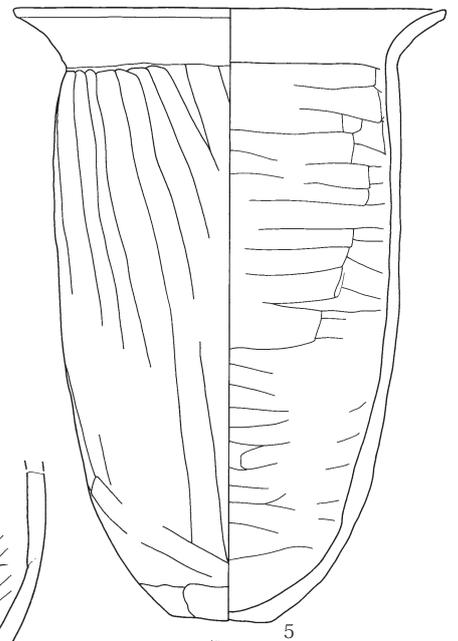
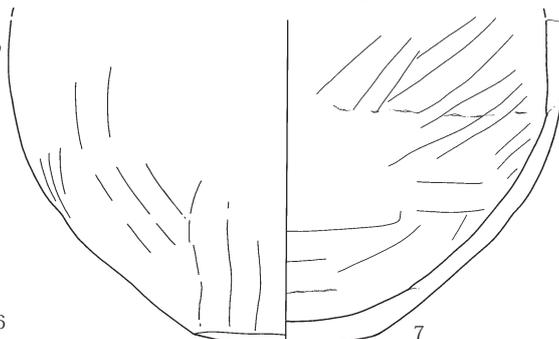
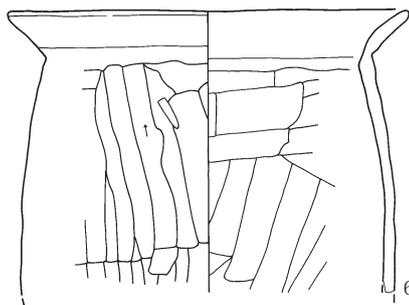
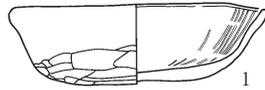
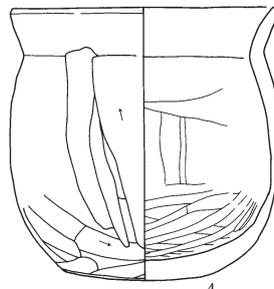
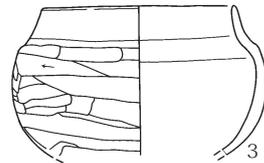
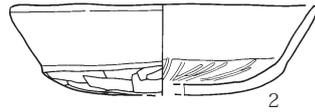
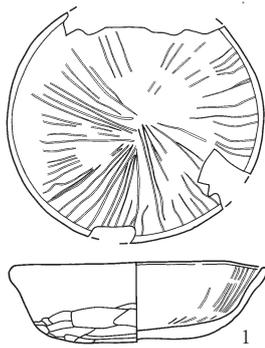
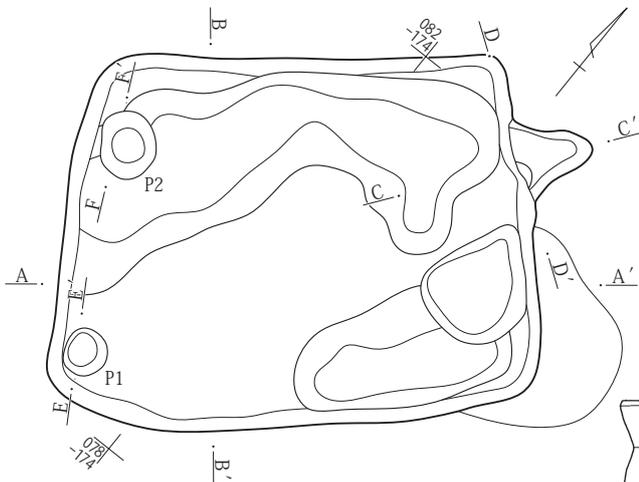


5. 褐色砂質土(10YR4/4) 小礫5mmφが多く、20~30mmφの礫が少量入る。(床下で確認した)。(P1)
6. 褐色土(10YR4/4) 砂質土中に礫を多く含む。5~100mmφ。(床下で確認した)。(P2)



1. 黒褐色土(10YR2/3) 5mmφ砂利層に、50mmφ前後の礫が混入している。締まりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土混じりのシルト質土であるが礫が少量混じる。(竈構築材の崩落土か)
3. 褐色シルト質土(10YR4/4) 焼土ブロックを少量含む。上位は竈床面相当と思われる。最下部は50~100mmφの地山に含まれる礫が顔を出す。
4. 赤褐色鉱物粒(10YR4/3)を少量含む。上位は100mmφ前後の礫が多く入る。袖(左袖は未確認)。
5. 竪穴建物埋土。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm

第80図 9区67号竪穴建物と出土遺物

10区56号竪穴建物

(第81図 PL.28・71 遺物観察表P.262)

グリッド 108～114・-126～-132

重複 なし。

形状 南東隅が試掘トレンチと重なり全形を把握できなかったが、東西方向に長い長方形である。

規模 長軸5.91m 短軸5.11m 残存壁高0.13m

面積 計測不能

長軸方位 N-90°-E

埋没土 少量の白色鈹物粒と多量の垂角礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 東壁の中央すぐ南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.94m、屋外長0.13m、燃烧部長0.85m、焚口幅0.96mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側1.14m、右側0.86mの長さで張り出し残存していた。焚口の方向がやや南側を向いているようにも見えたが、これは建物廃棄時の竈崩落土の残存状況に起因すると考えられる。

柱穴 床面の精査で支柱穴4本を検出した。比較的太い柱穴であったが、柱根や抜き取り穴は認められなかった。南壁中央やや東寄り、壁から0.30m内部に入った位置にP5を検出した。各柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径1.00m 短径0.72m 深さ0.49m

P2 長径0.85m 短径0.83m 深さ0.58m

P3 長径1.22m 短径0.98m 深さ0.63m

P4 長径1.01m 短径0.82m 深さ0.42m

P5 長径0.43m 短径0.35m 深さ0.30m

柱間の距離はP1・P2間が3.10m、P2・P3間が2.95m、P3・P4間が3.00m、P4・P1間が3.00mである。

壁際溝 北壁の西半分から、西壁、南壁の西部に、幅20～30cm、深さ14～18cmの壁際溝が掘られていた。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 竈右側の床面上9cmで須恵器杯(第81図3)、床面上3cmで土師器杯(同図1)が出土した。埋没土中から須恵器蓋摘み部(同図2)が出土した。その他、土師器破片62点、須恵器破片2点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

10区57号竪穴建物

(第82・83図 PL.28・71 遺物観察表P.262・263)

グリッド 108～112・-134～-139

重複 なし。

形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸4.96m 短軸3.95m 残存壁高0.12m

面積 17.86㎡

長軸方位 N-88°-E

埋没土 少量の白色鈹物粒と多量の垂角礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北壁の中央より東側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.60m、屋外長0.54m、燃烧部長0.60m、焚口幅0.43mで、屋内には袖構造の残存や崩落土は認められなかった。竈右脇で土師器甕(第83図12)が床面上4cm、土師器小型甕(同図7)が床面上5cmで出土した。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。掘り方面の調査でピットを6本検出したが、支柱穴と推定できるのは北西隅のP2のみである。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ5cm程度の掘り方充填土の下面に掘り方面を検出した。5本のピットと1基の床下土坑を検出した。支柱穴と推定されるのは、やや浅いがその位置からP2、深さからP1で、他は浅く竪穴建物の軸からずれている。P1埋没土中から土師器杯(第81図3)が出土した。各ピット・土坑の規模は下記の通りである。

P1 長径0.63m 短径0.53m 深さ0.50m

P2 長径0.37m 短径0.35m 深さ0.11m

P3 長径0.33m 短径0.24m 深さ0.22m

P4 長径0.35m 短径0.28m 深さ0.18m

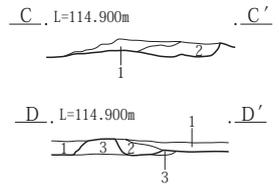
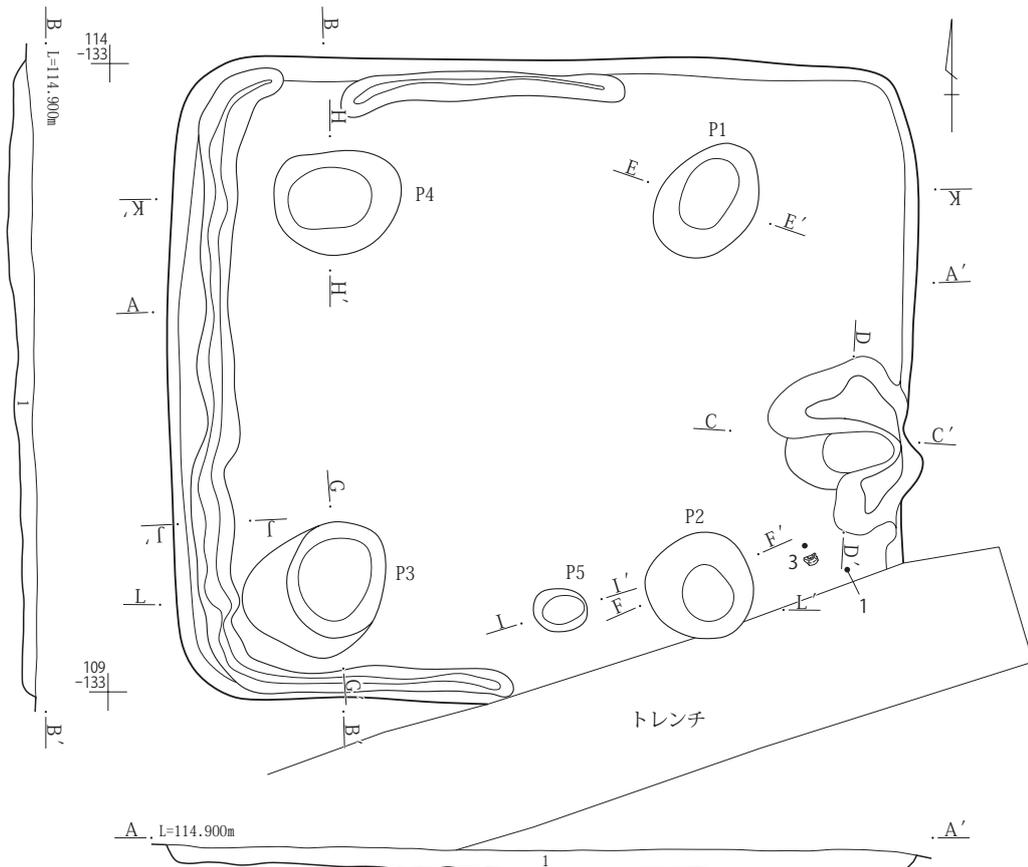
P5 長径0.36m 短径0.32m 深さ0.24m

P6 長径0.48m 短径0.35m 深さ0.22m

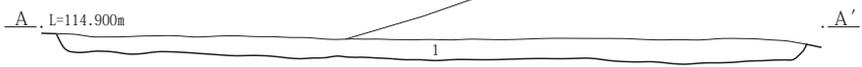
1号床下土坑 長径0.54m 短径0.52m 深さ0.41m

遺物と出土状況 完形に近い土器が竈周辺と東壁際、南壁際、中央部に集中して出土した。土師器杯(第83図1・2)は南壁中央壁際も床面直上で出土した。土師器杯(同図4)は南西隅壁際床面上4cmで出土した。土師器鉢(同図6)は中央部床面上4cm、土師器甕(同図9)は北西部床面上3cmで出土した。土師器甕(同図11)は東壁中央部壁際床面上8cmで出土した。土師器甕(同図10)は北東隅

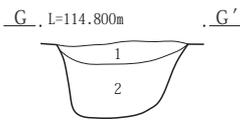
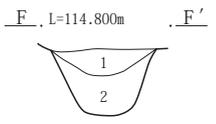
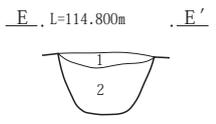
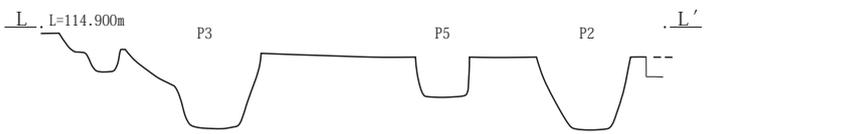
2. 竪穴建物



1. 暗褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の礫(亜角礫)を多量に、白色粒を若干含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫を少量含む、焼土粒・焼土ブロックを多量に含む。
3. 黄褐色土(10YR5/6) 粘質土。ややしまる焼土粒、白色粒を含む。



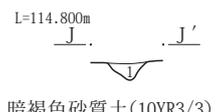
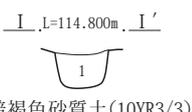
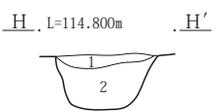
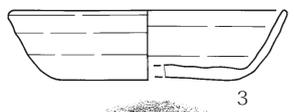
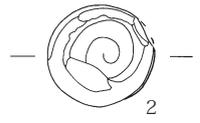
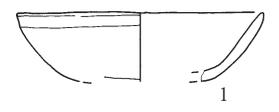
1. 暗褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の礫(亜角礫)を多量に、白色粒を若干含む。



1. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土粒を含む。5~100mm φの礫を含む砂利層。
2. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 50mm φ以下の礫を15%程度含む。

1. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土粒と炭化物を含む。5~100mm φの礫を含む砂利層。
2. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 50mm φ以下の礫を15%程度含む。

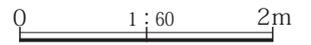
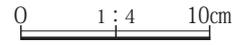
1. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土粒を含む。5~100mm φの礫を含む砂利層。
2. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 50mm φ以下の礫を15%程度含む。



1. 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土粒を含む。5~100mm φの礫を含む砂利層。
2. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 黄褐色土ブロックを少量と50mm φ以下の礫を15%程度含む。

1. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 黄褐色土粒と20~50mm φの礫を含む。

1. 暗褐色砂質土(10YR3/3) 5~30mm φの礫と黄褐色土ブロックが少量混じる。

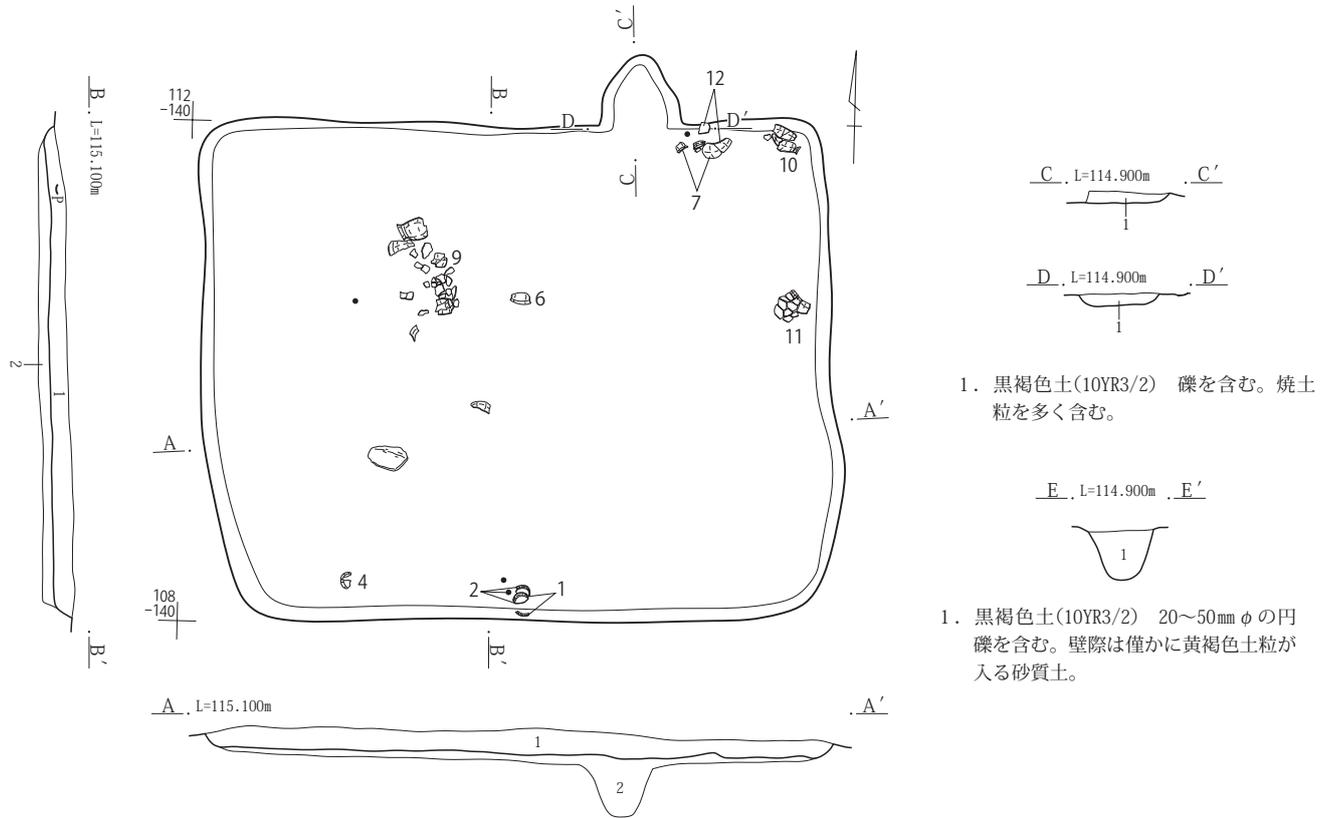


第81図 10区56号竪穴建物と出土遺物

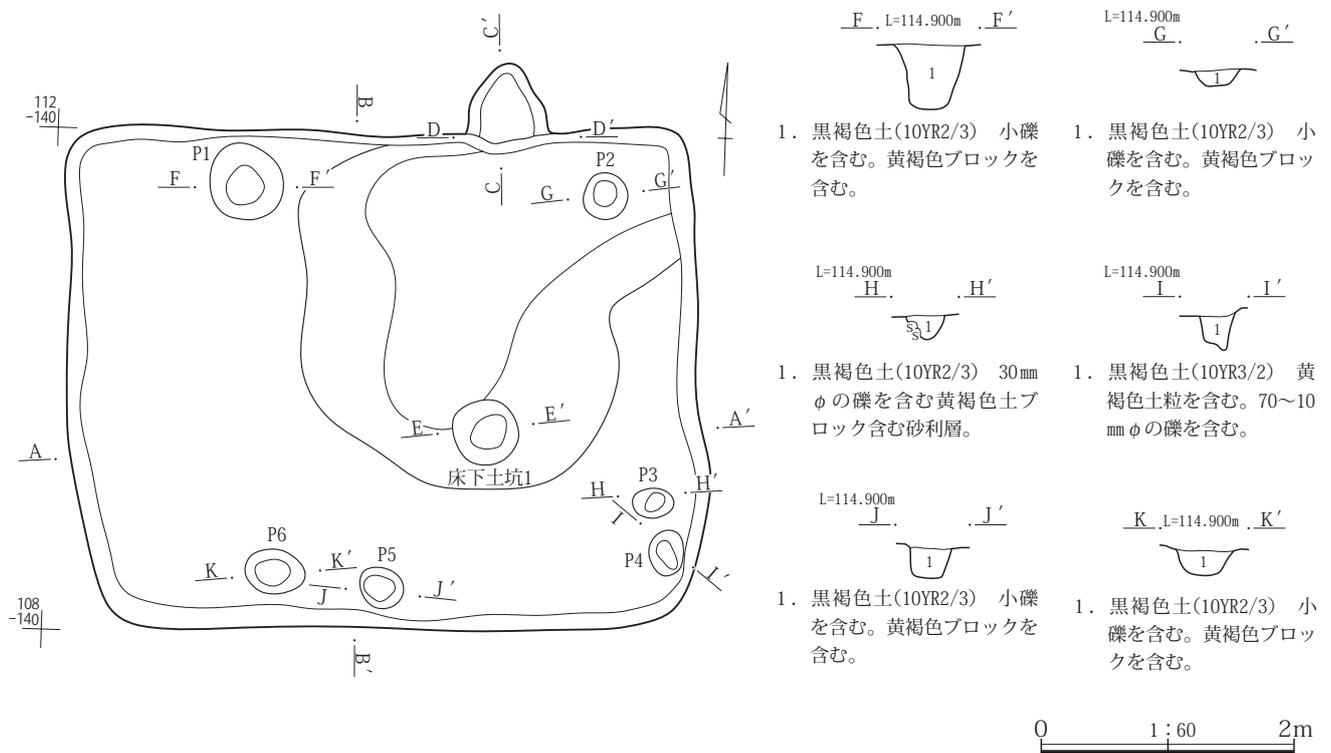
床面上4cmで出土した。土師器鉢(第83図5)、土師器甕(同図8)は埋没土中から出土した。この他、埋没土中か

ら土師器破片175点が出土した。

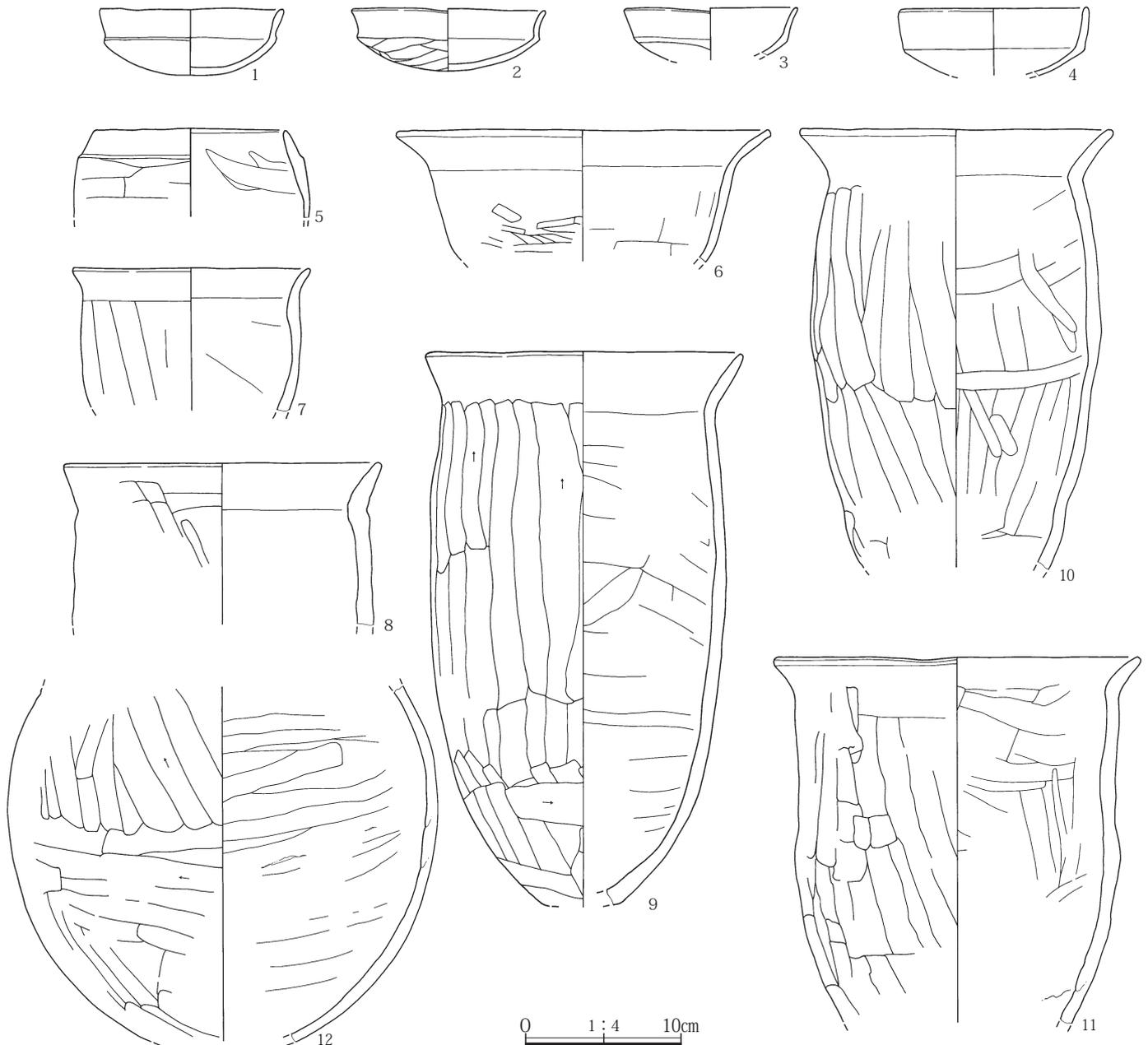
所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫を多量に、白色粒を若干含む、しまりなし。
- 2. 黄褐色土(10YR5/6) 礫を多量に黒褐色土(1層)をブロック状に含む。



第82図 10区57号竪穴建物



第83図 10区57号竪穴建物出土遺物

10区58号竪穴建物

(第84図 PL.28・71 遺物観察表P.263)

グリッド 100~103・-142~-146

重複 なし。

形状 西壁が短い台形で、建物としては不定形である。

規模 長軸3.89m 短軸1.64m 残存壁高0.12m

面積 6.68㎡

長軸方位 N-71°-E

埋没土 少量の白色鈹物粒と多量の垂角礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北壁中央やや西側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.60m、屋外長0.29m、燃燒部長0.60m、焚口幅0.68mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.23m、右側0.38mの長さで張り出し残存していた。竈内壁焼土の残存状況は不良であった。焚口部中央底面上6cmで土師器甕(第84図3)破片が出土した。

柱穴 床面の精査で支柱穴は確認できなかった。

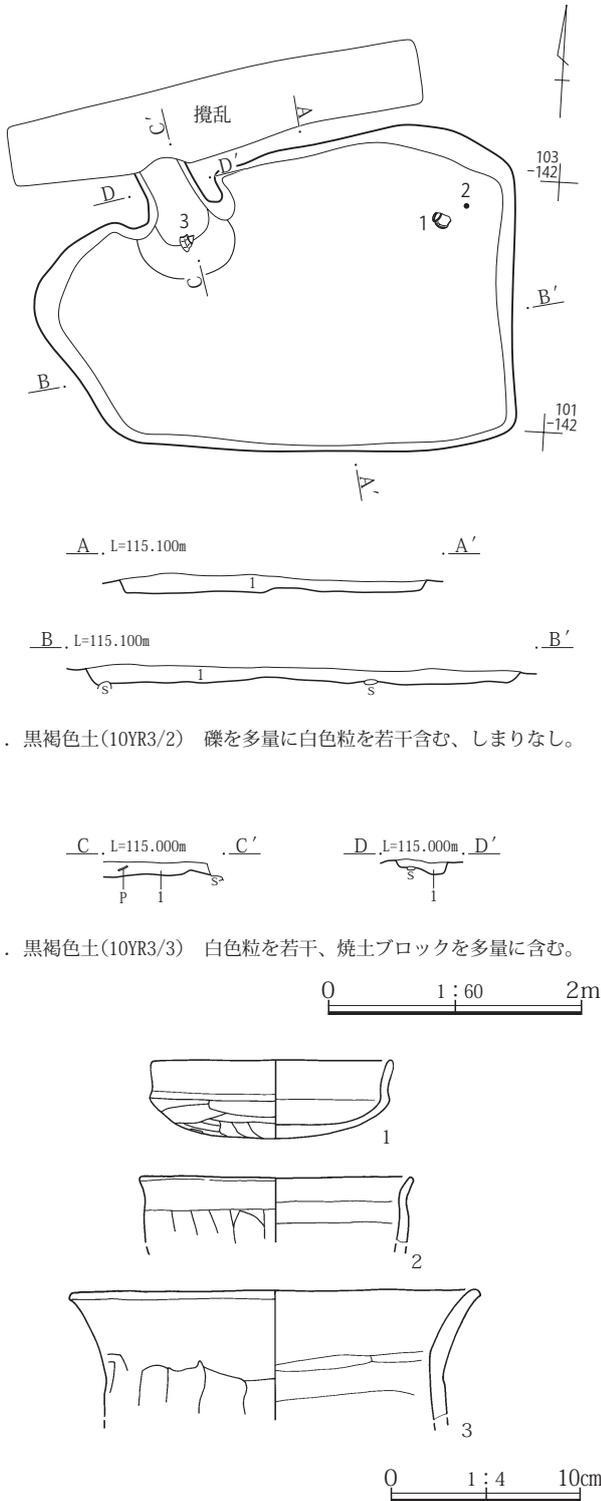
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 北東隅床面上5cmで土師器杯(第84図1)、床面上7cmで土師器鉢(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片5点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



第84図 10区58号竪穴建物と出土遺物

10区59号竪穴建物

(第85図 PL.28・29・71 遺物観察表P.263)

グリッド 080~085・-155~-161

重複 68号竪穴建物より古い。

形状 南西部が調査区域外となり全形を把握できなかったが、北東壁の状況や支柱穴の位置から、方形と推定される。

規模 長軸5.61m 短軸(3.72)m 残存壁高0.33m

面積 計測不能 **長軸方位** N-37°-W

埋没土 少量の白色鈹物粒と多量の亜角礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁中央にわずかに西寄りに竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.98m、屋外長0.52m、燃烧部長0.40m、焚口幅0.68mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.53m、右側0.40mの長さで張り出し残存していた。袖の先端部には左右とも芯材として亜角礫が立てられていた。竈左脇には土師器杯(第85図1)と土師器小型甕(同図3)が床面直上で出土した。

柱穴 床面の精査で支柱穴4本を確認した。南東壁の位置からするとP2・P3はやや北東方向に偏っている。P3とP4には柱根が認められた。各柱穴の規模は下記の通りである。

P1 長径0.60m 短径0.60m 深さ0.58m

P2 長径0.58m 短径0.55m 深さ0.60m

P3 長径0.57m 短径0.45m 深さ0.41m

P4 長径0.42m 短径(0.31)m 深さ0.38m

柱間の距離はP1・P2間が2.46m、P2・P3間が2.70m、P3・P4間が2.74m、P4・P1間が2.64mである。

壁際溝 なし。

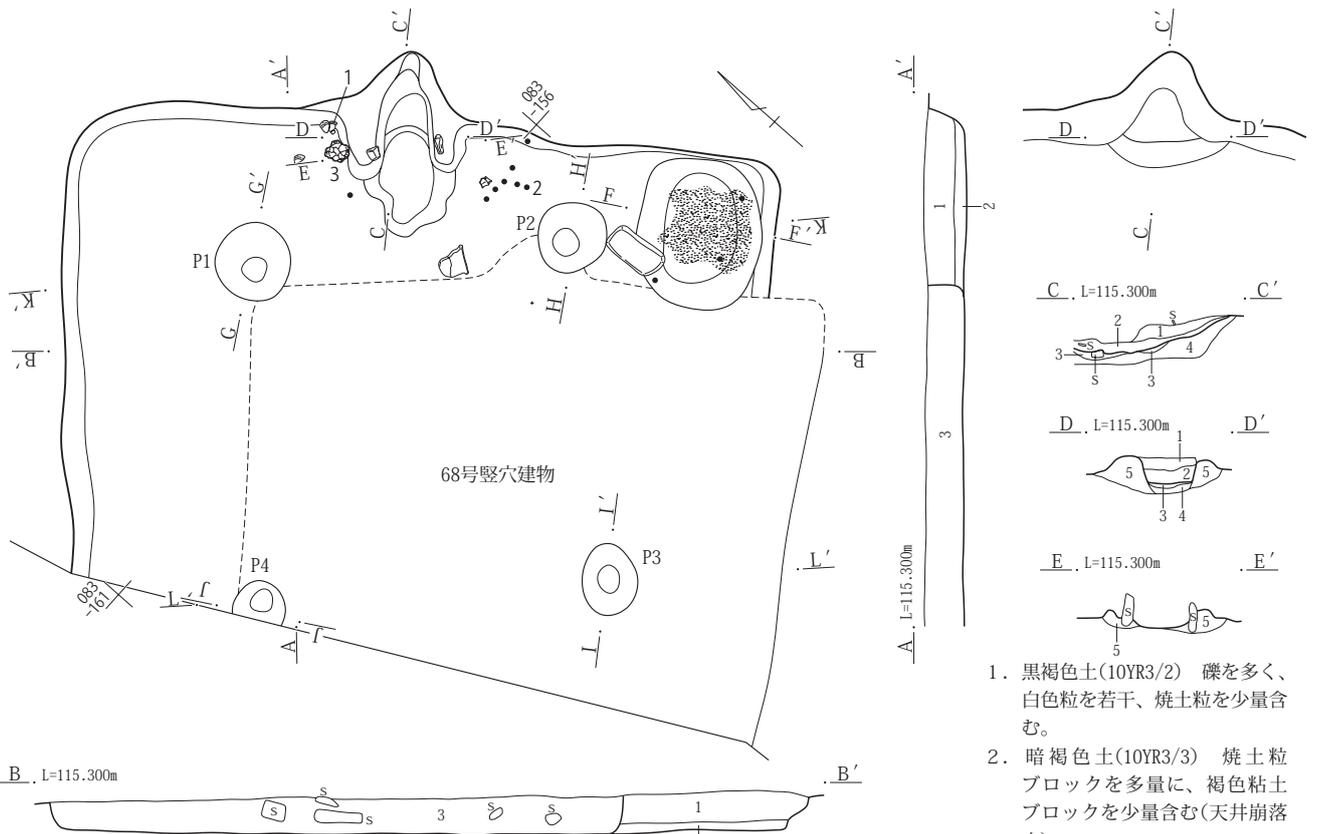
貯蔵穴 東隅に長軸1.19m、短軸0.99m、深さ0.30mの隅丸方形の貯蔵穴が掘られていた。埋没土の上位に厚さ10cmのにぶい黄褐色粘土が覆っていた。

掘り方 地山との判別が困難であることから、掘り方面の調査は竈のみとした。

遺物と出土状況 P2北脇床面上6cmで土師器甕(第85図2)口縁部破片が出土した。埋没土中から土師器破片232点が出土した。

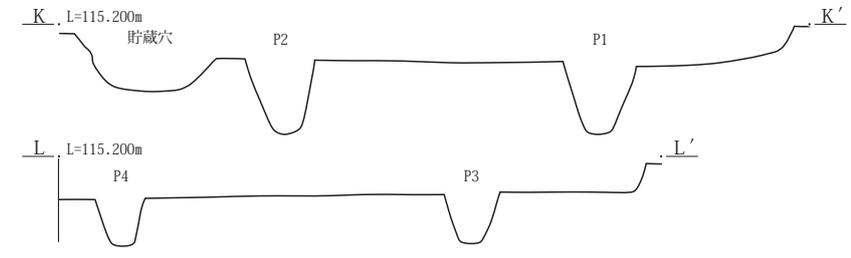
所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。

2. 竪穴建物



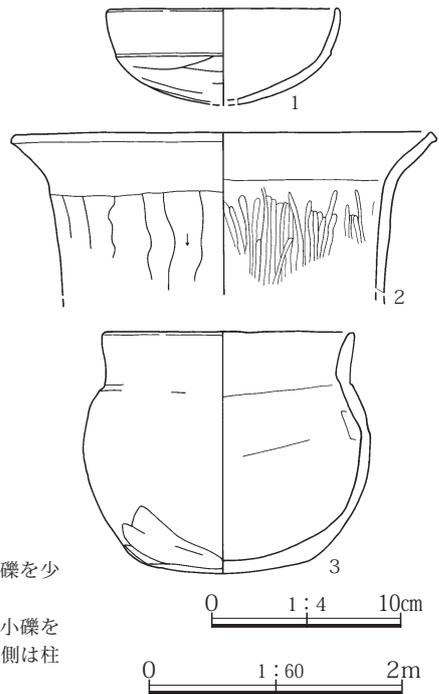
1. 黒褐色土(10YR3/3) 礫を多量に、白色粒を若干含む。しまりなし(竪穴建物埋土)。
2. 黒褐色土(10YR3/3) 礫を多量に、白色粒を若干、黄色ブロック土を少量含む(竪穴建物貼床)。
3. 黒褐色土(10YR3/3) 礫を多量に白色粒・黄褐色粒を若干含む(59住の埋土とほとんど区分できないが、若干黄色粒を含み、明るい)。

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫を多く、白色粒を若干、焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒ブロックを多量に、褐色粘土ブロックを少量含む(天井崩落土)。
3. 褐灰色土(10YR4/1) 灰層。焼土ブロックを少量含む。
4. 黄褐色土(10YR5/6) 焼土粒、白色粒、褐色ブロック土を少量含む(掘り方埋土)。
5. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘質土。焼土粒を少量、黒色土をブロック状に少量含む(袖)。



1. にぶい黄橙色土(10YR7/4) 粘土質(竈構築用の粘土か?)。
2. 褐灰色土(10YR4/1) ややしまる。粘質なし。礫を多量に白色粒を若干含む(貯蔵穴埋土)。
1. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫を少量含む。しまりなし。

1. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫を少量含む。しまりなし。
1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 小礫を多く含む砂質土。
1. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫を少量含む、しまりなし。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫を少量含む。しまりなし。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 小礫を多く含む砂質土(この左側は柱のおさへの礫か)。



第85図 10区59号竪穴建物と出土遺物

10区68号竪穴建物

(第86・87図 PL.28・29・71 遺物観察表P.263)

グリッド 078～083・-155～-160

重複 59号竪穴建物より新しい。

形状 南西部が調査区域外となり全形を把握できなかったが、方形と推定される。

規模 東西軸推定(2.77)m 南北軸推定(4.49)m 残存壁高0.21m

面積 計測不能 長軸方位 N-38°-W

埋没土 少量の黄色・白色鉱物粒と多量の垂角礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北東壁ほぼ中央に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.86m、屋外長0.36m、燃烧部長0.86m、焚口幅0.61mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.43m、右側0.57mの長さで張り出し残存していた。袖の先端部には左右とも芯材として左に長さ37cm、右に長さ37cmの垂角礫が立てられていた。その垂角礫のすぐ手前には竈構築材の一部と推定される大型板状礫(長さ130cm、幅40cm、厚さ16cm)が竈使

用面から20cm浮いた位置で残されていた。竈右脇にも長さ32cm、幅28cm、厚さ12cmの板状礫が床面上7cmで出土した。竈構築材の一部と推定される。

竈内には煮沸具を中心とした多くの土器が出土した。竈焚口部左手には土師器甕(第87図4・6)が、燃烧部中央部で土師器甕(同図5)が、燃烧部右手で土師器甕(同図2)がいずれも使用面から6～9cm浮いた状態で出土した。

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

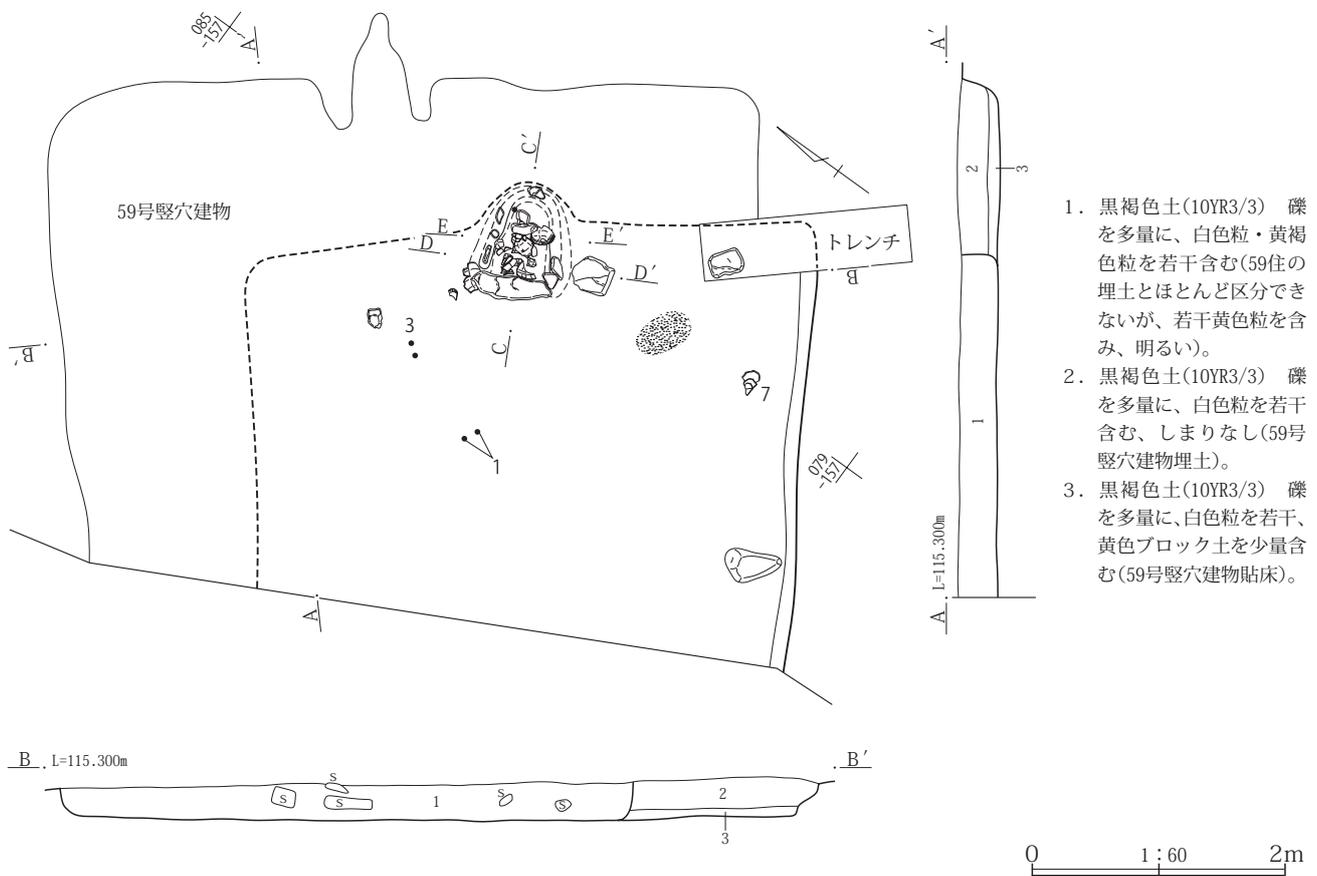
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

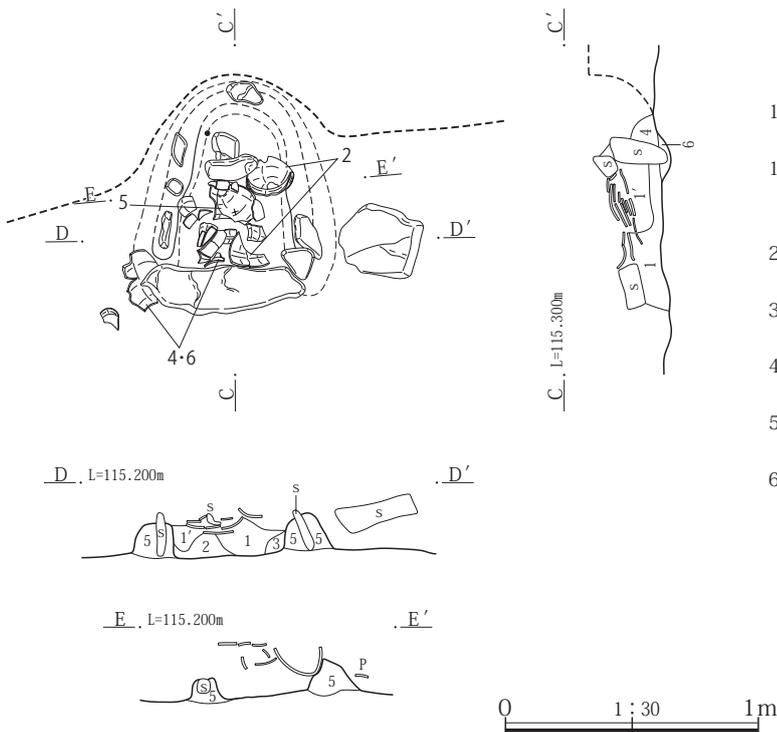
掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 竈周辺に土器が集中して出土した。中央部床面上3cmで土師器鉢(第87図1)、東隅床面上5cmで土師器甕(同図7)、北部床面上6cmで土師器甕(同図3)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片134点が出土した。

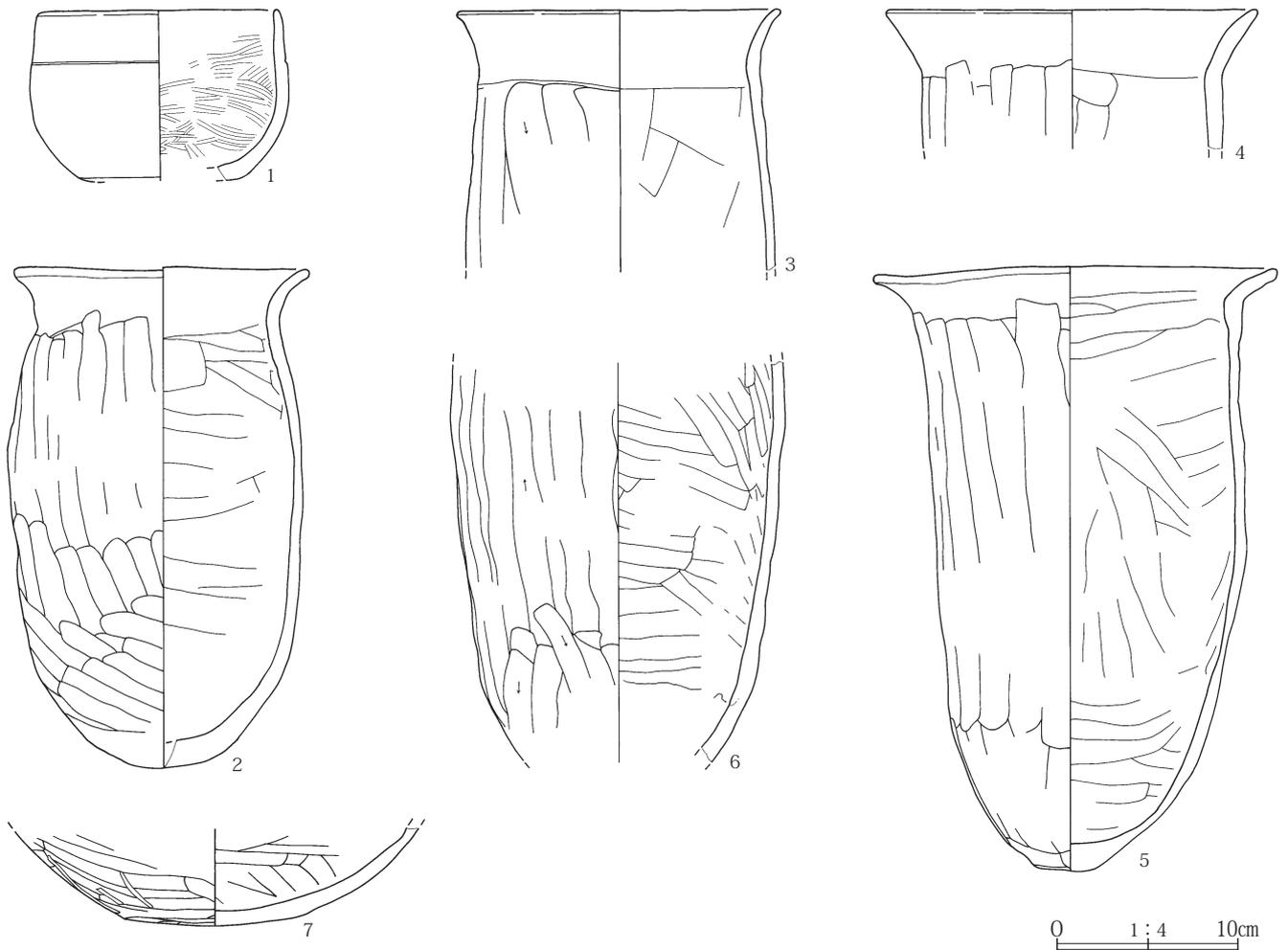
所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第86図 10区68号竪穴建物



1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性やや強い。しまり弱い。小礫を少量含む。焼土粒を微量に含む(天井の崩落土か?埋土?)。
- 1'. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまり強い。小礫を微量に含む粘土ブロックを少量、焼土ブロックを中量含む(天井崩落土)。
2. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまりあり。小礫を少量含む。焼土粒を微量に含む(竪穴建物の埋土に類似)。
3. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまり強い。小礫を極めて微量含む。粘土ブロックを中量含む(袖崩落土)。
4. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまりあり。小礫を少量、焼土粒を少量含む(1層に近い)。
5. 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有り。しまり強い。小礫を少量、焼土粒を若干含む(袖)。
6. 灰黄褐色土(10YR4/7) 粘性有り。しまり強い。小礫を含まない。炭化物粒・焼土粒を若干含む(支脚周辺のみ掘り方あり)。



第87図 10区68号竪穴建物竈と出土遺物

10区60号竪穴建物

(第88図 PL.29・71 遺物観察表P.263)

グリッド 110～111・-146～-147

重複 なし。

形状 竈部分のみが残っていた。竪穴建物の全体形状は不明。

規模 計測不能 面積 計測不能

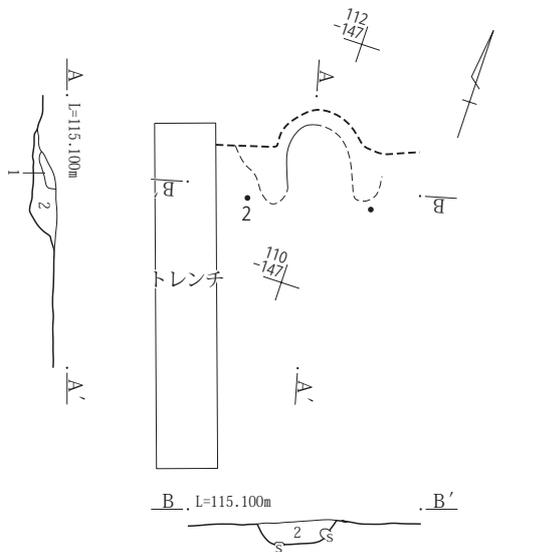
推定竈長軸方位 N-15°-W

埋没土 少量の白色鈹物粒と多量の礫と焼土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

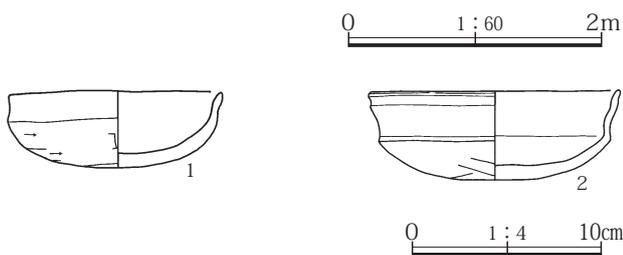
竈 竈と推定される凹地のみ残存していた。規模は確認長0.77m、屋外長0.31m、推定焚口幅0.68mである。屋内と推定される部分には袖構造の痕跡が左側0.46m、右側0.47mの長さで残存していた。燃烧部脇の床面直上で土師器杯(第88図2)が出土した。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(同図1)から出土した。その他、埋没土中から土師器破片63点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫、焼土ブロックを多量に、白色粒を若干含む。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫を多量に、白色粒を少量含む。



第88図 10区60号竪穴建物と出土遺物

10-2区78号竪穴建物

(第89・90図 PL.29・71 遺物観察表P.263・264)

重複 80号竪穴建物、89号竪穴建物、99号竪穴建物より新しい。

グリッド 101～105・-113～-117

形状 北東隅がやや丸くなったが、基本的には東西方向に長い長方形

規模 長軸4.04m 短軸3.35m 残存壁高0.15m

面積 11.72㎡ 長軸方位 N-8°-W

埋没土 礫とローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁南端に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.55m、屋外長0.25m、推定燃烧部長0.55mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側へのみ0.30mの長さで張り出し残存していた。竈埋没土中から土師器杯(第90図3)破片が出土した。

柱穴 床面の精査で確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 北西隅を中心として、厚さ9～15cmの掘り方充填土の下面から掘り方面を検出した。全体として凹凸がある。掘り方面の凹地底面上1cmで蛇紋岩製紡輪(第90図9)が出土した。

遺物と出土状況 土師器杯(第90図1)が南西隅床面直上で出土した。土師器杯(同図2)、土師器甕(同図7)、土師器台付甕(同図6)、須恵器蓋(同図4・5)、須恵器甕(同図8)が埋没土中から出土した。その他、土師器破片333点、須恵器破片13点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区80号竪穴建物

(第89・90図 PL.29・71 遺物観察表P.264)

グリッド 100～105・-116～-119

重複 78号竪穴建物より古く、89号竪穴建物より新しい。

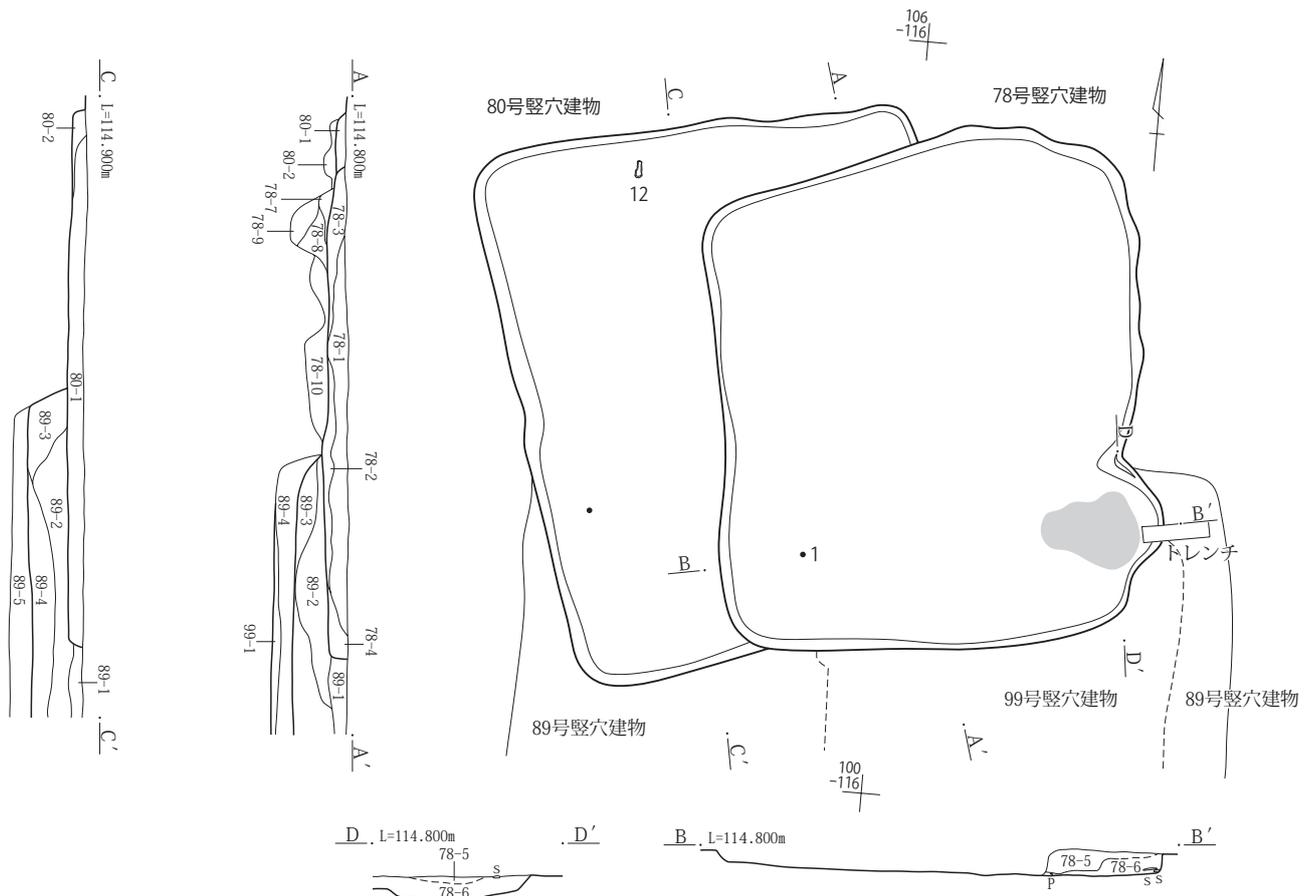
形状 東半部は78号竪穴建物に壊されているが、南北に長い長方形と推定される。

規模 長軸4.26m 短軸3.52m 残存壁高0.08m

面積 計測不能 長軸方位 N-16°-W

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。



78号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・小塊状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・小塊状ローム土含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・赤褐色粒子微量。
4. 3同質。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 礫無含有・ローム土と黒褐色土の混土(粉状ローム土が多い)。小塊状焼土少量。
6. 暗褐色土(10YR3/3) 礫微量・塊状焼土少量。
7. 黒褐色土(10YR3/2) ・塊状ローム土の混土。
8. 黒褐色土(10YR3/2) 小礫少量・塊状ローム土少量。
9. 黒褐色土(10YR3/2) ・塊状ローム土の混土。7近質。
10. 黒褐色土(10YR3/2) ・塊状ローム土の混土。

80号竪穴建物

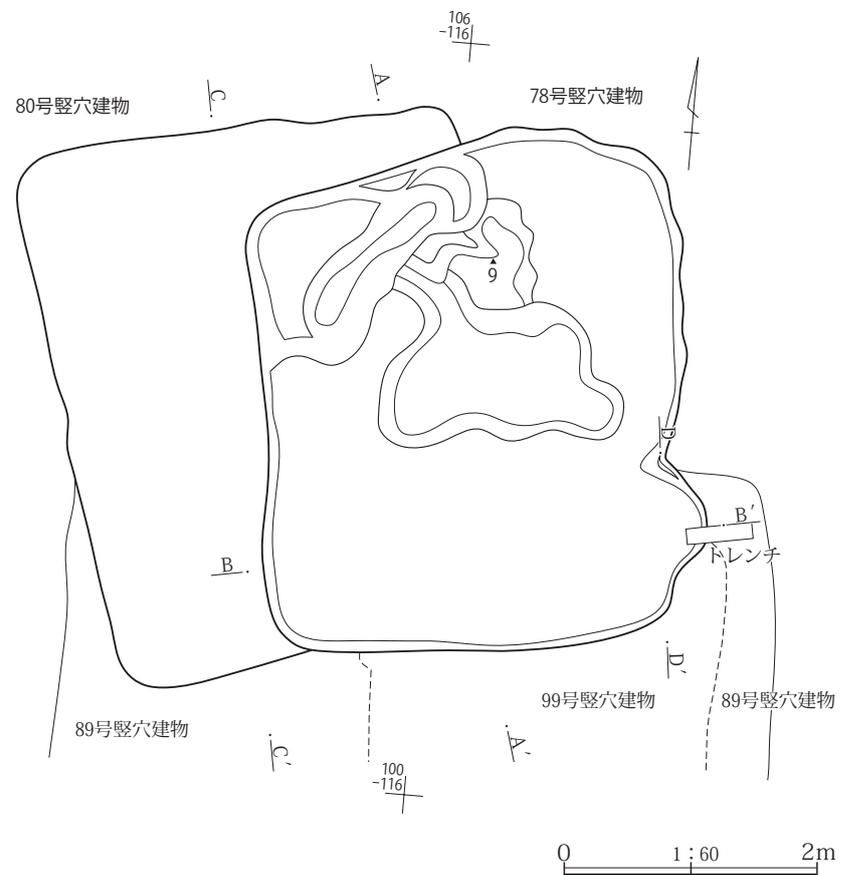
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。

89号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・50mmφ～100mmφ 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・50mmφ～80mmφ 礫少量・塊状焼土多量・粒状炭化物多量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 50mmφ～80mmφ 礫混入。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック多量(人為層)。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。

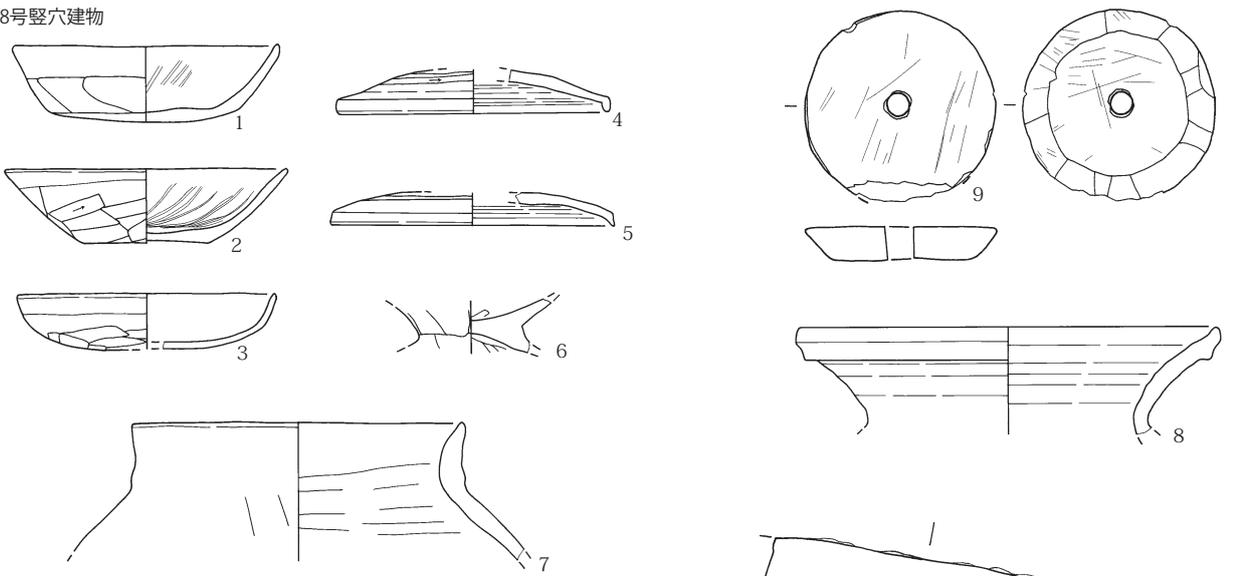
99号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土少量。

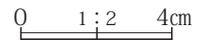
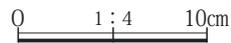
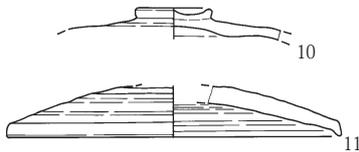


第89図 10-2区78・80号竪穴建物

78号竪穴建物



80号竪穴建物



78建-9
80建-12

第90図 10-2区78・80号竪穴建物出土遺物

柱穴 床面の精査では確認できなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 礫を含む黒褐色の掘り方充填土は断面では確認できたが、地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 北壁際で鉄製鎌(第90図12)が床面直上で出土した。埋没土中から須恵器蓋(同図10・11)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片136点、須恵器破片3点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区79号竪穴建物

(第91図 PL.29 遺物観察表P.264)

グリッド 099~100・-112~-115

重複 89号竪穴建物、99号竪穴建物、595号ピット、596号ピット、605号ピットより新しい。

形状 東西方向に長い隅丸長方形

規模 長軸2.05m 短軸1.74m 残存壁高0.04m

面積 2.94㎡ **長軸方位** N-80°-E

埋没土 礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。

柱穴 床面の精査で南西部壁際にP1を検出した。底面には板状の礫と棒状の礫が置かれていた。P1の規模は下記の通りである。

P1 長径0.43m 短径0.37m 深さ0.11m

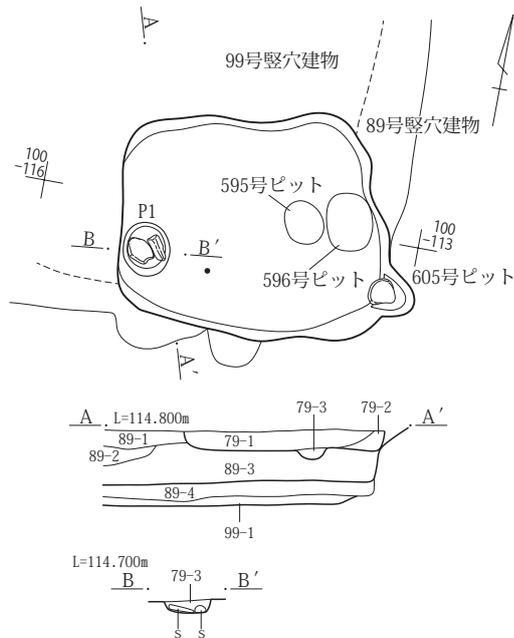
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第91図1)、土師器甕(同図6)、土師器台付甕(同図5)、須恵器杯(同図2)、須恵器碗(同図3)、須恵器瓶か(同図4)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片153点、須恵器破片3点が出土した。

所見 埋没土の特徴から中世の竪穴建物と考えられる。埋没土中の出土遺物は混入である。



79号竪穴建物

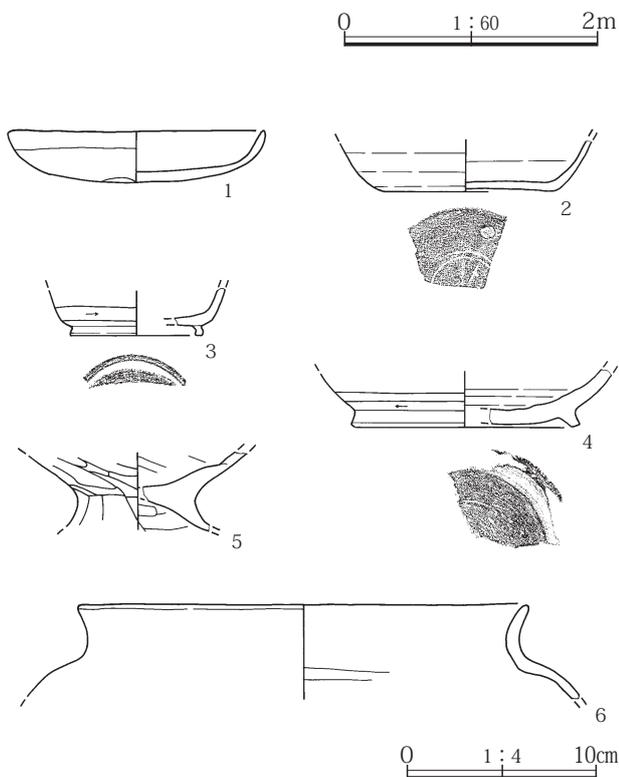
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状ローム土少量。

89号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・50mmφ~100mmφ礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・50mmφ~80mmφ礫少量・塊状焼土多量・粒状炭化物多量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 50mmφ~80mmφ礫混入。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。

99号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土少量。



第91図 10-2区79号竪穴建物と出土遺物

10-2区81号竪穴建物

(第92・93図 PL.29)

グリッド 097~098・-116~-119

形状 北半部の範囲のみの確認にとどまるので全形は不明であるが、方形と推定される。

重複 268号土坑、1077号・1212号・1213号・1215号ピットより古い。

規模 東西軸2.67m 南北軸(1.15)m 残存壁高0.04m

面積 計測不能 長軸方位 N-79°-E

埋没土 わずかな礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

10-2区82号竪穴建物

(第92・93図 PL.29 遺物観察表P.264)

グリッド 099~102・-118~-119

重複 89号竪穴建物より古い。

形状 北西隅のみの確認のため全形は不明であるが、方形と推定される。

規模 東西軸(1.05)m 南北軸(1.93)m

残存壁高0.35m

面積 計測不能 長軸方位 N-27°-W

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

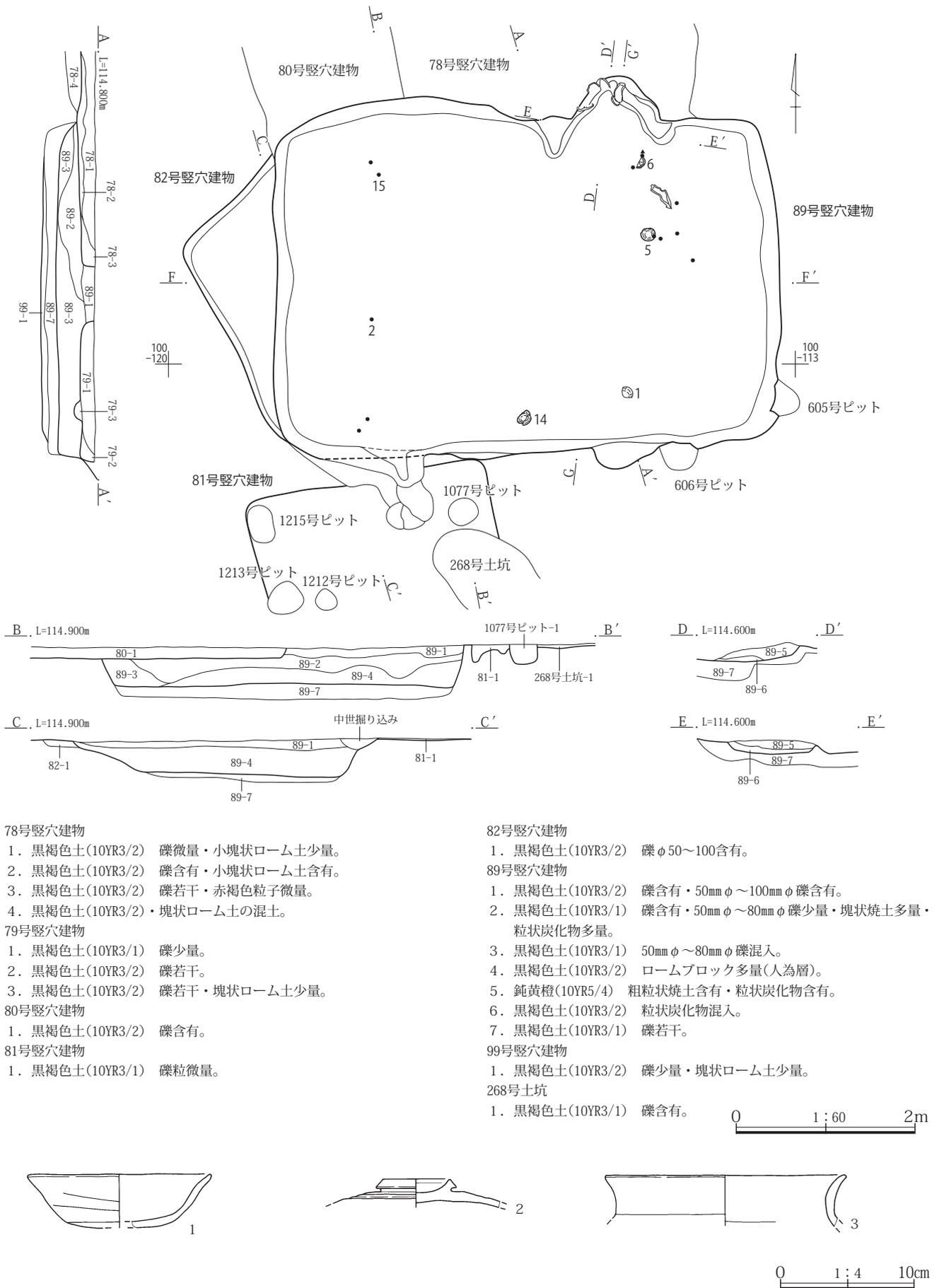
壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第92図1)、土師器甕(同図3)、須恵器蓋(同図2)が出土した。その他、土師器破片152点、須恵器破片3点出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



78号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・小塊状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・小塊状ローム土含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・赤褐色粒子微量。
4. 黒褐色土(10YR3/2)・塊状ローム土の混土。

79号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状ローム土少量。

80号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。

81号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫粒微量。

82号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫φ50~100含有。

89号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・50mmφ~100mmφ礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・50mmφ~80mmφ礫少量・塊状焼土多量・粒状炭化物多量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 50mmφ~80mmφ礫混入。
4. 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック多量(人為層)。
5. 鈍黄橙(10YR5/4) 粗粒状焼土含有・粒状炭化物含有。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状炭化物混入。
7. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。

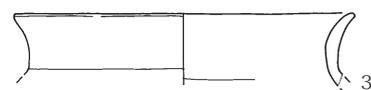
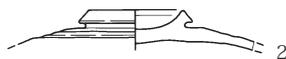
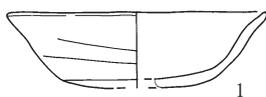
99号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土少量。

268号土坑

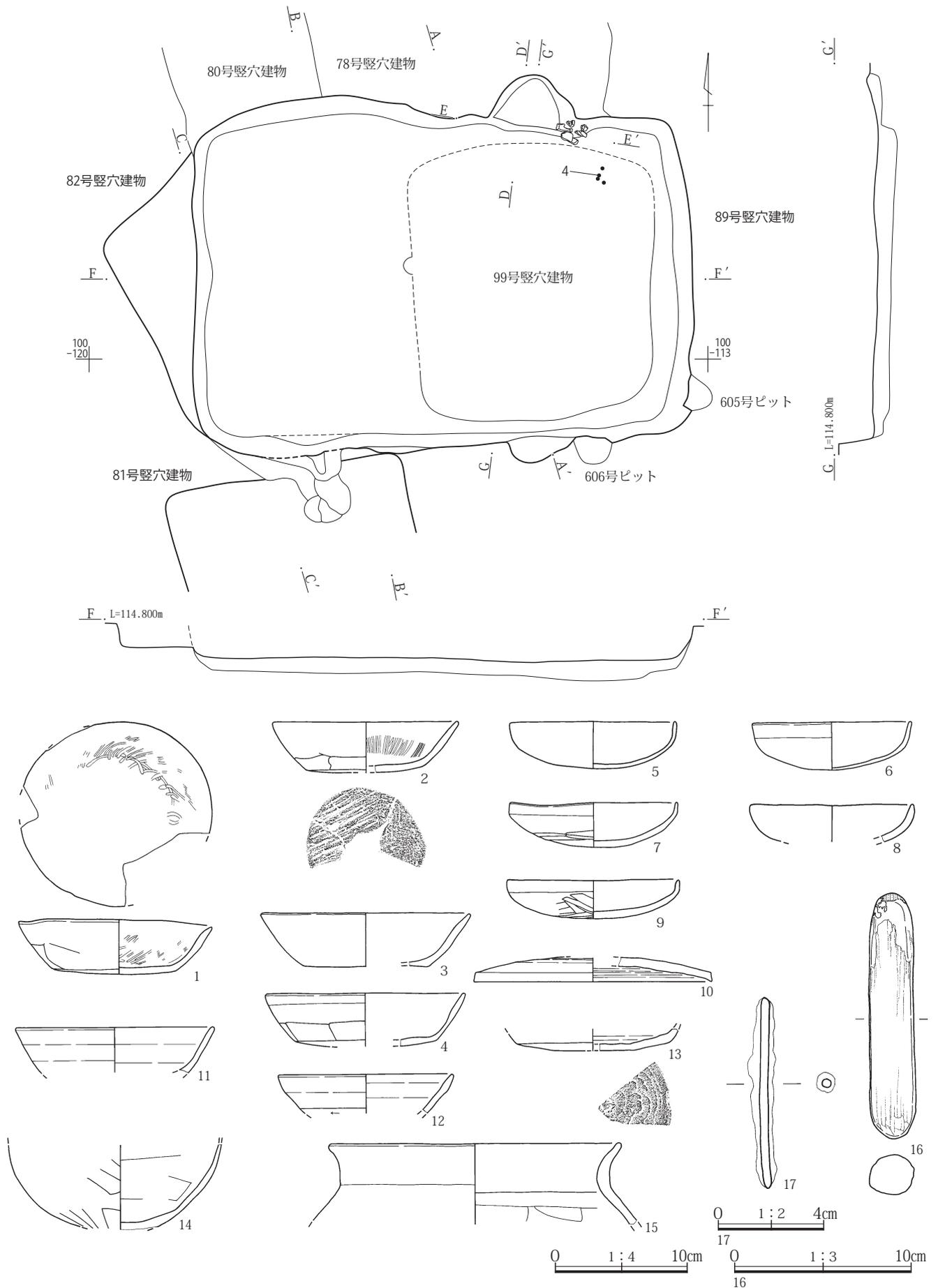
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm

第92図 10-2区81・82・89号竪穴建物と82号竪穴建物出土遺物



第93図 10-2区81・82・89号竪穴建物掘り方と89号竪穴建物出土遺物

10-2区89号竪穴建物

(第92・93図 PL.29・71 遺物観察表P.264・265)

グリッド 098~103・-113~-118

重複 78号竪穴建物、80号竪穴建物、81号竪穴建物、605号ピット、606号ピットより古く、82号竪穴建物、99号竪穴建物より新しい。

形状 東西に長い隅丸長方形

規模 長軸5.62m 短軸4.02m 残存壁高0.37m

面積 18.46㎡ **長軸方位** N-90°-E

埋没土 礫と多量の塊状焼土・粒状炭化物を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁中央やや東側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.80m、屋外長0.36m、燃烧部長0.80mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.55m、右側0.33mの長さで張り出し残存していた。竈奥部には礫が並んでいたが、竈の構造とは確定できなかった。竈焚口部右手床面上14cmで土師器杯(第93図6)が出土した。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ10~14cmの掘り方充填土の下位で、竈の掘り方を確認した。全体の掘り下げ調査中に99号竪穴建物を検出した。

遺物と出土状況 東半部ので床面上13cmで土師器杯(第93図5)が出土した。南壁沿いの床面上13cmで土師器杯(同図1)が、床面上11cmで土師器壺(同図14)が出土した。南西部床面上10cmで土師器杯(同図2)、北西部床面上10cmで土師器甕(同図15)、掘り方底面上14cmで土師器杯(同図4)が出土した。

また、埋没土中から土師器杯(同図3・8・9)、須恵器杯(同図11・12)、須恵器杯(同図13)、須恵器蓋(同図10)、棒状礫(同図16)、鉄製釘(同図17)が出土した。掘り方埋没土中から土師器杯(同図7)が出土した。その他、埋没土中から土師器破片622点、須恵器破片14点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区99号竪穴建物

(第94図 PL.30)

グリッド 099~102・-113~-116

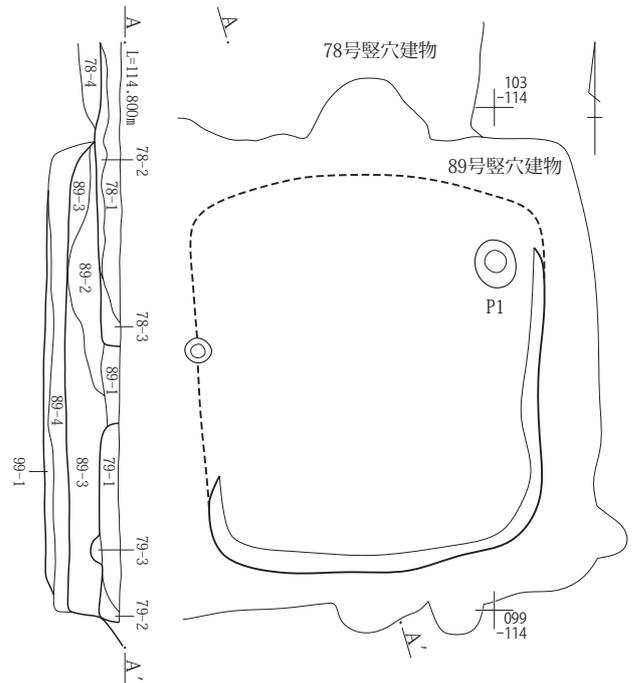
重複 78号竪穴建物、89号竪穴建物より古い。

形状 北壁周辺は残存状況が不良であったが、南北に長い隅丸方形と推定される。

規模 推定長軸3.17m 短軸2.59m

残存壁高0.08m

面積 計測不能 **長軸方位** N-0°-E



78号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・小塊状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・小塊状ローム土含有。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・赤褐色粒子微量。
4. 黒褐色土(10YR3/2)・塊状ローム土の混土。

79号竪穴建物

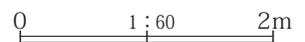
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・塊状ローム土少量。

89号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・50mmφ~100mmφ 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・50mmφ~80mmφ 礫少量・塊状焼土多量・粒状炭化物多量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 50mmφ~80mmφ 礫混入。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。

99号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土少量。



第94図 10-2区99号竪穴建物

埋没土 少量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 北東部でP 1を検出したが、位置が壁寄りであること、浅いことから支柱穴とは確定できなかった。P 1の規模は下記の通りである。

P 1 長径0.39m 短径0.33m 深さ0.07m

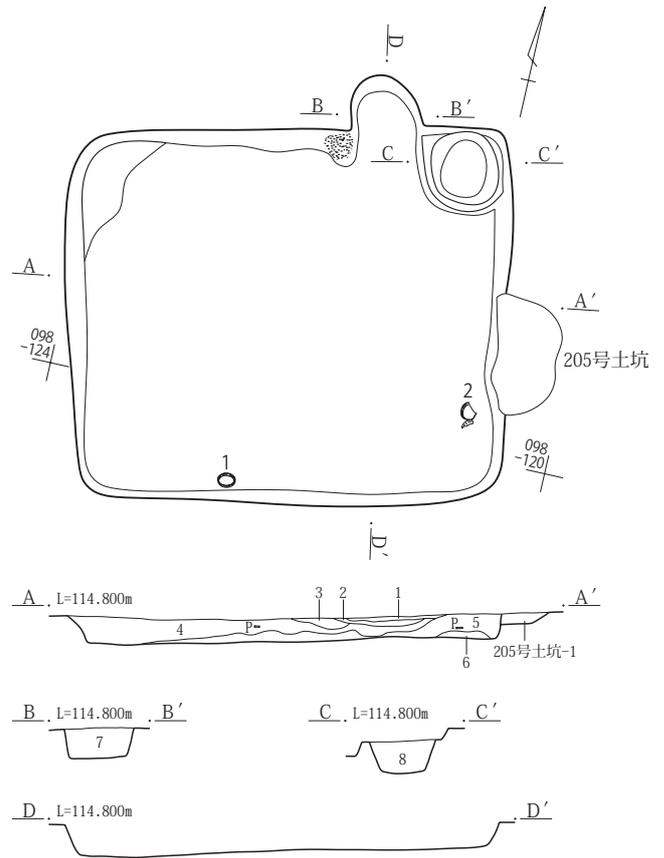
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

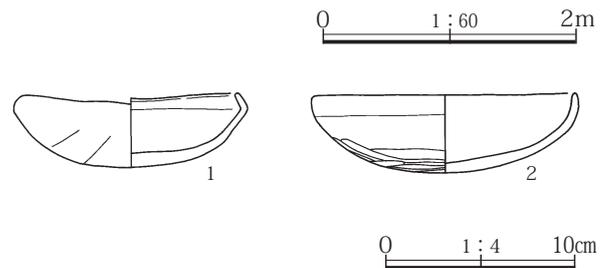
掘り方 なし。

遺物と出土状況 出土遺物はなかった。

所見 出土遺物がなく時期は不明であるが89号竪穴建物より古いので8世紀以前の竪穴建物と考えられる。



1. 褐灰色土(10YR4/1) シルト質・礫微量。
2. 灰褐色土(7.5YR4/2) 塊状焼土含有・塊状ローム土若干。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫混入・塊状ローム土少量。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫混入・50mmφ~80mmφ礫含有。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
7. 灰褐色土(7.5YR4/2) 礫含有・塊状焼土含有・粒状焼土含有。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土含有。



第95図 10-2区83号竪穴建物と出土遺物

10-2区83号竪穴建物

(第95図 PL.30・71 遺物観察表P.265)

グリッド 097~100・-120~-124

重複 205号土坑より新しい。

形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸3.32m 短軸2.90m 残存壁高0.14m

面積 8.63㎡ **長軸方位** N-75°-E

埋没土 礫やローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁中央よりやや右側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.72m、屋外長0.42m、燃焼部長0.72mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側のみ0.31mの長さで張り出し残存していた。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 北東隅に、長径0.57m、短径0.45m、深さ0.26mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。周囲は隅丸方形状に縁どられたような高まりがあった。

掘り方 地山との判別が困難であることから調査を実施しなかった。

遺物と出土状況 南壁際床面直上で土師器杯(第95図1)が完形で出土した。南東隅床面直上で土師器杯(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片41点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区84号竪穴建物

(第96図 PL.30)

グリッド 107~110・-115~-118

重複 194号土坑、583号ピットより古い。

形状 確認当初から床面は失われており、掘り方面のみの調査となった。

規模 長軸2.85m 短軸2.68m 残存壁高0.06m

面積 7.24㎡ **長軸方位** N-11°-W
埋没土 少量の礫と多量のローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 検出されなかった。

柱穴 掘り方でピットを3本検出したが、位置からするとP1・P3が主柱穴の可能性がある。それぞれの規模は下記の通りである。深さは掘り方底面からの計測である。

P1 長径0.53m 短径0.23m 深さ0.11m

P2 長径0.66m 短径0.55m 深さ0.13m

P3 長径0.64m 短径0.50m 深さ0.28m

柱間の距離はP2・P3間が1.87m、P3・P1間が2.05mである。

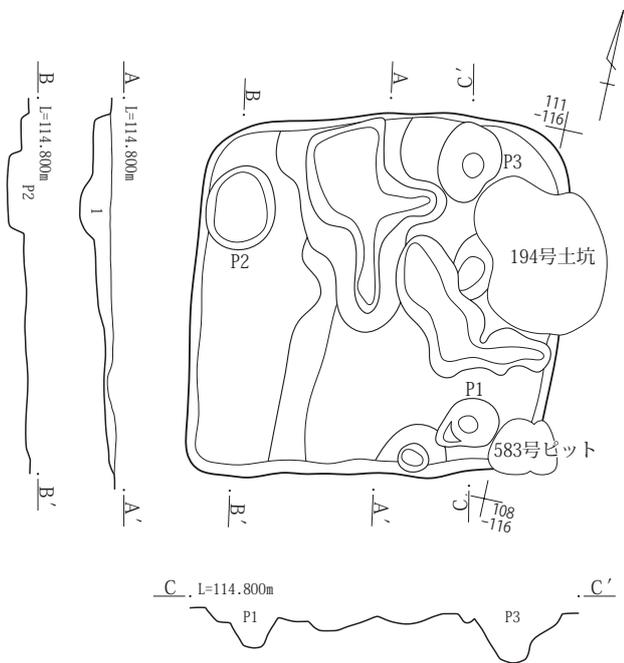
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし

掘り方 中央から北東部にかけて凹凸が著しく掘り込まれていた。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片10点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から9世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・塊状ローム土多量。

0 1:60 2m

第96図 10-2区84号竪穴建物

10-2区85号竪穴建物

(第97・98図 PL.30・72 遺物観察表P.265・266)

グリッド 114~118・-106~-111

重複 472号ピットより古い。

形状 南北方向に長い長方形

規模 長軸3.45m 短軸3.08m 残存壁高0.15m

面積 10.26㎡ **長軸方位** N-28°-W

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央より南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.87m、屋外長0.71m、燃焼部長0.87m、焚口幅0.96mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が右側のみ0.27m張り出し残存していた。燃焼部の中央とやや右寄りの位置に棒状礫が支脚として立てられていた。

竈燃焼部から建物中央部にかけて、土師器の大型破片と平瓦片、大型礫破片が5~15cm床面から浮いた状況で出土した。竈内で出土したのは、平瓦(第99図12)、土師器羽釜(第98図8)、須恵器羽釜(同図9)で、須恵器羽釜(9)は竈前で出土した大型破片とも接合した。

柱穴 床面の精査で主柱穴3本、ピット1本を検出した。床面で確認できなかった北西隅の主柱穴は掘り方面P5として確認した。床面で検出したP4については性格は不明である。各柱穴・ピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.43m 短径0.42m 深さ0.11m

P2 長径0.45m 短径0.40m 深さ0.10m

P3 長径0.39m 短径0.36m 深さ0.19m

P4 長径0.24m 短径0.23m 深さ0.10m

P5 長径0.38m 短径0.36m 深さ0.10m

柱間の距離はP1・P2間が1.40m、P2・P5間が2.46m、P5・P3間が1.74m、P3・P1間が2.46mである。

壁際溝 なし。 **貯蔵穴** なし。

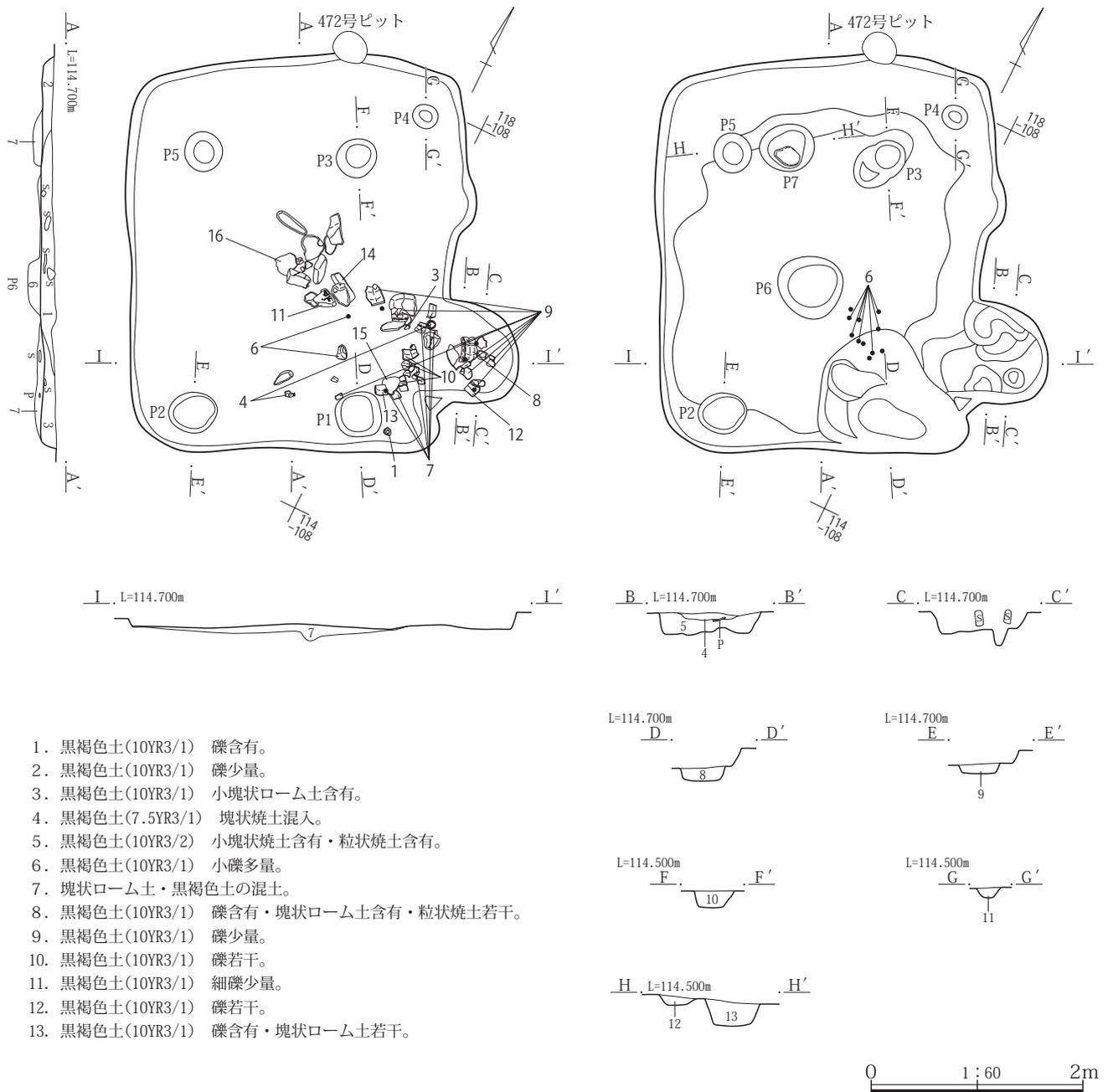
掘り方 厚さ10cmほどの掘り方充填土の下位に掘り方面を検出した。掘り方面壁沿いに幅0.1~0.7mほどの掘り残しがあり、中央部がさらに掘り込まれていた。中央部はほぼ平坦で、その中にP6(長径0.62m、短径0.60m、深さ0.11m)と、その北側にP7(長径0.50m、短径0.47m、深さ0.29m)を検出した。P7の底面には板状の礫が出土した。また、掘り方充填土の薄かった部分では掘り方面で灰釉陶器長頸壺(第98図6)に接合する破片が出

土した。

遺物と出土状況 竈燃焼部から建物中央部にかけて出土した多くの遺物は建物廃絶の過程で南東隅から中央部にかけて流れ込んだものと推定される。このうち須恵器羽釜(第98図7)、須恵器杯(同図3)、土師器椀(同図1)、土師器か羽釜(同図10)、平瓦(第99図13・14・15・16)、須恵器椀(第98図4)を図示した。なかには縄文時代のものとみられる石皿の破片(同図11)も含まれていた。また、埋没土中から須恵器杯(同図2)、須恵器椀(同図5)、塊状鉄滓1点が出土した。この他、埋没土中から土師器破

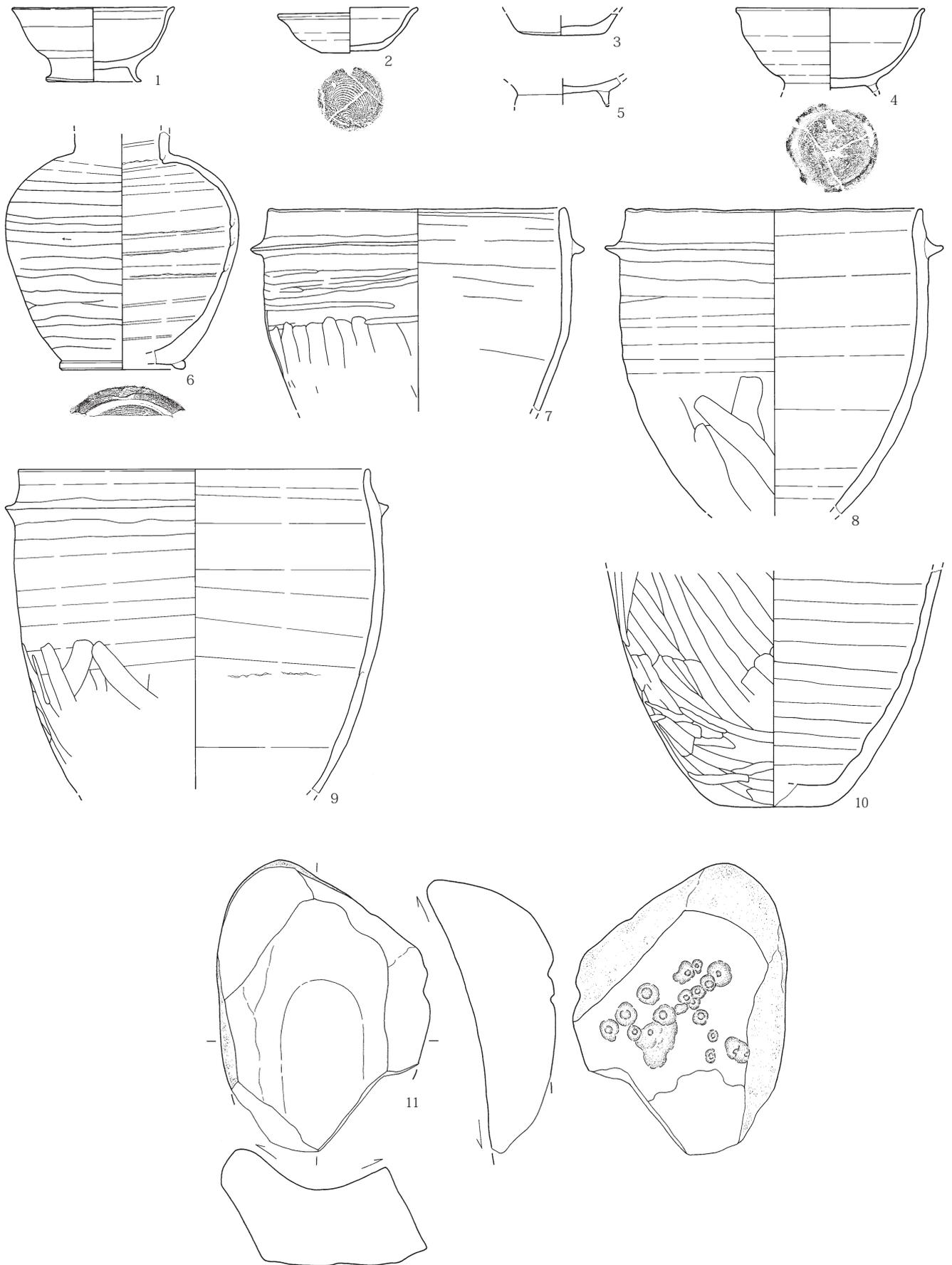
片166点、須恵器破片28点、塊状鉄滓1点が出土した。

所見 出土遺物から10世紀後半の竪穴建物と考えられる。竈燃焼部から建物中央部にかけての遺物出土状態は流れ込んだような状態であるが、竈内から連続した形で出土していること、時期的な一括性があること、掘り方面出土の破片が灰釉陶器長頸壺(第98図9)に接合していることから、本竪穴に伴うと判断した。平瓦は8世紀前半のものであり、調査区東に近接する雑木味遺跡出土の瓦群と同窯で生産されたものと推定される。混入品であろう。

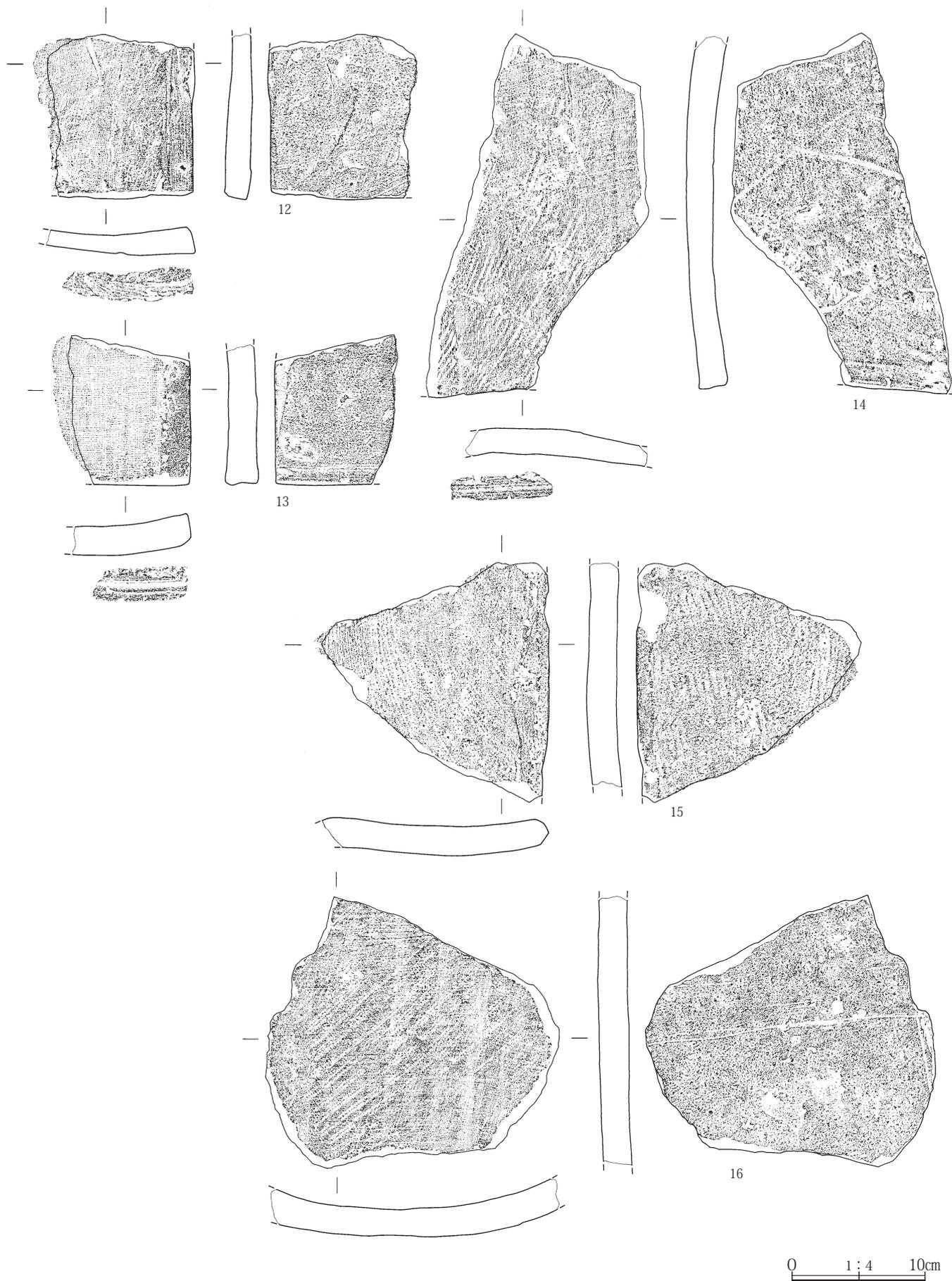


1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状ローム土含有。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状焼土混入。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状焼土含有・粒状焼土含有。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 小礫多量。
7. 塊状ローム土・黒褐色土の混土。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土含有・粒状焼土若干。
9. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
11. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫少量。
12. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
13. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土若干。

第97図 10-2区85号竪穴建物



第98図 10-2区85号竪穴建物出土遺物(1)



第99图 10-2区85号竖穴建物出土遺物(2)

10-2区86号竪穴建物

(第100・101図 PL.31・73 遺物観察表P.266・267)

グリッド 109～112・-104～-108

重複 93号竪穴建物より新しく、163号土坑より古い。

形状 東西方向に長い隅丸長方形

規模 長軸3.74m 短軸2.81m 残存壁高0.20m

面積 8.17㎡ 長軸方位 N-84°-E

埋没土 少量の白色鈹物粒とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。 柱穴 なし。 壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。 掘り方 なし。

遺物と出土状況 南部で土師器杯(第101図2)が床面上14cm、土師器甕(同図13)が床面上26cm、土師器甕(同図17)が床面上12cmで出土した。南壁沿いで土師器甕(同図15)、土師器甕(同図16)が床面上8cmで出土した。また、中央部床面直上で土師器杯(同図3)が出土した。中央部から北部にかけてには土師器鉢(同図7)が床面直上で散在していた。土師器杯(同図5)は中央部床面上22cmで出土した。須恵器盤(同図11)が北西隅床面上16cmで出土した。

埋没土中から土師器杯(同図1・4・6)、土師器甕(同図12・14)、須恵器杯(同図10)、須恵器蓋(同図8・9)が出土した。この他に埋没土中から土師器破片286点、須恵器破片10点が出土した。

なお、87号竪穴建物出土土器との接合は2例であった。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。調査当初は86号、87号、93号は東壁に竈をもつ1棟の竪穴建物と考え調査を始めたが、掘り進めるうちに86号と87号の二つの竪穴と、竈とそれに対応する床面が確認できた。竈をもつ竪穴を93号とした。93号は竪穴住居と考えられるが、86号、87号の竪穴の機能は明確にできなかった。

10-2区87号竪穴建物

(第100図 PL.31・73 遺物観察表P.266)

グリッド 107～109・-104～-106

重複 93号竪穴建物より新しい。20B号溝・598号ピットより古い。

形状 南北方向に長い隅丸長方形

規模 長軸2.67m 短軸2.33m 残存壁高0.28m

面積 4.59㎡ 長軸方位 N-10°-W

埋没土 少量の白色鈹物粒とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。 柱穴 なし。 壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。 掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第100図1・2・3)、須恵器杯(同図6)、須恵器蓋(同図4)、須恵器蓋(同図5)、鉄製釘(同図8)、変玄武岩製の磨石(同図7)が出土した。この他に埋没土中から土師器破片431点、須恵器破片12点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。本竪穴は竈や柱穴等の遺構はなく竪穴住居とは考えにくい。比較的多量の土器が出土しているのが特徴的だが、本竪穴の機能は明確にできなかった。

10-2区93号竪穴建物

(第100図 PL.31・73 遺物観察表P.266)

グリッド 106～110・-103～-107

重複 86号・87号竪穴建物より古く、180号・208B号・273号土坑より新しい。

形状 上記他遺構により北半、南東隅が壊されており、全形は把握できなかったが、南北方向に長い長方形と推定される。

規模 東西軸推定3.76m 南北軸(2.95)m 残存壁高0.09m

面積 計測不能 長軸方位 N-85°-E

埋没土 夾雑物の少ない黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁に竈が敷設されていた。詳細な位置については北壁の位置が不明であることから明らかにできなかった。残存する竈の規模は確認長1.22m、屋外長0.85m、燃烧部長不明、焚口幅0.63mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が右側のみ0.43mの長さで張り出し残存していた。焼土や灰の残存状況は不良であった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

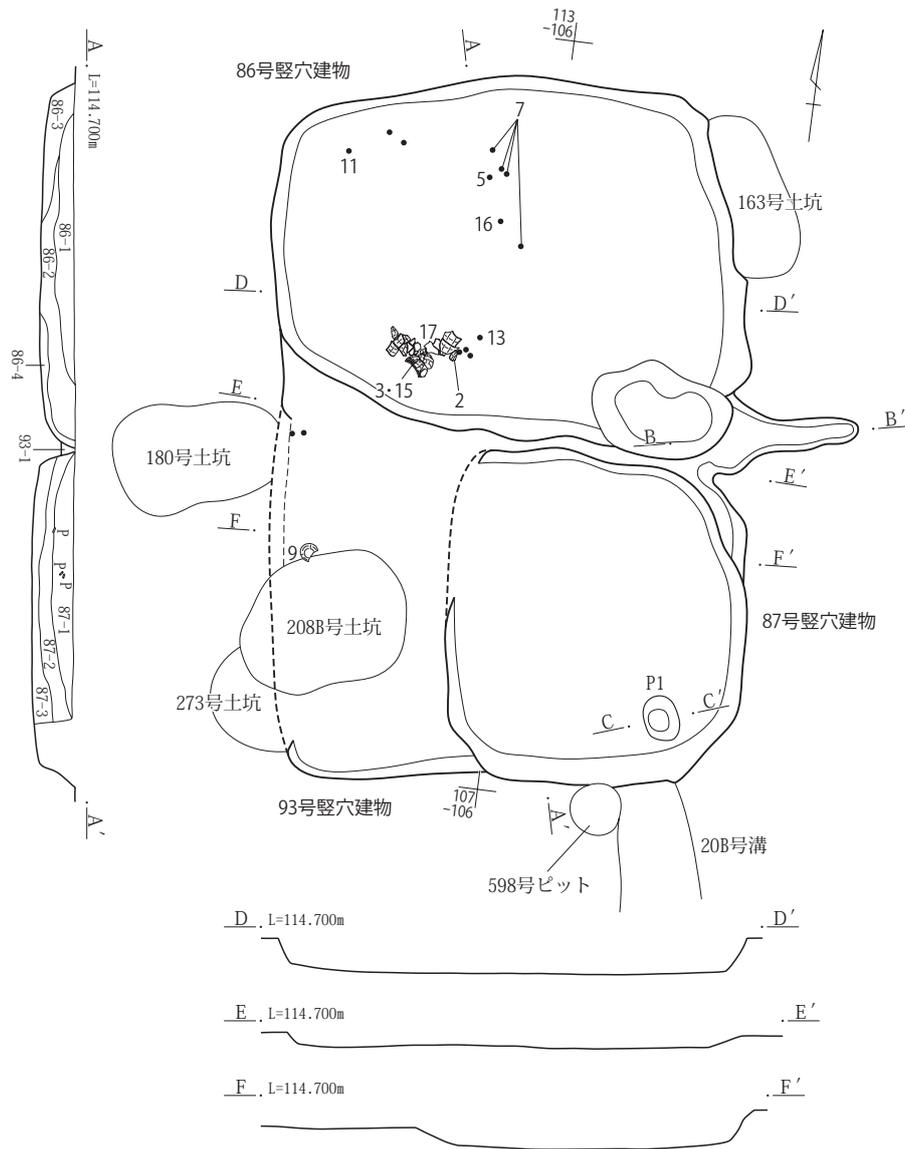
貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 西壁際床面上13cmで土師器杯(第100図9)が出土した。埋没土中から須恵器蓋(同図10)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片70点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

2. 竪穴建物



86号竪穴建物

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 礫少量・白色微粒子含有。(乾燥時の色調・湿潤だと黒褐色土(10YR3/2))
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状ローム土若干。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極微量・塊状ローム土混入。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・粒状焼土少量。

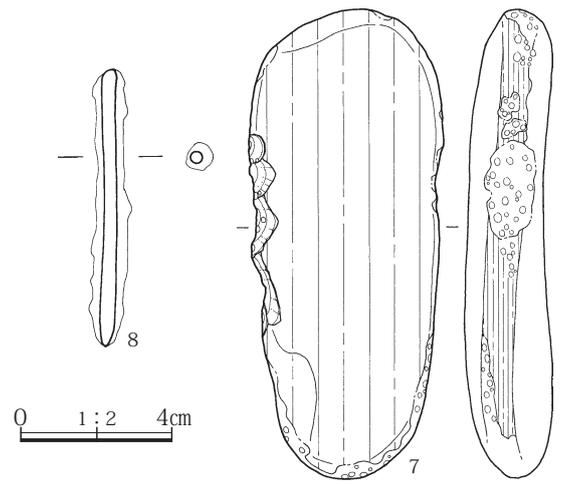
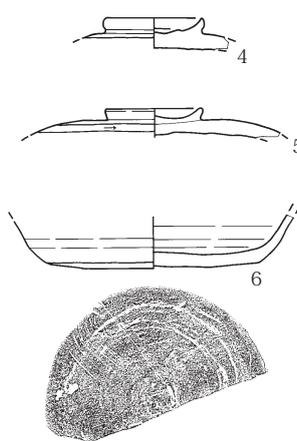
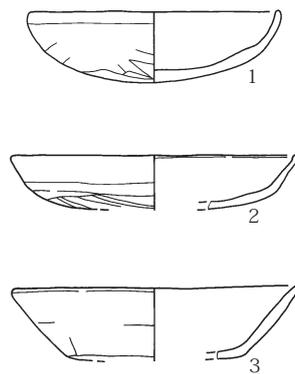
87号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・粒状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・小塊状ローム土少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・小塊状ローム土少量・塊状ローム土若干。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・粗粒状ローム土少量。

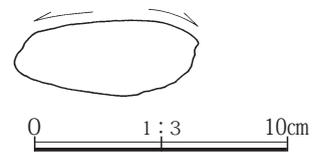
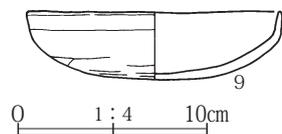
93号竪穴建物

1. 黒褐色土(7.5YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土少量・粒状焼土若干。

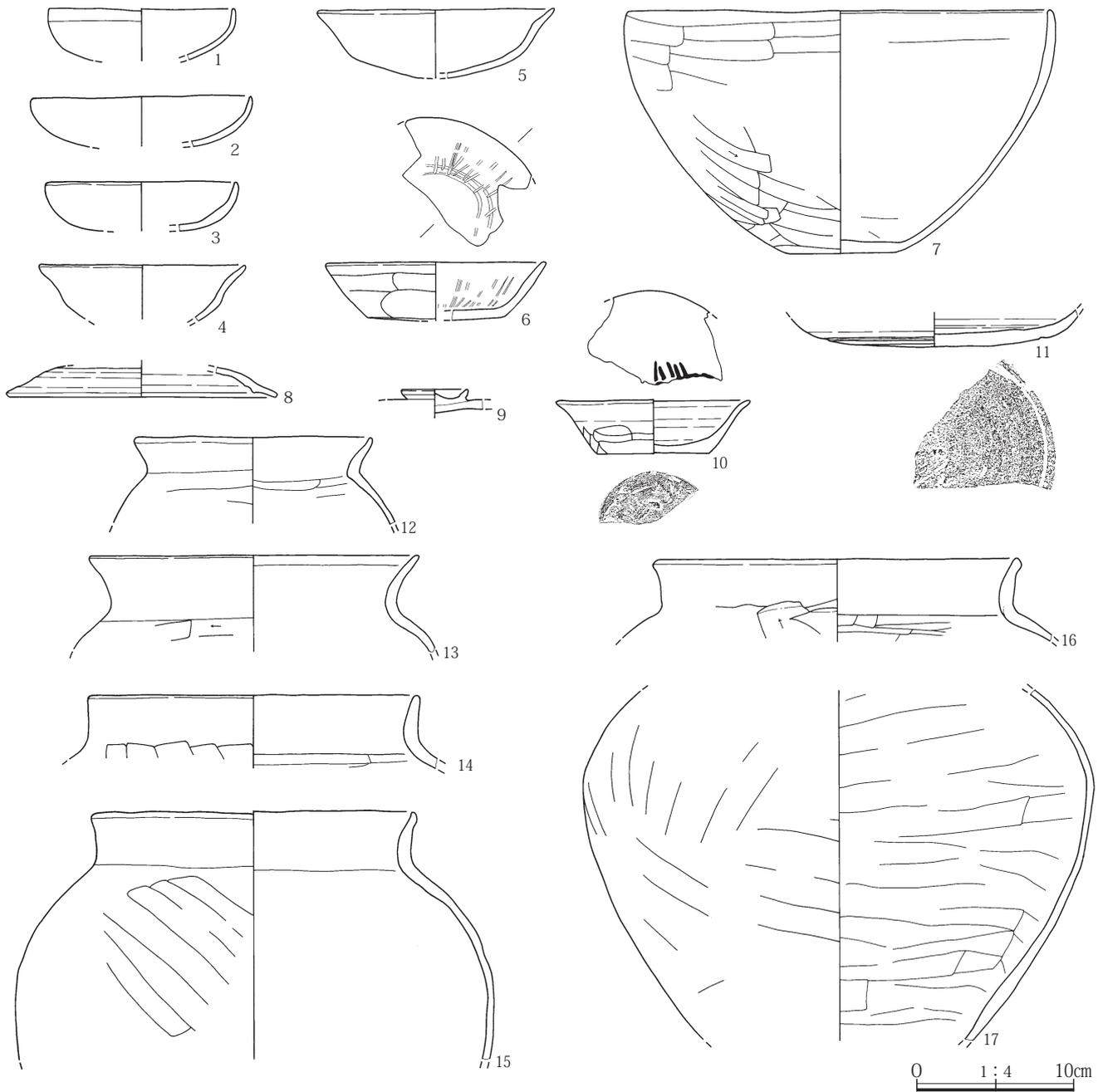
87号竪穴建物



93号竪穴建物



第100図 10-2区86・87・93号竪穴建物と87・93号竪穴建物出土遺物



第101図 10-2区86号竪穴建物出土遺物

10-2区88号竪穴建物

(第102図 PL.31)

グリッド 102~108・-101~-106

重複 18号溝、183号・184号土坑、600号・601号・602号・603号・604号・610号ピットより古い。

形状 南北方向にわずかに長い長方形

規模 長軸4.43m 短軸4.09m 残存壁高0.21m

面積 15.95㎡ 長軸方位 N-25°-W

埋没土 礫やローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央より南側に竈が敷設されていた。残存する

竈の規模は確認長0.34m、屋外長0.21m、燃焼部長0.34m、焚口幅0.81mで、屋内に張り出す袖構造は確認できなかった。焼土や灰の残存状況は不良であった。

柱穴 床面の精査では南西隅のP1を検出した。他の主柱穴P4・P11・P8は掘り方面の調査で確認することができたので、床面平面図に追記している。

P1の規模は下記の通りである。

P1 長径0.53m 短径0.40m 深さ0.12m

壁際溝 なし。 貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ5~10cmの掘り方充填土の下位で掘り方面

2. 竪穴建物

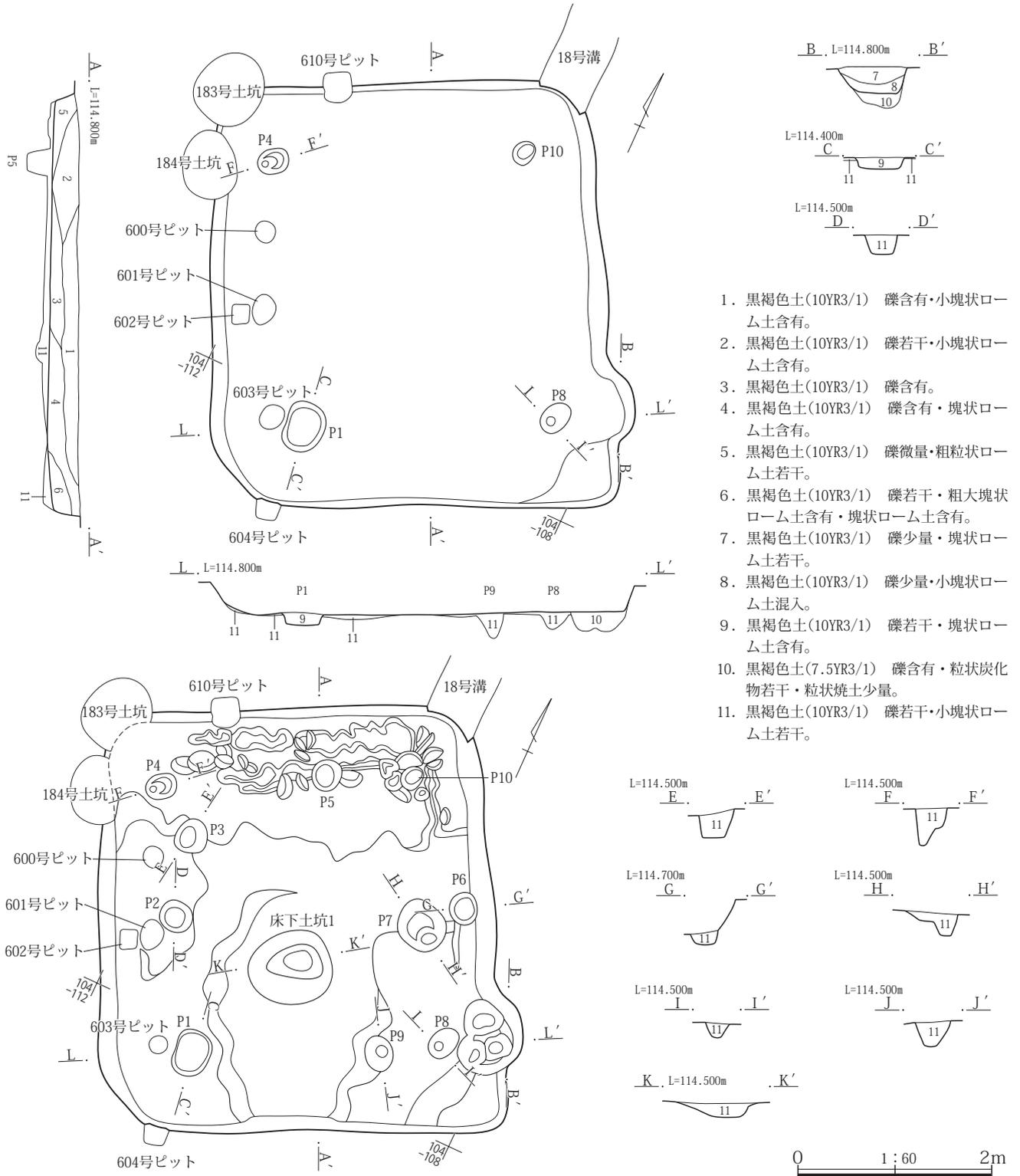
を確認した。中央部がやや深く掘り込まれており、その中央付近で長径0.86m、短径0.76m、深さ0.16mの1号床下土坑が検出された。

本建物は4本柱穴の構造と推定されるが、掘り方面で主柱穴3本(P4・P10・P8)を検出した。さらに各辺に1本ずつ別の柱穴が検出された。その位置(柱間寸法)

は一定ではないが、主柱穴の柱通りにのっている。構造に関わる施設の可能性がある。また、柱通りからは外れるが、北西部にP3、東壁際中央部にP6を検出した。

各柱穴の規模は下記の通りである。深さはいずれも掘り方面での計測値である。

P4 長径0.33m 短径0.27m 深さ0.37m



第102図 10-2区88号竪穴建物

第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

- P 10 長径0.25m 短径0.19m 深さ0.30m
- P 8 長径0.36m 短径0.25m 深さ0.19m
- P 2 長径0.35m 短径0.32m 深さ0.20m
- P 5 長径0.33m 短径0.32m 深さ0.24m
- P 7 長径0.53m 短径0.47m 深さ0.11m
- P 9 長径0.28m 短径0.29m 深さ0.27m
- P 3 長径0.36m 短径0.36m 深さ0.30m
- P 6 長径0.34m 短径0.29m 深さ0.11m

柱間の距離はP 1・P 4間が2.78m、P 4・P 10間が2.70m、P 10・P 8間が2.80m、P 8・P 1間が2.60mである。また、P 1・P 2間が1.44m、P 4・P 5間が1.80m、P 10・P 7間が1.90m、P 8・P 9間が0.60mである。

主柱穴を結んだ線より北辺、西辺はやや高くなっており、北辺には掘削作業に伴う鋤先痕跡が掘り方面に残されていた。その観察によれば作業は西から東へ向かって進められたと判断された。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片299点、須恵器破片4点、塊状鉄滓1点が出土したが、いずれも小片で実測・図示できる資料はなかった。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区90号竪穴建物

(第103図 PL.31)

グリッド 110~113・-093~095

重複 91号竪穴建物より新しい。246号・247号土坑、931号・932号ピットより古い。

形状 南北方向に長い隅丸長方形。やや南東隅が膨らむ不定形な形状を示す。

規模 長軸2.84m 短軸2.19m 残存壁高0.05m

面積 4.79㎡ **長軸方位** N-18°-E

埋没土 ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや北側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.61m、屋外長0.48m、燃烧部長0.87m、焚口幅0.78mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が右側のみ0.17m張り出し残存していた。燃烧部の焼土や灰の残存状況は不良であった。

柱穴 なし。 **壁際溝** なし。

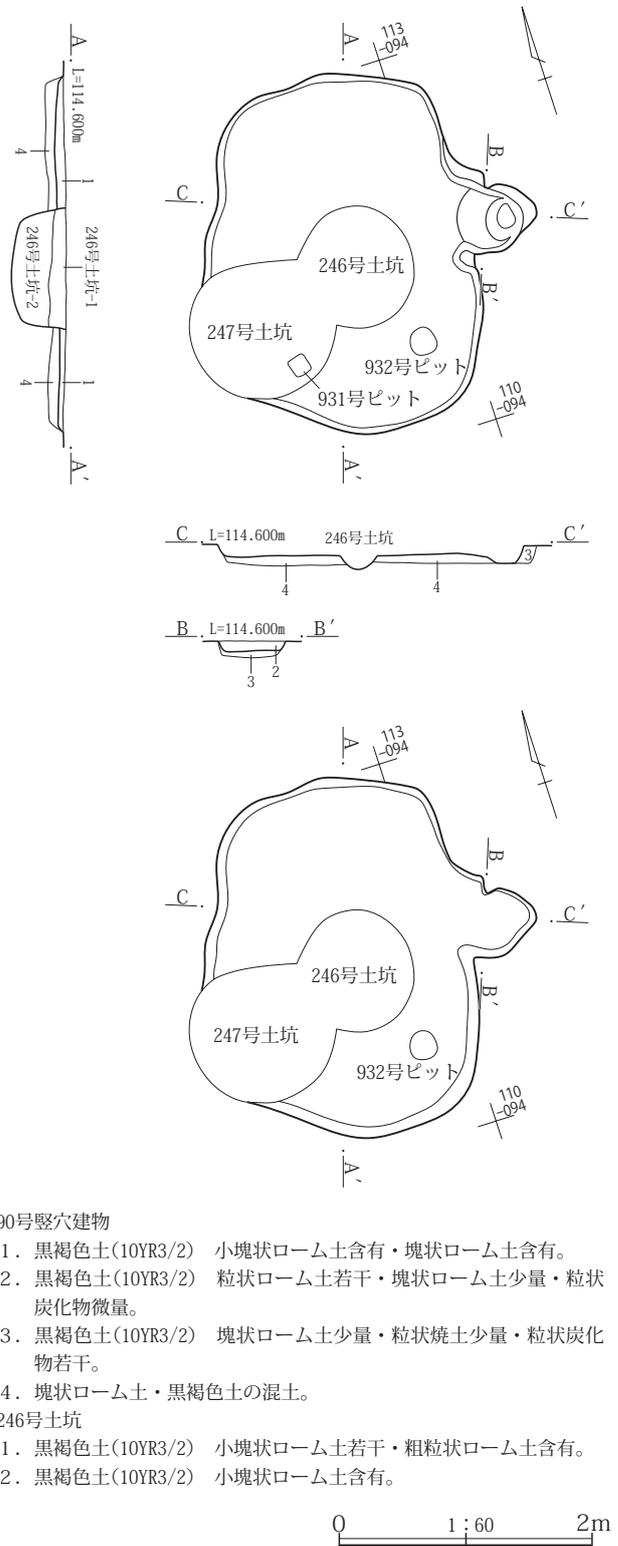
貯蔵穴 なし。

掘り方 厚さ6~10cmの掘り方充填土の下位で掘り方面

を検出した。掘り方面は平坦であった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片17点、須恵器破片1点を出土した。いずれも小片で実測・図示できる資料はなかった。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



90号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土含有・塊状ローム土含有。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状ローム土若干・塊状ローム土少量・粒状炭化物微量。
 3. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土少量・粒状焼土少量・粒状炭化物若干。
 4. 塊状ローム土・黒褐色土の混土。
- 246号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土若干・粗粒状ローム土含有。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土含有。

第103図 10-2区90号竪穴建物

10-2区91号竪穴建物

(第104・105図 PL.31・73 遺物観察表P.267)

グリッド 111~116・-088~-094

重複 90号竪穴建物、187号・188号土坑より古い。

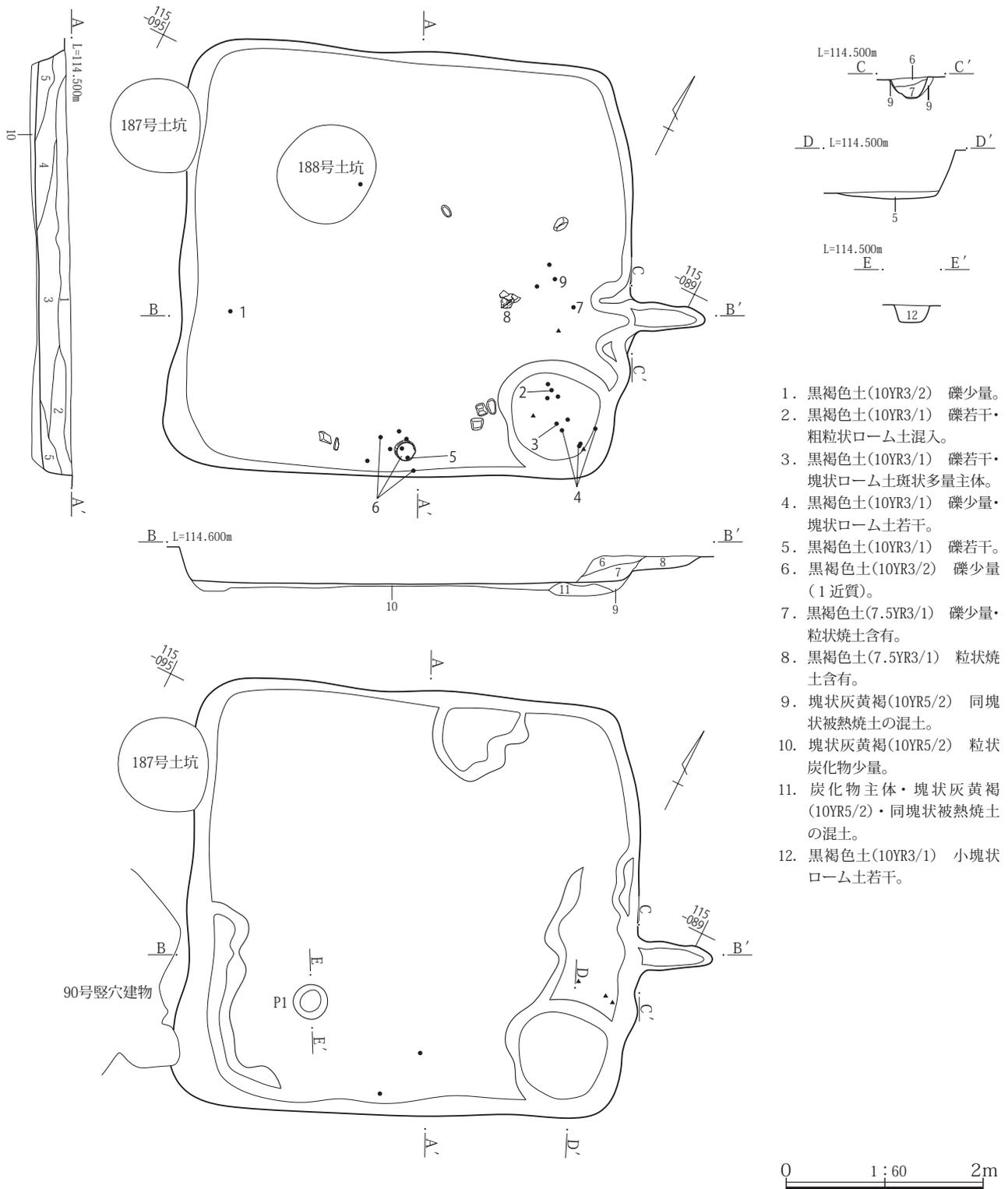
形状 ほぼ正方形

規模 長軸4.59m 短軸4.35m 残存壁高0.35m

面積 17.22㎡ 長軸方位 N-64°-E

埋没土 少量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央すぐ南側に竈が敷設されていた。残存する



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土混入。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状ローム土斑状多量主体。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量(1近質)。
7. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量・粒状焼土含有。
8. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粒状焼土含有。
9. 塊状灰黄褐(10YR5/2) 同塊状被熱焼土の混土。
10. 塊状灰黄褐(10YR5/2) 粒状炭化物少量。
11. 炭化物主体・塊状灰黄褐(10YR5/2)・同塊状被熱焼土の混土。
12. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状ローム土若干。

第104図 10-2区91号竪穴建物

竈の規模は確認長1.13m、屋外長0.75m、燃烧部長0.42m、焚口幅0.48mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.36m、右側0.42cmの長さで張り出し残存していた。燃烧部と煙道の境には9cmほどの段があった。竈左袖前床面直上で土師器甕(第105図7)が出土した。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。掘り方面の精査で南西隅の支柱穴P1を検出した。

壁際溝 なし。

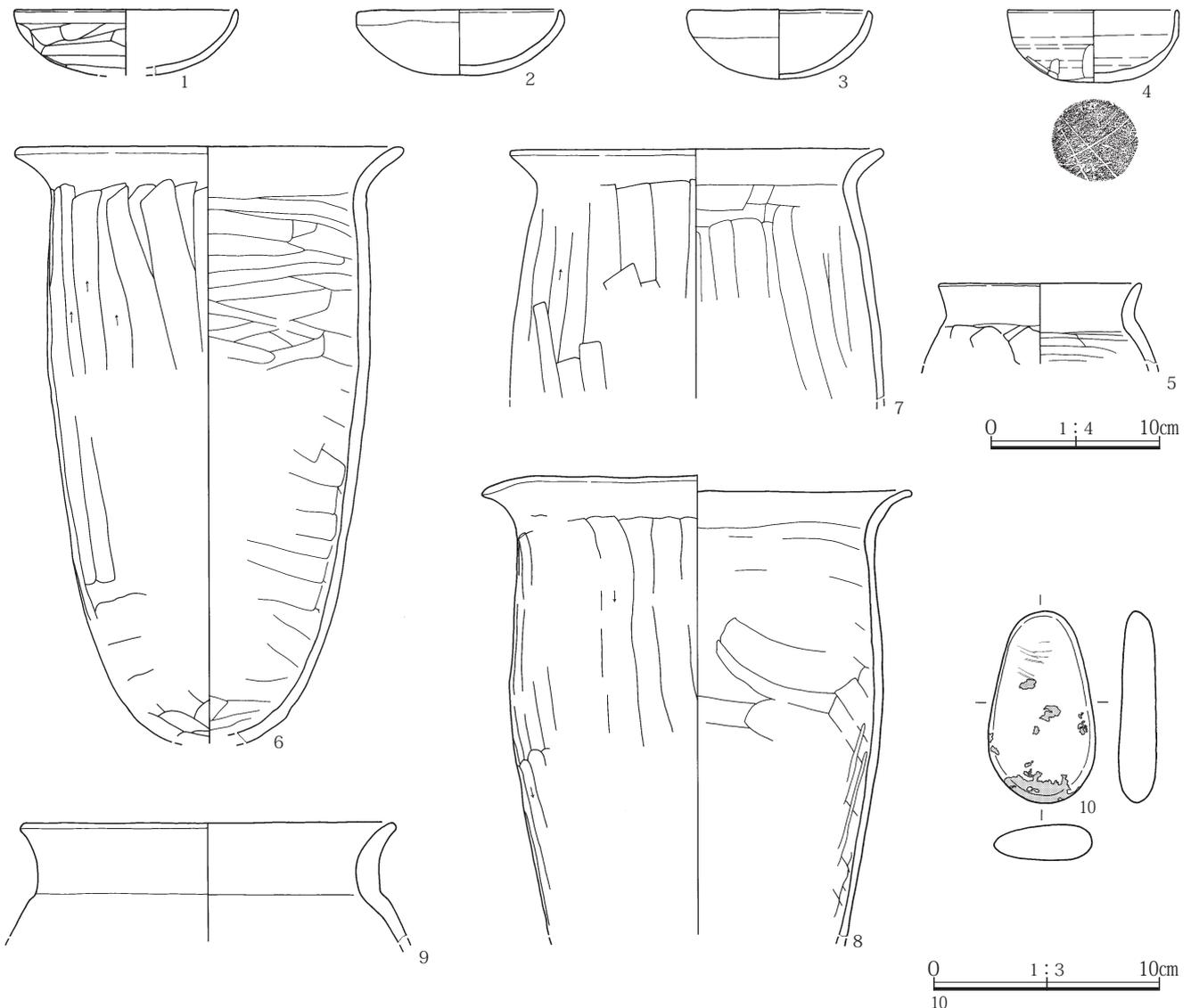
貯蔵穴 南東隅に長径1.30m、短径1.16m、深さ0.20mの円形の貯蔵穴を検出した。ごく浅い皿状の土坑であった。貯蔵穴内から土師器杯(第105図2)が底面上7cmで、土師器杯(同図3)が底面上6cmで、須恵器杯(同図4)が底面直上で出土した。

掘り方 厚さ2~10cmの掘り方充填土の下位で掘り方面を検出した。中央が浅く壁に沿った周縁部が深く掘られていた。南西部に位置から考えると支柱穴の可能性が高いP1を検出した。P1の規模は下記の通りである。

P1 長径0.35m 短径0.35m 深さ0.18m

遺物と出土状況 竈周辺および南東部に集中して遺物が出土した。竈左前の床面上3cmで土師器甕(第105図9)が、床面直上で土師器甕(同図8)が出土した。西壁際床面直上で土師器杯(同図1)が、南壁沿い床面直上で土師器甕(同図6)・土師器小型甕(同図5)が出土した。また、埋没土中から珪質頁岩の礫(同図10)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片54点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第105図 10-2区91号竪穴建物出土遺物

10-2区92号竪穴建物

(第106図 PL.32・73 遺物観察表P.267)

グリッド 106~110・-091~-095

重複 192号土坑・96号竪穴建物より新しい。193号土坑より古い。

形状 東西方向にやや長い長方形。

規模 長軸3.47m 短軸3.36m 残存壁高0.10m

面積 9.68㎡ 長軸方位 N-63°-E

埋没土 床面が失われており、掘り方面のみ残存していた。掘り方埋没土はローム塊と黒褐色土の混土や、微細礫とローム塊を含む黒褐土からなる。

竈 なし。

柱穴 南西隅でP1を検出した。P1の規模は下記の通りである。

りである。

P1 長径0.28m 短径0.21m 深さ0.13m

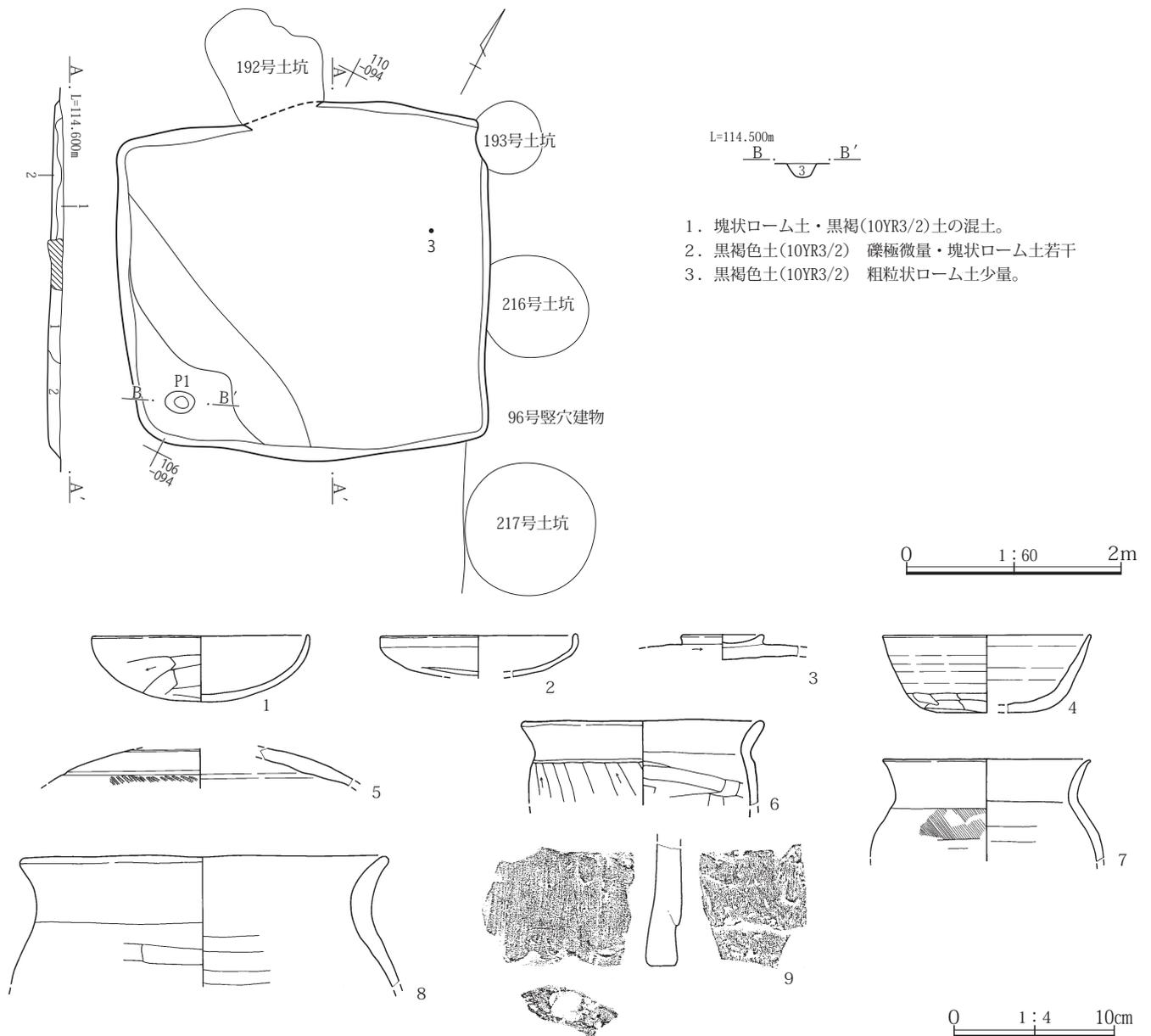
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 床面が失われており、掘り方面のみ残存していた。

遺物と出土状況 北東部掘り方底面上6cmで須恵器蓋(第106図3)が出土した。埋没土中から土師器杯(同図1・2)、土師器小型甕(同図6)、土師器甕(同図8)、形象埴輪か(同図9)、須恵器杯(同図4)、須恵器長頸壺(同図5)、須恵器小型甕(同図7)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片105点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第106図 10-2区92号竪穴建物と出土遺物

10-2区96号竪穴建物

(第107図 PL.32)

グリッド 104~110・-086~-091

形状 南北方向に長い長方形。南壁辺がやや長い。

重複 92号竪穴建物、216号・217号・245号土坑、921号・922号・923号ピットより古い。

規模 長軸4.76m 短軸3.72m 残存壁高0.05m

面積 計測不能 長軸方位 N-33°-W

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。

柱穴 なし。

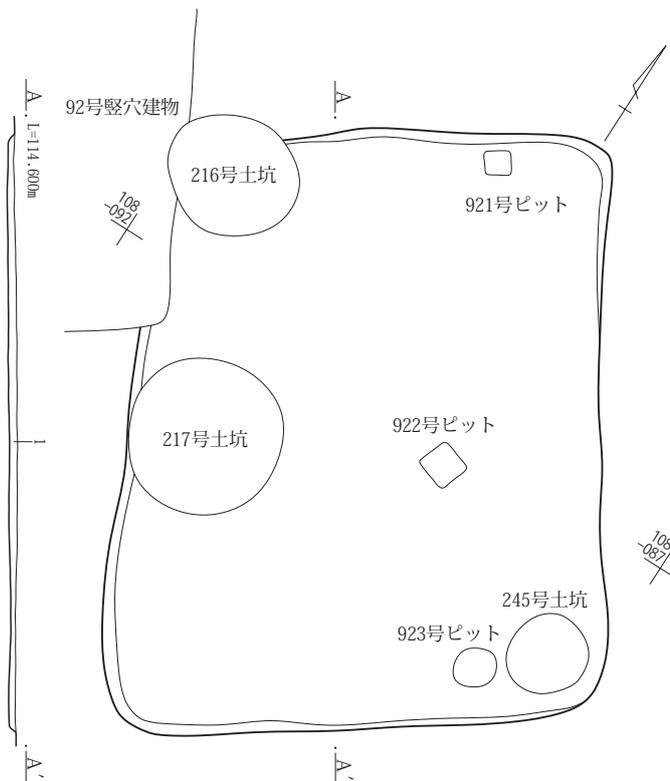
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 掘り方底面のみが残存していた。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片1点が出土したが、小片のため図示できなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明であるが、92号竪穴建物より古いことから、7世紀以前の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

第107図 10-2区96号竪穴建物

10-2区94号竪穴建物

(第108図 PL.32)

グリッド 113~117・-083~-087

重複 248号・270号土坑より古い。

形状 ほぼ正方形。北隅がやや丸みを帯びていた。

規模 長軸2.66m 短軸2.60m 残存壁高0.03m

面積 6.42m² 長軸方位 N-52°-E

埋没土 少量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 なし。

柱穴 なし。

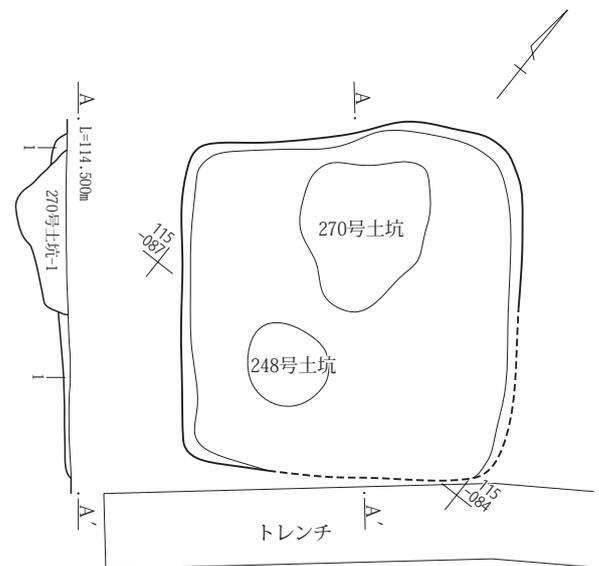
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片10点が出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



94号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土含有。

270号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。

第108図 10-2区94号竪穴建物

10-2区95号竪穴建物

(第109図 PL.32)

グリッド 112~115・-080~-084

形状 北側と東側が土坑群と重複していたことから全形が把握できなかったが、南西隅が検出されていることから方形と推定される。

重複 211B号・239~241号土坑より古い。

規模 東西軸(2.90)m 南北軸(2.77)m 残存壁高0.06m

面積 計測不能 **長軸方位** N-64°-E

埋没土 微量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

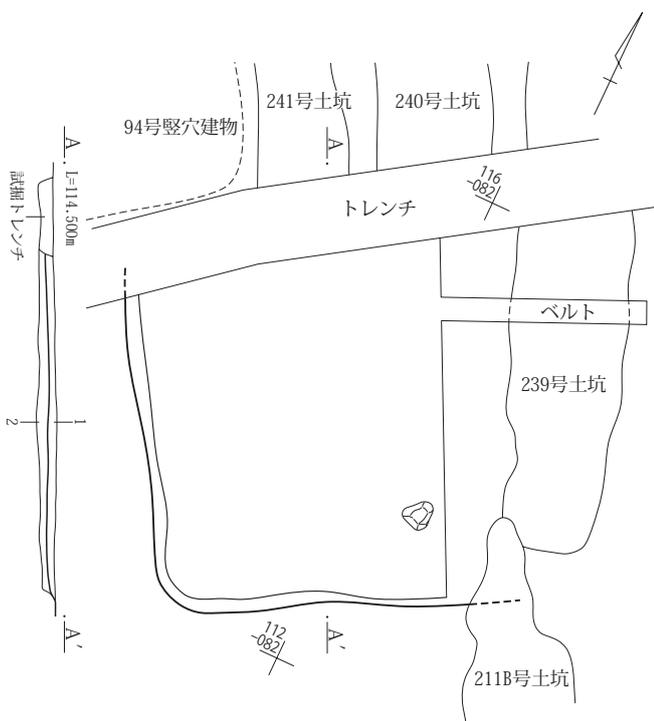
壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 掘り方面は土層断面のみで記録した。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片4点が出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状ローム土若干。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 砂礫混入。

0 1:60 2m

第109図 10-2区95号竪穴建物

10-2区97号竪穴建物

(第110図 PL.32 遺物観察表P.267)

グリッド 117~120・-071~-073

重複 111号竪穴建物より新しい。

形状 東半分が調査区域外となり全形が把握できなかったが、東西方向に長い隅丸方形と推定される。

規模 東西軸(1.50)m 南北軸2.28m 残存壁高0.21m

面積 計測不能 **長軸方位** N-27°-W

埋没土 微量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 床面は検出できなかった。掘り方面は凹凸が著しかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第110図1)が出土した。その他、埋没土中から土師器破片49点が出土しているが、いずれも小片のため、図化は上記1点にとどまった。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。竪穴住居としては規模や形状が大きく異なる。竪穴の機能を特定することはできなかった。

10-2区111号竪穴建物

(第110図 PL.32)

グリッド 116~121・-071~-075

重複 97号竪穴建物・939号ピットより古く、20A号溝より新しい。

形状 東部が調査区域外となり全形を把握することはできなかったが、東西方向に長い長方形と推定される。

規模 東西軸(3.32)m 南北軸3.71m 残存壁高0.05m

面積 計測不能 **長軸方位** N-32°-W

埋没土 微量の礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

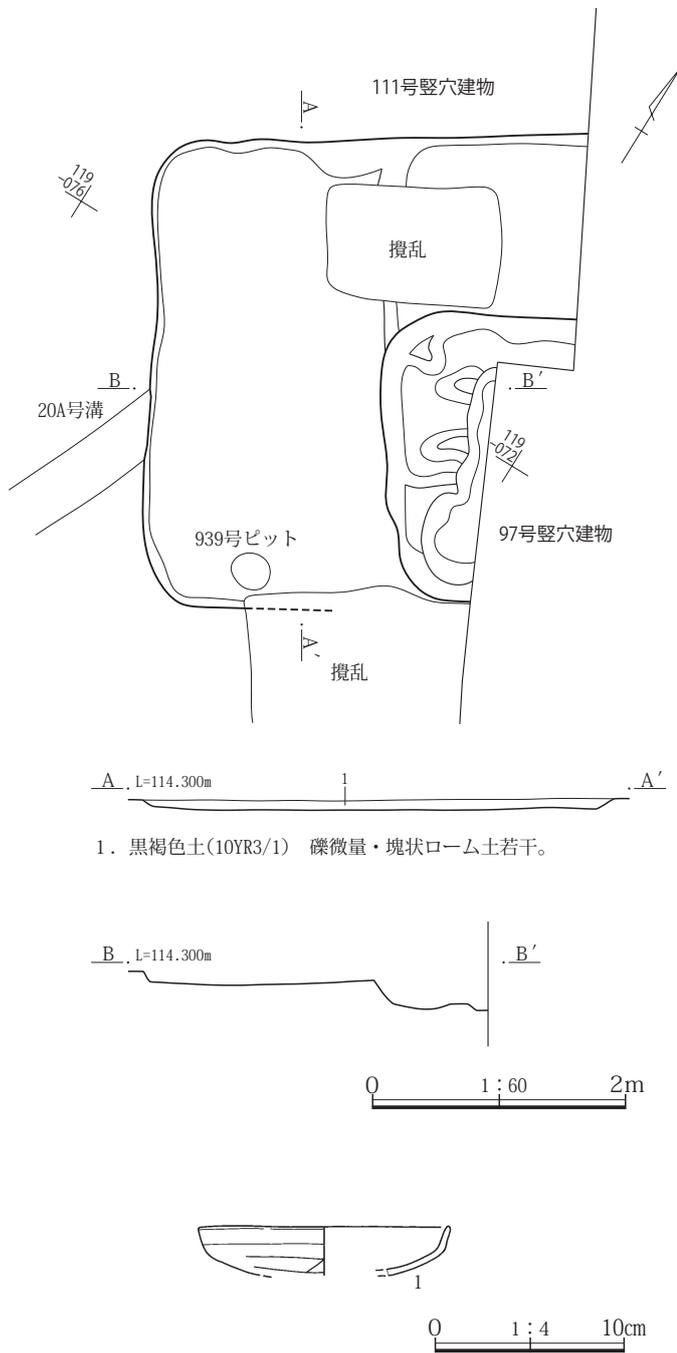
壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片6点が出土した。いずれも小片で実測・図示できなかった。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・塊状ローム土若干。

第110図 10-2区97・111号竪穴建物と97号竪穴建物出土遺物

10-2区98号竪穴建物

(第111図 PL.32・73 遺物観察表P.268)

グリッド 106~111・-069~-073

形状 南北方向に長い長方形

重複 242号土坑、996号・997号・998号・999号・1022号ピットより古い。

規模 長軸4.67m 短軸3.78m 残存壁高0.15m

面積 15・68㎡ **長軸方位** N-13°-W

埋没土 礫とローム粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央やや南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.26m、屋外長0.07m、燃烧部長0.26mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.30m、右側0.11mの長さで張り出し残存していた。竈前は長径1.70m、短径1.24m、深さ0.17mの横長楕円形が窪み、底面は被熱して硬化していた。これを焼き口から燃烧部の範囲とした。竈内燃烧部底面上24cmで土師器有孔鉢(第111図7)が、左袖脇床面上6cmで土師器杯(同図5)が出土した。

柱穴 北西隅でピット1本を検出した。壁に近い位置であることから、支柱穴とは断定できなかった。P1の規模は下記の通りである。

P1 長径0.52m 短径0.51m 深さ0.34m

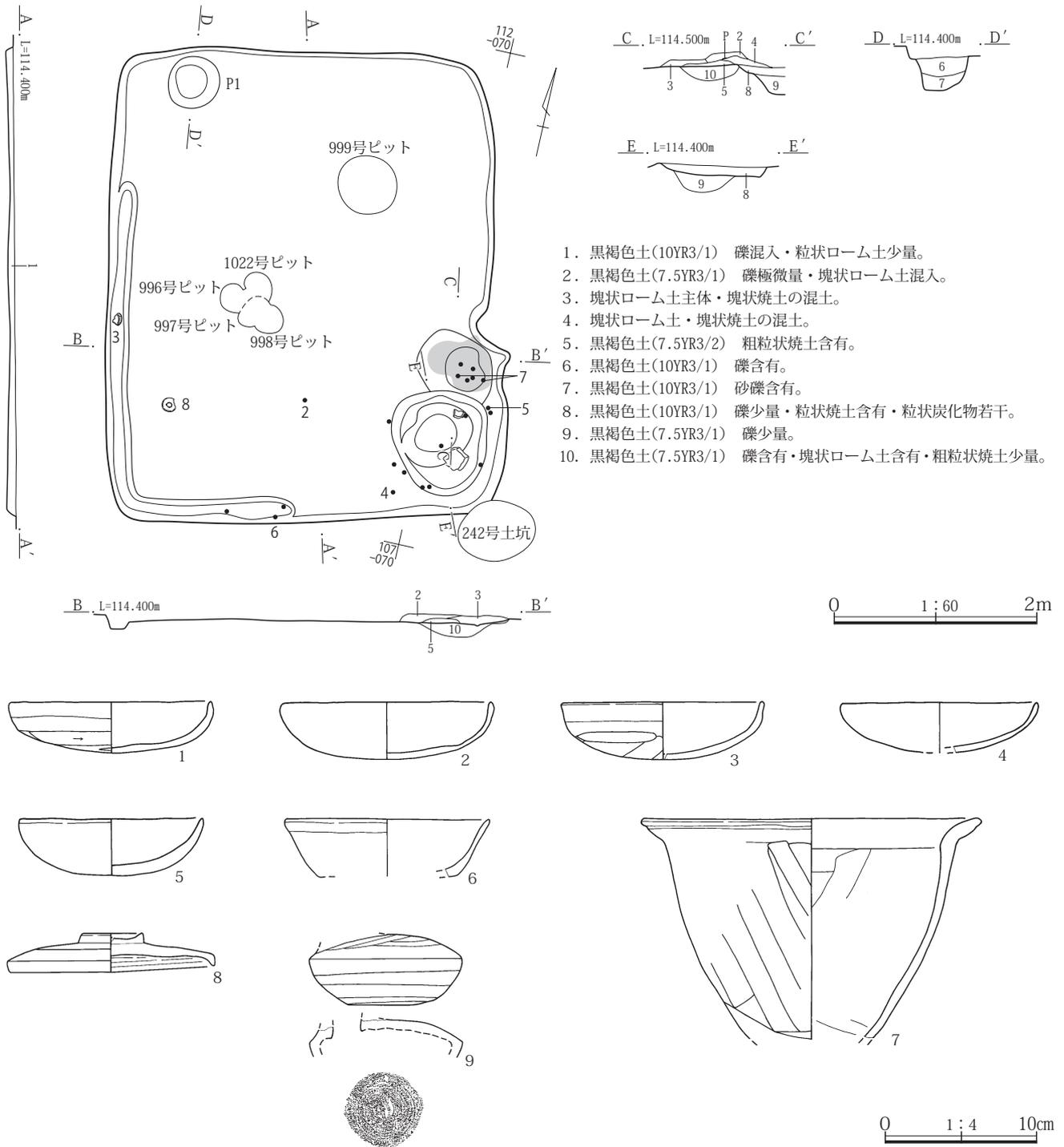
壁際溝 西壁中央やや北側から、南西隅、南壁中央のL字形に、幅17~20cm、深さ3~8cmの壁際溝が検出された。西壁中央部の壁際溝底面上10cmで土師器杯(第111図3)が出土した。また、南壁中央の壁際溝東端底面上13cmで土師器杯(同図6)が出土した。

貯蔵穴 南東隅に、長径1.05m、短径0.90m、深さ0.30mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。貯蔵穴南脇床面上2cmで土師器杯(第111図4)が出土した。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 南部床面上7cmで土師器杯(第111図2)が、南西部床面上9cmで須恵器蓋(同図8)が出土した。埋没土中から土師器杯(同図1)、須恵器平瓶(同図9)が出土した。この他に埋没土中から土師器破片158点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



第111図 10-2区98号竪穴建物と出土遺物

10-2区112号竪穴建物

(第112図 PL.32)

グリッド 112~116・-069~-073

重複 212号土坑、877号・878号・879号・880号・881号・882号ピットより古い。

形状 東半部が調査区域外となり全形が把握できなかったが、東西に長い長方形と推定される。

規模 東西軸(3.08)m 南北軸3.32m

残存壁高0.05m

面積 計測不能 長軸方位 N-26°-W

埋没土 少量の礫とローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

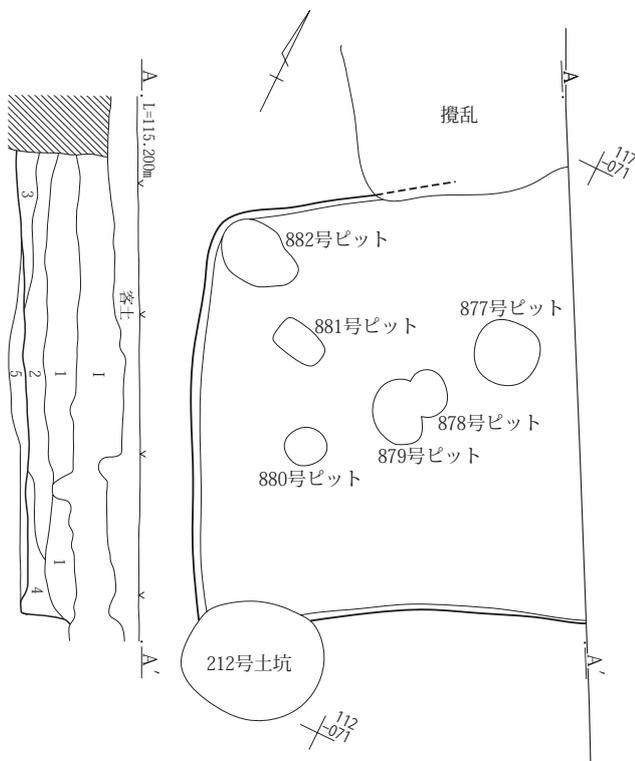
壁際溝 なし。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

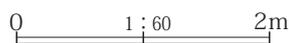
掘り方 断面A-A'にかかるところで床面下を掘り下げた部分を検出したが、全体としての掘り方は確認できなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片が2点出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。北西隅の882号ピットは中世の遺構であるが、形態が不定形である。本住居の貯蔵穴等との重複の可能性があるが、詳細は不明である。



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入・小塊状ローム土少量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状ローム土含有。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土少量。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状ローム土若干。



第112図 10-2区112号竪穴建物

10-2区113号竪穴建物

(第113図 PL.32・73 遺物観察表P.268・269)

グリッド 096~099・-104~-109

重複 237号土坑・1047号・1216A号・1224号・1225号・1227号・1228号・1235号ピットより古い。

形状 竪穴建物の痕跡で不定形。南東隅の土坑状の部分に遺物が集中している。

規模 長軸4.72m 短軸3.19m 残存壁高0.13m

面積 計測不能 **長軸方位** N-90°-E

埋没土 礫や焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まっていたが、堆積は塊状に重なっており攪乱状態であった。

竈 明確に竈を確認できなかった。

柱穴 床面の精査でP1を検出した。調査では他の中世ピットとは異なる埋没土で埋まっていたことから、本建物痕跡の柱穴の可能性を考えた。P1の規模は下記の通りである。

P1 長径0.38m 短径0.31m 深さ0.19m

壁際溝 なし。

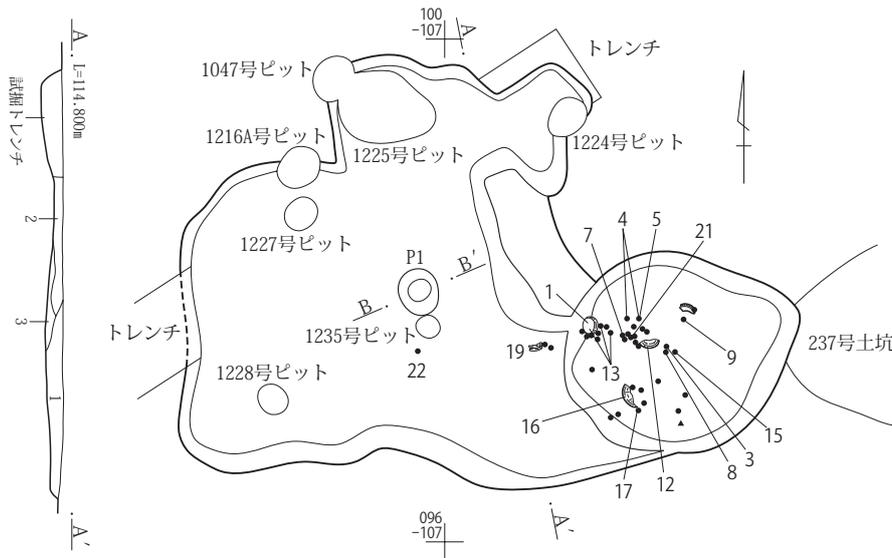
貯蔵穴 なし。

掘り方 明瞭な床面を検出できず、建物痕跡の調査となった。調査では最終的に掘り方面およびその下位まで掘り下げた状況で記録した。底面は凹凸のある状況であった。

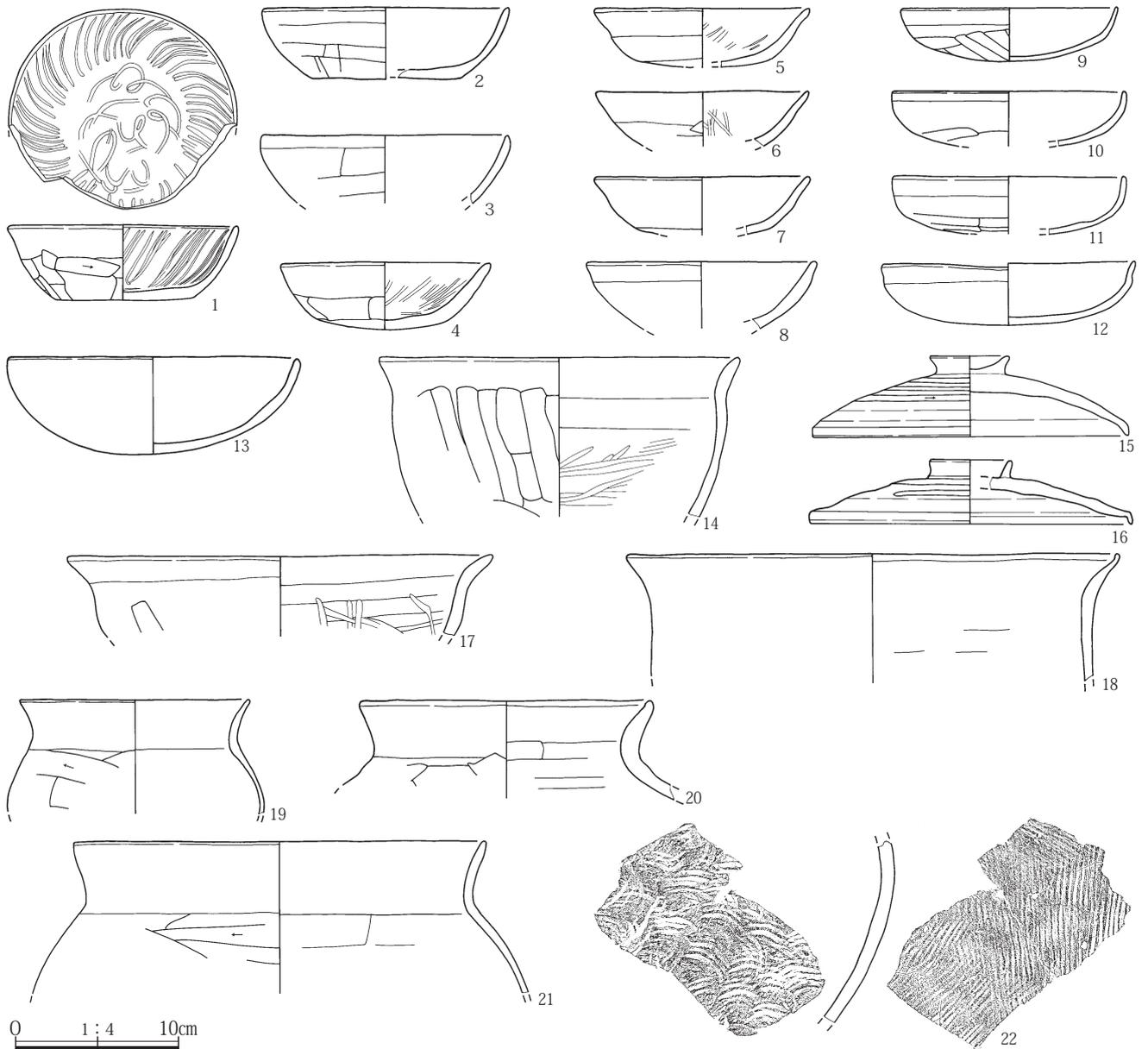
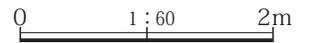
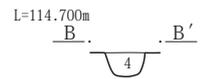
遺物と出土状況 南東部にある長径1.94m、短径1.65m、深さ0.15mの楕円形の凹地部分に出土遺物は集中して出土した。土師器杯(第113図5・8)のように底面直上で出土したものや、土師器杯(同図12)のように底面から13cm浮いた状況で出土したものもあった。凹地内で出土したのは土師器杯(同図1・3・4・7・9・13)、土師器小型甕(同図19)、土師器甕(同図21)、土師器甑(同図17)、須恵器蓋(同図15・16)、須恵器甕(同図22)である。また、埋没土中から土師器杯(同図2・6・10・11)、土師器甕(同図20)、土師器甑か(同図18)、土師器有孔鉢(同図14)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片507点、須恵器97点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物の痕跡と考えられる。特に遺物が集中して出土した南東部は竪穴建物の貯蔵穴との想定で調査したが、竪穴建物としての形態を全体に確認することはできなかった。

2. 竪穴建物



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・粒状焼土少量・粒状炭化物含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量。



第113図 10-2区113号竪穴建物と出土遺物

10-2区114号竪穴建物

(第114図 PL.33)

グリッド 101~104・-066~-069

重複 243号土坑、860号・861号・862号・863号・864号・865号・914号・915号・916号・958号ピットより古い。

形状 北西壁と両角がかるうじて残っており、全体形状は方形と推定される。

規模 長軸3.21m 短軸3.08m 残存壁高0.02m

面積 計測不能 長軸方位 N-53°-E

埋没土 灰黄褐色土粗粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では検出されなかった。

柱穴 掘り方底面の精査では、重複する新しいピットは検出されたが、本建物の柱穴は確認できなかった。

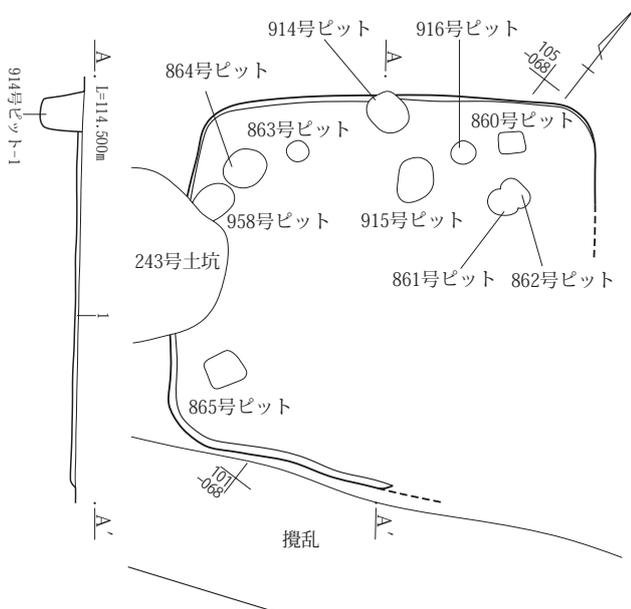
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 建物痕跡の調査となったことから、明瞭な床面を検出できず掘り方面まで掘り下げた。比較的平坦な状況であった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片4点が出土した。

所見 竪穴建物の痕跡と思われる。出土遺物がなく、時期は不明である。



114号竪穴建物

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粗粒状灰黄褐色(10YR5/2)土少量。

914号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒状灰黄褐色(10YR5/2)土微量。

0 1:60 2m

第114図 10-2区114号竪穴建物

10-2区115号竪穴建物

(第115図 PL.33 遺物観察表P.269)

グリッド 088~092・-086~-091

重複 19号溝、10号井戸、220号・221号・272号土坑、917号・918号・1229号・1230号・1231号・1232号・1233号ピットより新しい。

形状 全体形状は重複遺構や攪乱の為、明らかにできなかったが、北西隅が検出されたことから方形と推定される。

規模 東西軸3.68m 南北軸(3.62)m 残存壁高0.10m

面積 計測不能 長軸方位 N-71°-E

埋没土 ローム塊・明黄褐色土塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では検出されなかった。

柱穴 掘り方底面の精査では、重複する新しいピットは検出されたが、本建物の柱穴は確認できなかった。

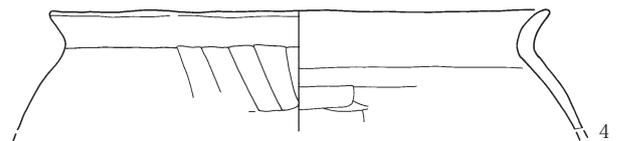
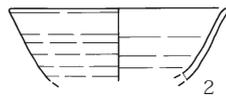
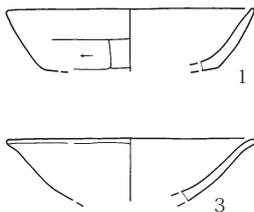
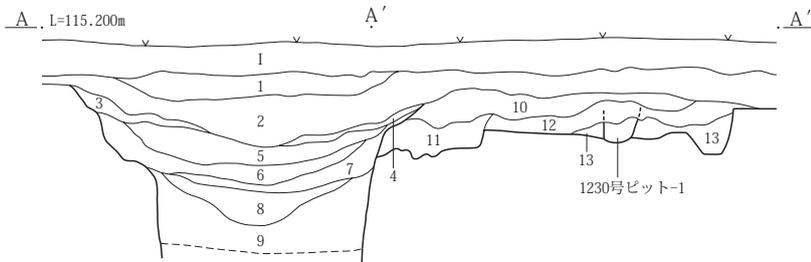
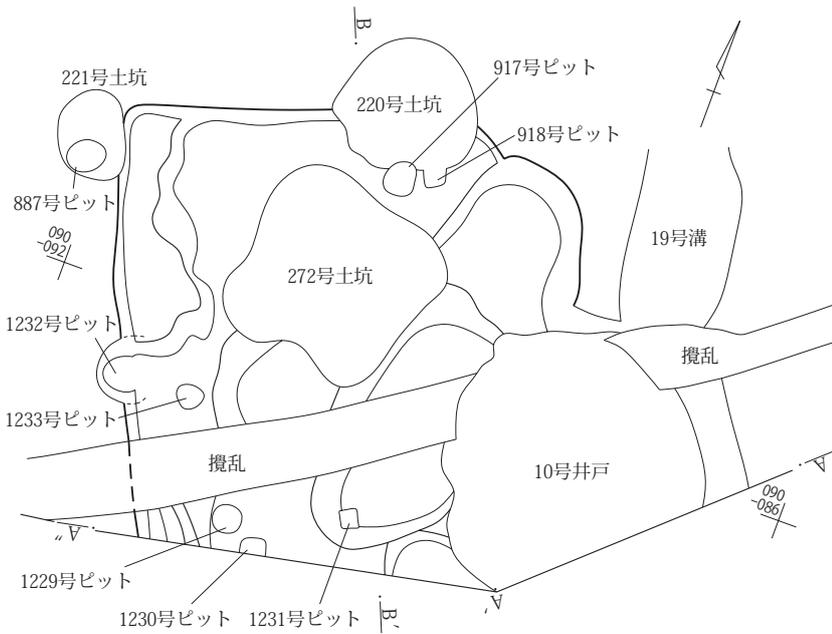
壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 建物痕跡の調査となった。北西部はかるうじて輪郭を確認できたが、明瞭な床面を検出できなかった。掘り方面まで掘り下げたが、特に南東部は近世と推定される攪乱によって凹凸が著しい状況であった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第115図1)、土師器甕(同図4)、須恵器杯(同図2・3)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片142点、土師器破片16点が出土した。

所見 竪穴建物の痕跡と思われる。南側は調査区域外となり全体形状は把握できなかったが、西壁および北壁の状況から方形の竪穴建物と判断した。また、南東部は当初別の竪穴建物が重複していると考えたが、掘り下げていくうちに本建物より新しい10号井戸が重複していることが判明した。出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



0 1:60 2m

0 1:4 10cm

- 10号井戸
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土含有。
 2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・小塊状ローム土微量。
 3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土少量。
 4. 明黄褐色土(2.5Y7/6) 塊状粘土。
 5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・塊状ローム土含有。
 6. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状ローム土含有。
 7. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状ローム土含有・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土含有。
 8. 明黄褐塊状粘土主体・黒褐色土若干。
 9. 明黄褐色土(10YR6/6) 塊状粘土・黒褐色土の混土。
- 115号竪穴建物
10. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状ローム土混入・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土混入・粗粒状ローム土混入・小塊状ローム土混入。
 11. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状粘土含有・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土含有・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。
 12. 11層に近質。
 13. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状ローム土少量・粒状ローム土若干。
 14. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細砂礫少量・砂質気味。
- 272号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。
- 220号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
- 1230号ピット
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細砂礫少量・砂質気味。

第115図 10-2区115号竪穴建物と出土遺物

10-2区117号竪穴建物

(第116図 PL.73 遺物観察表P.269)

グリッド 090 ~ 093・-099 ~ -104

重複 929号・930号ピットより古い。

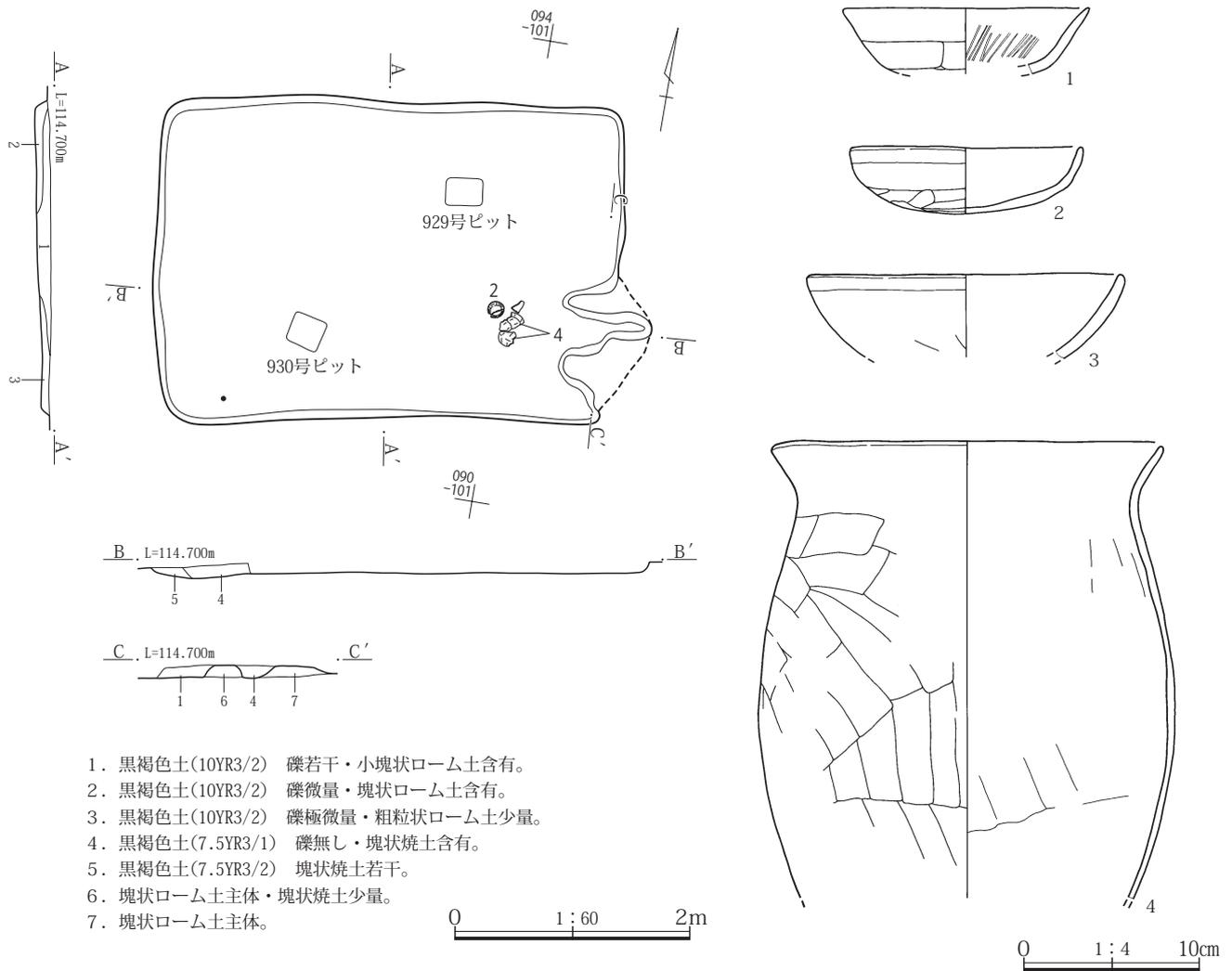
形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸3.93m 短軸2.80m 残存壁高0.09m

面積 9.63㎡ 長軸方位 N-82°-E

埋没土 礫やローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央すぐ南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.77m、屋外長0.34m、燃燒部長0.43mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部と竈の崩落土が左側0.45m、右側0.41mの長さで張り出し残存していた。竈焚口部手前の床面上4cmで土師器杯(第116図2)、床面上3cmで土師器甕(同図4)が出土した。



第116図 10-2区117号竪穴建物と出土遺物

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。

貯蔵穴 なし。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器杯(第116図1・3)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片96点、須恵器破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。

10-2区119号竪穴建物

(第117図 PL.33)

グリッド 095~098・-081~-084

重複 20A号溝、253号・254号土坑、884号・888B号・959号・993号・1023号・1030号ピットより古い。

形状 南北方向に長い長方形

規模 長軸3.68m 短軸2.63m 残存壁高0.03m

面積 計測不能 **長軸方位** N-26°-W

埋没土 夾雑物のない黒褐色土で埋まっていた。

竈 東壁中央すぐ南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.37m、屋外長0.32m、燃燒部長0.33mで、屋内への袖構造下部や崩落土は残存していなかった。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。

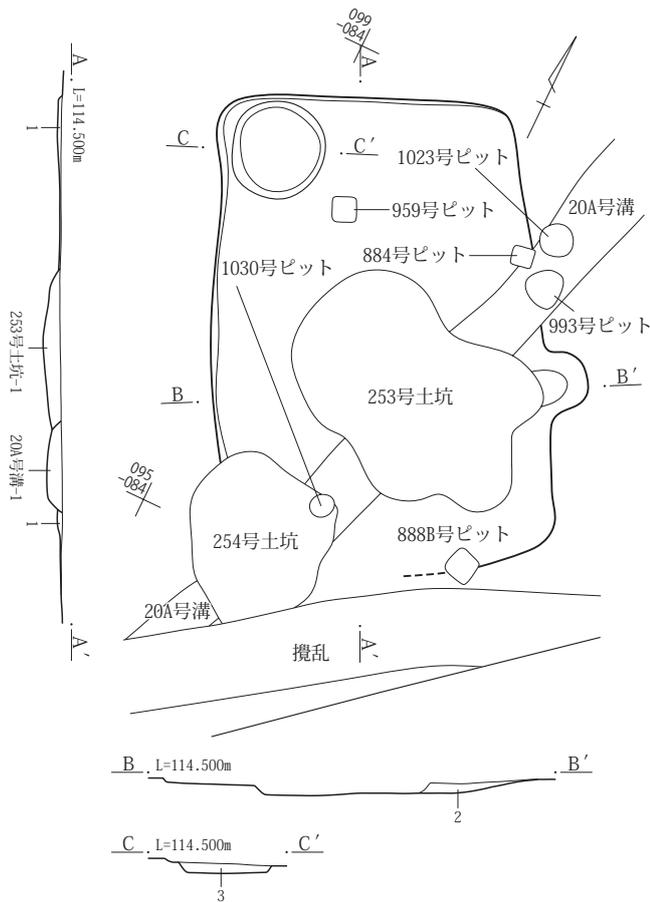
貯蔵穴 北西隅で長径0.78m、短径0.73m、深さ0.05mの掘り込みを検出した。その位置から貯蔵穴の可能性はある。

掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片12点が出土した。

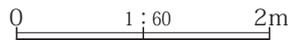
所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

2. 竪穴建物



119号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 夾雑物無し。
 2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粗粒状焼土含有。
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・塊状ローム土若干。
- 20A号溝
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫含有。
- 253号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土少量。



第117図 10-2区119号竪穴建物

10-2区123号竪穴建物

(第118図 PL.33)

グリッド 091~092・-075~-079

重複 1105号・1107号・1108号・1109号ピットより古い。

形状 南部がほとんど調査区域外となったため、全形が把握できなかったが、調査区壁に柱穴の可能性のあるピットの断面が観察できたことから、方形の竪穴建物として記録した。

規模 東西軸推定3.71m 南北軸推定(0.65)m

残存壁高0.01m

面積 計測不能 長軸方位 N-77°-E

埋没土 ローム小塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 調査できた範囲では検出されなかった。

柱穴 土層断面および床面の精査で、柱穴と推定されるピットを3本検出した。建物全体が調査できず、ピットも完掘できなかったため、全体構造は不明といわざるを得ない。各ピットの規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.24m 短径不明 深さ0.11m
 P 2 長径0.28m 短径0.26m 深さ0.27m
 P 3 長径0.29m 短径不明 深さ0.14m

柱間の距離はP 1・P 2間が1.18m、P 2・P 3間が0.78mである。

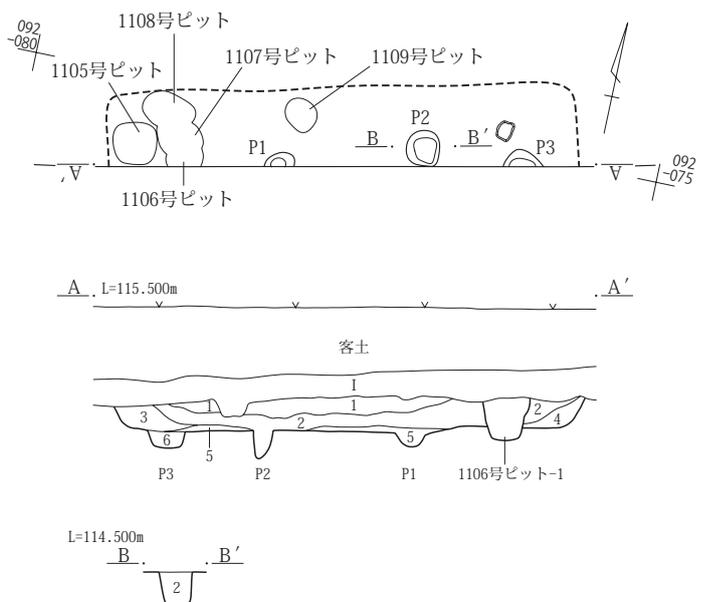
壁際溝 調査できた範囲では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲では検出されなかった。

掘り方 観察した土層断面では確認されなかった。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がなく時期は不明である。



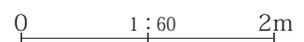
123号竪穴建物

- I 宅地造成以前の表土層(耕作土) 褐灰色土(5YR4/1) 白色軽石含有・細粒礫含有。

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 小塊状ローム土若干。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 小塊状ローム土混入。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粗粒状ローム土微量。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細粒若干・粗粒状ローム土少量。
5. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粗粒状ローム土少量。
6. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粗粒状ローム土若干。

1106号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。



第118図 10-2区123号竪穴建物

11区23号竪穴建物

(第119図 PL.33)

グリッド 118~121・-057~-061

重複 なし。

形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸3.30m 短軸2.55m 残存壁高0.13m

面積 7.93㎡ 長軸方位 N-70°-E

埋没土 多量の礫と少量の白色鈹物粒、ローム粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

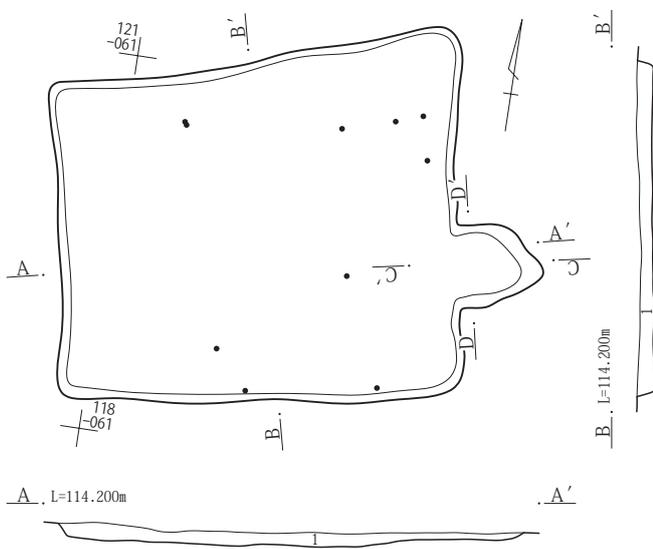
竈 東壁中央やや南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.38m、屋外長0.65m、燃烧部長1.00mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部は残存していなかった。焼土や灰の残存状況も不良であった。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

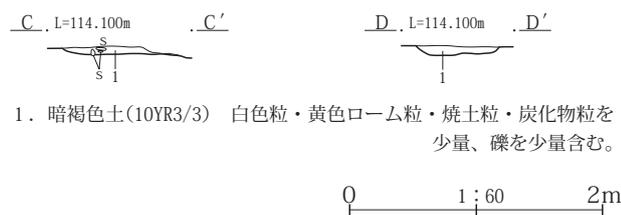
壁際溝 なし。 貯蔵穴 なし。 掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片53点、須恵器破片3点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は垂角礫直径5cm未満)。黄色ローム砂層を少量含む。



1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒・黄色ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量、礫を少量含む。

第119図 11区23号竪穴建物

11区25号竪穴建物

(第120図 PL.33・74 遺物観察表P.269)

グリッド 113~115・-056~-058

重複 なし。

形状 東半分を攪乱に壊されており全景を把握できなかったが、東西方向に長い長方形と推定される。

規模 東西軸(2.05)m 南北軸2.44m

残存壁高0.03m

面積 計測不能 長軸方位 N-14°-W

埋没土 多量の礫と少量の白色鈹物粒、ローム粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

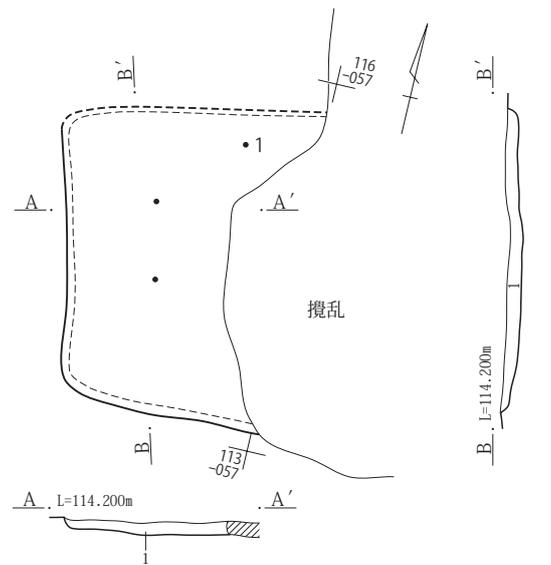
竈 調査できた範囲の中では検出されなかった。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

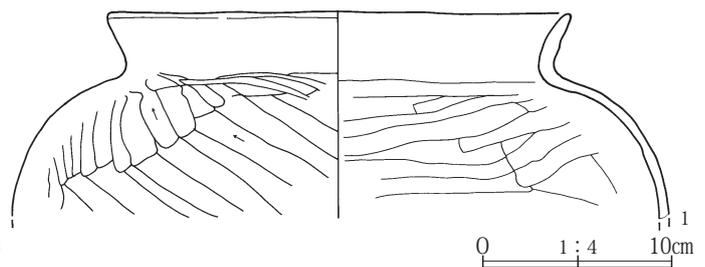
壁際溝 なし。 貯蔵穴 なし。 掘り方 なし。

遺物と出土状況 土師器甕か(第120図1)が北壁際床面上4cmで出土した。この他、埋没土中から土師器破片4点が出土した。

所見 出土遺物から8世紀の竪穴建物と考えられる。



1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は垂角礫直径5cm未満)。黄色ローム粒を少量含む。黄色ローム砂層を少量含む。



第120図 11区25号竪穴建物と出土遺物

11区26号竪穴建物

(第121図 PL.34)

グリッド 109～113・-049～-054

重複 なし。

形状 東西方向に長い長方形

規模 長軸3.75m 短軸3.04m 残存壁高0.15m

面積 10.82㎡ 長軸方位 N-66°-E

埋没土 多量の礫と少量の白色鈹物粒、ローム粒を含む暗褐色土で埋まっていた。

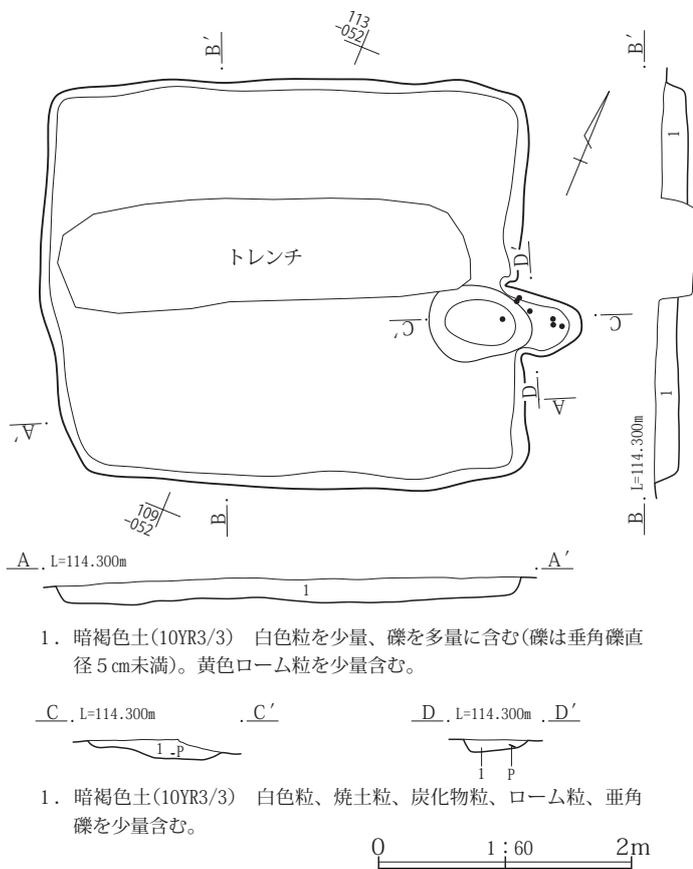
竈 東壁中央すぐ南側に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.59m、屋外長0.39m、燃烧部長0.59mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左袖のみに0.15m張り出して残存していた。燃烧部には全体に焼土が残り、土師器小片が出土したが、いずれも小破片のため実測・図示しなかった。

柱穴 床面の精査では検出されなかった。

壁際溝 なし。 貯蔵穴 なし。 掘り方 なし。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片89点、須恵器破片3点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。



第121図 11区26号竪穴建物

11区36号竪穴建物

(第122～124図 PL.34・35・74 遺物観察表P.269・270)

グリッド 101～106・-028～-033

重複 なし。

形状 東西に長い隅丸長方形

規模 長軸4.78m 短軸4.01m 残存壁高0.44m

面積 14.66㎡ 長軸方位 N-79°-E

埋没土 上層は少量の角礫と多量の円礫を含む黒褐色土で、下層は円礫を少量含む暗褐色土で埋まっていた。

竈 北壁中央より0.2m東側を中軸線として竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長1.89m、屋外長0.98m、燃烧部長1.27m、焚口幅0.85mで、燃烧部奥は0.10mの緩やかな段差があり、その外側には長さ0.67mの煙道が残されていた。煙道部は竈断面C-C'で確認できた。直径20～28cmの円筒状になっており、北端は上方に屈曲していた。

屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.88m、右側1.02mの長さで張り出し残存していた。左右とも袖の先端には芯として板状の垂角礫が壁状に立てられていたが、右側の礫は手前に倒れていた。

竈の右側には貯蔵穴の脇にかけて壁際に並べられたような状態で8個体の土器が出土した。

柱穴 床面の精査では主柱穴は検出されなかった。掘り方面で一部の主柱穴の位置を推定させる掘り込みを検出した。

壁際溝 幅9～12cm、深さ2～6cmの壁際溝が全周していた。

貯蔵穴 北東隅に長径0.57m、短径0.57m、深さ0.16mの楕円形の貯蔵穴が掘られていた。

貯蔵穴から竈右袖にかけての北壁際には完形の土師器が並んで置かれていた。向かって左、竈のすぐ右側から土師器杯(第124図1)をのせた土師器小型甕(同図8)、土師器杯(同図3)、土師器杯(同図2)をのせた土師器甕(同図12)、土師器甕(同図13)、土師器甕(同図11)の順に並んでいた。いずれも床面直上あるいは貯蔵穴に落ち込むような状態であった。このうち、竈右脇で出土した土師器甕(同図8)には、西部床面直上で出土した破片が接合した。

掘り方 掘り方面の精査で、主柱穴と推定されるピットの痕跡を含むピット6本検出した。P1～P3は主柱穴

と推定される。P 2・P 3は周囲の掘り方充填土をともに掘り下げたため、拡大した形状となっているが、柱位置が深くなっていた。南東隅の支柱穴の痕跡は検出されなかった。P 4～P 6は南壁沿いに並んで検出されたピット状の凹地である。各ピットの規模は下記の通りである。

- P 1 長径0.67m 短径0.64cm 深さ0.07m
- P 2 長径0.58m 短径不明 深さ0.07m
- P 3 長径0.87m 短径不明 深さ0.07m
- P 4 長径0.68m 短径0.42cm 深さ0.10m
- P 5 長径0.60m 短径0.38m 深さ0.11m
- P 6 長径0.52m 短径0.40cm 深さ0.07m

柱間の距離はP 1・P 2間が2.02m、P 2・P 3間が2.47mである。

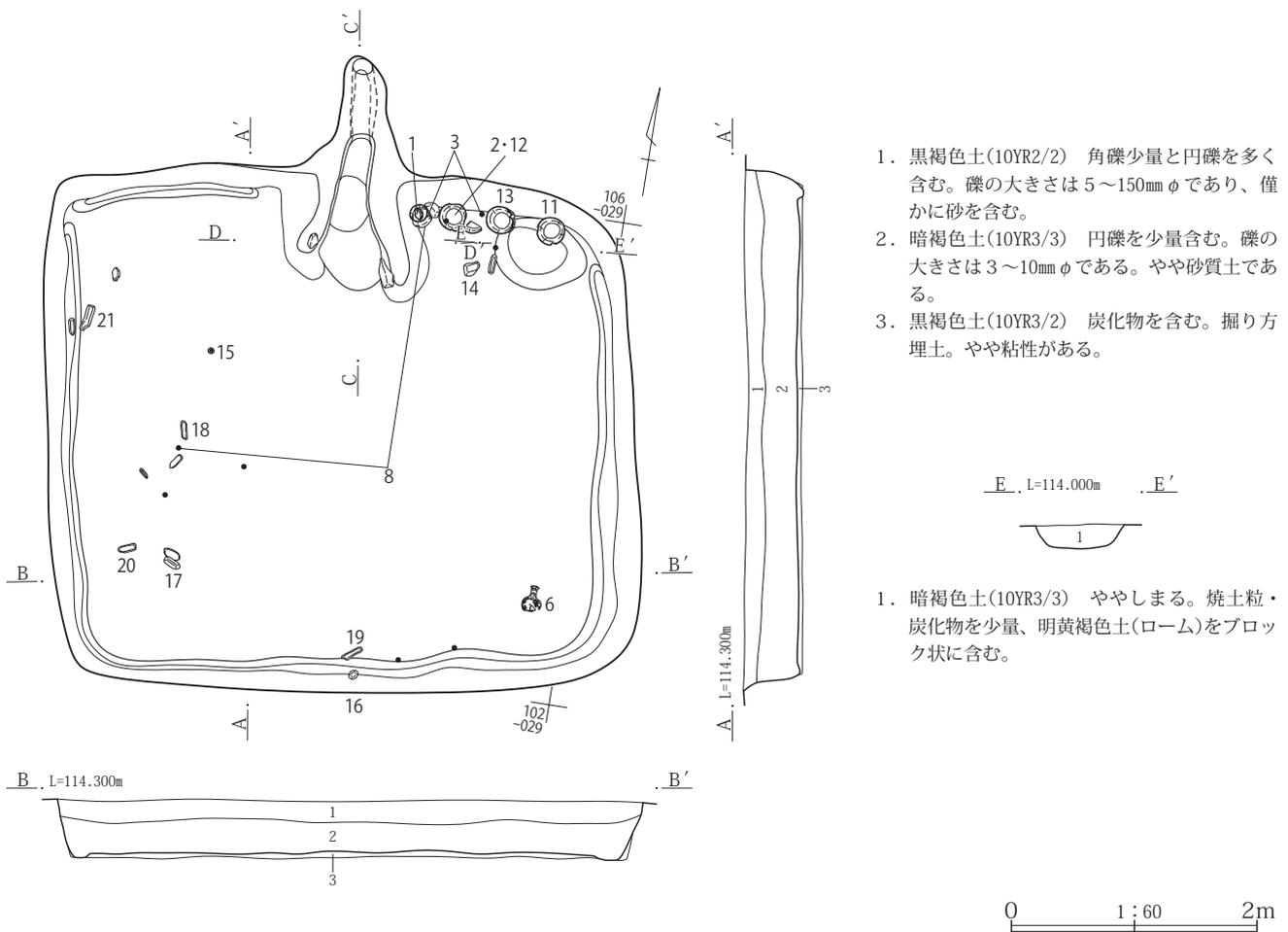
遺物と出土状況 須恵器長頸壺(第124図6)は南東隅床面上3cmで出土した。埋没土中から、土師器甕(同図9・10)、須恵器杯(同図4)、須恵器大型甕(同図7)の破片

が出土した。

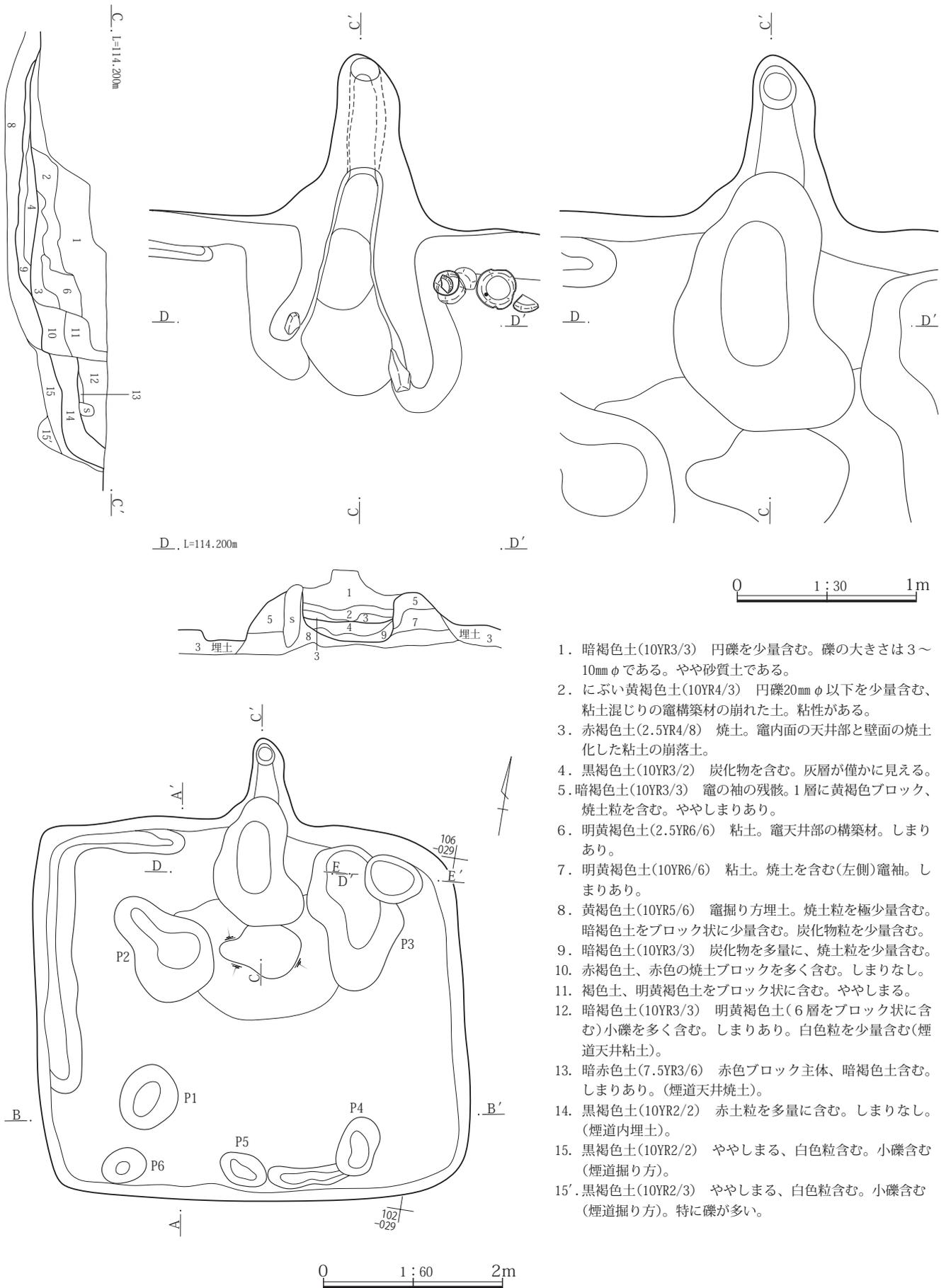
また、蛇紋岩製紡輪(第124図15)が北西部床面直上で、粗粒輝石安山岩製砥石(同図14)が貯蔵穴西脇床面直上で、粗粒輝石安山岩製の磨石(同図16)が南壁中央の壁際床面上5cmで出土した。さらに、本竪穴から13点の棒状礫が出土した。11点が床面直上あるいは床面近くから、2点は埋没土中から出土した。床面近くで出土した11点のうち9点は建物西半部に偏在していた。そのうち4点(同図17・18・20・21)を実測・図示した。他の2点は、貯蔵穴西脇で砥石とともに1点、南壁際の磨石とともに1点(同図19)である。石材は雲母石英片岩4点、黒色頁岩3点、緑色片岩2点、砂岩1点、変玄武岩1点、変質安山岩1点、石英1点と一定でない。

この他、埋没土中から土師器破片356点、須恵器破片24点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀後半の竪穴建物と考えられる。

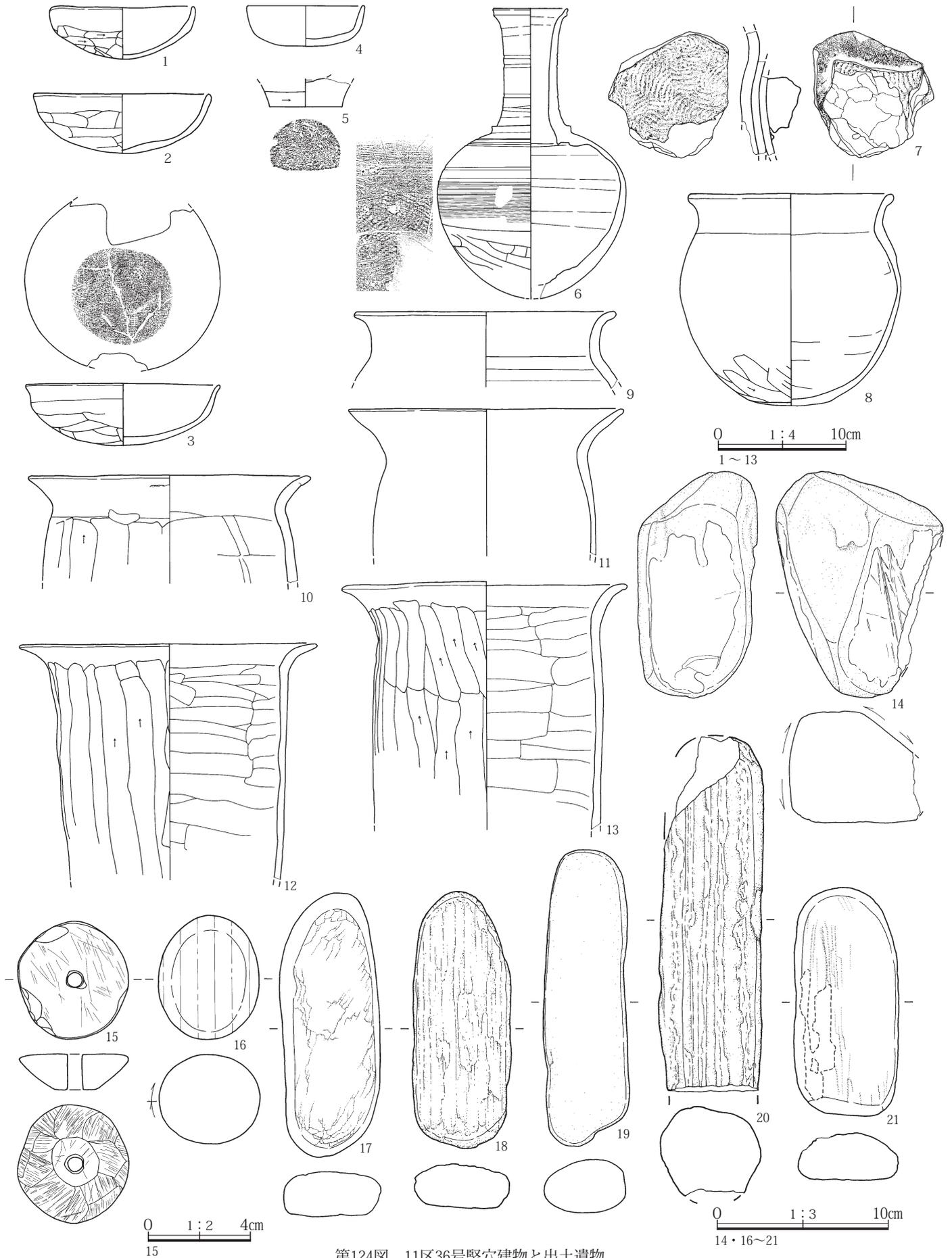


第122図 11区36号竪穴建物



1. 暗褐色土(10YR3/3) 円礫を少量含む。礫の大きさは3～10mmφである。やや砂質土である。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 円礫20mmφ以下を少量含む、粘土混じりの竈構築材の崩れた土。粘性がある。
3. 赤褐色土(2.5YR4/8) 焼土。竈内面の天井部と壁面の焼土化した粘土の崩落土。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物を含む。灰層が僅かに見える。
5. 暗褐色土(10YR3/3) 竈の袖の残骸。1層に黄褐色ブロック、焼土粒を含む。ややしまりあり。
6. 明黄褐色土(2.5YR6/6) 粘土。竈天井部の構築材。しまりあり。
7. 明黄褐色土(10YR6/6) 粘土。焼土を含む(左側)竈袖。しまりあり。
8. 黄褐色土(10YR5/6) 竈掘り方埋土。焼土粒を極少量含む。暗褐色土をブロック状に少量含む。炭化物粒を少量含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物を多量に、焼土粒を少量含む。
10. 赤褐色土、赤色の焼土ブロックを多く含む。しまりなし。
11. 褐色土、明黄褐色土をブロック状に含む。ややしまる。
12. 暗褐色土(10YR3/3) 明黄褐色土(6層をブロック状に含む)小礫を多く含む。しまりあり。白色粒を少量含む(煙道天井粘土)。
13. 暗赤色土(7.5YR3/6) 赤色ブロック主体、暗褐色土含む。しまりあり。(煙道天井焼土)。
14. 黒褐色土(10YR2/2) 赤土粒を多量に含む。しまりなし。(煙道内埋土)。
15. 黒褐色土(10YR2/2) ややしまる、白色粒含む。小礫含む(煙道掘り方)。
- 15'. 黒褐色土(10YR2/3) ややしまる、白色粒含む。小礫含む(煙道掘り方)。特に礫が多い。

第123図 11区36号竪穴建物掘り方と竈



第124図 11区36号竪穴建物と出土遺物

11区37号竪穴建物

(第125・126図 PL.35・75 遺物観察表P.270)

グリッド 099~100・-024~-028 重複 なし。

形状 建物の大半が調査区域外で、東側には攪乱が及んでおり、北壁付近のみの調査となった。全形が把握できなかったが、方形と推定される。

規模 東西軸(3.33)m 南北軸(0.67)m 残存壁高0.25m

面積 計測不能 長軸方位 N-77°-E

埋没土 白色鈹物粒とローム粒を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

竈 北壁に竈が敷設されていた。残存する竈の規模は確認長0.68m、屋外長0.26m、燃烧部長0.68m、焚口幅0.57mで、屋内には粘土貼り付けの袖構造下部が左側0.37m、右側0.49mの長さで張り出し残存していた。右袖の先端には芯として板状の垂角礫が2個壁状に立てられていた。焚口部には竈構築材の一部と推定される、長さ0.56m、幅0.18m、厚さ0.17mの板状礫が残されていた。竈

埋没土中から土師器鉢(第126図6)が出土した。竈左脇からは土師器甕(同図11)が床面上7cmで、土師器杯(同図1)が壁際床面上8cmで出土した。

柱穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

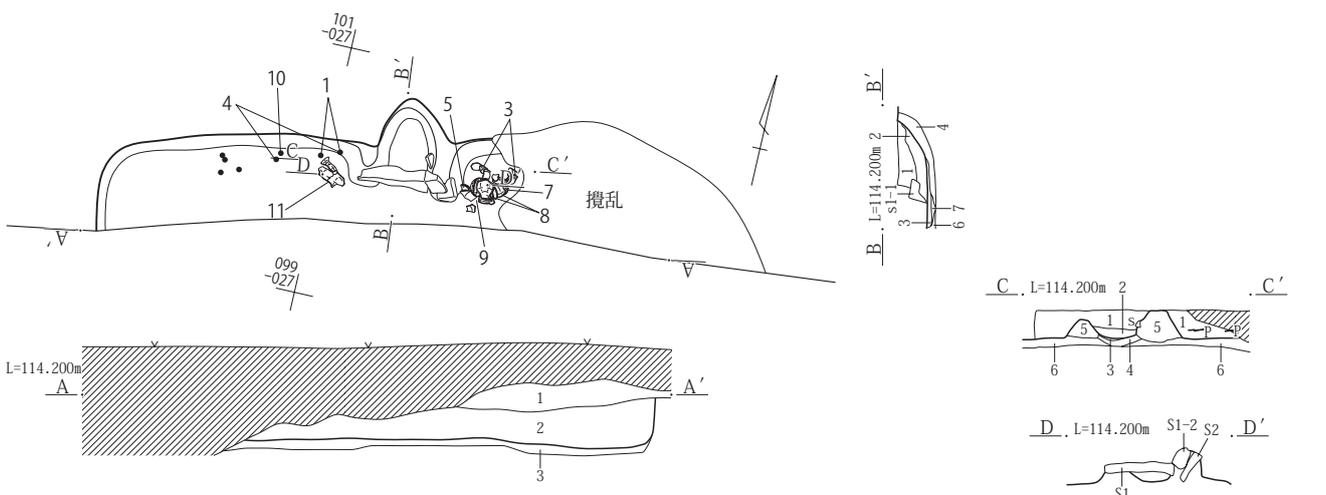
壁際溝 調査できた範囲の中では検出されなかった。

貯蔵穴 調査できた範囲の中では検出されなかった。

掘り方 竈の下位と西壁付近がやや深く掘り込まれていたが、全体形状は調査できなかった。

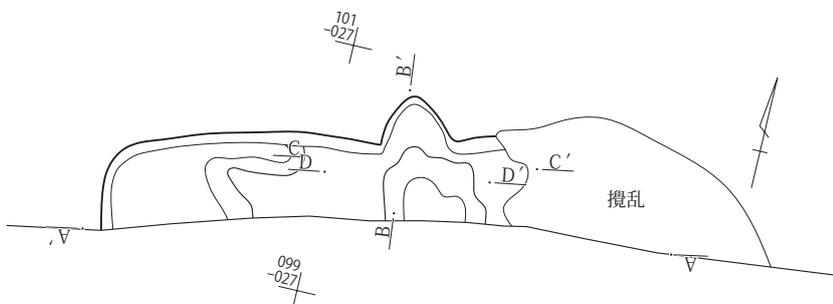
遺物と出土状況 西部北壁沿いには床面上7cmで土師器杯(第126図4)、床面直上で土師器小型甕(同図10)が出土した。竈右側には床面上3cmで出土した土師器小型甕(同図9)にのる形で土師器有孔鉢(同図7)が出土した。また、その周囲で須恵器蓋(同図8)や土師器杯(同図3・5)が床面上2~4cmで重なるように出土した。埋没土中から土師器杯(同図2)が出土した。この他、土師器破片97点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴建物と考えられる。

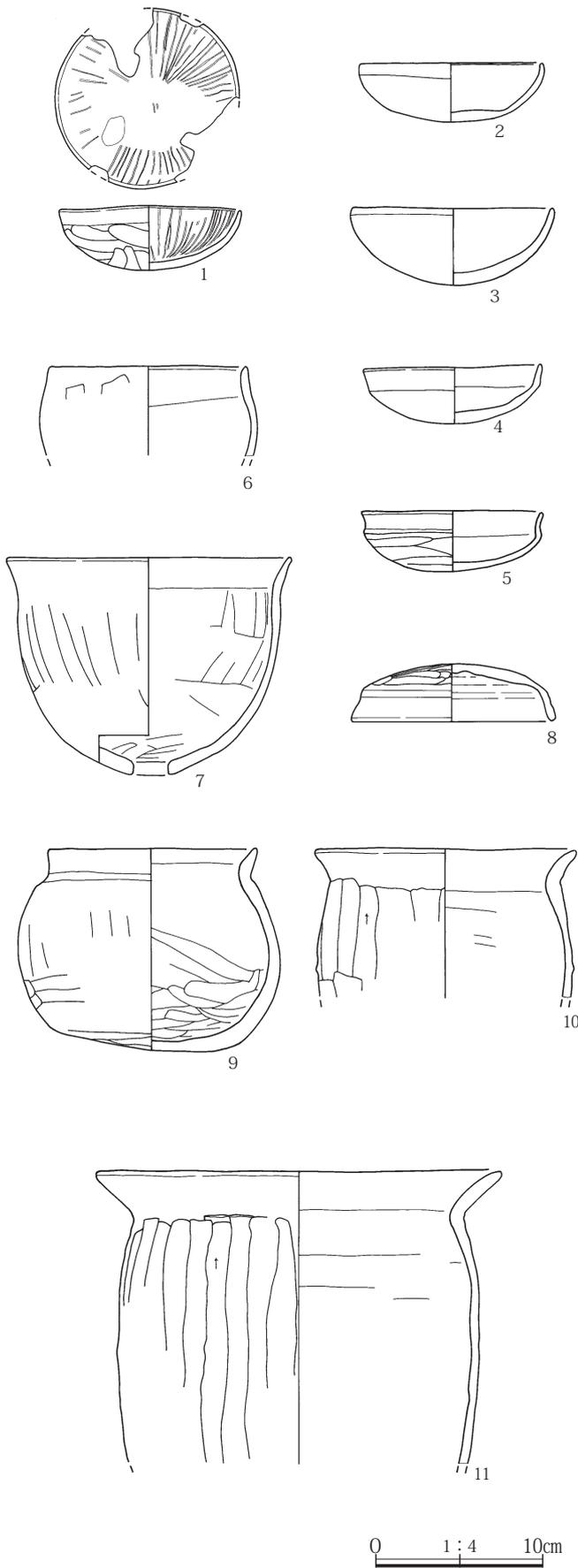


1. 表土 褐灰色土(10YR5/1) As-A含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を極少量含む。黄褐色ロームブロックを極少量含む。
3. 黄褐色土(10YR5/6) 黒褐色土をブロック状に含む。しまりあり。(竪穴建物の掘り方)

1. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を極少量含む。黄褐色ロームブロックを極少量含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を極少量含む。黄褐色ロームブロックを極少量含む。焼土粒を極少量、炭化物粒を少量含む。
3. 青灰色(10BG6/1) 僅かに灰層 炭化物層。
4. 褐色土(7.5YR4/3) 焼土を少量含む、竈掘り方埋土、しまりなし。
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 竈の袖。しまりあり。粘質土。極少量の焼土粒含む。
6. 黄褐色土(10YR5/6) 黒褐色土をブロック状に含む。しまりあり。(竪穴建物の掘り方)
7. 明色褐色土(2.5YR5/6) 焼土主体の4層。



第125図 11区37号竪穴建物



第126図 11区37号竪穴建物出土遺物

3. 竪穴状遺構

11区と6-2区に竪穴状の遺構が1基ずつ確認された。竪穴建物としての施設は不明であるが、土器が集中して出土している。

11区1号竪穴状遺構

(第127図 PL.36 遺物観察表P.271)

グリッド 116~118・-057~059

形状 南半部が試掘トレンチとなり全形を把握することができなかったが、北東隅の形状から方形と推定される。

重複 49号土坑より古い。

規模 東西軸1.94m 南北軸(0.92)m 残存壁高0.03m

面積 計測不能 長軸方位 N-78°-E

埋没土 少量の白色鈹物粒とローム粒、多量の礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

底面 底面はやや凹凸があった。柱穴等の施設は検出されなかった。

遺物と出土状況 北半部に土器が散在していた。北東隅底面上5cmから土師器杯(第127図1)が出土した。中央部底面上10cmで土師器杯(同図2)が出土した。また埋没土中から土師器破片26点が出土した。

所見 出土遺物から7世紀の竪穴状遺構と考えられる。

6-2区2号竪穴状遺構

(第128図 PL.36)

グリッド 068~071・-347~350

形状 不定形な隅丸方形

重複 69号・70号竪穴建物より新しい。

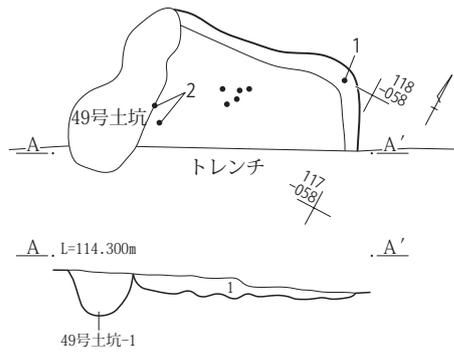
規模 長軸2.85m 短軸2.38m 残存壁高0.08m

面積 4.37㎡ 長軸方位 N-34°-E

底面 北西壁付近には深さ0.6~0.7mの土坑状の掘り込みが複数あり、中央部の底面には凹凸が顕著であった。柱穴等の施設も検出されなかった。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片68点が出土したが、小片が多く実測・図示できなかった。

所見 埋没土中の出土遺物から6世紀後半の竪穴状遺構と考えられる。

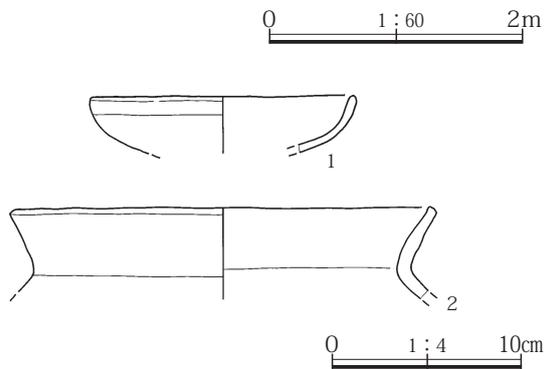


1号竪穴状遺構

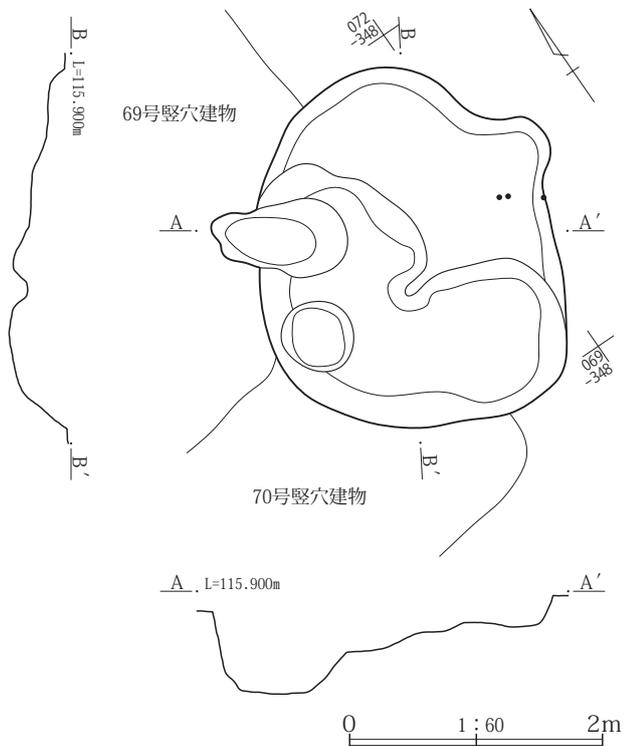
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む。(礫は直角礫 直径5cm未満)黄色ローム砂層を少量含む。

49号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)。黄色ロームブロックを少量含む。



第127図 11区1号竪穴状遺構



第128図 6-2区2号竪穴状遺構

4. 掘立柱建物

10-2区には多くのピットが集中していたが、北東隅で掘立柱建物1棟を確認した。

10-2区1号掘立柱建物

(第129図 PL.36)

グリッド 117~122・-076~081

主軸方位 N-11°-W

重複 211A号土坑より古い。

形態 桁行3間・梁行4間(4.61~4.63×4.13m)の側柱建物である。南北棟で、面積は19.12㎡である。

柱間は北南辺1.92~2.09m、東西辺1.34~1.71m。

南辺は中央の柱間がやや長い。北辺はP14の位置が中央に寄っており、南辺のP5と対応しない。北辺のP12・P14は他の柱穴より小さい。東西辺は中央の柱間がやや短い。各辺ともに柱穴は柱軸にのる。

東辺のほぼ中央に柱筋に接する位置にP15があり、西辺の同様の位置にP16がある。棟持柱あるいは間柱の可能性はある

柱穴は方形あるいは楕円形で、長径0.51~0.13m、短径0.48~0.12m、深さ0.16~0.42mと一定ではなかった。

内部施設 なし。

遺物と出土状況 柱穴P1埋没土中から土師器破片3点、P4埋没土中から土師器破片4点、P9埋没土中から土師器破片1点が出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

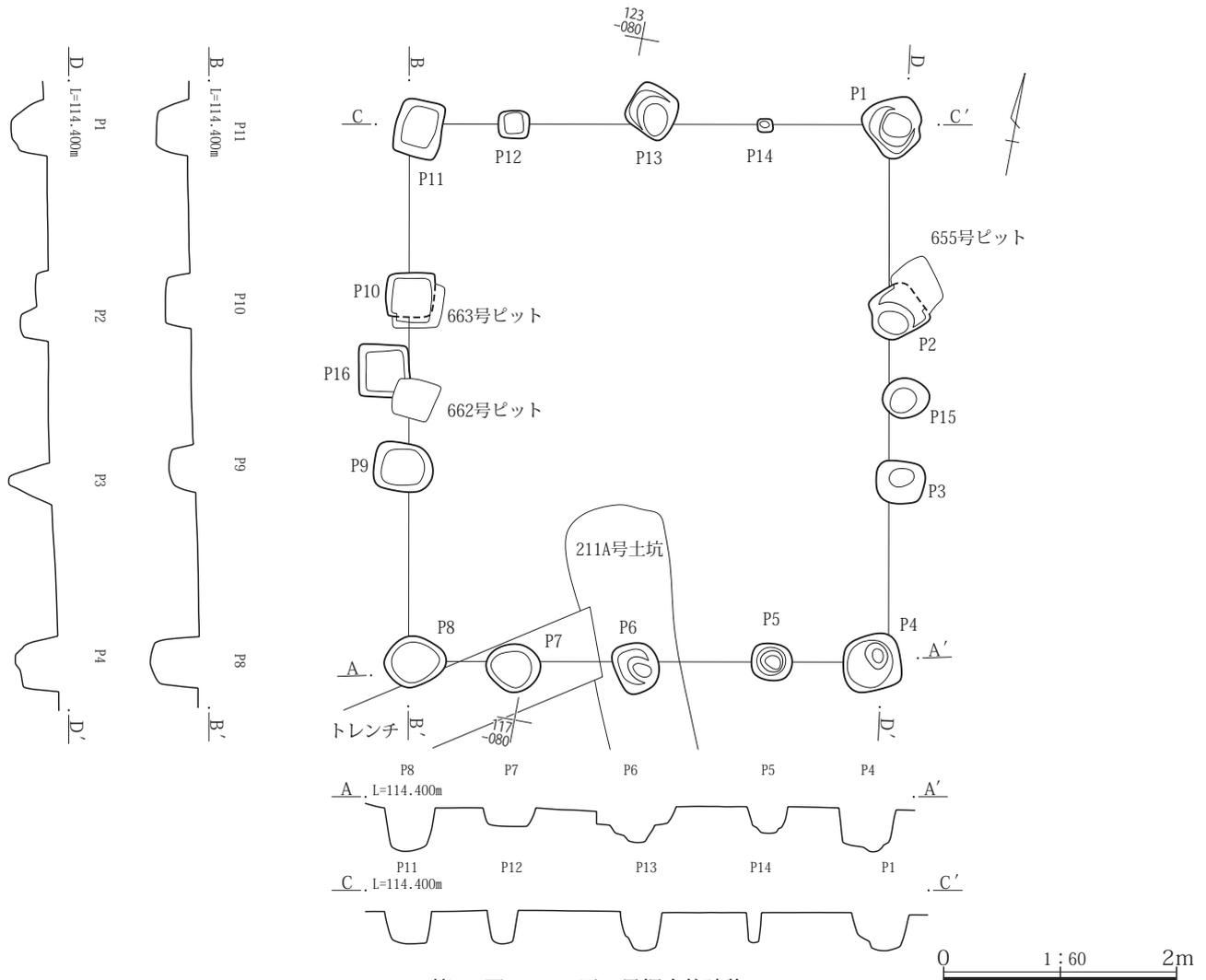
所見 柱穴埋没土中からの出土遺物は7世紀末から8世紀にかけての土師器破片とみられる。建物の規格性や規模等から当該期の掘立柱建物と考えられるが、柱穴埋土に浅間B軽石を混入するものがあり、8世紀代とは断定できなかった。

5. 柱穴列

10区東半部で、延長10.44mの柱穴列を確認した。時期は不明である。

10-2区1号柱穴列

(第130図 PL.36)



第129図 10-2区1号掘立柱建物

第6表 10-2区1号掘立柱建物柱穴計測表

建物全体規模	桁行3間・梁行4間	棟方向	南北棟			
主軸方向	N-11°-W		施設			
桁・梁行の規模(m)	柱穴No.	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
		長径	短径	深さ		
東辺 4.61	P 1	0.49	0.48	0.33	不定形	1.71
	P 2	(0.47)	0.43	0.24	不定形	1.34
	P 3	0.42	0.36	0.39	隅丸方形	1.55
南辺 4.13	P 4	0.49	0.47	0.38	隅丸方形	0.90
	P 5	0.36	0.33	0.23	隅丸方形	1.12
	P 6	0.44	0.38	0.16	楕円形	1.12
	P 7	0.44	0.42	0.16	楕円形	0.86
西辺 4.63	P 8	0.49	0.44	0.42	楕円形	1.70
	P 9	0.51	0.42	0.23	隅丸方形	1.47
	P 10	0.42	0.38	0.22	方形	1.46
	P 11	0.50	0.40	0.29	方形	0.82
北辺 4.13	P 12	0.27	0.24	0.29	方形	1.22
	P 13	0.42	0.41	0.34	方形	0.95
	P 14	0.13	0.12	0.26	方形	1.14
(東辺)	P 15	0.41	0.35	0.32	楕円形	
(西辺)	P 16	0.45	0.43	0.12	方形	

グリッド 099~102・-094~-105

主軸方位 N-77°-E

重複 P 6・P 7 周辺には柱筋上に中世のものと推定される正方形のピットが重複している。直接の重複はないので、遺構調査の所見からは新旧関係は不明である。

形態 8基のピットが並ぶ。ピットの間隔は1.07~2.01m。ピットは円形あるいは隅丸方形で、長径0.26~0.61m、短径0.25~0.54m、深さ0.12~0.45mで不揃いであった。方位は1号掘立柱建物の梁行方位とほぼ一致する。

遺物と出土状況 P 8埋没土中から土師器破片6点が出土した。いずれも小片のため実測・図示できなかった。

所見 P 8埋没土中からの出土遺物は7世紀から8世紀の土師器破片と推定される。本柱列の方位は1号掘立柱建物の主軸方位とほぼ一致する。時期は特定できないが1号掘立柱建物と同時期にあった規格的に並んだ柱穴列の可能性はある。

6. 井戸

井戸は4号から11号までの7基が調査された。8号は欠番である。6区に1基、10区・10-2区に6基が偏在していた。

6区4号井戸は大型円形の井戸で、発掘区域内では単独で検出された。

10区・10-2区の6基は発掘区南部に東西方向に並ぶような分布をみせていた。いずれも直径2～4mの大型円形の井戸で、6号井戸のみ上部が四方に開かない楕円形で異質であった。井戸の時期は確実に中世であったのは10区7号井戸、中世と推定されるのは10-2区10号井戸で、他は近世から近現代の遺物を出土したことから、その時期に埋められたと考えられる。10-2区東半部には中世に掘られたと推定されるピットも集中しており、本地区が中世から近代にかけて集中して土地利用されたことが井戸の存在からも推定される。

6区4号井戸

(第131図 PL.36・75 遺物観察表P.271)

グリッド 059～061・-329～-331

重複 50号竪穴建物より新しい。

形状 円形

規模 長軸2.37m 短軸2.19m

確認壁高(0.60)m

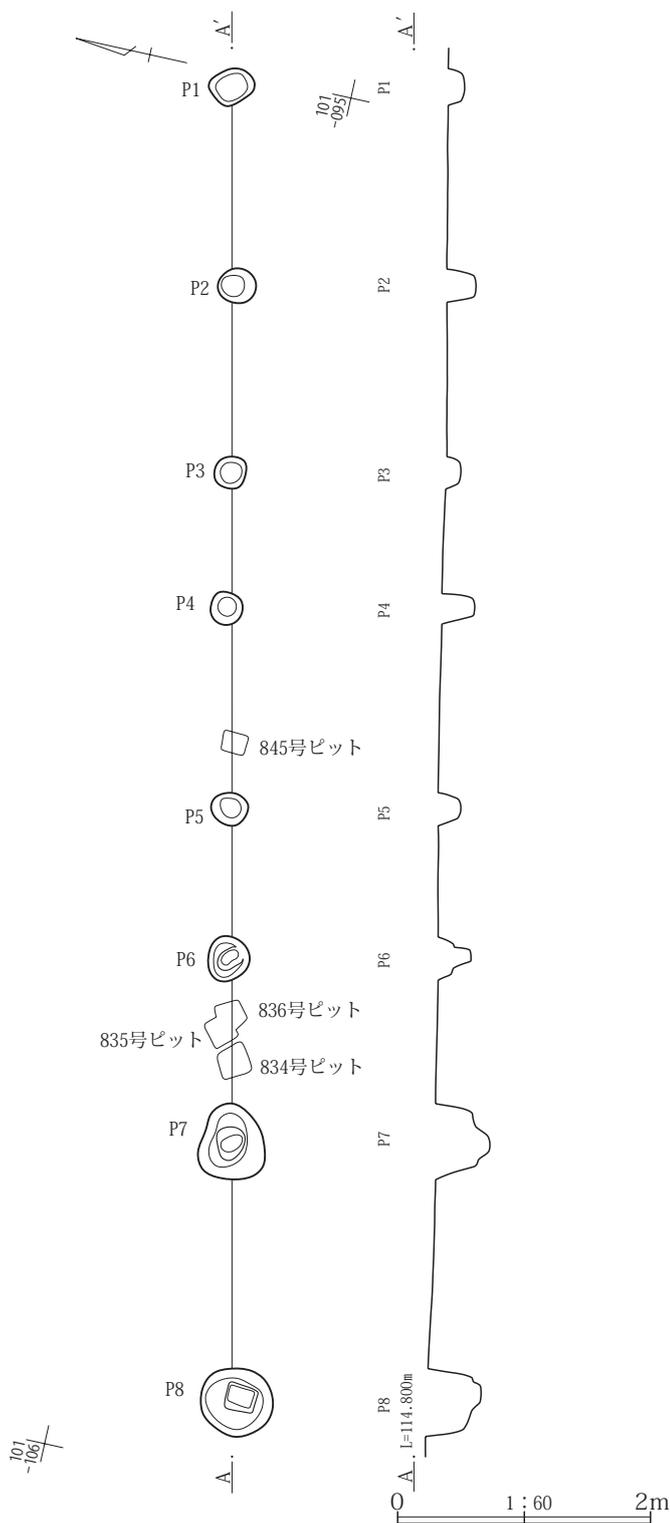
長軸方位 N-59°-W

断面形 上端が外方に開く。湧水が著しく下位の詳細な断面形態は記録できなかった。

埋没土 大型のものも含む多量の礫が混入する暗褐色土で埋まっていた。南側の壁際には半周以上にわたって粘性の強い粘土が貼られていた。

遺物と出土状況 埋没土中から近現代のものと推定される器種不明の磁器(第131図1)、時期不詳の在地系土器焙烙(同図2)、粗粒輝石安山岩製の石臼(下臼)(同図3)、牛伏砂岩製の不明石製品(同図4)が出土した。この他、埋没土中から近世の在地系土器焙烙破片1点が出土した。

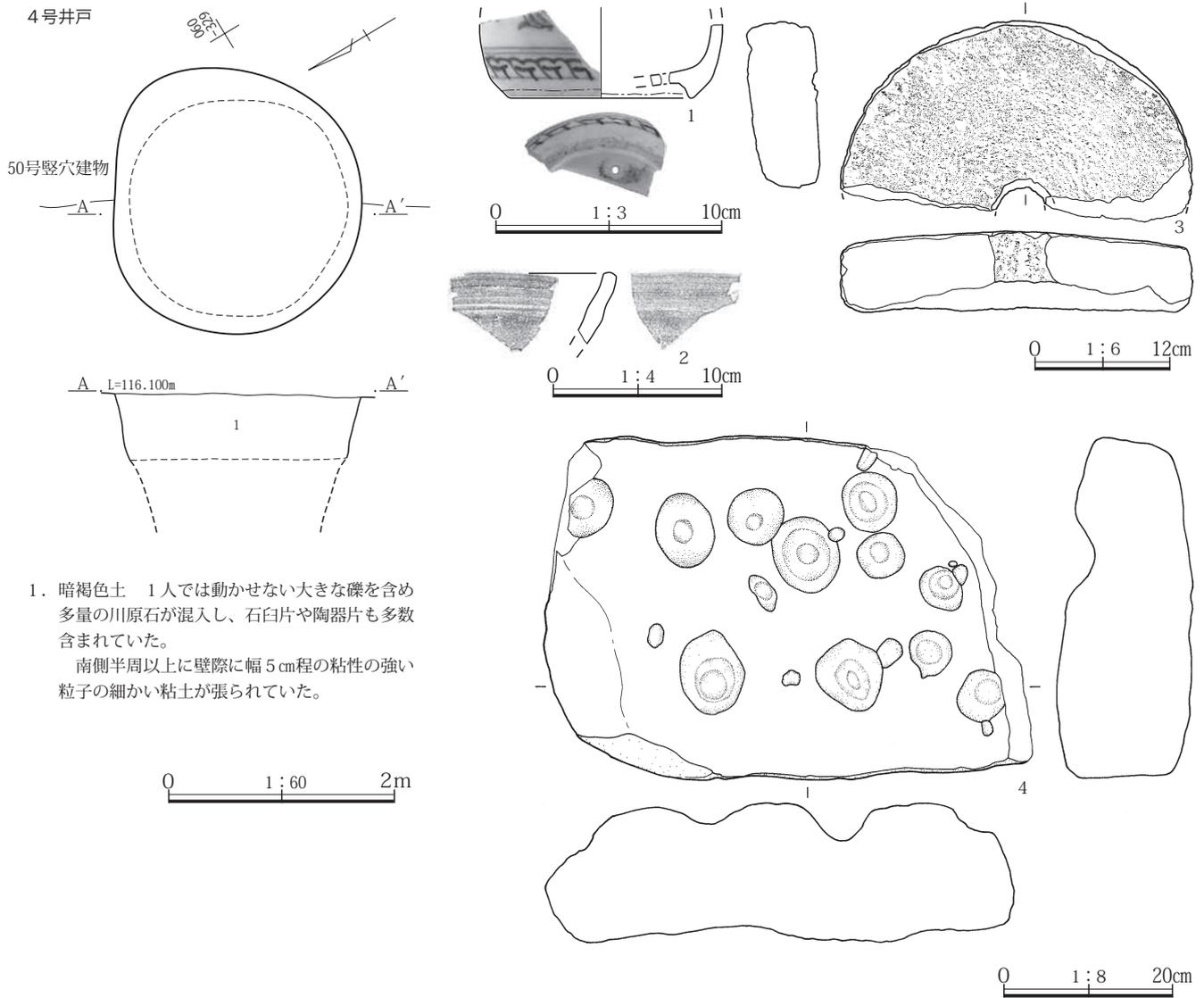
所見 出土遺物から、近世から近現代の井戸と考えられる。



第130図 10-2区1号柱穴列

第7表 10-2区1号柱穴列計測表

柱穴No.	規模(m)			形状	次柱穴との間隔(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	0.33	0.27	0.14	隅丸方形	1.59
P 2	0.31	0.28	0.23	楕円形	1.49
P 3	0.26	0.25	0.12	隅丸方形	1.07
P 4	0.26	0.26	0.26	円形	1.60
P 5	0.29	0.26	0.18	楕円形	1.19
P 6	0.36	0.35	0.26	楕円形	1.49
P 7	0.61	0.51	0.43	不定形	2.01
P 8	0.58	0.54	0.45	楕円形	—



1. 暗褐色土 1人では動かせない大きな礫を含め多量の川原石が混入し、石白片や陶器片も多数含まれていた。
南側半周以上に壁際に幅5cm程の粘性の強い粒子の細かい粘土が張られていた。

第131図 6区4号井戸と出土遺物

10区5号井戸(第132図 PL.36)

グリッド 088~092・-130~-134

重複 なし。 形状 円形

規模 長軸3.71m 短軸3.71m 確認壁高(0.97)m

長軸方位 N-0°-E

断面形 上方が外方に開き下位は筒状と推定される。湧水が著しく詳細な断面形態は記録できなかった。

埋没土 白色鈹物粒と黄色ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がないことから、時期は不明であるが、埋没土の最上層に浅間A軽石が含まれていることから埋められたのは近世以降と判断される。

10区6号井戸

(第132図 PL.36)

グリッド 100~102・-161~-162

重複 なし。 形状 楕円形

規模 長軸1.82m 短軸0.89m 確認壁高(0.85)m

長軸方位 N-16°-E

断面形 北側・南側が大きく外方に開き、北側には広い平坦面ができていた。中央には直径0.8mほどの湧水孔が確認できたが、湧水が著しく下位の詳細な断面形態は記録できなかった。

埋没土 上層は少量の白色鈹物粒と多量の黄色ローム塊・礫を含む暗褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がないことから、時期は不明である。

10区7号井戸

(第132図 PL.75 遺物観察表P.271)

グリッド 082～086・-125～-128

重複 なし。

形状 円形

規模 長軸3.52m 短軸3.45m 確認壁高(0.68)m

長軸方位 N-80°-E

断面形 上方が外方に開き下位は筒状と推定される。湧水が著しく詳細な断面形態は記録できなかった。

埋没土 白色鉍物粒と黄色ローム塊、礫を多く含む黒褐色土で埋まっていた。壁沿いには地山から崩落した黄褐色土粒が混じる粘質褐色土が堆積していた。

遺物と出土状況 埋没土中から、須恵器壺(第132図1)、常滑陶器甕(同図4)、在地系土器すり鉢(同図2・3)、在地系土器内耳鍋(同図5・6)が出土した。2～6はいずれも中世のものである。この他、埋没土中から土師器破片25点、須恵器破片8点、中世在地系土器焙烙・鍋破片6点が出土した。

所見 出土遺物から、中世の井戸と考えられる。

10-2区9号井戸

(第133図 PL.37)

グリッド 098～100・-063～-065

重複 244号土坑より新しい。

形状 円形

規模 長軸2.00m 短軸(1.75)m 残存壁高1.49m

長軸方位 N-72°-E

断面形 上方が外方に開き、下位は筒状で底面は平坦であった。

埋没土 黒褐色土・ローム塊の混土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 出土遺物がないことから時期は不明である。

10-2区10号井戸

(第133図 PL.37・75 遺物観察表P.271)

グリッド 088～090・-086～-088

重複 115号竪穴建物・19号溝より新しい。

形状 南部が調査区域外で全形を把握することができなかったが、楕円形と推定される。

規模 長軸2.14m 短軸(1.88)m 確認壁高0.95m

長軸方位 N-43°-E

断面形 上方が外方に開き下位は筒状と推定される。湧水が著しく詳細な断面形態は記録できなかった。

埋没土 上層は礫や黄色ローム塊を含む黒褐色土で、下位は明黄褐色粘質土塊と黒褐色土塊の混土で埋まっていた。

遺物と出土状況 埋没土中から、須恵器甕(第133図1)の胴部破片、龍泉窯青磁碗(同図2)が出土した。この他、埋没土中から土師器破片5点が出土した。

所見 出土した青磁碗は12世紀後半から13世紀中頃のものと思われることから、中世の井戸である可能性が高い。

10-2区11号井戸

(第133図 PL.37)

グリッド 087～088・-091～-093

重複 271号土坑より新しい。

形状 南部が調査区域外で全形を把握することができなかったが、円形と推定される。

規模 長軸1.51m 短軸(1.15)m 確認壁高0.32m

長軸方位 N-82°-E

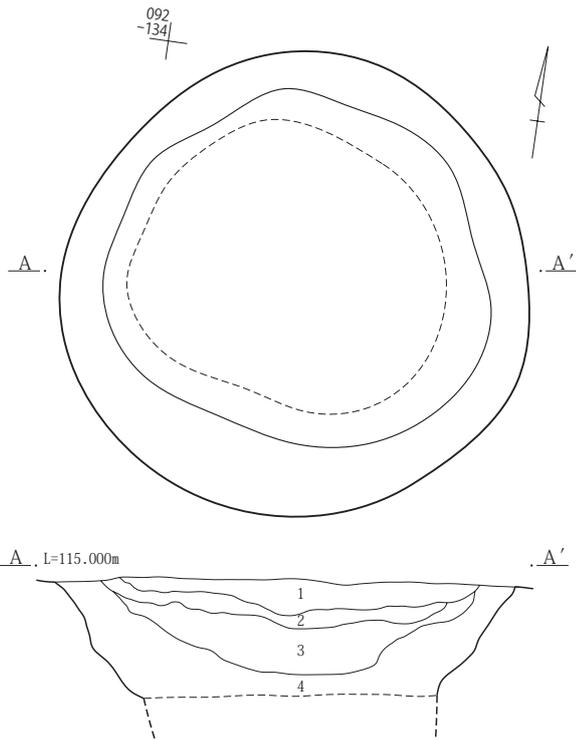
断面形 筒状で、底面は平坦であった。

埋没土 上位は紫灰色・明青灰色粘土で埋まっていた。下位は礫・ローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

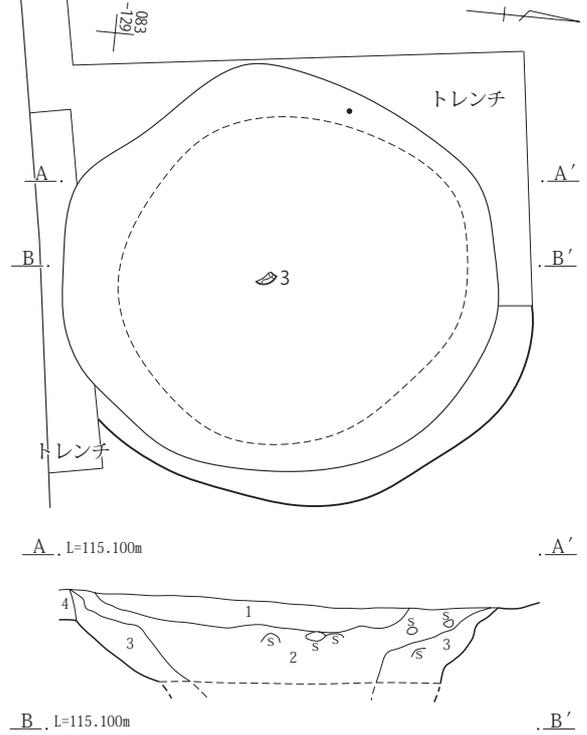
所見 出土遺物がないことから時期は不明である。

5号井戸



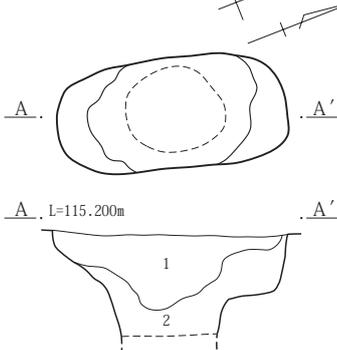
1. 褐灰色土(10YR4/1) 白色粒含む、砂質(As-Aか?)礫を多く含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒含む、黄色ロームブロックと礫を少量含む、やや砂質(As-Aか?)
3. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒含む、黄色ロームブロックを多量に礫を少量含む。
4. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒含む、黄色ロームブロックを少量含む。

7号井戸



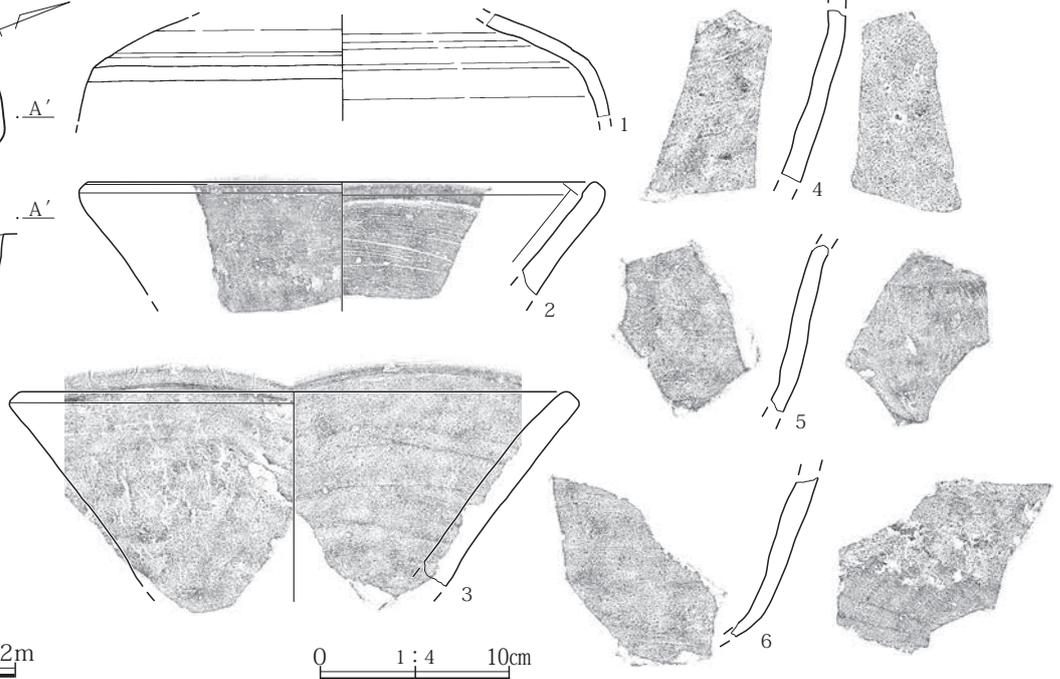
1. 灰褐色土(10YR4/1) 白色粒を少量、亜角礫を多量に黄褐色(10YR5/6)ロームブロックを少量含む。
2. 灰褐色土(10YR4/1) 白色粒を少量、亜角礫を多量に含む。
3. 褐灰色土(10YR4/1) 黄褐色土粒が混じる。粘性のある土。
4. 褐灰色土(10YR4/4) 30mm以下の礫を含む。やや粘性のある土。

6号井戸



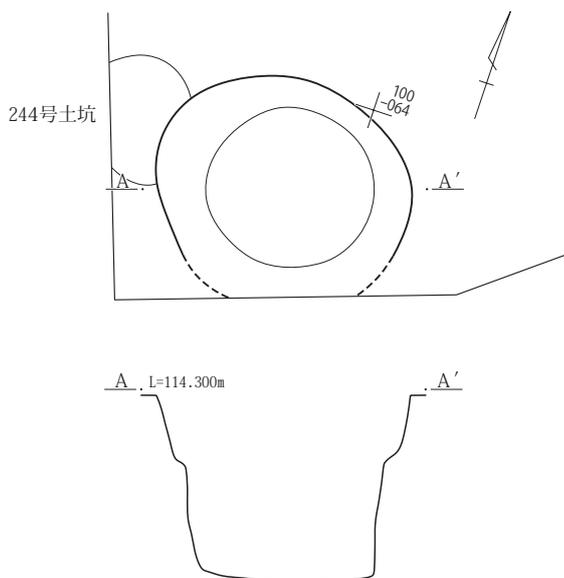
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を若干含む。黄色ロームブロックを多量に、礫を少量含む。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を若干、礫を少量含む。

7号井戸出土遺物

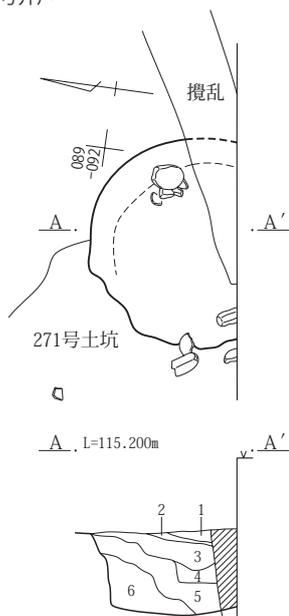


第132図 10区5・6・7号井戸と7号井戸出土遺物

9号井戸



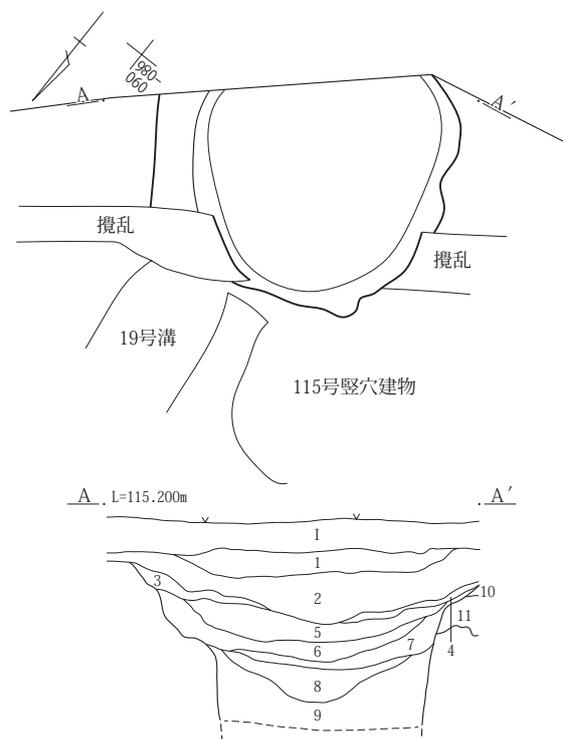
11号井戸



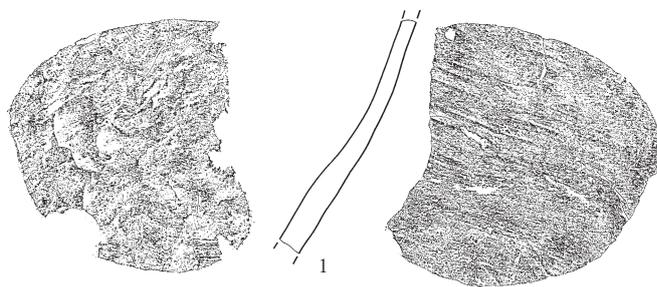
1. 明青灰色(5PB7/1)粘土。
2. 紫灰色(5P5/1)粘土
3. 塊状明青灰色(5PB7/1)粘土・塊状紫灰色(5P5/1)粘土の混土。
4. 紫灰色(5RP5/1)粘土
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量・塊状ローム土含有。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極少量・塊状ローム土少量。

0 1:60 2m

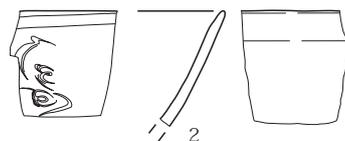
10号井戸



- I 宅地造成以前の表土層(耕作土) 褐灰色土(5YR4/1)白色軽石含有・細粒礫含有。
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土含有。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・小塊状ローム土微量。
3. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土少量。
4. 明黄褐色土(2.5Y7/6) 塊状粘土。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・塊状ローム土含有。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状ローム土含有。
7. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状ローム土含有・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土含有。
8. 明黄褐塊状粘土主体・黒褐色土若干。
9. 明黄褐色土(10YR6/6)塊状粘土・黒褐色土の混土。
10. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状ローム土混入・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土混入・粗粒状ローム土混入・小塊状ローム土混入。
11. 黒褐(7.5YR3/1) 塊状号粘土含有・明黄褐色(10YR6/6)塊状粘土含有・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。



0 1:4 10cm



0 1:3 10cm

第133図 10-2区9・10・11号井戸と10号井戸出土遺物

7. 溝

溝は、6条が調査された。6区に2条、10-2区に4条が分布していた。6区17号溝は古墳時代の土器が多数出土した。21号溝は近現代の溝である。10-2区東半部の4条は、18号溝は掘り残し部を挟み、北東部がL字状に屈曲する溝である。19号溝、20B号溝は南北方向のやや不定形な溝である。20A号溝は発掘区を斜行する延長25.22mが確認された。

6区17号溝

(第134～136図 PL.37・75・76 遺物観察表P.271・272)

グリッド 070～085・-327～-338

重複 52号竪穴建物より新しいと推定される。6区は調査工程上、南北を二つに分けて実施せざるを得なかった。本溝と52号竪穴建物との重複部は、ちょうどその境界部となり、十分に新旧関係を確認することができなかった。

調査長 18.6m **上幅最大～最小** 1.06m～0.62m

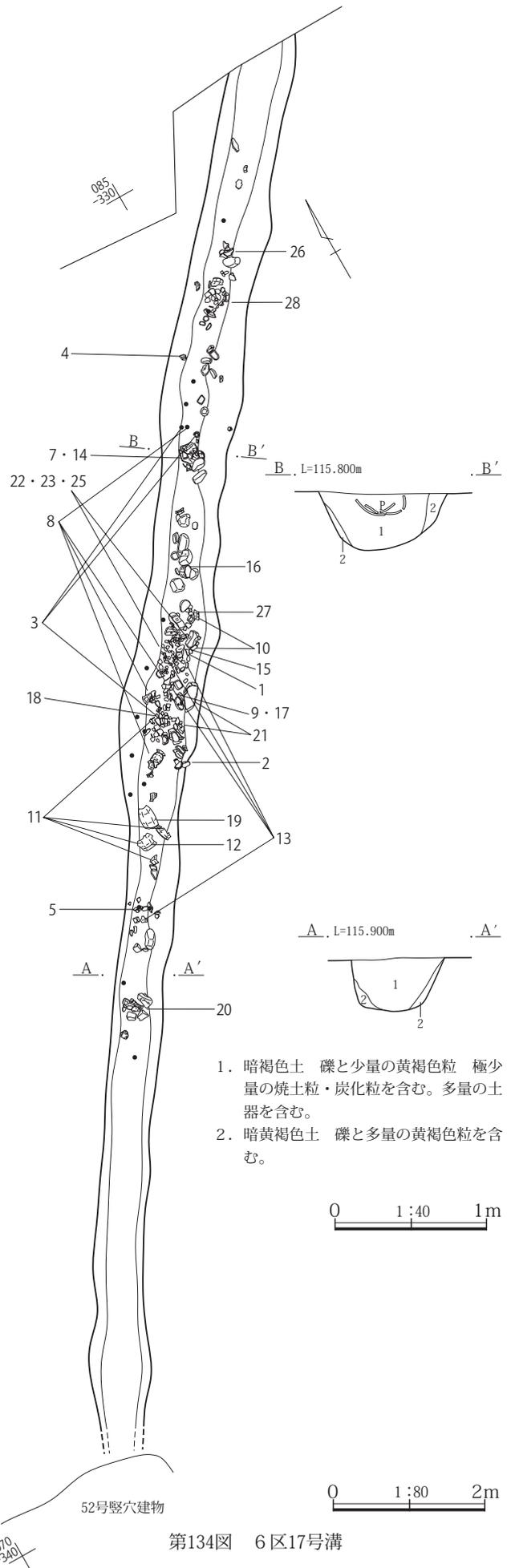
残存深 0.42m **走向方位** N-35°-E

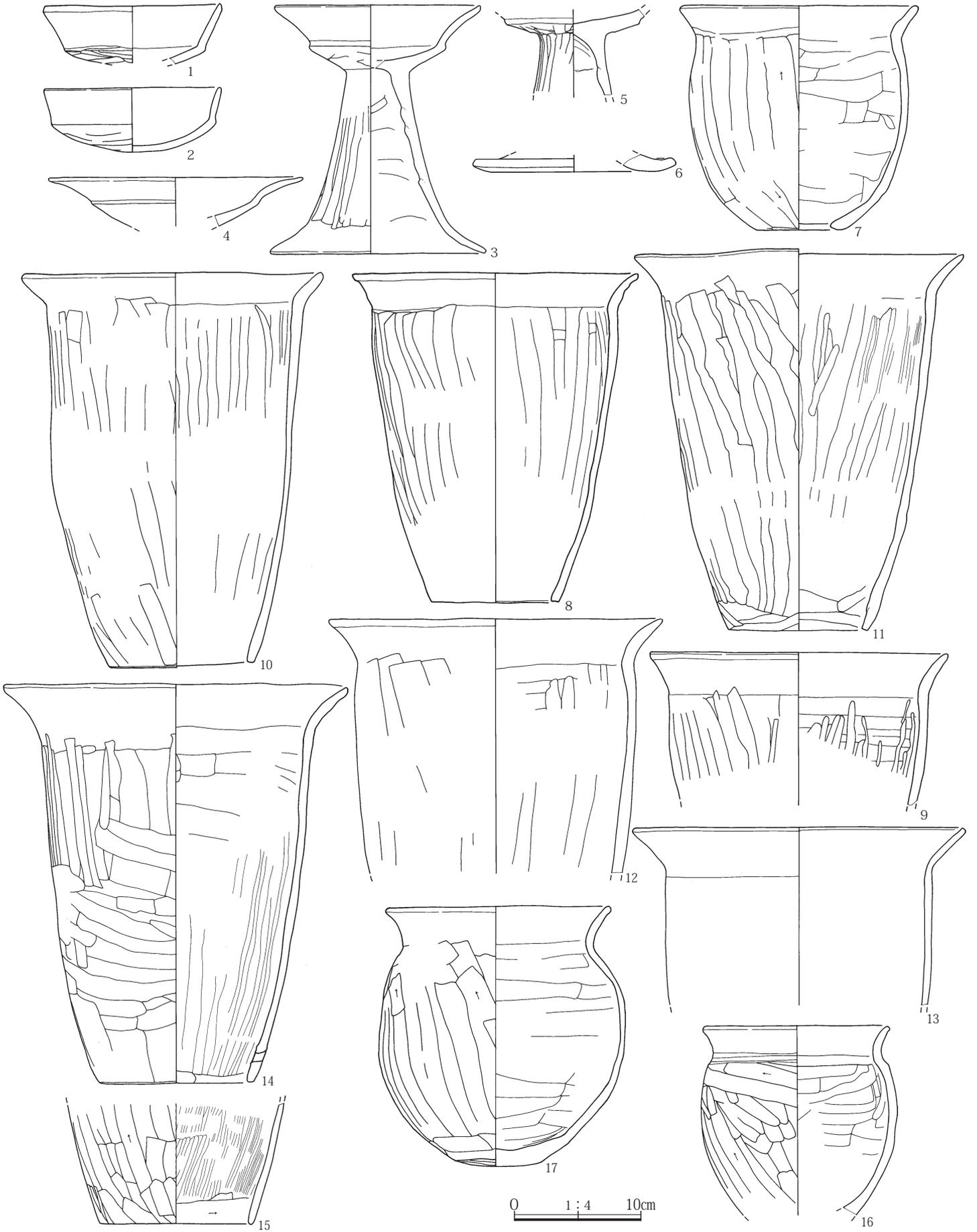
形状 平面形は直線で発掘区内を斜行する。その走向は同じ古墳時代竪穴建物の壁方位とほぼ一致する。断面形はU字形。底面は平坦で、比高0.52mで南西から北東に向かって傾斜する。

埋没土 礫と黄褐色土粒を含む暗褐色土で埋まっていた。極少量の焼土粒・炭化物粒を含む。土器が多量に埋まっていた。

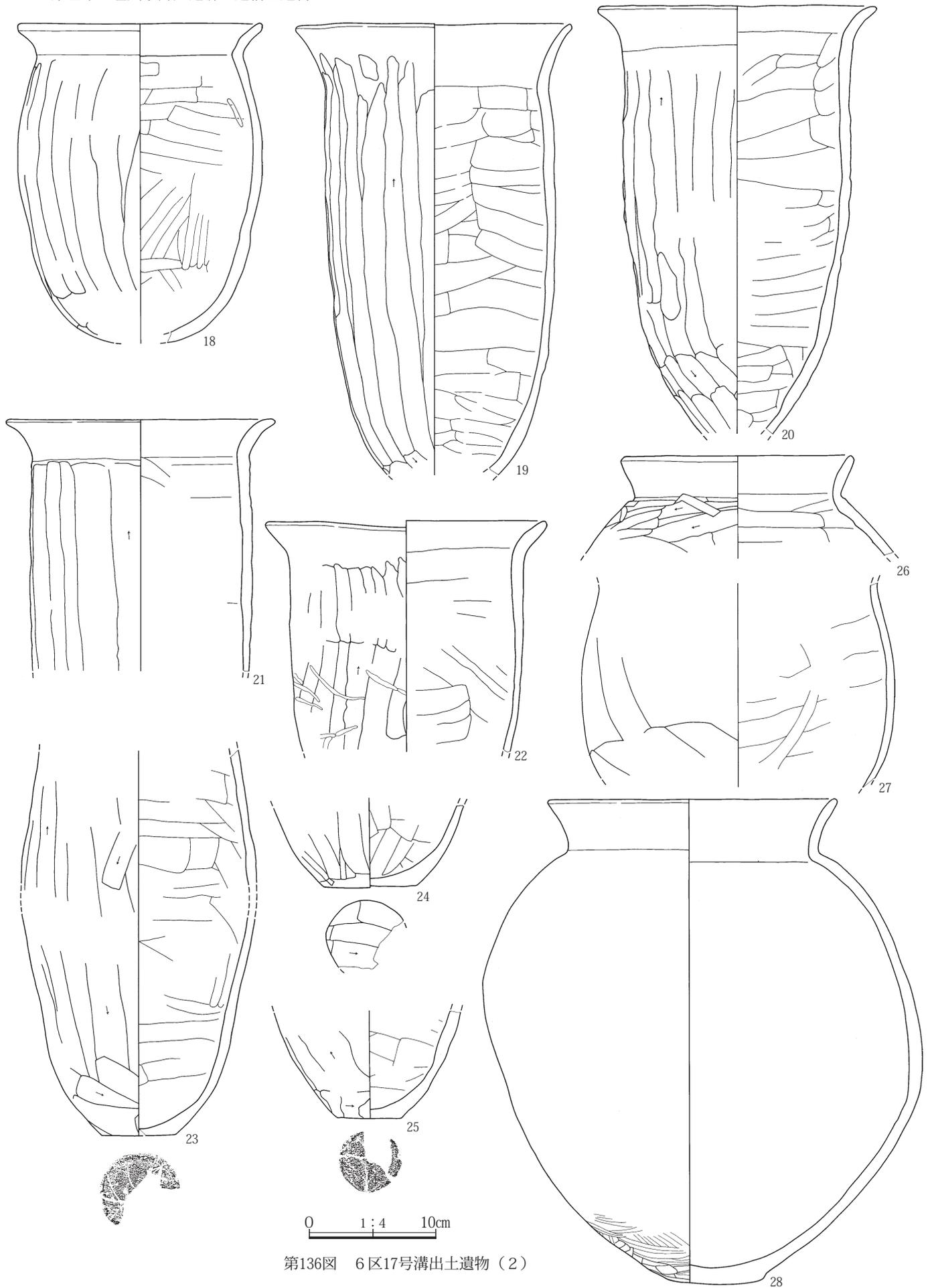
遺物と出土状況 075ラインから085ラインにかけて溝内から割れた土師器が多量に出土した。いずれも底面から20～30cm浮いた位置で出土した。器種による出土位置の偏りはない。土師器杯(第135図1・2)、土師器高杯(同図3・4・5・6)、土師器甕(同図16～28)、土師器甑(同図7～15)を実測・図示した。この他に埋没土中から土師器破片759点、須恵器破片1点が出土した。

所見 出土遺物から6世紀後半の溝と考えられる。周囲の古墳時代竪穴建物壁方位と一致することから、古墳時代の区画溝と推定される。





第135图 6区17号溝出土遺物(1)



第136図 6区17号溝出土遺物(2)

6区21号溝

(第137図 PL.37・38・77 遺物観察表P.273)

グリッド 064~066・-310~-321

重複 なし。

調査長 11.80m

上幅最大~最小 0.67m~1.00m

残存深さ 0.20m

走向方位 N-79°-E

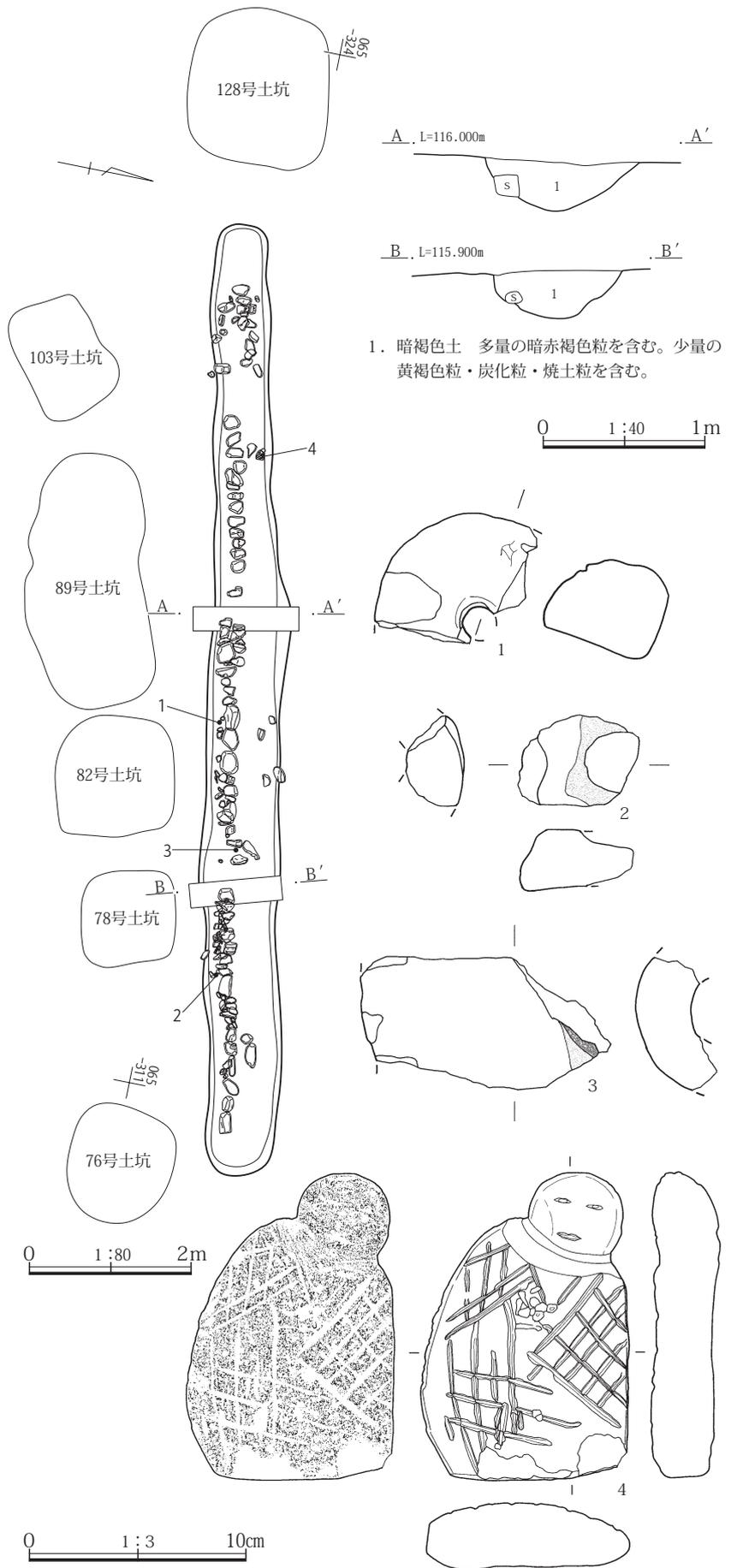
形状 平面形は直線で、両端は緩やかな曲線で止まっていた。断面形は浅いボール形でやや南側法面が急になっていた。底面は平坦で、比高0.07mで南西から北東に向かって傾斜する。

埋没土 多量の赤褐色土粒と少量の焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土で埋まっていた。南側に偏って大型礫が並んだような状態で埋まっていた。南側に石積みがあった可能性がある。

遺物と出土状況 西部底面直上で牛伏砂岩製の地蔵像(第137図4)が出土した。東部土層断面B-B'付近底面直上で土製品羽口(同図3)が出土した。中央部と東部で円盤状の土製品(同図1・2)が出土した。1・2は羽口に類似するが、短く溶融部分はない。詳細は不明である。この他、埋没土中から土師器破片2点、近世国産磁器5点、近世在地系土器焙烙・鍋破片5点が出土した。

所見 時期は出土遺物から近世と考えられる。

調査当初は礫の出土が多量であることから暗渠の可能性も考えたが、南側だけの礫だったことから、南側に石積みを伴った溝と考えておきたい。南側には不定方形の土坑が5基並んでおり、関連する可能性もある。出土した羽口(第137図3)はやや大型であることから、大規模な鉄生産関連遺構が近隣に所在する可能性を示唆する。



1. 暗褐色土 多量の暗赤褐色粒を含む。少量の黄褐色粒・炭化粒・焼土粒を含む。

第137図 6区21号溝と出土遺物

10-2区18号溝

(第138図)

東側を①、西側を②とする。

グリッド ①107～110・-109～-114

②101～106・-119～-123

重複 88号竪穴建物より新しい。

調査長 ①7.16m ②6.43m

上幅最大～最小 ①0.76m～0.44m

②0.54m～0.43m

残存深さ ①0.20m ②0.18m

走向方位 ①N-80°-E・N-6°-W

②N-46°-E

形状 平面形は北辺で5.2mほどの掘り残しを挟んで、東側の①はL字形に屈曲していた。西部の②は①と一直線ではなく走向方位はややずれる。埋没土や規模の類似性、走向の連続性から一連の溝として記録した。いずれの底面も平坦で、①は比高0.02mで西から南に向かって、②は比高0.03mで南西から北東に向かって若干傾斜するが、ほとんど高低差はなかった。

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 埋没土中から土師器破片5点が出土した。いずれも小片のため実測・図示はしなかった。

所見 出土遺物からは時期を判断することはできなかった。何らかの区画溝と推定される。

10-2区19号溝

(第138図)

グリッド 091～098・-087～-090

重複 10号井戸より古い。

調査長 7.50m

上幅最大～最小 0.84m～0.36m

残存深さ 0.26m

走向方位 N-21°-W

形状 走向は直線的であるが、平面形は幅や掘り方に凹凸があり不定形な部分がある。断面形はU字形。底面は丸く、比高0.13mで北から南に向かって傾斜する。

埋没土 礫を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 中世の井戸と推定される10号井戸より古い、時期を特定することができなかった。

10-2区20A号溝

(第139図 PL.38)

グリッド 094～117・-074～-083

重複 111号竪穴建物より古い。119号竪穴建物、253号・254号土坑より新しい。

調査長 25.22m

上幅最大～最小 0.70m～0.34m

残存深さ 0.20m

走向方位 N-21°-E

形状 平面形は直線で発掘区内を斜行する。断面形はやや逆台形。底面は平坦で、比高0.16mで南西から北東に向かって緩やかに傾斜する。

埋没土 礫とローム塊を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 111号、119号竪穴建物との重複関係から、層位的には両建物の中の時期の遺構と考えられる。ただし両建物の時期が明確でない。

10-2区20B号溝

(第138図)

グリッド 104～107・-103～-104

重複 87号竪穴建物より新しい。598号ピット・612号ピットとの新旧関係は不明である。

調査長 3.08m

上幅最大～最小 0.98m～0.59m

残存深さ 0.16m

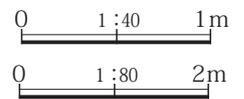
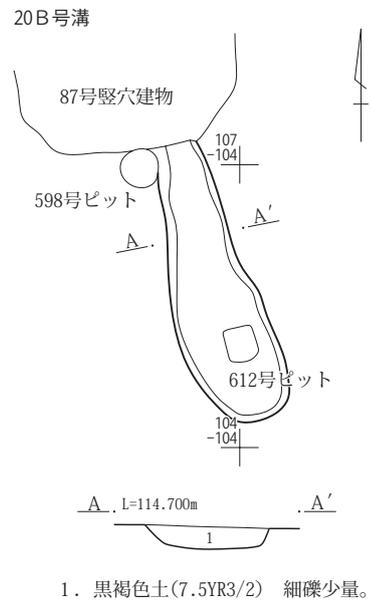
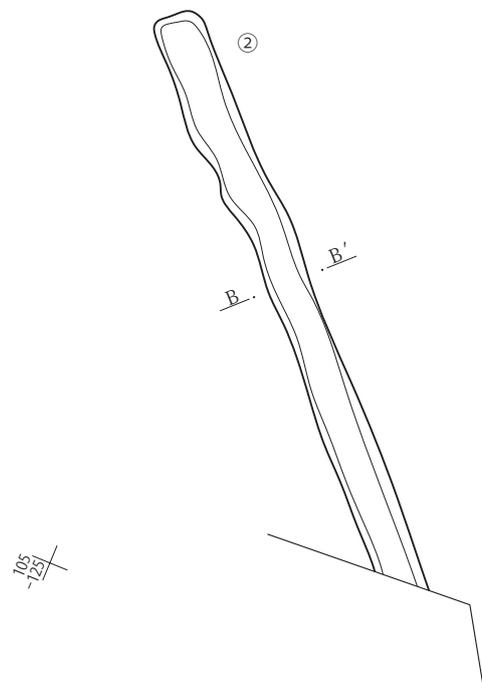
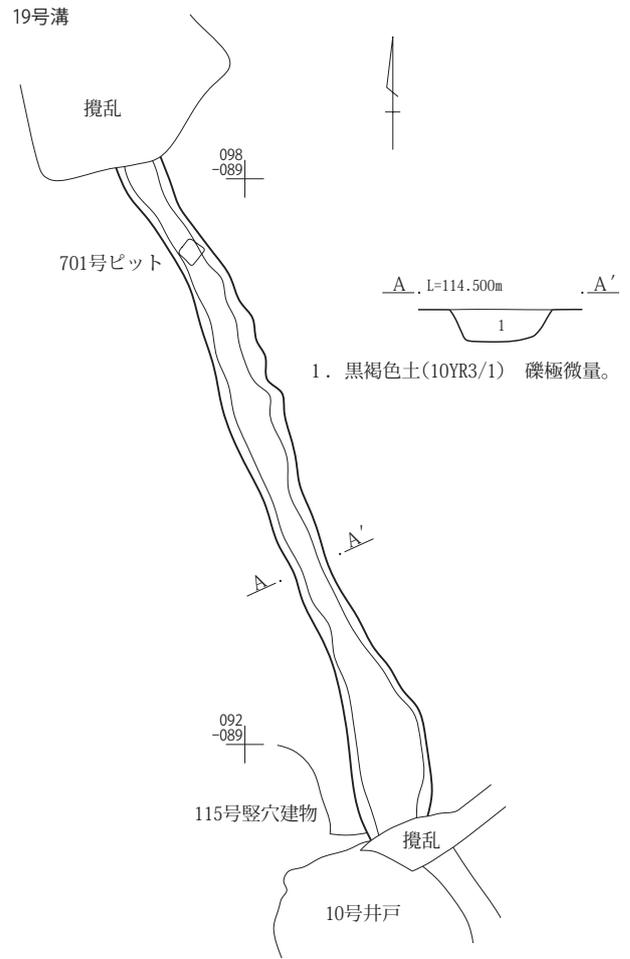
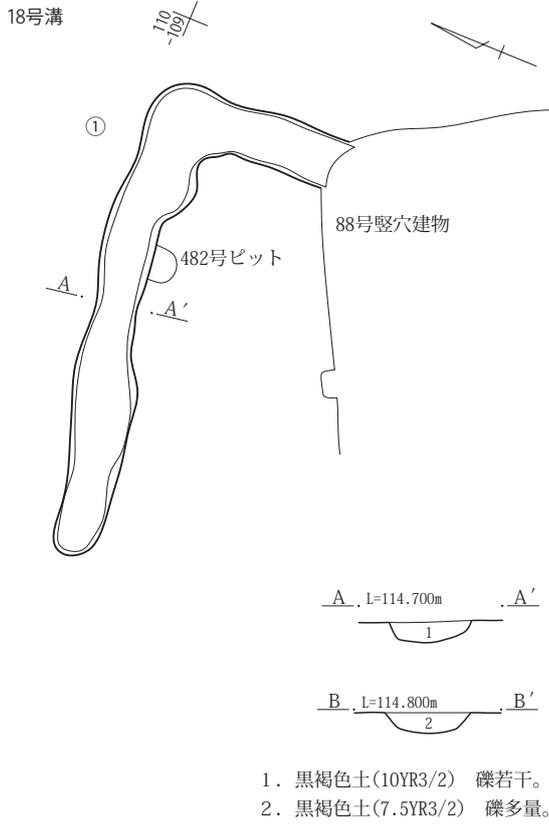
走向方位 N-18°-W

形状 平面形は南端が丸く短い。断面形は皿形。底面は平坦で、比高0.11mで南から北に向かって緩やかに傾斜する。

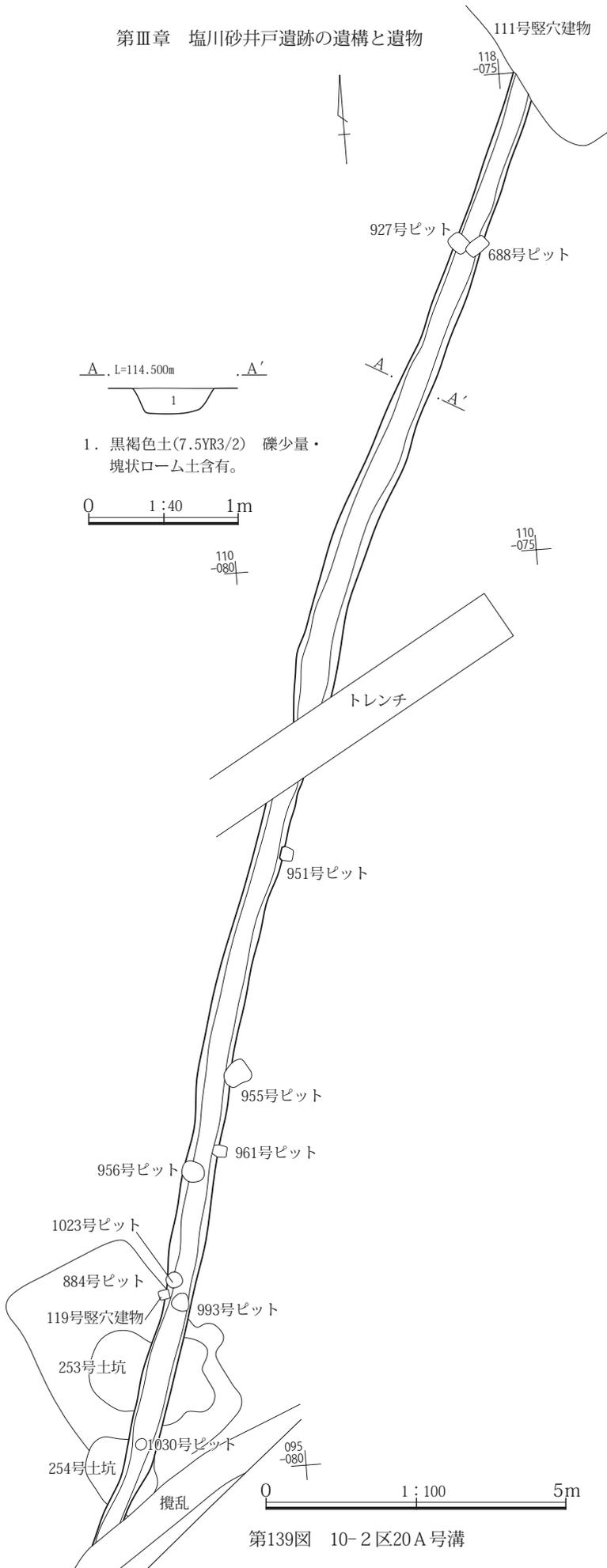
埋没土 細礫を少量含む黒褐色土で埋まっていた。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 87号竪穴建物より新しいが、建物の時期が不明であり、本溝の時期も特定できなかった。



第138図 10-2区18・19・20B号溝



第139図 10-2区20A号溝

8. 鍛冶関連遺構

7-2区西部で、鉄製品の鍛冶生産に関連する遺構群を検出した。全体構成は大小2基の廃棄土坑と、その周囲に規格的に掘られていた柱穴群である。

廃棄土坑2基は重複しており、1A号廃棄土坑、1B号廃棄土坑と呼称する。埋没土中には多量の鉄滓・炉壁破片・羽口破片・鍛造剥片、少量の土器・瓦破片等が土砂とともに多量に含まれていた。そこで、すべての土砂を洗浄し、鉄滓等の固形物を回収して分類した。出土した鉄生産関連遺物の詳細については次頁別項に記載した。

柱穴群は建物を想定すれば、南北辺の各2基1間分と東辺中央の棟持ち柱等の可能性がある1基である。7区と7-2区は調査年度が異なり、それぞれの調査時の安全確保の結果、境界部に未発掘区が生じた。そのため、柱列が西へ伸び、建物を構成するかどうかを最終確認することができなかった。また、前年度に実施した7区の調査では柱穴列の延長や鍛冶炉本体は確認されなかった。

以上の調査結果から、本遺構群は鉄製品を製作した鍛造鍛冶遺構の一部と考えられる。遺物の構成も塊状の鉄滓・椀形鍛冶滓・再結合滓・粒状滓・羽口・鍛造剥片・炉壁破片であり、廃棄物からは一連の鍛冶工程が想定されよう。鍛冶炉本体は調査区内では確認できなかった。すぐ西側の未発掘となった部分にある可能性が考えられる。遺構の時期は不明である。1B号廃棄土坑から出土した瓦から8世紀前半の可能性もあるが、時期を特定することはできなかった。

7-2区1A号廃棄土坑

(第140・141図 PL.38・77・78 遺物観察表P.273)

グリッド 082~083・-274~-275

重複 1B号廃棄土坑より新しい。

規模 長軸0.58m 短軸0.46m 残存壁高0.18m

長軸方位 N-75°-W

埋没土 礫を少量含む砂質黒褐色土で埋まっていた。

形状 平面形は楕円形。断面形は箱形である。

遺物と出土状況 土壌洗浄後の全資料重量は10.24kgで、各分類の重量は第8表の通りである。なお再結合滓の出土位置は不明で、表では1B号廃棄土坑でまとめてある。埋没土中から羽口(第141図3)が出土した。

7-2区1B号廃棄土坑

(第140・141図 PL.38・77・78 遺物観察表P.273・274)

グリッド 082~083・-274~-275

重複 1A号廃棄土坑より古く、206号土坑より新しい。

規模 長軸1.10m 短軸0.92m 残存壁高0.34m

長軸方位 N-87°-E

埋没土 上層・下層は小鉄塊と礫を含む黒褐色土、中層は鉄滓を多量に含む黒褐色土で埋まっていた。

形状 東西に長い隅丸方形。長軸は周囲の柱穴列の方向におおむね一致する。断面形は逆台形で底面は緩やかに丸みがあった。

遺物と出土状況 土壌洗浄後の全資料重量は104.68kg、各分類の重量は第8表の通りである。そのうち、羽口9点(第141図4~12)、再結合滓1点(同図20)、椀形鍛冶滓7点(同図13~19)を実測・図示した。粒状滓、鍛造剥片は重量を計測し、写真撮影した。また、埋没土中から8世紀前半の丸瓦破片2点(第140図1・2)と、時期不明の土師器小破片27点が出土した。

所見 出土した瓦の時期は8世紀前半であるが、混入の可能性も否定できない。

7-2区2号柱穴列

(第140図 PL.38)

グリッド 080~085・-274~-275

主軸方位 N-8°-W 重複 なし。

形態 587~590号ピットが等間隔・平行に並ぶ。何らか

の建物の柱穴と推定される。西側はわずかに調査区域外となった部分が接する。その西側では連続する柱穴列は見つかっていない。調査区外部分で西側へ1~2間広がる可能性は残されている。

柱穴は円形あるいは楕円形で、長径0.51~0.13m、短径0.48~0.12m、深さ0.16~0.42mと一定ではなかった。

内部施設 鍛冶遺構廃棄土坑が伴う可能性がある。

遺物と出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 想定される建物内の北東部に1A・1B号廃棄土坑が位置する。一連の鍛冶作業場との想定もできる。建物と考えた場合、東辺の中央やや北側に675号ピットがあり、棟持ち柱である可能性や、多角形の柱配置も想定される。

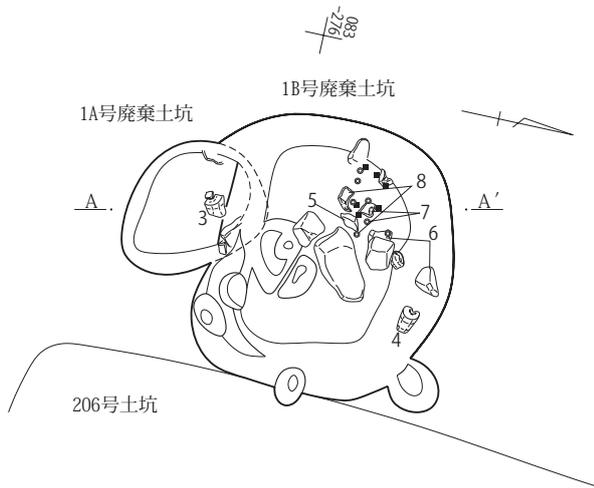
鉄生産関連遺物について

鉄製品の鍛冶生産に関連する廃棄土坑から出土した遺物の総量は第8表に示した通り、138.742kgであった。これらの遺物を整理するにあたり、資料の全体構成を把握するために、遺物の水洗、種別の分類と計量を実施した。分類は下記の①~⑤の順におこなった。

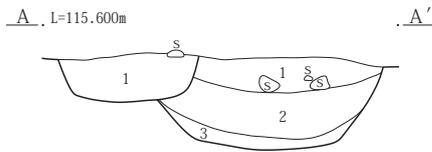
- ①椀形鍛冶滓、再結合滓、2cm以上の塊状の鉄滓を肉眼で抽出
- ②強力磁石で磁着ありと磁着無に分類
- ③磁着あり資料について8mm、5mm、2mmの篩で塊状の鉄滓を選別し、5mm以下・2mm以下の資料の中から肉眼で微細な鉄滓と粒状滓、鍛造剥片を抽出

第8表 7-2区1号廃棄土坑出土鉄関連遺物 分類および計量表 (単位 g)

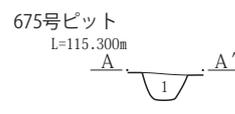
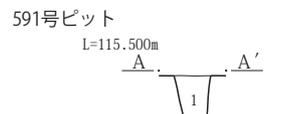
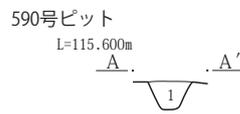
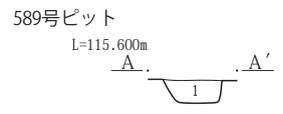
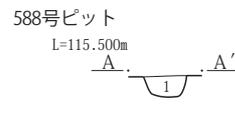
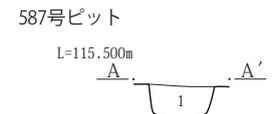
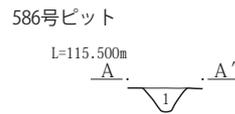
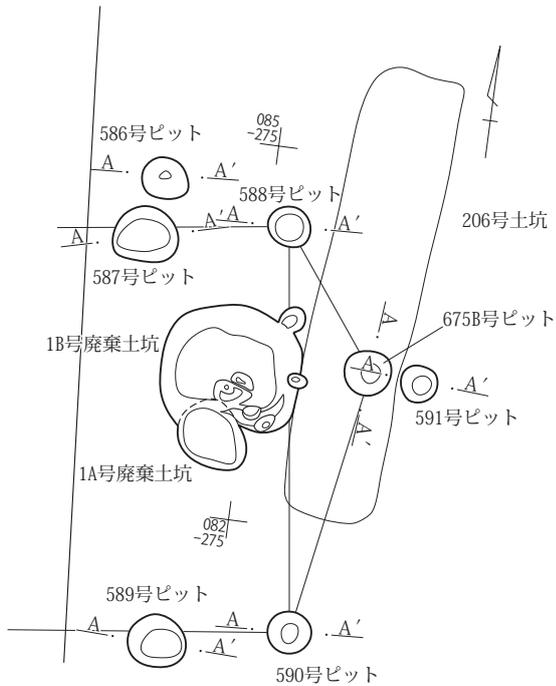
出土遺構	1		2										3	4	5	6	合計					
	肉眼で抽出		強力磁石で分類										土器破片	石	小石	小石砂		炭				
			磁着あり					磁着ほとんど無し														
			篩8mm	篩5mm	篩2mm		肉眼で粘土塊・羽口・土器抽出					篩8mm							篩5mm	篩2mm	篩1mm	
		肉眼で微細鉄滓・粒状滓・鍛造剥片を抽出					肉眼で粘土塊・羽口・土器抽出					肉眼で小鉄滓を抽出					肉眼で微細鉄滓を抽出		肉眼で鍛造剥片と粒状滓を抽出			
		塊状の滓					粒状滓		鍛造剥片	被熱粘土塊破片	羽口破片	土器破片	石	小石	小石砂	炭	合計					
		大	中	中小	小	微細																
		3cm以上	2cm前後	1.5cm前後	1cm前後	1cm以下																
		個	重量	個	重量	個	重量	個	重量	個	重量	個	重量	個	重量	個	重量	個	重量			
1A号廃棄土坑	1	45.25	0	0	25.48	67.64	49.33	3248.19	56.44	30	0.84	1.91	1.36	1	5.55	0	4980	4640	107.38	0.65	13230.02	
1B号廃棄土坑	23	3929.35	16	1450.9	9675.00	11389.00	14942.00	7560.00	5200.00	730	40.17	63.58	317.74	26	350.79	43.44	21465	19815	29305.00	8.57	125512.10	
合計	24	3974.60	16	1450.9	9700.48	11456.64	14991.33	10808.19	5256.44	760	41.01	65.49	319.10	27	356.34	43.44	26445	24455	29412.38	9.22	138742.12	
重量比		2.86%		1.05%	6.99%	8.26%	10.81%	7.79%	3.79%		0.03%	0.05%	0.23%		0.26%	0.03%	19.06%	17.63%	21.20%	0.01%	100.03%	
実測遺物数	7		1											10								2



- 1 A号廃棄土坑
 1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂質。礫若干。
 1 B号廃棄土坑
 1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・小塊状鉄滓含有。
 2. 黒褐色土(10YR3/1) 鉄滓多量。
 3. 黒褐色土(10YR3/1) 砂礫含有・小塊状鉄滓混入。

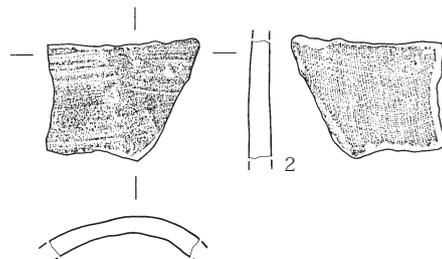
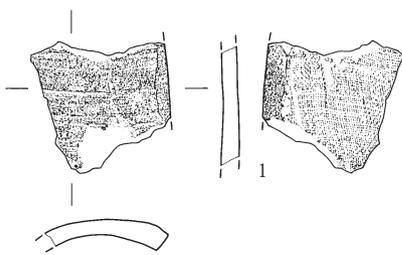


0 1:30 1m



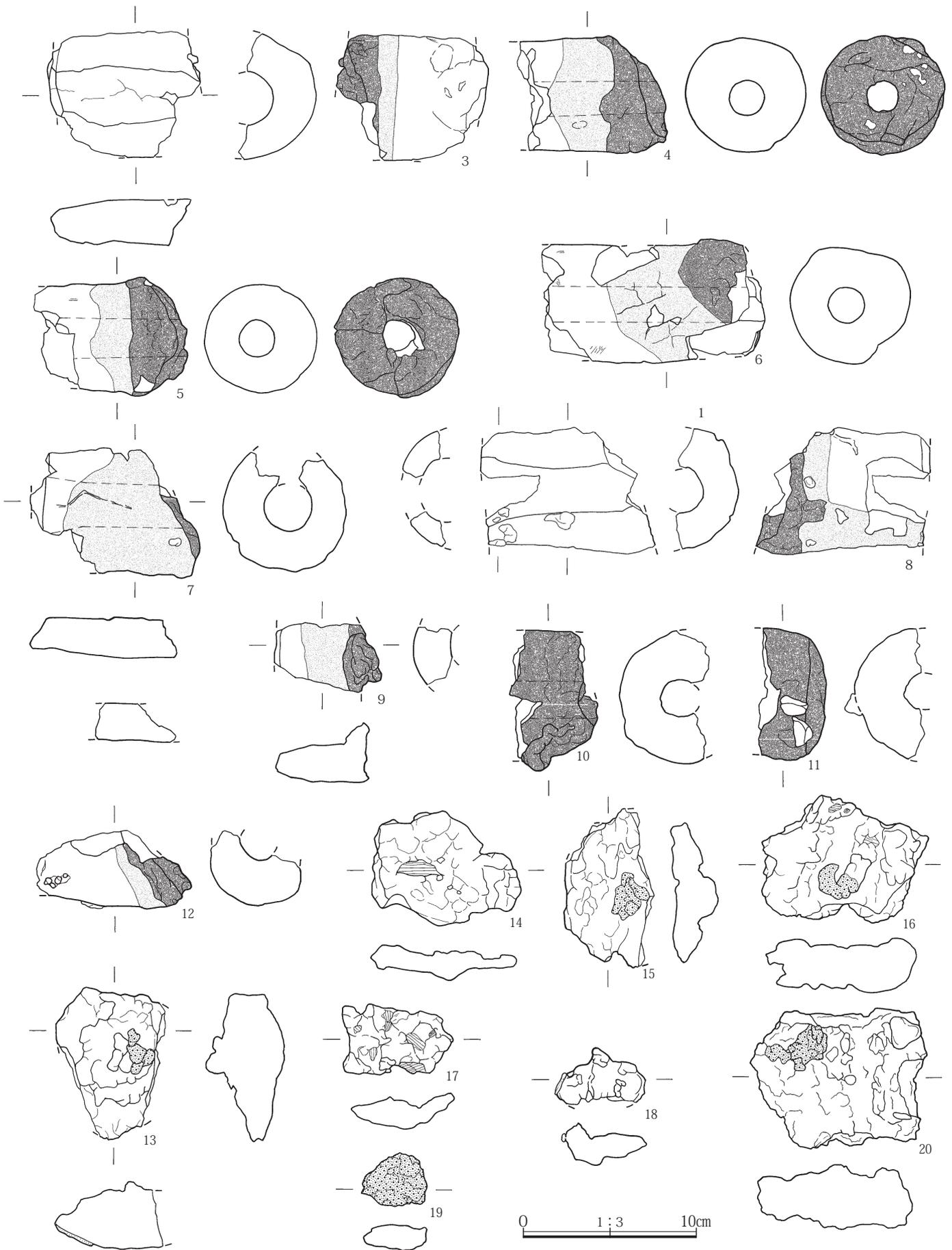
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5YR6/6)土少量。

0 1:60 2m



0 1:4 10cm

第140図 7-2区1号廃棄土坑と出土遺物(1)



第141图 7-2区1号廃棄土坑出土遺物(2)

④磁着がほとんどない資料について、肉眼で被熱粘土塊破片、羽口、土器を抽出

⑤残った資料について8mm、5mm、2mmの篩で塊状の滓を選別し、肉眼で微細遺物と粒状滓、鍛造剥片を抽出

⑥最後に残った磁着しない微細遺物を含む石・小石・砂を廃棄。全量の約58%にあたる。

羽口は大型破片と洗浄後分類した破片を接合した。胎土の特徴によって3種に分けられた。胎土の粒子が荒くザラザラしたもの(第141図3)、胎土は滑らかだが小礫を含むもの(4・11)、胎土が滑らかなもの(5~10・12・13)である。内孔直径は2.0~3.1cm、外形直径は6.4~7.8cmである。廃棄時の全長が判明した資料は4点あり、最短で6.0cmであった。

椀形鍛冶滓は長径9cm前後(13~16)、6cm前後(17・18)、3cm前後(19)の3種があり、炉の大きさや操業規模の違いがあったことがうかがえる。

再結合滓は16点分類されたが、5cm前後のものが多かった。幅10.0cmの最大の資料(20)を図化した。

粒状滓は760点、41.01g、重量比0.03%であった。被熱粘土塊は炉壁と考えられるが、小破片であり炉の復元までには至らなかった。重量を計測し写真撮影するにとどまった。鍛造剥片は幅3~8mmほどで大きさは一定でなかった。複数の工程の剥片が混じっているであろう。

以上分類した資料の中から、羽口27点中10点、椀形鍛冶滓24点中7点、再結合滓16点中1点を選択し実測した。選択にあたっては、大きさや形状のパラエティを示すようにした。遺物構成および重量は、残されたもの・回収できたものとの限定のあるデータであるので定量的な分析はできないが、この廃棄土坑が鍛冶工程に関わるものであることは確認できたと思われる。なお、各遺物の自然科学的分析は実施しなかった。

9. 土坑

塩川砂井戸遺跡では、227基の土坑が検出された。内訳は6区・6-2区で59基、7区・7-2区で24基、8-2区で8基、9区で15基、10区・10-2区で112基、11区で9基で、特に10-2区に偏在していた。これらの土坑にはいくつかの形態があり、本書では、平面形態(長軸/短軸比)から、①円形(長軸/短軸比1.00~1.20)、②楕円形(長軸/短軸比1.00~1.20)、③隅丸方形(長軸/短軸比1.00~1.20)、④隅丸長方形(長軸/短軸比1.40~2.00)、⑤隅丸方形(帯状)(長軸/短軸比4.0以上)、⑥不定形の6種類に分類し報告する。検出された土坑の形態別の内訳は第9表の通りである。

ここでは、調査区ごとに、全体の土坑分布状況や他遺構との関連、特筆すべき遺構残存状況や出土遺物について記載した。挿図は規模の小さい方から順に掲載した。挿図・本文ともに遺構番号は区名を省略している。なお、個々の土坑の規模・形態・出土遺物の状況は巻末遺構一覧表にまとめた。

(1) 6区・6-2区の土坑

(第142~152図 PL.39~44・78~82 遺物観察表P.274~277)

6区・6-2区では、59基の土坑が検出された。内訳は円形土坑14基、楕円形土坑15基、隅丸方形土坑13基、隅丸長方形土坑15基、隅丸長方形(帯状)土坑は0基である。土坑は南半部にやや偏在する傾向があるが、全体に散在していた。特に中央部および南東部では、楕円形、隅丸方形、隅丸長方形の土坑が混在して並ぶように位置していた。これらの土坑が同時に掘られたと断定はできないが、地割等の何らかの規制にしたがって順次掘られた結果とも推定される。

円形土坑 14基のうち、西部で近接して検出された143

第9表 平面形別土坑一覧表

形態	長軸/短軸比	6区・6-2区	7区・7-2区	8-2区	9区	10区・10-2区	11区	合計
円形	1.00~1.20	15	6	4	8	55	3	91
楕円形	1.20以上	14	6	4	4	31	4	63
隅丸方形	1.00~1.30	11	3	0	1	7	0	22
隅丸長方形	1.40~2.00	17	7	0	1	2	0	27
隅丸方形(帯状)	4.0以上	0	1	0	0	5	0	6
不定形		2	1	0	1	12	2	18
	合計	59	24	8	15	112	9	227

号土坑と149号土坑は円形の壁に沿い粘土を巻き込む特殊な構造の土坑で、内側には桶の箍の痕跡があり、内部に桶が据えられた埋桶土坑である。143号土坑埋没土中から肥前陶器片口鉢(第148図1)、在地系土器内耳鍋(同図2)、牛伏砂岩の凹石(同図3)、鉄滓2点が出土した。149号土坑からの出土遺物は無かった。143号土坑の出土遺物から江戸時代の土坑と思われる。

比較的大型円形の76号土坑、84号土坑、145号、148号土坑からはまとめて遺物が出土した。21号溝東端南側にある76号土坑埋没土中から製作地・時期不詳磁器小杯(同図6)、肥前磁器染付碗(同図7)、瀬戸・美濃陶器皿(同図8)が出土した。出土土器から19世紀ころの土坑と思われる。

中央部の84号土坑では在地系土器焙烙(第149図3・4)が西部底面上2cmと15cmで出土した。埋没土中からは在地系土器皿と円板(同図1・2)、粗粒輝石安山岩製の茶臼(同図5)や多くの礫が出土した。出土遺物から江戸時代の土坑と思われる。

西端の145号土坑では多くの礫とともに北部底面上17cmで製作地不詳の土瓶身(第148図16)が、南部底面上19cmで製作地不詳の蓋(同図13)が、東部底面上33cmで瀬戸・美濃陶器灯火皿(同図14)が出土した。埋没土中から肥前磁器染付御神酒徳利(同図15)、製作地不詳磁器碗(同図9)、肥前磁器染付碗(同図10・11)、瀬戸・美濃陶器碗(同図12)が出土した。148号土坑から在地系土器火鉢か(同図4)、在地系土器焙烙(同図5)が出土した。出土遺物から18世紀ころの土坑と思われる。

楕円形土坑 15基は全体に散在していたが、規格的な分布を示す土坑群の一部となっている土坑もあった。それらには遺物が比較的多く出土しており、何らかの機能をもった土坑群と推定される。

6区西部には、東から95号、91号、92号、93号(隅丸長方形)土坑が東西方向に並び、その西側に85号、94号(隅丸長方形)土坑が南北方向に、南側には84号(円形大型)、83号(隅丸長方形)土坑が東西方向に並び、矩形に分布するように見える。周囲には90号(隅丸方形)、96号(円形)土坑も単独で分布する。相互に接合する遺物も出土していることから、同時期に埋められた可能性がある。

95号土坑は4基が並ぶようにある最東の土坑で、遺物がまとめて出土した。埋没土中から肥前磁器染付碗(第

149図9・10)、肥前陶器陶胎染付碗(同図11)、瀬戸・美濃陶器尿瓶か(同図12)、在地系土器焙烙(同図13)、土師器不明(同図8)が出土した。また、肥前磁器染付皿(同図16)には91号・92号土坑出土破片が接合した。

91号土坑は95号土坑と同列のすぐ西側に隣接する。埋没土中から肥前磁器染付碗(同図15)、肥前磁器染付皿(同図16)と92号土坑出土の破片が接合した瀬戸・美濃陶器染付小杯(同図14)、在地系土器焙烙(同図17)が出土した。

西側に隣接する92号土坑からは、91号・95号出土資料と91号土坑出土資料の両方に接合する破片が出土した。

さらに21号溝の南側にはほぼ平行するように東から76号(円形)、77号(円形大型)、78号(隅丸方形)、82号(隅丸方形)、89号、103号(隅丸長方形)土坑が並ぶように分布していた。89号土坑の出土遺物はまとめており、製作地不詳磁器染付碗と肥前磁器染付碗(第150図3・4)、肥前磁器染付碗(同図2)、製作地不詳陶器碗(同図1)、瀬戸・美濃陶器鉢(同図5)、常滑陶器片口鉢(同図6)、製作地不詳火鉢(同図7)、牛伏砂岩石製品石臼(上臼)(同図8)が出土した。その他散在する100号土坑から志戸呂陶器灯火受皿(第149図6)、135号土坑から銅製品キセル(吸い口)(同図7)、81号土坑から砂岩石製品砥石(同図18)が出土した。これらの土坑は出土遺物から18世紀から19世紀ころの土坑と思われる。

隅丸方形土坑 11基が東南部に集中して検出された。比較的大型の土坑が多く、101号、78号、82号、103号土坑のように楕円形土坑とともに規格的な分布を示す土坑群の一部となっていた。

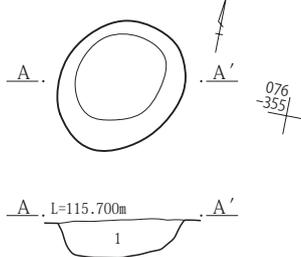
また、6区南東部には鉄生産関連遺物が出土した隅丸方形の土坑が偏在した。102号土坑は大型で、肥前磁器染付皿(第150図10)、瀬戸・美濃陶器腰鑄碗(同図9)、瀬戸・美濃陶器片口鉢(同図11)、在地系土器火鉢あるいは火焙(同図12)、羽口(同図13)が出土した。また、69号土坑からも椀形鍛冶滓(第151図2)、礫付着の鉄滓(同図1)、大型の羽口破片(同図3)が出土した。69号土坑出土の羽口は外径が9.9cm、厚さが3～4.2cmもあり、大規模な鉄生産関連の操業を想定させるが、調査では、周辺に鍛冶炉等の遺構は検出されなかった。

また、104号土坑から牛伏砂岩製石臼(上臼)(第151図4)、前述した矩形に並ぶ楕円形土坑群の南東側にある90号土坑からは在地系土器内耳鍋(第151図5)と不明鉄

第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

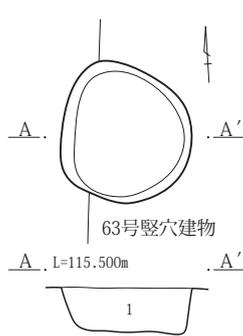
円形

142号土坑



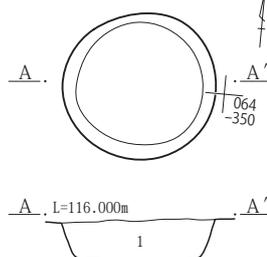
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・細礫多量。

122号土坑



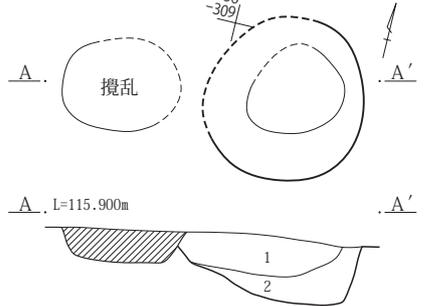
1. 暗褐色土 黄褐色粒ブロックが多量に混入、極少量炭化粒も見られる。

147号土坑



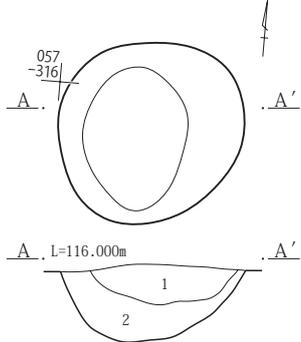
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。

70号土坑



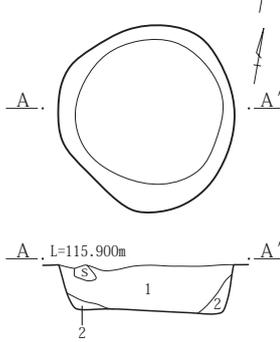
1. 暗褐色土 礫と少量の黄褐色粒が混入。
2. 暗黄褐色土 少量の礫と多量の黄褐色粒を含む。

72号土坑



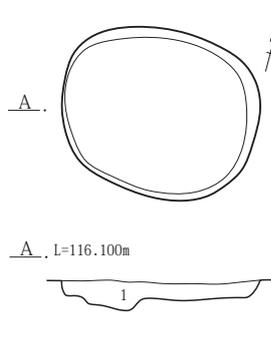
1. 暗褐色土 礫と黄褐色砂質ブロック、暗赤褐色粒を含む。
2. 暗黄褐色土 礫と黄褐色砂質ブロック、暗赤褐色粒を含み、黄褐色粒が多量に混入する。

67号土坑



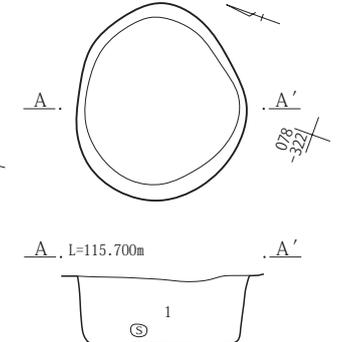
1. 暗褐色土 礫と黄褐色砂質ブロック 暗赤褐色粒を含む。
2. 暗黄褐色土 1層に黄褐色粒が多量に混入。

96号土坑



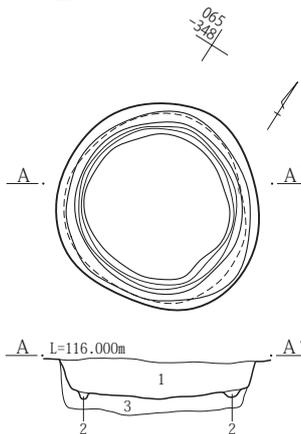
1. 暗黒褐色土 炭化粒と軽石粒を多く含み、黄褐色粒が少量混入。

138号土坑



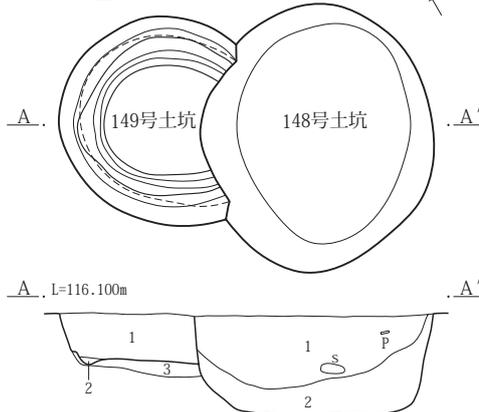
1. 暗褐色土 暗赤褐色粒と黄褐色粒を多く、極少量の焼土粒を含む。

143号土坑



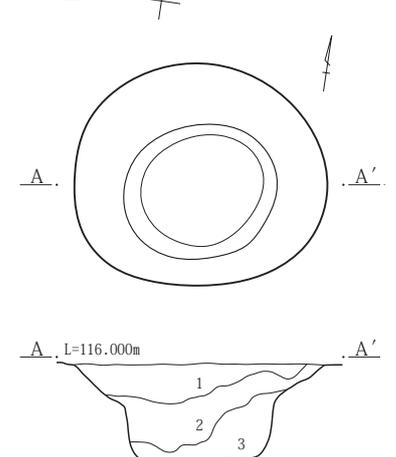
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 灰白(N7/)粘質土含有。
3. 塊状灰白(N7/)粘質土。

148・149号土坑

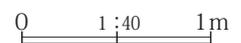


- 148号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有・塊状明黄褐色(10YR6/6)土含有。
 2. 塊状明黄褐色(10YR6/6)土主体。
- 149号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂礫混入。
 2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細礫若干・塊状明黄褐色(10YR6/6)土少量。
 3. 塊状明黄褐色(10YR6/6)土主体。

144号土坑



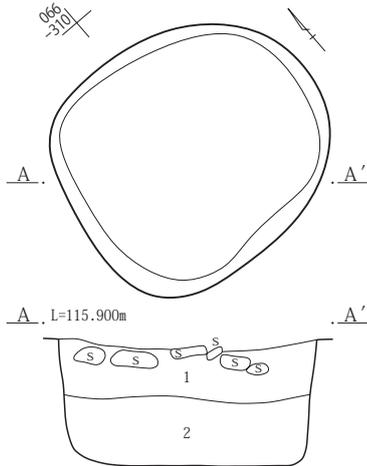
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 礫含有。
3. 暗褐色土(10YR3/3) 小礫極多量。



第142図 6区・6-2区円形土坑

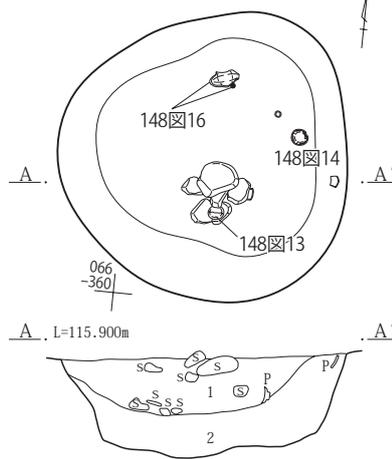
円形

76号土坑



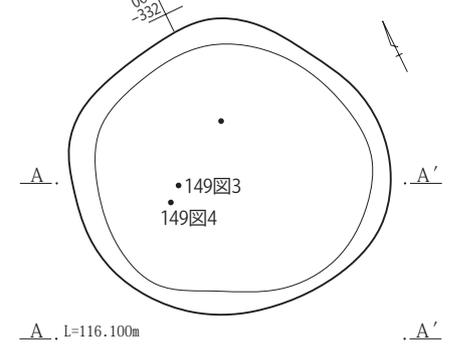
1. 暗褐色土 多量の礫(川原石)を含む、瓦片や陶器片を含む。
2. 暗黒褐色土 川原石の混入少なく、瓦片や陶器片の混入も少なくなる。

145号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫混入。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量。

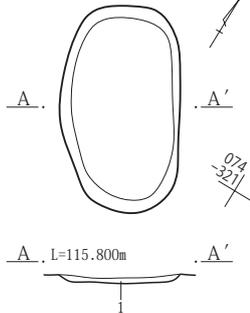
84号土坑



1. 暗褐色土 礫が多量に混入、炭化粒・焼土粒少量混入。

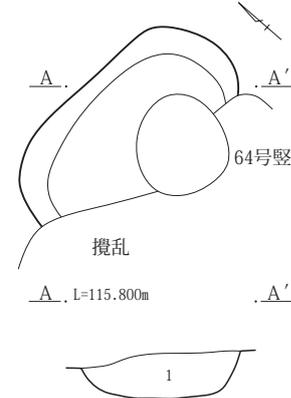
楕円形

132号土坑



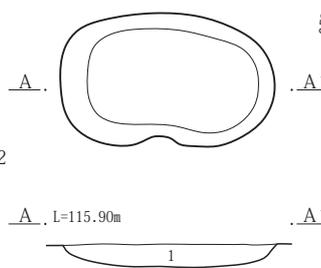
1. 暗褐色土 軽石粒を多量に含む。

126号土坑



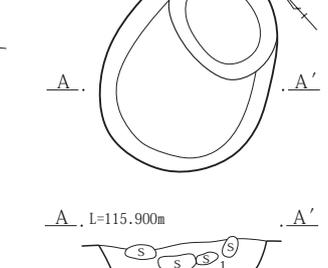
1. 暗褐色土 多量の軽石粒と少量の礫・炭化粒を含む。

100号土坑



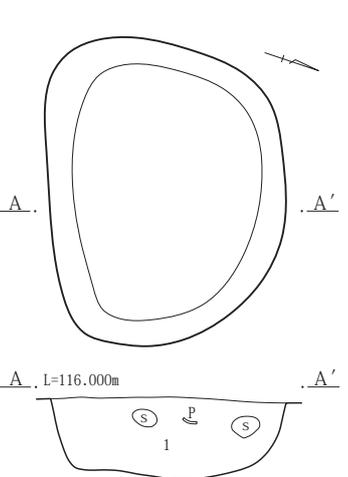
1. 暗褐色土 φ3~10cmくらいの礫が多量に混入、上部にφの大きな礫が多かった。

77号土坑



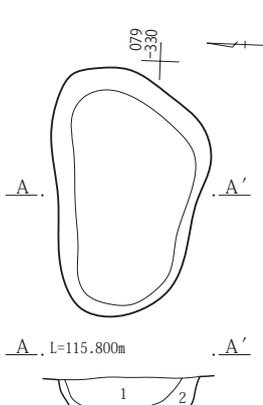
1. 暗褐色土 76号土坑に近いが、瓦片や陶器片は少ない。

95号土坑



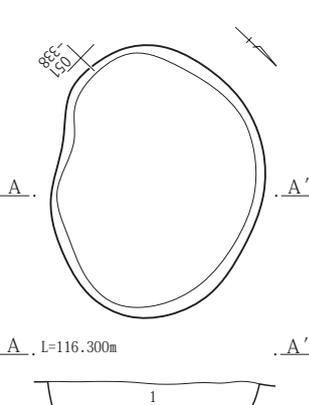
1. 暗黒褐色土 礫と黄褐色粒を少量含む、軽石粒も混入しややザラザラ感有り。

135号土坑



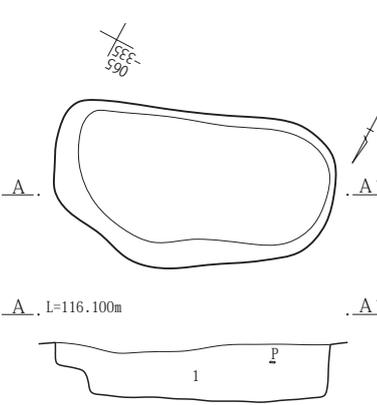
1. 暗褐色土 角礫を含む黄褐色ブロックを多く含む(埋土)。
2. 暗褐色土 暗赤褐色土と黄褐色粒、円礫を含む。

87号土坑

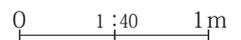


1. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒やブロックが混入。

92号土坑



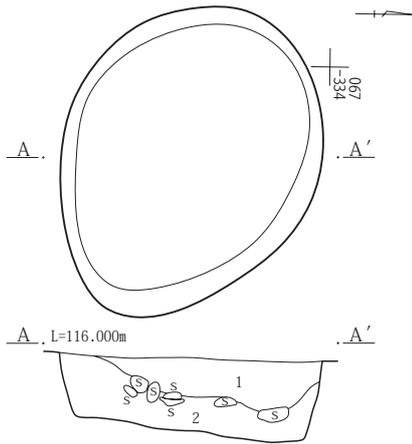
1. 暗褐色土 礫と軽石粒を多く含む、ザラザラ感有り。



第143図 6区・6-2区円形・楕円形土坑

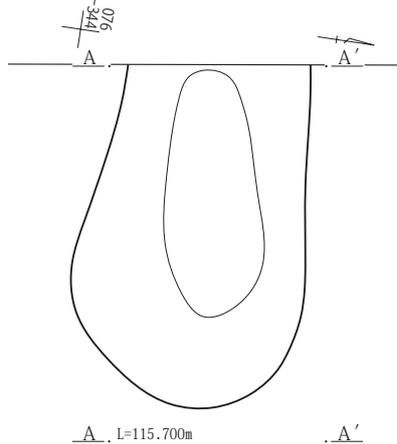
楕円形

91号土坑



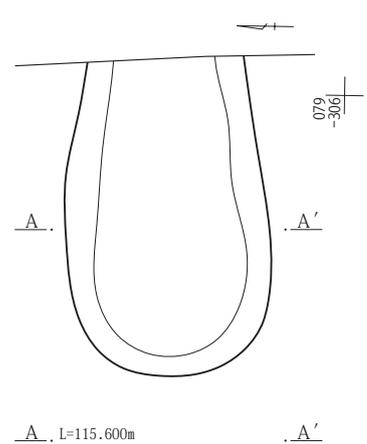
1. 暗黒褐色土 軽石粒を多量に含む、ザラザラ感有り。
2. 暗褐色土 礫と黄褐色粒・暗赤褐色粒を多く含む。

121号土坑



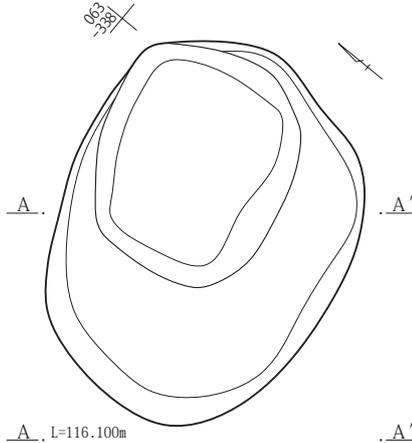
1. 暗褐色土 多量の軽石粒に礫黄褐色粒が混入。

136号土坑



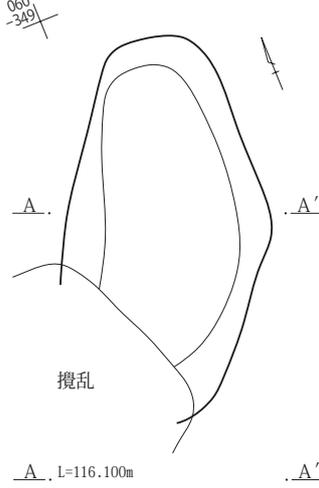
1. 暗褐色土 多量の軽石粒と少量の礫を含む。

85号土坑



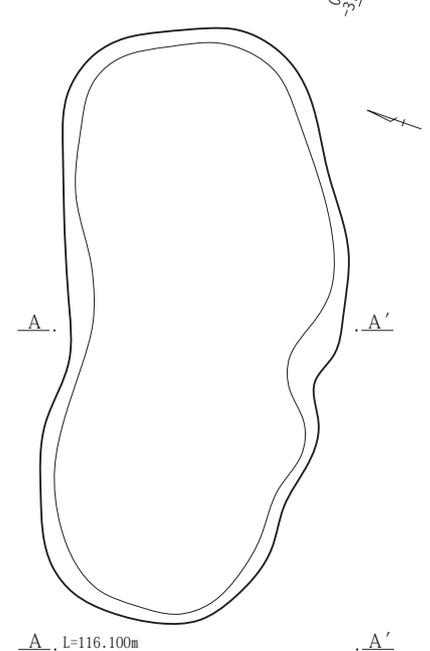
1. 暗褐色土 少量の小礫と焼土粒・炭化粒を含む。
2. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒を含む。
3. 暗褐色土 1層より小礫の混入が少ない。

81号土坑



1. 暗灰褐色土 As-A軽石と礫の混合土 ザラザラ感有り。

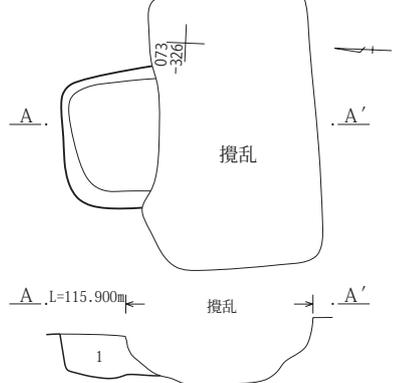
89号土坑



1. 暗褐色土 多量の礫が混入、やや軽石粒を含む。

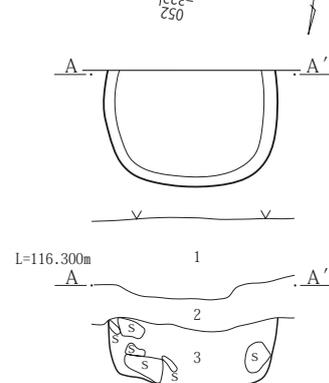
隅丸方形

129号土坑

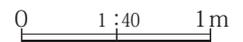


1. 暗褐色土 礫と軽石粒を多量に含む。

102号土坑



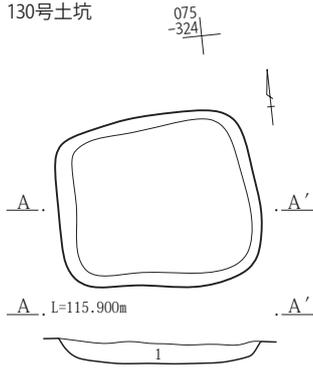
1. 埋土
2. 耕作土
3. 暗灰褐色土 多量の礫と軽石粒を含むザラザラ感有り。



第144図 6区・6-2区楕円形・隅丸方形土坑

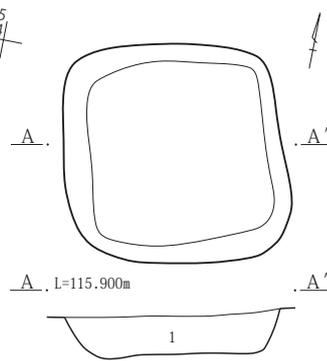
隅丸方形

130号土坑



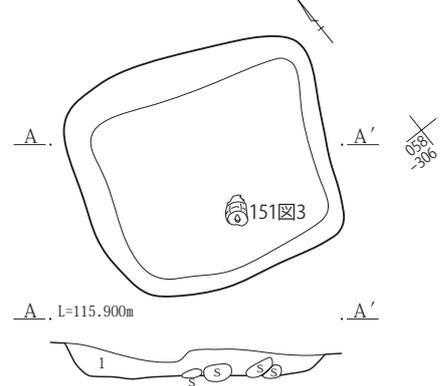
1. 暗褐色土 軽石粒を多量に含む。

78号土坑



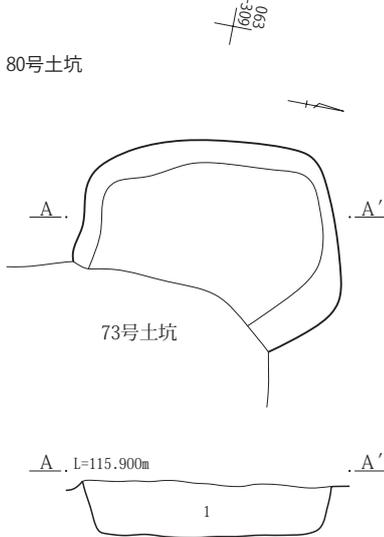
1. 暗褐色土 礫と暗黄褐色粒と少量の炭化物を含むザラザラ感有り。

69号土坑



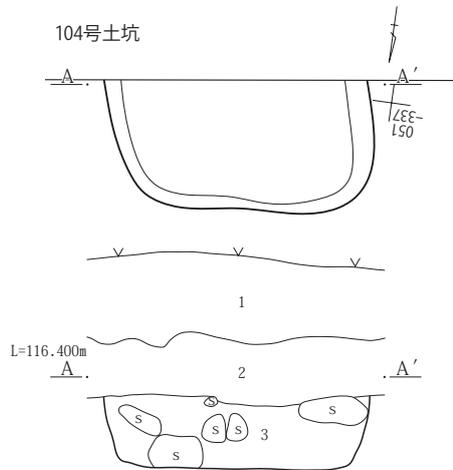
1. 暗褐色土 多量の礫と少量の炭化物・黄褐色粒を含む。

80号土坑



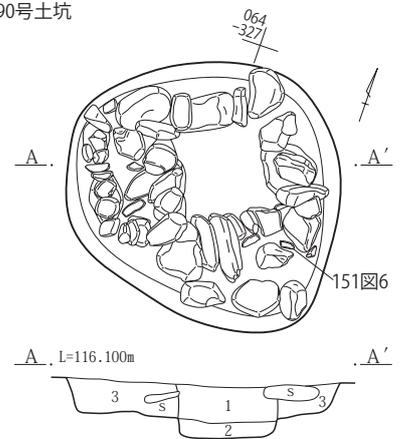
1. 暗褐色土 黄褐色粒・暗赤褐色粒礫を含む、73号土坑に切られている。

104号土坑



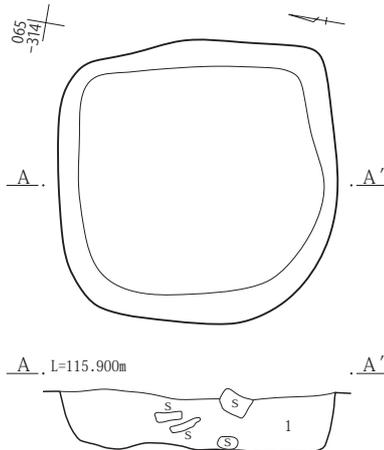
1. 埋土
2. 耕作土
3. 暗灰褐色土 多量の礫と軽石粒を含む、ザラザラ感有り。

90号土坑



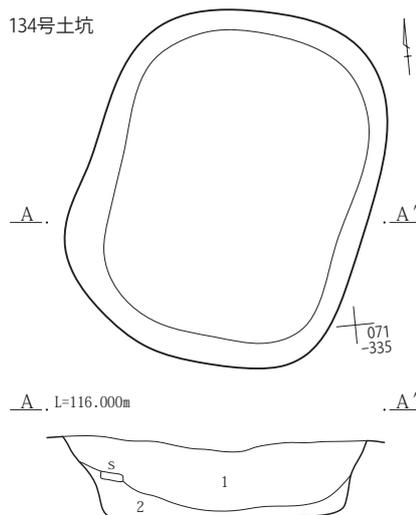
1. 黒褐色土 焼土粒・炭化粒を少量、暗赤褐色粒を多く含む。
2. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒と、暗赤褐色粒を赤褐色粒を含む。
3. 暗褐色土 暗赤褐色粒と黄褐色粒を含む。

82号土坑



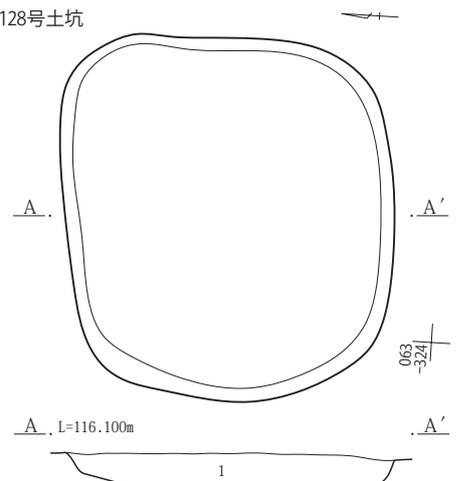
1. 暗褐色土 少量の焼土粒・暗赤褐色粒を含む、多量の礫も混入。

134号土坑

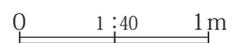


1. 暗褐色土 礫と暗赤褐色粒、黄褐色粒を多く含む。
2. 暗黄褐色土 少量の礫と暗赤褐色粒に多量の黄褐色粒ブロックを含む。

128号土坑



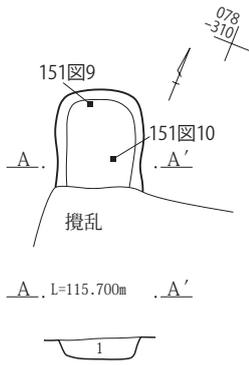
1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒を少量含む、軽石粒を多く混入、ザラザラ感。



第145図 6区・6-2区隅丸方形土坑

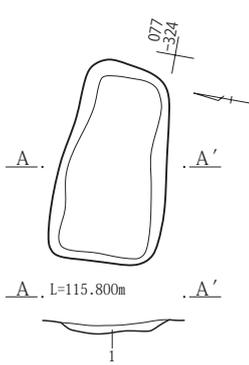
隅丸長方形

119号土坑



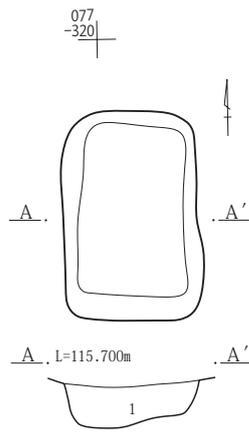
1. 暗褐色土 黄褐色粒と小礫を少量含む、焼土粒、炭化粒も少量含む。

131号土坑



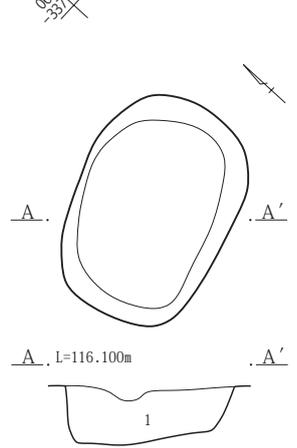
1. 暗褐色土 軽石粒を多量に含む。

133号土坑



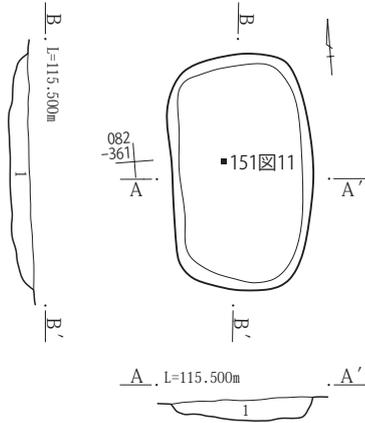
1. 暗褐色土 多量の軽石粒と極少量の炭化粒と黄褐色粒を含む。

93号土坑



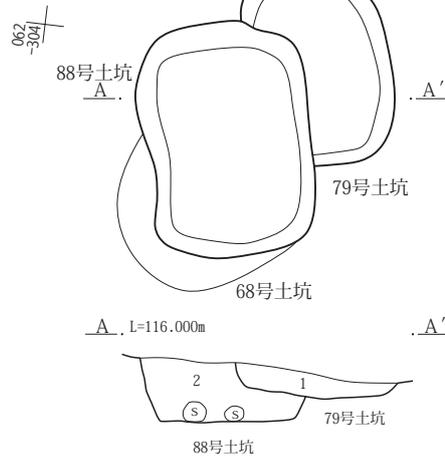
1. 暗褐色土 礫が多量に混入、ザラザラ感有り、黄褐色粒少量混入。

141号土坑



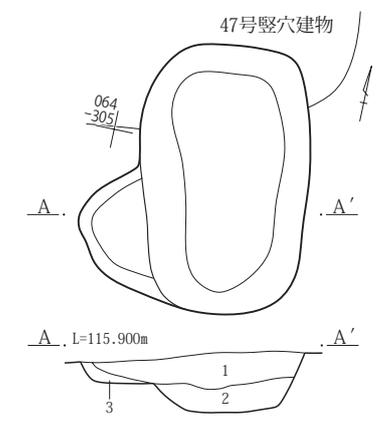
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入・細礫混入。

79・88号土坑



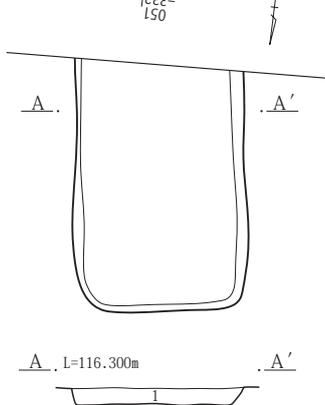
1. 暗褐色土 礫と暗赤褐色粒を含む。
2. 暗褐色土 礫と暗赤褐色・黄褐色粒子が混入、68号土坑1層に近い。

66号土坑



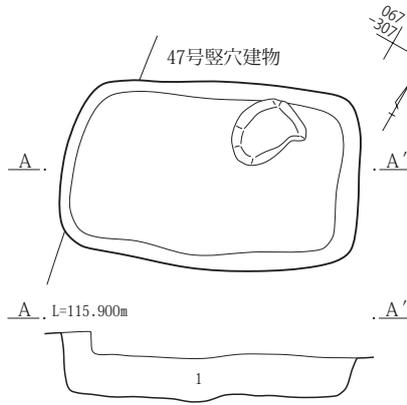
1. 暗褐色土 礫と少量の黄褐色粒が混入。
2. 暗黄褐色土 少量の礫と多量の黄褐色粒を含む。
3. 黄褐色土 黄褐色粒層(地山)。

86号土坑



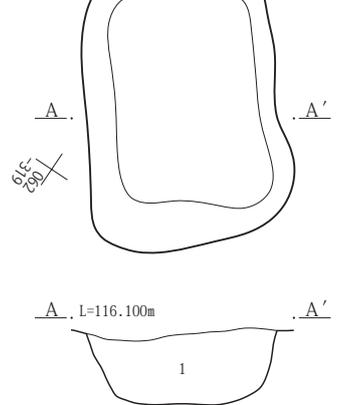
1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒を含む。

101号土坑



1. 暗褐色土 多量の軽石粒を含む、ザラザラ感有り。

103号土坑



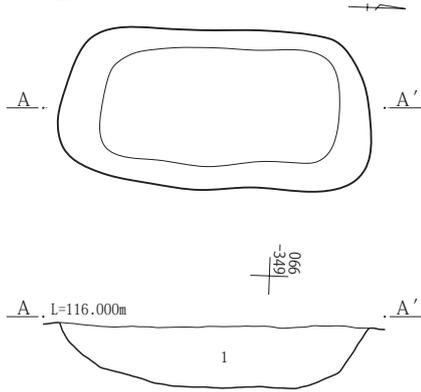
1. 暗褐色土 多量の軽石粒を含む、ザラザラ感有り。



第146図 6区・6-2区隅丸長方形土坑

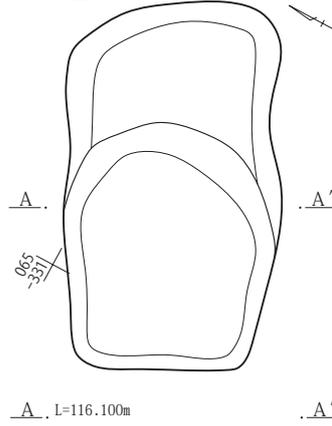
隅丸長方形

146号土坑



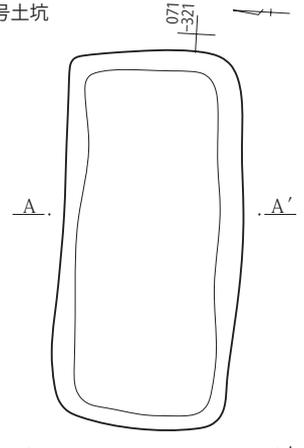
1. 黒褐色土(10YR3/2) 大礫含有・礫含有。

83号土坑



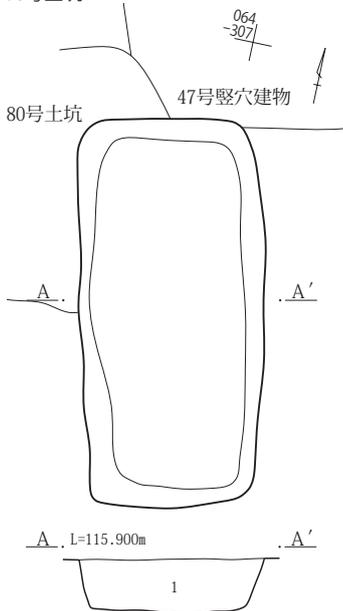
1. 暗褐色土 小礫と炭化粒・黄褐色粒が混入。
2. 黄褐色土 黄褐色粒層。(地山)

137号土坑



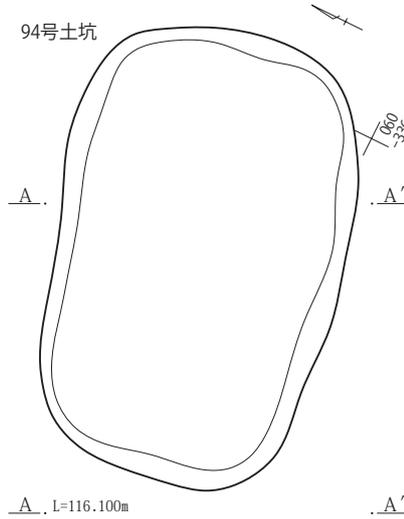
1. 暗褐色土 軽石粒を多量に含む。
2. 暗黄褐色土 多量の軽石粒に黄褐色ブロック粒が混入。

73号土坑



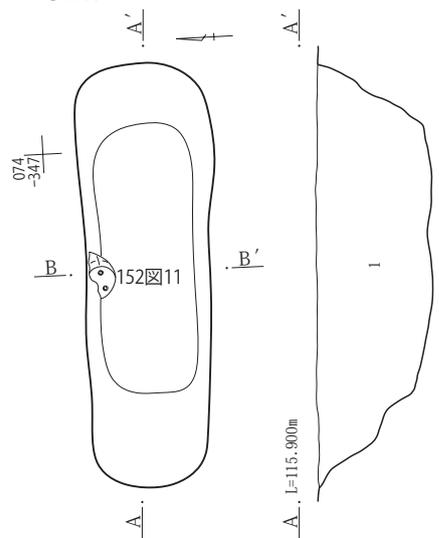
1. 暗褐色土 礫と少量の黄褐色粒が混入。

94号土坑



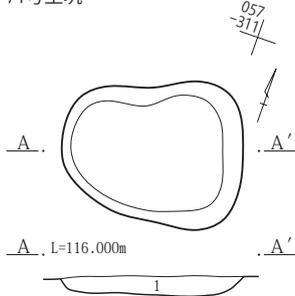
1. 暗褐色土 多量の礫と少量の焼土粒・炭化粒を含む。

140号土坑



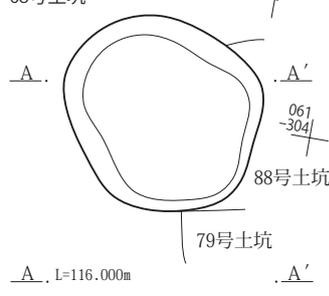
不定形

71号土坑



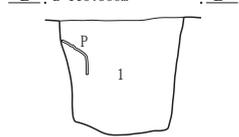
1. 暗褐色土 少量の炭化物と黄褐色粒が混入。

68号土坑

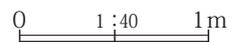


1. 暗褐色土 多量の礫と少量の炭化物・黄褐色粒を含む。

88号土坑

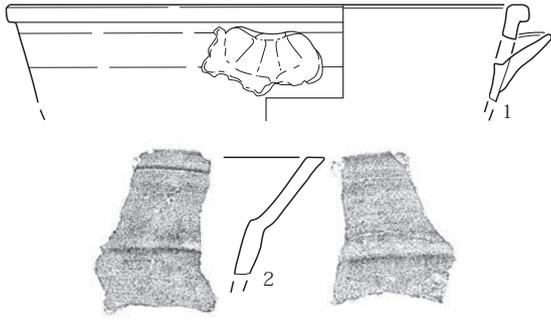


1. 黒褐色土(10YR3/2) As-A極多量・礫多量。

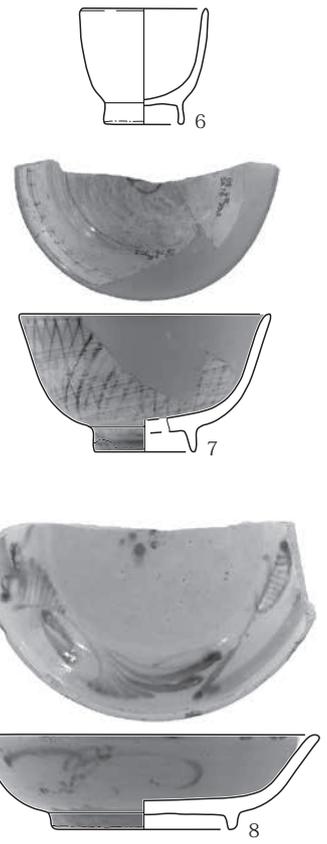


第147図 6区・6-2区隅丸長方形・不定形土坑

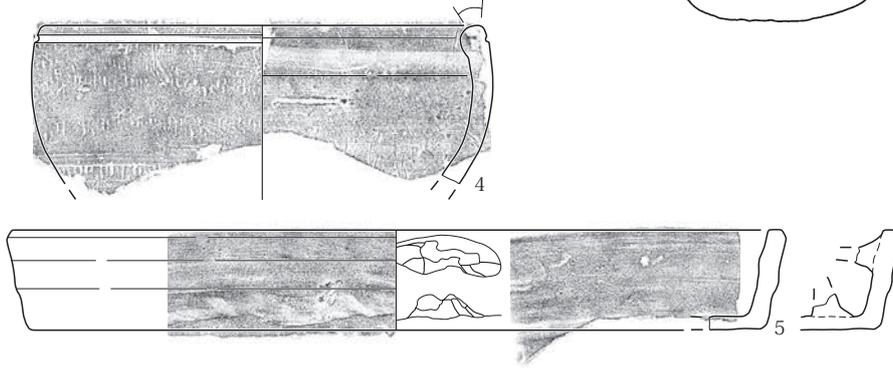
143号土坑



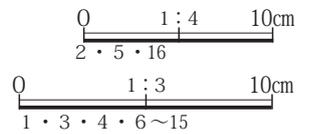
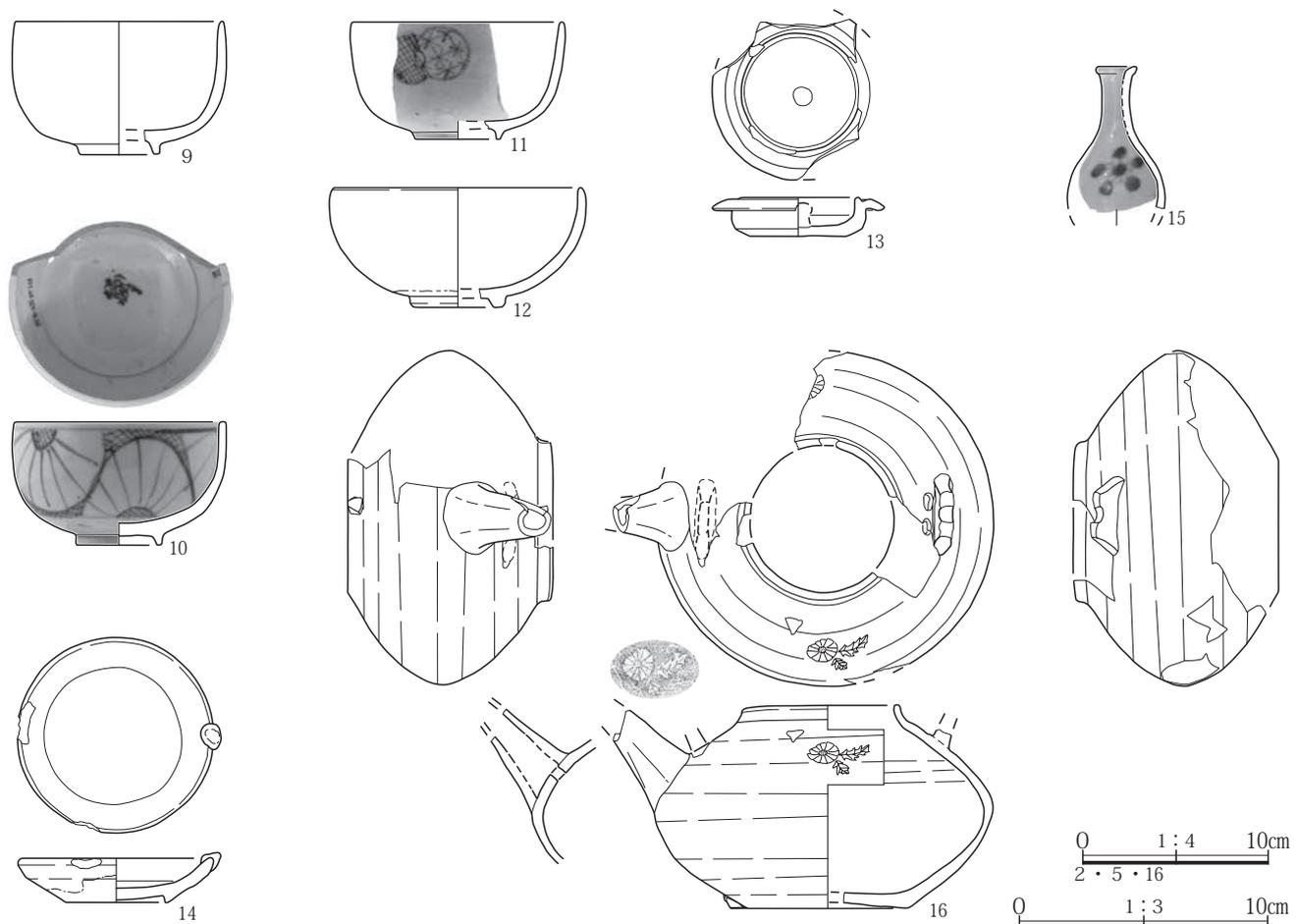
76号土坑



148号土坑

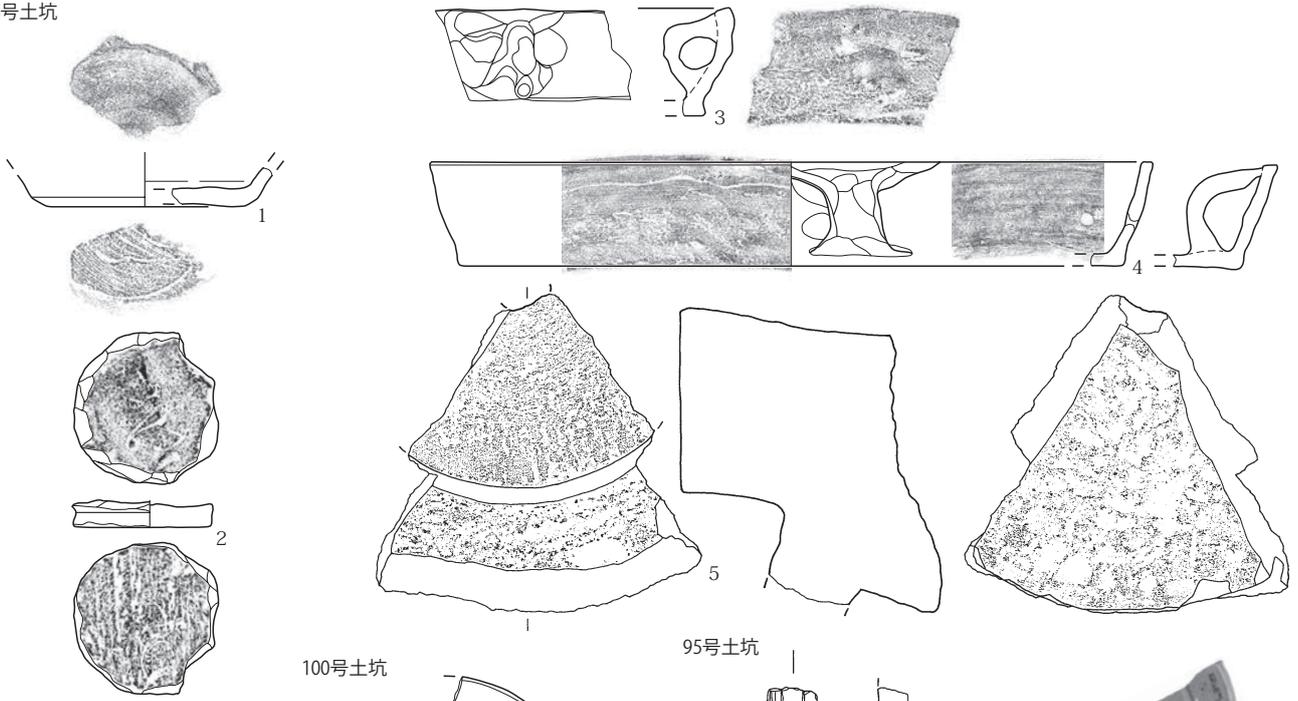


145号土坑

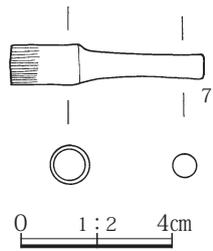


第148図 6区・6-2区土坑出土遺物(1)

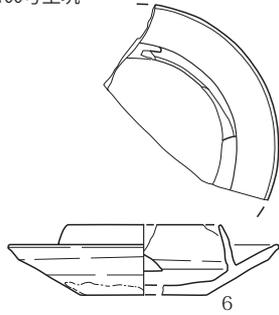
84号土坑



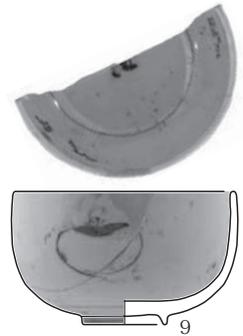
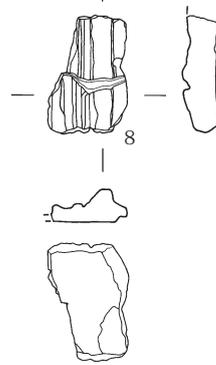
135号土坑



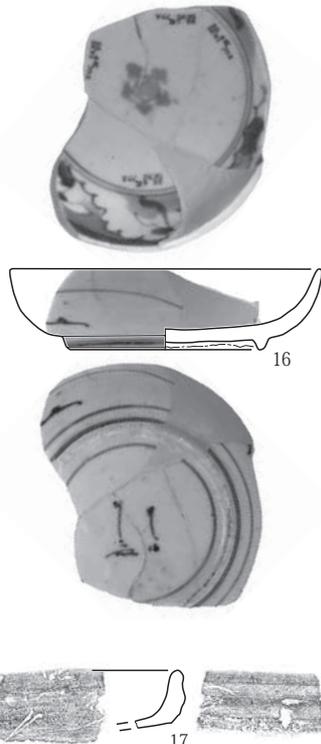
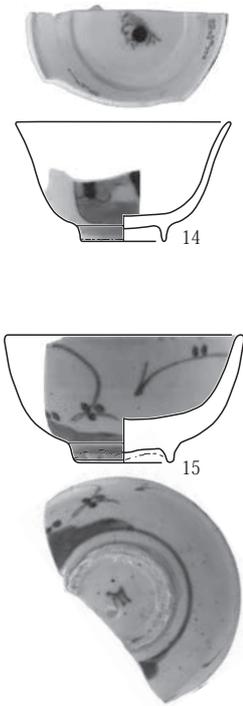
100号土坑



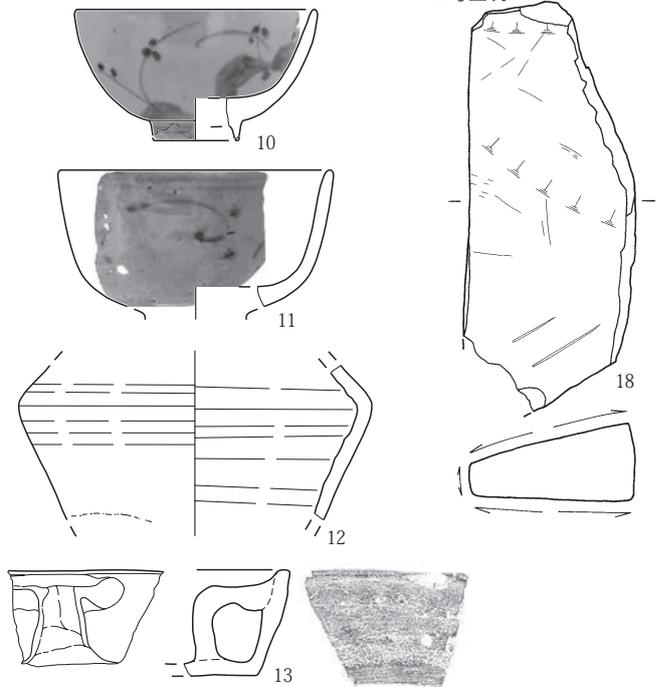
95号土坑



91号土坑



81号土坑

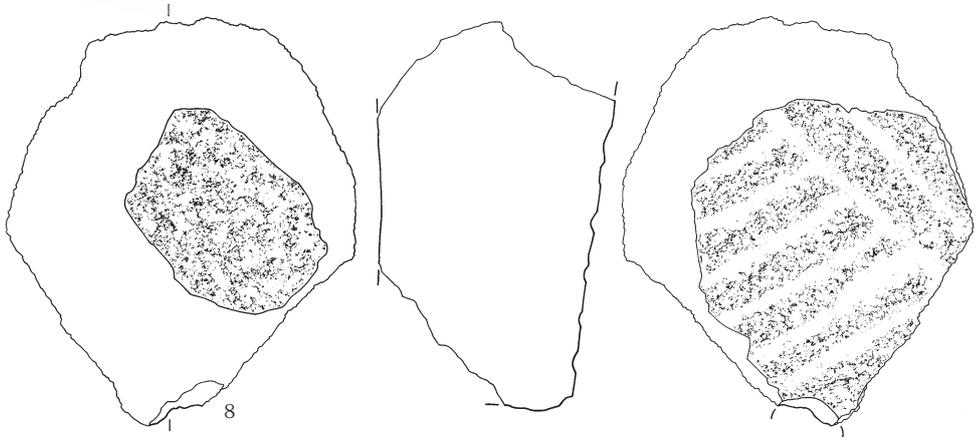
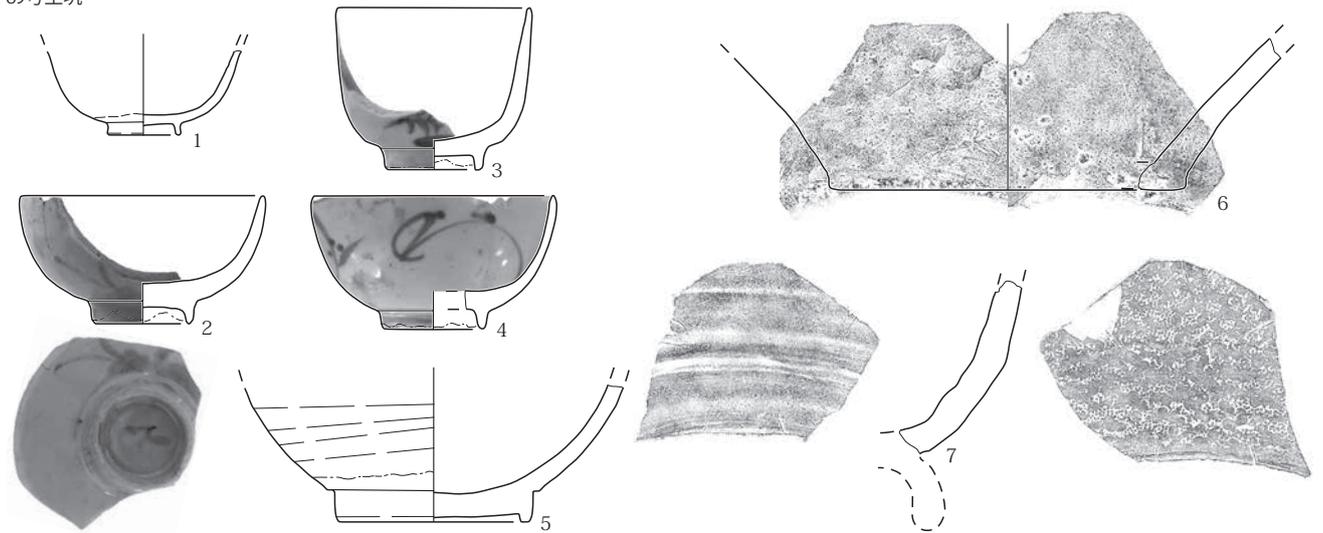


0 1:4 10cm
3·4·8·12·13·17

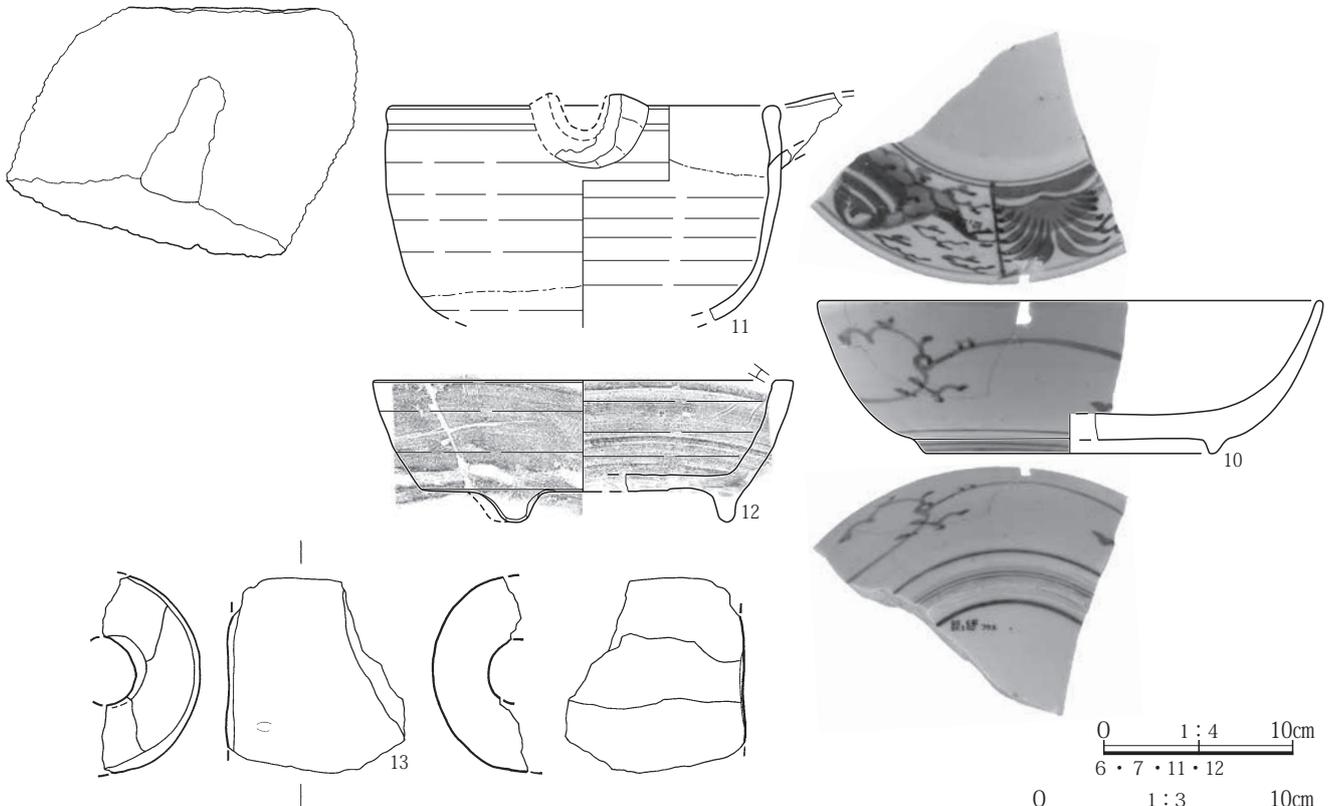
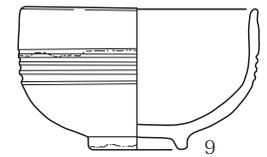
0 1:3 10cm
1·2·5·6·9~11·14~16

第149图 6区·6-2区土坑出土遗物(2)

89号土坑



102号土坑

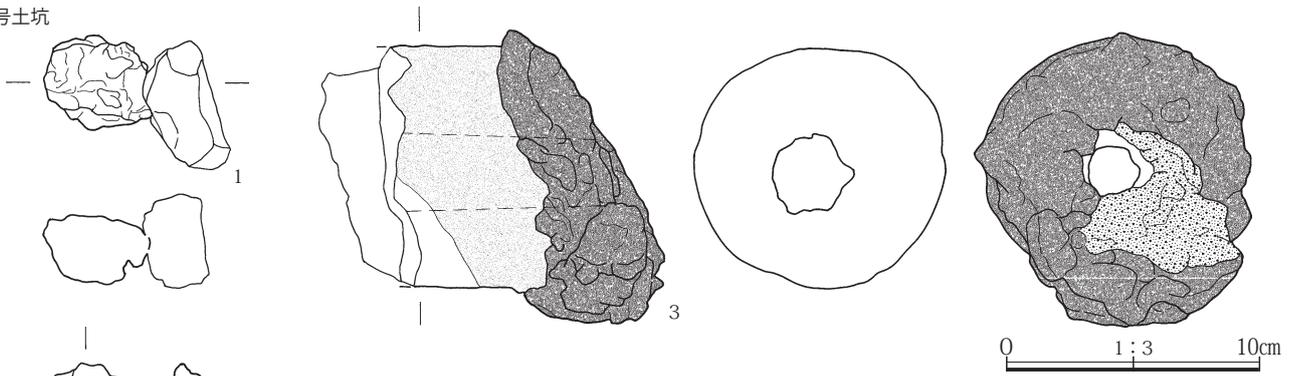


0 1:4 10cm
6・7・11・12

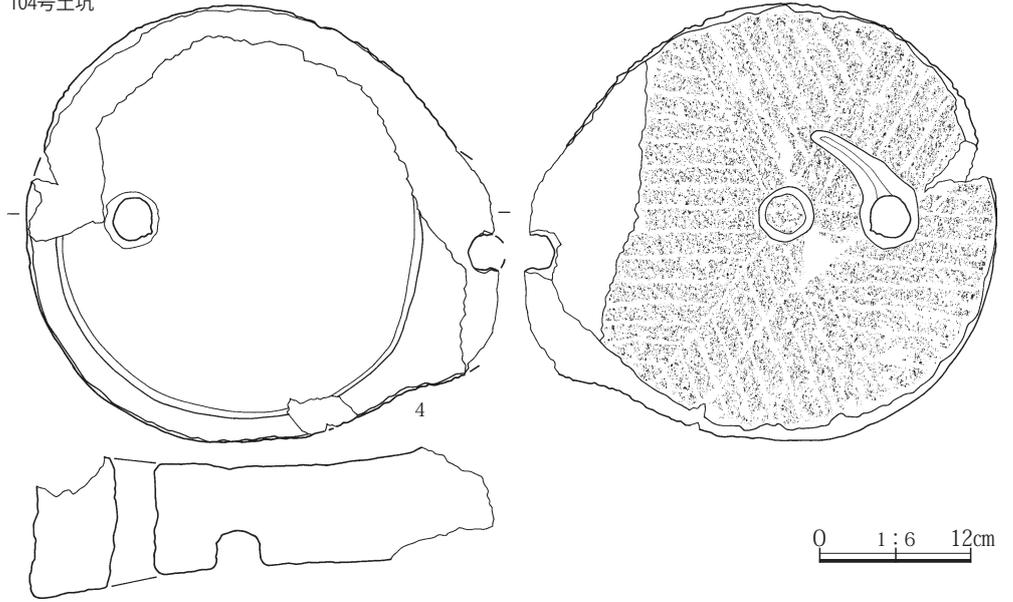
0 1:3 10cm
1~5・8~10・13

第150図 6区・6-2区土坑出土遺物(3)

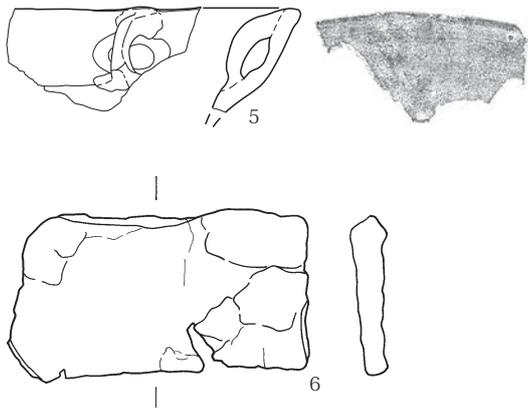
69号土坑



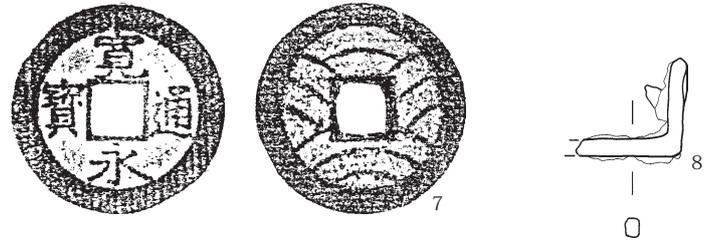
104号土坑



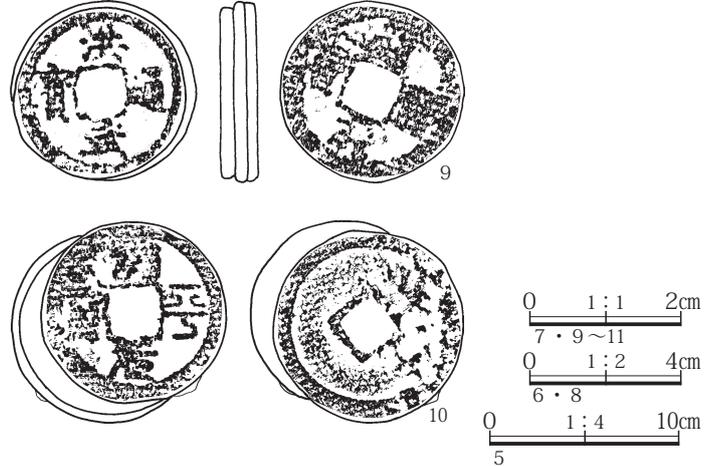
90号土坑



82号土坑



119号土坑

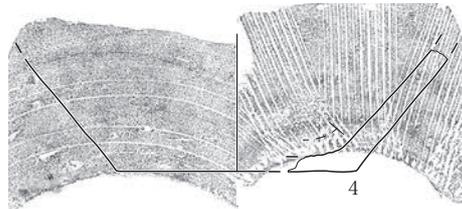
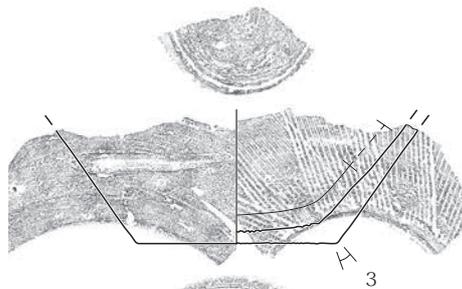


141号土坑

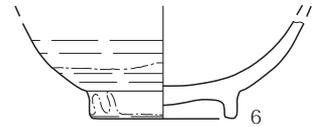
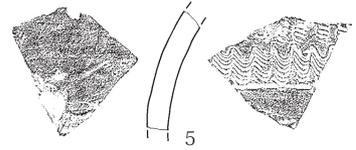


第151图 6区·6-2区土坑出土遗物(4)

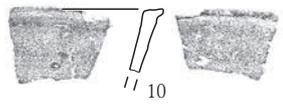
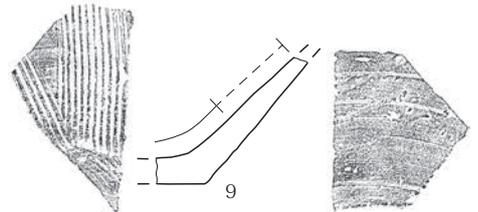
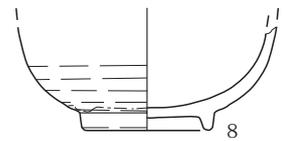
103号土坑



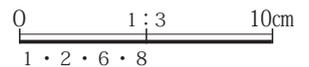
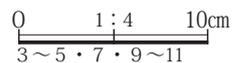
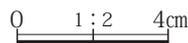
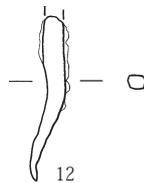
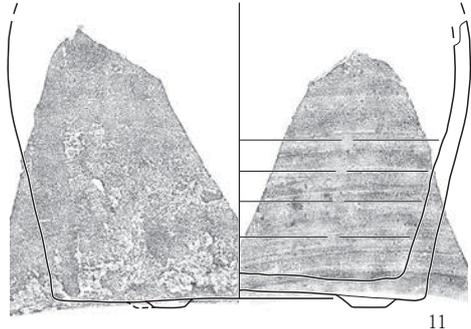
83号土坑



94号土坑



140号土坑



第152図 6区・6-2区土坑出土遺物(5)

製品(同図6)、82号土坑から銭貨(同図7)と鉄製品釘(同図8)が出土した。これらの土坑は出土遺物から18世紀を中心とする近世の土坑と思われる。

隅丸長方形土坑 17基が全体に散在していた。①単独のもの、②楕円形・隅丸方形の土坑とともに規格的な分布を示す土坑に大別できる。

①は幅が狭くより細長い形態が特徴である。6区・6-2区全体に散在していた。出土遺物が少なく、141号土坑から銭貨(正隆元寶)(第151図11)が出土したのみである。

②は比較的幅があり大型で、土器等もまとまって出土した。中央部の83号土坑からは、須恵器甕(第152図5)、瀬戸・美濃陶器碗(同図6)、在地系土器内耳鍋か(同図7)

が、94号土坑からは瀬戸・美濃陶器碗(同図8)、瀬戸陶器すり鉢(同図9)、在地系土器すり鉢か(同図10)が出土した。

単独で散在する119号土坑からは銭貨(第151図9・10)、103号土坑からは肥前磁器染付小碗(第152図1・2)、瀬戸陶器すり鉢(同図3・4)が、140号土坑からは製作地不詳火消し壺(同図11)、鉄製釘(同図12)が出土した。出土遺物から18世紀後半を中心とする江戸時代の土坑と思われる。

不定形土坑 南東隅の大きな攪乱の周囲に2基検出された。出土遺物はなかった。

(2) 7区・7-2区の土坑

(第153~156図 PL.44~47・82~83 遺物観察表P.277・278)

7区・7-2区では24基の土坑が調査区全体に散在していた。規格的な分布は見られないが、土坑の長軸方向が①南北方向を示すものと、②6区の21号溝や規格的な並びをみせる土坑群と共通するものがあった。一定の地割等に規制されて、順次掘られた土坑と考えられる。

円形土坑 西半部に4基、中央南部南壁沿い2基が検出された。中央部の178号・179号土坑は長方形の浅い土坑内に2基並んで設置されたもので、粘土で巻かれた桶が据えられた埋桶(便槽)土坑である。178号土坑からは瀬

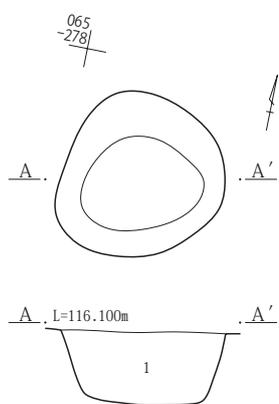
戸・美濃陶器徳利(第156図1)、常滑陶器甕か(同図2)、牛伏砂岩製の石皿(同図3)が、179号土坑からは瀬戸・美濃陶器染付碗(同図4)、肥前磁器染付碗(同図5)、瀬戸・美濃陶器灯火皿(同図6)が出土した。出土遺物から、江戸から明治時代の時期が想定される。

楕円形土坑 4基が散在していた。実測できるような大型破片は出土しなかった。

隅丸方形土坑 小規模な4基の土坑が散在していた。東部に単独で掘られた150号土坑から銭貨(寛永通寶)(第156図7)が出土した。土坑内には組まれていた礫が崩落したような状態で多数出土した。墓の可能性が高い。

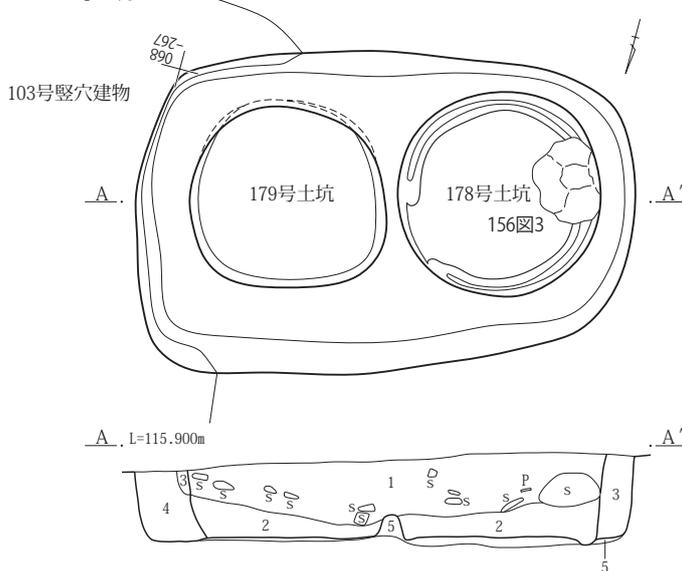
円形

53号土坑



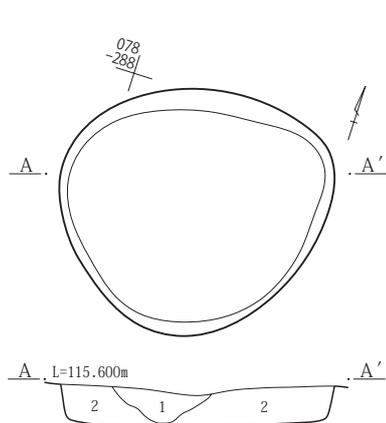
- 1. 暗褐色土 多量の小礫と砂利を含む。

178・179号土坑



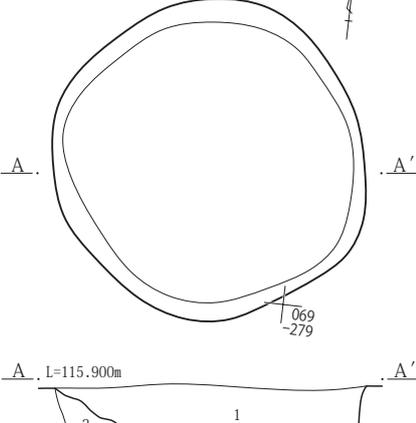
- 1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 80mm φ~150mm φ礫含有。
- 2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 細礫含有・小塊状明黄褐色(10YR6/6)粘土含有。
- 3. 明黄褐色土(2.5YR6/6) 粘土(桶設置充填材)
- 4. 黒褐色土(7.5YR3/1) 小塊状明黄褐色(2.5YR6/6)粘土混入・80mm φ~150mm φ礫含有。
- 5. 灰褐色粘土

55号土坑



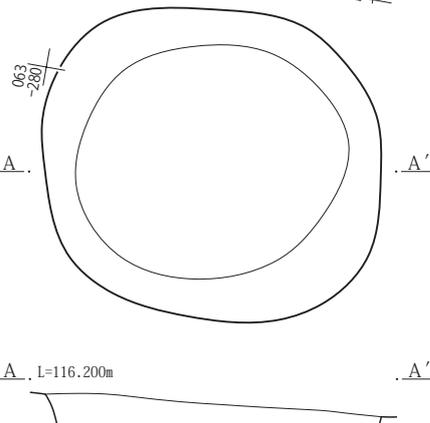
- 1. 暗褐色土 多量の軽石粒を含む。ザラザラ感有り。
- 2. 暗褐色土 礫と少量の炭化粒、黄褐色粒を含む。

63号土坑

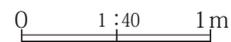


- 1. 暗褐色土 多量の小礫と砂利を含む。
- 2. 黄褐色砂粒層(地山)。

52号土坑



- 1. 暗褐色土 多量の礫と少量の炭化粒・黄褐色粒を含む。

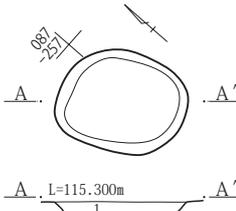


第153図 7区・7-2区円形土坑

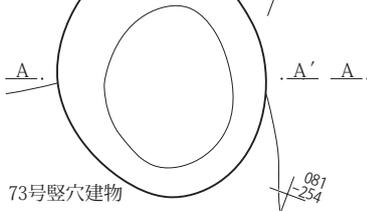
第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

楕円形

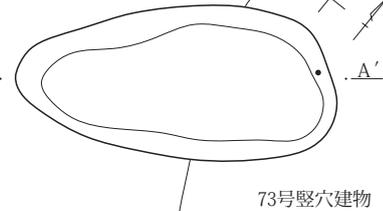
154号土坑



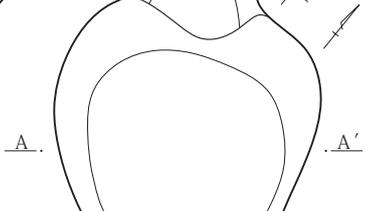
152号土坑



153号土坑



62号土坑



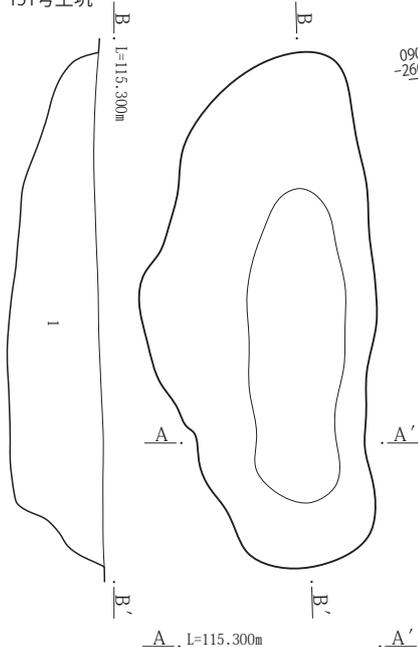
1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫混入。 30mm φ ~ 70mm φ 含有。

1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫含有。

1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫混入。

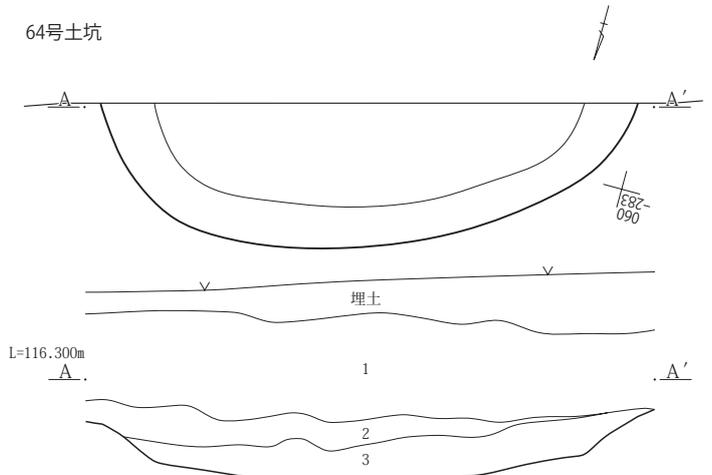
1. 暗褐色土 多量の小礫と砂利を含む。

151号土坑



1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫少量。

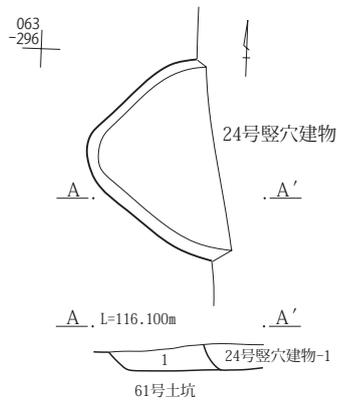
64号土坑



1. 暗褐色土 多量の軽石粒と砂利を含む少量の炭化物も含み、ザラザラ感有り。
2. 黄褐色土 多量の礫と焼土ブロック、炭化物が混入。
3. 暗褐色土 1層よりも暗い、砂利を多く含む少量の炭化物を含む。

隅丸方形

61号土坑

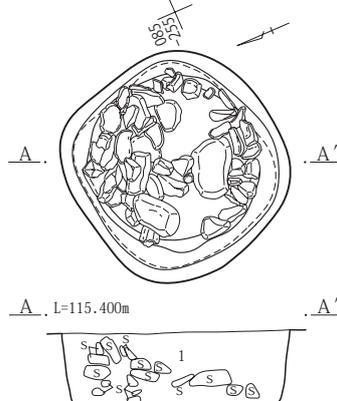


61号土坑

1. 黒褐色土 礫とごく少量の黄褐色粒を含む。 24号竪穴建物

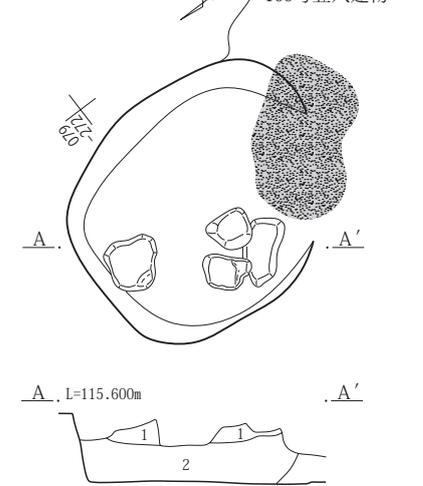
1. 暗褐色土 礫とごく少量の炭化粒を含む。

150号土坑



1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫少量。

204号土坑

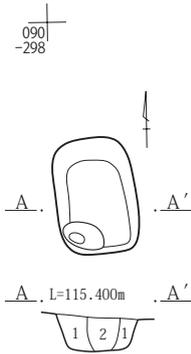


1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫混入・礫少量。

0 1:40 1m

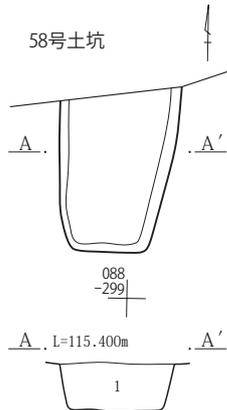
第154図 7区・7-2区楕円形・隅丸方形土坑

隅丸長方形
59号土坑



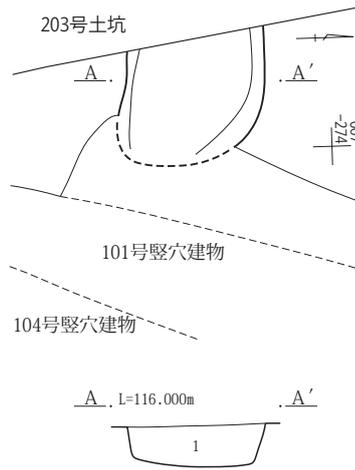
1. 暗褐色土 黄褐色粒が多く混入。
2. 暗褐色土 黄褐色粒と礫を少量含む。

58号土坑



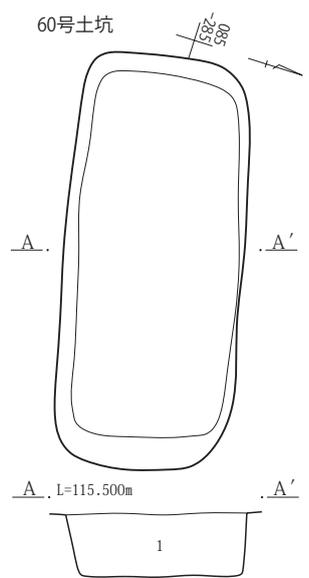
1. 暗褐色土 暗赤褐色粒が少量混入。

203号土坑



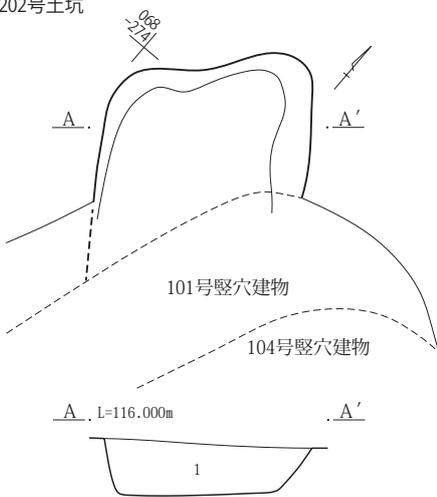
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫混入。

60号土坑



1. 暗褐色土 多量の軽石粒を含む、ザラザラ感有り。

202号土坑



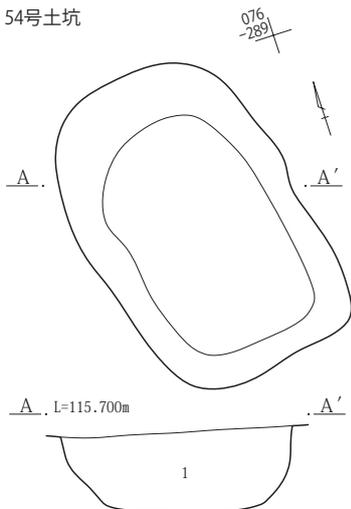
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫多量。

56・57号土坑



1. 暗褐色土 多量の軽石粒を含む サラサラ感有り。
2. 暗褐色土 黄褐色ブロックや礫を多く含む、粘性やや有り。

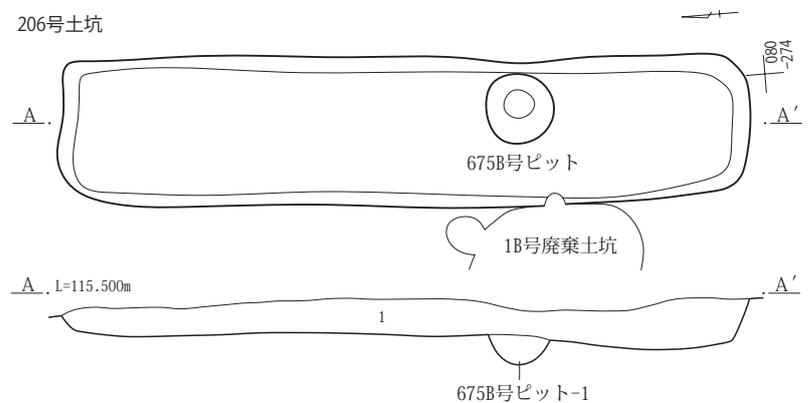
54号土坑



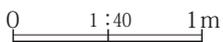
1. 暗褐色土 多量の砂礫と黄褐色砂粒やブロックを含む。

隅丸長方形(帯状)

206号土坑

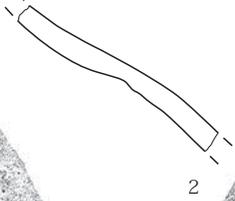


- 206号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
- 675 B号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5YR6/6)土少量。

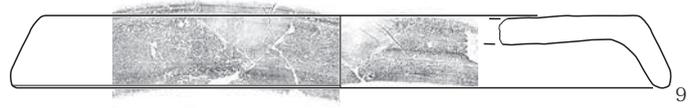
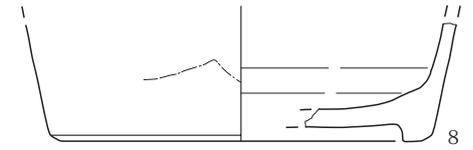


第155図 7区・7-2区隅丸長方形土坑

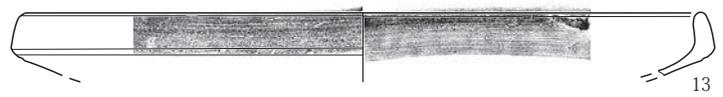
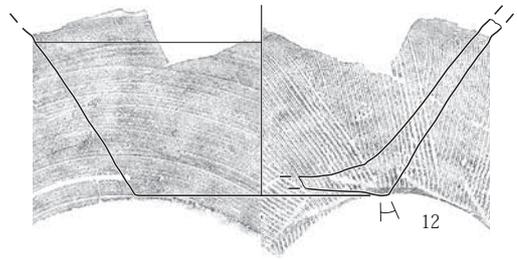
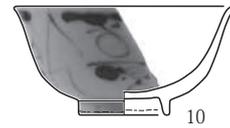
178号土坑



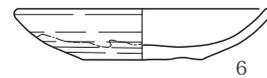
54号土坑



56号土坑

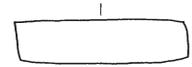
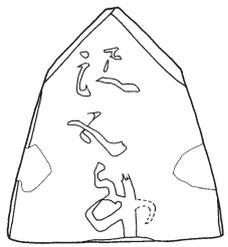


179号土坑



0 1:8 20cm

57号土坑



0 1:1 2cm

0 1:4 10cm

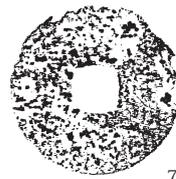
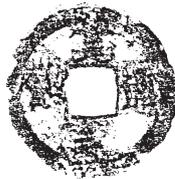
0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

2・8・9・12・13

1・4~6・10・11

150号土坑



7

第156図 7区・7-2区土坑出土遺物

隅丸長方形土坑 4基が北西部に偏在していた。54号土坑から瀬戸・美濃陶器植木鉢(第156図8)、在地系土器火鉢蓋(同図9)が、56号土坑からは瀬戸・美濃陶器染付碗(同図10)、磁器染付小碗(同図11)、瀬戸陶器すり鉢(同図12)、在地系土器焙烙(同図13)が出土した。これらの土坑は出土遺物から江戸から明治時代の土坑と思われる。

帯状の長方形土坑 206号土坑1基が検出された。出土遺物もなく時期は不明である。1号鍛冶廃棄土坑に伴うと推定される建物の柱穴(675B号ピット)と重複するが、206号土坑が新しい。

不定形土坑 北西部V層上面で56号土坑(隅丸長方形)に後出して57号土坑を検出した。56号土坑の埋没土には浅間Aと推定される軽石を多量に含んでおり、それに後出する57号土坑は天明3(1783)年の浅間山噴火後の遺構である。上層はちょうど著しい攪乱が重なっており、II層

上面での遺構確認は困難であった。

埋没土中から流紋岩製の石製品(第156図14)が出土した。石製品は不正五角形で、全面が丁寧に磨かれている。表裏面に墨書があるが、不鮮明なことから赤外線カメラ写真(P.221)を撮影をして判読した。詳細は第V章2(2)で記載した。

(3) 8-2区の土坑

(第157・158図 PL.47 遺物観察表P.278)

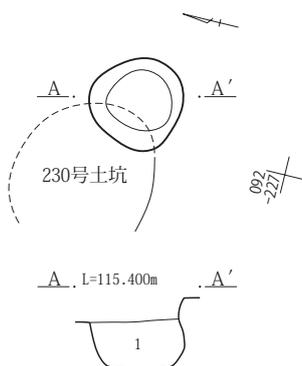
8-2区では円形4基、楕円形4基、合計8基の土坑が検出された。いずれも西半部に偏在していた。

円形土坑 3基がほぼ等間隔に位置している。231号土坑からは土師器杯(第158図1)、230号土坑からは土師器羽釜(同図2・3)が出土した。

楕円形土坑 4基が検出された。いずれも0.6~0.8mほどの同規模の土坑である。実測できる遺物はなかった。

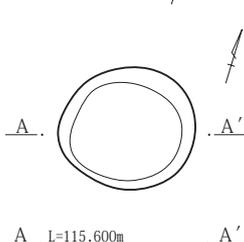
円形

250号土坑



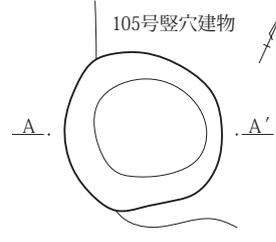
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土少量。

227号土坑



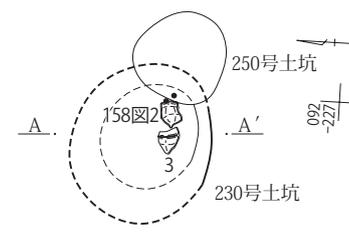
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫多量。古代。

231号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

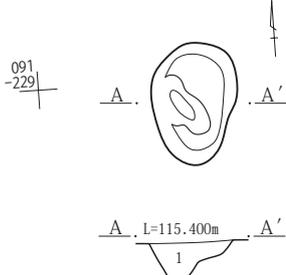
230号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

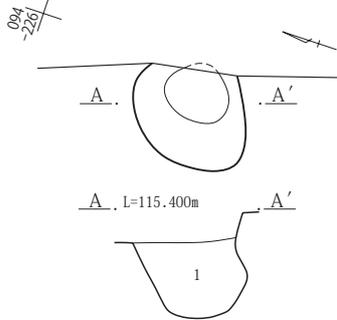
楕円形

229号土坑



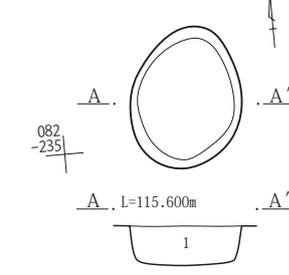
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極微量。

251号土坑



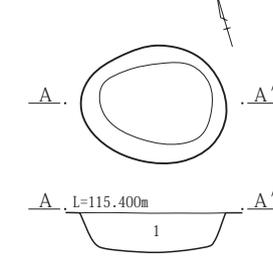
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土少量。

226号土坑

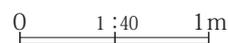


1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫多量。古代。

228号土坑

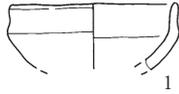


1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量。

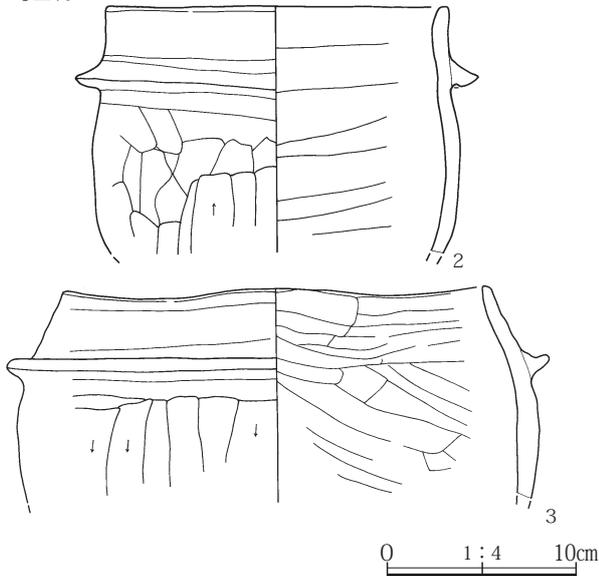


第157図 8-2区円形・楕円形土坑

231号土坑



230号土坑



第158図 8-2区土坑出土遺物

(4) 9区の土坑

(第159・160図 PL.47~49)

9区では円形8基、楕円形4基、隅丸方形1基、隅丸長方形1基、不定形1基が検出された。いずれの土坑も出土遺物が少なく、実測できるものはなかった。

円形土坑 西半部にやや大型の円形土坑があり、東半部に小型の円形土坑が分布していた。西半部にあった106号土坑は大型で、7世紀と推定される40号竪穴建物より新しい。

楕円形土坑 4基が東半部の西寄りに偏在していた。

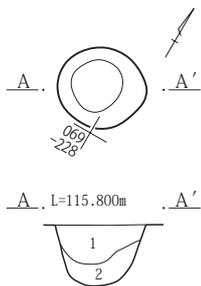
隅丸方形土坑 西半部に118号土坑1基があった。埋没土の観察から7世紀と推定される39号竪穴建物より古い。

隅丸長方形土坑 西半部にあった120号土坑は、6世紀後半と推定される42号竪穴建物より古い。

不定形土坑 東半部に123号土坑1基があった。

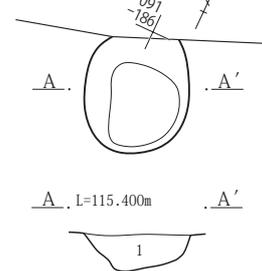
円形

105号土坑



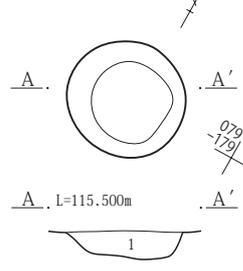
1. 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色鉍物粒・赤褐色鉍物粒を少量含む。かたく縮まりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質土・黄褐色ブロックを含む。

97号土坑



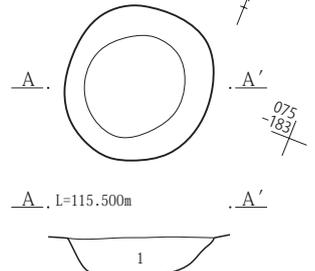
1. 暗褐色土(10YR3/3) やや締まる、白色粒を極少量含む、明黄褐色土(ローム)を少量ブロック状に含む。

124号土坑



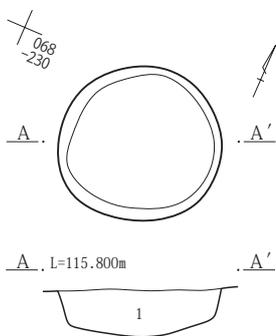
1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 30mmφ程度の礫とローム小ブロック・白色鉍物粒を含む。縮まりのある土。

125号土坑



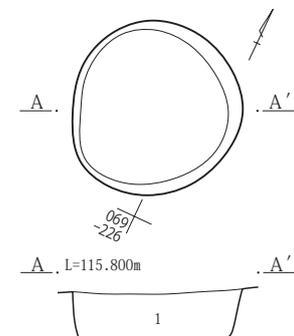
1. 暗褐色シルト質土(10YR3/4) ロームブロックを10%程度と50~100mmφの角礫を少量含む。縮まりのある土。

74号土坑



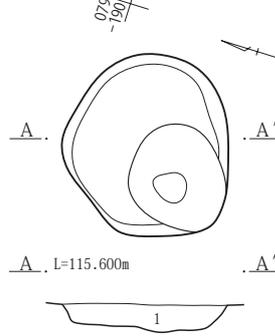
1. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色鉍物粒を含む。円礫20mmφ以下が所々に入る。全体に黄褐色シルト質ブロックが混入する。縮まりのある土。

75号土坑

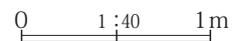


1. 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色鉍物粒と白色鉍物粒を含む。円礫20mmφ以下が所々に入る。やや粘性があり、縮まりのある土。

114号土坑

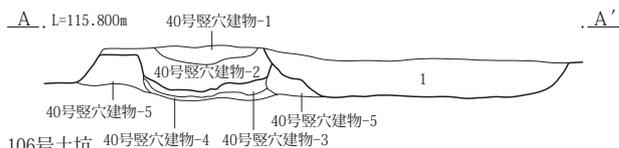
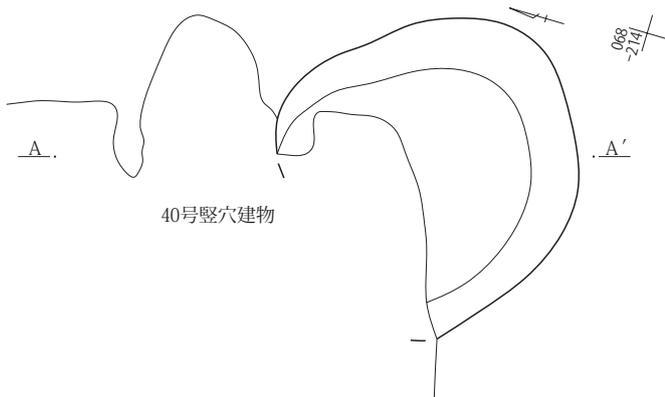


1. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物・焼土ブロック、30mmφ以下の礫を含むシルト質土。縮まりのある土。



第159図 9区円形土坑

円形
106号土坑



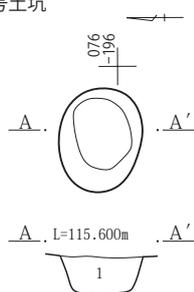
106号土坑

1. 暗褐色土(10YR3/4) 50mm φ以下の礫を多く含む(砂利層)砂質土である。

40号竖穴建物

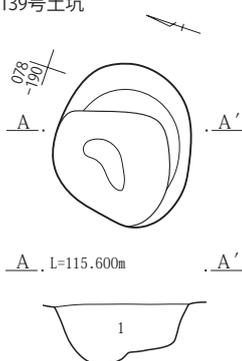
1. 暗褐色土(10YR3/3) 2~20mm φの円礫を20%と焼土粒・ローム粒が混入する、かたく締まった土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに焼土ブロックと、ロームブロック混入する、下位に僅かに、炭化物が入る。
3. 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土ブロックが混入する。シルト質土。
4. 黄褐色土(10YR5/6) 地山のシルト質土。
5. 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色シルトブロックと少量の焼土ブロック及び細かな砂利を含む、かたくしまっている(袖構築材)。

楕円形
99号土坑



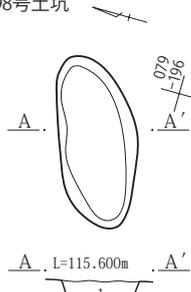
1. 暗褐色土(10YR3/3) しまりなし、白色粒を極少量、赤色焼土ブロックを含む、明黄褐色土(ローム)をブロック状に含む。

139号土坑



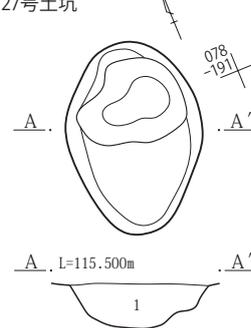
1. 黒褐色土(10YR3/2) 砂利層に30mm φ以下の円礫を含む。締まりのある土。

98号土坑



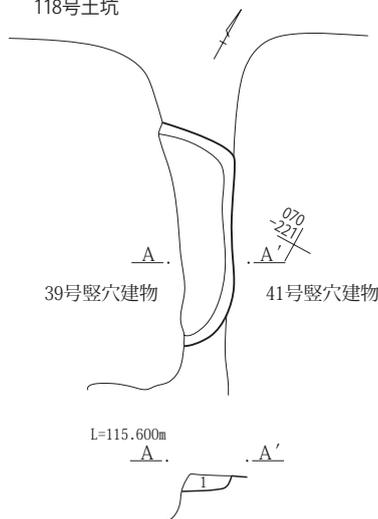
1. 暗褐色土(10YR3/3) やや締まる、白色粒・赤色粒を少量含む。

127号土坑



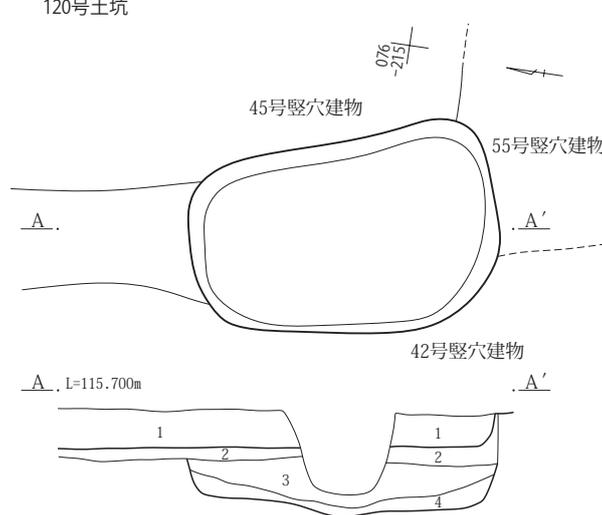
1. 暗褐色土(10YR3/4) 焼土ブロック、30mm φ以下の礫を含むシルト質土。締まりのある土。

隅丸方形
118号土坑



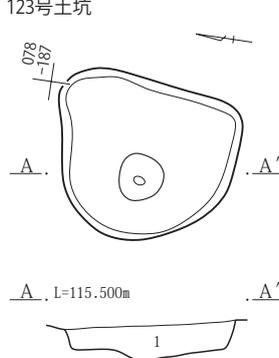
1. 暗褐色土(10YR3/4) 50mm φ程度以下の礫を含む、土器片を含む。硬く締まりのある土。

隅丸長方形
120号土坑

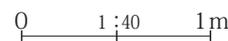


1. 褐色シルト質土(10YR4/4) 30mm φ以下の礫と炭化物・焼土ブロックを含む締まりのある土。
2. 暗褐色土(10YR3/4) 床下(掘方覆土)炭化物粒・焼土粒を少量含むやや軟質のシルト質土。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに小さなロームブロックを含むシルト質土。(55号竖穴建物床面掘方下で確認)
4. 暗褐色土(10YR3/4) 僅かに小さなロームブロックを三層よりもやや多く、僅かに細かな砂利を含む。(55号竖穴建物床面掘方下で確認)

不定形
123号土坑



1. 暗褐色シルト質土(10YR3/4) ロームの小ブロックと焼土ブロックを少量含む。



第160図 9区円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・不定形土坑

(5)10区・10-2区の土坑

(第161～171図 PL.49～55・83 遺物観察表P.278・279)

10区・10-2区では円形55基、楕円形31基、隅丸方形7基、隅丸長方形2基、帯状の隅丸長方形5基、不定形12基が検出された。特に東半部に分布が偏在していた。その中央部には複数の円形土坑が直線状に並んでいる地点があった。楕円形・隅丸方形・隅丸長方形の土坑は規則的な分布は見られなかった。北東部には帯状の隅丸長方形土坑が5基集中する地点があった。

円形土坑 55基が検出されたが、そのうちの21基が10-2区中央に東西・南北に並んで分布していた。その方向は、同区内の1号掘立柱建物や1号柱穴列の柱筋方向ではなく、6区の隅丸方形土坑の並びや21号溝の方向に共通する。後者との時期的な共通性を見て取れる。ある程度広域な地割等の規制を反映しているものと推定される。その他の土坑は全体に散在していた。10-2区は古墳時代の竪穴建物が全域に分布しており、土坑との重複も著しかった。土坑からは土師器・須恵器が出土しているが、その重複による混入と判断される。その他埋没土中出土遺物には近世以降の土器破片が含まれることから、多くの土坑は近世以降の掘削と考えられる。

中央集中部分の東端にあった188号土坑から出土した土師器杯(第171図4)、その他散在する181号土坑から出土した土師器杯(同図1・2)、土師器小型甕(同図3)、220号土坑から出土した土師器杯(同図5)を図示した。

楕円形土坑 31基が検出されたが、中央部にやや集中するものの、全体に分布していた。中央部にあった180号土坑・208B号土坑は、土層の観察からは古墳時代終末と推定される93号竪穴建物より新しい。180号土坑出土土師器小型甕(第171図10)や、208B号土坑出土土師器杯(同図7・8)、土師器甕(同図9)はやや新しい様相を見せていることと矛盾はない。また、東南部にあった264号土坑から土師器杯(同図6)が出土した。

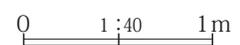
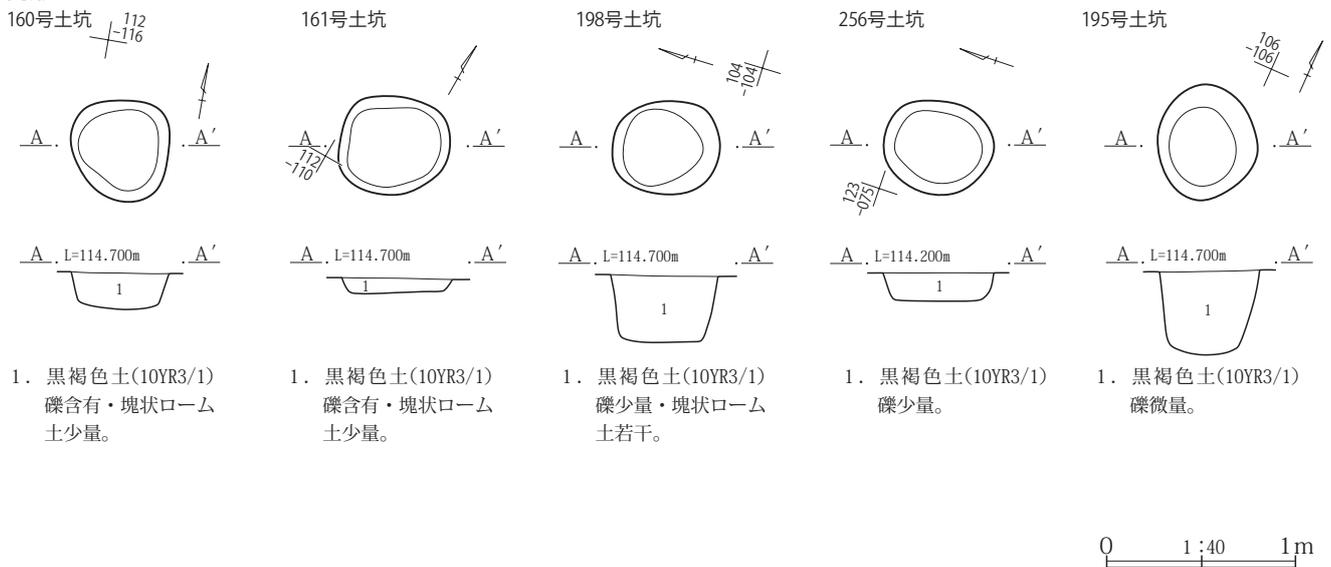
隅丸方形土坑 7基が検出された。全体に散在していた。271号土坑は大型の土坑で、大きな礫が埋没土中に含まれていた。当初井戸と考えたが、浅いので土坑とした。

隅丸長方形土坑 2基が検出された。西部に1基、東端部に1基と散在していた。実測できた遺物もなかった。

帯状の隅丸長方形土坑 北東部に4基が並んで検出された南北方向に長く、長軸方向は円形土坑群が規格的に東西に並んだ軸にほぼ直交する。関連性があるとみられる。遺物は出土しなかった。239B号土坑の南側に接する211B号土坑も帯状をしていたが、長方形ではなかったので不定形で分類しているが、同様の用途の土坑と推定される。

不定形土坑 12基が検出された。全体に散在していた。272号土坑は当初、竪穴建物の掘り方土坑の一部と考えて掘り下げたが、確証がなかったので単独土坑として記録した。底面直上から、U字形の鉄製鍬鋤先(第172図11)が出土した。

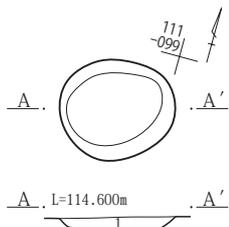
円形



第161図 10区・10-2区円形土坑

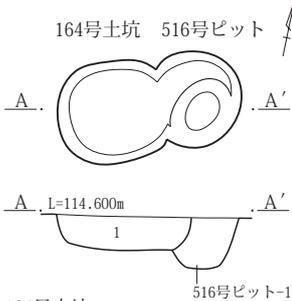
円形

173号土坑



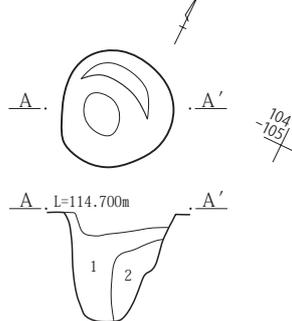
1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 礫無し・地山ローム土質。

164号土坑



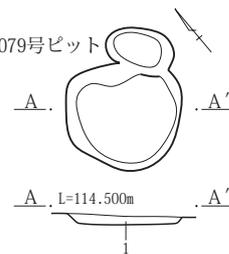
- 164号土坑 516号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極多量。
516号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入。

197号土坑



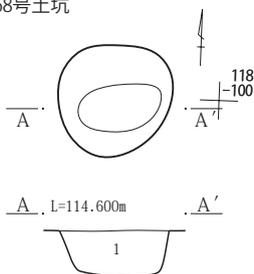
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・小塊状ローム土少量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

267号土坑



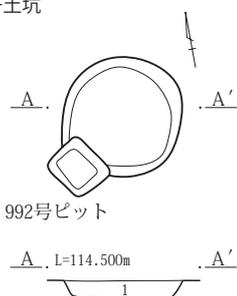
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量。

168号土坑



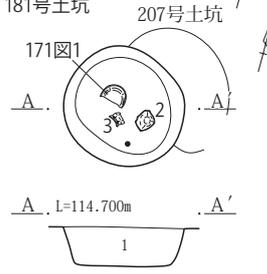
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫極多量。

252号土坑



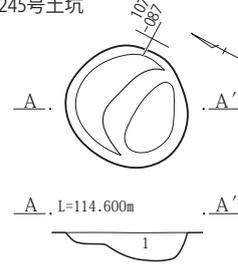
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量。

181号土坑



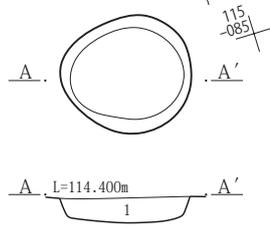
1. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状炭化物含有・小塊状ローム土若干。

245号土坑



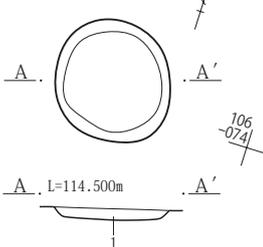
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

248号土坑



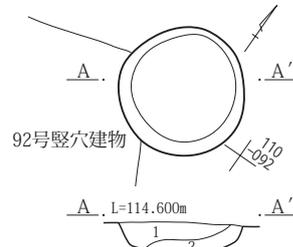
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・小塊状ローム土少量。

265号土坑



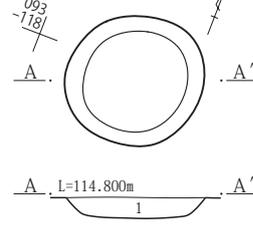
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

193号土坑



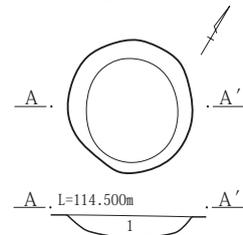
1. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土含有・粒状ローム土少量。
2. 黄褐色土(10YR6/8) 塊状地山ローム土(底面に貼ってある)。

259号土坑



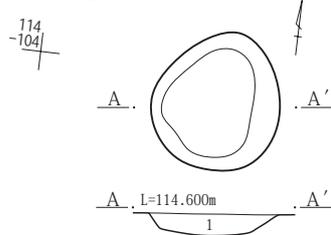
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

219号土坑



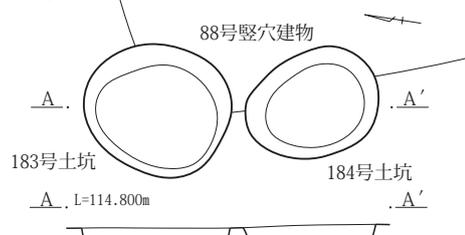
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

165号土坑

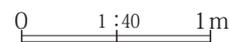


1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 塊状ローム土含有・礫微量。

183・184号土坑



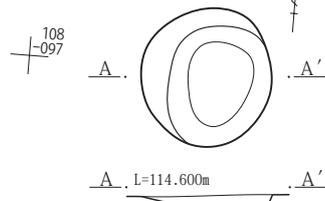
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫少量・塊状ローム土少量・小塊状ローム土少量。



第162図 10区・10-2区円形土坑

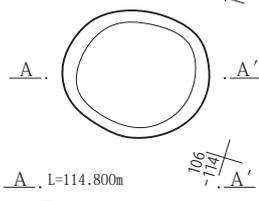
円形

190号土坑



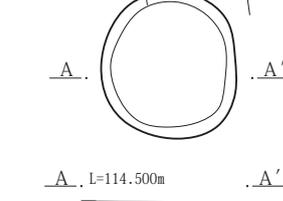
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。

182号土坑



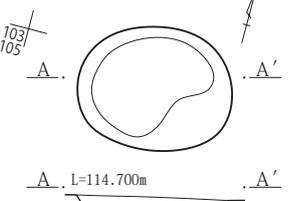
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・粗粒状ローム土含有。

255号土坑



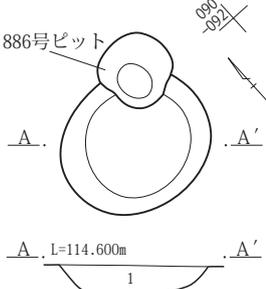
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

199号土坑



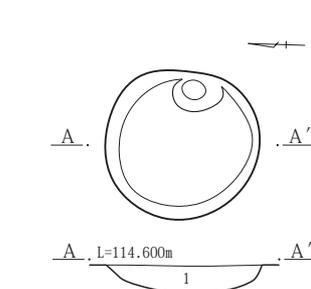
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・小塊状ローム土含有。

222号土坑



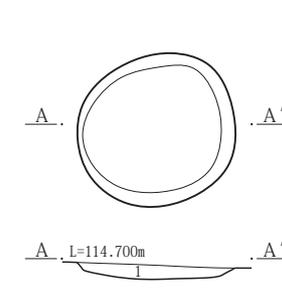
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

223号土坑



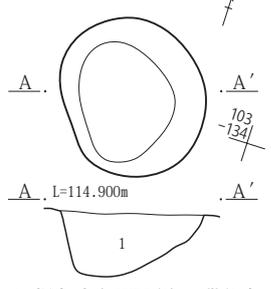
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

236号土坑



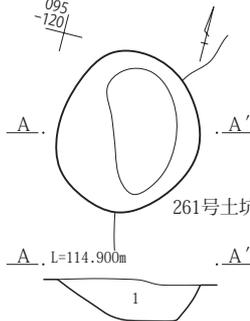
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・細礫含有・粒状焼土微量。

110号土坑



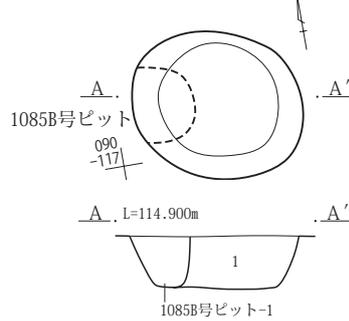
1. 黒褐色土(10YR3/3) 礫を多量に含む白色粒を若干含む。
※礫は垂円礫。直径5~10cm大

260号土坑



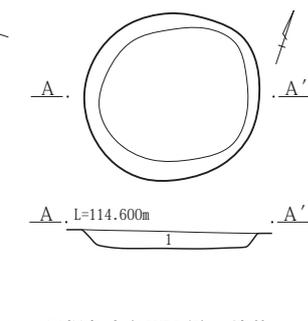
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

257号土坑



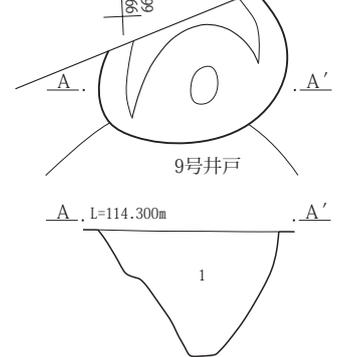
257号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量。
1085号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干・粒状ローム土微量。

166号土坑



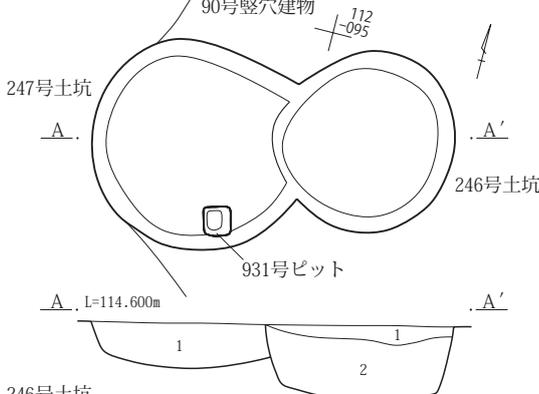
1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土混入・粒状ローム土含有。

244号土坑



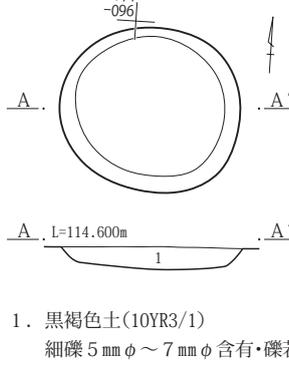
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫微量・塊状ローム土含有。

246・247号土坑



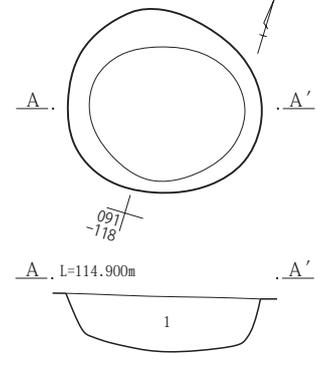
246号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土若干・粗粒状ローム土含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状ローム土含有。
247号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・小塊状ローム土少量。

186号土坑

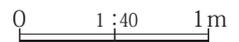


1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫5mmφ~7mmφ含有・礫若干。

258号土坑

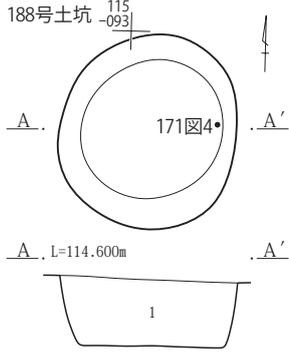


1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

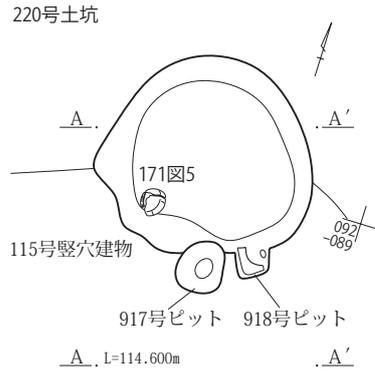


第163図 10区・10-2区円形土坑

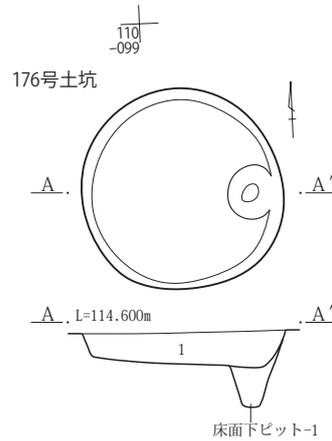
円形



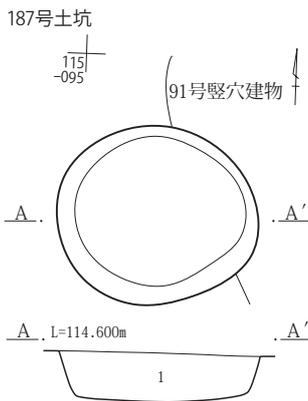
188号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫無し・塊状ローム土少量。



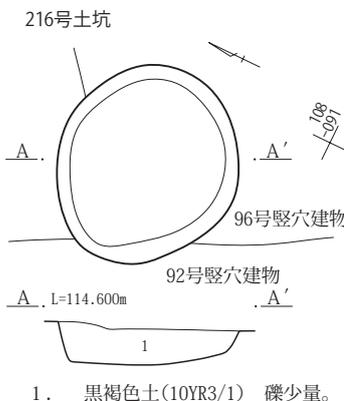
220号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量・塊状ローム土少量。



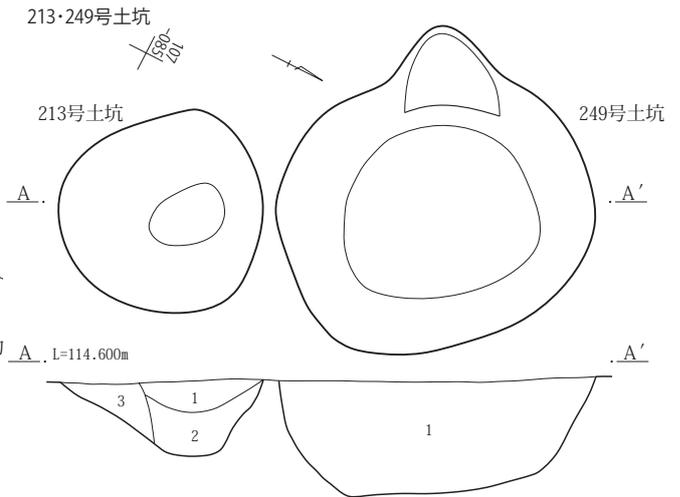
176号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量・粗粒状含有・小塊状ローム土含有。
床面下ピット
1. 黒褐色(10YR3/1) 礫若干。



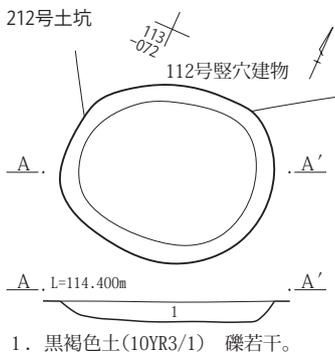
187号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫5mm φ ~ 7mm φ 含有・礫若干。



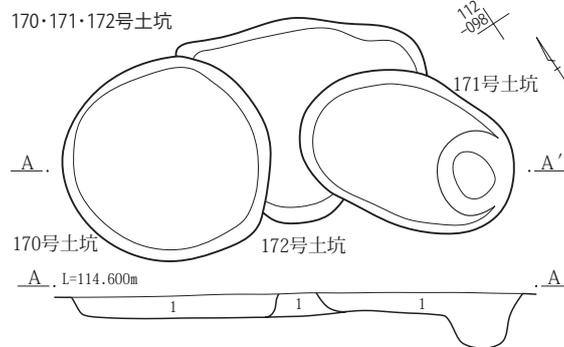
216号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。



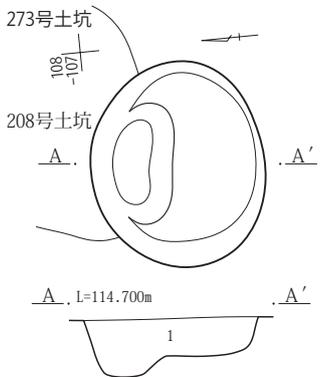
213号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土含有。
249号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫混入。



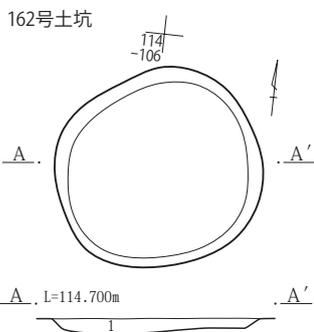
212号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。



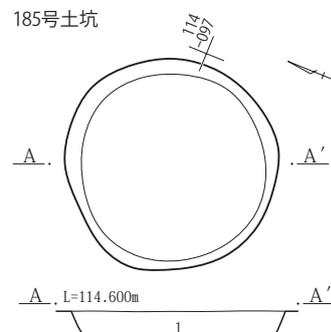
170・171号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量。
172号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫極微量・塊状ローム土多量。



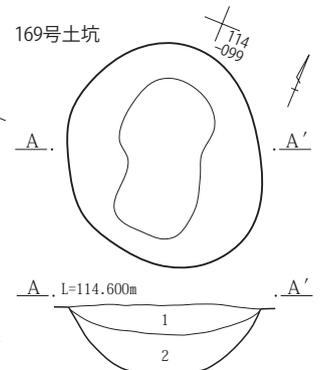
273号土坑
208号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土少量。



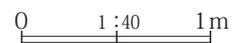
162号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・礫50mm φ ~ 80mm φ 微量・粒状ローム土若干。



185号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量・小塊状ローム土含有。



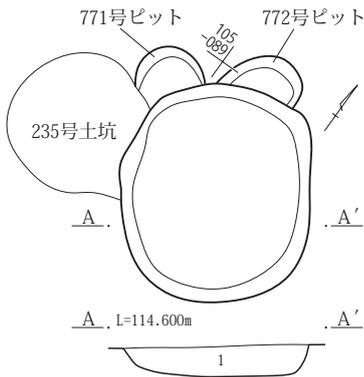
169号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫含有。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫少量。



第164図 10区・10-2区円形土坑

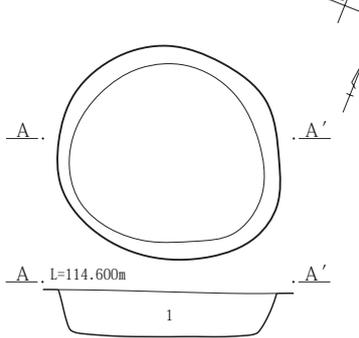
円形

234号土坑



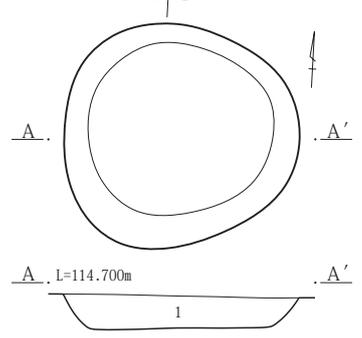
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫無し・塊状ローム土少量。

167号土坑



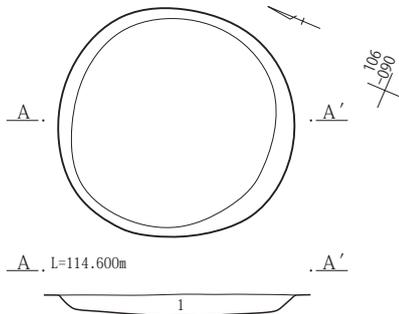
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。

201号土坑



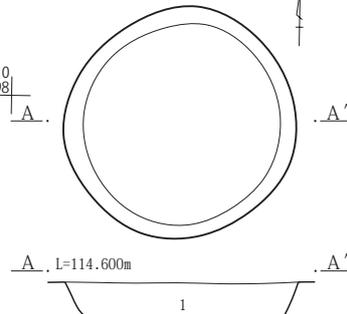
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

217号土坑



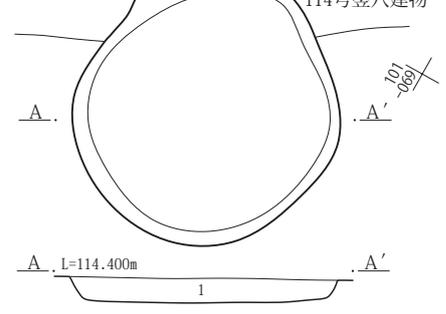
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

189号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。

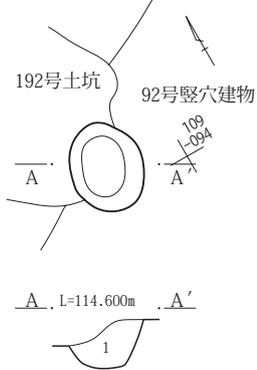
243号土坑



1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫無し。

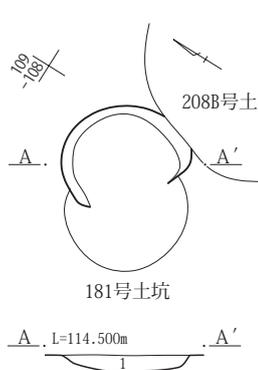
楕円形

191号土坑



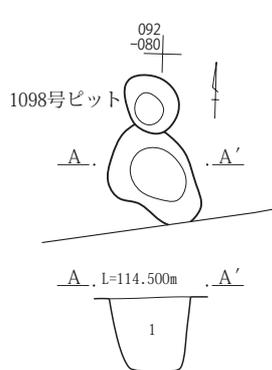
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。

207号土坑



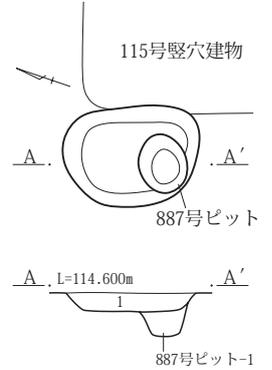
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状ローム土少量。

266号土坑



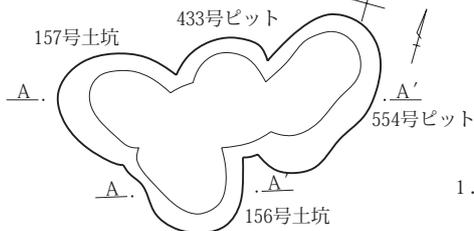
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

221号土坑

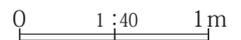


221号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。
887号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫少量。

1561・157号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土少量。



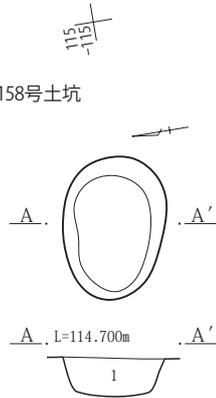
第165図 10区・10-2区円形土坑・楕円形土坑

楕円形
235号土坑



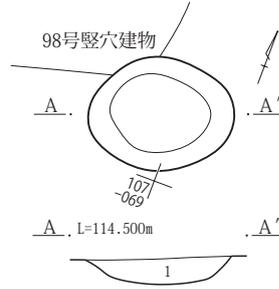
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・塊状ローム土若干。

158号土坑



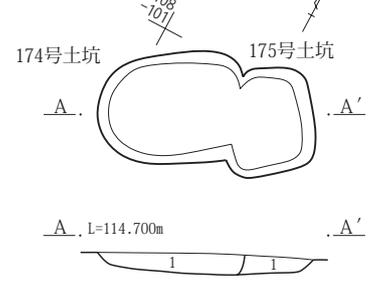
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土少量。

242号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。礫微量・細礫含有・粒状炭化物少量。

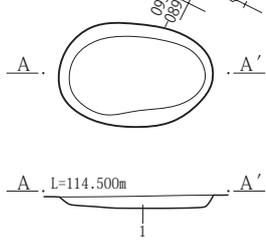
174・175号土坑



174号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫無し・塊状ローム土少量。

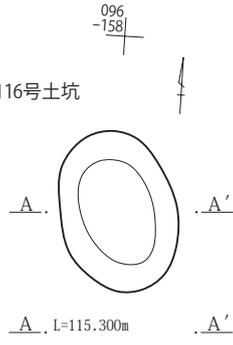
175号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫無し・塊状ローム土含有。

224号土坑



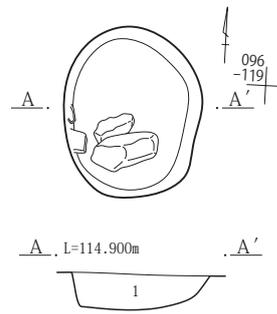
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量・粒状焼土少量。古代

116号土坑



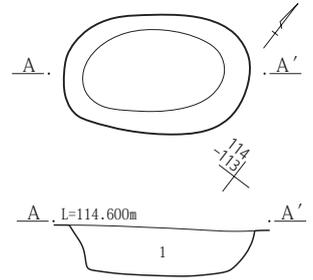
1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の亜円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

262号土坑



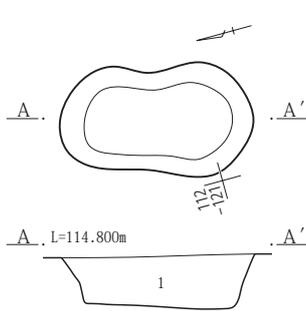
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量。

159号土坑



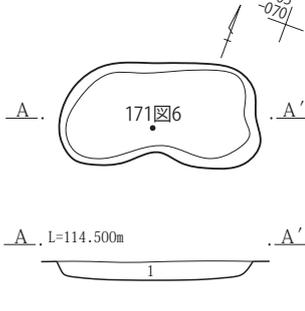
1. 暗褐色(10YR3/3) 礫含有。

155号土坑



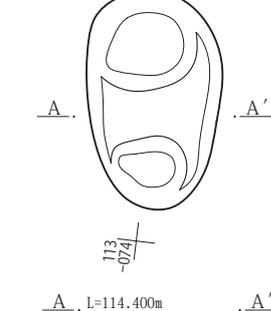
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有・塊状ローム土少量。

264号土坑



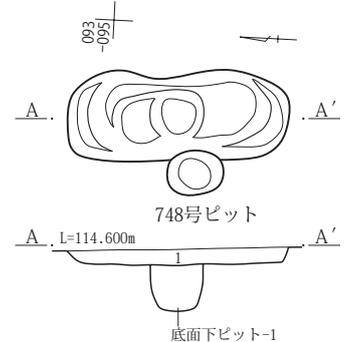
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫微量。

218号土坑



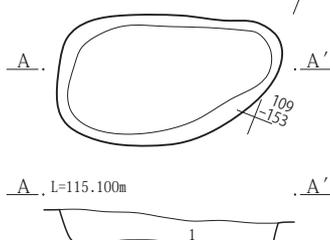
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫微量・塊状ローム土少量。

225号土坑



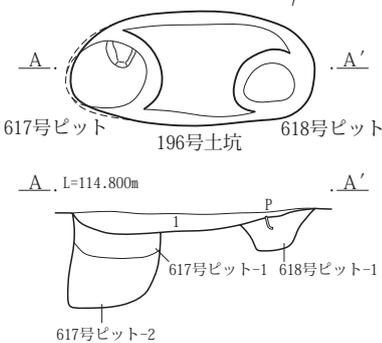
225号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。床面下ピット
1. 黒褐色(10YR3/1) 礫含有。

112号土坑

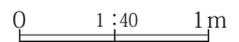


1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の亜円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

196号土坑



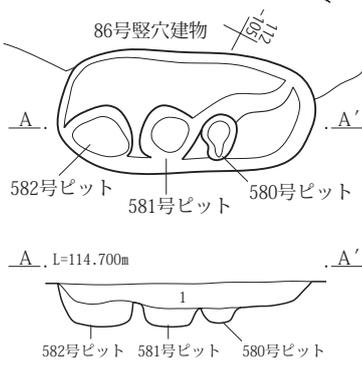
196号土坑
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫30mmφ~50mmφ微量。
617号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土含有。
618号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土混入・礫少量。



第166図 10区・10-2区楕円形土坑

楕円形

163号土坑



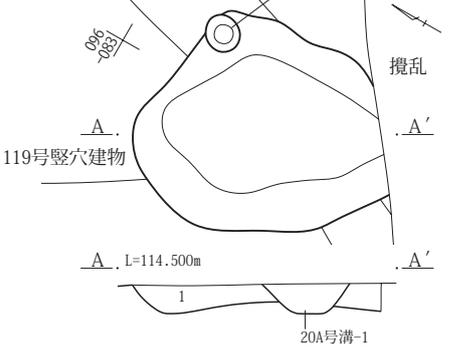
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 塊状ローム土少量・礫若干。(近世か)

208B号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・粒状ローム土少量。

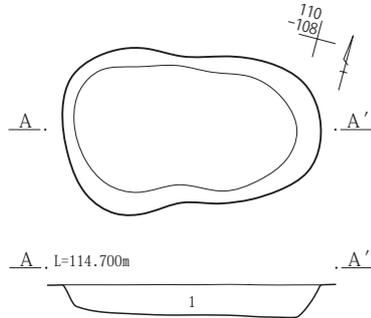
254号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・粒状炭化物若干。
20A号溝

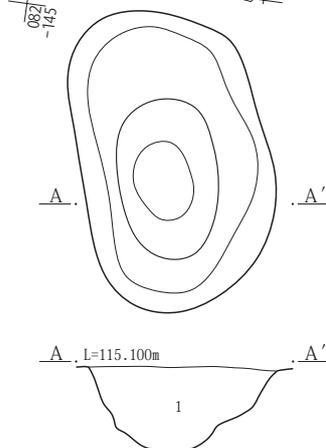
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 細礫少量。

180号土坑



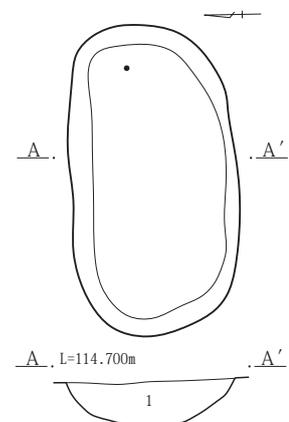
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫無し・塊状ローム土少量。

111号土坑



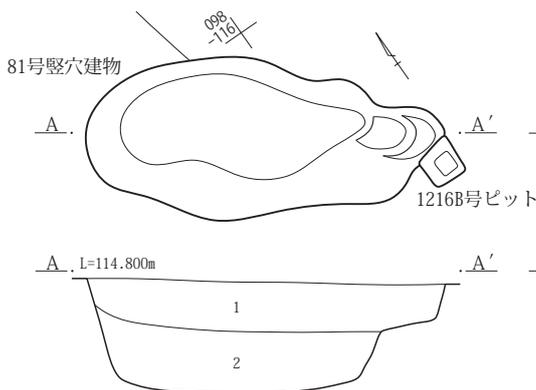
1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の垂円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

109号土坑



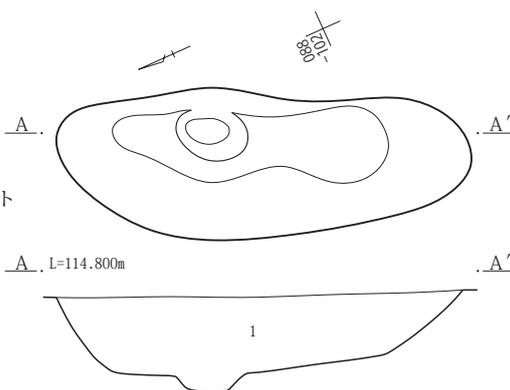
1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の垂円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

268号土坑



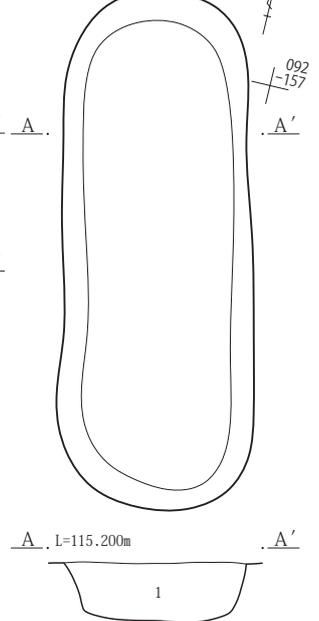
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 礫混入・塊状ローム土含有。

232号土坑

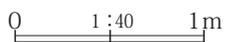


1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫多量・70mmφ~120mmφ礫少量。

113号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の垂円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

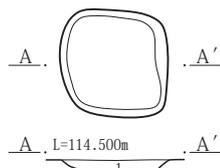


第167図 10区・10-2区楕円形土坑

9. 土坑

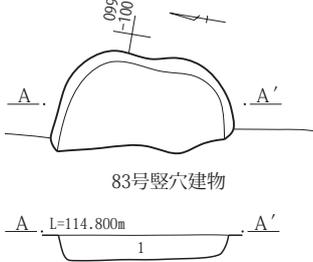
隅丸方形

215号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量。

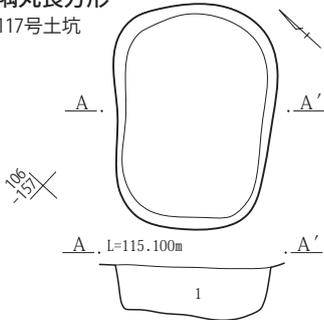
205号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。

隅丸長方形

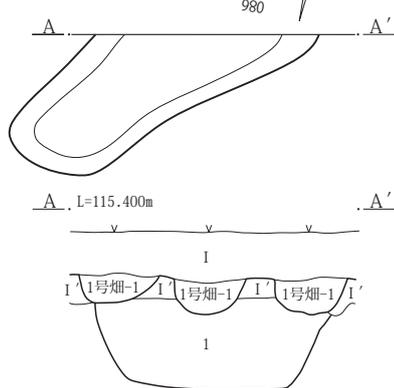
117号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の垂円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

隅丸長方形(带状)

263号土坑



263号土坑

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・細礫含有・塊状ローム土含有。

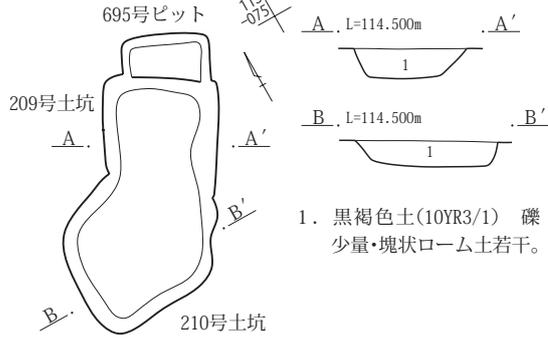
1号畑

I 宅地造成以前の表土層(耕作土) 褐灰色土(5YR4/1)白色軽石含有・細粒礫含有。

I' 旧表土層。耕地整備等以前の表土層。黒褐色土(5YR3/1)白色軽石粒少量・細粒礫混入。

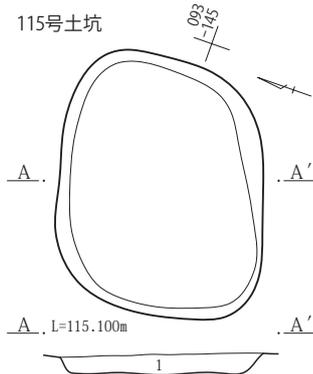
1. 浅間A軽石一次堆積層。

209・210号土坑



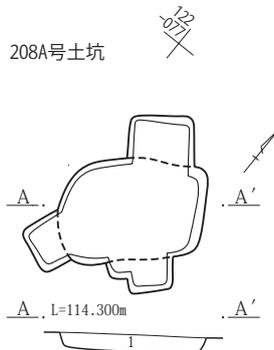
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。

115号土坑



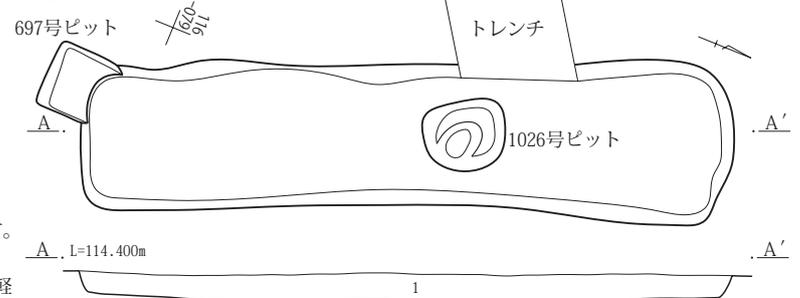
1. 黒褐色土(10YR3/3) 直径5~10cm大の垂円礫を多量に含む。白色粒を若干含む。

208号土坑



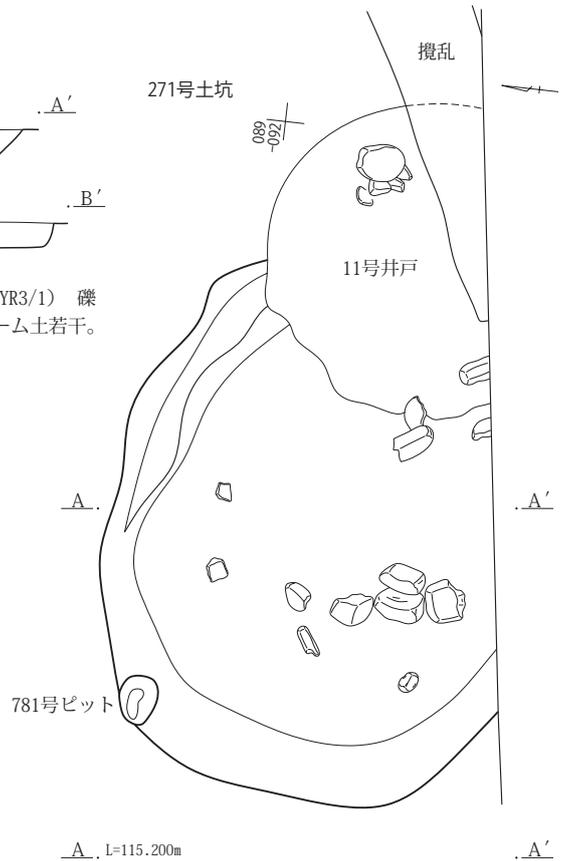
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫少量・塊状ローム土含有。

211号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・塊状ローム土若干。

271号土坑



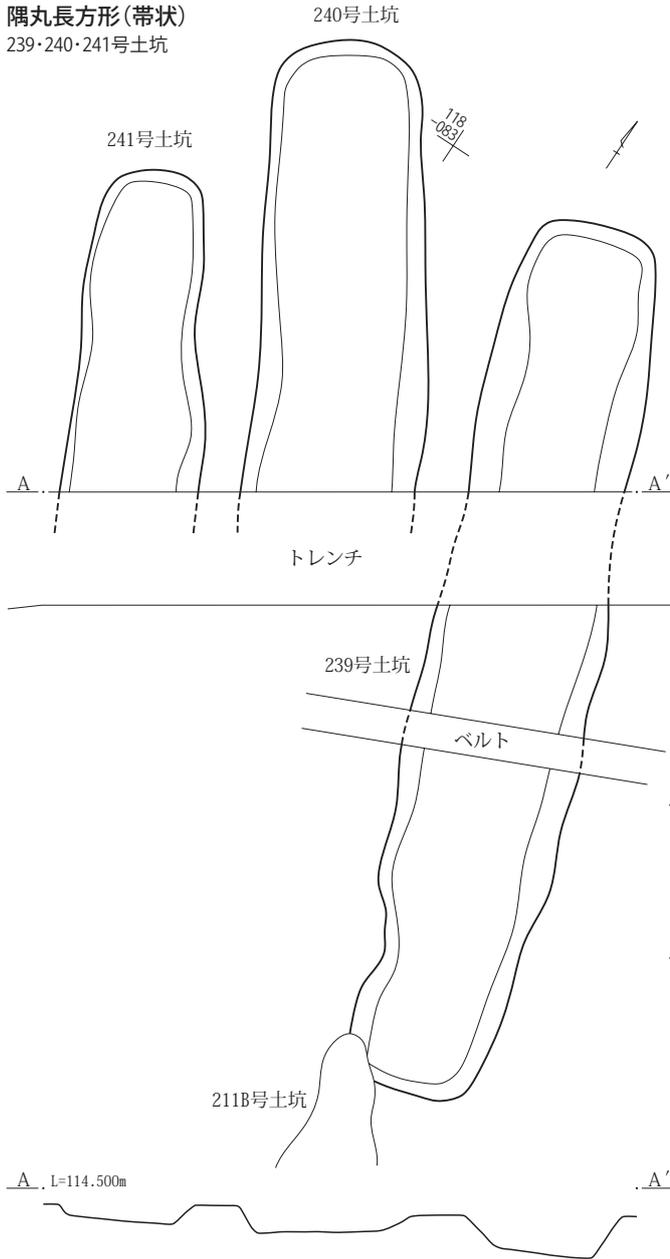
A, L=115.200m

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。小塊状ローム土混入。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・塊状ローム土多量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量・小塊状ローム土含有。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量・塊状ローム土含有。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極少量・塊状ローム土少量。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極少量・塊状ローム土含有。
7. 黒褐色土(10YR3/1)と塊状ローム土の互層(人為層)。

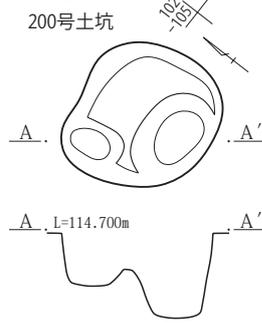
0 1:40 1m

第168図 10区・10-2区隅丸方形・隅丸長方形土坑

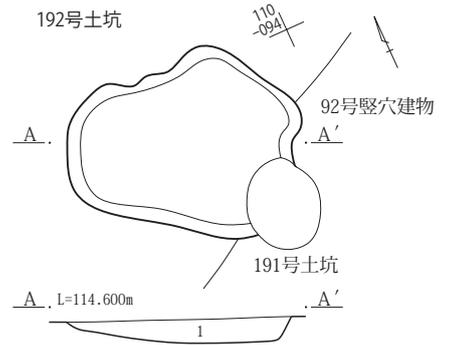
隅丸長方形(帯状)
239・240・241号土坑



不定形
200号土坑

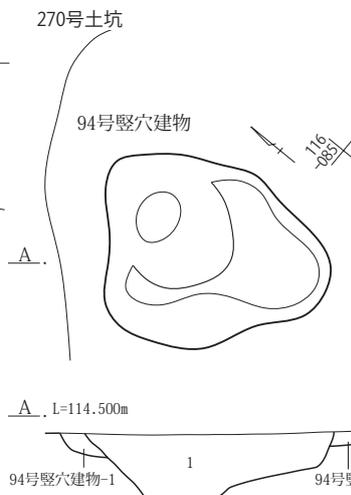


192号土坑

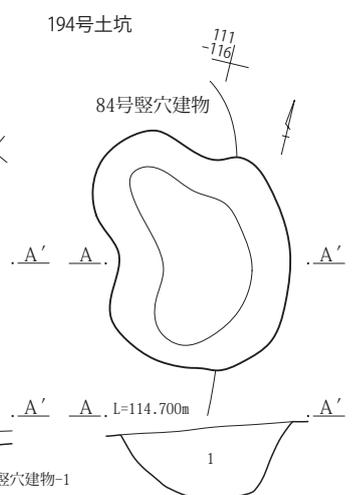


1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量・粗粒状ローム土含有・小塊状ローム土含有。

270号土坑



194号土坑



270号土坑

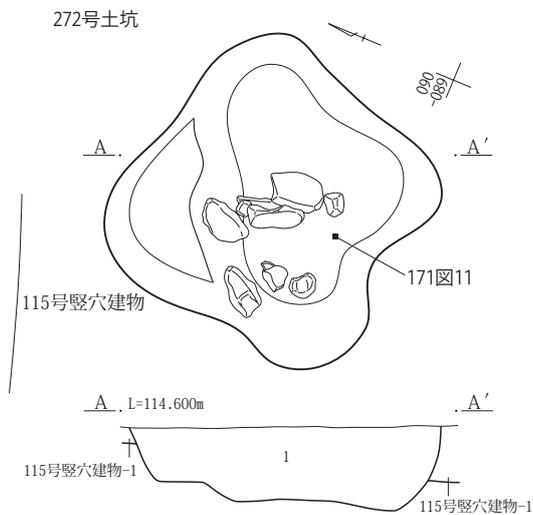
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干。

94号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。

272号土坑



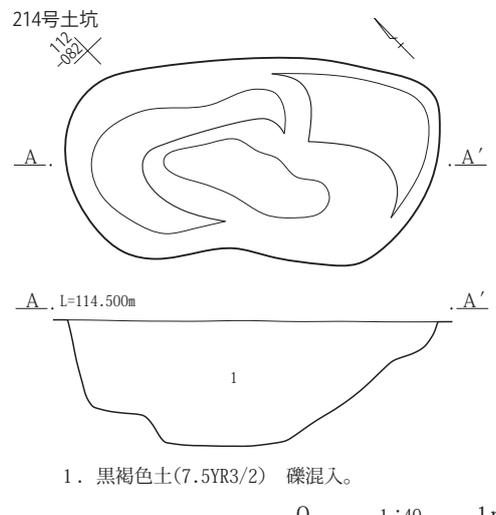
272号土坑

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫少量・塊状ローム土若干。

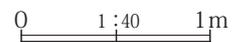
115号竪穴建物

1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫少量・小塊状ローム土少量・粗粒状ローム土含有。

214号土坑



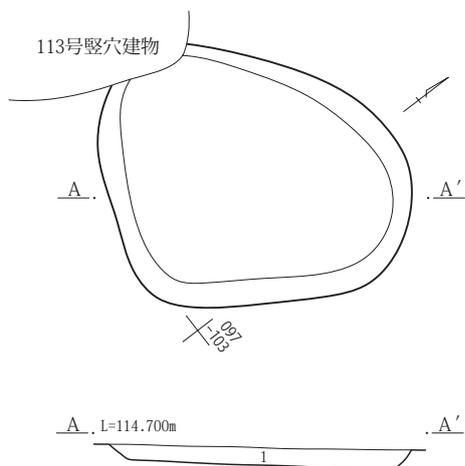
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫混入。



第169図 10区・10-2区隅丸長方形・不定形土坑

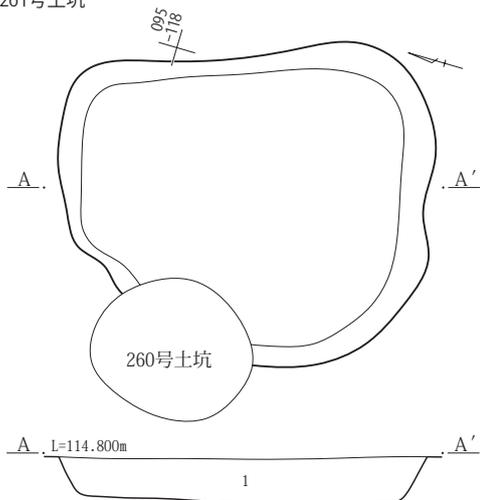
不定形

237号土坑



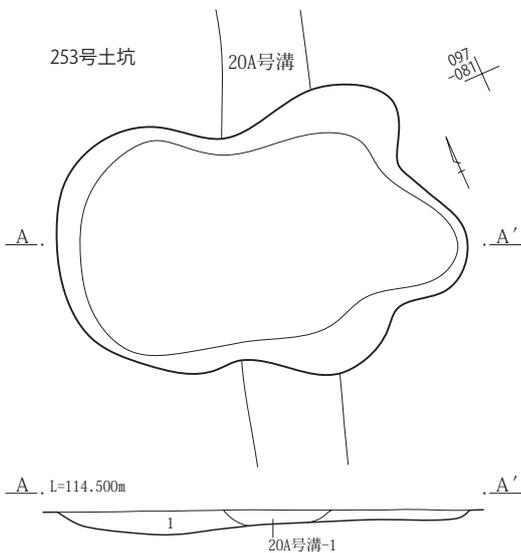
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・細礫含有・粒状炭化物少量。

261号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量。

253号土坑

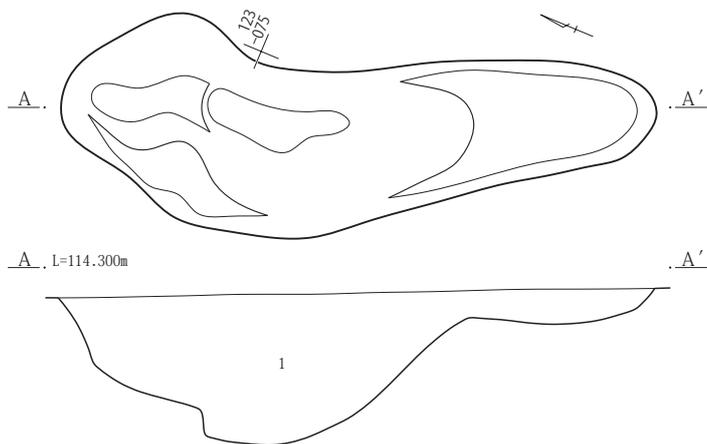


253号土坑
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫少量・塊状ローム土少量。

20A号溝

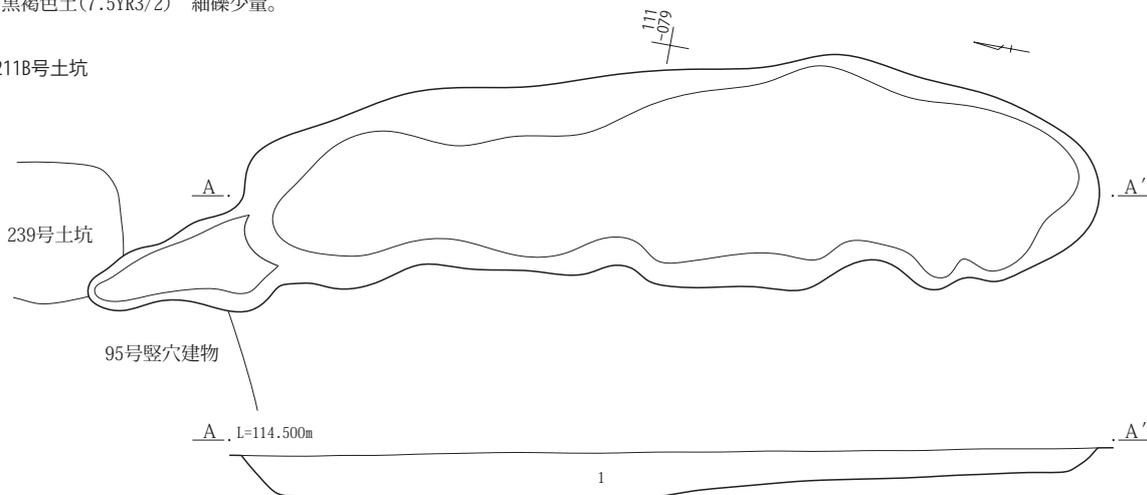
1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 細礫少量。

233号土坑

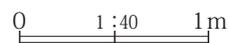


1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫混入・細礫含有・塊状ローム土少量。

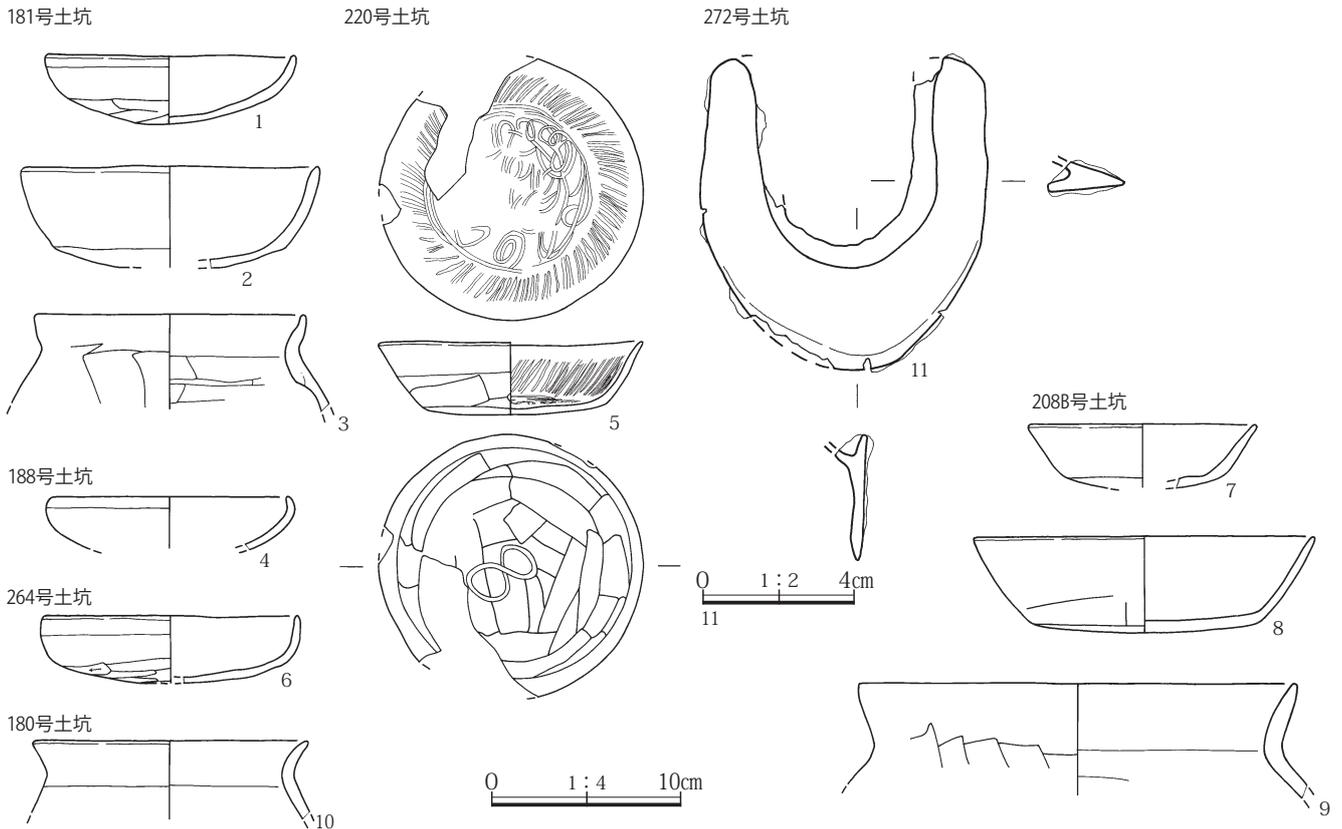
211B号土坑



1. 黒褐色土(10YR3/1) 細礫混入。



第170图 10区・10-2区不定形土坑



第171図 10-2区土坑出土遺物

(6)11区の土坑

(第172・173図 PL.55・56・83 遺物観察表P.279)

11区では円形3基、楕円形4基、不定形2基が検出された。円形土坑は西端と東端に分かれ分布していた。小型の楕円形土坑3基は西半部に集中していた。大型楕円形土坑1基が南東部に検出された。

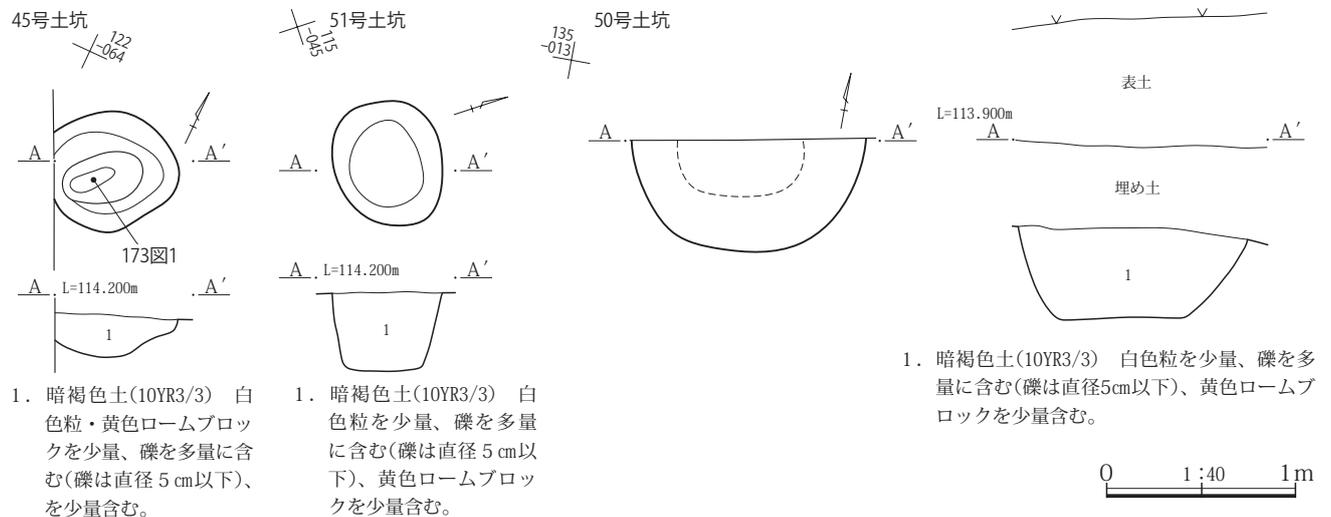
円形土坑 3基が検出された。西端にあった45号土坑か

らは土師器鉢(第173図1)が出土した。

楕円形土坑 4基が検出された。小型の46号土坑、48号土坑は長軸を揃えて並んで検出された。南西部にあった大型楕円形の65号土坑からは、土師器杯(同図2・3)、土師器甕(同図4)が出土した。

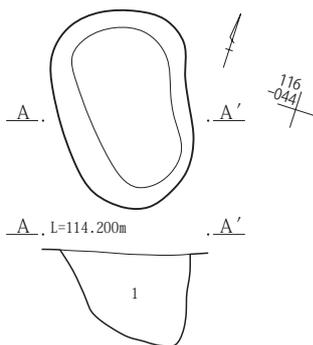
不定形土坑 西端に2基が検出された。44号土坑からは牛伏砂岩製の凹石(同図5)が出土した。

円形



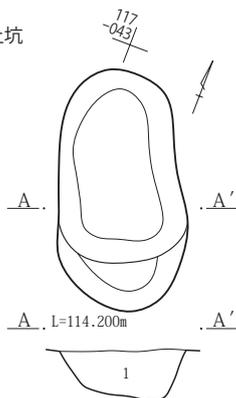
第172図 11区円形土坑

楕円形
46号土坑



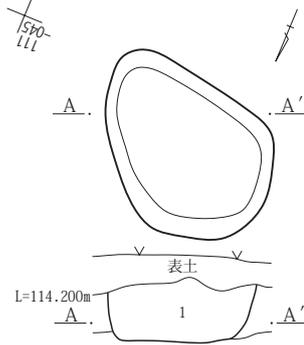
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。

48号土坑



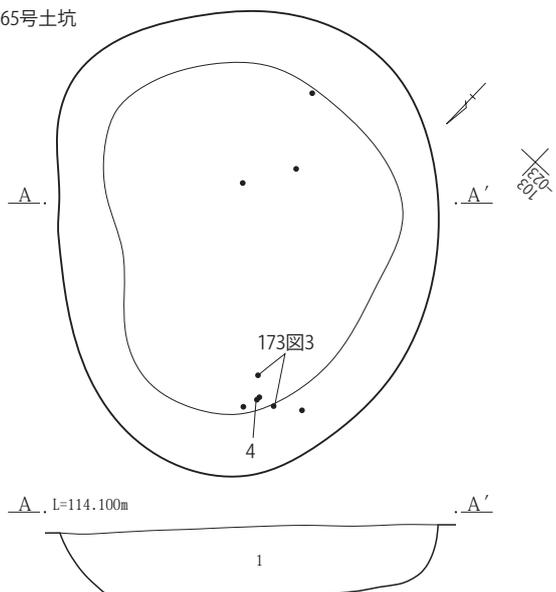
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。

47号土坑



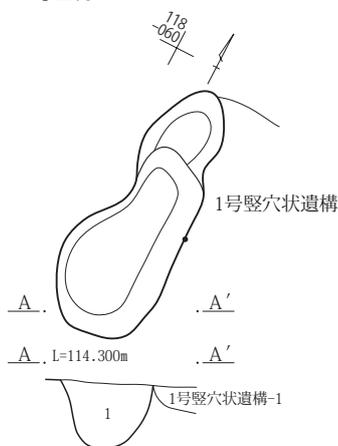
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。

65号土坑



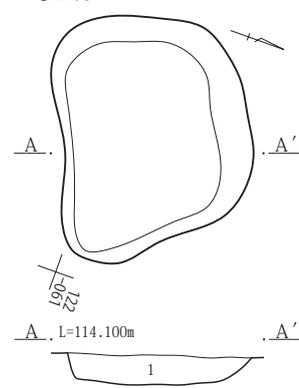
1. 黒褐色土(10YR2/2) 100mmφ以下の礫を少量含む砂利層。縮まりのある土。

不定形
49号土坑

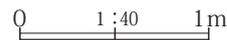


49号土坑
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。
1号竪穴状遺構
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は亜角礫直径5cm未満)黄色ローム砂層を少量含む。

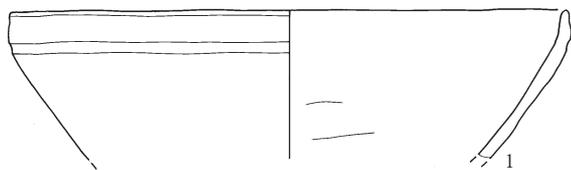
44号土坑



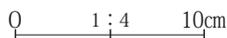
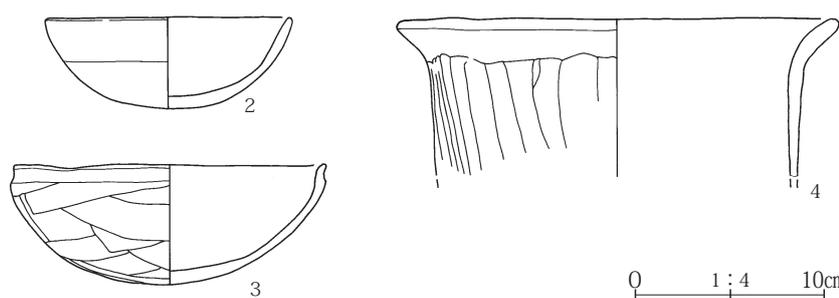
1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。



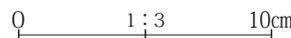
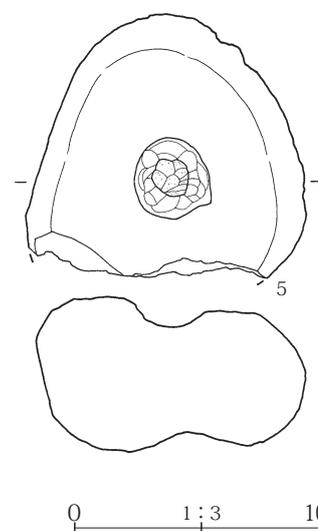
45号土坑



65号土坑



44号土坑



第173図 11区楕円形・不定形土坑

10. ピット

(第174～191図 PL.56～58・83 遺物観察表P.279・280)

塩川砂井戸遺跡では、単独のピット887基が検出された。内訳は6区・6-2区38基、7区・7-2区9基、8-2区42基、9区45基、10区・10-2区747基、11区6基である。これらのピットは、6区から11区の竪穴建物群のなかで全体に散在していたが、10-2区のみ多くのピットが集中して検出された。本報告書では、ピット平面図を1/160の割図12枚にして掲載した。特にピットが集中して検出された10-2区は1/100平面図を付図として掲載した。土層断面図はすべてのピットで記録していないが、記録できたピットについては掲載した。その他の多くのピットは断面形のための記録になったが、その断面図については今回の報告書からは割愛した。個々のピットの規模・形態・埋没土のパターン分類は巻末の遺構計測一覧表(P.227)にまとめた。また、実測したもの以外の出土遺物の状況は非実測遺物一覧表(P.282)にまとめた。各区のピットの調査状況は下記の通りである。

6区・6-2区では、比較的直径が大きく深いピットが検出されたが、掘立柱建物を構成する柱穴として把握

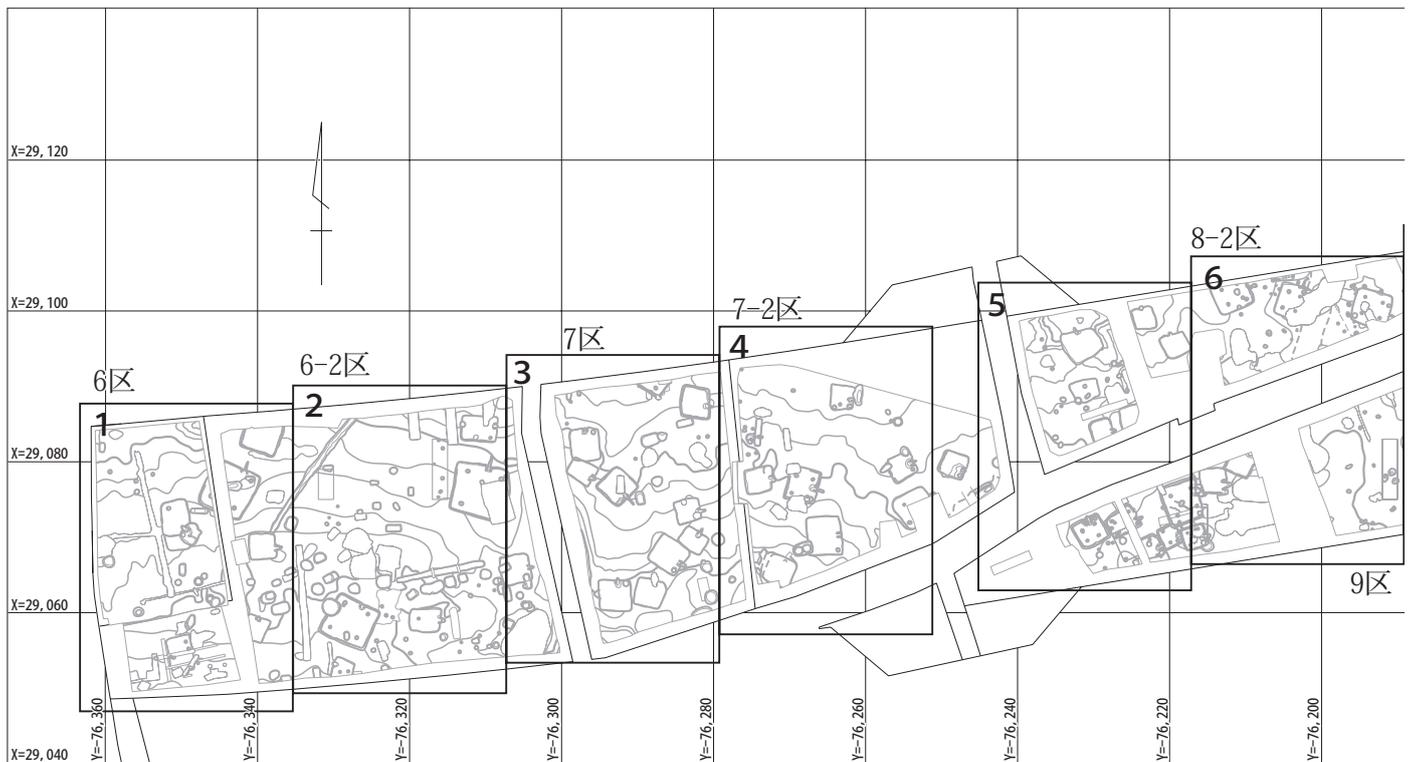
するのは困難であった。

7区・7-2区では検出されたピットは他の調査区より少なく、出土遺物も無かった。

8-2区および9区では竪穴建物群の周囲にピットが検出されたが、掘立柱建物を構成する柱穴として把握するのは困難であった。8-2区のピットからは土師器小片が出土した。9区の複数のピットからも土師器破片が出土したなかで、9区355号ピットからは完形に近い土師器杯(第175図2)が出土した。

10区のピットの分布は9区と変わらない状況であったが、10-2区にはピットが集中して検出された。10-2区にはピットの他に1号掘立柱建物や柱穴列、中世・近世の井戸があり、居宅等があった地点と推定される。

10-2区のピットは、平面形が方形のピットと円形のピットに分類することができた。方形ピットの埋没土は古墳時代の竪穴建物埋没土とは異なり、浅間B軽石・ローム小塊を含む黒褐色土であった。中世以降の所産の指標となる浅間B軽石を含有することから、方形ピットの時期を中世以降、さらに形状特性から中世後半から戦国期の所産と判断した。円形ピットの埋没土は古代の竪穴建物の埋没土・覆土と同様であり、基本土層IV層をベース

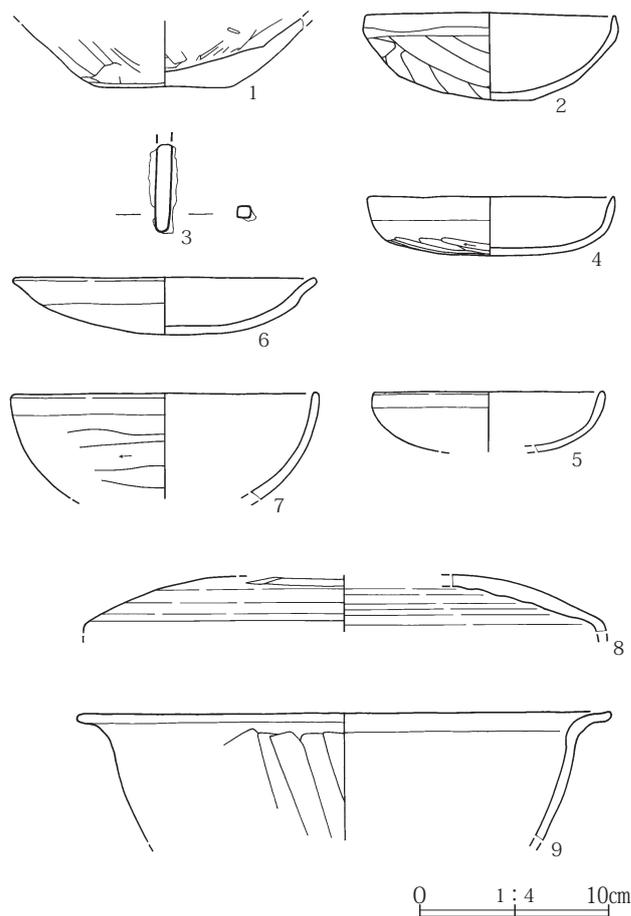


第174図 ピット全体図

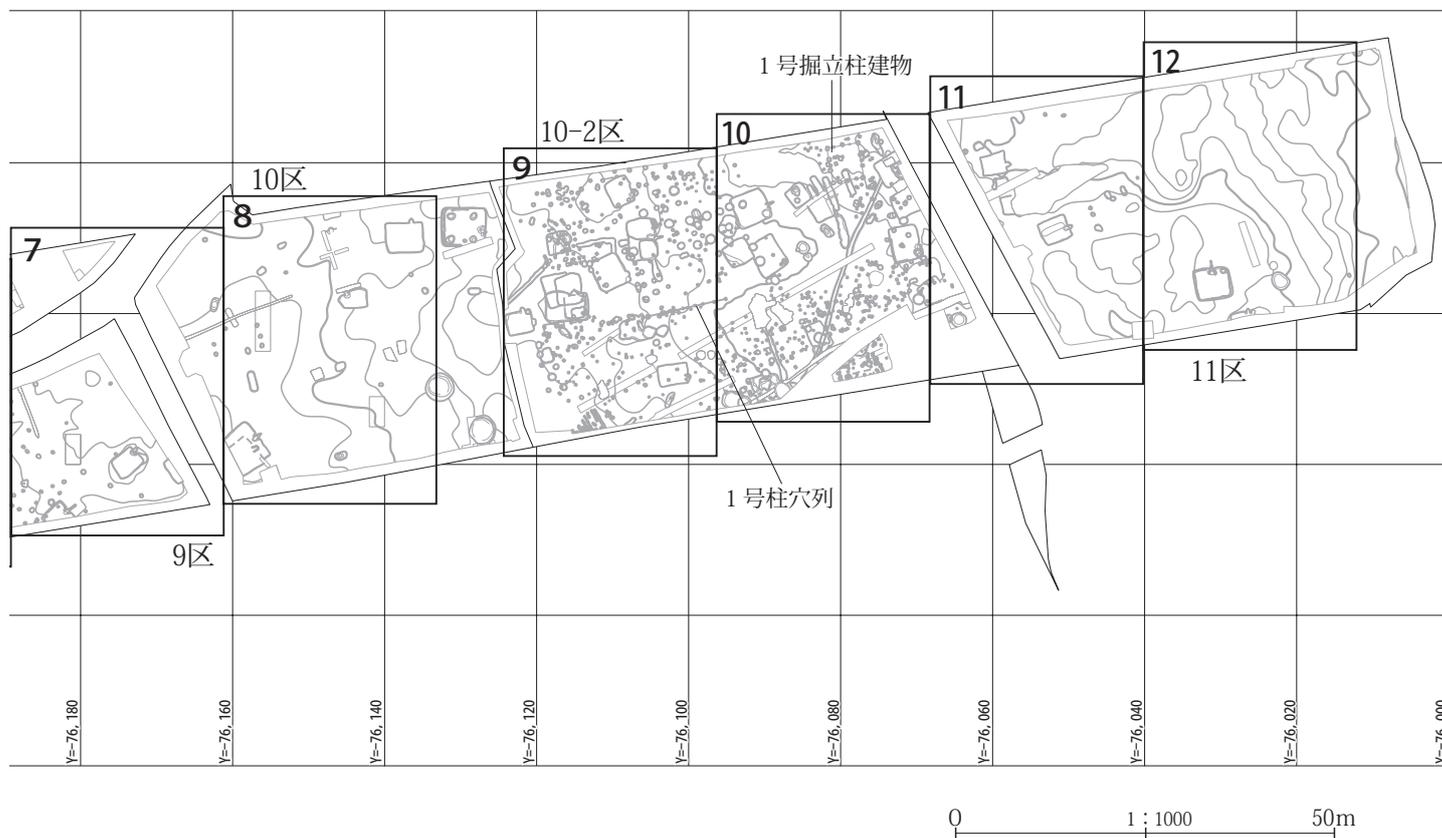
10. ピット

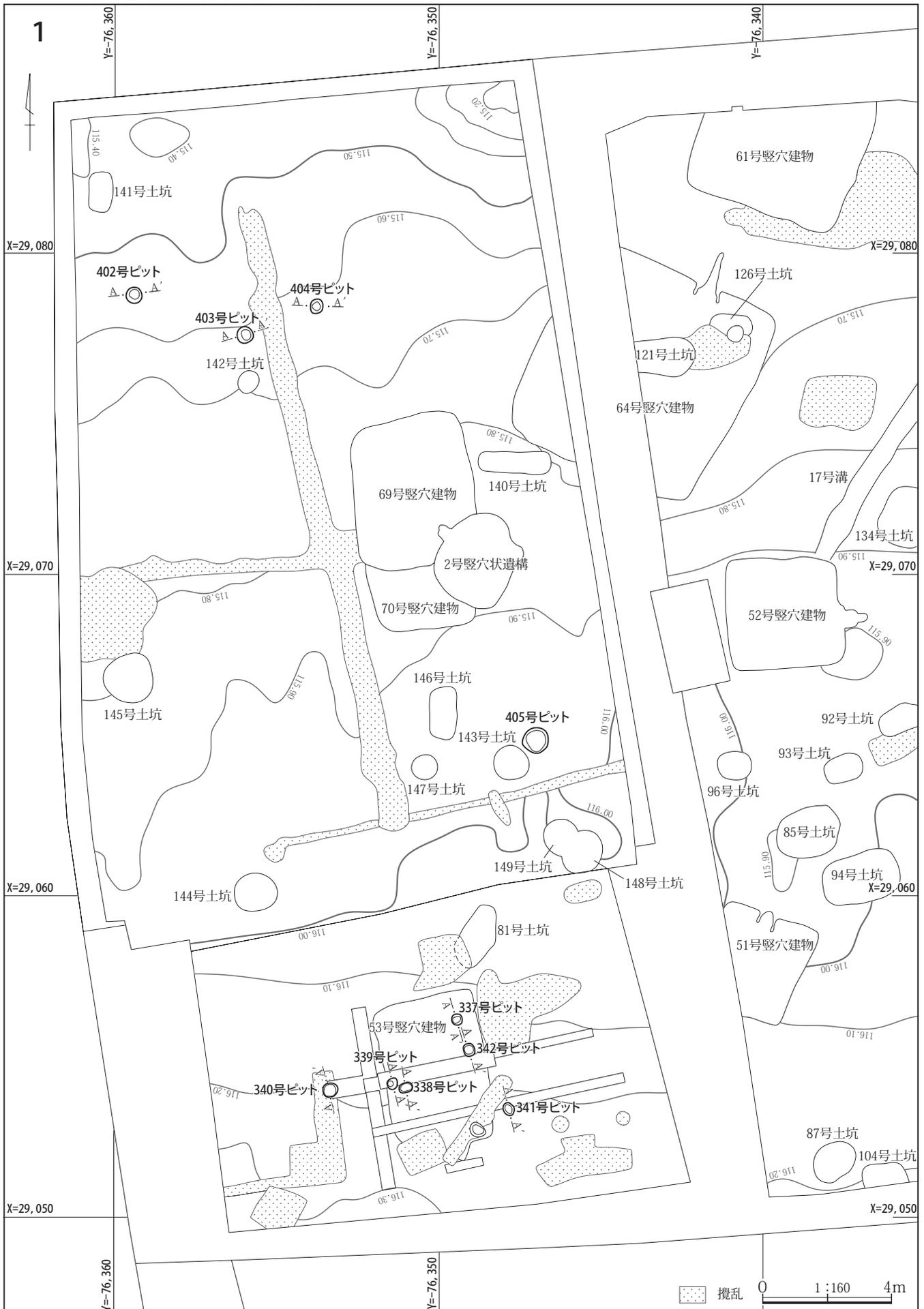
とする堆積土であった。このことから、後者の所産時期を古代と判断した。このように10-2区では中世・近世の建物遺構の存在が想定されたが、調査および報告書作成期間のなかでは検討することができなかった。今後の検討に備えて、10-2区のみ1/100平面図を付図として掲載することとした。

全体の出土遺物の状況は巻末の非掲載遺物一覧表に記載したが、ここでは9基のピット埋没土中から出土した土師器・須恵器9点を実測・掲載した。6-2区403号ピット土師器甕破片(第175図1)、8-2区1002号ピット鉄製釘(同図3)、9区355号ピット土師器杯(同図2)、10区347号ピット土師器杯(同図6)、10-2区440号ピット須恵器長頸壺(同図8)、10-2区618号ピット土師器鉢(同図9)、10-2区690号ピット土師器杯(同図4)、10-2区927号ピット土師器杯(同図5)、11区303号ピット土師器杯(同図7)である。ただし、これらがピットの時期を示すかどうかは不明である。周囲に古墳時代・古代の集落があることから、混入の可能性が高いであろう。中世・近世の出土遺物は小片が多く、実測・掲載しなかった。

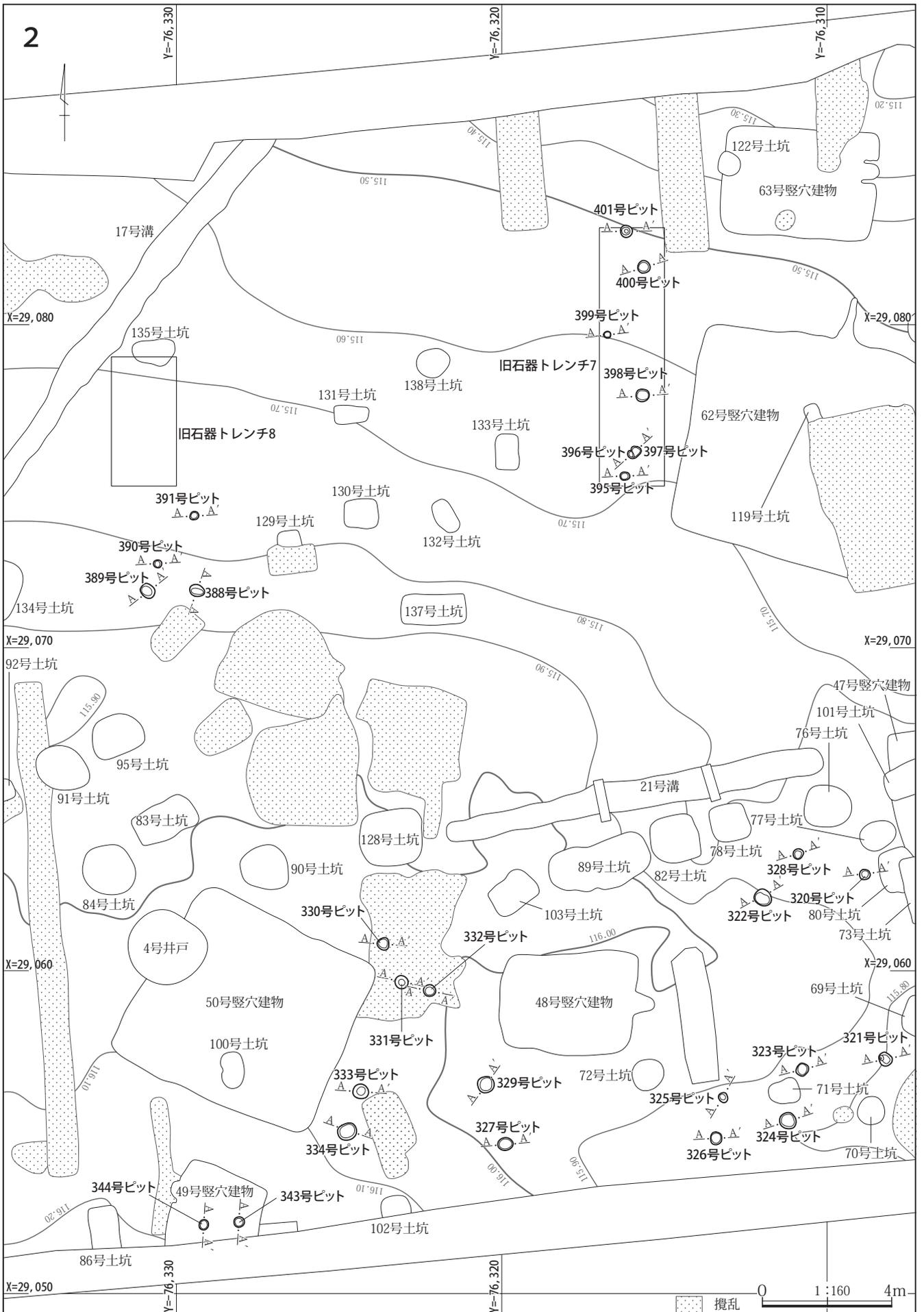


第175図 ピット出土遺物

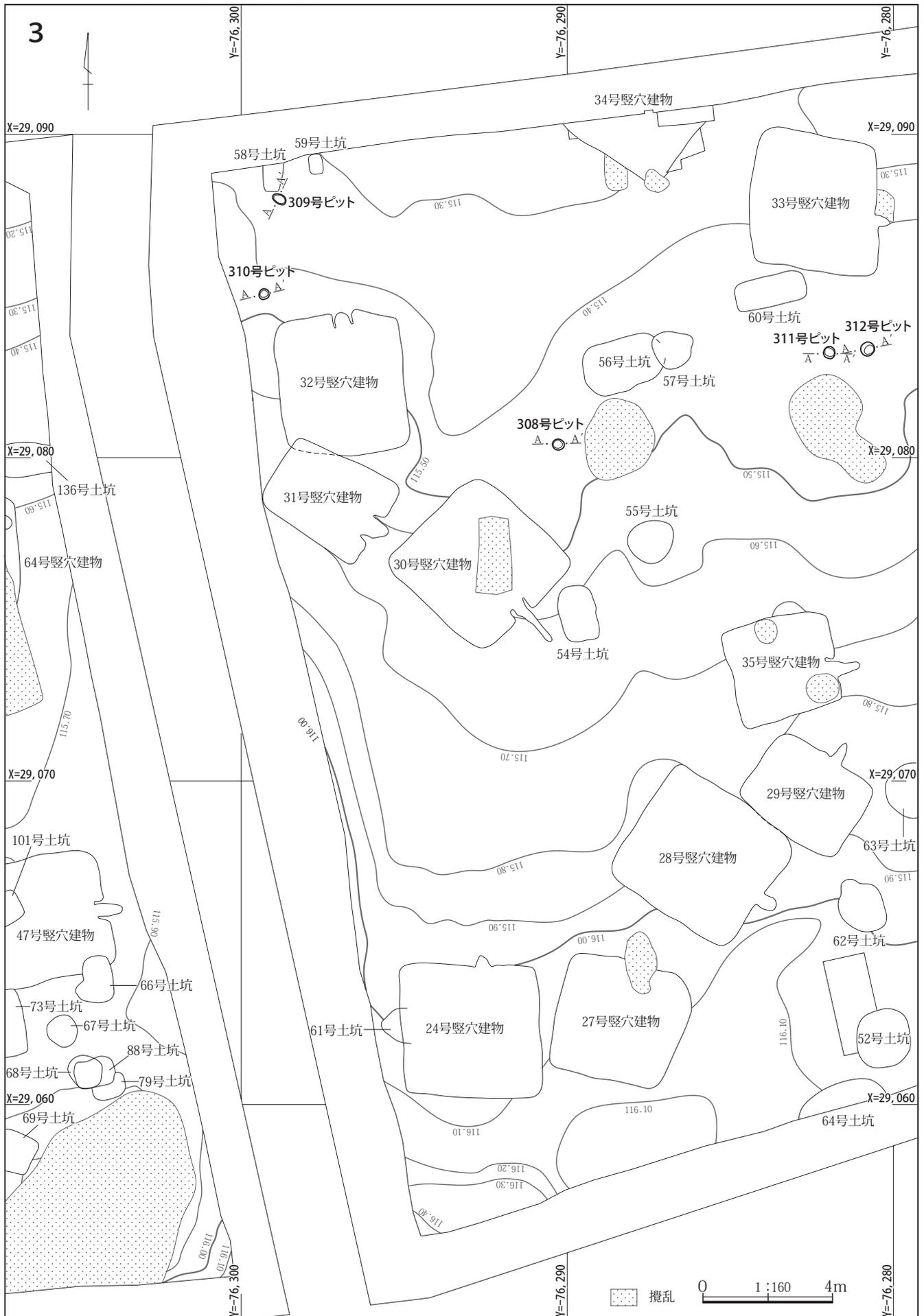




第176図 ピット位置図(1)

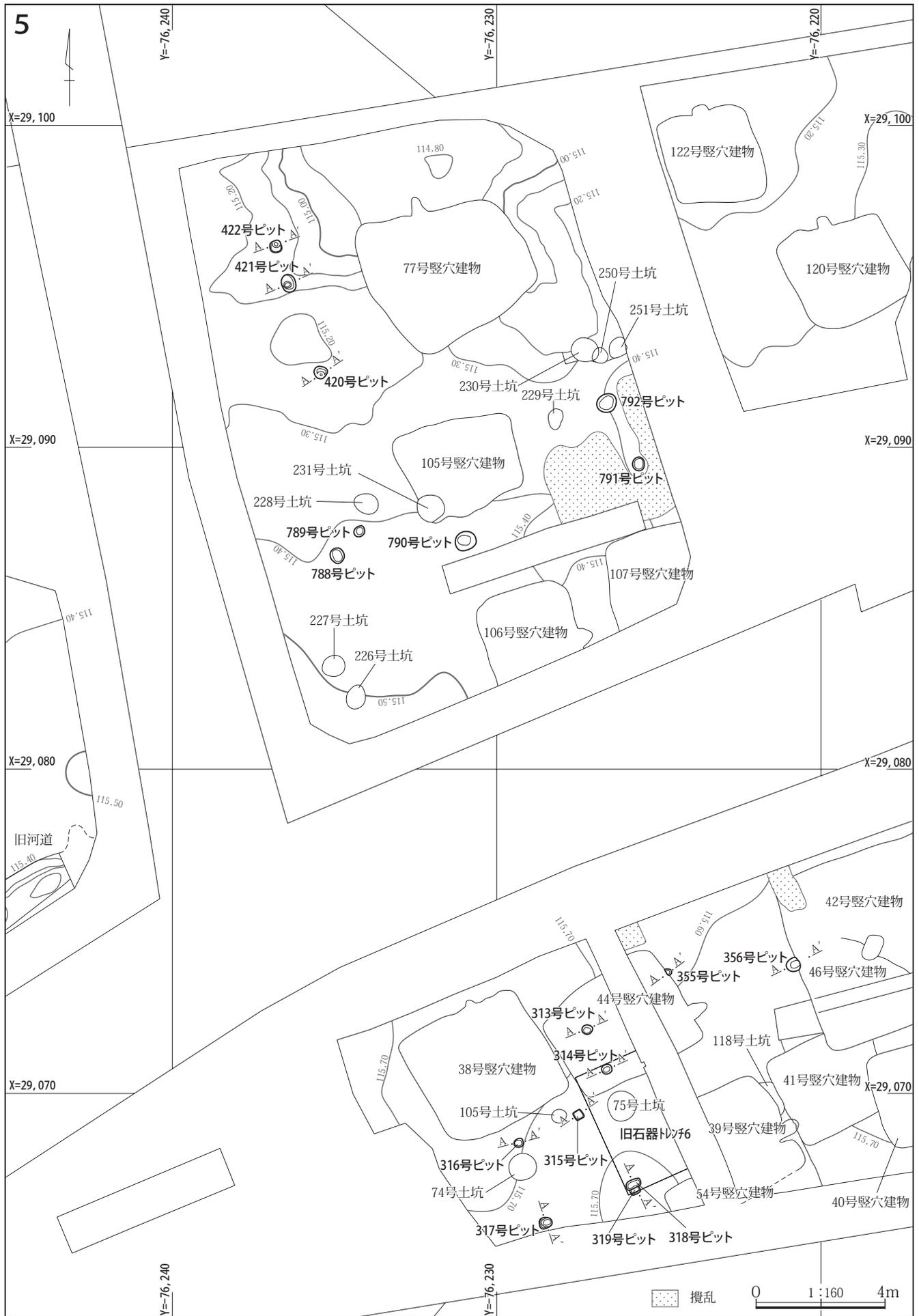


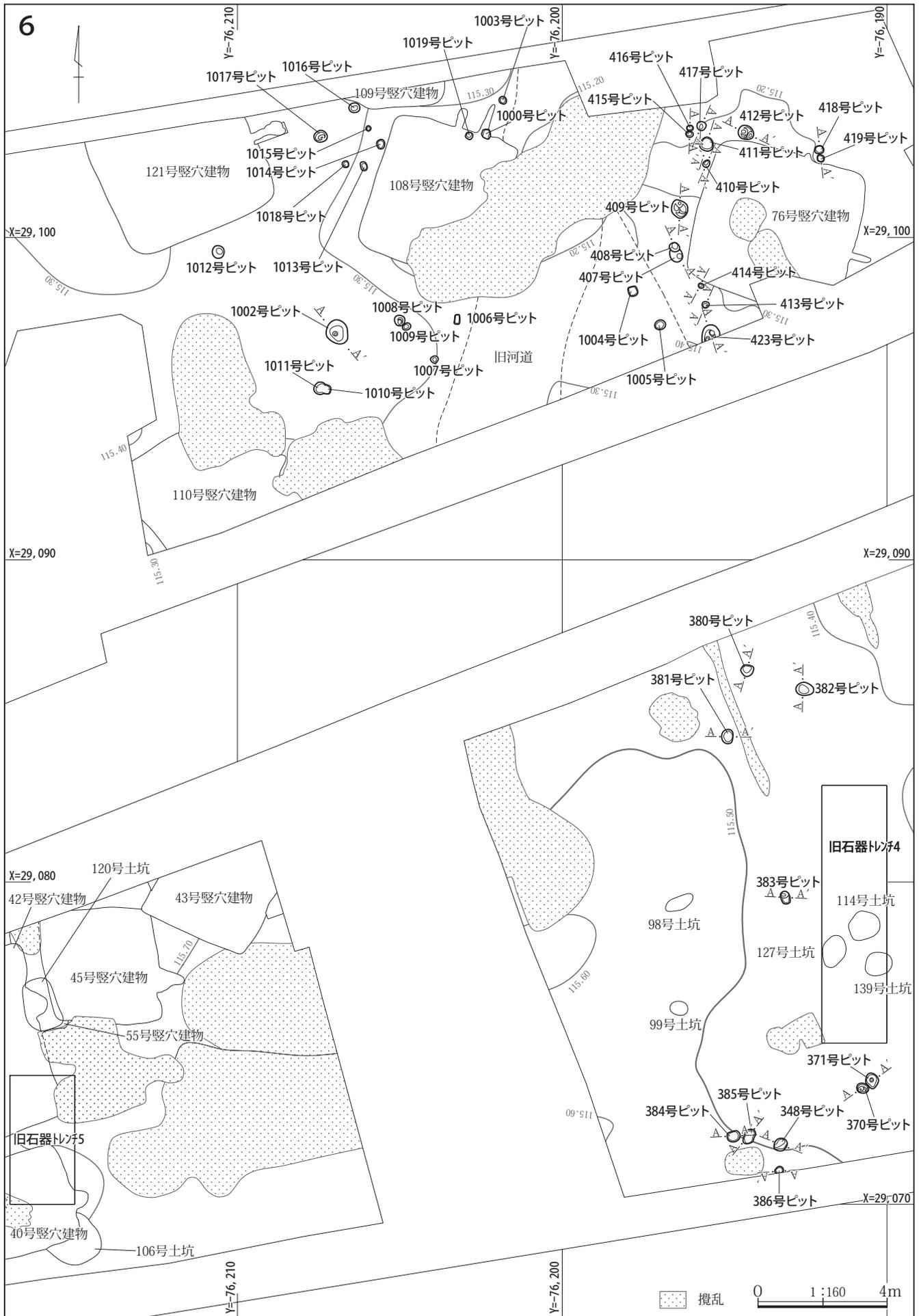
第177図 ピット位置図(2)



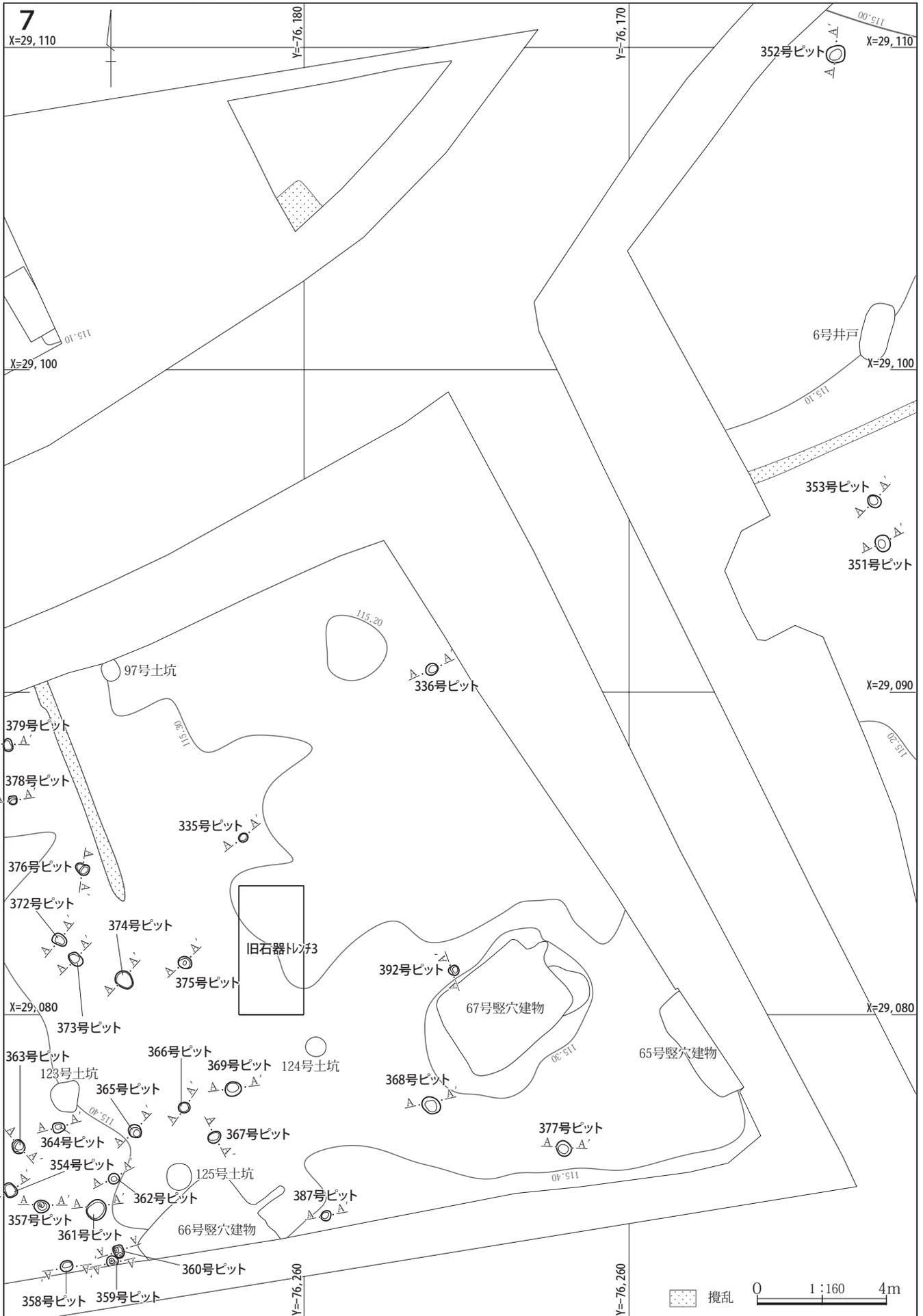


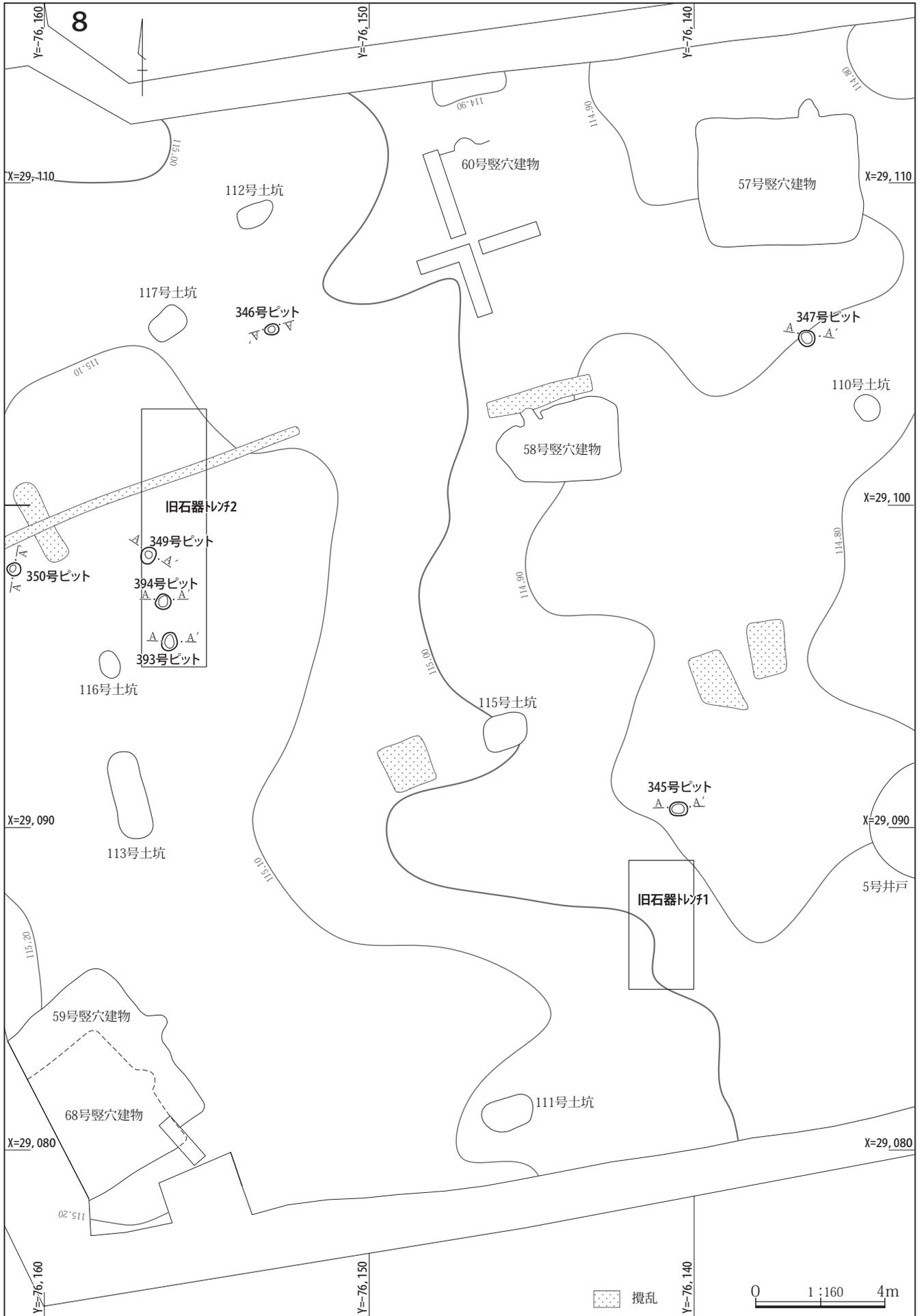
第179図 ピット位置図(4)



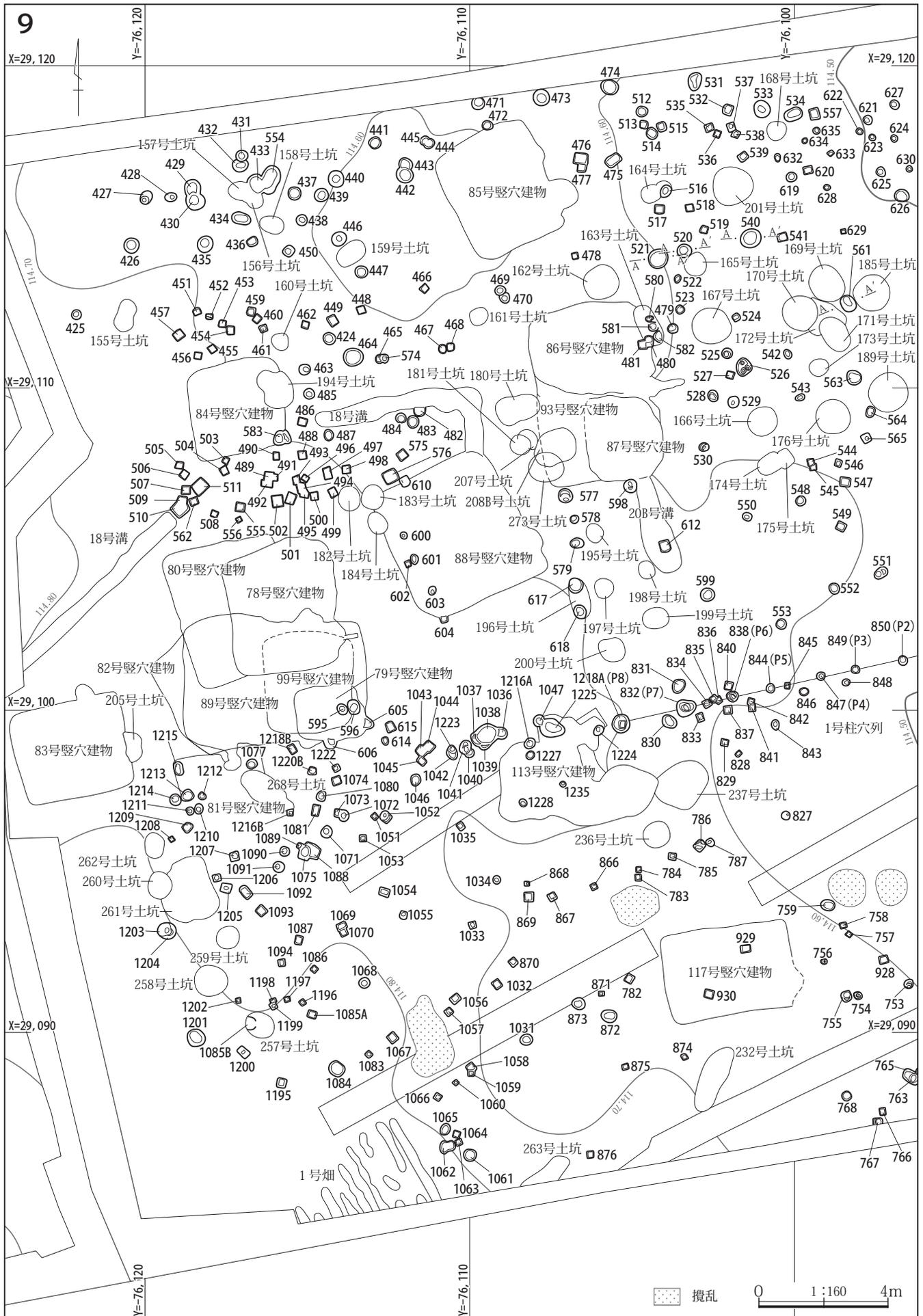


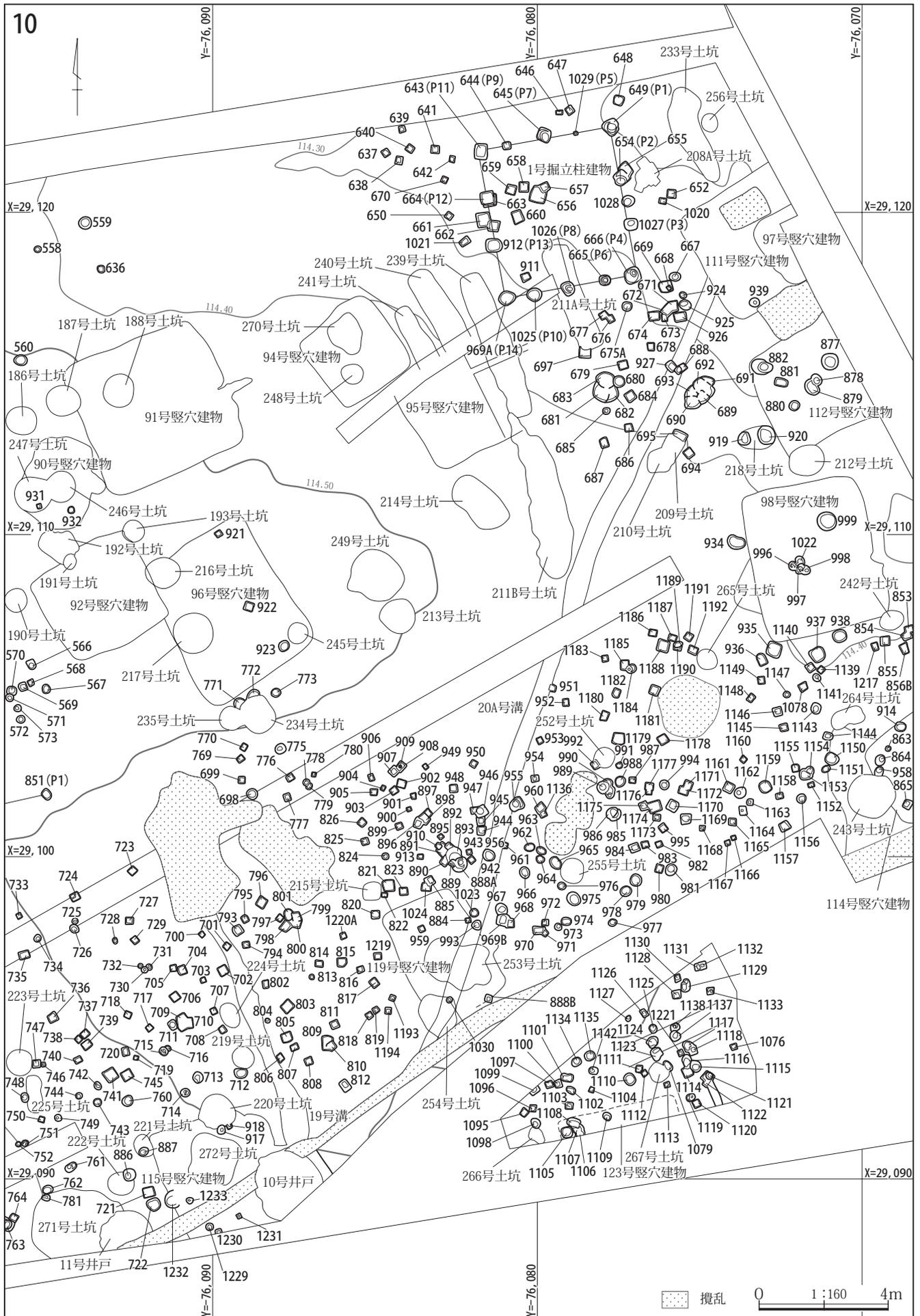
第181図 ピット位置図(6)



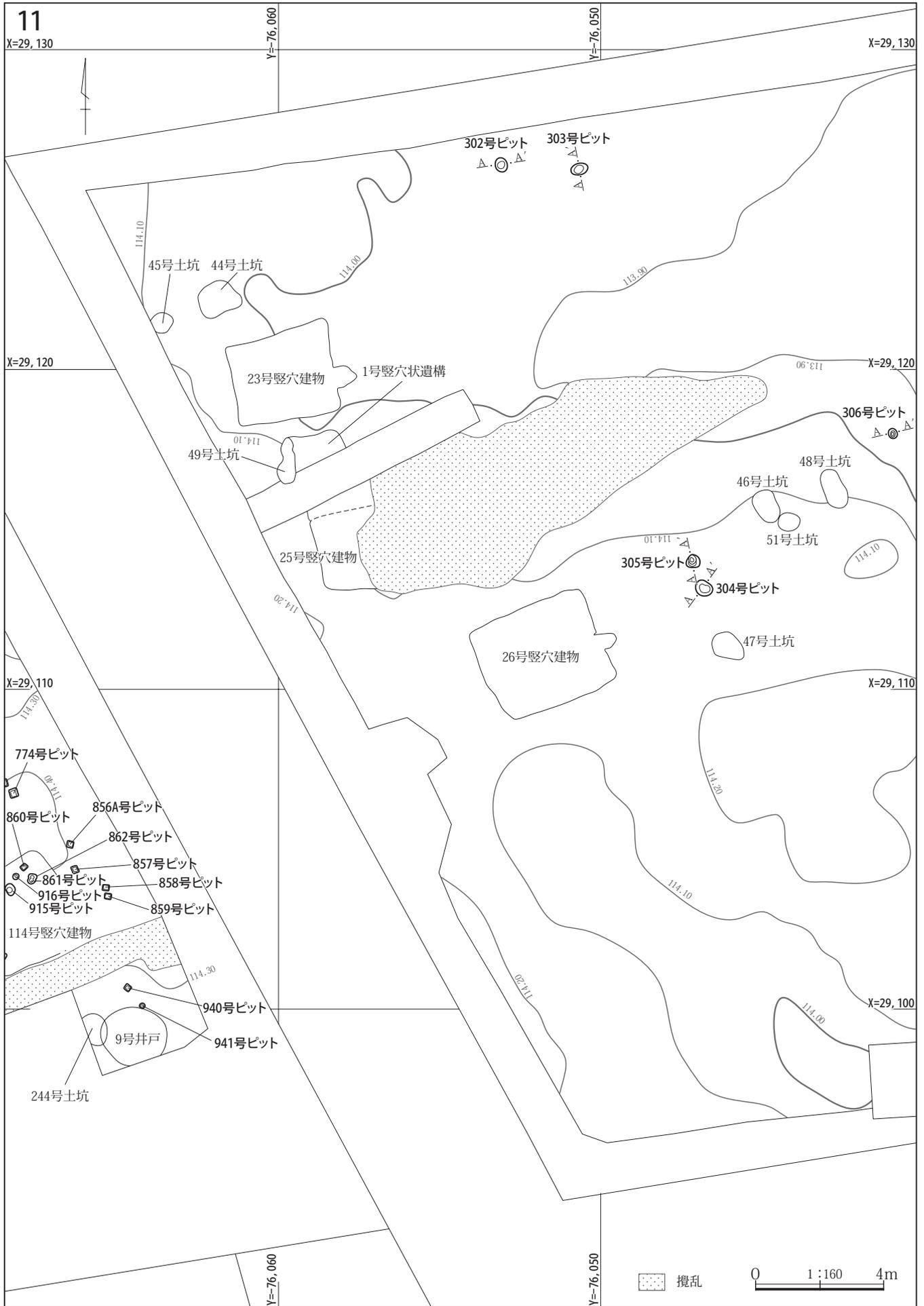


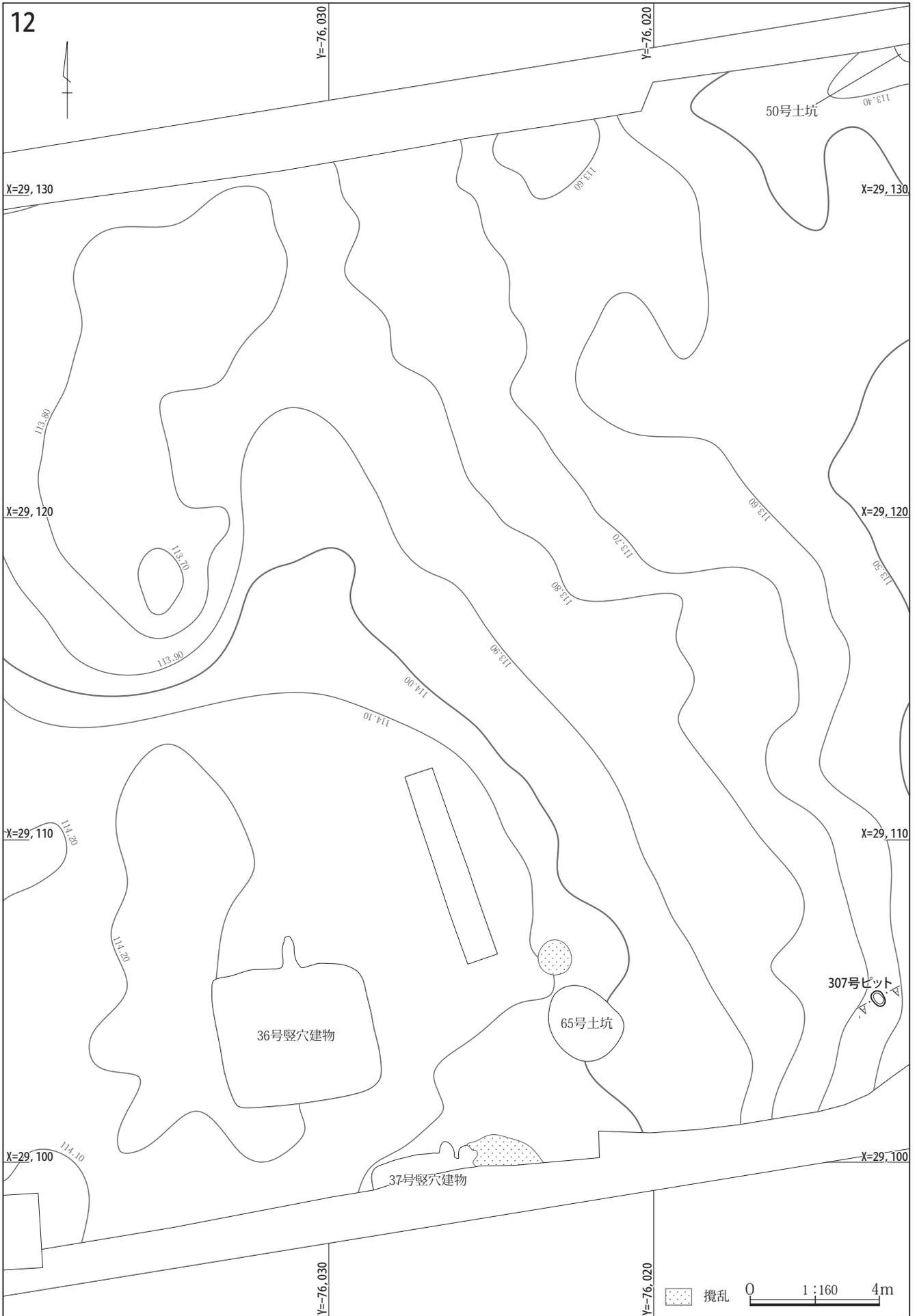
第183図 ピット位置図(8)





第185図 ピット位置図(10)

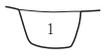
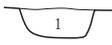
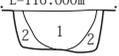
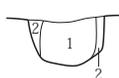
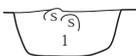
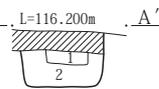
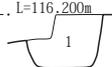
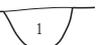
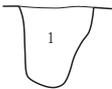
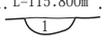
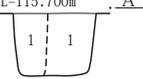


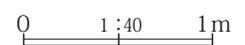


第187図 ピット位置図(12)

第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

6区

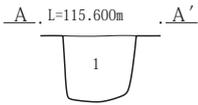
<p>320号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の炭化物と黄褐色ブロックを含む。</p>	<p>321号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と小礫を含む。 2. 黄褐色土 多量の黄褐色粒が混入。</p>	<p>322号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と小礫を含む。 2. 黄褐色土 多量の黄褐色粒が混入。</p>	<p>323号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と径の大きい黄褐色粒ブロックを含み、小礫を多量に含む。</p>	<p>324号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と径の大きい黄褐色粒ブロックが混入。</p>
<p>325号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と炭化粒を含む。 2. 黄褐色土 多量の黄褐色粒を含む。</p>	<p>326号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と炭化粒を含む。</p>	<p>327号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と小礫を含む。 2. 黄褐色土 多量の黄褐色粒が混入。</p>	<p>328号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と小礫を含む。</p>	<p>329号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と黄褐色粒を含む。長辺30cmくらいの扁平石有り。</p>
<p>330号ピット A, L=116.100m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の礫と焼土粒・炭化粒を含む。</p>	<p>331号ピット A, L=116.100m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 暗赤褐色粒と黄褐色粒が混入。</p>	<p>332号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の焼土粒と黄褐色粒を含む。 2. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒を含む。</p>	<p>333号ピット A, L=116.100m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 小礫と黄褐色粒ブロックが混入。</p>	<p>334号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 小礫と少量の黄褐色粒ブロックを含む。</p>
<p>337号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒が混入、ごく少量の炭化粒有り。</p>	<p>338号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒が混入、ごく少量の炭化粒有り。</p>	<p>339号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒が混入、ごく少量の炭化粒有り。</p>	<p>340号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 軽石粒多く混入(耕作跡)。 2. 暗褐色土 黄褐色粒少量混入。</p>	<p>341号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒が混入、ごく少量の炭化粒有り。</p>
<p>342号ピット A, L=116.200m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 礫と黄褐色粒が混入、ごく少量の炭化粒有り。</p>	<p>343号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 軽石粒を含む。</p>	<p>344号ピット A, L=116.000m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 軽石粒を含む。</p>	<p>388号ピット A, L=115.900m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の礫と黄褐色粒を含み、軽石粒多量でザラザラ感有り。</p>	<p>389号ピット A, L=115.900m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 暗赤褐色粒と黄褐色粒を多く含み、極少量の炭化粒を含む。</p>
<p>391号ピット A, L=115.800m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 小礫と黄褐色粒を多く含む。</p>	<p>395号ピット A, L=115.700m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 多量の黄褐色粒と極少量の炭化粒を含む。</p>	<p>396・397号ピット A, L=115.700m, A'</p>  <p>396号ピット 1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と炭化粒を含む。 397号ピット 1. 暗黄褐色土 多量の黄褐色粒・ブロックを含む。</p>	<p>398号ピット A, L=115.700m, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の礫・炭化粒と黄褐色粒を含む。</p>	<p>399号ピット L=115.700m, A, A'</p>  <p>1. 暗褐色土 少量の黄褐色粒と炭化粒を含む。396号ピットに近い。</p>



第188図 ピット土層断面図(1)

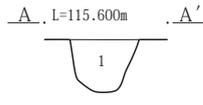
6区

400号ピット



1. 暗褐色土 少量の礫・炭化粒と黄褐色色粒を含む。

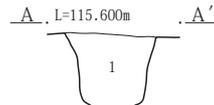
401号ピット



1. 暗褐色土 少量の礫・炭化粒と黄褐色色粒・ブロックを含む。

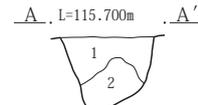
6-2区

402号ピット



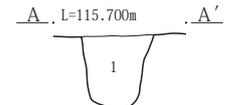
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・細礫多量。

403号ピット



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・細礫多量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫含有。

404号ピット



1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫多量・細礫多量。

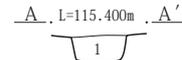
7区

308号ピット



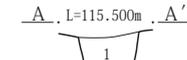
1. 暗褐色土 暗赤褐色土と黄褐色色粒を多く含む。
2. 暗褐色土 黄褐色色粒を多く含む。

309号ピット



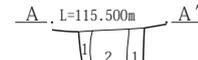
1. 暗褐色土 暗赤褐色色粒を多く含む。

310号ピット



1. 暗褐色土 暗赤褐色色粒を多く含む。

311号ピット



1. 暗褐色土 暗褐色土と黄褐色色粒を多く含む。
2. 暗褐色土 暗赤褐色色粒を多く含む。

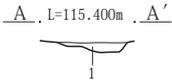
312号ピット



1. 暗褐色土 暗赤褐色色粒を多く含む。

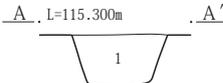
7-2区

406号ピット



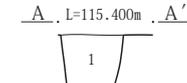
1. 褐灰色土(7.5YR4/1) 礫含有。

585号ピット



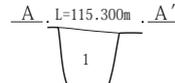
1. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状ローム多量、礫なし。

592号ピット



1. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状ローム多量、礫なし。

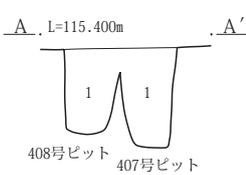
593号ピット



1. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状ローム多量、礫なし。

8-2区

407・408号ピット

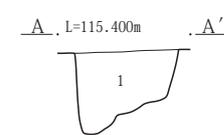


407号ピット 408号ピット

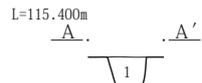
407号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。

408号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土少量。

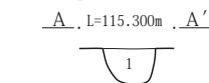
409号ピット



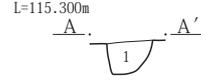
413号ピット



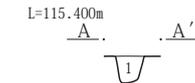
417号ピット



410号ピット



414号ピット

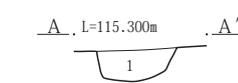


418・419号ピット

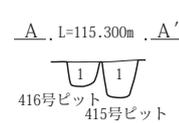


418号ピット 419号ピット

411号ピット



415・416号ピット

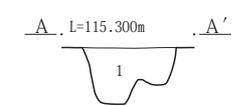


416号ピット 415号ピット

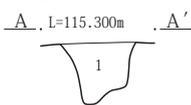
409～419号ピット

1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫微量・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。

412号ピット

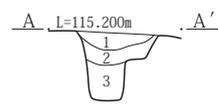


420号ピット



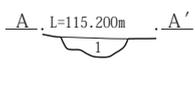
1. 黒褐色土(10YR3/2) 細礫若干・粒状炭化物含有。

421号ピット



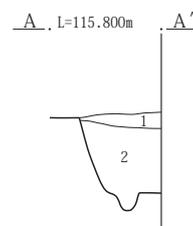
1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫極微量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 5mm φ～15mm φ砂礫多量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 礫極微量。

422号ピット



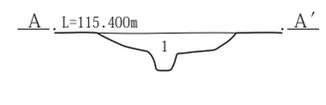
1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫含有。

423号ピット

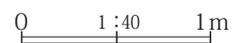


1. 黒褐色土(10YR3/2) 礫若干。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 礫若干・塊状明黄褐色(2.5Y6/6)土含有。

1002号ピット



1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状ローム土混入。



第189図 ピット土層断面図(2)

第三章 塩川砂井戸遺跡の遺構と遺物

9区



0 1:40 1m

第190図 ピット土層断面図(3)

9区

375号ピット

A, L=115.500m, A'



1. 褐色土(10YR4/4) 白色鉱物粒を少量含む。やや粘性があり、締めりのある土。

376号ピット

A, L=115.500m, A'



1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 焼土粒・ロームブロックを含む。締めりのある土。

377号ピット

A, L=115.400m, A'



1. 黒褐色砂質土(10YR3/2) 5~30mmφの円礫を10%程度含む。

378号ピット

L=115.500m, A, A'



1. 褐色土(10YR4/4) 白色鉱物粒を少量含む。やや粘性があり、締めりのある土。

379号ピット

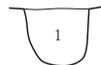
L=115.500m, A, A'



1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 焼土粒・ロームブロックを含む。締めりのある土。

380号ピット

A, L=115.500m, A'



1. 暗褐色シルト質土(10YR3/3) 焼土粒・ロームブロックを含む。締めりのある土。

381号ピット

A, L=115.600m, A'



1. 黒褐色土(10YR2/2) 5mmφの小礫を10%程度含む。締めりのある土。
2. 褐色シルト質土(10YR4/4) 小礫を少量含む。

382号ピット

A, L=115.500m, A'



1. 黒褐色土(10YR2/2) 小礫を1含む。下位はやや黄褐色シルト質土になる。締めりのある土。

383号ピット

L=115.500m, A, A'



1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色鉱物粒を少量含む。
2. 褐色土(10YR3/4) やや粘性のある土。

384号ピット

A, L=115.600m, A'



1. 褐色土(10YR4/6) ローム粒を多く、赤褐色粒を少量含む。硬く締めりのある土。

385号ピット

A, L=115.600m, A'



1. 褐色土(10YR4/4) ロームブロックを20%程度含む。締めりのある土。

386号ピット

L=115.600m, A, A'



1. 暗褐色土(10YR3/3) シルト質。

387号ピット

L=115.500m, A, A'



1. 灰黄褐色土(10YR4/2) 砂質で締めりのある土。

392号ピット

L=115.400m, A, A'

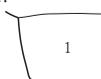


1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 砂質で50mmφの角礫を含む。

10区

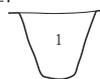
345号ピット

A, L=114.900m, A'



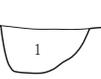
346号ピット

A, L=115.100m, A'



347号ピット

A, L=115.000m, A'



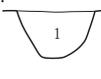
350号ピット

A, L=115.200m, A'



349号ピット

A, L=115.200m, A'



351号ピット

A, L=115.200m, A'



352号ピット

A, L=115.100m, A'



353号ピット

A, L=115.200m, A'



345~347・349~353号ピット
1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒を若干、亜円礫を多量に含む、亜円礫は直径10cm未満主体。

393号ピット

A, L=115.200m, A'

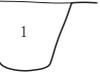


1. 黒褐色土(10YR3/2) 白色粒、小礫を多く含む、ややしまりあり。

10-2区

520号ピット

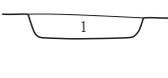
A, L=114.600m, A'



1. 褐色土(10YR3/2) 礫50mmφ~70mmφ含有。

521号ピット

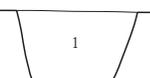
A, L=114.700m, A'



1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 礫微量・塊状ローム土含有。

540号ピット

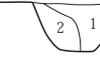
A, L=114.600m, A'



1. 黒褐色土(10YR3/1)・黒褐色土(7.5YR3/1)の混土・礫少量。

561号ピット

A, L=114.600m, A'

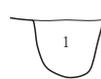


1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫微量・塊状ローム土混入。
2. 黒褐色土(7.5YR3/1) 礫微量・塊状ローム土多量。

11区

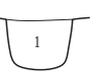
302号ピット

A, L=114.100m, A'



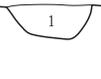
303号ピット

A, L=114.100m, A'



304号ピット

A, L=114.200m, A'



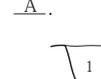
305号ピット

A, L=114.200m, A'



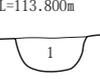
306号ピット

L=114.100m, A, A'



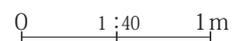
307号ピット

A, L=113.800m, A'



302~307号ピット

1. 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒を少量、礫を多量に含む(礫は直径5cm以下)、黄色ロームブロックを少量含む。



第191図 ピット土層断面図(4)

11. 畑

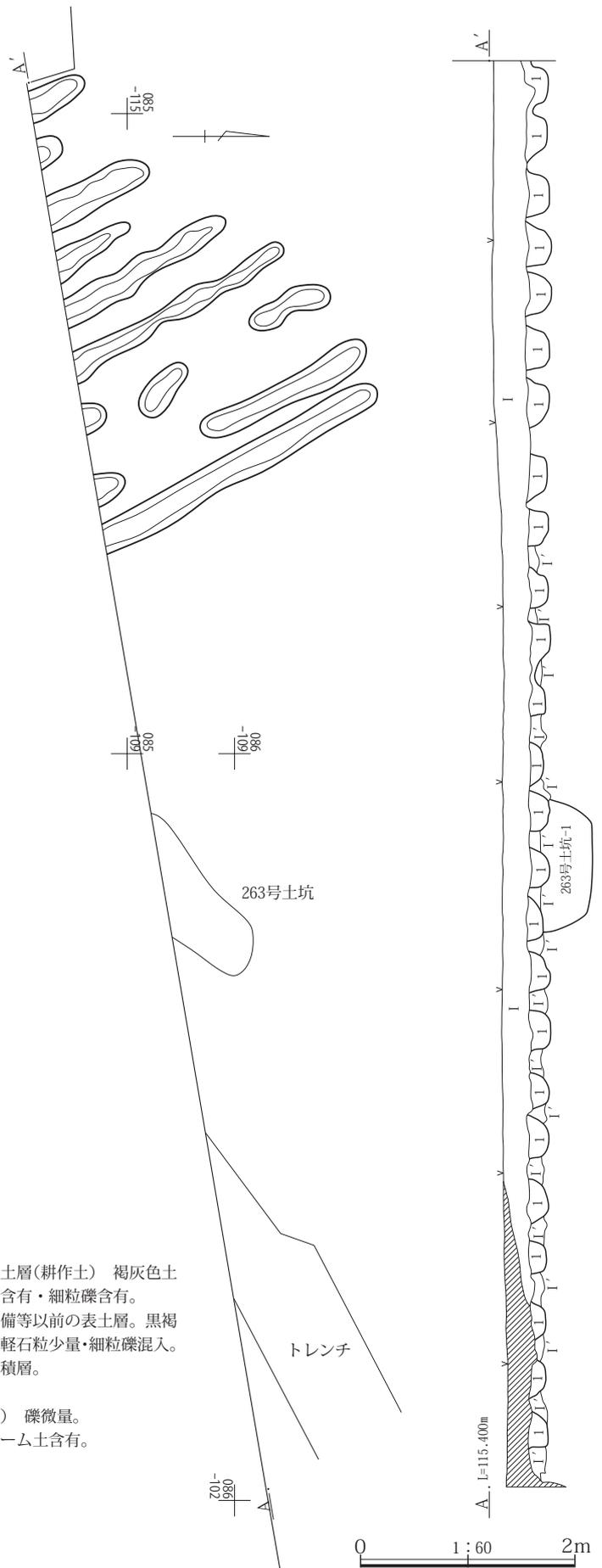
(第192図 PL.59)

10-2区の中央やや東の調査区南壁付近で、畑の畝間溝が9条検出された。確認面は、表土(I層)を取り除いた面で、耕作面は削平されて残っていなかった。耕作土はI'層である。検出された畝間溝は西寄りの9条であったが、土層断面の精査によって、さらに東側Y=-76,102ラインまで広がっていたことが判明した。畝間溝の内部は浅間A軽石の一次堆積層で埋まっており、軽石降下時には一定の広さの畑地が広がっていたことが推定される。出土遺物は溝埋没土中から土器破片7点が出土しているが、いずれも本畑の時期のものではなかった。なお、263号土坑はI'層堆積より古い時期の土坑である。

畝間溝の規模は確認面での計測で、幅0.13~0.34m、深さ最大5cmであった。深さは断面で計測すると0.18~0.22mであった。畝間溝の心芯間の距離は0.32~0.43mで、一部に0.70mのところもあった。畝間溝の間隔は確認面の計測で0.08~0.32mで、かなり狭い部分もあった。

浅間A軽石で覆われたはずの畝は削平されており未検出であるが、畝間溝の間隔からすると畝の幅はかなり細くなる。これはこの畑で育てられていた作物が、かなり狭い畝でつくられる作物であることを想定させる。

- I 宅地造成以前の表土層(耕作土) 褐灰色土(5YR4/1)白色軽石含有・細粒礫含有。
 - I' 旧表土層。耕地整備等以前の表土層。黒褐色土(5YR3/1)白色軽石粒少量・細粒礫混入。
 - 1. 浅間A軽石一次堆積層。
- 263号土坑
- 1. 黒褐色土(10YR3/1) 礫微量。細粒礫含有・塊状ローム土含有。



第192図 10-2区1号畑

12. 復旧痕

(第193～195図 PL.59・60・83・84 遺物観察表P.280)

7区西半分では、全体の削平が他の調査区より浅かったために、浅間A軽石の堆積が南西部を除く範囲に残存していた。軽石層直下面での遺構の検出はなかったが、浅間A軽石を埋め込み、耕地を復旧する目的で掘られた復旧坑および復旧溝が掘られていた。定型的なものとして記録されたのは、1～9号の復旧坑と、北西端に並行して掘られた復旧溝(16号溝)である。1号・4号・5号は短い溝状、2号は円形、3号は平行四辺形、5号は方形、7号は楕円形、8号は不定形、9号は長方形で、16号溝は溝状である。

各復旧坑の規模は下記の通りである。

- 1号 長軸0.84m 短径0.42m 深さ0.09m
- 2号 長径1.16m 短径0.96m 深さ0.73m
- 3号 長辺1.60m 短径0.96m 深さ0.59m
- 4号 長径1.40m 短径0.60m 深さ0.27m
- 5号 長軸1.36m 短軸1.34m 深さ0.76m
- 6号 長径1.08m 短径0.38m 深さ0.21m
- 7号 長軸1.80m以上 短軸1.32m 深さ0.49m
- 8号 幅2.2m 延長5.60m 深さ0.06m

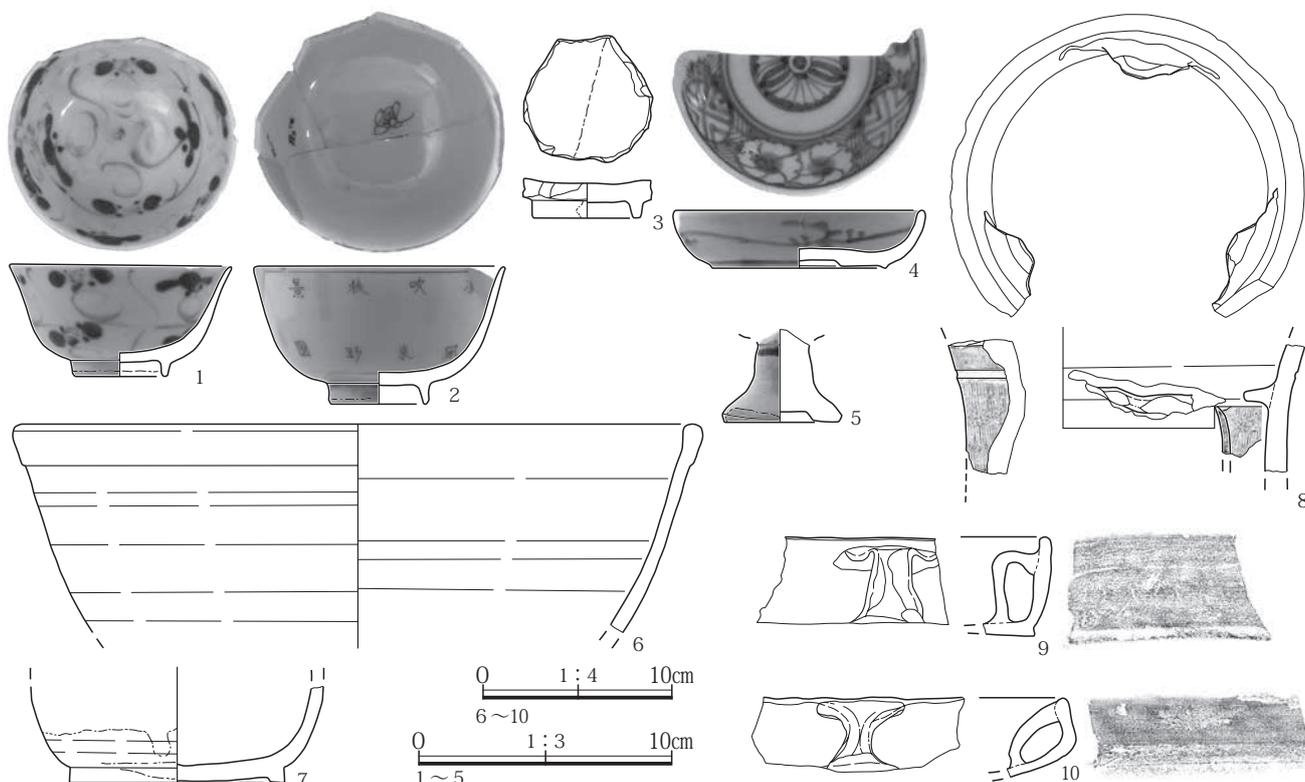
9号 長軸1.68m 短軸1.10m 深さ0.69m

16号溝 幅1.1m以上 延長6m以上 深さ0.21m

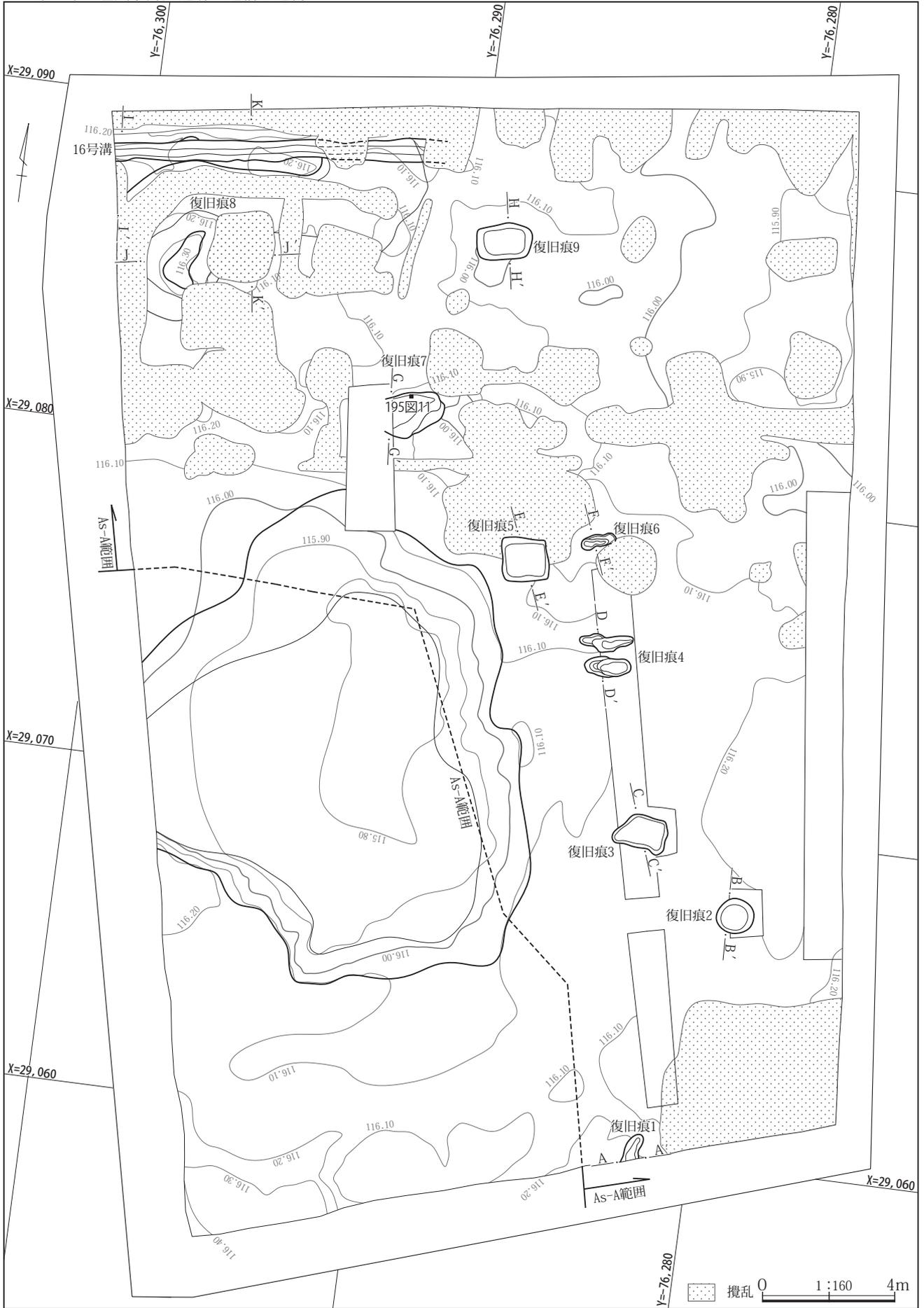
長軸方位は3号長辺がN-81°-W、4号がN-82°-E、5号がN-84°-E、6号がN-71°-E、9号がN-80°-E、16号溝の走向がN-82°-Eでほぼ共通しており、地割等の規制の中で掘られたものと考えられる。

埋没土は浅間A軽石層と、小礫と浅間A軽石を含む暗褐色土の混土が上下逆転して埋まっており、軽石降下後の掘削と判断できた。復旧坑の掘削は隣接するものがあるが、16号溝を掘ってから8号復旧坑が掘られていたことが土層断面からわかっている。16号溝は既存の溝だった可能性もある。

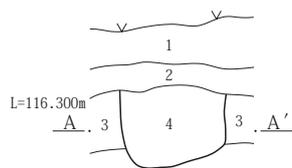
出土遺物は埋没土内に混入していた土器等があり、肥前磁器仏飯器(第193図5)、瀬戸・美濃陶器掛分碗(同図3)、瀬戸・美濃陶器練鉢か(同図6)、瀬戸・美濃陶器徳利(同図7)、在地系土器焙烙(同図9)、瀬戸・美濃磁器染付小碗(同図1)、製作地不詳磁器染付碗(同図2)、肥前磁器染付皿(同図4)、在地系土器焜炉(同図8)、在地系土器焙烙(同図10)、銅製品キセル(第195図12)、寛永通寶(同図11)の12点を選択して実測・掲載した。



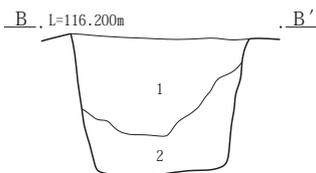
第193図 7区復旧痕出土遺物



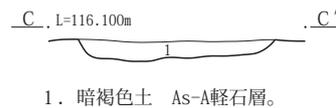
第194図 7区復旧痕



1. 黒褐色土 耕作土。
2. 暗褐色土 小礫を多く含む、埋土。
3. 暗褐色土 小礫を多く含む。
4. 暗褐色土 As-Aと小礫を多く含む暗褐色土の混合土。



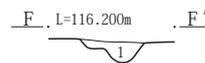
1. 暗褐色土 As-A軽石層。
2. 暗褐色土 As-Aと小礫を多く含む暗褐色土との混合土。



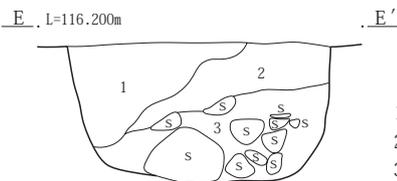
1. 暗褐色土 As-A軽石層。



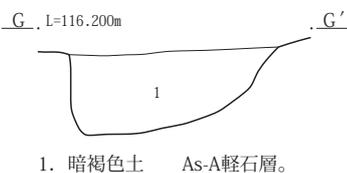
1. 暗褐色土 As-A軽石層。



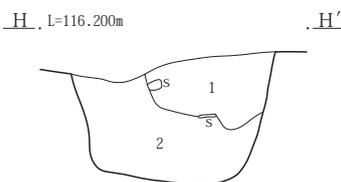
1. 暗褐色土 As-A軽石層。



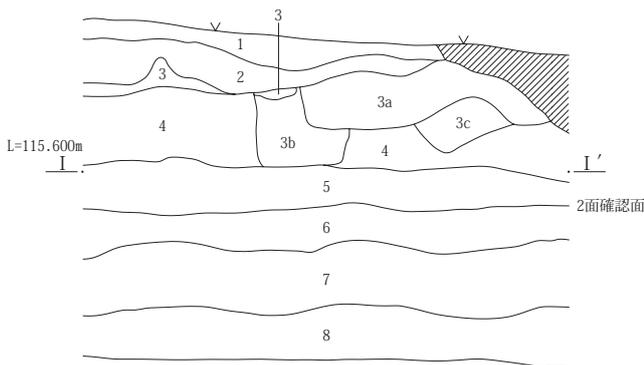
1. 暗褐色土 埋土(攪乱)。
2. 暗褐色土 As-A軽石層。
3. 暗褐色土 As-Aと礫の混合土大小の礫が混入。



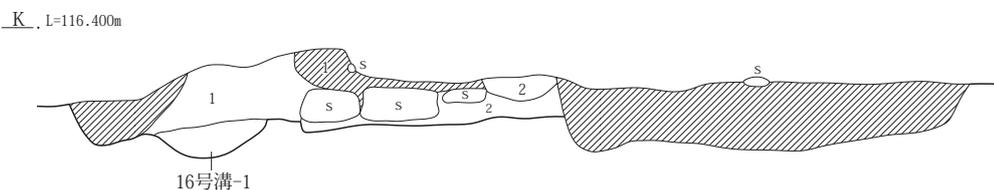
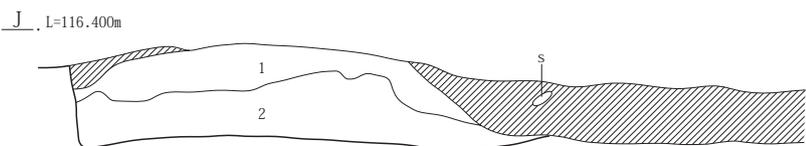
1. 暗褐色土 As-A軽石層。



1. 暗褐色土 As-A軽石層。
2. 暗褐色土 As-Aと小礫を多く含む混合土。

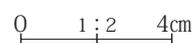
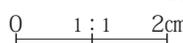
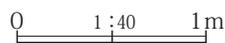
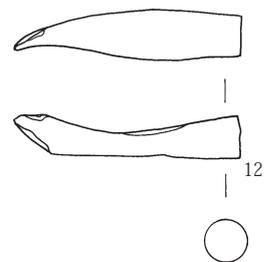
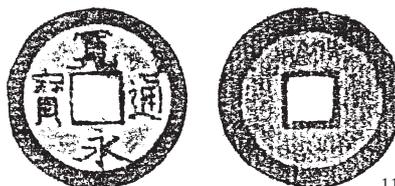


1. 暗褐色土 耕作土
2. 暗褐色土 礫と軽石粒を含む。
3. 灰褐色土 As-Aを多量に含む。
- 3a. 暗褐色土 2層とAs-Aの混合土。
- 3b. 暗褐色土 礫と暗灰色粘土ブロックを含む。
- 3c. 灰白色土 3層に近い。As-A軽石を多量に含む。(16号溝)
4. 暗褐色土 小礫と黄褐色粒子や暗赤色土粒子を含む。
5. 暗赤褐色土 礫と暗赤褐色粒子を含む、割と粘性有り。
6. 暗黄褐色土 礫と黄褐色粒子の混合土割と粘性有り。
7. 灰褐色土 大小の礫を含む砂利層。
8. 黄褐色土 黄褐色砂質層。



復旧痕 8

1. 灰褐色土 As-A軽石層。
 2. 暗褐色土 As-Aと小礫を含む暗褐色土の混合土。
- 16号溝
1. 青灰白色土 As-A軽石層 16号溝覆土。



第195図 7区復旧痕土層断面と出土遺物

13. 遺構外の出土遺物

(第196図 PL.84 遺物観察表P.280・281)

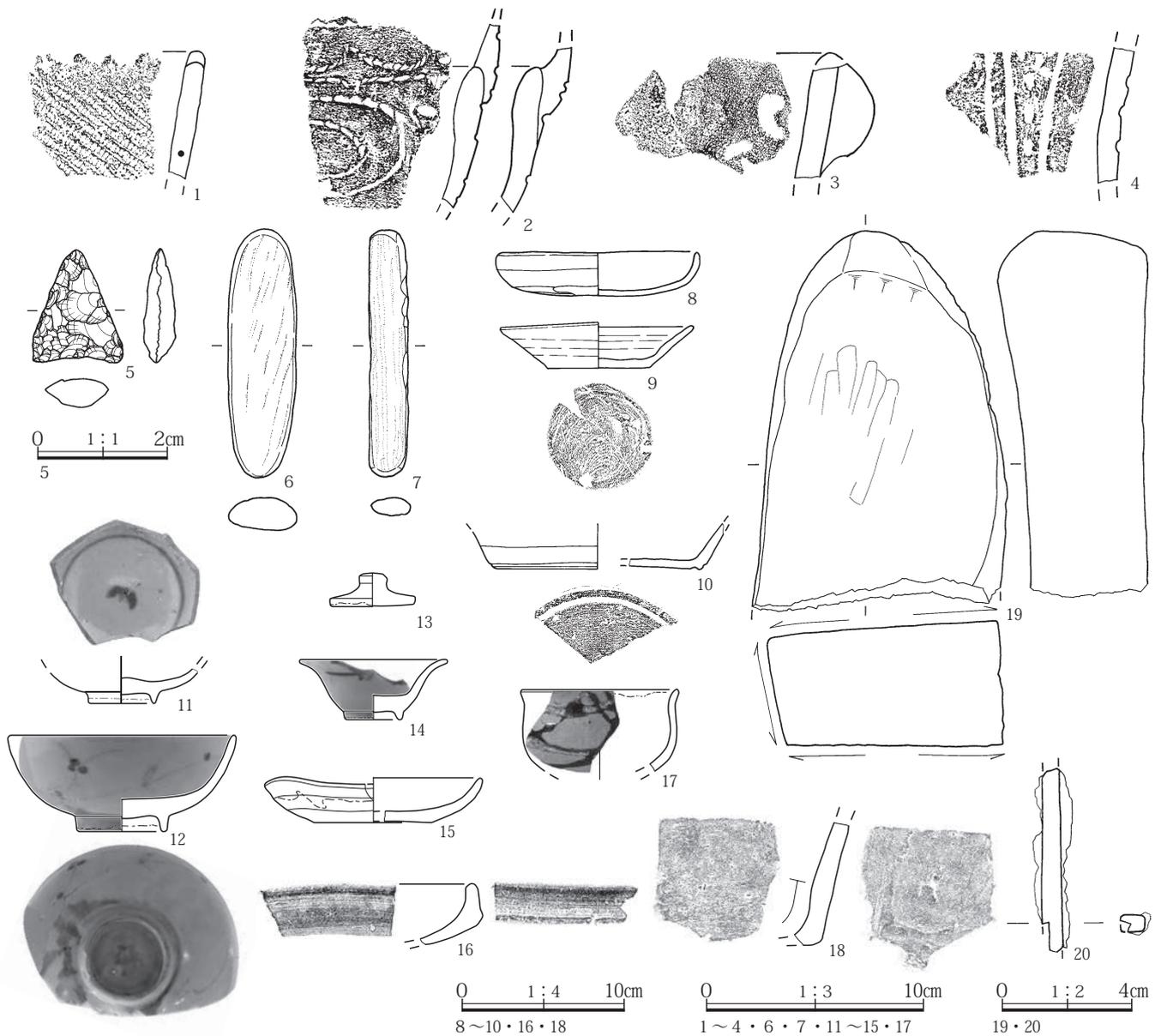
塩川砂井戸遺跡では、遺構に伴わない形で多くの遺物が出土した。その内訳は巻末の一覧表(P.282)の通りである。

縄文土器は表の通り7点が出土したが、縄文時代の遺構はなかったことから、うち4点(第196図1~4)を遺構外出土遺物としてここで掲載した。また、7-2区103号竪穴建物埋没土中から二次加工ある剥片や石鏃(同図5)、棒状礫(同図6・7)が出土した。ほかに9区38号・39号竪穴建物埋没土中から二次加工ある剥片、遺構確認作業時に石核が出土したのみである。

本遺跡は古墳時代から平安時代の竪穴建物が中心の遺跡であることから、多くの土師器・須恵器が遺構確認作業時に出土した。ここでは8-2区表土出土の土師器杯(同図8)、9区攪乱出土の須恵器杯(同図9)、10区表土出土の須恵器高台付杯(同図10)を図示した。

特に7区では浅間A軽石の降下層準下の中世・近世の土層が残されていたことから、陶磁器類や在地系土器が多く出土した。ここでは、7区の肥前磁器2点(同図12・14)、萩焼陶器1点(同図17)、瀬戸・美濃陶器1点(同図11)、製作地不詳蓋・灯火皿(同図13・15)、在地系土器焙烙1点(同図16)、牛伏砂岩の砥石(同図19)、10-2区表土出土のすり鉢と推定される土器(同図18)を図示した。

また同図17は萩陶器小碗の破片で、希少な資料である。



第196図 遺構外出土遺物

第IV章 池石田遺跡の遺構

1. 調査の方法

池石田遺跡は試掘調査の結果、浅間Bテフラ堆積層準の下層より溝跡が検出されたことから、県文化財保護課により立ち合い調査が実施された。

平成29年6月27～28日の立ち合い調査では、バックフォーで調査範囲を掘り広げて溝2条を検出し、人力で溝内を掘り下げた。遺物は出土しなかった。東西端と中央部で遺構埋没土層断面を記録した。また全景写真を撮影し、国家座標に基づいて遺構測量を実施した。

さらに東方への溝の延長の有無を確認するために、同年10月17日に再度立ち合い調査を実施した。バックフォーの幅で2本のトレンチを設定し、当該層位まで掘り下げた。トレンチ位置の略測と写真撮影を実施した。

2. 溝

池石田遺跡では、平行する溝2条を検出した。南側を1号溝、北側を2号溝とした。

1号溝(第197図 PL.85)

グリッド 131～141・-812～-827

重複 なし。 調査長 18.0m

上幅最大～最小 1.06m～0.56m 残存深 0.67m

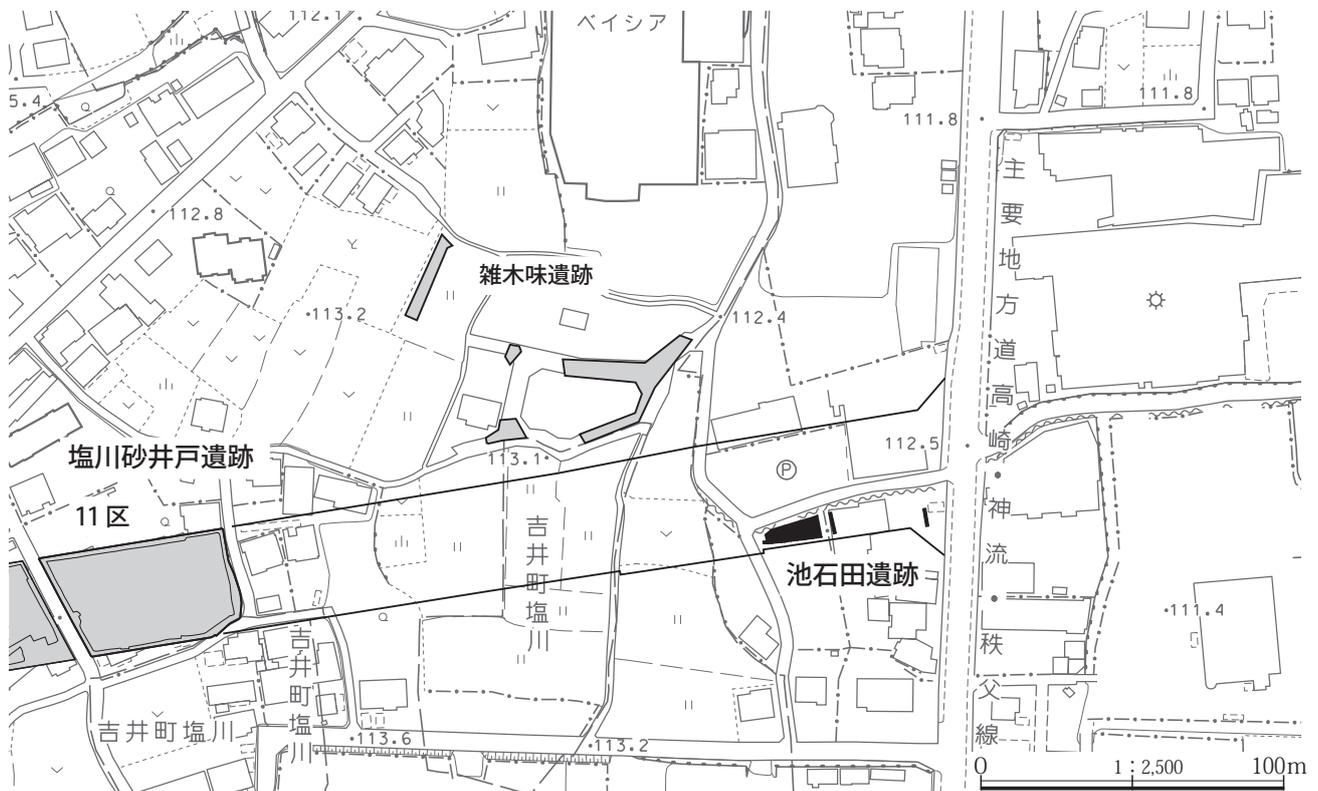
走向方位 N-77°-E(東西端を結んだ線)

形状 平面形はごく緩やかに蛇行するが、ほぼ直線的な東西方向の溝である。南から北へ傾斜する地形の等高線に平行する。断面形は逆台形、注意に段があり底面は狭くなっている。底面は平坦で、西端と東端の比高は0.04mで西端がわずかに高い。

埋没土 上層は浅間C軽石の可能性がある白色軽石を含む黒褐色粘質土、下層は上位にラミナ堆積がみられる緑色がかかった黒褐色砂質土で埋まっていた。水流があったことを示唆する。

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 確認面が浅間B軽石層より古いことから、中世以前の溝と考えられる。浅間C軽石と思われる白色軽石を



第197図 池石田遺跡 立ち合い調査区位置図

含む黒褐色土で埋まっていることから、古墳時代から古代の遺構である可能性は高いが、遺物が出土しなかったことから、時期を断定できなかった。

2号溝(第198図 PL.85)

グリッド 135~138・-812~-819

重複 なし。 調査長 5.3m

上幅最大~最小 0.80m~0.50m 残存深 0.07m

走向方位 N-72° - E(東西端を結んだ線)

形状 1号溝の東半部に平行する。ほぼ直線的な東西方向の溝である。断面形は浅い緩やかな凹地状。底面は平坦で、西端と東端の比高は0.04mで、西端がわずかに高い。

埋没土 1号溝の上層を覆っていた浅間C軽石の可能性がある白色軽石を含む黒褐色粘質土で直接埋まっていた。砂質土の堆積はなかった。

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 1号溝と同様の土で埋まっていることから、同時に存在した平行する凹地と推定される。遺物が出土しなかったことから、時期を断定できなかった。

■ 1号溝の延長確認調査

1号溝の東方への延長を確認するために、トレンチ調査を実施した。溝の確認面である8層上面が地盤の傾斜によって下がっている可能性があった。安全を確保しながらの重機作業によるトレンチ調査では土層の確認と掘削深に限界もあった。

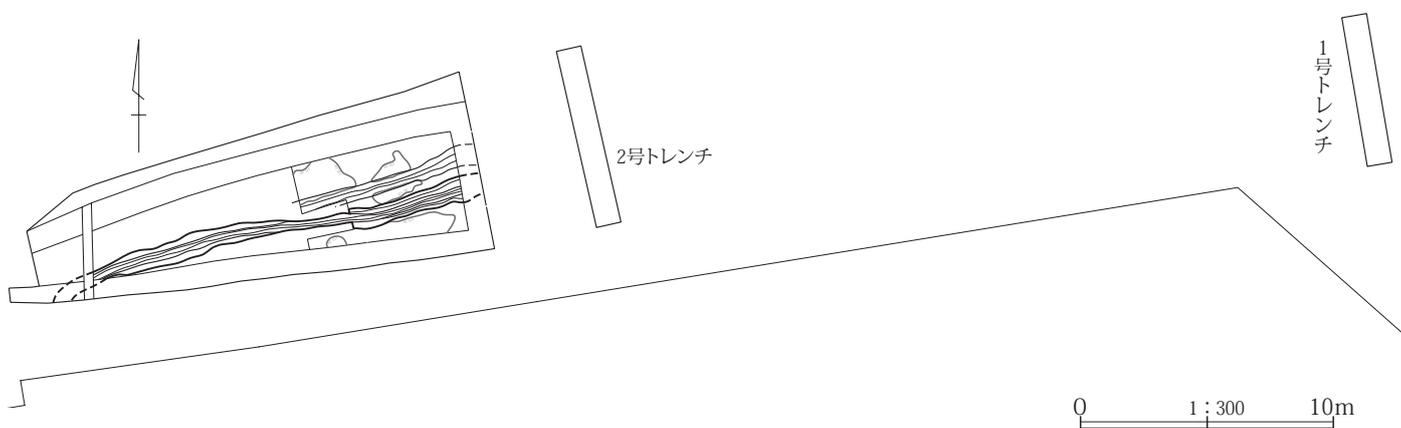
調査の結果、2号トレンチの中央部分の8層上面で黒色土の帯状堆積がみられた。この堆積厚は薄く1号溝のような掘り込みはなかったことから、1号溝の東方への延長は確認できないと判断した。



1. 池石田遺跡 1号トレンチ(南から)



2. 池石田遺跡 2号トレンチ(東から)



第199図 池石田遺跡 調査区・トレンチ位置図

第V章 総括

1. 塩川砂井戸遺跡の集落変遷について

塩川砂井戸遺跡では、古墳時代後期から古代の竪穴建物99棟が検出された。本地域のこの時期の集落の一部分が調査されたことになる。本報告では詳細な土器編年をおこなっていないが、竪穴建物出土土器からその時期を推定し所見として記載した。それに基づいて竪穴建物の分布を検討すると、古墳時代6世紀後半の竪穴建物は6区から10区にかけて散在していたのに対して、8世紀には竪穴建物群の分布が10-2区に偏在することが確認された。このことは、多胡郡正倉跡から西800mにある本遺跡が、711年の多胡郡建郡に伴う地域の動きを直接的にみせている可能性がある。

調査で判明した調査区内での竪穴建物群の変遷をまとめると次のようになる。

古墳時代 6区・6-2区では古墳時代6世紀後半の竪穴建物7棟と7世紀の竪穴建物1棟が分布しており、そのうち6区の3棟は大型竪穴で集落の中核をなしていたと推定される。平成25年度に発掘された塩川砂井戸遺跡1区～5区では、西半部の1区に古墳時代の竪穴建物、2区に平安時代の竪穴建物が集中して検出されており、集落占地の移動が確認されている。東半部の3区～5区にかけては古墳時代の遺構はなく、さらに5区から6区の間には試掘調査によって70mほど遺構がないと判断された部分がある。したがって、6区以東の古墳時代の集落は西側で途切れていたと推定される。

6区で大型竪穴建物群を二分するような位置にある17号溝が検出されている。大型竪穴建物と同時期の直線の溝であり、集落域を区分する溝と考えられる。本溝の走向は竪穴建物の長軸と一致している。小型・中型の竪穴建物も近接しており、渋川市黒井峯遺跡のHr-FP下集落の遺構分布を想定すれば、大型竪穴建物と小型・中型の竪穴建物が併存して集落を構成していたと考えられる。

7区・7-2区は古墳時代6世紀後半の竪穴建物10棟、7世紀の竪穴建物が7棟検出された。重複はないが7世紀の竪穴建物には近接するところがあり、やや密集した分布を示している。建て替えも含め、この時期の集落が

継続していたことがわかる。

8-2区では6世紀後半の竪穴建物が8棟、7世紀の竪穴建物が1棟検出された。全体に重複もなく散在していた。集落がこの地点で継続していたことを示している。

9区では6世紀後半の竪穴建物が7棟、7世紀の竪穴建物が4棟検出された。一辺3.5～4.0mの小型竪穴が多く、西半部の遺構重複が著しかった。ここでも古墳時代の集落の継続が確認された。

10区・10-2区では6世紀後半の竪穴建物が4棟、7世紀の竪穴建物が8棟検出された。ここでも古墳時代の集落の継続が確認されたが、広い発掘区の中で全体に散在していること、6世紀後半の竪穴建物は10区に限定されること、7世紀の竪穴建物の数が多くなっていること等の相違が見られた。

11区では6世紀後半の竪穴建物は見られず、7世紀の竪穴建物が3棟検出された。11区東半部には遺構分布はほとんど無かった。

このように、塩川砂井戸遺跡調査区内で検出された古墳時代の集落では、6世紀後半から始まり7世紀末にかけて、6区から11区西半部にかけての全域で竪穴建物が継続して分布していたことが判明した。

奈良時代 8世紀になると、それまでの遺構分布は一変する。6区から8-2区には竪穴建物の分布はまったくなくなり、9区東半部に1棟のみで、8世紀の竪穴建物は10区以東に集中するようになった。

10区・10-2区では8世紀の竪穴建物が17棟検出された。一箇所に6棟の竪穴建物が重複する部分があるので、密度は高くないが、10-2区を中心とする地区に8世紀の竪穴建物が6世紀後半から継続して集中的に建てられていたことが判明した。11区では8世紀の竪穴建物が2棟検出されたが、その位置は10-2区の竪穴建物分布の東端の位置にあたるだろう。

また、10-2区には掘立柱建物1棟、柱穴列1基が確認されている。出土遺物は土師器の杯や甕の小破片であるが、概ね7世紀後半から8世紀の時期のものである。さらに1号掘立柱建物の長軸方位、1号柱穴列の方向は、周辺の8世紀の竪穴建物の主軸方位とほぼ一致して

1. 塩川砂井戸遺跡の集落変遷について

いた。本掘立柱建物も8世紀のものと考えたいが、ピット埋没土には浅間B軽石が含まれている土層も観察できた。10-2区には中世以降のピットが多数あり、建物も想定されることから、1号掘立柱建物の時期を8世紀と確定することは困難である。掘立柱建物や柱穴列が8世紀の遺構である可能性も残しつつ今後の周辺発掘調査の動向に注意したい。

平安時代 平安時代になると、発掘区内では竪穴建物の数が激減する。その分布も各区に1～2棟となり、希薄となることが判明した。

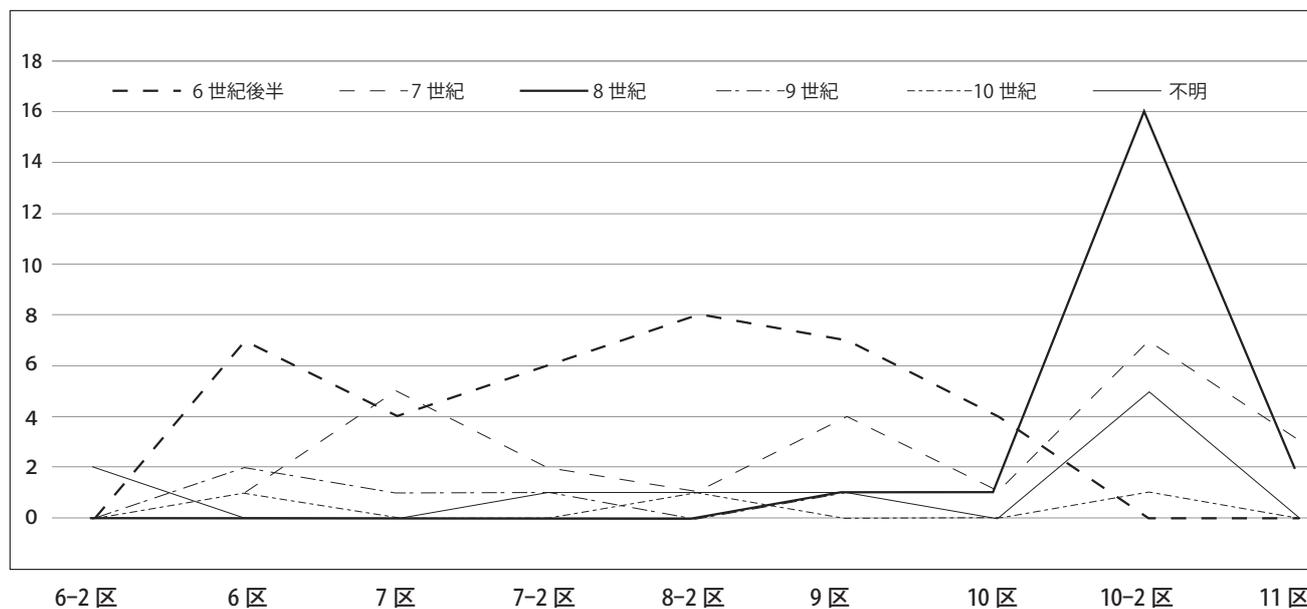
6区では9世紀2棟、10世紀後半1棟の竪穴建物が検出された。7区では9世紀1棟、7-2区では9世紀1棟、8-2区では10世紀後半1棟、9区では9世紀1棟、10-2区では9世紀1棟、10世紀後半が1棟、不明が5棟であった。9世紀と10世紀後半では間に100年弱の時間があることが想定でき、集落自体も途切れた可能性がある。

以上のように、塩川砂井戸遺跡の古墳時代後期の竪穴

建物は調査区の全体に分布していたが、8世紀になると一気に10-2区に集中する様相が判明した。本遺跡は吉井段丘面の中央部にあり、南の多胡段丘上には多胡古墳群、遺跡のある吉井段丘上位・中位面端部には北原(塩川)古墳群、下池古墳群、高木古墳群、塚原古墳群がある状況をみれば、このような古墳時代後期の集落の展開は当然の立地環境にある。

さらに、調査区の北東1.1kmには和銅4(711)年に多胡郡建郡の経過が刻まれた多胡碑が、東800mには多胡郡正倉跡が、北東200mには瓦出土地として古くから知られ、近年は仏教関連施設の可能性が示唆されている雑木味遺跡がある。本遺跡の8世紀における竪穴建物分布の変化は、周辺の多胡郡関連遺跡との関連のなかで検討することが必要であろう。当然10-2区への8世紀における竪穴建物の集中は、多胡郡建郡の過程を直接的に示す事象である可能性は極めて高いと考えられる。

発掘調査の成果は調査区内に限られるので、検出され



第200図 塩川砂井戸遺跡6～11区の竪穴建物数の変化

第10表 時期別竪穴建物数一覧表

	6-2区	6区	7区	7-2区	8-2区	9区	10区	10-2区	11区	合計
6世紀後半	0	7	4	6	8	7	4	0	0	36
7世紀	0	1	5	2	1	4	1	7	3	24
8世紀	0	0	0	0	0	1	1	16	2	20
9世紀	0	2	1	1	0	1	0	1	0	6
10世紀	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3
不明	2	0	0	1	1	1	0	5	0	10
										99

た竪穴建物群の数や分布だけでは実態に迫ることはできないが、本遺跡の古墳時代後期から奈良時代の集落についてはこのような視点での分析が必要となろう。また、9世紀以降の竪穴建物の激減や途絶もまた、何らかの歴史事象の表れと考えられ、地域全体の遺跡動向を加味して分析する必要がある。

2. 塩川砂井戸遺跡の出土遺物について

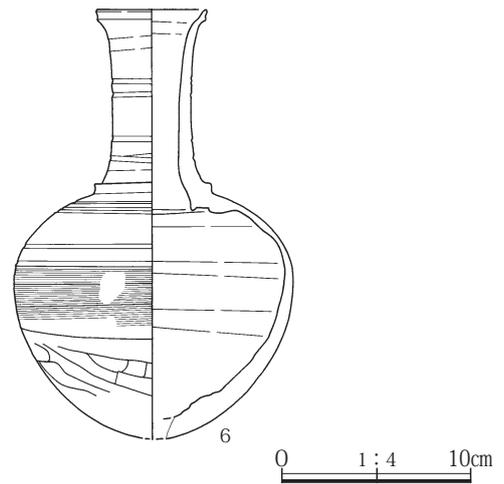
(1) 11区36号竪穴建物出土

底部丸底の須恵器長頸壺について

11区36号竪穴建物の埋没土中から一見須恵器フラスコ形長頸壺状のものが出土した。この長頸壺は、口径5.6cm、残存高22.4cm、胴部最大径14.6cmで胴部と底部の一部を欠損する。胎土は夾雑物が少なく、精製されたもので胎土・焼成からは東海地方で生産された須恵器の可能性を指摘できる。なお、長頸壺は11区36号竪穴建物南東隅床面上3cmで、ほぼ完形で出土し、この竪穴建物に共伴するものと判断される。(本書第122図・第124図6、PL.34・PL.74)

11区36号竪穴建物は7世紀後半の遺構で、長軸4.78m、短軸4.01mの東西に長い隅丸長方形で、中型の建物である。竈右側周辺の煮沸具となる土器の残存状態が良好で完形に近い状態で7個体の土器が出土している。このうち、須恵器杯は平城宮の土器分類で杯Gと呼称される形態、土師器甕は頸部の屈曲が明瞭でないことなどから7世紀中葉に想定できるが、土師器杯の中には口縁部が内湾しないことから7世紀第4四半期に想定され、竪穴建物の存続についてはやや幅広い年代が想定される。

そして長頸壺の成整形技法を観察すると、ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は紐づくりとみられ、内面に小規模な凹凸がみられ、外面に格子目状の叩き痕が残るが、その上からヘラ削りが施される。ただし、底部は使用時の摩滅が激しいためか整形の観察はできない。上半は叩き整形痕はみられず、内面にロクロ痕が明瞭に残る。外面中位は横方向のカキ目、上位は4条の凹線が施されている。胴部の頸部付近には明確な接合痕が2段観察できることから、成形では胴部が形作られた後に円盤状の粘土板を貼付し、風船技法によって胴部を閉塞していたことがわかる。頸部から口縁部はロクロ成整形によって形



第201図 塩川砂井戸遺跡11区36号竪穴建物出土須恵器長頸壺

作られ、胴部を閉塞した粘土板の内側を穿孔して貼付し、全体を成形している。なお、胴部下半が叩き、上半はロクロ成形による器形としては中型の丸底壺にみることができ、小型の製品ではみられない成整形である。

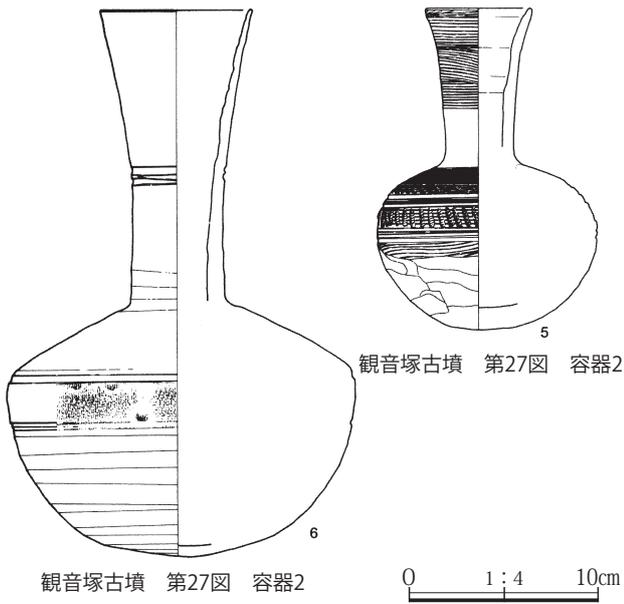
形態的には底部先端がほとんど残存していないが、底部はごく小径で球状を呈すとみられる。上半は肩が張らず、水瓶の胴部上位に近く、この時期の長頸壺とはやや異なる形態である。頸部には大型の甕にみられる補強帯と同様な断面四角形の凸帯が貼付されている。口唇端部はわずかに口縁部から外反しながら移行し、端部直下は断面半円状の小規模な凸帯状に肥厚させている。

丸底長頸壺の祖型について

このような丸底で高台を有しない長頸壺を県内で見ると最初に目にとまるのが高崎市観音塚古墳から出土した長頸壺(文献70—第27図5・6)や奥原古墳群等から出土しているフラスコ形長頸壺である。

観音塚古墳のものは脚付長頸壺身部と同様の形態である。脚付長頸壺は本来、丸底の壺と高杯形器台と組み合わせて使用されていたものであるが、脚部を付けて高杯形器台を省略した可能性が脚付長頸壺の脚部形状が高杯形器台の脚部形状と同様であることから指摘されている。この脚付長頸壺については北関東地方の須恵器研究を行っている藤野一之によると古代上毛野地域に分布する特徴的な須恵器とされ、6世紀後半に出現し、短期間に消滅する器種であるとされている(文献69)。6世紀後半の短期間しか生産されていないことを考えると、11区36号竪穴建物出土長頸壺の祖型とは考えにくい。

2. 塩川砂井戸遺跡の出土遺物について



第202図 群馬県内の丸底長頸壺

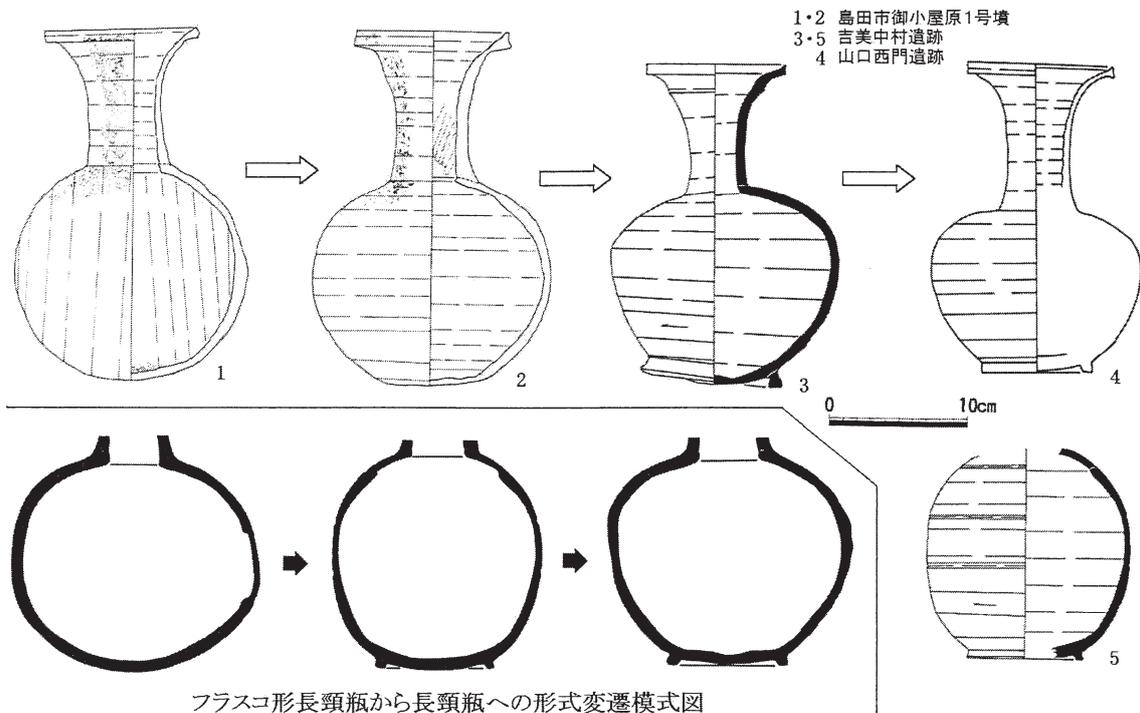
これに対して6世紀末に出現するフラスコ形長頸壺は成整形が球状の胴部を形作り、球状に成形した頂部ではなく側面に頸部から口縁部を貼付する点など11区36号竪穴建物出土長頸壺とは異なるが、静岡県湖西窯跡群の研究を行っている後藤健一によると底部からロクロ成整形により形作られ、頂部に頸部から口縁部を貼付する形態

の長頸壺はフラスコ形長頸壺と同一系列に属する系列とされている(文献68)。根拠として、両形態を繋ぐ形式があること、消費地の古墳出土例から両者が同じ役割を担う明器として扱われていたことをあげている。そして第203図のようにフラスコ形長頸壺から変化した長頸壺は一般的には高台が貼付されるようになることを示した。さらにフラスコ形長頸壺と、11区36号竪穴建物出土のような底部から成整形され頂部に頸部を貼付する形態の長頸壺が共伴する事例として静岡県島田市御小屋原1号墳があげられるとしている。なお、御小屋原1号墳の長頸壺は胴部がやや張ることから11区36号竪穴建物出土のものより古い段階と考えられ、実年代については7世紀前半代に比定されている。こうした後藤健一の論考から11区36号竪穴建物出土の長頸壺はフラスコ形長頸壺にその祖型が求められると考える。

頸部凸帯(リング状)貼付長頸壺の類例について

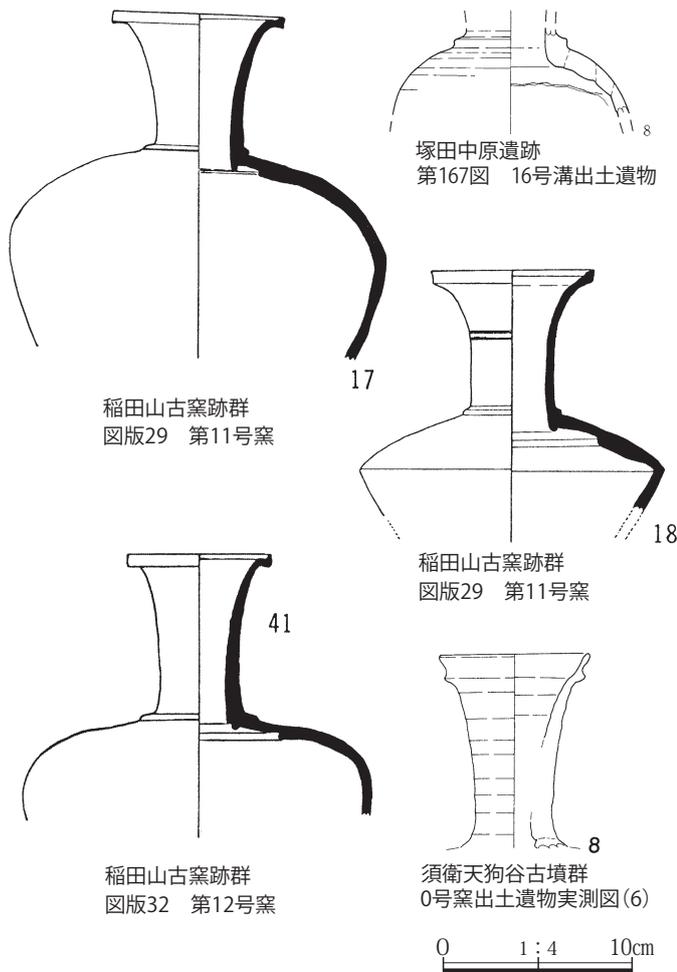
県内では類例をみることができないが、頸部の凸帯や口唇部形態など細部では県内外に類例をみることが可能である。

頸部に凸帯(リング状)が貼付される長頸壺は時期が下るが岐阜県美濃須衛古窯跡群の特徴とされ、稲田山古窯跡群11号、12号窯から出土している長頸壺(文献73)にみ



フラスコ形長頸瓶から長頸瓶への形式変遷模式図

第203図 長頸壺の形式変化(文献68より)



第204図 凸帯(リング状)貼付長頸壺及び口縁部の類例

ることができる。この窯跡は共伴する遺物から8世紀前半代に想定され、11区36号竪穴建物出土の長頸壺とは年代差がある。県内では高崎市塚田中原遺跡0区16号溝から出土している長頸壺(文献74-167図8)に凸帯が貼付された個体が出土している。この遺構からは須恵器杯蓋、碗、奈良三彩小壺蓋、瓦片などが出土しており、8世紀から9世紀の年代が想定されている。なお、この長頸壺は胎土から県内の窯跡で生産されたものとみられる。

口唇部の形態では美濃須衛古窯跡群天狗谷0号窯跡から出土したもの(文献71-25図8)に同様な形態がみられる。この0号窯については発掘調査前に工事によって壊されていたが、工事残土から採取されたものとされている。出土した須恵器は7世紀前半代と8世紀前後に想定され、資料的価値は高いとされている。11区36号竪穴建物出土長頸壺口唇部と同様の形態を有するものは7世紀前半代の一群に分類されている。

しかし、現段階では美濃須衛古窯跡群での凸帯貼付の

長頸壺は7世紀代の窯跡から出土しておらず、類似性を求めることは難しいため11区36号竪穴建物出土の長頸壺が美濃須衛古窯跡群から搬入されたものか、その影響のもとに生産されたものか断定できない。しかし、前述のように県内の窯跡群とは胎土が異なる点から搬入された可能性が高い。美濃須衛古窯跡群の製品は広く供給されているとともに県内の須恵器生産に影響を与えていることがわかっており、こうした点や器形の特徴から産地を求めるなら美濃須衛古窯跡群を含む東海地方が想定される。

11区36号竪穴建物出土の長頸壺の用途について

フラスコ状長頸壺を含む丸底を呈する須恵器長頸壺はその生産が6世紀末から7世紀前半に限られる。そしてその多くが、高崎市本郷の場古墳群や奥原古墳群などに代表されるように古墳からの出土であり、副葬されたものである。

集落からの出土は太田市大道東遺跡の竪穴建物から出土がみられる。大道東遺跡は太田金山古窯跡群の北西に位置する集落で、特異な形態をした須恵器や窯で焼き損じたような須恵器が多く出土している。集落内ではロクロピットなど直接、須恵器生産を行った痕跡は検出されていないが、須恵器生産工人集落と想定され一般の集落とは異なる性格をもつ。

集落からの出土は須恵器生産工人であることを考慮しても底部丸底の須恵器長頸壺は基本的に明器として利用されたものであると言える。

塩川砂井戸遺跡から出土した背景

前記のように底部丸底の長頸壺は出土例から明器として使用される。塩川砂井戸遺跡では周囲に古墳群は存在するが、一般的な集落と判断される。また、周囲では鑄川の対岸にヌカリ沢窯跡を始めとする乗附・観音山古窯跡群が存在するが至近距離ではないため工人集落とするには無理がある。ではどのような可能性があるか、可能性についてあげてみた。

①竪穴建物に居住する人物が自己の死後の副葬品として用意した。この点については図示できなかったが11区36号竪穴建物からは須恵器大甕も出土しており、副葬品として用意したものが残された可能性が窺える。

②周囲の窯跡からは距離があるが、須恵器工人を統括するような人物が居住しており、畿内や東海地方で生産さ

れている新しい器種や器形の須恵器を生産するにあたり、様(見本)として入手したものが残った。この点については11区36号竪穴建物出土遺物に須恵器窯で焼台として利用し窯態が付着した須恵器甕が出土していることから、入手できる立場であったことが想定される。

須恵器生産との関係については多胡郡が建郡された後、緑野郡や片岡郡に属していた窯跡群が多胡郡に集約されており、古墳時代でも須恵器生産に関わった人物、工人ではなく統括するような立場の人物がこの地域に居住していたと想定しても良いのではないだろうか。

以上、11区36号竪穴建物出土から出土した底部丸底の須恵器長頸壺について検討を行ったが、類例が乏しく想定の外を出ない点が多い。今後、資料の蓄積とともにさらなる検証を行いたい。

(2) 7区57号土坑出土石製品について

7区57号土坑の埋没土中から墨書のある五角形の石製品が出土した。この石製品は、長さ6.8cm、幅5.7cm、厚さ1.5cm、重さ52.1gで流紋岩製である。(第155図・第156図14、PL.46・PL.83)

7区57号土坑はⅡ層上面で浅間A軽石を埋め戻した復旧痕を調査した後、Ⅴ層上面で検出された。浅間A軽石を多量に含む土で埋まっていた56号土坑に後出しており、57号土坑は天明3(1783)年の浅間山噴火後の遺構である。

石製品は、荒整形の平行条線を残している部分もあるが、五角形に形作って全面を丁寧に磨いた後、表面と裏面に墨書をしている。石材が砥石に多く使われる流紋岩であることからその転用と考えられるが、近世の出土砥石の幅は通常もう少し小さく、5.7cmという幅の砥石はほとんど見られない大きさである。切り出した石材の使

用方向によっては、転用ではなく、この石製品を当初から製作した可能性もある。

表裏面の墨書については、肉眼観察での全文解読は困難であったことから、赤外線カメラによる写真を撮影した。県立文書館古文書係の関口荘右氏・樫沢恭子氏・秋山正典氏にご協力いただき、赤外線写真とともに解読を依頼したところ、第205図のような積文をいただいた。

表面右の「安政四年」は西暦で1857年、江戸時代後期にあたり、出土遺構が天明3(1783)年の浅間山噴火以降の遺構であることと矛盾しない。表面中央上位の「金」は「全」あるいは屋号「へ王」を示す可能性も指摘された。「櫛嶋」は塩川砂井戸遺跡のある旧吉井藩の代官も務めた櫛嶋氏に関連する可能性が高いであろう。左の「上州□□□」は文字通り群馬県内の地名を示すと考えられる。確実な読みは困難とのことであったが、「長根村」の可能性をあげられた。裏面は「沢五郎」で、文字通り人名と思われる。鑑札あるいは通行証のようなものかもしれないとの助言をいただいた。

墨書のある考古資料としてはお札や呪符木簡等がある。上端の両側を斜めに切った細長い五角形のものや、絵馬のような五角形の資料もみることができ、石製の類例は今のところ管見に触れない。(文献79・80)また、鑑札・株札等の身分証明の札も木製・紙製のものが多く、石製のものはみられない。しかし、五角形であること、年号のあること、人名・地名が書かれている等、本資料と共通している点が多い。

鑑札は行政庁や同業組合などが、ある種の営業や行為に対して許可・登録・免許などのしるしとして発行する証票で、江戸時代には木材や紙に書かれたものが残されている。木製のものには方形のものと同五角形のものがある。鑑札や株札を五角形にする理由については「質屋の

(へ)王 (金)全 (全)金
 上 櫛 安
 羽 嶋 受 (政)
 □ (長根村) 嶋 四
 □ 年
 □



0 1:2 5cm

第205図 7区57号土坑出土石製品の赤外線写真と積文

沢五郎

看板と同じように、「金になる、金銀にかへる」という(将棋の)縁起をかついだものだろう。」(文献81・82)とか、「・・将棋の駒と同じ作りやすさと、高札や絵馬が象徴する権威を形として継承したのではないか」(文献83)という将棋や高札・絵馬などとの関連を示唆する意見が出されている。

本資料は、現状では制作の意図や背景、地名等が不明であるが、将棋駒あるいは鑑札・株札等に似せて身近な流紋岩でつくられたものであろう。江戸時代後期の上州で、「鬮島」「沢五郎」といった人物が生きていたことの証となる資料である。どのような場面でどう使われたのか、今後も類例に留意しながら注目すべき資料であろう。

3. 塩川砂井戸遺跡調査の成果

吉井段丘と塩川砂井戸遺跡

今回の塩川砂井戸遺跡・池石田遺跡の発掘調査によって、鎚川右岸吉井段丘面地域の古墳時代後期から古代集落の一端を明らかにすることができた。吉井段丘より高位の多胡段丘面の古墳時代から古代の遺跡は上信越自動車道建設に伴う発掘調査等で実態が明らかになってきている。しかし、吉井段丘面の遺跡の内容はこれまであまり明らかになっていなかった。今回の吉井北通り線建設に伴う発掘調査で吉井段丘上位面を東西方向に貫く調査が実施され、ようやく一定範囲の遺跡の状況が明らかになってきたと言える。

吉井段丘面にはさらに2段の段丘があり、上位面・中位面・下位面の3つの地形面に分けられている(文献63・図1)。塩川砂井戸遺跡があるのは最も広い上位面である。

上位面の西端は大沢川で区切られ、西半部は現在の吉井市街地、東半部は農地と住宅地になっている。現状は平坦で西から東へ、南から北へ緩やかに傾斜している。しかし、明治18年測量の迅速測図吉井町図幅には、上位面の中央に東西方向の帯状凹地、上位面と中位面の間に南東方向から入り込む帯状凹地が等高線で表現されている。(文献84)このような微妙な起伏のある上位面の西半部で塩川砂井戸遺跡1区～11区や雑木味遺跡(奈良時代瓦散布)が調査され、東端中央部では近年「多胡郡正倉跡」が発見された。上位面の微地形復元は難しいが、前述した東西方向の帯状低地の谷頭は塩川砂井戸遺跡の南

側まで達している可能性があり、「多胡郡正倉跡」は谷口南側にあたる。

中位面は上位面の北東側に比高2m程の段で画された細長く平坦な地形面である。この中位面の北縁辺には世界記憶遺産に登録された上野三碑の一つである「多胡碑」がある。中位面北端部では、倉庫建設に伴って上河原遺跡(平安時代後半集落)が、多胡碑記念館建設に伴い御門遺跡(古墳時代前期竪穴建物・平安時代後期集落)が発掘調査されている。北西端では店舗建設に伴って竹腰遺跡(平安時代集落・それ以前の南北直線水路)が、釜ヶ淵遺跡(平安時代竪穴建物)が発掘調査されている。

下位面は中位面の東側に接する現在吉井町運動公園がある地形面と、上位面北西側に接する地形面が分類されている。前者は鎚川とほぼ同じ面で遺跡はない。後者の地形面上には微妙な凹凸があり、鎚川に平行するわずかな段差も観察される。東側の中位面と同様に古代からの土地利用が可能な地形面として遺跡の分布を考える必要がある。

このような地形環境のなかで、古墳時代後期から平安時代にかけての塩川砂井戸遺跡のあり方をみると、『塩川砂井戸遺跡』(文献55)で報告された1～5区では、古墳時代後期の竪穴建物は西側の1区に2棟のみで、2区には古墳時代後半から平安時代の竪穴建物が集中して、集落占地の移動と考えられている。3区～5区には古墳時代後半から平安時代の遺構は検出されなかった。さらに150mほどの発掘調査除外地区があって、今回報告する6区になる。本章の1でまとめた通り、6区から11区まで古墳時代後半の竪穴建物が散在していたが、8世紀になると、6区から8区には竪穴建物の分布はなくなり、9区東半部に1棟のみで、10区・11区に集中するという、吉井段丘上位面北半部における古代集落変遷の一端をみてとることができた。(第206図)

塩川砂井戸遺跡の位置づけ：古墳時代

吉井段丘面上位面の他の発掘成果をみると、古墳時代の遺構は御門遺跡で古墳時代前期の竪穴建物が1棟調査され、石神字千歩地内で古墳時代中・後期の竪穴建物の存在が判明しているが、詳細はまだ不明である。古墳群は大沢川右岸に北原古墳群がある。広い上位面にはほかに古墳の分布は明らかでないが、「群馬県古墳総覧」(文献78)では北端部に、中位面にある下池古墳群の南西端



岩崎馬場遺跡

富岡遺跡

釜ヶ淵遺跡

上河原遺跡

竹腰遺跡

下池古墳群

御門遺跡

多胡碑

池字岡地内

高木古墳群

2324

2326

1337

2329

2325

2327

2323

北原古墳群

2328

塩川砂井戸遺跡

1区

1-2区

3区

4区

5区

6区

7区

8区

9区

10区

11区

池石田遺跡

雑木味遺跡

多胡郡正倉跡

2346・2347・2359・2360

2358

2348・2361

2349

1519

2345

2351

2350・2356

2363

2366

2352~2355

2362

1516

2357・2367

1528・2364

2373

1505~1508

1520・2360

2388

1517・1518

2387

2386

2368・2369

2386

2384

2375~2378

1500・1501

2382

2370・2371

2387

2381

2374・2381

2388

2382

2383・2385

2389

2390

2390

2389

2390

2389

2390

第206図 吉井段丘の遺跡と塩川砂井戸遺跡

番号は文献78に拠る古墳番号

0 1:60,000 2km

にあたる古墳が数基掲載されているのみである。一方、中位面には北から下池古墳群、高木古墳群、小型前方後円墳を1基含む塚原古墳群がある。

中位面での集落域と墓域の関係もまだ全容が明らかでないが、古墳群の存在からは吉井段丘面全体で古墳時代の地域社会は完成されていたものと考えられる。旧吉井町域には須恵器生産や糸・布生産などの工人集団も想定されており、塩川砂井戸遺跡で検出された古墳時代後半の集落も、その中に位置づけられるのであろう。塩川砂井戸遺跡11区36号竪穴建物(7世紀後半)から出土した須恵器長頸壺は特殊な器種であり、建郡直前の時期に死後の副葬品を用意できるほどの家長層または須恵器工人の統括者の存在を示唆している。

塩川砂井戸遺跡の位置づけ：奈良時代

奈良時代の遺構は、上位面に塩川砂井戸遺跡の集落のほか、瓦散布地の雑木味遺跡、「多胡郡正倉跡」がある。

雑木味遺跡は塩川砂井戸遺跡の東200mのところにある。以前から瓦が採集されていることから、寺院跡もしくは郡衙跡の可能性が想定されてきた。平成23年と24年に発掘調査が実施され、1次調査では13棟の竪穴建物と基壇状遺構、南北方向の直線溝などが確認され、多数の瓦が出土した。2次調査では南北方向の直線溝や土坑が検出された。遺構群の周縁部と考えられている。瓦は調査区内から多量に出土しているが、SD-02から出土した軒丸瓦は複弁六葉蓮華文で8世紀代とされている。調査成果から雑木味遺跡は一般的な集落ではなく、8世紀を上限とする仏教関連施設が存在した可能性を否定できないとし、7世紀以前の遺構が未検出であることから、「旧来の集落の編成ではなく、建郡に伴う新たな施設の構築といった事象も想像される」としている。(文献56・57)

さらに平成23年から実施されている多胡碑関連の遺跡確認調査で調査された岡遺跡が正倉院であることが判明し、「多胡郡正倉跡」と改称された。「多胡郡正倉跡」は上位面東端にあり、多胡碑を見下ろすような位置にある。「多胡郡正倉跡」から出土した瓦は8世紀第2四半期のものとわかり、多胡碑の内容とも合致する。(文献63)高崎市教育委員会では現在「多胡郡正倉跡」の調査成果を整理途中であるが、担当者は出土瓦について雑木味遺跡出土の瓦と同時期・同窯製品の可能性が高いとされている。

塩川砂井戸遺跡でも10-2区85号竪穴建物から平瓦、

10-2区1号廃棄土坑から丸瓦が出土している。これらの瓦破片は遺構に伴うものではなく、この時期になって近隣の古代遺構から持ち込まれたものと推定される。高崎市教育委員会にご協力いただき、これらを「多胡郡正倉跡」と雑木味遺跡出土瓦と比較したところ、表面平行叩き後のナデや狭端部の強いナデなどの整形技法、胎土、大きさ・厚さ等が共通することから、同時期・同窯製品の可能性があると観察された。

現状で明確な中位面の奈良時代の遺構は、「多胡碑」があるのみである。数地点の発掘調査成果があるが、いずれも平安時代の遺構が確認されている。その中で時期不明であるが、平安時代竪穴建物より古い南北直線水路が調査された竹腰遺跡がある。奈良時代との確証はないが注意すべき遺構であろう。中位面の今後の調査成果が期待される。また、吉井段丘面には以前から古代条里地割の存在がいられている。(文献75)また、直線的な地割はすでに条里制地割整備以前に設定されたという関口功一の論考(文献76)もある。吉井段丘面の遺跡の遺構配置は、多胡碑、「多胡郡正倉跡」、未確認の多胡郡庁、条里型水田、道路等とともに方格地割を念頭において考える必要があるであろう。塩川砂井戸遺跡では直接関連する遺構は検出されなかったが、塩川砂井戸遺跡も多胡郡建郡の前後に整備されていく地域のなかの一集落という位置づけとなろう。

塩川砂井戸遺跡の位置づけ：平安時代以降

塩川砂井戸遺跡の平安時代9世紀以降の遺構は激減し、吉井段丘内での集落構成に何らかの変化があったものとみられる。中位面では平安時代竪穴建物が確認された上河原遺跡、御門遺跡、竹腰遺跡、釜ヶ淵遺跡など複数あり、北側の下位面と分類された面の南半部には平安時代遺跡の立地を想定できる。今回の調査では、このような吉井段丘内の平安時代集落の一端を示すことができた。

また、塩川砂井戸遺跡では中世・近世の遺物は出土したものの、遺構の全体像を把握するにはいたらなかった。特に10-2区に集中していたピット群や井戸、埋桶(便槽)、当該期の遺物などの存在は、居宅等の建物群や生活空間があったことを示しており、今回の発掘調査はその基礎的な一資料を提供できたということになる。

引用・参考文献

1. 吉井町教育委員会1962『入野遺跡』
2. 山崎一1972『群馬県古城址の研究 下巻』
3. 群馬県立博物館1973『東吹上遺跡』
4. 吉井町誌編さん委員会1974『吉井町誌』
5. 尾崎喜左雄1977『上野国の古墳と文化』
6. 群馬県教育委員会1981 群馬県歴史の道調査報告書第十四集『下仁田道』
7. 吉井町教育委員会1982『川内遺跡』
8. 吉井町教育委員会1986『道六神遺跡』
9. 吉井町教育委員会1986『川福遺跡調査報告書』
10. 吉井町教育委員会1985～1986『入野遺跡』～『入野遺跡Ⅲ』
11. 吉井町教育委員会1987『東沢遺跡 折茂東遺跡』
12. 吉井町教育委員会1987『西馬脇・長根宿遺跡』
13. 吉井町教育委員会1987『蛇田古墳』
14. 吉井町教育委員会1989『椿谷戸遺跡発掘調査報告書』
15. 吉井町教育委員会1989『富岡遺跡』
16. 吉井町教育委員会1989『柳田遺跡発掘調査報告書』
17. 吉井町教育委員会1990『竹腰遺跡』
18. 吉井町教育委員会1990『椿谷戸遺跡Ⅱ』
19. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1990～1997『矢田遺跡』～『矢田遺跡Ⅷ』
20. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1990『長根羽田倉遺跡』
21. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1992『神保下條遺跡』
22. 吉井町教育委員会1992『多比良遺跡発掘調査報告書』
23. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1992・1994『黒熊中西遺跡(1)(2)』
24. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1993『神保富士塚遺跡』
25. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1993『多胡蛇黒遺跡』
26. 吉井町教育委員会1994『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
27. 吉井町教育委員会1995『ヌカリ沢A竈址発掘調査報告書』
28. 吉井町教育委員会1995『御門遺跡発掘調査報告書』
29. 吉井町教育委員会1995『入野遺跡群 馬場遺跡発掘調査報告書』
30. 吉井町教育委員会1995『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』
31. 吉井町教育委員会1996『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』
32. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1997『神保植松遺跡』
33. 財団法人群馬県埋蔵文化財事業団1997『多比良追部野遺跡』
34. 吉井町教育委員会1998『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』
35. 吉井町教育委員会1999『多比良観音山遺跡発掘調査報告書』
36. 吉井町教育委員会2001『矢田遺跡発掘調査報告書』
37. 吉井町教育委員会2002『川福遺跡第二次発掘調査報告書』
38. 吉井町教育委員会2004『川内遺跡第二次発掘調査報告書』
39. 吉井町教育委員会2003『多比良笠掛遺跡発掘調査報告書』
40. 吉井町教育委員会2003『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅵ』
41. 吉井町教育委員会2004『椿谷戸遺跡第四次発掘調査報告書』
42. 吉井町教育委員会2004『矢田遺跡(第3次)発掘調査報告書』
43. 吉井町教育委員会2004『上河原遺跡発掘調査報告書』
44. 吉井町教育委員会2004『下条遺跡発掘調査報告書』
45. 吉井町教育委員会2004『片山遺跡群発掘調査報告書』
46. 吉井町教育委員会2004『安坪古墳群・長根遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』
47. 吉井町教育委員会2005『安坪古墳群・長根遺跡群発掘調査報告書Ⅷ』
48. 吉井町教育委員会2005『東シメ木・多胡松原遺跡発掘調査報告書』
49. 吉井町教育委員会2006『中林遺跡』
50. 吉井町教育委員会2006『長根遺跡群発掘調査報告書Ⅸ』
51. 吉井町教育委員会2007『長根遺跡群発掘調査報告Ⅹ』
52. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財事業団2013『吉井川下宿遺跡』
53. 高崎市教育委員会2014『多胡碑周辺遺跡』第4次調査現地説明会資料
54. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財事業団2015『本郷畑内遺跡』
55. 公益財団法人群馬県埋蔵文化財事業団2015『塩川砂井戸遺跡』
56. 高崎市教育委員会2011『吉井・雑木味遺跡』
57. 高崎市教育委員会2013『吉井・雑木味遺跡2』
58. 高崎市教育委員会2011『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』
59. 高崎市教育委員会2015『平成26年度市内遺跡発掘調査報告書』
60. 高崎市教育委員会2011『矢田・天王原遺跡』
61. 高崎市教育委員会2011『矢田・天王原遺跡2』
62. 高崎市教育委員会2014『吉井城東遺跡』
63. 滝沢 匡2017『上野国多胡郡正倉跡と寺院』『古代東国の地方官衙と寺院』山川出版社
64. 文化庁文化財保護部1992『特集トイレの考古学 月刊文化財11/平成四年(350号)』
65. 大田区立郷土博物館1996『考古学トイレ考』
66. 大田区立郷土博物館1997『トイレの考古学』
67. 黒崎 直1998『トイレ遺構の総合的研究—発掘された古代・中世トイレ遺構の検討』
68. 後藤健一2015『出土遺物の分類と編年』『遠江湖西窯跡群の研究』六一書房
69. 藤野一之2009『北関東型須恵器の成立と展開』・「北関東型須恵器からみた関東地方の須恵器生産」『群馬・金山丘陵窯跡群Ⅱ』駒澤大学考古学研究室
70. 高崎市教育委員会1992『観音山古墳調査報告書』
71. 各務原市教育委員会1998『須衛天狗谷古墳群・天狗谷窯跡群発掘調査報告書』
72. 各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』
73. 各務原市教育委員会1981『稲田山古窯跡群発掘調査報告書』
74. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡(0区)・引間松葉遺跡』
75. 三友国五郎1959『関東地方の条里』『埼玉大学紀要社会科学編』8巻
76. 関口功一1986『鐮川流域の条里的地割』『条里制研究』第2号
77. 関口功一2015『阡陌と方格地割—群馬県下の事例から—』『関東条里の研究』東京堂出版
78. 群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』
79. 茨城県立歴史館2000 企画展図録『ねがい・うらない・おまじない』
80. 新潟県立歴史博物館2016 企画展図録『おふだにねがいを—呪符—』
81. 山本亨介1972『将棋庶民史』朝日新聞社
82. 天狗太郎1980『33 駒形の鑑札』『将棋101話』光風社出版
83. 岡村良子2013『株札はなぜ五角形か』『浪華紙魚百景／大商大 商業史博だより』大阪日日新聞連載 2013年4月10日
84. 第一軍管地方迅速測図(大日本測量(株)資料調査部複製)

遺構計測一覧表

凡例

1. 遺構一覧表は、各区遺構種ごとに作成し、本報告書の掲載順に並べた。
ただし土坑・ピットは遺構番号順に並べた。
2. 遺構名称および番号は本文に記載した報告時のものである。
整理作業時に欠番が確認された遺構についてはその旨記載した。
名称・番号を付け替えた遺構は本文P. 8第1表に旧遺構名称・番号を併記し対照できるようにした。
3. グリッドは遺構が含まれる範囲の南東隅の国家座標交点を座標値下三桁で表示した。
4. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。()を付したものは残存長である。
5. 本文頁は本文掲載の最初頁、挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載P L番号を記載した。
6. ピットの埋没土パターン分類は下記の通りである。
A 1：黒褐色土(10YR3/2、2/3)白色粒・円礫を含む。 A 2：黒褐色土(10YR3/1)多量の礫を含む。
A 3：黒褐色土(10YR3/1)礫を少量含む。 A 4：黒褐色土(10YR3/1、3/2)微量の礫と塊状明黄褐色土を含む。
A 5：黒褐色土(10YR3/1)礫を含まない。 B：褐灰(7.5YR4/1)か黒褐(7.5YR3/1)礫を少量含む。
C：暗褐色土(10YR3/3、3/4)白色粒・礫・黄色ローム塊を含む。
D：暗褐色土(10YR3/3)礫・焼土粒・炭化物粒を含む。
E：にぶい黄褐色土(10YR4/3、4/2)砂質黄褐色土・小礫を含む。 F：褐色土(10YR4/4、4/6)

目次

1. 竪穴建物一覧表・・・・・・・・・・ 228
2. 竪穴状遺構一覧表・・・・・・・・・・ 229
3. 掘立柱建物一覧表・・・・・・・・・・ 229
4. 柱穴列一覧表・・・・・・・・・・ 229
5. 井戸一覧表・・・・・・・・・・ 229
6. 溝一覧表・・・・・・・・・・ 230
7. 鍛冶関連廃棄土坑一覧表・・・・・・ 230
8. 土坑一覧表・・・・・・・・・・ 230
9. ピット一覧表・・・・・・・・・・ 233
10. 畑一覧表・・・・・・・・・・ 247
11. 復旧痕一覧表・・・・・・・・・・ 247

遺構計測一覧表

竪穴建物一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	面積 (㎡)	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
6	47	竪穴建物	064・-303	ほぼ正方形	3.98	3.78	0.10	N-76°-E	13.23	17	6	5・61	
6	48	竪穴建物	057・-316	長方形	4.13	3.14	0.27	N-90°-E	10.72	18	7	5	
6	49	竪穴建物	052・-327	台形	(2.60)	2.70	0.29	N-19°-E	計測不能	19	8	5	
6	50	竪穴建物	055・-326	台形	6.52	6.10	0.31	N-60°-W	3.14	20	9・10	5・6・61	
6	51	竪穴建物	056・-339	ほぼ正方形	3.22	(2.28)	0.28	N-22°-E	計測不能	22	11	6・61	
6	52	竪穴建物	067・-337	ほぼ正方形	3.60	3.48	0.23	N-86°-E	10.52	23	12	6	
6	53	竪穴建物	052・-348	長方形	4.70	3.13	0.12	N-11°-W	計測不能	24	13	6・61	
6	61	竪穴建物	080・-337	長方形	(3.44)	5.05	0.41	N-19°-E	計測不能	25	14	61	
6	62	竪穴建物	072・-310	長方形	7.52	6.90	0.35	N-77°-W	計測不能	26	15・16	7・62	
6	63	竪穴建物	083・-308	長方形	4.79	3.37	0.28	N-87°-W	13.66	29	17	7・61	
6	64	竪穴建物	072・-342	ほぼ正方形	6.74	6.49	0.29	N-27°-E	計測不能	30	18・19	8・61	
6-2	69	竪穴建物	071・-349	隅丸長方形	4.66	3.72	0.03	N-6°-W	計測不能	32	20	8	
6-2	70	竪穴建物	068・-349	方形	(2.23)	(1.95)	0.06	N-84°-E	計測不能	32	20	8	
7	24	竪穴建物	060・-291	正方形	4.23	4.10	0.20	N-90°	15.76	33	21	8・9・62	
7	27	竪穴建物	060・-287	ほぼ正方形	3.95	3.83	0.17	N-78°-W	12.72	34	22	9・63	
7	28	竪穴建物	065・-285	ほぼ正方形	4.52	4.25	0.29	N-55°-W	16.47	34	23	9・10	
7	29	竪穴建物	067・-282	長方形	3.55	2.74	0.29	N-55°-W	8.21	36	23・24	10・64	
7	30	竪穴建物	074・-293	正方形	4.22	4.12	0.25	N-47°-W	13.85	38	25	10・63	
7	31	竪穴建物	076・-296	台形	3.62	2.85	0.22	N-58°-W	計測不能	40	26	11	
7	32	竪穴建物	080・-296	長方形	4.30	3.82	0.23	N-6°-W	14.45	40	26	11・63	
7	33	竪穴建物	086・-280	平行四辺形	4.18	3.86	0.24	N-4°-E	12.13	40	27	11・12・63	
7	34	竪穴建物	088・-287	方形	(3.20)	(2.48)	0.22	N-34°-E	計測不能	43	28	12・63	
7	35	竪穴建物	072・-281	台形	3.30	3.11	0.20	N-71°-E	8.88	44	29	12・13・65	
7-2	71	竪穴建物	077・-247	方形	3.40	3.10	0.38	N-71°-W	8.94	45	30~32	13・14・66	
7-2	72	竪穴建物	087・-261	台形	3.20	3.00	0.07	N-5°-E	計測不能	48	33	14・65	
7-2	73	竪穴建物	078・-253	ほぼ正方形	3.64	3.26	0.28	N-60°-E	9.58	48	34・35	14・15・65	
7-2	74	竪穴建物	071・-253	台形	5.03	4.57	0.31	N-64°-E	計測不能	50	36・37	15・65	
7-2	75	竪穴建物	075・-250	方形	0.33	(0.21)	0.24	計測不能	計測不能	52	36	15	
7-2	100	竪穴建物	076・-272	正方形	3.45	3.43	0.34	N-81°-E	10.02	53	38	15・16・65	
7-2	101	竪穴建物	064・-273	隅丸方形	3.45	計測不能	0.19	N-22°-W	計測不能	54	39	16	
7-2	102	竪穴建物	074・-266	長方形	4.49	4.16	0.30	N-14°-E	14.94	57	41・42	16・17・65	
7-2	103	竪穴建物	068・-263	長方形	5.17	4.55	0.25	N-1°-W	21.00	57	43・45	17・67	
7-2	104	竪穴建物	064・-269	隅丸ほぼ方形	3.80	3.73	0.10	N-25°-W	計測不能	54	39・40	16・65	
8-2	76	竪穴建物	098・-191	長方形	4.97	4.75	0.20	N-73°-W	計測不能	63	46	17・18	
8-2	77	竪穴建物	095・-228	不定形	4.85	4.18	0.10	N-62°-E	16.47	64	48	18・68	
8-2	105	竪穴建物	089・-229	隅丸長方形	3.76	2.93	0.15	N-76°-E	8.83	65	49	18	
8-2	106	竪穴建物	084・-227	長方形	2.95	(2.61)	0.17	N-20°-W	計測不能	66	50	18・19	
8-2	107	竪穴建物	085・-224	方形	(2.62)	(2.58)	0.19	N-74°-E	計測不能	67	51	19	
8-2	108	竪穴建物	099・-202	長方形	4.48	3.90	0.31	N-18°-E	計測不能	67	52	19	
8-2	109	竪穴建物	104・-203	方形	3.07	(5.08)	0.18	N-82°-E	計測不能	69	53	19	
8-2	110	竪穴建物	091・-208	長方形	4.45	(3.29)	0.09	N-69°-E	計測不能	69	54	19・20	
8-2	120	竪穴建物	095・-217	長方形	3.37	2.96	0.20	N-66°-E	9.03	70	55・56	20・68	
8-2	121	竪穴建物	101・-209	正方形	4.83	(3.77)	0.26	N-67°-E	計測不能	72	57	20・21・68	
8-2	122	竪穴建物	098・-221	台形	2.95	2.74	0.13	N-78°-E	7.15	74	58	21・68	
9	38	竪穴建物	069・-228	長方形	4.04	3.70	0.38	N-63°-E	10.68	75	59~61	21・22・69	
9	39	竪穴建物	067・-223	長方形	3.14	(2.13)	0.28	N-23°-E	計測不能	78	62・63	22・23・69	
9	40	竪穴建物	068・-215	正方形	3.28	3.01	0.22	N-72°-E	7.44	79	64・65	23・68	
9	41	竪穴建物	069・-218	方形	3.33	(2.15)	0.19	N-63°-E	計測不能	81	66・67	23・24・69	
9	42	竪穴建物	073・-215	長方形	5.61	4.93	0.48	N-21°-W	20.93	83	68・69	24・25・70	
9	43	竪穴建物	077・-210	方形	(3.53)	3.52	0.43	N-24°-E	計測不能	86	70	25	
9	44	竪穴建物	071・-224	長方形	4.18	3.33	0.42	N-57°-E	9.54	87	71・72	25・26・70	
9	45	竪穴建物	076・-212	台形	3.63	3.58	0.41	N-0°	9.13	89	73・74	26・70	
9	46	竪穴建物	073・-217	不明	計測不能	計測不能	0.06	計測不能	計測不能	90	75	26	
9	54	竪穴建物	067・-220	方形	計測不能	計測不能	0.23	計測不能	計測不能	91	76	26	
9	55	竪穴建物	075・-215	方形	計測不能	計測不能	0.23	計測不能	計測不能	91	77	26	
9	65	竪穴建物	077・-167	方形	3.58	(0.96)	0.29	N-34°-W	計測不能	92	78	27・69	
9	66	竪穴建物	073・-181	正方形	3.51	(1.94)	0.25	N-53°-E	計測不能	93	79	27・70	
9	67	竪穴建物	080・-171	台形	3.78	2.96	0.17	N-51°-E	9.16	93	80	27・70	
10	56	竪穴建物	109・-127	長方形	5.91	5.11	0.13	N-90°	計測不能	96	81	28・71	
10	57	竪穴建物	108・-135	長方形	4.96	3.95	0.12	N-88°-E	17.86	96	82・83	28・71	
10	58	竪穴建物	101・-142	台形	3.89	1.64	0.12	N-71°-E	6.68	99	84	28・71	
10	59	竪穴建物	079・-159	方形	5.61	(3.72)	0.33	N-37°-W	計測不能	100	85	28・29・71	
10	60	竪穴建物	110・-147	不明	計測不能	計測不能	0.04	計測不能	計測不能	104	88	29・71	
10	68	竪穴建物	079・-159	方形	(4.49)	(2.77)	0.21	N-38°-W	計測不能	102	86・87	28・29・71	

竪穴建物一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	面積 (㎡)	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	78	竪穴建物	101・-114	長方形	4.04	3.35	0.15	N-18°-W	11.72	104	89・90	29・71	
10-2	79	竪穴建物	099・-113	隅丸長方形	2.05	1.74	0.04	N-80°-E	2.94	105	91	29	
10-2	80	竪穴建物	101・-116	長方形	4.26	3.52	0.08	N-16°-W	計測不能	104	89・90	29・71	
10-2	81	竪穴建物	098・-116	方形	2.67	計測不能	0.04	N-79°-E	計測不能	107	92・93	29	
10-2	82	竪穴建物	099・-118	方形	(1.88)	(1.41)	0.35	N-27°-W	計測不能	107	92・93	29	
10-2	83	竪穴建物	098・-120	長方形	3.32	2.90	0.14	N-75°-E	8.63	111	95	30・71	
10-2	84	竪穴建物	108・-116		2.85	2.68	0.06	N-11°-W	7.24	111	96	30	
10-2	85	竪穴建物	115・-107	長方形	3.45	3.08	0.15	N-28°-W	10.26	112	97~99	30・72	
10-2	86	竪穴建物	110・-104	隅丸長方形	3.74	2.81	0.20	N-84°-E	8.17	116	100・101	31・73	
10-2	87	竪穴建物	107・-104	隅丸長方形	2.67	2.33	0.28	N-10°-W	4.59	116	100	31・73	
10-2	88	竪穴建物	104・-107	長方形	4.43	4.09	0.21	N-25°-W	15.95	118	102	31	
10-2	89	竪穴建物	099・-113	隅丸長方形	5.62	4.02	0.37	N-90°	18.46	110	92・93	29・89	
10-2	90	竪穴建物	110・-094	隅丸長方形	2.84	2.19	0.05	N-18°-E	4.79	120	103	31	
10-2	91	竪穴建物	113・-089		4.59	4.35	0.35	N-64°-E	17.22	121	104・105	31・73	
10-2	92	竪穴建物	108・-091	長方形	3.47	3.36	0.10	N-63°-E	9.68	123	106	32・73	
10-2	93	竪穴建物	107・-106	長方形	3.76	計測不能	0.09	N-85°-E	計測不能	116	100	31・73	
10-2	94	竪穴建物	115・-084	ほぼ正方形	2.66	2.60	0.03	N-52°-E	6.42	124	108	32	
10-2	95	竪穴建物	113・-080	方形	(2.90)	(2.77)	0.06	N-64°-E	計測不能	125	109	32	
10-2	96	竪穴建物	106・-087	長方形	4.76	3.72	0.05	N-33°-W	計測不能	124	107	32	
10-2	97	竪穴建物	119・-072	隅丸長方形	2.28	(1.50)	0.21	N-27°-W	計測不能	125	110	32	
10-2	98	竪穴建物	107・-069		4.67	3.78	0.15	N-13°-W	15.68	126	111	32・73	
10-2	99	竪穴建物	099・-113	隅丸方形	3.17	2.59	0.08	N-0°	計測不能	110	94	30	
10-2	111	竪穴建物	118・-072	長方形	3.71	(3.32)	0.05	N-32°-W	計測不能	125	110	32	
10-2	112	竪穴建物	114・-069	長方形	3.32	(3.08)	0.05	N-26°-W	計測不能	127	112	32	
10-2	113	竪穴建物	097・-104	不定形	4.72	3.19	0.13	N-90°	計測不能	128	113	32・73	
10-2	114	竪穴建物	102・-066	方形	3.21	3.08	0.02	N-53°-E	計測不能	130	114	33	
10-2	115	竪穴建物	090・-088	方形	3.68	(3.62)	0.10	N-71°-E	計測不能	130	115	33	
	116	竪穴建物	欠番										
10-2	117	竪穴建物	091・-100	長方形	3.93	2.80	0.09	N-82°-E	9.63	131	116	73	
	118	竪穴建物	欠番										
10-2	119	竪穴建物	096・-081	長方形	3.68	2.63	0.03	N-26°-W	計測不能	132	117	33	
10-2	123	竪穴建物	092・-075	方形	3.71	(0.65)	0.01	N-77°-E	計測不能	133	118	33	
11	23	竪穴建物	119・-058	長方形	3.30	2.55	0.13	N-70°-E	7.93	134	119	33	
11	25	竪穴建物	113・-057	長方形	(2.05)	(2.25)	0.03	N-76°-E	計測不能	134	120	33・74	
11	26	竪穴建物	110・-050	長方形	3.75	3.04	0.15	N-66°-E	10.82	135	121	34	
11	36	竪穴建物	102・-029	隅丸長方形	4.78	4.01	0.44	N-79°-E	14.66	135	122~124	34・35・74	
11	37	竪穴建物	100・-024	方形	(4.27)	(0.67)	0.25	N-77°-E	計測不能	139	125	35	

竪穴状遺構一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	面積 (㎡)	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
11	1	竪穴状遺構	117・-058	方形か	1.94	(0.92)	0.03	N-78°-E	計測不能	140	127	36	
6-2	2	竪穴状遺構	069・-348	不定形	2.85	2.38	0.08	N-34°-E	4.37	140	128	36	

掘立柱建物一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	柱間 桁行×梁行	桁行 m	梁行 m	棟方向	主軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	1	掘立柱建物	117~122・ -076~-081	3間×4間	4.61~4.63	4.13	南北棟	N-11°-W	141	129	36	

柱穴列一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	柱間間隔 m	主軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	1	柱穴列	099~122・ -094~-105	1.07~2.01	N-77°-E	141	130	36	

井戸一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
6	4	井戸	059~061・ -329~-331	不整円形	2.37	2.19	(0.60)	N-59°-W	143	131	36・75	
10	5	井戸	088~092・ -131~-133	円形	3.71	3.71	(0.97)	N-0°	144	132	36	
10	6	井戸	101・-162	楕円形	1.82	0.89	(0.85)	N-16°-E	144	132	36	
10	7	井戸	082~086・ -126,-127	不定形	3.52	3.45	(0.68)	N-80°-E	145	132	75	
10-2	9	井戸	098~100・ -062~-064	楕円形	2.00	(1.75)	1.49	N-72°-E	145	133	37	
10-2	10	井戸	088~091・ -084~-086	不定形	2.14	(1.88)	0.71	N-43°-E	145	133	37・75	118号竪穴建物を井戸に変更
10-2	11	井戸	087~089・ -091~-093	不定形	1.51	(1.15)	0.32	N-82°-E	145	133	37	249号土坑を井戸に変更

遺構計測一覧表

溝一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	調査長 m	上幅 m	残存深 m	走向	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
6	17	溝	070～085・ -327～-338	18.6	0.62～1.06	0.42	N-35°-E	148	134～136	37・75・76	
10-2	18	溝①	107～110・ -109～-114	7.16	0.44～0.76	0.20	N-80°-E N-6°-W	152	138		
10-2	18	溝②	101～106・ -119～-123	6.43	0.48～0.54	0.18	N-46°-E	152	138		
10-2	19	溝	091～098・ -087～-090	7.50	0.84～0.36	0.26	N-21°-W	152	138		
10-2	20A	溝	094～117・ -074～-083	25.22	0.34～0.70	0.20	N-21°-E	152	139	38	
10-2	20B	溝	104～107・ -103・-104	3.08	0.59～0.98	0.16	N-18°-W	152	138		
6	21	溝	064～066・ -310・-321	11.8	0.67～1.00	0.20	N-79°-E	151	137	37・38・77	

鍛冶関連廃棄土坑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
7-2	1	廃棄土坑A	082・-275	楕円形	0.58	0.46	0.18	N-75°-W	154	140・141	38・77	
7-2	1	廃棄土坑B	082・-274	隅丸方形	1.10	0.92	0.34	N-87°-E	154	140・141	38・77	

土坑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	遺物図 番号	写真 PL.	備考
6	66	土坑	063・-304	隅丸長方形	1.43	0.90	0.29	N-8°-W	158	146		43	
6	67	土坑	062・-305	円形	1.00	0.94	0.27	N-1°-W	158	142		39	
6	68	土坑	060・-304	不定形	1.12	1.00	0.34	N-48°-W	158	147		44	
6	69	土坑	058・-307	隅丸方形	1.32	1.26	0.18	N-65°-W	158	145	151	42・80	
6	70	土坑	055・-308	円形	0.88	0.84	0.33	N-2°-W	158	142		39	
6	71	土坑	056・-311	不定形	0.98	0.73	0.09	N-77°-E	158	147		44	
6	72	土坑	056・-315	円形	0.99	0.96	0.38	N-82°-E	158	142		39	
6	73	土坑	062・-307	隅丸長方形	2.07	0.98	0.33	N-12°-W	158	147		43	
6	76	土坑	065・-310	円形	1.46	1.30	0.69	N-86°-W	158	143	148	40・78	
6	77	土坑	064・-308	楕円形	1.15	0.88	0.32	N-69°-E	158	143		40・41	
6	78	土坑	064・-313	隅丸方形	1.17	1.16	0.25	N-14°-W	158	145		41・42	
6	79	土坑	060・-304	隅丸方形	1.04	0.68	0.12	N-77°-E	158	146		42	
6	80	土坑	063・-307	隅丸方形	1.34	(0.79)	0.28	N-9°-W	158	145		42	
6	81	土坑	058・-348	楕円形	2.05	1.10	0.21	N-17°-E	158	144	149	41・80	
6	82	土坑	064・-314	隅丸方形	1.52	1.46	0.34	N-80°-E	158	145	151	42・81	
6	83	土坑	064・-329	隅丸長方形	1.95	1.15	0.49	N-62°-E	158	147	152	43・82	
6	84	土坑	063・-332	楕円形	1.71	1.58	0.31	N-57°-W	158	143	149	40・79	
6	85	土坑	061・-338	楕円形	1.97	1.56	0.36	N-84°-E	158	144		41	
6	86	土坑	052・-332	隅丸長方形	(1.31)	0.90	0.09	N-8°-W	158	146		43	
6	87	土坑	051・-337	楕円形	1.47	1.12	0.17	N-46°-E	158	143		41	
6	88	土坑	060・-304	隅丸長方形	1.27	0.85	0.30	N-80°-E	158	146		42	
6	89	土坑	063・-316	楕円形	3.17	1.42	0.34	N-71°-E	158	144	150	41・80	
6	90	土坑	063・-327	隅丸方形	1.48	1.37	0.36	N-90°	158	145	151	42・81	
6	91	土坑	066・-333	楕円形	1.76	1.36	0.43	N-64°-W	158	144	149	41・79	
6	92	土坑	065・-335	楕円形	1.50	0.84	0.32	N-69°-E	158	143		41	
6	93	土坑	063・-337	隅丸方形	1.22	0.83	0.28	N-72°-E	158	146		42	
6	94	土坑	060・-337	隅丸長方形	2.43	1.51	0.25	N-73°-E	158	147	152	43・82	
6	95	土坑	067・-331	楕円形	1.60	1.27	0.40	N-78°-E	158	143	149	41・79	
6	96	土坑	063・-340	円形	1.05	0.89	0.14	N-90°	158	142		39	
6	100	土坑	056・-327	楕円形	1.13	0.67	0.12	N-2°-W	158	143	149	40・79	
6	101	土坑	065・-307	隅丸長方形	1.57	1.00	0.23	N-65°-E	158	146		43	
6	102	土坑	052・-323	隅丸方形	0.92	(0.63)	0.34	N-9°-W	158	144	150	41・80	
6	103	土坑	062・-319	隅丸長方形	1.45	1.01	0.42	N-54°-E	158	146	152	43・81	
6	104	土坑	051・-336	隅丸方形	1.38	(0.69)	0.30	N-79°-E	158	145	151	42・81	
6	119	土坑	077・-310	隅丸長方形	(0.53)	0.44	0.13	N-22°-W	158	146	151	42・81	
6	121	土坑	076・-343	楕円形	(1.83)	1.10	0.58	N-86°-E	158	144		41	
6	122	土坑	084・-313	円形	0.77	0.73	0.23	N-19°-W	158	142		39	
6	126	土坑	077・-340	楕円形	(1.20)	(0.68)	0.36	N-90°	158	143			
6	128	土坑	064・-323	隅丸方形	1.94	1.74	0.23	N-87°-E	158	145			
6	129	土坑	073・-326	隅丸方形	0.74	(0.50)	0.24	N-84°-E	158	144			
6	130	土坑	074・-324	隅丸方形	1.06	0.92	0.12	N-90°	158	145			
6	131	土坑	077・-324	隅丸長方形	1.06	0.57	0.09	N-90°	158	146			
6	132	土坑	074・-321	楕円形	1.11	0.64	0.07	N-31°-W	158	143			
6	133	土坑	076・-319	隅丸長方形	1.12	0.71	0.24	N-2°-E	158	146			
6	134	土坑	071・-335	隅丸方形	1.92	1.50	0.46	N-24°-E	158	145			

土坑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	遺物図 番号	写真 PL.	備考
6	135	土坑	079・-330	楕円形	1.32	0.74	0.24	N-90°	158	143	149	79	
6	136	土坑	079・-306	楕円形	(1.68)	1.07	0.58	N-87°-E	158	144			
6	137	土坑	071・-322	隅丸長方形	2.03	0.95	0.22	N-87°-E	158	147			
6	138	土坑	078・-322	円形	1.06	0.90	0.39	N-71°-E	158	142			
6-2	140	土坑	073・-347	隅丸長方形	2.25	0.61	0.62	N-87°-W	158	147	152	43・82	
6-2	141	土坑	081・-360	隅丸長方形	1.26	0.71	0.13	N-2°-E	158	146	151	42・81	
6-2	142	土坑	076・-355	円形	0.73	0.62	0.32	N-20°-E	158	142		39	
6-2	143	土坑	064・-347	円形	1.09	1.07	0.28	N-83°-E	158	142	148	39・78	埋桶
6-2	144	土坑	060・-355	円形	1.33	1.18	0.50	N-11°-W	158	142		40	
6-2	145	土坑	066・-359	円形	1.53	1.51	0.61	N-30°-W	158	143	148	40・79	
6-2	146	土坑	065・-349	隅丸長方形	1.64	0.82	0.35	N-2°-E	158	147		43	
6-2	147	土坑	064・-350	円形	0.82	0.78	0.25	N-6°-W	158	142		39	
6-2	148	土坑	061・-345	円形	1.42	1.23	0.54	N-30°-E	158	142	148	40・78	
6-2	149	土坑	061・-346	円形	1.09	(0.74)	0.33	N-35°-E	158	142		40	埋桶
7	52	土坑	062・-280	円形	1.77	1.65	0.40	N-11°-W	171	153		44	
7	53	土坑	064・-277	円形	0.93	0.83	0.41	N-43°-E	171	153		44	
7	54	土坑	075・-289	隅丸長方形	1.73	1.09	0.48	N-11°-W	171	155	156	46・82	
7	55	土坑	077・-287	円形	1.44	1.32	0.24	N-47°-E	171	153		44	
7	56	土坑	082・-288	隅丸長方形	2.28	1.58	0.27	N-73°-E	171	155	156	46・82	
7	57	土坑	083・-286	不定形	1.26	1.19	0.23	N-65°-E	171	155	156	46・83	
7	58	土坑	088・-299	隅丸長方形	(0.84)	0.64	0.26	N-3°-E	171	155		46	
7	59	土坑	089・-297	隅丸長方形	0.63	0.43	0.20	N-7°-W	171	155		46	
7	60	土坑	085・-283	隅丸長方形	2.22	0.96	0.39	N-76°-E	171	155		46	
7	61	土坑	062・-295	隅丸方形	1.06	(0.70)	0.16	N-5°-W	171	154		45	
7	62	土坑	066・-281	楕円形	1.85	1.32	0.40	N-38°-W	171	154		45	
7	63	土坑	069・-279	円形	1.66	1.63	0.31	N-0°	171	153		44	
7	64	土坑	060・-281	楕円形	2.83	(0.78)	0.36	N-75°-E	171	154		45	
7-2	150	土坑	085・-255	隅丸方形	1.13	1.10	0.46	N-78°-E	171	154	156	45・46・82	
7-2	151	土坑	088・-260	楕円形	2.72	1.24	0.51	N-5°-E	171	154		45	
7-2	152	土坑	081・-254	楕円形	1.32	1.08	0.11	N-35°-W	171	154		45	
7-2	153	土坑	079・-256	楕円形	1.68	0.79	0.11	N-45°-E	171	154		45	
7-2	154	土坑	086・-257	楕円形	0.67	0.54	0.09	N-30°-W	171	154		45	
7-2	178	土坑	068・-268	円形	1.09	1.07	0.50	N-18°-W	171	153	156	44・82	埋桶
7-2	179	土坑	068・-267	円形	1.02	(0.99)	0.40	N-74°-E	171	153	156	44・82	埋桶
7-2	202	土坑	067・-273	隅丸長方形	1.11	—	0.28	N-49°-E	171	155			
7-2	203	土坑	066・-274	隅丸長方形	—	0.73	0.24	—	171	155			
7-2	204	土坑	078・-272	隅丸方形	1.47	1.25	0.33	N-10°-W	171	154		46	
7-2	206	土坑	082・-274	隅丸方形(帯状)	3.61	0.80	0.21	N-5°-E	171	155		47	
8-2	226	土坑	082・-234	楕円形	0.76	0.58	0.22	N-13°-E	175	157		47	
8-2	227	土坑	083・-235	円形	0.68	0.68	0.24	N-0°	175	157		47	
8-2	228	土坑	088・-234	楕円形	0.77	0.62	0.21	N-68°-W	175	157			
8-2	229	土坑	091・-228	楕円形	0.65	0.44	0.21	N-5°-W	175	157		47	
8-2	230	土坑	092・-227	円形	(0.86)	(0.74)	0.14	N-64°-W	175	157	158	47	
8-2	231	土坑	088・-232	円形	0.83	0.81	0.41	N-61°-E	175	157	158	47	
8-2	250	土坑	092・-227	円形	0.50	0.49	0.39	N-21°-W	175	157		47	
8-2	251	土坑	093・-226	楕円形	0.69	0.56	0.52	N-25°-E	175	157		47	
9	74	土坑	067・-229	円形	0.87	0.84	0.26	N-0°	176	159		47	
9	75	土坑	069・-226	円形	0.92	0.89	0.32	N-0°	176	159		48	
9	97	土坑	090・-185	円形	(0.61)	0.55	0.19	N-20°-W	176	159		47	
9	98	土坑	079・-196	楕円形	0.94	0.41	0.10	N-62°-E	176	160		48	
9	99	土坑	076・-196	楕円形	0.56	0.44	0.21	N-87°-E	176	160		48	
9	105	土坑	069・-228	円形	0.47	0.43	0.32	N-68°-E	176	159		47	
9	106	土坑	068・-214	円形	1.52	(0.93)	0.21	N-55°-W	176	160		48	
9	114	土坑	078・-190	円形	0.97	0.87	0.19	N-72°-E	176	159		48	
9	118	土坑	069・-221	隅丸方形	1.14	(0.24)	0.23	N-32°-W	176	160		48	
9	120	土坑	076・-216	隅丸長方形	1.62	1.02	0.27	N-8°-W	176	160		49	
9	123	土坑	077・-187	不定形	1.04	0.91	0.22	N-31°-E	176	160		49	
9	124	土坑	079・-179	円形	0.62	0.62	0.14	N-0°	176	159		47	
9	125	土坑	074・-183	円形	0.86	0.84	0.22	N-0°	176	159		47	
9	127	土坑	077・-191	楕円形	1.03	0.73	0.28	N-20°-E	176	160		48	
9	139	土坑	077・-190	楕円形	0.88	0.73	0.41	N-68°-E	176	160		48	
10	109	土坑	102・-128	楕円形	1.65	0.88	0.26	N-90°	178	167			
10	110	土坑	102・-134	円形	0.85	0.76	0.33	N-24°-W	178	163			
10	111	土坑	081・-145	楕円形	1.59	0.98	0.44	N-69°-E	178	167		54	
10	112	土坑	108・-153	楕円形	1.22	0.69	0.20	N-55°-E	178	166		53	
10	113	土坑	090・-157	楕円形	2.75	0.99	0.35	N-15°-E	178	167		54	
10	115	土坑	092・-145	隅丸方形	1.38	1.08	0.16	N-16°-W	178	168		54	
10	116	土坑	094・-157	楕円形	0.87	0.62	0.15	N-21°-W	178	166		53	

遺構計測一覧表

土坑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	遺物図 番号	写真 PL.	備考
10	117	土坑	105・-156	隅丸方形	1.20	0.82	0.32	N-51°-E	178	168		54	
10-2	155	土坑	112・-120	楕円形	1.01	0.51	0.29	N-20°-E	178	166		53	
10-2	156	土坑	116・-116	楕円形	—	0.43	0.16	—	178	165		52	
10-2	157	土坑	116・-117	楕円形	—	0.57	0.21	—	178	165		53	
10-2	158	土坑	115・-116	楕円形	0.77	0.53	0.24	N-15°-W	178	166		53	
10-2	159	土坑	114・-113	楕円形	0.98	0.63	0.31	N-55°-E	178	166		53	
10-2	160	土坑	112・-116	円形	0.53	0.52	0.20	N-2°-W	178	161		49	
10-2	161	土坑	112・-109	円形	0.57	0.53	0.08	N-68°-E	178	161		49	
10-2	162	土坑	113・-105	円形	1.10	1.03	0.07	N-52°-E	178	164		52	
10-2	163	土坑	112・-104	楕円形	1.34	0.65	0.27	N-25°-W	178	167		54	
10-2	164	土坑	116・-104	円形	0.61	0.58	0.16	N-34°-E	178	162		49	
10-2	165	土坑	114・-103	円形	0.75	0.67	0.10	N-22°-E	178	162		50	
10-2	166	土坑	109・-101	円形	0.94	0.88	0.11	N-62°-E	178	162		51	
10-2	167	土坑	112・-102	円形	1.23	1.13	0.23	N-76°-W	178	165		52	
10-2	168	土坑	118・-100	円形	0.64	0.59	0.24	N-45°-E	178	162		49	
10-2	169	土坑	113・-098	円形	1.16	1.05	0.46	N-10°-W	178	164		52	
10-2	170	土坑	112・-100	円形	1.09	1.09	0.13	N-0°	178	164		52	
10-2	171	土坑	112・-099	楕円形	1.15	0.79	0.29	N-32°-W	178	164		52	
10-2	172	土坑	112・-099	不定形	—	1.08	0.13	N-59°-W	178	164		52	
10-2	173	土坑	111・-099	円形	0.60	0.53	0.07	N-45°-E	178	162		49	
10-2	174	土坑	108・-101	楕円形	0.79	0.59	0.12	N-43°-E	178	166		53	
10-2	175	土坑	108・-100	隅丸方形	0.56	0.47	0.11	N-33°-W	178	166		53	
10-2	176	土坑	109・-098	円形	1.07	1.07	0.39	N-0°	178	164		51	
10-2	180	土坑	109・-108	楕円形	1.35	0.78	0.17	N-75°-E	178	167	171	54	
10-2	181	土坑	108・-108	円形	0.65	0.60	0.20	N-70°-W	178	162	171	49・50・83	
10-2	182	土坑	106・-114	円形	0.77	0.68	0.19	N-10°-W	178	163		50	
10-2	183	土坑	106・-113	円形	0.75	0.72	0.20	N-41°-E	178	162		50	
10-2	184	土坑	105・-113	円形	0.72	0.56	0.21	N-28°-W	178	162		50	
10-2	185	土坑	113・-097	円形	1.13	1.11	0.17	N-51°-E	178	164		52	
10-2	186	土坑	114・-096	円形	0.97	0.89	0.15	N-65°-W	178	163		51	
10-2	187	土坑	114・-094	円形	1.07	0.95	0.26	N-85°-W	178	164		51	
10-2	188	土坑	114・-092	円形	1.05	0.93	0.40	N-12°-E	178	164	171	51	
10-2	189	土坑	110・-097	円形	1.25	1.24	0.27	N-5°-E	178	165		52	
10-2	190	土坑	108・-096	円形	0.75	0.70	0.18	N-12°-E	178	163		50	
10-2	191	土坑	109・-094	楕円形	1.23	0.69	0.14	N-25°-E	178	165		52	
10-2	192	土坑	109・-094	不定形	0.49	0.39	0.25	N-10°-E	178	169		52	
10-2	193	土坑	110・-092	円形	0.69	0.67	0.16	N-1°-E	178	162		50	
10-2	194	土坑	110・-115	不定形	1.34	0.93	0.42	N-46°-W	178	169		55	
10-2	195	土坑	105・-106	円形	0.59	0.52	0.44	N-37°-W	178	161		49	
10-2	196	土坑	103・-107	楕円形	1.29	0.61	0.53	N-13°-W	178	166		54	
10-2	197	土坑	104・-105	円形	0.62	0.60	0.58	N-7°-E	178	162		49	
10-2	198	土坑	104・-105	円形	0.57	0.53	0.35	N-57°-W	178	161		49	
10-2	199	土坑	103・-104	円形	0.81	0.68	0.34	N-80°-W	178	163		50	
10-2	200	土坑	102・-105	円形	0.80	0.74	0.45	N-86°-E	178	169		55	
10-2	201	土坑	116・-101	円形	1.24	1.19	0.19	N-84°-W	178	165		52	
10-2	205	土坑	099・-100	隅丸方形	0.94	(0.47)	0.17	N-10°-W	178	168		54	83号竪穴建物
10-2	207	土坑	108・-108	円形	0.67	0.41	0.26	N-25°-W	178	165			
10-2	208A	土坑	121・-076	隅丸方形	0.77	0.54	0.10	N-50°-E	178	168			
10-2	208B	土坑	108・-107	楕円形	1.23	1.01	0.21	N-88°-E	178	167	171		
10-2	209	土坑	113・-075	隅丸方形	—	0.61	0.17	—	178	168		54	
10-2	210	土坑	112・-076	隅丸方形	0.69	0.67	0.14	N-87°-E	178	168		54	
10-2	211A	土坑	116・-078	隅丸方形(帯状)	3.45	0.74	0.32	N-21°-W	178	168			
10-2	211B	土坑	109・-079	不定形	4.48	0.93	0.28	N-10°-W	178	170		55	
10-2	212	土坑	112・-071	円形	1.08	0.95	0.10	N-90°	178	164		52	
10-2	213	土坑	107・-084	円形	1.08	1.04	0.53	N-48°-W	178	164		51	
10-2	214	土坑	110・-081	不定形	1.97	1.01	0.66	N-46°-W	178	169		55	
10-2	215	土坑	099・-085	隅丸方形	0.57	0.54	0.09	N-1°-W	178	168		54	
10-2	216	土坑	108・-091	円形	1.07	0.97	0.23	N-5°-W	178	164		51	
10-2	217	土坑	106・-090	円形	1.24	1.21	0.14	N-22°-W	178	165		52	
10-2	218	土坑	113・-073	楕円形	1.16	0.73	0.27	N-76°-E	178	166		53	
10-2	219	土坑	094・-089	円形	0.71	0.66	0.13	N-33°-W	178	162		50	
10-2	220	土坑	092・-089	円形	1.05	0.92	0.26	N-26°-W	178	164	171	51・83	
10-2	221	土坑	091・-092	楕円形	0.73	0.53	0.24	N-60°-E	178	165		52	
10-2	222	土坑	090・-092	円形	0.81	0.70	0.16	N-82°-W	178	163		50	
10-2	223	土坑	093・-096	円形	0.81	0.81	0.26	N-0°	178	163		51	
10-2	224	土坑	095・-089	楕円形	0.82	0.55	0.08	N-63°-E	178	166		53	
10-2	225	土坑	092・-096	楕円形	1.16	0.44	0.34	N-3°-W	178	166		53	
10-2	232	土坑	088・-102	楕円形	2.18	0.75	0.53	N-27°-E	178	167		54	

土坑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	遺物図 番号	写真 PL.	備考
10-2	233	土坑	121・-075	不定形	3.12	0.77	0.83	N-20°-W	178	170		55	
10-2	234	土坑	104・-088	円形	1.16	1.00	0.17	N-35°-W	178	165		52	
10-2	235	土坑	104・-089	楕円形	0.75	(0.65)	0.10	N-7°-W	178	166		53	
10-2	236	土坑	096・-104	円形	0.83	0.81	0.09	N-78°-E	178	163		51	
10-2	237	土坑	097・-103	楕円形	1.58	1.31	0.12	N-38°-E	178	170		55	
10-2	239	土坑	116・-081	隅丸方形(帯状)	4.70	0.93	0.26	N-21°-W	178	169		55	
10-2	240	土坑	117・-083	隅丸方形(帯状)	(2.40)	0.91	0.22	N-31°-W	178	169		55	
10-2	241	土坑	116・-083	隅丸方形(帯状)	(1.71)	0.73	0.17	N-27°-W	178	169		55	
10-2	242	土坑	107・-069	楕円形	0.78	0.60	0.15	N-69°-E	178	166		53	
10-2	243	土坑	101・-069	円形	1.47	1.42	0.16	N-62°-E	178	165			
10-2	244	土坑	099・-066	円形	(1.03)	(0.65)	0.67	N-20°-W	178	163			
10-2	245	土坑	107・-087	円形	0.65	0.61	0.15	N-4°-E	178	162		50	
10-2	246	土坑	111・-094	円形	0.96	0.95	0.38	N-80°-E	178	163			
10-2	247	土坑	111・-095	円形	1.16	1.13	0.19	N-45°-W	178	163			
10-2	248	土坑	115・-085	円形	0.65	0.62	0.16	N-77°-E	178	162		50	
10-2	249	土坑	108・-084	円形	1.64	1.44	0.63	N-45°-W	178	164		51	249A号土坑を変更
10-2	252	土坑	103・-078	円形	0.64	0.62	0.11	N-19°-E	178	162		49	
10-2	253	土坑	096・-081	不定形	2.16	1.20	0.13	N-65°-W	178	170		55	
10-2	254	土坑	094・-083	楕円形	(1.31)	1.14	0.17	N-30°-W	178	167		54	
10-2	255	土坑	100・-079	円形	0.78	0.71	0.10	N-14°-E	178	163		50	
10-2	256	土坑	123・-075	円形	0.58	0.50	0.15	N-7°-E	178	161		49	
10-2	257	土坑	090・-116	円形	0.87	0.79	0.29	N-89°-E	178	163		51	
10-2	258	土坑	091・-118	円形	1.04	0.95	0.31	N-85°-W	178	163		51	
10-2	259	土坑	093・-117	円形	0.70	0.70	0.11	N-0°	178	162			
10-2	260	土坑	094・-119	円形	0.85	0.75	0.22	N-9°-W	178	163		51	
10-2	261	土坑	093・-118	隅丸方形	1.93	1.69	0.29	N-80°-E	178	170		55	
10-2	262	土坑	096・-119	楕円形	0.90	0.73	0.18	N-90°	178	166		53	
10-2	263	土坑	086・-107	隅丸方形(帯状)	(1.14)	0.55	0.31	N-47°-E	178	168		55	
10-2	264	土坑	104・-070	楕円形	1.01	0.48	0.10	N-74°-E	178	166	171	53	
10-2	265	土坑	106・-074	円形	0.66	0.60	0.06	N-21°-W	178	162		50	
10-2	266	土坑	091・-080	楕円形	0.59	0.43	0.39	N-38°-W	178	165			
10-2	267	土坑	093・-076	円形	0.63	0.59	0.06	N-61°-W	178	162			
10-2	268	土坑	097・-116	楕円形	1.89	0.79	0.60	N-55°-W	178	167		54	
10-2	270	土坑	116・-085	不定形	1.19	0.99	0.46	N-25°-W	178	169		55	
10-2	271	土坑	088・-092	隅丸方形	2.80	2.15	0.73	N-60°-E	178	168			116号 竪穴建物を土坑に変更
10-2	272	土坑	090・-089	不定形	1.79	1.29	0.33	N-27°-W	178	169	171	83	115号 竪穴建物内土坑を変更
10-2	273	土坑	107・-107	円形	1.09	0.92	0.20	N-81°-E	178	164			
11	44	土坑	122・-061	不定形	1.22	0.98	0.16	N-65°-E	188	173	173	56・83	
11	45	土坑	121・-063	円形	(0.66)	0.64	0.28	N-71°-E	188	172	173	55	
11	46	土坑	115・-044	楕円形	1.04	0.69	0.47	N-35°-W	188	173		56	
11	47	土坑	111・-046	楕円形	1.11	0.76	0.11	N-51°-W	188	173		56	
11	48	土坑	116・-042	楕円形	1.29	0.65	0.30	N-24°-W	188	173		56	
11	49	土坑	117・-059	不定形	1.42	0.39	0.24	N-0°	188	173		56	
11	50	土坑	134・-011	円形	1.22	(0.59)	0.41	N-80°-E	188	172		56	
11	51	土坑	115・-044	円形	0.70	0.59	0.42	N-77°-E	188	172			
11	65	土坑	104・-022	楕円形	2.46	2.00	0.44	N-43°-W	188	173	173	56・83	

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
11	302	ピット	126・-053	楕円形	0.46	0.38	0.33	C	190	11	191	58	
11	303	ピット	126・-050	楕円形	0.54	0.36	0.25	C	190	11	175・191	58	
11	304	ピット	113・-046	不定形	0.56	0.46	0.24	C	190	11	191		
11	305	ピット	113・-047	不定形	0.44	0.40	0.37	C	190	11	191		
11	306	ピット	117・-040	楕円形	0.32	0.27	0.33	C	190	11	191	58	
11	307	ピット	105・-013	楕円形	0.50	0.36	0.19	C	190	12	191	58	
7	308	ピット	080・-290	楕円形	0.38	0.34	0.14	C	190	3	189		
7	309	ピット	087・-298	楕円形	0.46	0.30	0.14	E	190	3	189		
7	310	ピット	085・-299	不定形	0.32	0.32	0.22	E	190	3	189		
7	311	ピット	083・-281	楕円形	0.38	0.36	0.37	E	190	3	189	57	
7	312	ピット	083・-280	楕円形	0.44	0.41	0.43	E	190	3	189	57	
9	313	ピット	071・-227	楕円形	0.34	0.29	0.12	C	190	5	190		
9	314	ピット	070・-226	楕円形	0.32	0.30	0.13	C	190	5	190		
9	315	ピット	069・-227	隅丸方形	0.28	0.28	0.17	F	190	5	190		
9	316	ピット	068・-229	不定形	0.30	0.29	0.11	F	190	5	190		
9	317	ピット	065・-228	不定形	0.40	0.34	0.13	C	190	5	190		
9	318	ピット	067・-225	隅丸長方形	0.48	0.26	0.04	F	190	5	190		
9	319	ピット	066・-225	不定形	0.32	(0.19)	0.03	F	190	5	190		

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
6	320	ピット	062・-308	楕円形	0.34	0.32	0.24	D	190	2	188		
6	321	ピット	057・-308	不定形	0.43	0.39	0.25	C	190	2	188	56	
6	322	ピット	062・-311	楕円形	0.56	0.50	0.24	C	190	2	188		
6	323	ピット	056・-310	不定形	0.39	0.36	0.16	D	190	2	188		
6	324	ピット	055・-311	楕円形	0.52	0.50	0.17	D	190	2	188		
6	325	ピット	056・-313	不定形	0.32	0.28	0.17	D	190	2	188		
6	326	ピット	054・-313	楕円形	0.38	0.34	0.09	D	190	2	188		
6	327	ピット	054・-319	楕円形	0.48	0.40	0.20	C	190	2	188		
6	328	ピット	063・-310	不定形	0.33	0.31	0.25	C	190	2	188		
6	329	ピット	056・-320	楕円形	0.54	0.52	0.21	D	190	2	188		
6	330	ピット	060・-323	不定形	0.38	0.36	0.12	D	190	2	188		
6	331	ピット	059・-323	円形	0.40	0.40	0.12	E	190	2	188		
6	332	ピット	059・-322	楕円形	0.40	0.36	0.23	D	190	2	188		
6	333	ピット	056・-324	楕円形	0.48	0.46	0.22	C	190	2	188		
6	334	ピット	054・-324	楕円形	0.60	0.52	0.24	C	190	2	188		
9	335	ピット	085・-181	楕円形	0.30	0.26	0.28	C	190	7	190		
9	336	ピット	090・-176	楕円形	0.40	0.34	0.36	D	190	7	190	57	
6	337	ピット	056・-349	楕円形	0.34	0.32	0.33	D	190	1	188		
6	338	ピット	053・-350	楕円形	0.44	0.31	0.09	D	190	1	188		
6	339	ピット	054・-351	不定形	0.36	0.32	0.25	D	190	1	188	56	
6	340	ピット	053・-353	楕円形	0.48	0.44	0.29	C	190	1	188		
6	341	ピット	053・-347	楕円形	0.42	0.34	0.30	D	190	1	188	56	
6	342	ピット	055・-348	隅丸長方形	0.40	0.34	0.26	D	190	1	188	56	
6	343	ピット	052・-328	円形	0.32	0.32	0.13	C	190	2	188		
6	344	ピット	052・-329	楕円形	0.32	0.29	0.14	C	190	2	188	56	
10	345	ピット	090・-140	楕円形	0.56	0.42	0.40	A 1	190	8	191	58	
10	346	ピット	105・-152	楕円形	0.44	0.34	0.37	A 1	190	8	191	58	
10	347	ピット	105・-136	楕円形	0.52	0.50	0.30	A 1	190	8	175・191	58・83	
9	348	ピット	071・-193	楕円形	0.42	0.38	0.42	C	190	6	190		
10	349	ピット	098・-156	楕円形	0.54	0.44	0.36		190	8	191		
10	350	ピット	097・-160	不定形	0.42	0.40	0.35	A 1	190	8	191		
10	351	ピット	094・-162	楕円形	0.52	0.45	0.29	A 1	190	7	191		
10	352	ピット	109・-163	楕円形	0.59	0.58	0.35	A 1	190	7	191	58	
10	353	ピット	095・-162	楕円形	0.44	0.38	0.37	A 1	190	7	191		
9	354	ピット	074・-189	不定形	0.46	0.36	0.20	C	190	7	190		
9	355	ピット	073・-224	不定形	0.23	0.18	0.16	C	190	5	175・190	57・83	
9	356	ピット	073・-220	不定形	0.44	0.42	0.35	F	190	5	190		
9	357	ピット	074・-188	楕円形	0.48	0.38	0.36	D	190	7	190	57	
9	358	ピット	072・-187	楕円形	0.38	0.34	0.26	A 1	190	7	190		
9	359	ピット	072・-185	不定形	0.36	(0.30)	0.37	A 1	190	7	190		
9	360	ピット	072・-185	不定形	0.40	0.32	0.29	A 1	190	7	190		
9	361	ピット	073・-186	楕円形	0.64	0.58	0.17	D	190	7	190		
9	362	ピット	074・-185	円形	0.34	0.34	0.25	G	190	7	190		
9	363	ピット	075・-188	楕円形	0.44	0.38	0.26	G	190	7	190		
9	364	ピット	076・-187	不定形	0.38	0.31	0.35	A 1	190	7	190		
9	365	ピット	076・-185	楕円形	0.44	0.38	0.54	C	190	7	190		
9	366	ピット	077・-183	楕円形	0.36	0.33	0.40	A 1	190	7	190		
9	367	ピット	076・-182	楕円形	0.43	0.34	0.49	D	190	7	190		
9	368	ピット	077・-176	楕円形	0.59	0.49	0.25	A 1	190	7	190		
9	369	ピット	077・-182	楕円形	0.50	0.44	0.29	E	190	7	190		
9	370	ピット	073・-190	楕円形	0.38	0.30	0.25	C	190	6	190		
9	371	ピット	073・-190	不定形	0.48	0.40	0.36	C	190	6	190	58	
9	372	ピット	082・-187	不定形	0.47	0.33	0.15	G	190	7	190		
9	373	ピット	081・-187	不定形	0.48	0.34	0.08	C	190	7	190		
9	374	ピット	081・-185	不定形	0.60	0.49	0.10	G	190	7	190		
9	375	ピット	081・-183	楕円形	0.44	0.36	0.33	G	190	7	191		
9	376	ピット	084・-186	不定形	0.46	0.29	0.18	D	190	7	191		
9	377	ピット	075・-171	楕円形	0.48	0.46	0.20	A 1	190	7	191		
9	378	ピット	086・-188	不定形	0.26	0.24	0.12	G	190	7	191		
9	379	ピット	088・-189	楕円形	0.39	0.28	0.14	D	190	7	191		
9	380	ピット	086・-194	不定形	0.38	0.37	0.32	D	190	6	191		
9	381	ピット	084・-194	楕円形	0.44	0.36	0.27	A 1	190	6	191		
9	382	ピット	085・-192	楕円形	0.54	0.42	0.11	A 1	190	6	191		
9	383	ピット	079・-193	楕円形	0.40	0.28	0.26	C	190	6	191		
9	384	ピット	072・-194	不定形	0.42	0.32	0.07	G	190	6	191		
9	385	ピット	072・-194	不定形	0.50	0.32	0.07	G	190	6	191		
9	386	ピット	071・-193	不定形	0.28	(0.20)	0.08	C	190	6	191		
9	387	ピット	073・-179	楕円形	0.33	0.29	0.21	F	190	7	191		

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
6	388	ピット	071・-329	楕円形	0.48	0.36	0.23	C	190	2	188		
6	389	ピット	071・-330	隅丸長方形	0.48	0.40	0.42	E	190	2	188		
6	390	ピット	072・-330	楕円形	0.26	0.24	0.21	E	190	2	188		
6	391	ピット	074・-329	楕円形	0.28	0.26	0.11	E	190	2	188		
9	392	ピット	081・-175	楕円形	0.33	0.30	0.15	F	190	7	191		
10	393	ピット	095・-156	不定形	0.57	0.46	0.42	A 1	190	8	191		
10	394	ピット	097・-156	不定形	0.48	0.46	0.42	A 1	190	8	191		
6	395	ピット	075・-316	楕円形	0.30	0.24	0.30	D	190	2	188		
6	396	ピット	075・-316	楕円形	0.28	(0.18)	0.33	C	190	2	188		
6	397	ピット	076・-315	不定形	(0.26)	0.30	0.33	F	190	2	188		
6	398	ピット	077・-315	楕円形	0.42	0.40	0.26	D	190	2	188		
6	399	ピット	079・-316	円形	0.22	0.22	0.28	D	190	2	188		
6	400	ピット	081・-315	円形	0.40	0.40	0.35	D	190	2	189		
6	401	ピット	082・-316	楕円形	0.38	0.36	0.29	D	190	2	189		
6-2	402	ピット	078・-359	円形	0.50	0.50	0.41	A 2	190	1	189	57	
6-2	403	ピット	077・-355	円形	0.50	0.50	0.39	A 4	190	1	175・189	57	
6-2	404	ピット	078・-353	楕円形	0.45	0.38	0.41	A 3	190	1	189	57	
6-2	405	ピット	064・-346	不定形	0.81	0.80	0.24	A 3	190	1		57	
7-2	406	ピット	085・-256	楕円形	0.37	0.34	0.06	B	190	4	189		
8-2	407	ピット	099・-196	楕円形	(0.32)	0.38	0.54	A 5	190	6	189		
8-2	408	ピット	099・-196	楕円形	0.33	0.28	0.47	A 5	190	6	189		
8-2	409	ピット	100・-196	楕円形	0.58	0.51	0.44	A 5	190	6	189		
8-2	410	ピット	102・-195	楕円形	0.25	0.20	0.17	A 5	190	6	189		
8-2	411	ピット	102・-195	楕円形	0.42	0.41	0.14	A 5	190	6	189		
8-2	412	ピット	103・-194	楕円形	0.50	0.44	0.31	A 5	190	6	189		
8-2	413	ピット	097・-195	楕円形	0.21	0.20	0.16	A 5	190	6	189		
8-2	414	ピット	098・-195	楕円形	0.18	0.16	0.14	A 5	190	6	189		
8-2	415	ピット	103・-196	楕円形	0.23	0.18	0.20	A 5	190	6	189		
8-2	416	ピット	103・-196	楕円形	0.20	0.18	0.14	A 5	190	6	189		
8-2	417	ピット	103・-195	楕円形	0.28	0.28	0.21	A 5	190	6	189		
8-2	418	ピット	102・-192	楕円形	0.29	0.25	0.27	A 5	190	6	189		
8-2	419	ピット	102・-192	楕円形	0.25	0.22	0.26	A 5	190	6	189		
8-2	420	ピット	092・-235	楕円形	0.41	0.38	0.33	A 5	190	5	189	57	
8-2	421	ピット	094・-236	楕円形	0.56	0.43	0.37	B	190	5	189	57	
8-2	422	ピット	096・-236	楕円形	0.40	0.39	0.07	A 5	190	5	189	57	
8-2	423	ピット	097・-195	楕円形	(0.45)	0.53	0.53	A 5	190	6	189		
10-2	424	ピット	111・-114	円形	0.39	0.38	0.11		190	9			
10-2	425	ピット	112・-122	円形	0.30	0.30	0.31		190	9			
10-2	426	ピット	114・-120	円形	0.49	0.47	0.26		190	9			
10-2	427	ピット	115・-119	楕円形	0.44	0.35	0.29		190	9			
10-2	428	ピット	115・-119	楕円形	0.38	0.27	0.30		190	9			
10-2	429	ピット	116・-118	楕円形	0.50	(0.38)	0.22		190	9			
10-2	430	ピット	115・-118	楕円形	0.59	0.57	0.33		190	9			
10-2	431	ピット	117・-116	楕円形	0.38	0.35	0.22		190	9			
10-2	432	ピット	116・-117	楕円形	0.50	(0.32)	0.26		190	9			
10-2	433	ピット	116・-116	楕円形	0.65	—	0.20		190	9			
10-2	434	ピット	115・-117	楕円形	0.60	0.36	0.20		190	9			
10-2	435	ピット	114・-118	円形	0.50	0.49	0.25		190	9			
10-2	436	ピット	114・-116	楕円形	0.34	0.28	0.19		190	9			
10-2	437	ピット	116・-115	円形	0.40	0.40	0.12		190	9			
10-2	438	ピット	115・-115	円形	0.35	0.34	0.19		190	9			
10-2	439	ピット	115・-114	楕円形	0.43	0.41	0.24		190	9			
10-2	440	ピット	116・-114	楕円形	0.53	0.48	0.32		190	9	175		
10-2	441	ピット	117・-112	楕円形	0.38	0.36	0.13		190	9			
10-2	442	ピット	116・-111	楕円形	0.53	(0.47)	0.27		190	9			
10-2	443	ピット	116・-111	楕円形	0.42	0.30	0.16		190	9			
10-2	444	ピット	117・-111	不明	0.35	—	0.11		190	9			
10-2	445	ピット	117・-111	不明	0.30	—	0.14		190	9			
10-2	446	ピット	114・-114	楕円形	0.48	0.43	0.24		190	9			
10-2	447	ピット	113・-113	円形	0.40	0.38	0.12		190	9			
10-2	448	ピット	112・-113	方形	0.25	0.25	0.09		190	9			
10-2	449	ピット	112・-114	方形	0.33	0.28	0.08		190	9			
10-2	450	ピット	114・-115	方形	0.35	0.32	0.33		190	9			
10-2	451	ピット	112・-118	不定形	0.25	0.22	0.16		190	9			
10-2	452	ピット	112・-118	方形	0.23	0.17	0.15		190	9			
10-2	453	ピット	112・-117	方形	0.23	0.23	0.15		190	9			
10-2	454	ピット	111・-117	方形	0.28	0.25	0.14		190	9			
10-2	455	ピット	111・-117	方形	0.24	0.23	0.15		190	9			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	456	ピット	111・-118	方形	0.23	0.22	0.18		190	9			
10-2	457	ピット	111・-118	方形	0.31	0.30	0.17		190	9			
	458	ピット	欠番										
10-2	459	ピット	112・-116	方形	0.27	0.27	0.17		190	9			
10-2	460	ピット	112・-116	方形	0.27	0.23	0.11		190	9			
10-2	461	ピット	111・-116	方形	0.24	0.23	0.19		190	9			
10-2	462	ピット	111・-115	方形	0.23	0.23	0.11		190	9			
10-2	463	ピット	110・-115	楕円形	0.35	0.33	0.14		190	9			
10-2	464	ピット	110・-113	楕円形	0.61	0.55	0.16		190	9			
10-2	465	ピット	110・-112	不明	0.27	(0.13)	0.04		190	9			
10-2	466	ピット	113・-111	方形	0.24	0.22	0.11		190	9			
10-2	467	ピット	111・-110	楕円形	0.29	0.23	0.05		190	9			
10-2	468	ピット	111・-110	方形	0.25	0.24	0.05		190	9			
10-2	469	ピット	113・-109	楕円形	0.33	0.30	0.11		190	9			
10-2	470	ピット	112・-108	楕円形	0.30	(0.30)	0.12		190	9			
10-2	471	ピット	118・-109	楕円形	0.40	0.40	0.23		190	9			
10-2	472	ピット	118・-109	楕円形	0.34	0.28	0.19		190	9			
10-2	473	ピット	118・-107	楕円形	0.52	0.50	0.34		190	9			
10-2	474	ピット	119・-105	楕円形	0.55	0.46	0.15		190	9			
10-2	475	ピット	117・-105	方形	0.51	0.33	0.28		190	9			
10-2	476	ピット	117・-106	方形	0.44	0.35	0.22		190	9			
10-2	477	ピット	116・-106	不明	0.28	(0.24)	0.12		190	9			
10-2	478	ピット	114・-106	方形	0.20	0.20	0.09		190	9			
10-2	479	ピット	111・-103	円形	0.32	0.31	0.19		190	9			
10-2	480	ピット	111・-104	不明	0.36	(0.23)	0.21		190	9			
10-2	481	ピット	111・-104	不明	0.29	(0.25)	0.21		190	9			
10-2	482	ピット	109・-111	不明	0.37	(0.29)	0.06		190	10			
10-2	483	ピット	108・-111	楕円形	0.39	0.35	0.14		190	10			
10-2	484	ピット	109・-112	円形	0.32	0.31	0.19		190	10			
10-2	485	ピット	109・-114	円形	0.35	0.33	0.17		190	10			
10-2	486	ピット	108・-115	方形	0.28	0.25	0.04		190	10			
10-2	487	ピット	108・-114	楕円形	0.35	0.30	0.11		190	10			
10-2	488	ピット	107・-115	方形	0.27	0.26	0.09		190	10			
10-2	489	ピット	107・-116	不明	—	0.30	0.07		190	10			
10-2	490	ピット	107・-115	方形	0.25	0.20	0.13		190	10			
10-2	491	ピット	107・-115	方形	0.22	—	0.06		190	10			
10-2	492	ピット	107・-116	方形	0.37	0.21	0.07		190	10			
10-2	493	ピット	107・-115	方形	0.25	0.23	0.08		190	10			
10-2	494	ピット	106・-115	不明	—	0.28	0.08		190	10			
10-2	495	ピット	106・-115	不明	0.28	—	0.09		190	10			
10-2	496	ピット	107・-115	方形	0.21	0.19	0.07		190	10			
10-2	497	ピット	107・-114	方形	0.37	0.25	0.07		190	10			
10-2	498	ピット	107・-113	方形	0.26	0.25	0.08		190	10			
10-2	499	ピット	106・-114	方形	0.29	0.25	0.08		190	10			
10-2	500	ピット	106・-114	方形	0.25	0.24	0.07		190	10			
10-2	501	ピット	106・-115	方形	0.36	0.29	0.07		190	10			
10-2	502	ピット	106・-115	方形	0.38	0.35	0.13		190	10			
10-2	503	ピット	107・-117	方形	0.21	0.20	0.07		190	9			
10-2	504	ピット	107・-117	方形	0.27	0.23	0.06		190	9			
10-2	505	ピット	107・-118	方形	0.25	0.22	0.06		190	9			
10-2	506	ピット	107・-118	方形	0.26	0.25	0.05		190	9			
10-2	507	ピット	106・-118	方形	0.28	0.27	0.12		190	9			
10-2	508	ピット	106・-118	方形	0.22	0.21	0.11		190	9			
10-2	509	ピット	106・-118	不明	—	0.32	0.11		190	9			
10-2	510	ピット	106・-118	不明	—	0.45	0.14		190	9			
10-2	511	ピット	106・-118	方形	0.48	0.42	0.05		190	9			
10-2	512	ピット	118・-104	楕円形	0.37	0.34	0.29		190	9			
10-2	513	ピット	118・-104	方形	0.26	0.25	0.28		190	9			
10-2	514	ピット	117・-104	楕円形	0.37	0.33	0.24		190	9			
10-2	515	ピット	118・-104	方形	0.30	0.28	0.32		190	9			
10-2	516	ピット	116・-104	楕円形	0.52	—	0.25	A 4	190	9			
10-2	517	ピット	115・-104	方形	0.31	0.29	0.08		190	9			
10-2	518	ピット	115・-103	方形	0.25	0.23	0.11		190	9			
10-2	519	ピット	114・-102	方形	0.25	0.25	0.05		190	9			
10-2	520	ピット	114・-103	楕円形	0.45	0.42	0.37	A 5	190	9	191		
10-2	521	ピット	114・-104	楕円形	0.61	0.59	0.13	B	190	9	191		
10-2	522	ピット	113・-103	楕円形	0.26	0.19	0.11		190	9			
10-2	523	ピット	112・-103	楕円形	0.27	0.26	0.04		190	9			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	524	ピット	112・-101	方形	0.24	0.23	0.35		190	9			
10-2	525	ピット	111・-102	円形	0.32	0.32	0.27		190	9			
10-2	526	ピット	110・-101	不定形	0.52	0.48	0.34		190	9			
10-2	527	ピット	110・-101	方形	0.23	0.23	0.07		190	9			
10-2	528	ピット	109・-102	楕円形	0.36	0.31	0.16		190	9			
10-2	529	ピット	109・-101	楕円形	0.38	0.35	0.23		190	9			
10-2	530	ピット	108・-102	楕円形	0.31	0.27	0.26		190	9			
10-2	531	ピット	119・-103	楕円形	0.57	0.39	0.19		190	9			
10-2	532	ピット	118・-102	方形	0.33	0.31	0.28		190	9			
10-2	533	ピット	118・-101	楕円形	0.55	0.50	0.34		190	9			
10-2	534	ピット	118・-100	楕円形	0.57	0.38	0.35		190	9			
10-2	535	ピット	118・-102	方形	0.27	0.24	0.36		190	9			
10-2	536	ピット	117・-102	方形	0.23	0.20	0.18		190	9			
10-2	537	ピット	118・-101	方形	0.28	0.24	0.33		190	9			
10-2	538	ピット	117・-101	方形	0.23	0.23	0.15		190	9			
10-2	539	ピット	117・-101	方形	0.31	0.25	0.23		190	9			
10-2	540	ピット	114・-101	楕円形	0.62	0.60	0.41	A 4	190	9	191		
10-2	541	ピット	114・-100	方形	0.32	0.25	0.16		190	9			
10-2	542	ピット	111・-100	楕円形	0.30	0.23	0.35		190	9			
10-2	543	ピット	109・-099	楕円形	0.31	0.20	0.17		190	9			
10-2	544	ピット	107・-099	方形	0.23	0.21	0.21		190	9			
10-2	545	ピット	107・-099	方形	0.22	(0.14)	0.17		190	9			
10-2	546	ピット	107・-098	方形	0.23	0.21	0.18		190	9			
10-2	547	ピット	107・-098	方形	0.33	0.29	0.18		190	9			
10-2	548	ピット	106・-099	楕円形	0.32	0.31	0.17		190	9			
10-2	549	ピット	105・-098	方形	0.29	0.27	0.14		190	9			
10-2	550	ピット	105・-101	楕円形	0.29	0.25	0.21		190	9			
10-2	551	ピット	104・-097	楕円形	0.45	0.31	0.28		190	9			
10-2	552	ピット	103・-098	楕円形	0.35	0.31	0.15		190	9			
10-2	553	ピット	102・-100	円形	0.33	0.33	0.25		190	9			
10-2	554	ピット	116・-116	楕円形	0.90	0.58	0.19		190	9			
10-2	555	ピット	106・-117	方形	0.29	0.29	0.20		190	9			
10-2	556	ピット	105・-117	方形	0.17	0.16	0.15		190	9			
10-2	557	ピット	118・-099	方形	0.36	0.31	0.15		190	9			
10-2	558	ピット	118・-095	円形	0.23	0.21	0.25		190	10			
10-2	559	ピット	119・-093	円形	0.40	0.39	0.22		190	10			
10-2	560	ピット	115・-095	楕円形	0.42	0.34	0.10		190	10			
10-2	561	ピット	112・-098	楕円形	0.53	0.44	0.26	B	190	9	191		
10-2	562	ピット	106・-118	方形	0.27	0.24	0.12		190	9			
10-2	563	ピット	110・-098	楕円形	0.46	0.45	0.13		190	9			
10-2	564	ピット	109・-097	楕円形	0.35	0.26	0.17		190	9			
10-2	565	ピット	108・-097	方形	0.28	0.28	0.39		190	9			
10-2	566	ピット	105・-095	不定形	0.31	0.25	0.41		190	10			
10-2	567	ピット	105・-095	楕円形	0.29	0.25	0.09		190	10			
10-2	568	ピット	105・-095	方形	0.20	0.19	0.27		190	10			
10-2	569	ピット	105・-095	隅丸方形	0.27	0.26	0.17		190	10			
10-2	570	ピット	105・-096	隅丸方形	0.31	0.26	0.31		190	10			
10-2	571	ピット	104・-096	円形	0.24	0.24	0.27		190	10			
10-2	572	ピット	104・-095	円形	0.26	0.24	0.37		190	10			
10-2	573	ピット	104・-096	円形	0.23	0.23	0.16		190	10			
10-2	574	ピット	110・-112	楕円形	0.27	0.26	0.14		190	9			
10-2	575	ピット	107・-112	方形	0.30	0.29	0.14		190	10			
10-2	576	ピット	107・-112	方形	0.46	0.42	0.13		190	10			
10-2	577	ピット	106・-107	楕円形	0.44	0.43	0.44		190	10			
10-2	578	ピット	105・-106	楕円形	0.27	0.25	0.24		190	10			
10-2	579	ピット	105・-106	楕円形	0.44	0.32	0.29		190	10			
10-2	580	ピット	112・-104	不定形	0.25	0.18	0.06		190	9			
10-2	581	ピット	111・-104	不明	0.30	0.28	0.03		190	9			
10-2	582	ピット	111・-104	不明	0.37	0.33	0.23		190	9			
10-2	583	ピット	108・-115	不定形	0.52	0.44	0.14		190	10			
	584	ピット	欠番										
7-2	585	ピット	089・-269	楕円形	0.51	0.41	0.28		190	4	189	57	
7-2	586	ピット	084・-275	楕円形	0.39	0.33	0.20	A 4	190	4			
7-2	587	ピット	084・-275	不定形	0.52	0.44	0.27	A 4	190	4			鍛冶関連遺構
7-2	588	ピット	084・-274	楕円形	0.36	0.32	0.17	A 4	190	4			鍛冶関連遺構
7-2	589	ピット	080・-275	楕円形	0.47	0.42	0.19	A 4	190	4			鍛冶関連遺構
7-2	590	ピット	081・-274	楕円形	0.35	0.33	0.23	A 4	190	4			鍛冶関連遺構
7-2	591	ピット	083・-273	円形	0.29	0.29	0.41	A 4	190	4			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
7-2	592	ピット	087・-276	楕円形	0.35	0.33	0.35	A 4	190	4	189	57	
7-2	593	ピット	092・-276	円形	0.32	0.31	0.34	A 4	190	4	189		
	594	ピット	欠番										
10-2	595	ピット	100・-113	楕円形	0.36	0.30	0.34		190	9			
10-2	596	ピット	100・-113	楕円形	0.47	0.37	0.36		190	9			
	597	ピット	欠番										
10-2	598	ピット	106・-105	円形	0.42	0.41	0.46		190	9			
10-2	599	ピット	103・-102	楕円形	0.44	0.42	0.37		190	9			
10-2	600	ピット	105・-112	円形	0.22	0.22	0.23		190	10			
10-2	601	ピット	104・-111	楕円形	0.33	0.24	0.19		190	10			
10-2	602	ピット	104・-111	方形	0.21	0.19	0.19		190	10			
10-2	603	ピット	103・-111	楕円形	0.27	0.23	0.22		190	10			
10-2	604	ピット	102・-110	不明	0.25	(2.0)	0.16		190	9			
10-2	605	ピット	099・-113	不明	0.35	(0.28)	0.16		190	9			
10-2	606	ピット	098・-114	不明	0.42	(0.31)	0.30		190	9			
	607	ピット	欠番										
	608	ピット	欠番										
	609	ピット	欠番										
10-2	610	ピット	107・-111	不定形	0.32	0.30	0.20		190	10			
	611	ピット	欠番										
10-2	612	ピット	105・-103	方形	0.37	0.32	0.05		190	9			
	613	ピット	欠番										
10-2	614	ピット	099・-112	楕円形	0.26	0.20	0.22		190	9			
10-2	615	ピット	099・-112	方形	0.33	0.27	0.09		190	9			
	616	ピット	欠番										
10-2	617	ピット	103・-106	楕円形	0.49	(0.49)	0.50		190	10			
10-2	618	ピット	103・-096	不明	0.44	0.37	0.23		190	9	175		
10-2	619	ピット	116・-100	楕円形	0.40	0.31	0.16		190	9			
10-2	620	ピット	116・-099	方形	0.29	0.24	0.24		190	9			
10-2	621	ピット	118・-097	楕円形	0.30	0.28	0.30		190	9			
10-2	622	ピット	117・-097	楕円形	0.23	0.20	0.31		190	9			
10-2	623	ピット	117・-097	円形	0.20	0.20	0.32		190	9			
10-2	624	ピット	117・-096	円形	0.23	0.21	0.40		190	9			
10-2	625	ピット	116・-097	楕円形	0.32	0.27	0.19		190	9			
10-2	626	ピット	115・-096	楕円形	0.45	0.38	0.16		190	9			
10-2	627	ピット	118・-096	楕円形	0.31	0.27	0.23		190	9			
10-2	628	ピット	116・-099	円形	0.21	0.19	0.15		190	9			
10-2	629	ピット	114・-098	方形	0.17	0.15	0.22		190	9			
10-2	630	ピット	116・-096	円形	0.20	0.19	0.17		190	9			
	631	ピット	欠番										
10-2	632	ピット	117・-100	楕円形	0.26	0.18	0.16		190	9			
10-2	633	ピット	117・-098	方形	0.18	0.16	0.16		190	9			
10-2	634	ピット	117・-099	楕円形	0.20	0.17	0.14		190	9			
10-2	635	ピット	117・-099	円形	0.23	0.22	0.15		190	9			
10-2	636	ピット	118・-093	隅丸方形	0.24	0.23	0.06		190	10			
10-2	637	ピット	121・-084	方形	0.23	0.23	0.14		190	10			
10-2	638	ピット	121・-084	方形	0.25	0.22	0.21		190	10			
10-2	639	ピット	122・-084	方形	0.21	0.20	0.19		190	10			
10-2	640	ピット	121・-083	方形	0.24	0.23	0.16		190	10			
10-2	641	ピット	121・-083	方形	0.26	0.25	0.17		190	10			
10-2	642	ピット	121・-082	方形	0.21	0.17	0.16		190	10			
10-2	643	ピット	121・-081	方形	0.50	0.40	0.29		190	10			1号掘立柱建物P 11
10-2	644	ピット	122・-080	方形	0.27	0.24	0.29		190	10			1号掘立柱建物P 12
10-2	645	ピット	122・-079	方形	0.42	0.41	0.34		190	10			1号掘立柱建物P 13
10-2	646	ピット	123・-079	方形	0.22	0.14	0.14		190	10			
10-2	647	ピット	123・-079	方形	0.26	0.24	0.15		190	10			
10-2	648	ピット	123・-077	方形	0.32	0.31	0.16		190	10			
10-2	649	ピット	122・-077	不定形	0.49	0.48	0.33		190	10			1号掘立柱建物P 1
10-2	650	ピット	119・-082	方形	0.23	0.22	0.20		190	10			
	651	ピット	欠番										
10-2	652	ピット	120・-075	方形	0.28	0.27	0.13		190	10			
	653	ピット	欠番										
10-2	654	ピット	121・-077	不定形	(0.47)	0.43	0.24		190	10			1号掘立柱建物P 2
10-2	655	ピット	121・-077	方形	0.47	0.38	0.11		190	10			
10-2	656	ピット	120・-079	方形	0.52	0.51	0.12		190	10			
10-2	657	ピット	120・-079	方形	0.31	0.29	0.17		190	10			
10-2	658	ピット	120・-080	方形	0.32	0.30	0.11		190	10			
10-2	659	ピット	120・-080	方形	0.31	0.30	0.11		190	10			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	660	ピット	119・-080	方形	0.40	0.33	0.11		190	10			
10-2	661	ピット	119・-081	方形	0.45	0.43	0.12		190	10			
10-2	662	ピット	119・-081	方形	0.36	0.34	0.20		190	10			
10-2	663	ピット	120・-081	方形	0.42	0.38	0.22		190	10			
10-2	664	ピット	120・-081	方形	0.42	0.38	0.22		190	10			1号掘立柱建物P10
10-2	665	ピット	117・-077	隅丸方形	0.36	0.33	0.23		190	10			1号掘立柱建物P5
10-2	666	ピット	118・-077	隅丸方形	0.49	0.47	0.38		190	10			1号掘立柱建物P4
10-2	667	ピット	117・-075	楕円形	0.35	0.28	0.09		190	10			
10-2	668	ピット	117・-075	方形	0.14	0.13	0.04		190	10			
10-2	669	ピット	117・-076	方形	0.42	0.36	0.07		190	10			
10-2	670	ピット	120・-082	方形	0.20	0.19	0.12		190	10			
10-2	671	ピット	117・-075	方形	0.34	—	0.12		190	10			
10-2	672	ピット	116・-076	方形	—	0.33	0.11		190	10			
10-2	673	ピット	116・-076	方形	0.23	0.19	0.05		190	10			
10-2	674	ピット	116・-076	方形	0.45	0.29	0.06		190	10			
7-2	675B	ピット	083・-274	楕円形	0.37	0.36	0.22		190	4			鍛冶関連遺構
10-2	675A	ピット	117・-077	楕円形	0.31	0.29	0.18		190	10			675B号ピットを変更
10-2	676	ピット	116・-077	方形	0.24	0.22	0.15		190	10			
10-2	677	ピット	116・-077	方形	0.27	0.24	0.14		190	10			
10-2	678	ピット	115・-076	方形	0.26	0.22	0.12		190	10			
10-2	679	ピット	115・-077	方形	0.31	0.28	0.09		190	10			
10-2	680	ピット	114・-077	円形	0.36	0.36	0.12		190	10			
10-2	681	ピット	114・-078	不明	(0.53)	(0.43)	0.10		190	10			
10-2	682	ピット	114・-077	不明	(0.41)	(0.29)	0.10		190	10			
10-2	683	ピット	114・-077	不明	0.53	(0.50)	0.08		190	10			
10-2	684	ピット	114・-077	方形	0.32	0.31	0.10		190	10			
10-2	685	ピット	113・-077	円形	0.24	0.22	0.08		190	10			
10-2	686	ピット	113・-077	方形	0.25	0.25	0.12		190	10			
10-2	687	ピット	112・-077	隅丸方形	0.32	0.26	0.10		190	10			
10-2	688	ピット	115・-075	方形	0.38	0.24	0.30		190	10			
10-2	689	ピット	114・-074	不明	—	—	0.11		190	10			
10-2	690	ピット	114・-075	不明	0.50	(0.49)	0.15		190	10	175	83	
10-2	691	ピット	114・-074	不明	0.35	(0.22)	0.09		190	10			
10-2	692	ピット	114・-074	不明	0.71	—	0.11		190	10			
10-2	693	ピット	114・-075	不明	—	—	0.13		190	10			
10-2	694	ピット	112・-075	方形	0.30	0.28	0.16		190	10			
10-2	695	ピット	113・-075	方形	0.47	(0.24)	0.12		190	10			
	696	ピット	欠番										
10-2	697	ピット	115・-078	不明	0.37	(0.25)	0.11		190	10			
10-2	698	ピット	101・-088	楕円形	0.35	0.33	0.08		190	10			
10-2	699	ピット	102・-089	方形	0.23	0.22	0.08		190	10			
10-2	700	ピット	097・-090	方形	0.17	0.16	0.06		190	10			
10-2	701	ピット	097・-089	方形	0.22	0.21	0.13		190	10			
10-2	702	ピット	096・-089	方形	0.30	0.30	0.10		190	10			
10-2	703	ピット	096・-090	隅丸方形	0.17	0.17	0.08		190	10			
10-2	704	ピット	096・-090	隅丸方形	0.29	0.28	0.14		190	10			
10-2	705	ピット	096・-091	方形	0.21	0.21	0.18		190	10			
10-2	706	ピット	095・-091	方形	0.28	0.27	0.09		190	10			
10-2	707	ピット	095・-089	方形	0.21	0.20	0.12		190	10			
10-2	708	ピット	094・-089	方形	0.24	0.21	0.16		190	10			
10-2	709	ピット	094・-090	不明	0.52	—	0.08		190	10			
10-2	710	ピット	094・-090	方形	0.34	—	0.07		190	10			
10-2	711	ピット	094・-091	隅丸方形	0.31	0.25	0.27		190	10			
10-2	712	ピット	093・-089	楕円形	0.41	0.30	0.19		190	10			
10-2	713	ピット	093・-090	楕円形	0.36	0.32	0.19		190	10			
10-2	714	ピット	092・-090	楕円形	0.30	0.27	0.27		190	10			
10-2	715	ピット	093・-091	楕円形	0.28	0.25	0.24		190	10			
10-2	716	ピット	094・-091	楕円形	0.21	(0.13)	0.06		190	10			
10-2	717	ピット	094・-091	方形	0.21	0.19	0.10		190	10			
10-2	718	ピット	095・-092	方形	0.22	0.21	0.13		190	10			
10-2	719	ピット	093・-092	方形	0.15	0.14	0.09		190	10			
10-2	720	ピット	093・-092	方形	0.27	0.23	0.15		190	10			
10-2	721	ピット	089・-091	方形	0.36	0.31	0.05		190	10			
10-2	722	ピット	089・-091	楕円形	0.41	0.39	0.06		190	10			
10-2	723	ピット	099・-092	方形	0.26	0.23	0.09		190	10			
10-2	724	ピット	098・-094	方形	0.29	0.26	0.08		190	10			
10-2	725	ピット	097・-094	円形	0.19	0.19	0.15		190	10			
10-2	726	ピット	097・-094	楕円形	0.31	0.25	0.21		190	10			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	727	ピット	098・-092	方形	0.25	0.22	0.20		190	10			
10-2	728	ピット	097・-093	楕円形	0.20	0.15	0.12		190	10			
10-2	729	ピット	097・-092	方形	0.23	0.21	0.09		190	10			
10-2	730	ピット	096・-092	円形	0.21	0.20	0.14		190	10			
10-2	731	ピット	096・-091	楕円形	0.20	(0.15)	0.23		190	10			
10-2	732	ピット	096・-092	円形	0.16	0.16	0.10		190	10			
10-2	733	ピット	098・-095	方形	0.17	0.16	0.12		190	10			
10-2	734	ピット	097・-095	楕円形	0.24	0.22	0.17		190	10			
10-2	735	ピット	096・-095	方形	0.33	0.24	0.12		190	10			
10-2	736	ピット	094・-094	方形	0.30	0.28	0.18		190	10			
10-2	737	ピット	094・-093	方形	0.27	0.23	0.12		190	10			
10-2	738	ピット	094・-094	方形	0.21	0.20	0.09		190	10			
10-2	739	ピット	094・-093	方形	0.31	0.25	0.11		190	10			
10-2	740	ピット	093・-094	方形	0.25	0.20	0.31		190	10			
10-2	741	ピット	093・-093	方形	0.39	0.39	0.11		190	10			
10-2	742	ピット	092・-093	楕円形	0.27	0.21	0.10		190	10			
10-2	743	ピット	092・-093	円形	0.25	0.25	0.15		190	10			
10-2	744	ピット	092・-094	円形	0.21	0.20	0.10		190	10			
10-2	745	ピット	093・-092	方形	0.34	0.31	0.11		190	10			
10-2	746	ピット	093・-095	方形	0.15	0.13	0.19		190	10			
10-2	747	ピット	093・-095	方形	0.25	0.25	0.20		190	10			
10-2	748	ピット	092・-095	楕円形	0.30	0.24	0.13		190	10			
10-2	749	ピット	091・-094	円形	0.22	0.21	0.14		190	10			
10-2	750	ピット	091・-095	方形	0.19	0.18	0.04		190	10			
10-2	751	ピット	091・-095	円形	0.23	0.20	0.21		190	10			
10-2	752	ピット	091・-095	円形	0.17	0.17	0.30		190	10			
10-2	753	ピット	091・-096	楕円形	0.28	0.28	0.46		190	9			
10-2	754	ピット	091・-098	楕円形	0.29	0.24	0.23		190	9			
10-2	755	ピット	091・-098	隅丸方形	0.33	0.32	0.43		190	9			
10-2	756	ピット	092・-099	楕円形	0.21	0.17	0.20		190	9			
10-2	757	ピット	093・-098	方形	0.18	0.16	0.11		190	9			
10-2	758	ピット	093・-098	方形	0.22	0.18	0.10		190	9			
10-2	759	ピット	093・-098	楕円形	0.44	0.34	0.33		190	9			
10-2	760	ピット	092・-092	楕円形	0.35	0.34	0.19		190	10			
10-2	761	ピット	090・-094	楕円形	0.39	0.25	0.38		190	10			
10-2	762	ピット	089・-095	楕円形	0.34	0.25	0.17		190	10			
10-2	763	ピット	088・-096	楕円形	0.30	0.26	0.17		190	10			
10-2	764	ピット	088・-096	方形	0.25	0.23	0.15		190	10			
10-2	765	ピット	088・-096	隅丸方形	0.58	0.38	0.30		190	9			
10-2	766	ピット	087・-097	方形	0.23	0.19	0.10		190	9			
10-2	767	ピット	087・-097	隅丸方形	0.30	(0.19)	0.13		190	9			
10-2	768	ピット	088・-098	隅丸方形	0.29	0.29	0.09		190	9			
10-2	769	ピット	103・-089	方形	0.23	0.20	0.11		190	10			
10-2	770	ピット	103・-089	方形	0.23	0.19	0.06		190	10			
10-2	771	ピット	104・-089	楕円形	(0.24)	—	0.06		190	10			
10-2	772	ピット	105・-088	楕円形	(0.22)	—	0.08		190	10			
10-2	773	ピット	105・-088	楕円形	0.30	0.27	0.29		190	10			
10-2	774	ピット	106・-068	方形	0.28	0.26	0.17		190	11			
10-2	775	ピット	103・-087	楕円形	0.34	0.31	0.29		190	10			
10-2	776	ピット	102・-087	方形	0.24	0.22	0.08		190	10			
10-2	777	ピット	101・-087	方形	0.25	0.22	0.06		190	10			
10-2	778	ピット	102・-087	楕円形	0.22	0.20	0.04		190	10			
10-2	779	ピット	102・-087	楕円形	0.22	0.18	0.02		190	10			
10-2	780	ピット	102・-086	方形	0.14	0.14	0.02		190	10			
10-2	781	ピット	089・-095	楕円形	0.26	0.19	0.28		190	10			
10-2	782	ピット	091・-105	方形	0.28	0.26	0.23		190	9			
10-2	783	ピット	094・-104	方形	0.21	0.20	0.17		190	9			
10-2	784	ピット	095・-104	方形	0.18	0.16	0.19		190	9			
10-2	785	ピット	095・-103	方形	0.24	0.22	0.22		190	9			
10-2	786	ピット	095・-102	隅丸方形	0.36	0.30	0.33		190	9			
10-2	787	ピット	095・-102	楕円形	0.27	0.23	0.31		190	9			
8-2	788	ピット	086・-234	楕円形	0.48	0.43	0.27		190	5			
8-2	789	ピット	087・-234	楕円形	0.37	0.32	0.23		190	5			
8-2	790	ピット	087・-230	楕円形	0.65	0.61	0.46		190	5			
8-2	791	ピット	089・-225	楕円形	0.42	0.37	0.21		190	5			
8-2	792	ピット	091・-226	楕円形	0.62	0.57	0.26		190	5			
10-2	793	ピット	097・-089	隅丸方形	0.32	0.30	0.17		190	10			
10-2	794	ピット	097・-088	方形	0.23	0.21	0.13		190	10			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	795	ピット	098・-089	隅丸方形	0.25	0.22	0.14		190	10			
10-2	796	ピット	098・-088	方形	0.33	0.30	0.10		190	10			
10-2	797	ピット	098・-087	方形	0.22	0.20	0.07		190	10			
10-2	798	ピット	097・-087	方形	0.35	0.29	0.10		190	10			
10-2	799	ピット	098・-087	方形	(0.30)	(0.27)	0.10		190	10			
10-2	800	ピット	097・-087	不明	—	—	0.06		190	10			
10-2	801	ピット	098・-087	楕円形	(0.35)	—	0.05		190	10			
10-2	802	ピット	096・-088	方形	0.25	0.19	0.17		190	10			
10-2	803	ピット	095・-087	方形	0.37	0.32	0.08		190	10			
10-2	804	ピット	094・-088	円形	0.16	0.15	0.08		190	10			
10-2	805	ピット	094・-087	隅丸方形	0.34	0.32	0.13		190	10			
10-2	806	ピット	093・-087	方形	0.24	0.19	0.10		190	10			
10-2	807	ピット	094・-087	方形	0.26	0.20	0.11		190	10			
10-2	808	ピット	093・-087	方形	0.25	0.24	0.13		190	10			
10-2	809	ピット	094・-086	隅丸方形	0.47	0.36	0.09		190	10			
10-2	810	ピット	094・-086	方形	(0.27)	0.27	0.08		190	10			
10-2	811	ピット	094・-086	方形	0.27	0.25	0.10		190	10			
10-2	812	ピット	092・-085	方形	0.37	0.28	0.20		190	10			
10-2	813	ピット	096・-086	円形	0.18	0.17	0.06		190	10			
10-2	814	ピット	096・-086	方形	0.25	0.21	0.10		190	10			
10-2	815	ピット	096・-086	方形か	0.31	0.29	0.07		190	10			
10-2	816	ピット	096・-085	方形	0.22	0.20	0.06		190	10			
10-2	817	ピット	096・-085	方形	0.28	0.25	0.07		190	10			
10-2	818	ピット	095・-085	方形	0.21	0.20	0.06		190	10			
10-2	819	ピット	095・-084	方形	0.20	0.20	0.06		190	10			
10-2	820	ピット	098・-084	方形	0.27	0.26	0.28		190	10			
10-2	821	ピット	099・-084	隅丸方形	0.37	0.37	0.06		190	10			
10-2	822	ピット	098・-084	方形	0.19	0.15	0.09		190	10			
10-2	823	ピット	098・-084	方形	0.27	0.24	0.10		190	10			
10-2	824	ピット	099・-084	円形	0.23	0.22	0.07		190	10			
10-2	825	ピット	100・-085	方形	0.24	0.23	0.06		190	10			
10-2	826	ピット	101・-085	方形	0.25	0.25	0.13		190	10			
10-2	827	ピット	096・-100	円形	0.28	0.27	0.30		190	9			
10-2	828	ピット	098・-101	隅丸方形	0.21	0.15	0.07		190	9			
10-2	829	ピット	098・-102	方形	0.23	0.22	0.07		190	9			
10-2	830	ピット	099・-103	楕円形	0.48	0.39	0.24		190	9			
10-2	831	ピット	100・-103	楕円形	0.45	0.38	0.27		190	9			
10-2	832	ピット	100・-103	不定形	0.61	0.51	0.43		190	9			1号柱穴列P 7
10-2	833	ピット	099・-102	方形	0.27	0.22	0.19		190	9			
10-2	834	ピット	100・-102	方形	0.24	0.24	0.16		190	9			
10-2	835	ピット	100・-102	方形	0.22	0.21	0.14		190	9			
10-2	836	ピット	100・-102	方形	0.23	0.22	0.10		190	9			
10-2	837	ピット	100・-102	方形	0.26	0.26	0.09		190	9			
10-2	838	ピット	100・-101	楕円形	0.36	0.35	0.26		190	9			1号柱穴列P 6
	839	ピット	欠番										
10-2	840	ピット	100・-102	方形	0.26	0.25	0.16		190	9			
10-2	841	ピット	100・-101	方形	0.23	0.22	0.08		190	9			
10-2	842	ピット	100・-101	方形	0.21	0.20	0.15		190	9			
10-2	843	ピット	099・-100	楕円形	0.33	0.24	0.18		190	9			
10-2	844	ピット	100・-100	楕円形	0.29	0.26	0.18		190	9			1号柱穴列P 5
10-2	845	ピット	100・-100	方形	0.19	0.17	0.21		190	9			
10-2	846	ピット	100・-099	楕円形	0.28	0.25	0.30		190	9			
10-2	847	ピット	101・-099	円形	0.26	0.26	0.26		190	9			1号柱穴列P 4
10-2	848	ピット	100・-098	楕円形	0.25	0.22	0.17		190	9			
10-2	849	ピット	101・-098	隅丸方形	0.26	0.25	0.12		190	9			1号柱穴列P 3
10-2	850	ピット	101・-096	楕円形	0.31	0.28	0.23		190	9			1号柱穴列P 2
10-2	851	ピット	101・-095	隅丸方形	0.33	0.27	0.14		190	10			1号柱穴列P 1
	852	ピット	欠番										
10-2	853	ピット	107・-068	方形	0.29	0.24	0.05		190	10			
10-2	854	ピット	106・-068	方形	0.32	0.27	0.10		190	10			
10-2	855	ピット	106・-069	方形	0.30	0.30	0.13		190	10			
10-2	856 A	ピット	105・-066	方形	0.21	0.21	0.14		190	11			
10-2	856 B	ピット	106・-068	方形	0.34	0.24	0.10		190	10			
10-2	857	ピット	104・-066	方形	0.23	0.20	0.31		190	11			
10-2	858	ピット	103・-065	方形	0.21	0.18	0.11		190	11			
10-2	859	ピット	103・-065	方形	0.22	0.18	0.10		190	11			
10-2	860	ピット	104・-067	方形	0.21	0.17	0.04		190	11			
10-2	861	ピット	104・-067	楕円形	0.25	—	0.14		190	11			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	862	ピット	104・-067	楕円形	0.27	—	0.11		190	11			
10-2	863	ピット	103・-069	円形	0.18	0.18	0.08		190	10			
10-2	864	ピット	102・-069	楕円形	0.36	0.30	0.44		190	10			
10-2	865	ピット	101・-068	隅丸方形	0.29	0.26	0.40		190	10			
10-2	866	ピット	094・-106	方形	0.21	0.21	0.08		190	9			
10-2	867	ピット	094・-107	方形	0.26	0.25	0.17		190	9			
10-2	868	ピット	094・-108	方形	0.17	0.15	0.10		190	9			
10-2	869	ピット	094・-108	方形	0.31	0.30	0.18		190	9			
10-2	870	ピット	092・-108	方形	0.25	0.24	0.19		190	9			
10-2	871	ピット	091・-105	方形	0.18	0.14	0.05		190	9			
10-2	872	ピット	090・-105	楕円形	0.50	0.40	0.13		190	9			
10-2	873	ピット	090・-106	楕円形	0.42	0.37	0.19		190	9			
10-2	874	ピット	089・-103	隅丸方形	0.20	0.18	0.07		190	9			
10-2	875	ピット	088・-105	方形	0.22	0.19	0.07		190	9			
10-2	876	ピット	086・-106	方形	0.23	0.22	0.12		190	9			
10-2	877	ピット	110・-070	円形	0.53	0.53	0.26		190	10			
10-2	878	ピット	109・-071	楕円形	0.38	0.32	0.15		190	10			
10-2	879	ピット	109・-071	楕円形	0.52	(0.33)	0.09		190	10			
10-2	880	ピット	113・-072	楕円形	0.33	0.31	0.13		190	10			
10-2	881	ピット	109・-072	隅丸方形	0.42	0.27	0.08		190	10			
10-2	882	ピット	110・-073	楕円形	0.66	0.48	0.37		190	10			
	883	ピット	欠番										
10-2	884	ピット	098・-082	方形	0.18	0.16	0.10		190	10			
10-2	885	ピット	099・-083	方形	0.30	0.28	0.16		190	10			
10-2	886	ピット	090・-092	円形	0.40	0.40	0.24		190	10			
10-2	887	ピット	090・-092	楕円形	0.31	0.25	0.16		190	10			
10-2	888 A	ピット	099・-082	楕円形	0.52	(0.40)	0.37		190	10			
10-2	888 B	ピット	095・-081	方形	0.23	0.23	0.17		190	10			
10-2	889	ピット	099・-082	隅丸方形	(0.23)	—	0.20		190	10			
10-2	890	ピット	099・-082	方形	(0.24)	0.22	0.07		190	10			
10-2	891	ピット	100・-082	方形	(0.33)	0.37	0.07		190	10			
10-2	892	ピット	100・-082	方形	(0.22)	(0.19)	0.05		190	10			
10-2	893	ピット	100・-082	楕円形	(0.40)	0.48	0.24		190	10			
	894	ピット	欠番										
10-2	895	ピット	100・-082	方形	0.17	0.16	0.06		190	10			
10-2	896	ピット	101・-083	方形	0.32	0.28	0.16		190	10			
10-2	897	ピット	101・-083	方形	0.25	(0.17)	0.06		190	10			
10-2	898	ピット	101・-083	方形	0.34	—	0.05		190	10			
10-2	899	ピット	100・-084	方形	0.23	0.21	0.09		190	10			
10-2	900	ピット	101・-083	方形	0.15	0.14	0.18		190	10			
10-2	901	ピット	101・-083	方形	0.19	0.17	0.09		190	10			
10-2	902	ピット	102・-084	方形	0.28	0.26	0.08		190	10			
10-2	903	ピット	102・-084	方形	0.25	0.22	0.10		190	10			
10-2	904	ピット	102・-084	方形	0.17	0.14	0.08		190	10			
10-2	905	ピット	102・-085	方形	0.23	0.21	0.13		190	10			
10-2	906	ピット	102・-085	方形	0.23	0.18	0.07		190	10			
10-2	907	ピット	102・-084	方形	0.30	0.28	0.15		190	10			
10-2	908	ピット	102・-084	方形	0.32	0.25	0.04		190	10			
10-2	909	ピット	102・-084	円形	0.09	0.08	0.07		190	10			
10-2	910	ピット	100・-083	方形	(0.20)	0.18	0.07		190	10			
10-2	911	ピット	117・-080	方形	0.28	0.24	0.08		190	10			
10-2	912	ピット	118・-081	隅丸方形	0.51	0.42	0.23		190	10			1号掘立柱建物P 9
10-2	913	ピット	099・-083	方形	0.19	0.16	0.05		190	10			
10-2	914	ピット	104・-068	楕円形	0.35	0.29	0.30		190	10			
10-2	915	ピット	103・-068	楕円形	0.38	0.28	0.43		190	11			
10-2	916	ピット	104・-068	円形	0.20	0.19	0.21		190	11			
10-2	917	ピット	091・-089	楕円形	0.29	0.25	0.21		190	10			
10-2	918	ピット	091・-089	方形	(0.17)	0.18	0.14		190	10			
10-2	919	ピット	112・-073	楕円形	0.40	0.38	0.19		190	10			
10-2	920	ピット	113・-072	楕円形	0.58	0.53	0.27		190	10			
10-2	921	ピット	110・-089	方形	0.22	0.20	0.19		190	10			
10-2	922	ピット	107・-088	方形	0.29	0.28	0.14		190	10			
10-2	923	ピット	106・-087	楕円形	0.36	0.32	0.08		190	10			
10-2	924	ピット	117・-075	楕円形	0.23	0.21	0.06		190	10			
10-2	925	ピット	117・-075	楕円形	0.36	0.31	0.25		190	10			
10-2	926	ピット	116・-075	方形	0.39	0.30	0.12		190	10			
10-2	927	ピット	115・-075	方形	0.35	0.28	0.17		190	10	175	83	
10-2	928	ピット	092・-097	方形	0.29	0.25	0.08		190	9			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	929	ピット	092・-101	方形	0.32	0.24	0.21		190	9			
10-2	930	ピット	091・-102	方形	0.29	0.27	0.03		190	9			
10-2	931	ピット	110・-095	方形	0.16	0.15	0.17		190	10			
10-2	932	ピット	110・-094	楕円形	0.22	0.21	0.07		190	10			
	933	ピット	欠番										
10-2	934	ピット	109・-073	楕円形	0.58	0.39	0.25		190	10			
10-2	935	ピット	106・-072	方形	0.45	0.45	0.12		190	10			
10-2	936	ピット	106・-073	隅丸方形	0.39	0.28	0.10		190	10			
10-2	937	ピット	106・-071	隅丸方形	0.45	0.45	0.10		190	10			
10-2	938	ピット	106・-070	楕円形	0.43	0.39	0.18		190	10			
10-2	939	ピット	112・-073	円形	0.31	0.30	0.22		190	10			
10-2	940	ピット	100・-064	方形	0.20	0.19	0.10		190	11			
10-2	941	ピット	100・-064	円形	0.17	0.17	0.10		190	11			
10-2	942	ピット	099・-082	方形	0.22	0.21	0.07		190	10			
10-2	943	ピット	100・-082	方形	0.18	0.17	0.05		190	10			
10-2	944	ピット	100・-081	方形	0.28	0.28	0.19		190	10			
10-2	945	ピット	101・-081	方形	(0.25)	0.26	0.17		190	10			
10-2	946	ピット	101・-081	方形	0.38	0.34	0.41		190	10			
10-2	947	ピット	101・-081	方形	(0.17)	0.21	0.24		190	10			
10-2	948	ピット	102・-082	方形	0.25	0.25	0.15		190	10			
10-2	949	ピット	102・-083	方形	0.18	0.15	0.11		190	10			
10-2	950	ピット	102・-081	方形	0.22	0.21	0.13		190	10			
10-2	951	ピット	105・-079	方形	(0.21)	0.24	0.18		190	10			
10-2	952	ピット	104・-079	方形	0.24	0.19	0.13		190	10			
10-2	953	ピット	103・-079	方形	0.21	0.19	0.17		190	10			
10-2	954	ピット	102・-080	方形	0.25	0.21	0.27		190	10			
10-2	955	ピット	101・-080	隅丸方形	0.45	0.37	0.45		190	10			
10-2	956	ピット	100・-081	楕円形	0.39	0.35	0.13		190	10			
	957	ピット	欠番										
10-2	958	ピット	102・-069	楕円形	(0.30)	0.26	0.13		190	10			
10-2	959	ピット	097・-083	方形	0.20	0.20	0.11		190	10			
10-2	960	ピット	101・-079	方形	0.32	0.27	0.15		190	10			
10-2	961	ピット	100・-080	方形	(0.22)	0.21	0.12		190	10			
10-2	962	ピット	100・-080	楕円形	0.33	0.25	0.15		190	10			
10-2	963	ピット	100・-079	楕円形	0.33	0.25	0.12		190	10			
10-2	964	ピット	099・-079	楕円形	0.27	0.24	0.15		190	10			
10-2	965	ピット	099・-079	楕円形	0.43	0.31	0.13		190	10			
10-2	966	ピット	099・-080	楕円形	0.37	0.31	0.16		190	10			
10-2	967	ピット	098・-081	楕円形	(0.35)	0.36	0.31		190	10			
10-2	968	ピット	097・-080	方形	0.29	0.27	0.13		190	10			
10-2	969A	ピット	117・-080	楕円形	0.49	0.44	0.42		190	10			1号掘立柱建物P8
10-2	969B	ピット	098・-081	隅丸方形	0.38	(0.37)	0.30		190	10			
10-2	970	ピット	097・-079	方形	0.39	0.25	0.29		190	10			
10-2	971	ピット	097・-079	方形	(0.14)	0.21	0.08		190	10			
10-2	972	ピット	097・-079	方形	0.22	0.20	0.15		190	10			
10-2	973	ピット	097・-079	円形	0.23	0.22	0.14		190	10			
10-2	974	ピット	097・-079	楕円形	0.32	0.25	0.15		190	10			
10-2	975	ピット	098・-078	楕円形	0.45	0.38	0.27		190	10			
10-2	976	ピット	099・-079	楕円形	0.27	0.24	0.07		190	10			
10-2	977	ピット	097・-077	楕円形	0.28	0.23	0.08		190	10			
10-2	978	ピット	098・-077	楕円形	0.36	0.32	0.26		190	10			
10-2	979	ピット	099・-076	楕円形	0.38	0.36	0.41		190	10			
10-2	980	ピット	099・-076	方形	0.27	0.24	0.13		190	10			
10-2	981	ピット	099・-075	楕円形	0.38	0.33	0.30		190	10			
10-2	982	ピット	100・-076	方形	0.21	0.19	0.28		190	10			
10-2	983	ピット	100・-076	方形	0.23	0.21	0.12		190	10			
10-2	984	ピット	100・-076	方形	0.30	0.27	0.23		190	10			
10-2	985	ピット	101・-077	楕円形	0.44	(0.16)	0.35		190	10			
10-2	986	ピット	101・-077	楕円形	0.42	(0.28)	0.33		190	10			
10-2	987	ピット	102・-077	方形	0.22	0.19	0.12		190	10			
10-2	988	ピット	102・-077	楕円形	0.36	0.32	0.13		190	10			
10-2	989	ピット	102・-077	円形	0.38	0.38	0.34		190	10			
10-2	990	ピット	102・-077	不定形	0.63	(0.15)	0.19		190	10			
10-2	991	ピット	102・-077	隅丸方形	0.21	0.19	0.11		190	10			
10-2	992	ピット	102・-078	方形	0.28	0.23	0.26		190	10			
10-2	993	ピット	097・-081	楕円形	0.31	0.29	0.31		190	10			
10-2	994	ピット	102・-076	円形	0.30	0.29	0.15		190	10			
10-2	995	ピット	100・-076	方形	0.26	0.24	0.31		190	10			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	996	ピット	109・-072	楕円形	0.27	(0.25)	0.18		190	10			
10-2	997	ピット	108・-071	楕円形	0.36	—	0.21		190	10			
10-2	998	ピット	108・-071	楕円形	0.28	0.23	0.16		190	10			
10-2	999	ピット	110・-071	円形	0.58	0.58	0.14		190	10			
8-2	1000	ピット	103・-202	不定形	0.30	0.28	0.32		190	6			
8-2	1001	ピット	101・-202	円形	0.45	—	0.69		190	6			
8-2	1002	ピット	097・-206	楕円形	0.77	0.68	0.20	A 5	190	6	175・189	83	
8-2	1003	ピット	104・-201	楕円形	0.25	0.23	0.14		190	6			
8-2	1004	ピット	098・-197	隅丸方形	0.31	0.29	0.26		190	6			
8-2	1005	ピット	097・-196	楕円形	0.35	0.30	0.16		190	6			
8-2	1006	ピット	097・-203	隅丸方形	0.30	0.17	0.08		190	6			
8-2	1007	ピット	096・-203	楕円形	0.23	0.21	0.17		190	6			
8-2	1008	ピット	097・-204	円形	0.33	0.32	0.32		190	6			
8-2	1009	ピット	097・-204	楕円形	0.27	0.21	0.16		190	6			
8-2	1010	ピット	095・-207	不明	0.29	—	0.30		190	6			
8-2	1011	ピット	095・-207	楕円形	0.39	—	0.28		190	6			
8-2	1012	ピット	099・-210	楕円形	0.39	0.36	0.31		190	6			
8-2	1013	ピット	101・-206	楕円形	0.29	0.20	0.23		190	6			
8-2	1014	ピット	101・-205	楕円形	0.30	0.25	0.22		190	6			
8-2	1015	ピット	102・-205	円形	0.16	0.16	0.07		190	6			
8-2	1016	ピット	104・-206	楕円形	0.34	0.31	0.31		190	6			
8-2	1017	ピット	102・-207	楕円形	0.40	0.37	0.42		190	6			
8-2	1018	ピット	101・-206	円形	0.21	0.20	0.17		190	6			
8-2	1019	ピット	103・-202	隅丸方形	0.22	0.22	0.17		190	6			
10-2	1020	ピット	120・-076	方形	0.23	0.18	0.13		190	10			
10-2	1021	ピット	119・-082	方形	0.34	0.22	0.16		190	10			
10-2	1022	ピット	109・-071	楕円形	(0.24)	0.28	0.11		190	10			
10-2	1023	ピット	098・-081	円形	0.28	0.27	0.15		190	10			
10-2	1024	ピット	099・-083	方形	0.31	0.27	0.08		190	10			
10-2	1025	ピット	117・-080	楕円形	0.44	0.42	0.16		190	10			1号掘立柱建物P 7
10-2	1026	ピット	117・-079	楕円形	0.44	0.38	0.16		190	10			1号掘立柱建物P 6
10-2	1027	ピット	119・-077	隅丸方形	0.42	0.36	0.39		190	10			1号掘立柱建物P 3
10-2	1028	ピット	120・-077	楕円形	0.41	0.35	0.32		190	10			
10-2	1029	ピット	122・-078	方形	0.13	0.12	0.26		190	10			1号掘立柱建物P 14
10-2	1030	ピット	095・-082	楕円形	0.20	0.18	0.11		190	10			
10-2	1031	ピット	089・-108	楕円形	0.40	0.35	0.25		190	9			
10-2	1032	ピット	091・-109	方形	0.28	0.25	0.15		190	9			
10-2	1033	ピット	093・-109	方形	0.23	0.22	0.23		190	9			
10-2	1034	ピット	094・-109	楕円形	0.27	0.24	0.10		190	9			
10-2	1035	ピット	096・-110	方形	0.25	0.22	0.22		190	9			
10-2	1036	ピット	099・-109	楕円形	0.37	(0.26)	0.24		190	9			
10-2	1037	ピット	099・-109	不明	(0.14)	—	0.38		190	9			
10-2	1038	ピット	099・-109	楕円形	0.74	0.64	0.44		190	9			
10-2	1039	ピット	098・-109	不明	(0.14)	—	0.13		190	9			
10-2	1040	ピット	098・-110	楕円形	0.30	(0.17)	0.14		190	9			
10-2	1041	ピット	098・-110	楕円形	0.44	0.35	0.32		190	9			
10-2	1042	ピット	098・-110	楕円形	0.46	0.33	0.12		190	9			
10-2	1043	ピット	098・-111	不明	0.36	0.28	0.07		190	9			
10-2	1044	ピット	098・-111	方形	0.33	0.31	0.06		190	9			
10-2	1045	ピット	098・-111	方形	0.30	0.23	0.07		190	9			
10-2	1046	ピット	097・-111	楕円形	0.37	0.31	0.07		190	9			
10-2	1047	ピット	099・-107	楕円形	0.38	(0.29)	0.25		190	9			
	1048	ピット	欠番										
	1049	ピット	欠番										
	1050	ピット	欠番										
10-2	1051	ピット	096・-112	方形	0.20	0.18	0.07		190	9			
10-2	1052	ピット	096・-112	不定形	0.36	0.32	0.34		190	9			
10-2	1053	ピット	096・-113	方形	0.22	0.22	0.28		190	9			
10-2	1054	ピット	094・-112	方形	0.33	0.25	0.20		190	9			
10-2	1055	ピット	093・-112	隅丸方形	0.25	0.23	0.26		190	9			
10-2	1056	ピット	091・-110	方形	0.31	0.25	0.27		190	9			
10-2	1057	ピット	090・-110	方形	0.24	0.23	0.12		190	9			
10-2	1058	ピット	088・-109	方形	0.30	0.28	0.12		190	9			
10-2	1059	ピット	088・-109	方形	(0.14)	0.23	0.09		190	9			
10-2	1060	ピット	088・-110	方形	0.16	0.16	0.19		190	9			
10-2	1061	ピット	086・-109	楕円形	0.40	0.38	0.08		190	9			
10-2	1062	ピット	086・-110	不定形	0.48	0.31	0.08		190	9			
10-2	1063	ピット	086・-110	方形	0.21	0.20	0.13		190	9			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	1064	ピット	086・-110	方形	0.22	0.22	0.12		190	9			
10-2	1065	ピット	086・-110	楕円形	0.37	0.30	0.10		190	9			
10-2	1066	ピット	087・-110	方形	0.22	0.22	0.22		190	9			
10-2	1067	ピット	089・-112	方形	0.30	0.28	0.13		190	9			
10-2	1068	ピット	091・-113	円形	0.35	0.34	0.30		190	9			
10-2	1069	ピット	093・-113	方形	0.31	0.23	0.14		190	9			
10-2	1070	ピット	093・-113	方形	0.24	(0.20)	0.11		190	9			
10-2	1071	ピット	096・-114	楕円形	0.39	0.35	0.27		190	9			
10-2	1072	ピット	096・-113	不明	0.36	0.33	0.32		190	9			
10-2	1073	ピット	096・-114	不明	0.26	(0.13)	0.12		190	9			
10-2	1074	ピット	097・-114	方形	0.28	0.27	0.18		190	9			
10-2	1075	ピット	095・-115	不明	0.45	0.36	0.42		190	9			
10-2	1076	ピット	094・-073	方形	0.21	0.19	0.14		190	10			
10-2	1077	ピット	098・-116	円形	0.33	0.32	0.36		190	9			
10-2	1078	ピット	105・-071	方形	0.27	0.25	0.05		190	10			
10-2	1079	ピット	093・-075	楕円形	0.36	0.24	0.08		190	10			
10-2	1080	ピット	097・-114	楕円形	0.33	0.28	0.11		190	9			
10-2	1081	ピット	096・-114	方形	0.36	0.24	0.07		190	9			
	1082	ピット	欠番										
10-2	1083	ピット	089・-113	方形	0.20	0.19	0.20		190	9			
10-2	1084	ピット	088・-114	楕円形	0.51	0.44	0.18		190	9			
10-2	1085A	ピット	090・-114	方形	0.29	0.24	0.10		190	9			
10-2	1085B	ピット	090・-116	不明	—	—	—		190	9			
10-2	1086	ピット	091・-114	方形	0.20	0.23	0.15		190	9			
10-2	1087	ピット	092・-115	方形	0.29	0.23	0.08		190	9			
10-2	1088	ピット	095・-114	不明	0.53	0.40	0.16		190	9			
10-2	1089	ピット	095・-115	不明	0.19	(0.12)	0.13		190	9			
10-2	1090	ピット	095・-115	円形	0.30	0.30	0.23		190	9			
10-2	1091	ピット	095・-115	円形	0.35	0.34	0.39		190	9			
10-2	1092	ピット	094・-116	隅丸方形	0.44	0.28	0.41		190	9			
10-2	1093	ピット	093・-116	方形	0.31	0.30	0.17		190	9			
10-2	1094	ピット	092・-115	方形	0.23	0.22	0.13		190	9			
10-2	1095	ピット	092・-080	方形	0.24	0.22	0.07		190	10			
10-2	1096	ピット	092・-080	方形	0.22	0.21	0.13		190	10			
10-2	1097	ピット	092・-080	方形	0.33	(0.16)	0.21		190	10			
10-2	1098	ピット	091・-080	楕円形	0.33	0.27	0.39		190	10			
10-2	1099	ピット	092・-079	方形	0.24	0.22	0.09		190	10			
10-2	1100	ピット	092・-079	方形	0.24	0.23	0.22		190	10			
10-2	1101	ピット	093・-079	楕円形	0.40	0.24	0.17		190	10			
10-2	1102	ピット	092・-078	楕円形	0.31	0.22	0.03		190	10			
10-2	1103	ピット	092・-079	方形	0.25	0.22	0.17		190	10			
10-2	1104	ピット	092・-078	方形	0.17	0.15	0.06		190	10			
10-2	1105	ピット	091・-079	隅丸方形	0.35	0.34	0.20		190	10			
10-2	1106	ピット	091・-078	不明	—	0.30	0.11		190	10			
10-2	1107	ピット	091・-078	不明	—	0.35	0.12		190	10			
10-2	1108	ピット	091・-078	隅丸方形	0.42	0.31	0.14		190	10			
10-2	1109	ピット	091・-077	楕円形	0.27	0.23	0.36		190	10			
10-2	1110	ピット	093・-077	楕円形	0.38	0.34	0.31		190	10			
10-2	1111	ピット	093・-076	方形	0.23	0.22	0.12		190	10			
10-2	1112	ピット	093・-076	方形	0.18	0.17	0.08		190	10			
10-2	1113	ピット	092・-076	方形	0.18	0.17	0.18		190	10			
10-2	1114	ピット	093・-075	方形	0.33	0.32	0.11		190	10			
10-2	1115	ピット	093・-075	楕円形	0.40	0.32	0.26		190	10			
10-2	1116	ピット	093・-075	楕円形	0.45	(0.25)	0.28		190	10			
10-2	1117	ピット	094・-075	楕円形	(0.30)	0.34	0.10		190	10			
10-2	1118	ピット	093・-075	方形	0.27	0.27	0.30		190	10			
10-2	1119	ピット	092・-075	楕円形	0.29	0.22	0.54		190	10			
10-2	1120	ピット	092・-075	方形	0.24	0.24	0.07		190	10			
10-2	1121	ピット	093・-074	楕円形	0.23	0.20	0.28		190	10			
10-2	1122	ピット	093・-074	不定形	0.46	0.35	0.12		190	10			
10-2	1123	ピット	093・-076	不定形	0.42	0.38	0.22		190	10			
10-2	1124	ピット	094・-076	楕円形	0.36	0.36	0.21		190	10			
10-2	1125	ピット	094・-076	楕円形	0.28	0.24	0.19		190	10			
10-2	1126	ピット	095・-076	方形	0.26	0.18	0.25		190	10			
10-2	1127	ピット	094・-077	楕円形	0.19	0.16	0.44		190	10			
10-2	1128	ピット	095・-075	方形	0.27	0.27	0.11		190	10			
10-2	1129	ピット	095・-075	楕円形	0.42	0.28	0.44		190	10			
10-2	1130	ピット	096・-075	方形	0.23	0.18	0.24		190	10			

遺構計測一覧表

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	1131	ピット	096・-075	方形	0.23	(0.17)	0.24		190	10			
10-2	1132	ピット	096・-074	方形	0.24	0.22	0.39		190	10			
10-2	1133	ピット	095・-074	方形	0.22	0.22	0.44		190	10			
10-2	1134	ピット	093・-078	楕円形	0.32	0.27	0.26		190	10			
10-2	1135	ピット	093・-078	楕円形	0.33	0.29	0.43		190	10			
10-2	1136	ピット	101・-079	方形	(0.17)	0.23	0.12		190	10			
10-2	1137	ピット	094・-075	楕円形	0.32	0.31	0.48		190	10			
10-2	1138	ピット	094・-075	隅丸方形	0.30	0.24	0.42		190	10			
10-2	1139	ピット	105・-071	方形	0.22	0.20	0.06		190	10			
10-2	1140	ピット	105・-071	方形	0.27	0.25	0.05		190	10			
10-2	1141	ピット	105・-071	楕円形	0.27	0.23	0.08		190	10			
10-2	1142	ピット	093・-078	楕円形	0.29	0.23	0.27		190	10			
10-2	1143	ピット	104・-071	楕円形	0.34	0.31	0.10		190	10			
10-2	1144	ピット	103・-071	隅丸方形	0.31	0.25	0.16		190	10			
10-2	1145	ピット	104・-072	方形	0.26	0.24	0.06		190	10			
10-2	1146	ピット	104・-072	方形	0.28	0.28	0.14		190	10			
10-2	1147	ピット	105・-072	円形	0.22	0.21	0.13		190	10			
10-2	1148	ピット	104・-073	方形	0.27	0.20	0.11		190	10			
10-2	1149	ピット	105・-073	方形	0.24	0.22	0.06		190	10			
10-2	1150	ピット	103・-070	楕円形	0.42	0.37	0.25		190	10			
10-2	1151	ピット	102・-071	楕円形	0.28	0.20	0.14		190	10			
10-2	1152	ピット	102・-071	方形	0.20	0.15	0.09		190	10			
10-2	1153	ピット	102・-071	楕円形	0.42	(0.30)	0.15		190	10			
10-2	1154	ピット	102・-071	楕円形	(0.20)	0.28	0.10		190	10			
10-2	1155	ピット	102・-072	隅丸方形	0.24	0.24	0.13		190	10			
10-2	1156	ピット	101・-071	円形	0.30	0.29	0.21		190	10			
10-2	1157	ピット	100・-072	方形	0.32	0.29	0.09		190	10			
10-2	1158	ピット	101・-072	方形	0.24	0.19	0.07		190	10			
10-2	1159	ピット	102・-073	隅丸方形	0.38	0.37	0.10		190	10			
10-2	1160	ピット	103・-073	方形	0.20	0.19	0.08		190	10			
10-2	1161	ピット	102・-074	方形	0.32	0.31	0.28		190	10			
10-2	1162	ピット	101・-073	楕円形	0.39	0.34	0.35		190	10			
10-2	1163	ピット	101・-073	隅丸方形	0.21	0.20	0.29		190	10			
10-2	1164	ピット	101・-073	方形	0.28	0.23	0.34		190	10			
10-2	1165	ピット	101・-073	方形	0.25	0.23	0.10		190	10			
10-2	1166	ピット	100・-073	方形	0.16	0.14	0.09		190	10			
10-2	1167	ピット	100・-074	方形	0.17	0.17	0.14		190	10			
10-2	1168	ピット	100・-074	方形	0.17	0.17	0.18		190	10			
10-2	1169	ピット	101・-075	方形	0.32	0.32	0.32		190	10			
10-2	1170	ピット	101・-075	隅丸方形	0.34	0.34	0.28		190	10			
10-2	1171	ピット	102・-075	方形	0.28	0.27	0.11		190	10			
10-2	1172	ピット	102・-075	方形	0.32	0.25	0.12		190	10			
10-2	1173	ピット	101・-076	方形	0.24	0.21	0.12		190	10			
10-2	1174	ピット	101・-076	方形	0.41	0.35	0.16		190	10			
10-2	1175	ピット	101・-076	方形	0.27	0.26	0.26		190	10			
10-2	1176	ピット	102・-076	方形	—	0.20	0.05		190	10			
10-2	1177	ピット	102・-076	方形	0.27	0.23	0.09		190	10			
10-2	1178	ピット	103・-076	方形	0.31	0.30	0.08		190	10			
10-2	1179	ピット	103・-077	方形	0.38	0.37	0.09		190	10			
10-2	1180	ピット	104・-077	方形	0.31	0.23	0.07		190	10			
10-2	1181	ピット	105・-076	方形	0.31	0.31	0.09		190	10			
10-2	1182	ピット	105・-077	隅丸方形	0.30	0.24	0.08		190	10			
10-2	1183	ピット	106・-077	方形	0.21	0.20	0.09		190	10			
10-2	1184	ピット	105・-077	楕円形	0.32	0.27	0.41		190	10			
10-2	1185	ピット	105・-077	方形	0.33	0.26	0.05		190	10			
10-2	1186	ピット	106・-076	方形	0.26	0.22	0.10		190	10			
10-2	1187	ピット	106・-075	方形	0.26	0.21	0.05		190	10			
10-2	1188	ピット	106・-076	方形	0.37	0.37	0.05		190	10			
10-2	1189	ピット	106・-075	楕円形	0.30	(0.18)	0.08		190	10			
10-2	1190	ピット	106・-075	方形	(0.10)	0.26	0.06		190	10			
10-2	1191	ピット	106・-075	方形	0.25	0.25	0.07		190	10			
10-2	1192	ピット	106・-075	方形	0.30	0.25	0.07		190	10			
10-2	1193	ピット	095・-084	方形	0.19	0.19	0.09		190	10			
10-2	1194	ピット	095・-084	方形	0.21	0.20	0.07		190	10			
10-2	1195	ピット	088・-115	方形	0.30	0.29	0.27		190	9			
10-2	1196	ピット	090・-115	方形	0.19	0.18	0.16		190	9			
10-2	1197	ピット	091・-115	方形	0.18	0.17	0.11		190	9			
10-2	1198	ピット	090・-116	方形	0.20	0.15	0.11		190	9			

ピット一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	埋没土	本文 頁	ピット 割図No.	挿図 番号	写真 PL.	備考
10-2	1199	ピット	090・-116	方形	0.21	0.21	0.33		190	9			
10-2	1200	ピット	089・-116	方形	0.38	0.26	0.38		190	9			
10-2	1201	ピット	089・-118	楕円形	0.57	0.54	0.26		190	9			
10-2	1202	ピット	090・-117	方形	0.16	0.16	0.16		190	9			
10-2	1203	ピット	093・-119	不定形	0.43	0.43	0.45		190	9			
10-2	1204	ピット	093・-119	楕円形	0.51	(0.14)	0.33		190	9			
10-2	1205	ピット	094・-117	方形	0.32	0.29	0.37		190	9			
10-2	1206	ピット	094・-117	方形	0.25	0.23	0.27		190	9			
10-2	1207	ピット	095・-117	方形	0.28	0.28	0.20		190	9			
10-2	1208	ピット	096・-119	方形	0.17	0.16	0.09		190	9			
10-2	1209	ピット	096・-118	不定形	0.31	0.28	0.08		190	9			
10-2	1210	ピット	096・-118	楕円形	0.32	0.26	0.26		190	9			
10-2	1211	ピット	096・-118	楕円形	0.26	0.25	0.22		190	9			
10-2	1212	ピット	097・-118	楕円形	0.25	0.24	0.18		190	9			
10-2	1213	ピット	097・-118	不定形	0.40	0.37	0.31		190	9			
10-2	1214	ピット	097・-119	楕円形	0.36	0.33	0.26		190	9			
10-2	1215	ピット	098・-118	楕円形	0.43	0.28	0.16		190	9			
10-2	1216A	ピット	098・-108	楕円形	0.36	0.31	0.12		190	9			
10-2	1216B	ピット	096・-115	方形	0.20	0.20	0.18		190	9			
10-2	1217	ピット	106・-069	方形	0.26	0.20	0.09		190	10			
10-2	1218A	ピット	099・-105	楕円形	0.58	0.54	0.45		190	9			1号柱穴列P8
10-2	1218B	ピット	098・-115	方形	0.31	0.23	0.26		190	9			1218A号ピットを変更
10-2	1219	ピット	096・-084	方形	0.24	0.22	0.09		190	10			
10-2	1220A	ピット	097・-085	方形	0.20	0.19	0.13		190	10			
10-2	1220B	ピット	098・-114	不定形	0.25	0.25	0.24		190	10			
10-2	1221	ピット	093・-075	方形	0.20	0.17	0.21		190				
10-2	1222	ピット	098・-114	方形	0.22	0.22	0.29		190	9			
10-2	1223	ピット	098・-110	楕円形	0.28	0.22	0.19		190	9			
10-2	1224	ピット	099・-106	楕円形	0.35	0.27	0.33		190	9			
10-2	1225	ピット	099・-107	楕円形	(0.74)	0.59	0.29		190	9			
	1226	ピット	欠番										
10-2	1227	ピット	098・-108	楕円形	0.28	0.24	0.30		190	9			
10-2	1228	ピット	097・-108	楕円形	0.26	0.23	0.11		190				
10-2	1229	ピット	088・-090	円形	0.23	0.23	0.17		190	10			
10-2	1230	ピット	088・-089	楕円形	(0.13)	0.21	0.03		190	10			
10-2	1231	ピット	088・-089	方形	0.15	0.14	0.10		190	10			
10-2	1232	ピット	089・-091	楕円形	—	—	0.11		190	10			
10-2	1233	ピット	089・-090	楕円形	0.21	0.21	0.17		190	10			
	1234	ピット	欠番										
10-2	1235	ピット	097・-107	円形	0.20	0.19	0.09		190	9			

畑一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	畝間溝の幅 m	深さ m	心芯間距離 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
7	1	畑	084～088 -102～-115	畝間溝列を検出	0.13～ 0.34	0.05	0.08～0.32	N-30°-W	208	192	59	

復旧痕一覧表

区	No.	遺構種	グリッド	平面形	長軸 m	短軸 m	残存壁高 m	長軸方位	本文 頁	挿図 番号	写真 PL.	備考
7	1	復旧痕	060・-281	不明	0.84	0.42	0.09	N-18°-E	209	194・195	59	
7	2	復旧痕	067・-279	楕円形	1.16	0.96	0.73	N-81°-E	209	193～195	59・83	
7	3	復旧痕	069・-282	不定形	1.60	0.96	0.59	N-81°-E	209	194・195	59	
7	4	復旧痕A	075・-284	不定形	1.62	0.43	0.35	N-82°-E	209	194・195	59・60・84	
7	4	復旧痕B	074・-284	不定形	1.40	0.60	0.27	N-84°-E	209	194・195	59・60・84	
7	5	復旧痕	077・-287	隅丸長方形	1.36	1.34	0.76	N-82°-E	209	194・195	59	
7	6	復旧痕	078・-285	楕円形	1.08	0.38	0.21	N-71°-E	209	194・195	59・60	
7	7	復旧痕	081・-291	不明	(1.55)	1.32	0.49	N-71°-E	209	194・195	59・60・84	
7	8	復旧痕	090～092・ -290～-300	不定形	延長 5.60	幅 2.2	0.06	計測不能	209	194・195	59・60	
7	9	復旧痕	086・-289	隅丸長方形	1.68	1.10	0.69	N-80°-E	209	193～195	59・60・83	
7	16	溝	092～095・ -290～-300	溝状	延長 6.0以上	幅 1.1以上	0.21	N-82°-E	209	194・195	59・60	既存の溝を利用か

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は本文第Ⅲ章の遺物掲載順に並べた。
2. 「出土位置」のうち、平面的位置については本文に記載したので、ここでは一部省略した。
3. 「計測値」の「口」は口径、「底」は底径、「高」は器高、「台」は高台径を示す。
4. 「計測値」に付した()のうち、石器・石製品、羽口・鉄滓は残存値である。陶磁器は復元値である。
5. 「重量」は6000gまでは0.5g単位、20kgまでは50g単位、20kg以上は100g単位の秤を使用して計測した。
6. 「胎土」は特徴的な挟雑物について記載した。胎土中の細砂・粗砂・礫については、直径2mm以上を礫、直径2～0.2mmを粗砂、直径0.2mm以下を細砂とした。
7. 「焼成」は還元焰焼成を明記し、焼成の良・不良を記載した。
8. 「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『標準土色帖』を用いて記載した。
9. 陶磁器の分類等は以下を参考にした。
常滑陶器：『編年表』『愛知県史別編 窯業3 中世・近世・常滑系』愛知県 2012
肥前陶磁：『九州陶磁の編年-九州近世陶磁学会10周年記念-』九州近世陶磁学会 2000
瀬戸・美濃陶器：藤澤良祐「編年表」『愛知県史別編窯業2 中世・近世・瀬戸系』 2007
13世紀以前の中国産青磁：山本信夫『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』太宰府市教育委員会 2000
10. 縄文土器の胎土分類は下記の通りである。
A：少量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片・長石・輝石の粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。
B：多量の円磨度の進んだ長石礫・粗砂や雲母粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。
C：中量の輝石や円磨度の進んだ少量の長石・灰白色岩片・軽石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
D：多量の長石や円磨度の進んだ長石・輝石の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。
※ 各分類はルーペ等を使用した肉眼観察による。
※ 挟雑物の粒径分類については「新版 標準土色帳」の「土壌調査用チャート」に準拠した。

目次

1. 遺物観察表 249
2. 非実測遺物一覧表 282

6区47号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第6図 PL.61	1	須恵器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口底	12.0 高 7.2	3.8	礫・粗砂粒多量/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	
第6図 PL.61	2	須恵器 杯	床面直上 2/3	口底	11.3 高 6.7	3.7	白色鈹物粒・粗砂 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	内面やや磨滅。
第6図 PL.61	3	礫石器 棒状礫	埋没土中 不明	長幅	(7.0) 厚 (3.3)	(2.6) 76.7	牛伏砂岩	角柱状を呈し全体的に整形されている可能性がある。表面には平坦面が広く認められ砥石として利用された可能性がある。	
第6図 PL.61	4	礫石器 棒状礫	床面直上 不明	長幅	(12.3) 厚 3.8	(3.3) 278.1	緑色片岩	柱状の整った形態を呈しており全体的に整形されている可能性がある。	
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長幅	14.6 厚 4.5	3.2 281.3	雲母石英片岩		計測のみ

6区48号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7図	1	土師器 杯	竈埋没土中 口縁部～体部片	口	9.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第7図	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	小破片のため口径が小さくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第7図	3	土師器 小型甕	竈埋没土中 口縁部片	口	13.6		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面磨滅。

6区49号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第8図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部上 位1/2	口	14.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)外面はヘラ削り。内面はナデ。	
第8図	2	土師器 甕	床面直上 口縁部1/3	口	21.2		赤色粘土粒・粗砂 粒/良好/橙	口縁部は横ナデか。	器面磨滅。
第8図	3	須恵器 甕	床面上19cm 口縁部1/3	口	17.0		白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。外面の口唇部直下と上半部に波状文を施す。	

6区50号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.61	1	土師器 杯	壁際溝上層 1/3	口高	12.0 4.0		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。内面はナデ。底部中央から口縁部に向けて放射状にヘラ磨き。	
第10図 PL.61	2	土師器 杯	P4南脇床面上 6.6cm 2/3	口高	12.6 5.5		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	やや磨滅。
第10図	3	土師器 杯	P4周辺床面直上 口縁部～底部片	口	12.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面の上半部には成形時の面を残す。下半部にはヘラナデ。内面はナデ。底部外面はヘラ削り。工具痕。	
第10図	4	土師器 高杯	床面上8cm 脚部上位～中位				細砂粒/良好/橙	外面は縦位にヘラ削り。器面は面取り状を呈す。内面は上位が指ナデ。下位はヘラ削り。	破損後磨滅。二次利用か。
第10図 PL.61	5	土師器 有孔鉢	床面直上 一部欠	口孔	25.4 高 3.5	12.7	礫・粗砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜位のヘラ削り。底部に直径3.5cmの焼成前穿孔が見られる。内面はヘラナデ。	器面磨滅。
第10図 PL.61	6	須恵器 蓋	床面直上 1/2	口高	13.0 4.3		白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。切り離し後、天井部に回転ヘラ削り。口唇部は内側が削られるように尖る。	口唇端部に工具があたり刻目状。
第10図 PL.61	7	土師器 甕	床面直上 3/4	口底	22.4 高 6.1	36.5	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/橙	横断面は長円形を呈す。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部下位から底部外面に粘質土付着。
第10図	8	土師器 甕	床面上23.5cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	20.2		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。	器面磨滅。

6区51号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第11図 PL.61	2	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	12.9 4.7		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第11図	3	土師器 杯	床面上4.4cm 底部				粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。中央寄りに工具痕を残す。	口縁部欠損後も使用か。
第11図	4	土師器 鉢	床面直上 胴部下半～底部 1/2	底	6.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は磨滅。ヘラ削り、ヘラナデか。内面はヘラナデか。底部外面に木葉痕。胴部外面に輪積痕が観察できるのは器面磨滅のためか。	
第11図	5	土師器 甕	床面直上、床面 上6～8cm 胴部下位～底部	底	10.9		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は下位に斜横位のヘラ削り。端部もヘラ削り。中位はヘラナデの上にヘラ磨きか。	内面磨滅。
第11図	6	土師器 甕	床面上9.6cm 口縁部～胴部上 位片	口	23.0		細砂粒/良好/黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ磨きか。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

遺物観察表

6区52号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口	12.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。底部は手持ちヘラ削り。
第12図	2	土師器 甗	埋没土中 胴部下位～底部	底	4.2		粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部の断面はわずかに凸状。ヘラ削り。
第12図	3	須恵器 壺か	床面直上 胴部下位～底部	台	9.0		白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰オリ ブ	ロクロ整形、回転は右回り。底部は切り離し後、回転ヘラ調整。その後、断面台形の高台を貼付。周縁部にナデ調整。胴部外面の高台寄りに回転を伴うヘラ削り。
第12図	4	土師器 甗	竈焼面直上 口縁部～胴部上 位片	口	20.4		粗砂粒/良好/橙	器形は歪むか。口径が小さくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。

6区53号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.61	1	須恵器 杯	埋没土中 3/4	口 底	8.5 5.3	1.9	粗砂粒・金雲母/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。底部内面は中央部分に指ナデ。器面磨滅。

6区61号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.61	1	土師器 杯	壁際溝内側底面 上12.7cm 1/2	口 高	12.6 5.2		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第14図	2	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	11.8		粗砂粒・細砂粒・ 雲母/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部の外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。外面磨滅。内面に炭素吸着。
第14図 PL.61	3	土師器 杯	床面上4.5cm 2/3	口 高	13.9 4.9		礫・粗砂粒多量/ 良好/橙	口縁部は横ナデと考えられる。器面磨滅。
第14図	4	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 高	15.8 5.4		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。一部に工具痕を残す。
第14図 PL.61	5	土師器 鉢	床面直上 2/3	口 高	22.7 8.9		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	底部は平底を意識している。口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ削りか。内面はナデ。器面磨滅。
第14図 PL.61	6	土師器 小型甗	床面直上 3/4	口 底	12.9 5.0	15.8	礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、底部寄り斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。被熱・変色。
第14図	7	土師器 甗	床面直上 胴部下位～底部	底	6.6		礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶ い褐	胴部外面は斜縦位を主体とするヘラ削り。内面はヘラナデ。器面やや磨滅。
第14図	8	土師器 甗	床面上11.7cm 胴部下位～底部 1/2	底	6.0		礫・粗砂粒/良好/ にぶ い黄褐	横断面が楕円形を呈している可能性あり。胴部外面は縦位の、底部寄り斜位のヘラ削り。内面は横位の、下位は一部に縦位のヘラナデ。底部はヘラ削りか。
第14図	9	土師器 甗	床面上7.2cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	17.8		礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。一部に粘土紐の接合痕を残す。

6区62号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図 PL.62	1	土師器 手捏ね	埋没土中 体部中位～底部 1/2	底	4.9		細砂粒/良好/橙	形状は口縁部が外傾して立ち上がる鉢を呈する。口縁部から体部は横位のナデ。調整が粗雑で粘土の凹凸、ヒビが残る。内面はナデ。底部外面に木葉痕。
第16図 PL.62	2	土師器 杯	床面直上 口縁部欠損	口 底	4.0		礫・粗砂大の片岩 多量/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部外面は上半部はナデ、下半部は横位のヘラ削り。底部はナデ。木葉痕。口縁部欠損後も使用したか。
第16図 PL.62	3	土師器 杯	P3西部床面上 2.6cm 3/4	口 高	13.6 4.5		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。器面磨滅。
第16図	4	土師器 杯	竈左脇床面直上 1/3	口	12.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第16図	5	土師器 杯	竈左脇床面直上 1/4	口	13.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。器面磨滅。
第16図	6	土師器 杯	竈左脇床面直上 1/3	口 高	13.0 3.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部中央から口縁部に向けて放射状にヘラ磨き。外面の一部と内面に炭素吸着。
第16図	7	土師器 杯	P2東側床面直上 口縁部～底部片	口	16.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデか。器面磨滅。
第16図 PL.62	8	土師器 鉢	床面直上 口縁部～体部上 位1/4	口	21.6		細砂粒/良好/橙	外面は口縁部が横ナデ。体部はヘラ削りと考えられる。内面は横位のヘラ磨きを充填する。
第16図 PL.62	9	土師器 小型甗	竈前床面上 2.3cm 完形	口 底	13.8 8.0	14.8	礫大の片岩・粗砂 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。
第16図 PL.62	10	土師器 甗	竈前床面 3.9cm 3/4	口 底	22.6 5.8	38.9	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラナデ。
第16図 PL.62	11	土師器 甗	竈右袖脇床面上 6.8cm 1/2	口 底	20.8 6.5	37.3	礫大の片岩多量/ 良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は最下位を除いて縦位のヘラ削り。底部寄り斜横位のヘラ削り。底部外面は丁寧なナデ。内面に横位・斜位のヘラナデを繰り返す。

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図	12	土師器 甕	P2東側床面上 9.7cm 口縁部～頸部 1/4	口	16.0		細砂粒/良好/明赤 褐	横断面は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。
第16図 PL.62	13	土師器 甕	竈右袖脇床面上 6.8cm 胴部上位～底部 2/3	底	5.5		礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい橙	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面磨滅。
第16図 PL.62	14	礫石器 棒状礫	床面上直上 完形	長幅	18.4 6.3	厚重 5.2 1174.5	緑色片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	

6区63号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL.61	1	土師器 杯	竈右袖脇床面直上 1/2	口高	12.9 4.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は中位に弱い稜を有する。横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第17図	2	土師器 杯	竈右袖脇床面直上 2/3	口高	13.8 4.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデか。	器面磨滅。
第18図	3	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	17.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第19図	4	土師器 甕	P1北脇床面上2 cm 口縁部片	口	27.8		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口径は小さくなる可能性ありか。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	内面磨滅。
第17図 PL.61	5	土師器 甕	竈右袖脇床面上 11.7cm 口縁部～胴部上 位1/2	口	20.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は弱いタッチの斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

6区64号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図	1	土師器 杯	床面上12.5cm 口縁部～底部片	口	12.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第19図	2	土師器 杯か	床面上7.7cm、 10.5cm 底部1/3				細砂粒/良好/にぶ い橙	底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第19図 PL.61	3	土師器 高杯	床面上4cm 胴部～裾部	脚	15.7		赤色粘土粒・細砂 粒/良好/明黄褐	外面は縦位のヘラ削り。面取りのように強い当たり。内面は横位のヘラ削り。裾部は横ナデ。	
第19図	4	須恵器 椀か	埋没土中 口縁部～体部片	口	11.4		微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。回転は右回り。	
第19図 PL.61	5	土師器 甕	P1南部床面上8 cm 口縁部～胴部下 位2/3	口	22.2		礫・粗砂大の片岩 多量/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位が縦位の、下位が横位のヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。	
第19図 PL.61	6	礫石器 棒状礫	床面上4cm 完形	長幅	26.0 8.1	厚重 4.5 1461.5	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	

7区24号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL.62	1	土師器 杯	竈焚口部使用面 直上 2/3	口高	14.2 5.1		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第21図 PL.62	2	土師器 小型甕か	貯蔵穴底面上 4.8cm 胴部下位～底部				礫大の片岩・粗砂 粒/良好/明赤褐	胴部外面は斜横位のヘラ削り。底部はナデ状のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面磨滅。
第21図 PL.62	3	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上 4.7cm 2/3	口底	16.0 8.3	高 15.9	粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は弱い凸面状。外面はヘラ削り。	器面磨滅。
第21図 PL.62	4	土師器 甕	竈右袖 完形	口底	20.3 4.9	高 39.5	礫大の片岩多量/ 良好/橙	口縁部には製作時の歪みが見られる。口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位が縦位の、中位から下位が斜横位のヘラ削り。内面の大半は横位のヘラナデ。底部外面はナデ。	

7区27号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22図	1	土師器 杯	床面直上 1/3	口	16.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第22図 PL.63	2	土師器 坩か	床面上8cm 1/2	底	6.8		礫・粗砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。体部外面は上半が横位の、下半が斜縦位のヘラ削り。底部外面もヘラ削り。内面はヘラナデ。	口縁部欠損後も使用か。
第22図	3	土師器 甕	床面上11.6cm 口縁部～胴部上 位	口	23.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第22図 PL.63	4	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部中 位	口	17.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りと考えられる。	器面磨滅。
第22図 PL.63	5	礫石器 棒状礫	床面上2.8cm 完形	長幅	13.8 5.9	厚重 3.2 446.1	黒色片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第22図 PL.63	6	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長幅	14.7 6.1	厚重	4.0 555.8	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第22図 PL.63	7	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長幅	15.0 6.5	厚重	3.3 481.6	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第22図 PL.63	8	礫石器 棒状礫	床面上3.6cm ほぼ完形	長幅	15.4 7.3	厚重	3.8 569.4	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第22図 PL.63	9	礫石器 台石	床面直上 完形	長幅	27.5 10.9	厚重	8.2 2951.1	粗粒輝石安山岩	大形の棒状円礫を利用する。表面の中央にほぼ平坦な滑らかな部分が認められる。上下端部に赤色変化している部分が認められ受熱の可能性がある。	
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長幅	8.6 5.0	厚重	2.5 171.3	雲母石英片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長幅	13.7 6.3	厚重	3.3 415.7	黒色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面上2.8cm 完形	長幅	12.9 7.0	厚重	3.4 519.9	黒色片岩		計測のみ

7区28号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第23図	1	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部上位片	口	16.6			礫・粗砂大の片岩/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削りと考えられる。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

7区29号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第24図 PL.64	1	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	11.0 3.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第24図 PL.64	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口	10.4			粗砂粒・細砂粒/良好/にぶい橙	平面形は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ削りと考えられる。	器面磨滅。
第24図 PL.64	3	土師器 杯	床面直上 1/2	口高	11.2 3.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	4	土師器 杯	床面直上 1/2	口高	10.9 3.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第24図 PL.64	5	土師器 杯	床面直上 完形	口高	10.6 3.2			粗砂粒・細砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第24図 PL.64	6	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	11.6 3.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	7	土師器 杯	埋没土中 1/2	口高	12.8 3.6			粗砂粒・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	8	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	11.5 3.6			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられる。	
第24図 PL.64	9	土師器 杯	床面上3cm 1/2	口高	14.2 5.0			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	10	須恵器 鉢	竈前床面直上 口縁部1/4欠	口底	12.4 7.7	高	8.0	黒色鈹物粒/還元焰/灰白	器肉は全体に厚い。ロクロ整形。回転は左回り。底部は手持ちヘラ削り。	
第24図 PL.64	11	土師器 鉢	床面直上 2/3	口高	20.0 8.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面は横ナデ。	
第24図 PL.64	12	土師器 有孔鉢か	床面上2～5cm 口縁部～体部上位1/2	口	20.8			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜縦位のヘラ削り。	器面磨滅。
第24図 PL.64	13	土師器 小型甕	埋没土中 1/3	口高	8.4 8.7			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部下位から底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	14	土師器 小型甕	床面直上 底部欠	口	13.3			礫・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部から底部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第24図 PL.64	15	土師器 小型甕	床面直上 1/2	口底	13.6 6.9			礫・粗砂大の片岩/良好/明赤褐	口縁部は横ナデと考えられる。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面磨滅。
第24図 PL.64	16	土師器 小型甕	竈使用面直上、 床面直上 口縁部～胴部一部欠	口高	15.2 16.1			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第24図 PL.64	17	土師器 小型甕	床面直上 2/3	口高	15.4 16.8			粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。
第24図 PL.64	18	土師器 甕	床面直上 3/4	口底	23.2 5.3	高	34.1	礫・粗砂大の片岩多量/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は3・4回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。一部その上に縦位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	
第24図 PL.64	19	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部中位	口	21.2			粗砂粒・細砂粒多量/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。中位以下はその上に縦位のヘラナデ。	
第24図	20	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上位片	口	26.8			礫・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位・縦位のヘラナデ。	
第24図	21	土師器 甕	竈前床面直上 胴部上位～中位					粗砂粒/良好/にぶい黄褐	外面は斜位・斜縦位のヘラ削り。内面は斜縦位・斜位のヘラナデ。	
第24図 PL.64	22	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上位	口	20.3			礫大の片岩・粗砂粒・赤色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデと考えられる。胴部外面はヘラ削りか。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

7区30号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第25図 PL.63	1	土師器 杯	床面直上 1/2	口 高	14.0 5.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部以下の外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。	
第25図 PL.63	2	土師器 杯	竈袖左脇床面直上 3/4	口 高	16.8 5.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。	
第25図 PL.63	3	土師器 有孔鉢	貯蔵穴底面上22cm 1/2	口 底	16.0 5.3	高 孔	13.0 1.5	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は平底ぎみの中央に直径1.8cmの焼成前穿孔。器面はヘラ削り。	やや磨滅。
第25図 PL.63	4	土師器 小型甗	床面直上 1/4	口	10.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。粘土紐の接合痕を残す。内面は縦位・横位にヘラナデ。	
第25図 PL.63	5	土師器 小型甗	竈袖左脇床面直上 1/2	口 高	12.8 13.9			礫大の片岩・粗砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデと考えられる。底部外面もヘラ削り。	器面磨滅。
第25図 PL.63	6	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	13.3 4.1	厚 重	3.2 265.5	緑色片岩	表面の中央付近に帯状に滑らかな部分が認められる。	
第25図 PL.63	7	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.5 6.9	厚 重	3.7 799.5	変玄武岩	全面が自然面であり垂角礫を利用する。	
第25図 PL.63	8	礫石器 棒状礫	壁際溝底面上5.1cm 完形	長 幅	15.4 5.6	厚 重	4.1 545.2	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第25図 PL.63	9	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	14.8 5.6	厚 重	4.0 502.0	緑色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第25図 PL.63	10	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.7 6.7	厚 重	4.1 602.4	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	14.7 7.1	厚 重	3.8 623.7	雲母石英片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.2 6.0	厚 重	5.3 547.9	黒色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	16.0 7.1	厚 重	5.5 734.0	雲母石英片岩		計測のみ

7区31号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第26図	1	土師器 杯	竈埋没土中 口縁部～体部片	口	11.0			細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第26図	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	

7区32号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第26図 PL.63	3	土師器 杯	貯蔵穴底面上18cm 完形	口 高	14.0 4.8			礫・粗砂粒多量/ 良好/にぶい赤褐	内面はナデ。	器面磨滅。
第26図	4	土師器 甗	床面直上 口縁部～胴部上位	口	23.0			礫大の片岩/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第26図	5	土師器 甗	床面上4cm 胴部下位～底部					礫・粗砂大の片岩 多量/良好/明褐	胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第26図	6	須恵器 甗	埋没土中 胴部片					細砂粒/還元焰/灰	外面は疑似格子目状の叩き目。内面は当て具痕。	内面に自然釉付着。

7区33号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第27図 PL.63	1	土師器 杯	壁際溝底面上5cm 口縁部1/3欠	口 高	10.9 4.7			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	外面は口唇端部近くまで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや磨滅。
第27図 PL.63	2	土師器 小型甗	竈燃焼部 口縁部1/2欠	口 高	14.8 14.0			礫大の片岩・粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面やや磨滅。
第27図	3	土師器 甗	竈燃焼部 3/4	口 底	18.9 4.8	高	31.2	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/にぶい赤褐	形状は全体が歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面は2回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部周縁はナデ。	下半部の器面は磨滅。

7区34号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第28図	1	土師器 杯か	壁際溝沿い床面上4cm 体部～底部	底	5.0			粗砂粒/良好/明赤褐	体部外面は指ナデに近いヘラナデか、ヘラ削りか。底部は弱いヘラ削りか。内面はナデ。	
第28図	2	土師器 杯	P1埋没土上層 口縁部～体部片	口	15.0			細砂粒・赤色粘土粒/ 良好/橙	器肉は薄い。口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削りと考えられる。	底部外面は磨滅。
第28図 PL.63	3	土師器 高杯	床面直上 口縁部、裾部一部欠	口 脚	17.2 16.6	高	17.3	細砂粒・赤色粘土粒少量/ 良好/にぶい黄橙	杯部口縁部は横ナデ。受け部外面は横位のヘラ削り。脚部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。裾部は横ナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第28図	4	土師器 甌か	床面上2cm 口縁部～胴部上 位片	口	20.4		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は内外面とも横ナデ。	器面磨滅。
第28図	5	土師器 甌	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	26.0		細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削りと考えられる。 内面は縦位のヘラナデか。	器面磨滅。
第28図	6	土師器 甌	壁際溝沿い床面 上2cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	23.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	内外面とも磨 滅。

7区35号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高					
第29図 PL.65	1	須恵器 杯	甕使用面直上 口縁部一部欠	口 底	12.7 7.2	高	3.5	白色鈹物粒・黒色 粘土粒/還元焰軟 質/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転さ切り離し後、無 調整。	器面磨滅。
第29図 PL.65	2	須恵器 椀	床面上2cm 1/2	口 底	15.0 8.9	高	7.3	白色鈹物粒・黒色 粘土粒/還元焰や 軟質/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転さ切り離し後、高 台を貼付。その後周縁部にナデ調整。	高台端部、底 部内面やや磨 滅。
第29図	3	土師器 甕	甕埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	19.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はナデ。	
第29図	4	土師器 甕	甕使用面直上 胴部下位～底部	底	4.2			粗砂粒/良好/橙	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削 り。	

7-2区71号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高					
第32図 PL.66	1	土師器 杯	甕右袖脇床面直 上 完形	口 高	12.0 2.6			礫・粗砂大の片岩・ 雲母/良好/にぶ い赤褐	器高低い。口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘ ラ削り。内面はナデ。	外面磨滅。
第32図 PL.66	2	土師器 杯	甕左袖脇床面直 上 口縁部一部欠	口 底	13.6 13.4	高	3.1	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	器高低い。口縁部は横ナデ。体部外面には成形時のナデの 面を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第32図 PL.66	3	土師器 杯	貯蔵穴底面上4 cm 3/4	口 高	12.8 3.9			粗砂粒・細砂粒/ 良好/褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	炭素吸着。
第32図 PL.66	4	土師器 杯	貯蔵穴底面上8 cm 口縁部一部欠	口 高	12.0 3.8			粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。中位に弱い稜をなす。体部(稜下)から底 部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。工具痕を残す。	器面に炭素吸 着。
第32図 PL.66	5	土師器 杯	貯蔵穴底面上6 cm 口縁部・底部一 部欠	口 高	11.4 4.1			礫・粗砂大の片岩・ 赤色粘土粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)は上位にナデの面を残し、以 下底部までは手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第32図 PL.66	6	土師器 杯か	床面上17.4cm 1/2	口	11.8			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は最上位にナデの部分を残し、 以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第32図 PL.66	7	土師器 鉢	甕右袖脇床面直 上 完形	口 底	11.6 6.0	高	8.6	礫・粗砂大の片岩/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部・底部外面はヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第32図 PL.66	8	土師器 鉢	床面上1.7cm 口縁部一部欠	口	15.1			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面はヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	器面やや磨 滅。
第32図 PL.66	9	土師器 有孔鉢	甕壁際床面上3 cm 胴部一部欠	口 底	20.0 4.9	高 孔	18.6 2.2	粗砂大の片岩/良 好/にぶい橙	平面形は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。体部外面は上 位、下位が斜位の、中位が縦位のヘラ削り。内面は横位の ヘラナデ。下位は細かく調整している。狭小な平底ぎみの 底部は、その中央に直径2.5cmの小孔を穿つ。	器面やや磨 滅。
第32図 PL.66	10	土師器 甌	床面上3.8cm 口縁部一部欠	口 底	23.1 10.0	高	26.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位が縦位の、下位は 斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ後、縦位のヘラ磨 きを施したと考えられる。底部寄りにヘラ削りが見られる。	器面磨滅。
第32図 PL.66	11	土師器 甌	甕左袖床面上 6.6cm 口縁部一部欠	口 底	24.5 10.1	高	32.7	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、下位は斜位のヘラ削 り。内面は横位のヘラナデの上に縦位のヘラ磨きを重ねる。 孔寄りはヘラ削り。外面の底部寄りに糊の圧痕が見られる。	器面やや摩 耗。
第32図 PL.66	12	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上 16.6cm 口縁部・胴部一 部欠	口 高	14.4 14.6			礫・粗砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位は縦位の、下位 は斜横位のヘラ削り。内面は下位が斜横位、これより上位 は横位のヘラナデ。	
第32図 PL.66	13	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上 20.7cm 口縁部一部欠	口 底	15.5 5.7	高	18.0	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位の、下位は斜横位のヘ ラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	
第32図 PL.66	14	土師器 甕	床面直上～床面 上9.5cm 口縁部～底部 3/4	口 底	17.6 5.4	高	28.3	礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、底部寄りは斜横位の ヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面に木葉痕か。	
第32図 PL.66	15	土師器 甕	床面上15.7cm 3/4	口 底	20.5 4.0	高	33.7	礫大の片岩多量/ 良好/にぶい橙	口縁部寄りの変形が著しい。横断面は長円形。口縁部は横 ナデ。胴部外面は縦位、斜縦位の、底部寄りは横位のヘラ 削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.66	16	土師器 甕	床面上10cm 口縁部・胴部一部欠	口	20.8		礫大の片岩多量/ 良好/にぶい橙	器肉厚く重い。口縁部は変形が著しい。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第32図	17	土師器 甕	床面上9.5cm 胴部下位～底部	底	6.2		礫・粗砂大の片岩/ 良好/にぶい褐	胴部外面は縦位のナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面に木葉痕。	

7-2区72号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.65	1	須恵器 杯	貯蔵穴底面上5cm 2/3	口 底	12.1 6.1	高 3.8	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転系切り離し後、無調整。	内面やや磨滅。
第33図 PL.65	2	鉄製品 釘	貯蔵穴埋没土中 ほぼ完形	長 幅	4.8 0.9	厚 重 0.7 3.9	鉄	頭部は欠損。断面は長方形。ほぼ全体にさびが覆っている。脚部はさびが少ない部分があり観察が可能。	

7-2区73号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図 PL.65	1	土師器 杯	貯蔵穴南側床面上10cm 口縁部～底部	口 底	11.6 4.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第34図	2	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	12.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に右傾するヘラ磨き。	
第34図 PL.65	3	土師器 小型甕	竈左袖部内 口縁部～体部中位1/3	口	15.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	器面磨滅。

7-2区74号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図	1	土師器 杯	P1周辺床面上10～20cm 口縁部下半～底部1/3				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)上位には成形時のナデの面。以下底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第37図 PL65	2	土師器 鉢	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～体部1/2	口	14.6		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第37図 PL65	3	土師器 鉢	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～底部1/2	口 底	16.2 6.0	高 11.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部内面はヘラナデ。底部の欠損状況は焼成後に穿孔を施したように見えるが、断定するには至らない。	器面磨滅。
第37図	4	土師器 甌	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～体部上位	口	24.8		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の丁寧なヘラ削り。内面は縦位の磨きに近いヘラナデ。	器面磨滅。
第37図	5	土師器 甌か	床面上15cm 口縁部～体部上位片	口	25.3		細砂粒・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第37図	6	土師器 甌	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～胴部上位	口	29.6		細砂粒/良好/橙	口唇端部は外側に平坦面をなす。口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜縦位のヘラ削り。	
第37図	7	土師器 甕	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～胴部中位1/3	口	20.9		礫・粗砂大の片岩/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に粘質土付着。
第37図	8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部中位1/3	口	21.6		礫・粗砂大の片岩/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位の指ナデか。	
第37図	9	土師器 甌	床面上15cm 口縁部～体部下位	口	24.0		粗砂粒/良好/橙	胴部は下位の径が大きくなる可能性がある。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削りを数回に分けて施す。内面は斜縦位のナデに近いヘラ削り。一部その上にヘラ磨き。	
第37図	10	土師器 甕	P1周辺床面上10～20cm 口縁部～胴部中位1/3	口	23.2		礫・粗砂大の片岩/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	内面磨滅。
第37図	11	土師器 甕	P1周辺床面上10～20cm 胴部1/3				粗砂粒/良好/橙	胴部外面はヘラ削りと考えられる。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

7-2区100号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部1/3	口 高	11.7 3.5		粗砂粒・赤色粘土粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面に手持ちヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.65	2	土師器 杯	床面上2cm 口縁部～底部 1/2	口 高	16.9 6.5		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第38図 PL.65	3	土師器 杯	床面上34cm 2/3	口	12.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	器形は歪んでいると考えられる。口縁部は横ナデ。体部(稜 下)から底部外面に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第38図	4	土師器 小型甕	埋没土中 口縁部～体部 1/3	口	11.0		赤色粘土粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	
第38図	5	土師器 台付甕	埋没土中 胴部下位～台部 上位1/2				礫・粗砂大の片岩 /良好/明赤褐	外面はヘラ削り。胴部内面はヘラナデ。台部内面はナデか。	

7-2区101号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第39図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部 1/3	口 高	15.0 4.8		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)上位に成形時のナデの面を残 す。以下は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

7-2区104号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第40図 PL65	1	須恵器 杯	竈右脇床面直上 完形	口 高	11.3 3.9		黒色鉱物粒少量/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。体部(稜下)から底部外面は 回転ヘラ削りを施すが、連続性は見られない。底部内面は ナデ。	
第40図 PL65	2	土師器 鉢	竈右袖 杯部1/2	口 底	16.5 5.1	高 7.4	細砂粒/良好/橙	高杯の杯を脚への移行部で切断した形状に類する。口縁部 は横ナデと考えられる。体部外面もナデか。底部は規則性 を欠いた刺突が繰り返されている。器面に木葉痕を残す。	器面磨滅。
第40図 PL65	3	土師器 小型甕	竈右袖 完形	口 高	12.9 15.0		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は下位にヘラ削りが見られる。 内面は横位のヘラナデ。	
第40図 PL65	4	土師器 甕	竈左袖 口縁部～胴部下 位	口	19.1		礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。
第40図	5	土師器 甕	竈右袖 頸部～胴部中位 片				礫・粗砂大の片岩・ 赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横 位のヘラナデ。	
第40図	6	土師器 甕	竈右袖 胴部				礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい黄橙	胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデの上に縦位のヘラナデを重ねる。	

7-2区102号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.65	1	土師器 杯	埋没土中 完形	口 高	13.3 5.0		細砂粒/良好/橙	成形が粗雑なため歪み著しい。口縁部は横ナデ。体部(稜下) 外面はナデ、以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第42図	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部 1/3	口	11.9		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器面磨滅。	
第42図 PL.65	3	土師器 杯	竈左脇床面上12 cm 口縁部一部欠	口 高	12.4 4.3		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第42図 PL.65	4	土師器 杯	床面上7cm 完形	口 高	13.6 5.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部は周縁部にヘラ削 り。中央に木葉痕を残す。内面はナデ。	
第42図 PL.65	5	土師器 杯か	埋没土中 口縁部一部欠	口 高	10.4 7.8		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部から底部まで手持ちヘラ削り。 内面磨滅。	
第42図	6	土師器 高杯	埋没土中 杯部～脚部上位 1/3	口	18.2		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。受け部外面は斜横位に細かなヘラ削り。 内面にはヘラ磨きを加えられていたか。脚部は外面に縦位 のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第42図 PL.65	7	土師器 高杯	埋没土中 杯部下位～脚部 上位				細砂粒/良好/にぶ い橙	杯部外面はヘラ削り。内面にナデ。脚部外面は縦位にヘラ 削り。内面はヘラナデ。	
第42図 PL.65	8	土師器 鉢	P4底面上6cm 完形	口 底	10.6 3.9	高 8.5	礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部外面は下半にヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。底部外面はヘラ削りか。	器面磨滅。
第42図	9	土師器 小型甕	竈右床面上7cm 口縁部～胴部中 位1/3	口	13.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜位のヘラ削り。上位に成形 時の型肌の面を残す。内面はヘラナデ。	器面磨滅。
第42図	10	土師器 甕か	埋没土中 口縁部1/2	口	26.8		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削り。内面は 斜位のヘラ削り。	器面磨滅。
第42図	11	土師器 甕	埋没土中 胴部下位～底部 1/2				細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデか。	器面磨滅。
第42図 PL.65	12	礫石器 棒状礫	床面直上 4/5	長 幅	(14.1) (6.5)	厚 重	3.7 552.1	雲母石英片岩	表裏面の中央付近に比較的滑らかな部分が認められるが人 為的な痕跡であるか判断できない。
第42図 PL.65	13	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.5 6.3	厚 重	4.0 578.1	雲母石英片岩	表裏面の中央付近に比較的滑らかな部分が認められるが人 為的な痕跡であるか判断できない。
		礫石器 棒状礫	竈前床面上7cm 完形	長 幅	17.7 6.4	厚 重	4.9 639.6	雲母石英片岩	計測のみ

7-2区103号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第44図 PL.67	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部~底部 1/2	口	13.8		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部内面に線刻3条。	
第44図 PL.67	2	土師器 杯	貯蔵穴北脇床面上 1.6cm 1/2	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第44図	3	土師器 杯	埋没土中 口縁部~底部 1/3	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第44図	4	土師器 杯	埋没土中 1/3	口 高	13.8 4.5		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)外面は成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第44図 PL.67	5	土師器 杯	埋没土中 3/4	口 底	13.1 11.5	高 4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。他は器面磨滅。		
第44図 PL.67	6	土師器 杯	竈左脇床面上6 cm 1/2				粗砂粒/良好/橙	平面形は長円形を呈する。外面は全て手持ちヘラ削り。内面は口縁部に横ナデ。底部もナデか。		
第44図 PL.67	7	土師器 鉢か	床面上5cm 完形	口 底	13.5 6.2	高 7.5	粗砂大の片岩/良 好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ削り。	器面磨滅。	
第44図 PL.67	8	土師器 鉢	床面上5~15cm 口縁部~底部 1/2	口	21.0		粗砂大の片岩/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面は体部から底部までヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第44図 PL.67	9	土師器 有孔鉢	床面上5~15cm 口縁部~底部 1/2	口 底	16.3 4.1	高 11.4	粗砂大の片岩・赤 色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部は狭小な平底。中央に直径1.8cmの小孔を穿つ。		
第44図 PL.67	10	土師器 小型甕	貯蔵穴北脇床面 直上 2/3	口 高	10.0 11.2		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部から底部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。	
第45図 PL.67	11	土師器 甕	竈前床面上2cm 1/2	口 底	16.5 4.4	高 34.4	礫大の片岩多量/ 良好/にぶい橙	胴部下位を中心に歪み著しい。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面に木葉痕を残す。		
第45図 PL.67	12	土師器 甕	床面上5~15cm 口縁部~底部 1/3	口 底	20.2 5.6	高 33.8	礫大の片岩多量/ 良好/にぶい褐	口唇端部は外側に平坦面をなす。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、底部寄りには横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面に木葉痕を残す。		
第45図 PL.67	13	土師器 甕	竈使用面上16cm 口縁部一部欠	口 底	19.9 5.3	高 34.4	礫大の片岩/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位が縦位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は凹面状。木葉痕を残す。		
第45図	14	土師器 甕	床面上5~15cm 口縁部~胴部中 位1/3	口	20.1		礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。	
第45図 PL.67	15	土師器 甕	床面上5~15cm 口縁部~胴部下 位1/2	口	21.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデ。		
第45図 PL.67	16	土師器 甕	床面上2cm 口縁部~胴部中 位1/2	口	26.4		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削りの上に縦位のヘラ磨きを重ねる。内面は横位のヘラナデ。		
第45図	17	土師器 甕か	埋没土中 胴部下位~底部 1/3	底	8.4		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	胴部外面は横位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。	
第45図 PL.67	18	鉄製品 不明	床面上1.3cm 完形	長 幅	4.1 4.1	厚 重	0.7 19.7	鉄	ほぼ正円。中心に直径2cmの孔があいている。使用用途は不明。一部錆が覆っている。	
第45図 PL.67	19	礫石器 台石	床面上7cm 完形	長 幅	19.6 18.5	厚 重	10.1 3516.2	牛伏砂岩	表面はほぼ平坦であり滑らかな部分が広範囲に認められる。表面以外は自然面と判断され円礫を利用する。	
		剥片石器 二次加工あ る剥片	床面上14cm 不明	長 幅	- -	厚 重	- 88.4	硬質泥岩		計測のみ

8-2区76号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第47図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 高	14.1 3.9		粗砂粒/良好/橙	口縁部は中位に弱い段を有するか、横ナデ。体部(稜下)以下の外面は手持ちヘラ削り。	

8-2区77号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第48図 PL.68	1	土師器 杯	床面上7cm 口縁部1/2欠	口 高	12.4 3.1		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面にはナデの面を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

8-2区105号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第49図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	13.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。	
第49図	2	土師器 小型甕	埋没土中 胴部下位~底部 2/3	底	7.8		粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部外面はヘラ削りか。内面は横位のヘラナデ。底部外面には木葉痕。		
		礫	埋没土中 完形	長 幅	60.3 36.6	厚 重	9.0 35.6	凝灰質砂岩		計測のみ

遺物観察表

8-2区106号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第50図	1	土師器 杯	竈前床面直上 1/4	口	13.0	粗砂粒/良好/ 赤色粘土粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は磨滅。ヘラ削りか。	

8-2区108号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第52図	1	土師器 杯	竈前床面直上 1/2	口 高	9.6 3.4	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器面磨滅。	
第52図	2	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	12.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は中位に弱い稜を有する、横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。平滑。	
第52図	3	土師器 小型甕	埋没土中 口縁部～胴部片	口	12.8	礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面やや磨滅。
第52図	4	土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口	21.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

8-2区110号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第54図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	13.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第54図	2	土師器 甕	床面上6cm 口縁部～胴部中 位1/3	口	22.6	礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位に横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。

8-2区120号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第56図 PL.68	1	土師器 杯	竈左脇床面直上 口縁部一部欠	口 高	12.4 4.1	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。他は器面磨滅。	
第56図 PL.68	2	土師器 杯	竈左脇床面直上 一部欠	口 高	12.5 4.8	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器面磨滅。	
第56図 PL.68	3	土師器 杯	竈燃焼部左側 口縁部・底部一 部欠	口	14.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第56図 PL.68	4	土師器 鉢	竈右脇掘り方充 填土 口縁部一部欠	口 高	12.9 9.6	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第56図	5	土師器 有孔鉢	床面直上 口縁部～胴部中 位1/4	口	16.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部内外面は器面磨滅。	
第56図 PL.68	6	須恵器 蓋	床面直上 口縁部一部欠	口 高	13.1 5.1	粗砂粒・灰色粘土 粒/不良・酸化焙 ぎみ/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。	器面磨滅。
第56図 PL.68	7	土師器 甕	床面直上 口縁部一部欠	口 底	21.5 10.3	粗砂粒・細砂粒・ 赤色粘土粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3・4回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデの上に縦位・横位のヘラ磨き。下位に一部縦位のヘラナデ。	
第56図 PL.68	8	土師器 小型甕	床面直上 完形	口 高	13.5 12.2	礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい赤褐	平面形は長円形を呈す。口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面磨滅。
第56図 PL.68	9	土師器 甕	床面上3cm 2/3	口 底	14.6 6.0	礫・粗砂大の片岩 /良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位、下位は斜横位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面は斜横位のヘラ削り。	
第56図 PL.68	10	土師器 甕	竈燃焼部右側 胴部中位～底部	底	5.9	礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は下位が斜位、これより上位は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	
第56図 PL.68	11	土師器 甕	竈燃焼部左側 胴部上位～底部	底	6.2	礫大の片岩/良好/ 明赤褐	胴部外面は縦位の、底部寄り斜横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	
第56図	12	土師器 甕	竈前床面上3～ 7cm 胴部片～下位1/2			礫・粗砂大の片岩・ 赤色粘土粒/良好/ 明赤褐	外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	

8-2区121号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第57図	1	土師器 杯	貯蔵穴南東脇床 面上6cm 1/4	口 高	12.7 4.8	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面は底部に横位のヘラ磨きを隙間なく加える。	
第57図	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	10.6	粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)外面は上位に成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第57図	3	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	13.0	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面は上位にナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第57図	4	土師器 杯	埋没土中 1/2	口 高	12.8 4.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第57図	5	土師器 鉢か	埋没土中 口縁部～胴部下 位1/4	口	13.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面磨滅。
第57図 PL.68	6	須恵器 杯	貯蔵穴南東脇床 面上23cm 口縁部一部欠	口 高	11.3 4.0	粗砂大の黒色鉾物 粒少量/還元焙/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転は左回り。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第57図	7	土師器 羽釜	竈前床面上29cm 胴部下位～底部片	底	9.0	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラナデ。	混入か。

竪穴建物出土遺物観察表

8-2区122号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第58図 PL.68	1	土師器 杯	床面上13cm 口縁部一部欠	口 高	14.0 4.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)外面は上位にナデの面をわずかに残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第58図 PL.68	2	須恵器 杯	埋没土中 1/2	口 底	9.3 5.0	高 2.0	粗砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	器面磨滅。
第58図	3	須恵器 椀	床面上4cm 口縁部～体部下 位1/4	口	14.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第58図	4	土師器 甕か	床面上12cm 胴部下位～底部 1/4	底	6.5		細砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデと考えられる。	甕の下位を鉢として二次利用したか。
第58図 PL.68	5	土師器 甕	竈焚口部 口縁部～胴部中 位1/3	口	12.6		礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	
第58図	6	土師器 羽釜	床面上12cm 口縁部～胴部上 位片	口	25.0		礫・粗砂粒/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。鏝を貼付後、周縁部に横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	
第58図	7	土師器 羽釜	埋没土中 胴部下位～底部 1/3	底	11.0		礫・粗砂粒/良好/ にぶい黄褐	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラナデ。	

9区38号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図 PL.69	1	土師器 杯	竈使用面直上 1/2	口 高	13.8 4.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。内面は口唇端部に向かってヘラ磨き。	器面磨滅。
第61図	2	土師器 杯	貯蔵穴北壁際溝 内 口縁部片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第61図 PL.69	3	土師器 杯	竈右脇床面直上 2/3	口 高	11.0 4.4		細砂粒/良好/橙	内面はナデ。	器面磨滅。
第61図 PL.69	4	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	13.2		粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや磨滅。
第61図 PL.69	5	土師器 甌	2号竈右脇 3/4	口 底	25.4 11.5	高 34.5	粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	横断面は長円形を呈す。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラ削り・横位のヘラナデの上へヘラ磨きを重ねたか。磨滅のため観察はできない。	器面磨滅。
第61図 PL.69	6	土師器 甕	貯蔵穴底面上30 cm 口縁部・胴部一 部欠	口 底	16.2 7.4	高 19.8	礫大の片岩・粗砂 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は最上位と最下位は斜横位の、その間は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面やや磨滅。
第61図 PL.69	7	土師器 甕	貯蔵穴底面上6 cm 口縁部一部欠	口 底	18.9 6.9	高 29.5	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部寄りと底部寄りに横位の、他は縦位のヘラ削りを丁寧に施す。頸部近くはヘラナデに近い。内面は斜位・斜横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面やや磨滅。
第61図 PL.69	8	土師器 甕	貯蔵穴底面上30 cm 口縁部欠損	底	9.2		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	胴部外面は数回に分けて縦位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部は凸面状。	器面磨滅。

9区39号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 PL.69	1	土師器 杯	床面直上 1/2	口 高	11.8 4.3		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ・工具痕。	内面に炭素吸着。
第63図 PL.69	2	土師器 杯	竈埋没土中 1/2	口 高	12.0 3.5		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第63図 PL.69	3	土師器 杯	竈埋没土中 1/2	口 高	14.4 2.9		黒色鋳物粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第63図 PL.69	4	土師器 高杯	貯蔵穴南脇床面 上11cm 1/2	口 底	13.6 7.4	高 7.5	粗砂粒少量/良好/ 橙	杯の口縁部は横ナデ。受け部はヘラ削り。脚部外面もヘラ削り。裾部は横ナデ。内面はナデか。	器面磨滅。
第63図	5	土師器 鉢	竈掘り方埋没土 中 口縁部～体部	口	19.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は上位に成形のナデの面を残す。以下は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第63図	6	土師器 甌	竈左脇床面上9 cm 口縁部～胴部上 位片	口	23.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りか。内面にはヘラ磨きの一部が残る。	器面磨滅。
第63図 PL.69	7	土師器 台付甕	竈左脇床面直上 台部	台	9.0		粗砂粒/良好/明赤 褐	胴部内面はヘラナデ。台部外面上半はヘラ削り。以下はナデ。内面はナデ・ヘラナデ。	胴部内面に炭素吸着。
第63図	8	土師器 甕	竈埋没土中 頸部～胴部中位 片				細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が斜横位の、中位は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	

9区40号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第65図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	12.0		細砂粒/良好/橙	器面磨滅。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第65図 PL.68	2	土師器 杯	貯蔵穴底面上9 cm 2/3	口	12.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面上位に成形時のナデの面を残す。	器面磨滅。
第65図 PL.68	3	土師器 杯	貯蔵穴底面上2 cm 1/2	口	13.5		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第65図	4	土師器 杯	竈埋没土中 口縁部～体部片	口	11.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの部分を残す。 底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面にヘ ラ状の工具 痕。
第65図	5	土師器 杯	竈煙道底面上8 cm 1/4	口	13.8		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。底 部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に「×」の 線刻。
第65図	6	土師器 小型甕	竈埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	12.0		粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。胴部内面は横位のナデ。	外面磨滅。

9区41号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第67図 PL.69	1	土師器 杯	P5底面直上 口縁部一部欠	口	12.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)外面は上位の狭い範囲に成形 のナデの面を減し、以下底部まで手持ちヘラ削り。内面は ナデ。	
第67図 PL.69	2	土師器 甕	貯蔵穴底面上2 cm 口縁部・底部一 部欠	口	16.4		細砂粒/良好/橙	横断面は長円形を呈する。底部は尖底か。焼成前に棒状工 具による複数の穿孔が施される。口縁部は横ナデ。体部は 下半部にヘラ削りを残す。内面は横位・縦位のヘラナデ。 外面体部上半は磨滅。	底部欠損後、 新たに中央に 孔を穿ち直し たか。
第67図	3	土師器 鉢か	P3東脇床面上3 cm 口縁部片	口	13.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第67図 PL.69	4	土師器 甕	貯蔵穴底面直上 胴部上位～底部	底	9.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	胴部外面は底部寄りが斜位の、これより上位が縦位のヘラ 削り。内面は横位のナデの上に縦位のヘラ磨きを重ねる。 孔寄りには横位のヘラ削り。	
第67図 PL.69	5	土師器 甕	竈右袖崩落土中 頸部～底部	底 高	5.8 32.1		礫大の片岩多量/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、底部寄りには横位のヘ ラ削り。内面は横位のヘラナデの上に一部縦位の指ナデを 重ねる。底部外面に木葉痕。	
第67図 PL.69	6	土師器 甕	床面直上 底部1/2				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面はヘラ削り。内面は横位のナデか。	器面磨滅。

9区42号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高					
第69図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	9.4		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	2	土師器 杯	床面上8cm 2/3	口	10.5		粗砂粒少量/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	3	土師器 杯	P3南東部床面上 12cm 3/4	口	10.5		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第69図	4	土師器 杯	埋没土中 1/2	口	10.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削りか。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	5	土師器 杯	竈掘り方面上4 cm 1/3	口	11.4		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	6	土師器 杯	床面上6cm 3/4	口	11.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	7	土師器 杯	床面上11cm 1/2	口	12.2		礫・粗砂粒・赤色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削 りと考えられる。内面はナデ。		
第69図	8	土師器 杯	床面上16cm 1/3	口	12.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削りか。	器面磨滅。	
第69図 PL.70	9	土師器 杯	埋没土中 3/4	口	10.5		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明黄褐	器内は厚い。現状の平面形は長円形を呈する。歪んだか。 器面は磨滅。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り と考えられる。		
第69図 PL.70	10	須恵器 皿	埋没土中 1/3	口	14.6	高	3.0	黒色粘土粒/還元 焰軟質/灰黄	器形は歪んでいる。ロクロ整形、回転は右回り。底部回転 切り離し後、高台部を貼付。その後、周縁部にナデ調整。	器面磨滅。
第69図	11	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口	11.8	高	3.2	粗砂粒/還元焰/暗 灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ切り後、回転 ヘラ調整か。	
第69図	12	須恵器 壺か	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	11.8			細砂粒/還元焰/黄 灰	紐づくり成形か。外面は横ナデ。胴部内面は当て具痕の上 にナデ。	
第69図	13	土師器 台付甕	埋没土中 脚部3/4	底	7.5			粗砂粒/良好/橙	胴部内面はナデ。脚部外面は縦位のヘラ削り。裾部に横ナ デ。内面は横位のヘラナデ。	
第69図	14	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	22.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	内面磨滅。
第69図	15	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部上 位1/2	口	19.4			礫・粗砂大の片岩・ 赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削りと考えられる。	器面磨滅。

9区43号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高さ	重量			
第70図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	13.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面は口縁部に横位のへら磨き。底部には中心から口縁部に向けて放射状のへら磨き。	
第70図	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	13.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は上位に成形時のナデの面を残す。以下は手持ちへら削り。内面はナデ。	

9区44号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高さ	重量				
第72図	1	土師器 杯	床面直上 1/3	口 高	11.8 3.2		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面磨滅。	
第72図	2	土師器 杯?	埋没土中 1/3	口	9.8		粗砂粒/不良/にぶ い橙	口縁部は平底の底部から外反ぎみに立ち上がる。底部中央は突起をなす。外面は粗雑なナデ。内面はへらナデ・へら削り。底部外面に木葉痕。		
第72図	3	土師器 甕	P4脇床面上13cm 頸部～胴部上位 片				細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	器面磨滅。胴部張る可能性あり。		
第72図 PL.70	4	礫石器 棒状礫	P1脇床面直上 完形	長 幅	15.5 5.4	厚 重	4.9 605.9	変玄武岩	全面が自然面であり円礫を利用している。	
第72図 PL.70	5	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.3 5.6	厚 重	4.2 577.6	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	
第72図 PL.70	6	礫石器 棒状礫	P1脇床面直上 完形	長 幅	15.7 5.8	厚 重	2.8 418.8	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	
第72図 PL.70	7	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	16.6 4.1	厚 重	3.8 383.0	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第72図 PL.70	8	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	16.9 7.7	厚 重	3.4 639.4	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している可能性が高い。	
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.9 6.4	厚 重	4.2 416.3	変玄武岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 不明	長 幅	(12.0) 7.6	厚 重	2.8 388.9	黒色片岩		測値のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	14.3 5.3	厚 重	3.7 395.8	黒色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	14.6 7.7	厚 重	2.8 400.6	粗粒輝石安山岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 不明	長 幅	(15.9) 6.1	厚 重	3.1 438.1	緑色片岩		計測のみ

9区45号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高さ	重量				
第74図 PL.70	1	土師器 杯	埋没土中 1/3	口 底	12.0 7.4	高 重	2.9	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器面磨滅。	
第74図 PL.70	2	土師器 杯	竈埋没土中 1/3	口 底	12.5 9.5	高 重	3.1	粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデか。	器面磨滅。
第74図 PL.70	3	土師器 甕	竈右脇床面上11 cm 口縁部～胴部上 位1/2	口	20.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第74図 PL.70	4	土師器 甕	竈煙道部 口縁部～胴部中 位1/2	口	21.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が斜横位の、中位が斜縦位のへら削り。内面はへらナデ。	内面磨滅。
第74図	5	土師器 甕	竈煙道部 口縁部～胴部上 位片	口	22.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第74図	6	須恵器 甕	埋没土中 口縁部下位～胴 部上位片					粗砂大の白色鈹物 粒/還元焰/灰	紐づくり成形。口縁部は横ナデ。胴部は外面に叩き目。内面に当て具痕を残す。	
第74図 PL.70	7	礫石器 棒状礫	床下掘り方没土 中 完形	長 幅	17.7 6.5	厚 重	2.7 440.5	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	
第74図 PL.70	8	鉄製品 刀子	埋没土中 破片	長 幅	3.8 1.9	厚 重	0.8 7.9	鉄	茎から刃にかけて残存。刃は1.5cmの残存である。劣化により両端が欠損しているため、詳細は不明。木質等の残存もない。	

9区65号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高さ	重量				
第78図 PL.69	1	土師器 甕	床面直上 底部欠	口	15.8			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデと考えられる。胴部外面は縦位のへら削り。	器面磨滅。
第78図	2	土師器 甕	床面上17cm 口縁部～胴部上 位	口	18.0			礫・粗砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位のナデ	

遺物観察表

9区66号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高					
第79図 PL.70	1	土師器 杯	竈門口部手前床 面直上 完形	口高	11.3 4.2		赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第79図	2	土師器 杯	竈煙道部 口縁部～底部片	口	13.0		赤色粘土粒・細砂 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。	器面磨滅。
第79図 PL.70	3	土師器 杯	P1南側床面直上 3/4	口	8.0		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。外面は体部に成形時のナデの面を残す。型肌状。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや磨滅。
第79図 PL.70	4	土師器 鉢	竈左袖崩落部分 2/3	口高	12.8 11.1		礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。外面は体部下半から底部にかけて手持ちへら削り。内面は斜横位のへらナデ。底部は丸底を志向している。	
第79図 PL.70	5	土師器 有孔鉢	竈左袖崩落部分 体部一部欠	口孔	17.3 2.1	高 11.0	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	底部に小孔を穿つ。直径は2.1cm程か。外面は磨滅。内面は横位のへらナデ。	器面磨滅。

9区67号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高					
第80図 PL.70	1	土師器 杯	竈右側床面上6 ～10cm 3/4	口高	13.2 4.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は細かな手持ちへら削り。内面は底部中央から口縁部に向けて放射状にへら磨き。	器形若干歪む。外面磨滅。
第80図 PL.70	2	土師器 杯	床面上11cm 1/4	口	16.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちへら削り。底部内面はナデの上にへら磨き。	
第80図	3	土師器 小型甕	床面上11cm 口縁部～体部下 位1/3	口	10.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は体部との間に弱い稜をなした後、内傾して立ち上がる。口縁部は横ナデ。体部外面は横位のへら削り。内面はナデ。	
第80図 PL.70	4	土師器 小型甕	竈右側床面上6 ～10cm 1/3	口底	13.8 7.2	高 14.5	礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、下位の底部寄りには斜横位のへら削り。底部外面もへら削り。内面は胴部・底部ともへらナデ。底部外面にへらあるいは木葉痕あり。	
第80図 PL.70	5	土師器 甕	竈左脇床面直上 1/3	口底	22.5 5.2	高 32.6	礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のへら削り。底部寄りには斜横位・横位。内面は横位の横ナデ。底部外面に木葉痕。	底部内面に黒色の付着物。
第80図	6	土師器 甕	竈右側床面上6 ～10cm 口縁部～胴部中 位片	口	21.0		礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい黄橙	口縁部は二回に分けて横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は上位が横位の、中位が斜縦位のへらナデ。	
第80図 PL.70	7	土師器 甕	床面上5cm 底部1/2	底	9.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	胴部外面は斜縦位のへら削りと考えられる。内面は斜横位のへらナデ。	器面磨滅。

10区56号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高					
第81図	1	土師器 杯	竈右側床面上3 cm 口縁部～体部片	口	12.8		粗砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は横ナデ。体部下位は手持ちへら削りか。磨滅のため単位は確認できない。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデか。	
第81図	2	須恵器 蓋	埋没土中 摘み	摘	5.5		粗砂粒/還元焰軟 質/灰白	蓋の中央に付されるボタン状の摘みのみ残存。口クロ整形、回転は右まわり。二次利用したか。	
第81図 PL.71	3	須恵器 杯	竈右側床面上9 cm 1/3	口底	14.4 9.6	高 3.7	粗砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転は不明。底部は回転へら切り。	器面磨滅。

10区57号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No	No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高					
第83図 PL.71	1	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	11.8 4.3		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	磨滅。
第83図 PL.71	2	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	12.2 4.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第83図	3	土師器 杯	P1埋没土中 1/2	口	10.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)は手持ちへら削りと考えられる。	器面磨滅。
第83図	4	土師器 杯	床面上4cm 1/2	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。	
第83図	5	土師器 鉢	埋没土中 口縁部～体部片	口	12.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は内傾ぎみに立ち上がる。横ナデ。体部外面は横位に手持ちへら削り。内面はへらナデ。	器面磨滅。
第83図	6	土師器 鉢	床面上4cm 口縁部～体部中 位片	口	23.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部上位にナデか。中位には弱いタッチのへら削り。内面はへらナデ。	器面磨滅。
第83図 PL.71	7	土師器 小型甕	竈右脇床面上5 cm 口縁部～胴部 1/2	口	15.0		礫・粗砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面はへらナデと考えられる。	器面磨滅。
第83図	8	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位	口	20.0		礫大の片岩・粗砂 粒/良好/明褐	小破片のため形状不確定。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位の強く粗雑なへら削り。内面はナデ。	
第83図 PL.71	9	土師器 甕	床面上3cm 口縁部一部・底 部欠	口	20.0		礫大の片岩多量/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、底部寄りは斜横位のへら削り。下位は短い単位。内面は横位のへらナデ。	
第83図	10	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部下 位片	口	19.8		礫大の片岩・粗砂 粒/良好/橙	成形が粗雑で器形が乱れている。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は縦位の、一部は横位のへらナデ。	

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第83図	11	土師器 甕	床面上8cm 口縁部～胴部下 位1/4	口	23.0		礫・粗砂粒/良好/ にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位に数回に分けてヘラ削り。内面は縦位・横位のヘラナデ。	内面やや磨滅。
第83図	12	土師器 甕	竈右脇床面上4 cm 胴部上位～胴部 下位1/4				粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	残存上位は斜縦位の、中位は横位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面やや磨滅。

10区58号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第84図 PL.71	1	土師器 杯	床面上5cm 3/4	口 高	12.4 4.1		赤色粘土粒・礫・ 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第84図	2	土師器 鉢	床面上7cm 口縁部～体部上 位片	口	14.2		粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部外面はナデに近い縦位のヘラ削り。内面はナデ。	杯の範疇に入るか。
第84図	3	土師器 甕	竈焚口部底面上 6cm 口縁部片	口	21.2		礫・粗砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

10区59号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.71	1	土師器 杯	竈左脇床面直上 1/2	口	11.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第85図	2	土師器 甕	P2北脇床面上6 cm 口縁部～胴部上 位片	口	22.0		赤色粘土粒・細砂 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデの上に縦位のヘラ磨き。	
第85図 PL.71	3	土師器 小型甕	竈左脇床面直上 1/3	口 底	13.0 8.4	12.7	礫大の片岩/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。体部外面は底部寄りに手持ちヘラ削りが認められる。底部はわずかに凸状を呈す。ヘラ削りと考えられる。内面はヘラナデと考えられる。	器面磨滅。

10区68号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.71	1	土師器 鉢	床面上3cm 1/3	口 底	13.0 9.0		粗砂粒/良好/橙	底部は径の大きな平底。口縁部は横ナデ。内面には横位のヘラ磨き。規則性は見られない。	口縁部は内傾の可能性あり。
第87図 PL.71	2	土師器 甕	竈燃焼部使用面 上6～9cm 2/3	口 高	16.0 27.7		礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は3・4回に分けて上位・中位は縦位、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。底部は不安定な平底か。	
第87図	3	土師器 甕	床面上6cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	17.6		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。	
第87図	4	土師器 甕	竈焚口部使用面 上6～9cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	20.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第87図 PL.71	5	土師器 甕	竈燃焼部使用面 上6～9cm 口縁部・胴部一 部欠	口 底	21.9 3.0	33.5	礫・粗砂大の片岩 多量/良好/にぶい 橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は上位・下位は横位、中位は縦位のヘラナデ。底部は狭小な平底。ヘラナデ。	
第87図	6	土師器 甕	竈焚口部使用面 上6～9cm 胴部上位～胴部 下位1/2				礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい赤褐	外面は縦位のヘラ削り。内面は斜縦位・横位のヘラナデ。	
第87図	7	土師器 甕	床面上5cm 胴部下位～底部	底	10.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	

10区60号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.71	1	土師器 杯	埋没土中 一部欠	口 高	11.2 4.1		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第88図 PL.71	2	土師器 杯	竈脇床面直上 1/2	口 高	13.0 4.7		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

10-2区78号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.71	1	土師器 杯	床面直上 2/3	口 底	13.8 9.6	4.0	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面は口縁部に右傾するヘラ磨き。	器面磨滅。
第90図	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 底	14.7 7.5	3.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に右傾するヘラ磨きを重ねる。底部外面はヘラ削り。	
第90図	3	土師器 杯	竈埋没土中 1/4	口	13.4		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は上位に成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第90図	4	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部～天井部 1/3	口	14.0		白色鈹物粒・粗砂 粒/還元焰/灰黄	クロコ整形、回転は右回り。天井部外面の中央寄りに回転ヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図	5	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部～天井部 片	口	14.8		粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の中央寄りに回転 ヘラ削り。	
第90図	6	土師器 台付甕	埋没土中 胴部下位～台部 上位片				粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄褐	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。台部外面はヘラナ デか。内面はヘラナデ。	
第90図	7	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	17.4		粗砂大の片岩/良 好/にぶい橙	口縁部はもっと外反するか。器面磨滅。胴部外面はヘラ削 りと考えられる。内面は横位のヘラナデか。	
第90図	8	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	口	21.8		白色鈹物粒多量・ 黒色鈹物粒少量/ 還元焰/黄灰	紐づくり成形か。器面をナデ調整。	
第90図	9	石製品 紡輪	掘り方凹地底面 上1cm ほぼ完形	長 幅	(5.1) 5.0	厚 重	10 40.2 蛇紋岩	表裏面ともよく研磨され、平滑面が形成されている。体部 側面は面取り整形される。孔径約6mm。	逆台形状(薄 型)

10-2区80号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図	10	須恵器 蓋	埋没土中 摘み部片	摘	4.0		白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部切り離し後、ボタン状 の摘みを貼付。	
第90図	11	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部～天井部 片	口	17.4		黒色鈹物粒少量/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の中央寄りに回転 ヘラ削り。	
第90図 PL.71	12	鉄製品 鎌	床面直上 一部欠損	長 幅	12.2 6.0	厚 重	1.8 62.3 鉄	柄の装着部に折り返しを持つ鉄製鎌。折り返しはほぼ垂直 に立ち上がる。木質の残存は確認出来ない。刃の端部の欠 損が見られる。	

10-2区79号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第91図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部 1/3	口 高	13.4 3.4		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部にナデの面を残す。底部は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第91図	2	須恵器 杯	埋没土中 体部下位部～底 部片	底	8.8		白色鈹物粒・海綿 骨針/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り調整。	
第91図	3	須恵器 椀	埋没土中 底部片	台	6.9		白色鈹物粒少量/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。体部最下位に回転ヘラ削り。 底部切り離し後、高台貼付。その後、周縁部にナデ調整。	
第91図	4	須恵器 瓶か	埋没土中 体部下位～底部 片	台	11.2		黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。外面の体部下位は回転ヘラ 削り。底部も回転ヘラ削り調整。	
第91図	5	土師器 台付甕	埋没土中 胴部下位～台部 上位1/2				粗砂粒/良好/明赤 褐	外面はヘラ削り。内面は胴部・台部ともヘラナデ。	
第91図	6	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	23.4		粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	残存が小破片であるため、直径が断定できない。	器面磨滅。

10-2区82号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口 底	13.4 7.8		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。底部外面も 手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第92図	2	須恵器 蓋	埋没土中 摘み～天井部片	摘	6.0		黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	リング状の摘み。ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面 の摘み寄りには回転ヘラ削り。	
第92図	3	土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口	17.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	

10-2区89号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.71	1	土師器 杯	床面上13cm 3/4	口	14.4		粗砂粒/良好/橙	器形やや歪む。口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ削りと考 えられる。内面は口縁部に右傾するヘラ磨き。底部には螺 旋状のヘラ磨きが施されていたと考えられるが、大半が磨 滅している。	器面磨滅。
第93図 PL.71	2	土師器 杯	床面上10cm 1/2	口 底	13.8 8.7	高	3.9 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横ナデと考えられる。体部外面は手持ちヘラ削り。 底部外面は手持ちヘラ削り。板目状の圧痕か。内面の口縁 部は放射状にヘラ磨き。底部にも施されているか。	
第93図 PL.71	3	土師器 杯	埋没土中 1/3	口 底	15.6 9.4	高	4.0 粗砂粒/良好/明赤 褐	器面磨滅。	
第93図	4	土師器 杯	掘り方底面上14 cm 1/4	口 底	14.8 10.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は下半部に手持ちヘラ削り。上 半部に成形時の面を残す。底部外面はヘラ削りと考えられ る。	器面磨滅。
第93図 PL.71	5	土師器 杯	床面上13cm 口縁部一部欠	口 高	12.3 3.5		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第93図 PL.71	6	土師器 杯	竈焚口部右床面 上14cm 1/2	口 高	11.8 3.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。器面は磨滅。	

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.71	7	土師器 杯	掘り方埋没土中 3/4	口高	12.5 3.3		粗砂粒/良好/褐	平面形は長円形を呈す。口縁部は横ナデ。体部外面には成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第93図	8	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	12.2		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部外面は手持ちへら削りと考えられるが器面磨滅。	
第93図	9	土師器 杯	埋没土中 1/4	口高	12.8 2.9		粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第93図	10	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部～天井部 片	口	18.0		黒色鈹物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の中心寄りには回転へら削り。	内面平滑。
第93図	11	須恵器 杯?	埋没土中 口縁部片	口	14.9		夾雑物少ない。白 色鈹物粒少量/還 元焰/浅黄	ロクロ整形、回転は右回り。	
第93図	12	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口	13.0		夾雑物少ない。白 色鈹物粒少量/還 元焰/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位に回転へら削り。	
第93図	13	須恵器 杯	埋没土中 底部片				黒色鈹物粒少量/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら切り後、無調整。	
第93図 PL.71	14	土師器 壺	床面上11cm 胴部下位				粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面やや磨滅。
第93図	15	土師器 甕	床面上10cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	21.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部内面は横位のへらナデ	外面磨滅。
第93図 PL.71	16	礫石器 棒状礫	埋没土中 完形	長幅	13.9 2.6	厚重 2.4 137.1	黒色片岩	円柱状の整った形態を呈しており全体的に整形されている可能性がある。上端には磨面が形成されている。	
第93図 PL.71	17	鉄製品 釘	埋没土中 完形か	長幅	7.2 1.1	厚重 1.0 8.0	鉄	全体が砂をかんだ固いさびで覆われていて、詳細は不明。ぼぼ中心で折れている。頭部の形状は見当たらないが破損箇所も見当たらないため、合釘か。	

10-2区83号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL.71	1	土師器 杯	床面直上 完形	口高	11.2 3.8		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	器形は歪んでいる。器面磨滅。	
第95図 PL.71	2	土師器 杯	床面直上 口縁部一部欠	口高	13.7 4.1		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	

10-2区85号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.72	1	土師器 椀	竈前床面上4cm 1/2	口台高	11.8 6.6	高 5.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部の整形は不明。高台貼付後、周縁部を横ナデ。	
第98図 PL.72	2	須恵器 杯	埋没土中 3/4	口底	10.2 5.5	高 3.3	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	
第98図	3	須恵器か 杯	竈前床面直上 体部下位～底部	底	6.3		赤色粘土粒/良好/ 橙	ロクロ整形か。器面磨滅。	
第98図	4	須恵器 椀	竈前床面上3cm 1/2	口	13.7		細砂粒/酸化焰/に ぶい褐	ロクロ整形、回転は右回りか。底部は切り離し後、高台貼付。	高台欠損後も使用か。器面に炭素吸着。
第98図	5	須恵器か 椀	埋没土中 底部				粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	器面磨滅。	
第98図 PL.72	6	灰釉陶器 長頸壺	竈前床面直上 頸部～底部1/3	台	9.0		夾雑物少量/還元 焰/黄灰	口縁部と胴部は別作りで成形。両者を接合。やや歪んでいるか。胴部は紐づくり成形。回転は左回りか。外面の胴部中位以下は回転へら削り。底部は回転糸切り離し後、高台貼付。	肩部外面、底部内面に自然釉付着。
第98図 PL.72	7	土師器 羽釜	竈前床面上2～ 6cm 口縁部～胴部 1/3	口	21.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。罫は断面三角形。貼付後、周縁部にナデ調整。胴部外面に横位のナデ。以下は縦位のへら削り。内面は横位のナデ。	
第98図 PL.72	8	須恵器 羽釜	竈使用面上9cm 口縁部～胴部下 位	口	21.8		粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/橙	紐づくり成形。ロクロ調整。口縁部は横ナデ。罫を貼付後、周縁部に横ナデ。胴部外面下半は斜縦位のへら削り。	
第98図 PL.72	9	須恵器 羽釜	竈使用面上6～ 12cm 竈前床面上2～ 13cm 口縁部～胴部下 位2/3	口	25.8		粗砂粒/酸化焰/橙	紐づくり成形後、ロクロ調整。罫は断面三角形で短い。胴部下半は斜位のへら削り。	
第98図 PL.72	10	土師器か 羽釜	竈前床面上4～ 6cm 胴部～底部1/3	底	8.6		粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄褐	胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位のナデ。底部外面はへらナデ。	
第98図 PL.72	11	礫石器 石皿	竈前床面直上 2/3	長幅	(21.7) (15.1)	厚重 9.3 2653.7	牛伏砂岩	表面に明瞭な凹みをもつ磨面が認められる。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。左右側面及び上側面は自然面と判断され垂円礫を利用する。	
第99図 PL.72	12	瓦 平瓦	竈前使用面上12 cm 破片				礫・粗砂粒/還元 焰/黄灰	隅部破片。外面に布目痕。内面は丁寧なナデ、一部にへら削り。側端部は面取り2回。小口端部も面取り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第99図 PL.72	13	瓦 平瓦	竈前床面上11cm 破片				礫・粗砂粒/還元 焰/灰黄	下端右辺隅の破片。外面に布目痕。内面にナデ。側端部の 面取りは2回で丁寧なナデを重ねる。小口端部の面は中位 かくぼみ重弧文状を呈する。	
第99図 PL.72	14	瓦 平瓦	竈前床面上3cm 破片				礫・粗砂粒/還元 焰/灰黄褐	小口端部が残存する破片。焼成時の変形によるためか横断 面は外方に向けて弧をなす。外面に布目痕。その下に叩き 痕が残るか。内面はナデ。小口端部は面取り1回。	内外面に自然 釉。
第99図 PL.72	15	瓦 平瓦	床面直上 破片				礫・粗砂粒/還元 焰/灰白	側端部が残存する破片。外面は布目痕。粘土板削ぎ取り痕 あり。内面は叩き目の上にナデを重ねる。側端部の面取り は3回。	
第99図 PL.72	16	瓦 平瓦	床面直上 破片				粗砂大の白色鉾物 粒/還元焰/灰黄	外面は布目痕。粘土板の剥ぎ取り痕あり。外面は横位のナ デ。一部削り状。凹部分に布目痕を残す。	

10-2区87号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 高	13.0 3.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面にはナデの面を残す。底部外面 は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第100図	2	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	14.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面にはナデの面を残す。底部外面 はへら削り。内面はナデ。	
第100図	3	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	14.8		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちへら削りと考えられる。 底部外面は磨滅。	
第100図	4	須恵器 蓋	埋没土中 天井部片	摘	5.3		夾雑物なし/還元 焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部摘み寄りは回転へら削 り。	胎土・緻密
第100図	5	須恵器 蓋	埋没土中 摘み~胴部上位 1/2片	摘	5.2		粗砂粒・黒色鉾物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面は摘み寄りに回転 へら削り。	
第100図	6	須恵器 杯	埋没土中 底部1/2	底	11.2		白色鉾物粒少量/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は左回り。底部は回転へら切り後、ナデ 調整。	
第100図	7	礫石器 磨石	埋没土中 完形	長 幅	18.6 7.6	厚 重 3.4 779.7	変玄武岩	表面全体から右側面にかけて磨面が認められる。側面部に 敲打痕が散在し特に左右側面に集中する。	
第100図 PL.73	8	鉄製品 釘	埋没土中 ほぼ完形	長 幅	7.3 1.2	厚 重 0.9 12.3	鉄	頭部が欠損。全体が錆で覆われていて、詳細は不明。もど は方形の釘であるが、劣化、さびによる膨張により変形し ている。	

10-2区93号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.73	9	土師器 杯	床面上13cm 2/3	口 高	13.3 3.5		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上位に成形時のナデの面を残す。以 下底部まで手持ちへら削り。内面はナデ。	
第100図	10	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部~天井部 片	口	13.6		夾雑物ほとんどな し/還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の中央寄りに回転 へら削り。	

10-2区86号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図 PL.73	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部~体部 1/2	底	11.7		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面以下は手持ちへら削りと考えら れるが、器面磨滅。内面はナデ。	
第101図	2	土師器 杯	床面上14cm 口縁部~体部 1/3	口	13.8		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第101図	3	土師器 杯	床面直上 1/4	口	12.0		粗砂粒/良好/橙	外面磨滅。底部は手持ちへら削りと考えられる。内面はナ デ。	
第101図	4	土師器 杯	埋没土中 口縁部~体部 1/3	口	12.9		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第101図	5	土師器 杯	床面上22cm 1/3	口	14.8		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第101図	6	土師器 杯	埋没土中 口縁部~底部 1/4	口 高	13.8 8.8		細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちへら削り。内面は口縁 部から体部に放射状の、見込み部に横位のへら磨き。	
第101図	7	土師器 鉢	床面直上 1/2	口 底	26.8 8.5	高 15.5	礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は横位・斜横位のへら削り。内面は へらナデか。	器面磨滅。
第101図	8	須恵器 蓋	埋没土中 口縁部~天井部 片	口	17.0		黒色鉾物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の中心部寄りに回 転へら削り。	
第101図	9	須恵器 蓋	埋没土中 摘み部	摘	4.2		夾雑物なし/還元 焰不良/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。	器面やや磨 滅。
第101図 PL.73	10	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 底	12.2 7.0	高 3.4	黒色鉾物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。体部下位は手持ちへら削り。 底部は手持ちの不定方向のへら削り。	底部内面に墨 書か。
第101図	11	須恵器 盤	床面上16cm 底部片	底	13.4		粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転へら切り後、回転 へら調整。底部は外縁に沿って沈線が一周する。	
第101図	12	土師器 甕	埋没土中 口縁部~胴部上 位片	口	14.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面はへら ナデ。	
第101図	13	土師器 甕	床面上26cm 口縁部~胴部上 位1/4	口	20.8		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削りと考えられる。	器面磨滅。

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図	14	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	20.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は図示より外反の可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第101図 PL.73	15	土師器 甕	床面上8cm 口縁部～胴部中 位片	口	20.1		礫・粗砂大の片岩・ 赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は磨滅。	
第101図	16	土師器 甕	床面上8cm 口縁部～胴部上 位片	口	22.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第101図 PL.73	17	土師器 甕	床面上12cm 胴部上位～胴部 下位1/2				粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	外面はへら削り。内面はへらナデ。	器面磨滅。

10-2区91号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第105図	1	土師器 杯	床面直上 1/3	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第105図	2	土師器 杯	貯蔵穴底面上7 cm 1/3	口 高	11.8 4.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第105図	3	土師器 杯	貯蔵穴底面上6 cm 1/3	口 高	10.6 4.0		粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第105図 PL.73	4	須恵器 杯	貯蔵穴底面直上 2/3	口 底	9.9 4.5	高 4.2	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。体部外面の底部寄りに指ナデ。底部は丁寧なナデ調整。	底部外面にへ ら書き。
第105図	5	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部上 位片	口	11.6		細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第105図 PL.73	6	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/3	口	22.3		粗砂大の片岩/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位が縦位の、下位は横位のへら削り。底部寄りは細く調整。内面は横位のへらナデ。	
第105図	7	土師器 甕	竈左袖前床面直 上 口縁部～胴部中 位片	口	21.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面最上位は横位、以下は縦位のへらナデ。	
第105図 PL.73	8	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部 1/4	口	24.9		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は斜横位、横位のへらナデ。	
第105図	9	土師器 甕	竈左前床面上3 cm 口縁部～胴部上 位片	口	21.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部内面は横位のナデ	器面磨滅。
第105図	10	礫	埋没土中 完形	長 幅	8.5 4.7	厚 1.7 重 88.3	珪質頁岩	全面が非常に滑らかである。部分的に黒褐色物質が付着する。	6(甕)の中の 土中

10-2区92号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図	1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口 高	13.3 4.1		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面以下は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面磨滅。
第106図	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口	12.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部成形時のナデの面を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第106図	3	須恵器 蓋	掘り方底面上6 cm 摘み部～天井部 上位	摘	5.2		夾雑物少ない/還 元焰/褐灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の摘み寄りは回転へら削り。	
第106図	4	須恵器 杯	埋没土中 1/4	口 底	13.6 7.6	高 4.6	黒色鈹物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は手持ちの不定方向のへら削り。	
第106図	5	須恵器 長頸壺	埋没土中 胴部上位片				白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰オリ ブ	ロクロ整形、回転は右回りか。頸部直下に網線が、肩部寄りには沈線がめぐる。沈線区画内にクシ状工具による刺突文が配される。	
第106図	6	土師器 小型甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位1/4	口	14.8		粗砂大の片岩/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は斜横位のへらナデ。	内面に炭素吸 着。黒色味。
第106図	7	須恵器 小型甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	12.6		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部内面は斜位のハケ目。内面は横位のナデ。	
第106図	8	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	22.4		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削り。内面は横位のへらナデ。	
第106図 PL.73	9	埴輪 形象埴輪か 基部片	埋没土中				粗砂粒/酸化焰/橙	外面はハケ目。ナデ状の底部調整を加える。内面は指ナデ。底面に棒状の圧痕が見られる。	

10-2区97号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第110図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部に成形時のナデの面を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面磨滅。

遺物観察表

10-2区98号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口高	口底	高さ			
第111図 PL.73	1	土師器 杯	埋没土中 3/4	口高	13.0 3.3		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	平面形は長円形を呈す。口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第111図 PL.73	2	土師器 杯	床面上7cm 1/3	口高	13.6 3.7		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第111図	3	土師器 杯	壁際溝底面上10cm 1/3	口高	13.1 3.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は上位に成形時のナデの面を残す。以下底部までは手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第111図	4	土師器 杯	貯蔵穴南脇床面上2cm 1/3	口	12.8		粗砂粒/良好/明赤褐	器面磨滅。	
第111図	5	土師器 杯	竈左袖脇床面上6cm 口縁部～底部片	口高	11.8 3.6		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第111図	6	土師器 杯	壁際溝底面上13cm 口縁部～底部 1/4	口	13.2		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第111図	7	土師器 有孔鉢	竈内燃焼部底面上24cm 口縁部～胴部片	口	22.0		粗砂粒/良好/黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。下位は斜横位。内面はヘラナデと考えられる。	
第111図 PL.73	8	須恵器 蓋	床面上9cm 口縁部一部欠	口底	13.3 2.5	摘	4.0 白色鈹物粒・黒色鈹物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の摘み寄りに回転ヘラ削り。内面平滑。	外面に窯壁の一部、自然釉付着。
第111図 PL.73	9	須恵器 平瓶	埋没土中 口縁部欠損	底	5.8		礫・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。肩部外面はナデ調整。体部下半に回転ヘラ削り。底部外面は回転ヘラ調整。	

10-2区113号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	口高	高さ			
第113図 PL.73	1	土師器 杯	凹地床面上6cm 2/3	口底	13.7 8.5	高	4.6 粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。底部も手持ちヘラ削り。内面は口縁部に底部から口唇端部に向けて右傾するヘラ磨き。底部に螺旋状のヘラ磨き。	
第113図	2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口底	14.8 8.8	高	4.2 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。底部外面もヘラ削り。内面はナデ。	
第113図	3	土師器 杯	凹地床面上8cm 口縁部1/2	口	15.0		礫・粗砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや磨滅。
第113図 PL.73	4	土師器 杯	凹地床面直上 2/3	口高	12.6 4.0		礫・粗砂大の片岩/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部には右傾するヘラ磨きを重ねる。	器面磨滅。
第113図	5	土師器 杯	凹地底面直上 1/3	口	13.0		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部・底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。口縁部内面にヘラ磨き。	
第113図	6	土師器 杯	埋没土中 口縁部1/4	口	12.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面は口縁部から体部にヘラ磨き。	器面磨滅。
第113図	7	土師器 杯	凹地床面上10cm 口縁部～体部片	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	器形は歪んでいるか。もっと平底ぎみになることも考えられる。口縁部は横ナデ。体部・底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面磨滅。
第113図	8	土師器 杯	凹地底面直上 口縁部～体部片	口	13.8		粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第113図	9	土師器 杯	凹地床面直上 1/4	口高	13.0 3.2		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上位に成形時のナデの面を残す。以下底部までは手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第113図	10	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	14.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面に成形時のナデの面を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第113図	11	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	14.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面体部には成形時の面を残す。型肌状。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第113図 PL.73	12	土師器 杯	凹地底面上13cm 1/2	口高	15.2 3.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。内面はナデ。	器面磨滅。
第113図 PL.73	13	土師器 杯	凹地床面直上 2/3	口高	17.6 5.9		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。	
第113図	14	土師器 有孔鉢か	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	21.8		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデの上に斜横位のヘラ磨き。	
第113図 PL.73	15	須恵器 蓋	凹地床面直上 1/2	口摘	19.0 4.8	高	4.9 黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部外面の摘み寄りに回転ヘラ削り。	
第113図 PL.73	16	須恵器 蓋	凹地床面上5cm 1/2	口高	19.6 3.9	摘	5.0 黒色鈹物粒少量/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。輪状の摘み貼付後、周縁部をナデ調整。天井部外面の摘み寄りに回転ヘラ削り。	内面摩耗。平滑になっている。
第113図	17	土師器 甌か	凹地床面上3cm 口縁部～胴部上 位1/2	口	25.6		粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りか。内面は横位のヘラナデの上に縦位のヘラ磨き。	外面磨滅。
第113図	18	土師器 甌か	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	29.8		粗砂粒/良好/明赤 褐	小破片のため器形・口径とも変更要素高い。内面は横位のヘラナデか。	器面磨滅。
第113図	19	土師器 小型甕	床面上10cm 口縁部～胴部片	口	13.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第113図	20	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	17.6	赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のナデ。	
第113図	21	土師器 甕	凹地床面上7cm 口縁部～胴部上 位片	口	25.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位の横ナデ。	
第113図	22	須恵器 甕	床面上7cm 胴部片			白色鈹物粒/還元 焰/褐灰	紐づくり成形。外面は斜方向の叩き目痕。内面は青海波状の当て具痕。	

10-2区115号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第115図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～底部片	口底	13.0 9.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。	器面磨滅。
第115図	2	須恵器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	11.4	夾雑物少ない/還元 焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第115図	3	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口	13.0	粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/灰	ロクロ整形、回転は不明。	器面磨滅。
第115図	4	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	26.0	粗砂粒/良好/橙	口径は小さくなる可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

10-2区117号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口底	14.0 9.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面は横位に手持ちヘラ削り。内面は右傾するヘラ磨き。底部外面は手持ちヘラ削り。	
第116図 PL.73	2	土師器 杯	竈焚口部手前床 面上4cm 口縁部一部欠	口高	12.8 3.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面上位に成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第116図	3	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口	17.6	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部外面はヘラ削りか。	器面磨滅。
第116図 PL.73	4	土師器 甕	竈焚口部手前床 面上3cm 口縁部～胴部片	口	22.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が横位・以下斜位・斜縦位・斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	内面磨滅。

11区25号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第120図 PL.74	1	土師器 甕か	床面上4cm 口縁部～胴部上 位1/3	口	24.0	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

11区36号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第124図 PL.74	1	土師器 杯	竈右側床面直上 完形	口高	11.1 4.1	礫・粗砂大の片岩 /良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第124図	2	土師器 杯	竈右側床面直上 1/4	口高	13.4 4.6	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第124図 PL.74	3	土師器 杯	竈右側床面直上 3/4	口高	14.9 4.8	礫・粗砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部は横ナデ。体部外面は最上位に成形時のナデの面を残し、以下底部まで手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部内面中央寄りに布目痕。
第124図 PL.74	4	須恵器 杯	埋没土中 1/3	口高	9.0 3.1	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転は右回り。	器面磨滅。
第124図	5	須恵器 鉢	床面上1.9cm 底部1/2	底	5.6	白色鈹物粒少量/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。体部外面の最下位に回転ヘラ削り調整。底部外面はナデ調整。やや磨滅。	内面平滑。二次使用か。
第124図 PL.74	6	須恵器 長頸壺	床面上3cm 胴部一部欠損	口	5.6	細砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。胴部下位は紐づくりか。外面にはヘラ削りの下に叩き目を残す。口縁部、頸部と胴部を別に作り接合している。口縁部には4条の沈線がめぐる。胴部へは小さな稜をなして移行する。胴部上半部にも4条の沈線がめぐる。中位にはカキ目。	
第124図 PL.74	7	須恵器 甕	埋没土中 胴部片			細砂粒/還元焰/灰 黄	大甕の底部に焼台、あるいは窯の床面に廃棄された甕2個の胴部破片と礫片が固着している。最上位とその下位の破片は内面に当て具痕を残す。	中位・下位の色調は黄灰褐。
第124図 PL.74	8	土師器 小型甕	竈右側床面直上 2/3	口底	15.6 6.4	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削りか。底部寄りのみ観察できる。内面はヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面磨滅。
第124図	9	土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口	20.0	礫・粗砂粒/良好/ 明黄褐	口縁部は横ナデか。胴部内面は横位のヘラナデ。	外面磨滅。
第124図	10	土師器 甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位1/4	口	21.6	礫・粗砂大の片岩 /良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面磨滅。
第124図 PL.74	11	土師器 甕	竈右側床面直上 口縁部～胴部上 位	口	21.1	粗砂粒/良好/橙	内外面とも磨滅。	
第124図 PL.74	12	土師器 甕	竈右側床面直上 口縁部～胴部中 位	口	22.8	礫・粗砂粒/良好/ 赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	厚	重				
第124図 PL.74	13	土師器 甕	竈右側床面直上 口縁部～胴部中 位1/2	口	21.5		粗砂粒・細砂粒多 量/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に数回に分けてへら削り。 内面は横位のへらナデ。		
第124図 PL.74	14	石製品 砥石	床面直上 4/5	長 幅	13.3 9.8	厚 重	7.0 1079.2	粗粒輝石安山岩	正面及び左側面に非常に滑らかな部分が認められ砥石と判 断した。正面の砥面はほぼ平坦であり、断面V字状の線 条痕が集中する。左側面の砥面は中央付近がわずかに膨ら んだ形態である。全体的に外面は自然面と判断され垂円 礫を利用する。	
第124図 PL.74	15	石製品 紡輪	床面直上 完形	長 幅	4.7 4.3	厚 重	1.4 37.3	蛇紋岩	表裏面ともよく研磨され、平滑面が形成されている。体部 側面は面取り整形され、粗い線条痕が残る。孔径約9mm。	逆台形状
第124図 PL.74	16	礫石器 磨石	床面上5cm 完形	長 幅	7.3 5.9	厚 重	5.2 320.2	粗粒輝石安山岩	全面が滑らかな面で構成されており磨面と考えられる。表 面の中央付近に特に滑らかな部分が認められる。	
第124図 PL.74	17	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.5 5.8	厚 重	3.0 433.9	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され垂円礫を利用している。	
第124図 PL.74	18	礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	15.0 5.7	厚 重	2.6 413.6	黒色片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第124図 PL.74	19	礫石器 棒状礫	床面上1.8cm 完形	長 幅	17.4 5.0	厚 重	3.2 498.8	変玄武岩	全面が自然面であり円礫を利用する。	
第124図 PL.74	20	礫石器 棒状礫	床面直上 不明	長 幅	(20.7) 6.1	厚 重	5.2 1127.6	雲母石英片岩	全面が自然面と判断され円礫を利用している。	
第124図 PL.74	21	礫石器 棒状礫	床面下3cm ほぼ完形	長 幅	13.4 6.1	厚 重	3.0 431.4	雲母石英片岩	表面の右半分に比較的滑らかな部分が認められるが人為 的な痕跡であるか判断できない。	
		礫石器 棒状礫	床面直上 不明	長 幅	(8.7) 2.9	厚 重	2.0 76.2	緑色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	埋没土中 完形	長 幅	12.7 7.3	厚 重	1.8 230.1	変質安山岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面下1.9cm 完形	長 幅	10.3 5.3	厚 重	3.3 231.2	緑色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面上2.2cm 完形	長 幅	13.5 5.2	厚 重	3.3 384.2	黒色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面直上 完形	長 幅	14.0 4.8	厚 重	4.9 454.3	砂岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	床面下2.4cm 完形	長 幅	14.0 6.3	厚 重	3.3 409.0	雲母石英片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	周溝底面上3.5 cm 完形	長 幅	14.7 4.9	厚 重	2.9 321.8	黒色片岩		計測のみ
		礫石器 棒状礫	埋没土中 完形	長 幅	12.2 5.8	厚 重	2.6 171.3	石英		計測のみ

11区37号竪穴建物出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	重				
第126図 PL.75	1	土師器 杯	竈壁際床面上8 cm 3/4	口 高	10.6 3.8		粗砂粒・細砂粒/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内 面はナデの上に底部から口縁部に向けて放射状にへら磨 き。	器面磨滅。	
第126図 PL.75	2	土師器 杯	埋没土中 2/3	口 高	10.7 3.5		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第126図 PL.75	3	土師器 杯	床面上2～4cm 完形	口 高	12.0 4.6		粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。		
第126図 PL.75	4	土師器 杯	床面上7cm 口縁部一部欠	口 高	10.5 3.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。	
第126図 PL.75	5	土師器 杯	床面上2～4cm 口縁部一部欠	口 高	10.8 3.4		粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。体部上位に成形時 のナデの面を残す。型肌状。以下底部までは手持ちへら削り。		
第126図 PL.75	6	土師器 鉢	竈埋没土中 口縁部～体部片	口	11.6		細砂粒/良好/にぶ い橙	器面磨滅。口縁部は横ナデ。体部外面はへら削りと考 えられる。内面はナデ。		
第126図 PL.75	7	土師器 有孔鉢	竈右側床面上3 cm 3/4	口 高	16.8 13.0		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	体部外面はへら削りと考えられる。内面はへらナデ。尖 底ぎみの底部には直径2.7×2.0cmの焼成前穿孔が見ら れる。	器面磨滅。	
第126図 PL.75	8	須恵器 蓋	床面上2～4cm 口縁部一部欠	口 高	11.8 3.4		夾雑物ほとんど無 し/還元焰やや軟 質/灰白	ロクロ整形、回転は左回り。天井部切り離し後、手持ち へら削り。	天井部内面は 平滑。身として 使用した か。	
第126図 PL.75	9	土師器 小型甕	竈右側床面上3 cm 口縁部一部欠	口 底	12.4 11.2	高	12.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が縦位、下半部が横 位のへら削り。内面はへらナデ。底部は平底ぎみの凸状 を呈す。手持ちへら削り。	器面磨滅。
第126図 PL.75	10	土師器 小型甕	床面直上 口縁部～胴部上 位1/4	口	15.2		粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横 位のナデか。	内面磨滅。	
第126図 PL.75	11	土師器 甕	竈左脇床面上7 cm 口縁部～胴部中 位1/3	口	24.0		礫・粗砂の片岩多 量/良好/明赤褐	器形は歪んでいるか。径は小さくなる可能性あり。口縁 部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面はへら ナデか。	内面磨滅。	

11区1号竪穴状遺構出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第127図	1	土師器 杯	床面上5cm 口縁部片	口	13.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第127図	2	土師器 甕	床面上10cm 口縁部片	口	22.0		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。

6区4号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第131図 PL.75	1	製作地不詳 磁器 不明	埋没土中 体部下破片	口 底	— (8.0)	高 —	— 夾雑物微量/—/灰 白	外面の体部下位に崩れた蓮弁文。底部に1か所小孔あり。	近・現代
第131図 PL.75	2	在地系土器 内耳焙烙か	埋没土中 口縁部破片	口 底	— —	高 —	— 夾雑物少量/—/黒 褐	口唇端部は平坦面をなす。器面はヨコナデ。外面炭素吸着。	時期不詳。 江戸時代か。
第131図 PL.75	3	石製品 石臼(下臼)	埋没土中 1/2	長 幅	(18.1) (31.5)	厚 重	7.3 4201.9	粗粒輝石安山岩	正面のすり合わせ面は非常に滑らかであり挽目の痕跡は認められない。全体的に薄形であり作業によりすり減りした可能性が高い。
第131図 PL.75	4	石製品 石製品	埋没土中 不明	長 幅	40.8 (57.4)	厚 重	16.5 49180.0	牛伏砂岩	表面に大形漏斗状の凹みが多数認められる。上下両側面及び裏面は自然面と判断され垂角礫を利用する。表面は自然面か加工面か判断できない。

10区7号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第132図	1	須恵器 壺	埋没土中 胴部片				黒色鋳物粒・粗砂 粒/還元焰・軟質/ 淡黄	小破片のため径が小さくなる可能性あり。ロクロ整形。外面はナデ調整。肩部屈曲部の上位に沈線が一周する。	
第132図 PL.75	2	在地系土器 すり鉢	埋没土中 口縁部破片	口 底	(26.4) —	高 —	— 海面骨針含む細砂 粒/—/灰黄褐	口唇端部は外縁側が丸味をおびる。器面はヨコナデ、ナデ。内面は上位まで使用により磨滅。	中世。
第132図 PL.75	3	在地系土器 すり鉢	底面上37.5cm 口縁部～体部上 位破片	口 底	(29.0) —	高 —	— 片岩含む粗砂粒/ —/黄灰	口唇端部はやや丸味のある平坦面をなす。外面の口縁部にヨコナデ。体部には成形時の面を残す。ひび割れ。内面はナデ。使用していることがあまり感じられない。	中世。
第132図 PL.75	4	常滑陶器 甕	埋没土中 体部破片	口 底	— —	高 —	— 粗砂粒多量/—/に ぶい黄橙	紐作り成形。内外面にナデ調整。外面に鏝軸。	中世。
第132図 PL.75	5	在地系土器 内耳鍋	埋没土中 体部破片	口 底	— —	高 —	— 粗砂粒・細砂粒/ —/にぶい褐	外面はナデ。炭素吸着。	中世。
第132図 PL.75	6	在地系土器 内耳鍋	埋没土中 体部破片	口 底	— —	高 —	— 粗砂粒・細砂粒/ —/にぶい赤褐	外面の下位にはへら削り。他はナデ。	中世。

10-2区10号井戸出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第133図	1	須恵器 甕	埋没土中 胴部片				粗砂大の白色鋳物 粒/還元焰/灰白	紐づくり成形。外面は平行叩き目文の上にナデ。内面は当て具痕の上にナデ。	
第133図 PL.75	2	龍泉窯青磁 碗	埋没土中 口縁部～体部破 片	口 底	— —	高 —	— 夾雑物無し/—/灰 黄	口唇部は内側がそがれ、弱い稜をなす。内面に片彫りで草花文ないし雲文状の文様を配する。外面にも施文。	12世紀後半～ 13世紀中頃。

6区17号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第135図 PL.75	1	土師器 杯	底面上20～30 cm 底部欠損2/3	口	13.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口唇端部は外側がそがれ尖る。口縁部は横ナデ。体部(稜下)から底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。		
第135図 PL.75	2	土師器 杯	底面上20～30 cm 口縁部1/3欠	口 高	13.7 5.1		粗砂粒・黒色鋳物 粒・赤色粘土粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。	器面磨滅。	
第135図 PL.75	3	土師器 高杯	底面上20～30 cm 2/3	口 脚	15.9 16.7	高	19.6	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/浅黄橙	杯部口縁部は横ナデ。受け部外面はへら削り。脚部外面は縦位のへら削り。内面は横位のへら削り。裾部は横ナデ。	器面やや磨 滅。
第135図	4	土師器 高杯	底面上20～30 cm 杯部片	口	20.0			細砂粒/良好/黄橙	上半部は斜め上方に向けて大きく外反する。	器面磨滅。
第135図	5	土師器 高杯	底面上20～30 cm 杯部下位～脚部 1/3					細砂粒/良好/橙	杯部外面はへら削り。脚部外面は縦位のへら削り。内面の上位は指ナデ。以下はへら削りか。	内面に炭素吸 着。黒色味。 器面磨滅。
第135図	6	土師器 高杯か	底面上20～30 cm 脚部下位片	台	16.0			細砂粒/良好/橙	裾部と考えられる。内外面とも横ナデ。	
第135図	7	土師器 甕	底面上20～30 cm 1/3	口 底	18.2 6.6	高	17.7	礫大の片岩/良好/ にぶい褐	器形は大きく歪む。胴部は丸みを有する。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位の、下位は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。焼成後、平底の底部に還元径5.8cmの孔を穿っている。	
第135図 PL.75	8	土師器 甕	底面上20～30 cm 口縁部～底部 1/2	口 底	22.2 10.0	高	26.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面はへら削りが観察できるが、この上にへら磨きが施されたか。底部の孔開口部はへら削り。	器面やや磨滅。 実測図は図上 復元。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第135図	9	土師器 甌	底面上20～30 cm 口縁部～胴部上 位1/4	口	23.2		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデの上に、磨きを意識した縦位のヘラ削り。		
第135図 PL.76	10	土師器 甌	底面上20～30 cm 2/3	口 底	23.1 11.2	高	31.1	粗砂粒・細砂粒・ 赤色粘土粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデの上に縦位の弱いタッチのヘラ削りを重ねる。	器面磨滅。
第135図 PL.76	11	土師器 甌	底面上20～30 cm 1/2	口 底	25.6 10.8	高	30.1	細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は斜 横位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデの上にヘラ磨きを 重ねている。底部近くは横位のヘラ削り。	器面磨滅。
第135図	12	土師器 甌	底面上20～30 cm 口縁部～胴部上 位片	口	26.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部の器面は磨滅。外面は縦位のヘラ削 り。内面は縦位・横位のヘラナデか。	
第135図	13	土師器 甌	底面上20～30 cm 口縁部～胴部上 位2/3	口	25.6			赤色粘土粒・粗砂 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削りか。	
第135図 PL.76	14	土師器 甌	底面上20～30 cm 3/4	口 底	26.5 11.9	高	31.4	粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	胴部最下位のぼぼ対向する位置に一对の小孔を焼成前に穿 つ。孔の直径は0.8cm。口縁部は横ナデ。胴部外面は上位 が縦位の、中位が斜横位の、下位が幅広く横位の横ナデ。 内面は横位のヘラナデの上に縦位のヘラ磨きを重ねる。最 下位はヘラ削り。	器面やや磨 滅。
第135図	15	土師器 甌	底面上20～30 cm 胴部下位～底部 1/2	底	12.0			赤色粘土粒・粗砂 粒/良好/橙	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜縦位の磨き。最下 端に横位のヘラ削り。端部にもヘラ削り。	
第135図 PL.76	16	土師器 小型甕	底面上20～30 cm 口縁部～胴部下 位	口	14.3			礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が斜横位、以下は斜位の ヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第135図 PL.76	17	土師器 甕	底面上20～30 cm 3/4	口 底	17.2 6.7	高	20.5	礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位、下位底部寄り は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面もヘラ削り。	
第136図	18	土師器 甕	底面上20～30 cm 口縁部～胴部下 位1/3	口	18.8			礫大の片岩・粗砂 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。底部近く は斜位のヘラ削り。内面は中位が斜位・上位が横位のヘラ ナデ。	
第136図 PL.76	19	土師器 甕	底面上20～30 cm 底部欠	口	21.0			礫大の片岩多量/ 良好/橙	横断面は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦 位のヘラ削り。底部寄りは短い単位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	
第136図 PL.76	20	土師器 甕	底面上20～30 cm 口縁部～胴部下 位1/4	口	21.4			礫・粗砂大の片岩 多量/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位から中位が縦位の、下 位が斜位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。	
第136図	21	土師器 甕	底面上20～30 cm 口縁部～胴部中 位1/2	口	20.6			礫大の片岩・粗砂 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラ ナデか。	内面磨滅。
第136図	22	土師器 甌か	底面上20～30 cm 口縁部～胴部上 位1/2	口	21.6			礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。 内面は横位・斜位のヘラナデ。	
第136図	23	土師器 甕	底面上20～30 cm 胴部上位～底部	底	5.8			礫大の片岩・粗砂 粒/良好/にぶい褐	器形は大きく歪んでいると考えられる。胴部上位から中位 と胴部下位の2部位から図上復元。胴部外面は縦位の、底 部寄りは斜位のヘラ削り。内面は縦位・斜位のヘラナデ。 底部外面に木葉痕。	
第136図	24	土師器 甕	底面上20～30 cm 胴部下位～底部	底	7.2			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	胴部外面は縦位に丁寧なヘラ削り。内面は丁寧なヘラナデ。 底部外面はヘラ削り。	
第136図	25	土師器 甕	底面上20～30 cm 胴部下位～底部	底	5.0			礫・粗砂粒/良好/ にぶい赤褐	胴部外面は斜位・横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。底部 外面に木葉痕。	
第136図	26	土師器 甕	底面上20～30 cm 口縁部～胴部上 位片	口	17.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横 位のヘラナデ。	内面磨滅。
第136図	27	土師器 甕	底面上20～30 cm 頸部～胴部上位					礫大の片岩・粗砂 粒/良好/明赤褐	形状は頸がしまり、胴が張る可能性あり。外面はヘラ削り。 内面はヘラナデと考えられる。	器面磨滅。
第136図 PL.76	28	土師器 甕	底面上20～30 cm 1/2	口 底	22.2 9.0	高	38.3	礫大の片岩・粗砂 粒・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面の底部寄りはヘラナデの上に一 部ヘラ磨き。他の器面は磨滅。	

6区21号溝出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第137図 PL.77	1	土製品 不明	底面直上 破片	長 幅	7.5 6.0	厚 重	5.3 191.8	胎土はやや粗く、 スサが一部に見ら れる。	1/2残存。両端が残存する短い土製品。端部より1cmでわ ずかにラッパ状に広がる。基部に比熱が見られる。整形は 見られない。形状はやや丸みを帯びる	外形直径10cm 内孔直径 1.6cm
第137図 PL.77	2	土製品 不明	底面上2.5cm 破片	長 幅	5.5 4.2	厚 重	2.8 52.5	胎土がやや細か く、やや軟質。	短い筒状の土製品破片。一方の端部が残存か。若干の通風 孔の内面が残存する。	
第137図 PL.77	3	土製品 羽口	底面直上 破片	長 幅	11.5 6.2	厚 重	4.5 216.2		基部から体部にかけて残存する。長軸断面より芯棒に胎土 を斜めに巻き付けている様子が観察できる。表面、内部の 整形は観察できない。一部比熱を受けている。	外形直径8.4cm 内孔直径 3.6cm 挿入 角度計測不能
第137図 PL.77	4	石製品 地蔵像	底面直上 ほぼ完形	長 幅	14.2 9.6	厚 重	3.3 500.0	牛伏砂岩	表面には地蔵の衣が線刻により表現される。側面から裏面 にかけては線刻は認められず自然面であるか加工面である か判断できない。	

7-2区1号廃棄土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第140図 PL.77	1	瓦 丸瓦	埋没土中 小片					粗砂大の石英/酸 化焰、焼成後、還元 焰焼し/灰黄	外面は右回転口クロ条痕。内面は横位の粘土紐痕、布目痕。 側端面部は面取り2回。	2と同一個体 と考えられ る。
第140図 PL.77	2	瓦 丸瓦	埋没土中 小片					粗砂大の石英・黒 色鉱物粒/酸化焰、 焼成後、還元焰焼 し/灰黄	外面は右回転口クロ条痕。内面は横位の粘土紐痕、布目痕。	
第141図 PL.77	3	土製品 羽口	底面上15.8cm 破片	長 幅	8.8 7.2	厚 重	4.8 181.1	大きめの礫、スサ が含まれる。胎土 はやや細かく、焼 成はやや固い。	先端付近から基部まで残る短い羽口。表面は粗く、整形か 判断できない。通風孔は基部に向かって広がり、先端部は やや滓化。	外形直径 7.5cm 内孔直径 3.1cm 挿入 角度約5度
第141図 PL.77	4	土製品 羽口	底面上19.2cm 一部欠損	長 幅	(8.5) 6.9	厚 重	7.1 344.2	胎土は細かく、礫 、スサを含む。焼成 はやや柔らかい。	羽口先端部。細かな線が表面に入っているが、整形跡とは 判別しがたい。	外形直径 6.8cm 内孔直径 2.0cm 挿入 角度約20度
第141図 PL.77	5	土製品 羽口	底面上20.5cm 一部欠損	長 幅	(8.7) 6.8	厚 重	7.1 276.8	胎土は細かくスサ 痕が見られ、わず かに小礫が混じ る。焼成はやや柔 らかく、粉っぽい。	先端部が残る羽口。基部は欠損している。先端部は溶損し、 丸みを帯びる。	外形直径 6.4cm 内孔直径 2.1cm 挿入 角度約10度
第141図 PL.77	6	土製品 羽口	底面上20cm 一部欠損	長 幅	(12.6) 7.2	厚 重	7.0 493.5	胎土は非常に細か い。胎土中にわず かにスサが見ら れ、焼成はやや柔 らかく、粉っぽい。	基部が欠損している羽口。一部にナデの整形がおこなわれ ている可能性があるが、明確とはいえない。	外形直径 7.0cm 内孔直径 2.1cm 挿入 角度約30度
第141図 PL.77	7	土製品 羽口	底面上20.6cm 一部欠損	長 幅	9.4 7.1	厚 重	7.2 258.3	胎土は細かく、ス サを含み焼成はや や柔らかく粉ぽ い。	先端部、基部がやや残存する短い羽口。先端部には光沢を 持つ滓が付着する。基部端から3cmほどのところでラッパ 状に広がる。整形は判然としないが、線刻状の痕跡が見ら れるか。	外形直径 7.2cm 内孔直径 2.8cm 挿入 角度約27度
第141図 PL.77	8	土製品 羽口	底面上19.7cm 破片	長 幅	10.0 7.3	厚 重	3.9 176.8	胎土は細かく、ス サを含む。焼成は やや甘く、粉ぽ い。	基部と先端部の一部が残存する短い羽口。破断面にも滓質 が付着している。基部端より2cmの所から基部に向かって ラッパ状に広がる。	外形直径 (基部)7.3cm (体部)7.0cm 内孔直径 (基部)3.5cm (体部)2.4cm 挿入角度約4 度
第141図 PL.77	9	土製品 羽口	埋没土中 破片	長 幅	6.0 (4.1)	厚 重	3.8 56.9	胎土は細かく、若 干のスサが含ま れる。焼成はやや 柔らかく、粉っぽい。	基部から先端部まで残存する非常に短い羽口。先端部に滓 質が付着する。	外形直径 7.0cm 内孔直径 3.0cm 挿入 角度約9度
第141図 PL.77	10	土製品 羽口	埋没土中 破片	長 幅	(5.0) 8.2	厚 重	5.4 141.9	胎土は細かく、ス サが含まれる。焼 成は柔らかい。	先端部が残存する羽口。通風孔内面の整形は見られない。 滓が先端部に付着する。	外形直径 7.8cm 内孔直径 2.2cm 挿入 角度計測不能
第141図 PL.77	11	土製品 羽口	埋没土中 破片	長 幅	(3.8) 7.5	厚 重	4.6 95.2	胎土に礫が多く含 まれている。現状 ではスサは見ら れない。焼成はや や甘く、しまり が弱く。	羽口先端部破片。整形等は不明。礫が表面に付着している。 酸化土砂が見られる。	外形直径 7.6cm 内孔直径 2.2cm 挿入 角度計測不能
第141図 PL.77	12	土製品 羽口	埋没土中 破片	長 幅	(8.8) (4.5)	厚 重	5.1 123.8	胎土は細かく、ス サを含む。焼成は やや甘く、粉ぽ い。	先端部が残存する通風孔が細い羽口。通風孔は先端部から 基部に向けて広がる。先端部に滓質が付着している。	外形直径 7.2~5.1cm 内孔直径 2.2cm 挿入 角度約23度

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	厚	重			
第141図 PL.77	13	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 一部欠損	長幅 (6.3) 8.9	厚 210.5	4.7		平面不整形円形。厚さ3.5cmとやや厚い。滓質は密。下面に一部炉床土が付着し、細かな木炭痕が見られる。上面にも細かな木炭痕が見られ、光沢のある滓が上部に付着し、磁着を持つ。	
第141図 PL.77	14	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 完形	長幅 8.5 6.6	厚 2.1 101.3			平面不整形円形。滓質は密。厚さ2.1cmと薄手。上面に厚さ0.5cm、長さ2cmの大きな木質痕がある。下面中央に酸化土砂が見られる。下面に見られる木炭痕は細かなものが多い。	
第141図 PL.77	15	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 一部欠損	長幅 (5.1) 9.2	厚 3.3 150.6			平面不正楕円形。滓質は上面は密だが、下面に向かい粗になる。上面は酸化土砂が付着する。下面は木炭痕が多く見られ、酸化土砂および白色の砂をかんでいる。	
第141図 PL.77	16	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 完形	長幅 9.6 7.4	厚 3.9 237.3			厚さ3.4cmとやや薄手。滓質はやや密。錆化しており、内部に劣化が見られる。上面は比較的平坦で若干の鍛造剥片、木炭痕を含む。下面に近くなるほど気泡が多くなる。また、木炭痕も上面より多い。	
第141図 PL.77	17	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 完形	長幅 6.9 4.1	厚 3.1 60.2			厚さは1.7cmと薄い。滓質はやや密。上面は木炭痕が観察され、細かな砂の塊(炉壁か。)が付着している。下面はやや気泡が多い。下面にも木炭痕が見える。	
第141図 PL.77	18	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 一部欠損	長幅 5.2 (3.3)	厚 2.6 29.3			厚さ1.5cmとやや薄手。滓質は密。上面は酸化土砂に覆われる。下面は鍛造剥片を含有する酸化土砂が見られる。	
第141図 PL.77	19	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 完形	長幅 3.7 3.1	厚 2.2 25.4			厚さは1.4cmと薄手。滓質は密。上面に木炭痕が残り、酸化土砂が付着する。下面は木炭痕が残り、下面上部は酸化土砂が付着する。	
第141図 PL.77	20	鉄滓 再結合滓	埋没土中 完形	長幅 10.1 8.1	厚 4.9 340.9			上面に滓片、鍛造剥片、木炭痕、酸化土砂を含む。下面は酸化土砂、鍛造剥片が見られる。	

6区143号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第148図 PL.78	1	肥前陶器 片口鉢	埋没土中 口縁部破片	口底 —	高 —	—	夾雑物微量/-/褐灰	口唇端部は外側に肥厚する。口縁部直下に切り込みを入れ、外面に舌状の粘土を貼り片口としている。透明釉。	江戸時代。
第148図 PL.78	2	在地系土器 内耳鍋	埋没土中 口縁部破片	口底 —	高 —	—	白色鈹物粒少量/-/にぶい黄褐	口唇端部は平坦面を体部から弱く屈曲した口縁部は外形弱く立ち上がる。口縁部はヨコナデ。体部外面はナデ。	江戸時代か。
第148図 PL.78	3	礫石器 凹石	埋没土中 ほぼ完形	長幅 12.0 8.6	厚 4.9 550.7		牛伏砂岩	表面の中央に漏斗状の凹みが認められる。凹みの内部は径5mm程度のほぼ円形の痕跡が累積した状態である。外面は自然面であるか加工面であるか判断できない。	

6-2区148号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第148図 PL.78	4	在地系土器 火鉢か	埋没土中 口縁部破片	口底 (17.2) —	高 —	—	黒色・白色鈹物粒少量/-/にぶい褐	外面、口唇部直下に沈線がめぐる。外面、縦位に櫛目状の文様。この上に横方向のナデを重ねる。	江戸時代～ 明治時代。
第148図 PL.78	5	在地系土器 か 焙烙	埋没土中 破片	口底 (40.6) (38.6)	高 5.3	5.3	黒色・白色鈹物粒少量/-/灰黄褐	口唇端部は両縁がやや丸味をおびた平坦面をなす。内耳は横断面が扁平で、下端は底面に接している。底部は平底。口縁部はヨコナデ。下位にへら削りの部分あり。外面に炭素吸着。	江戸時代。

6区76号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第148図 PL.78	6	製作地不詳 磁器 小杯	埋没土中 1/2	口底 (4.8) (3.0)	高 4.6	4.6	夾雑物微量/-/灰黄	無文。透明釉。貫入入る。	製作時期不詳。
第148図 PL.78	7	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底 (9.8) (4.0)	高 5.5	5.5	夾雑物微量/-/灰白	焼成不良。体部外面に草文状の染付文。高台外面に2重の圏線。内面は口縁部に格子目襷文。見込みに1重の圏線。底部中央に不明文。	19世紀前半～ 中頃。
第148図 PL.78	8	瀬戸・美濃 陶器 皿	埋没土中 1/2	口底 (13.6) (7.0)	高 3.8	3.8	夾雑物少量/-/灰黄	口縁部内面に染付文。内面は底部中央に梅花文か。	19世紀。

6-2区145号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	重			
第148図 PL.79	9	製作地不詳 磁器 碗	埋没土中 1/3	口底 (8.2) (3.2)	高 5.4	5.4	夾雑物微量/-/灰白	無文。灰釉。	18世紀後半。
第148図 PL.79	10	肥前磁器 染付碗	埋没土中 2/3	口底 8.5 3.4	高 5.0	5.0	夾雑物無し/-/灰白	体部外面に半菊文と斜格子文。体部下位と高台境に圏線。内面は口唇部直下に2重の、見込みに1重の圏線。底部中央に不明文。	18世紀後半。
第148図 PL.79	11	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/4	口底 (8.3) (3.4)	高 4.8	4.8	夾雑物無し/-/灰白	焼成不良。高台は小径。外面に丸文が重なる。	製作時期不詳。
第148図 PL.79	12	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土中 1/4	口底 (9.8) (3.6)	高 4.9	4.9	夾雑物微量/-/灰黄	無文。透明釉。	18世紀。
第148図 PL.79	13	製作地不詳 土瓶蓋	底面上19cm 口縁部端部一部 欠損	口底 (9.2) 5.0	高 2.1	2.1	夾雑物少量/-/にぶい黄橙	落とし蓋。凹型で、端部は水平に開く。摘みは外れている。器面はナデ調整。	製作時期不詳。 同図16の蓋。
第148図 PL.79	14	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	底面上33cm 完形	口底 8.0 4.1	高 2.0	2.0	夾雑物微量/-/にぶい黄	口縁端部に1か所、小粘土粒を貼付する。体部外面はへら削り。口縁部外面と内面に柿釉。	江戸時代。

土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第148図 PL.79	15	肥前磁器 染付御神酒 徳利	埋没土中 口縁部～肩部	口底	1.6	高	—	夾雑物無し/—/灰 白	肩部に梅花と笹の染付文。	江戸時代。
第148図 PL.79	16	製作地不詳 土瓶身	底面上17cm、19 cm 3/4	口底	(8.2)	高	11.0	夾雑物少量/—/に ぶい橙	短い注口の延長線上に把手が2か所付く。これに接して丸孔2個が並ぶ。側面の2か所に菊花と葉の文様が押されている。底部部脇に小さい脚を3か所貼付する。注口の取り付け部分には丸孔3個が穿たれている。器面は上半部はナデ調整。下半部は回転ヘラ削り。	製作時期不詳。 同図13の身。

6区84号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第149図 PL.79	1	在地系土器 皿	埋没土中 底部	口底	—	高	—	夾雑物少量/—/に ぶい褐	左回転ロクロ整形。底部は回転糸切り離し後無調整。	製作時期不詳。 近世か。
第149図 PL.79	2	在地系土器 円板	埋没土中 体部下位～底部 破片	口底	—	高	—	夾雑物少量/—/に ぶい橙	左回転ロクロ整形。底部は回転糸切り離し後無調整。板目痕を残す。口縁部を打ち欠いて円盤状に二次加工。	製作時期不詳。 近世か。
第149図 PL.79	3	在地系土器 焙烙	底面上15.5cm 口縁部破片	口底	—	高	—	黒色鈹微粒少量/ —/にぶい黄橙	口唇端部は平坦面をなす。底部は平底。器面はナデ。外面下半部には成形時の面が残る。口縁部に内耳が残る。横断面は偏平。器面、炭素吸着。	江戸時代か。
第149図 PL.79	4	在地系土器 焙烙	底面下2cm 口縁部破片	口底	—	高	—	白色鈹微粒少量/ —/黒褐	口唇端部は平坦面をなす。口縁部中位に焼成後の穿孔が1孔見られる。底部は平底。器面はヨコナデ。口縁部外面の上位に粘土紐の接合痕を残す。下半部にはナデの下に成形時の面が残る。口縁部に内耳が残る。横断面は偏平。下端は底面に接する。器面、炭素吸着。	江戸時代。
第149図 PL.79	5	石製品 茶臼	埋没土中 1/6	長幅	(12.5)	厚重	(10.3) 1084.0	粗粒輝石安山岩	正面のすり合わせ面は非常に滑らかである。底面には棒状の工具痕が認められる。	

6区100号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第149図 PL.79	6	志戸呂陶器 灯火受皿	埋没土中 1/4	口底	—	高	—	夾雑物少量/—/に ぶい橙	受け部の縁は口縁部より高い。油の流れ口を2か所以上切り込んでいる。体部外面は回転ヘラ削り。錆釉。	18世紀前半～ 中頃。

6区135号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長幅	5.0	厚重				
第149図 PL.79	7	銅製品 キセル吸い 口	埋没土中 完形	長幅	5.0	厚重	1.0 9.7	銅	羅字が一部残存する。2か所につなぎ目のようなものが見られるが、はっきりとしない。吸口の肩部分に約1ミリ間隔で小口を1周している線刻が入る。現状で最長1.8cm判別できる。	

6区95号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第149図 PL.79	8	土師器か 不明	埋没土中 小片					粗砂粒/やや軟質/ 橙	天地左右表裏不明。全体は板状を呈するが図表面に縦位の棒状圧痕。	糞状の混入物。
第149図 PL.79	9	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底	(8.6)	高	5.3	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に植物文。体部下位から高台境に3重の圏線。内面は口唇部直下と見込みに圏線。底部中央に不明文。	江戸時代。
第149図 PL.79	10	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底	(9.4)	高	—	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に雪輪梅樹文。高台外面に2条の圏線。	18世紀後半。
第149図 PL.79	11	肥前陶器 陶胎染付碗	埋没土中 口縁部～体部下 位破片	口底	(10.6)	高	—	夾雑物微量/—/黄 灰	外面、口唇直下に2重の圏線。その下位に植物文。貫入入る。	18世紀前半～ 中頃。
第149図 PL.79	12	瀬戸・美濃 陶器 尿瓶か	埋没土中 体部破片	口底	—	高	—	夾雑物少量/—/に ぶい黄橙	肩部が強く張る形状。外面に灰釉。	江戸時代。
第149図 PL.79	13	在地系土器 焙烙	埋没土中 破片	口底	—	高	—	夾雑物少量/—/に ぶい黄褐	口唇端部は平坦面をなす。底部は平底。内耳の横断面は偏平。下端は底面に接する。口縁部中位に小孔を1孔穿つ。器面はヨコナデ、ナデ。口縁部下位にのみヘラ削り。	江戸時代。

6区91号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第149図 PL.79	14	瀬戸・美濃 陶器 染付小杯	埋没土中 1/3	口底	(8.4)	高	4.8	夾雑物無し/—/灰 白	端反の杯。外面は口唇直下と高台境に圏線。体部には染付文と銘文。内面は口唇直下と見込みに圏線。底部中央にも文様を配す。	江戸時代。
第149図 PL.79	15	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底	(9.2)	高	5.1	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に染付文。雪輪状文か。高台境と高台外面に2重の圏線。高台内に不明銘。	18世紀後半。
第149図 PL.79	16	肥前磁器 染付皿	埋没土中 1/3	口底	(12.1)	高	3.2	夾雑物無し/—/灰 白	口縁部の内外面に染付文。高台境と高台外面に2重の圏線。高台内は周縁部に圏線。中央に不明銘。内面は底部中央に五弁花。	18世紀後半。
第149図 PL.79	17	在地系土器 焙烙	埋没土中 破片	口底	—	高	—	夾雑物微量/—/に ぶい赤褐	口縁部は浅く、口唇端部の断面形は丸い。口縁部下位にヘラ削り。底部は砂底状。外面に炭素吸着。	江戸～明治時 代。

6区81号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長幅	(10.9)	厚重				
第149図 PL.80	18	石製品 砥石	埋没土中 4/5	長幅	(10.9)	厚重	2.1 131.4	砂岩	表面、裏面、左側面に砥面が認められる。表面は上端及び下端に向かい研ぎ減りしている。裏面と左側面はほぼ平坦である。	

遺物観察表

6区89号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚重				
第150図 PL.80	1	製作地不詳 陶器 碗	埋没土中 体部中位～高台 部1/3	口底	2.8	高	—	夾雑物微量/—/に ぶい黄褐	高台部外面を除いて透明釉。貫入入る。	製作時期不 詳。
第150図 PL.80	2	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/3	口底	(9.4) 3.7	高	5.1	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に染付文。雪輪文か。高台外面に圈線。高台内に 不明銘。	18世紀後半。
第150図 PL.80	3	製作地不詳 磁器 染付碗	埋没土中 1/3	口底	(7.5) (3.5)	高	6.4	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に笹文か。染付文。	江戸時代終わ り。
第150図 PL.80	4	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底	(9.5) (3.8)	高	5.3	夾雑物微量/—/灰 白	体部外面に染付文。雪輪文か。体部下位、高台外面に圈線。	18世紀後半。
第150図 PL.80	5	瀬戸・美濃 陶器 鉢	埋没土中 体部中位～高台 部	口底	— 7.5	高	—	夾雑物少量/—/浅 黄	体部外面は回転へら削り。高台外面を除いて灰釉。底部内 面に重ね焼き痕。	18世紀末～ 19世紀初頭。
第150図 PL.80	6	常滑陶器 片口鉢か	埋没土中 体部下位～底部 破片	口底	— (18.5)	高	—	白色鉾物粒少量/ —/灰褐	大型品。平底の底部。砂状圧痕跡。外面はナデ。内面には 自然釉付着。	製作時期不 詳。
第150図 PL.80	7	製作地不詳 火鉢か	埋没土中 体部下位破片	口底	— —	高	—	細砂粒少量/—/に ぶい赤褐	外面、外型につけられた文様か。この上に横位のナデを重 ねる。	製作時期不 詳。
第150図 PL.80	8	石製品 石臼(上臼)	埋没土中 不明	長幅	(16.1) (13.8)	厚重	(9.9) 1969.6	牛伏砂岩	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。底面は著しく挽 き減りする。下端部に軸受孔の一部が認められる。	

6区102号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚重				
第150図 PL.80	9	瀬戸・美濃 陶器 腰鍔碗	埋没土中 完形	口底	9.1 3.9	高	5.7	不明/—/にぶい黄 橙	体部中位に螺旋状凹線。体部外面に錆釉。口縁部外面と内 面全面に灰釉。	As-A下。
第150図 PL.80	10	肥前磁器 染付皿	埋没土中 1/4	口底	(19.8) (11.5)	高	6.1	夾雑物微量/—/灰 白	口縁部外面に唐草の染付文。体部下位と高台外面に3重の 圈線。内面、口縁部に染付文。	18世紀後半。
第150図 PL.80	11	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢	埋没土中 1/3	口底	(20.0) —	高	—	黒色鉾物粒/—/淡 黄	外面、口唇部直下に沈線がめぐる。飴釉。口縁部に灰釉。	18世紀中頃。
第150図 PL.80	12	在地系土器 火鉢または 手焙か	埋没土中 1/3	口底	(21.8) (17.0)	高	7.5	黒色鉾物粒少量/ —/灰黄褐	底部は平底。脚が付く。1か所残存。口縁部外面はヨコナ デの上に先端、底部への移行部分にヘラナデ。	江戸時代。
第150図 PL.80	13	土製品 羽口	埋没土中 破片	長幅	(7.0) 7.7	厚重	3.9 163.8	胎土が細かく、焼 成がしまっている 。	羽口基部片。基部から体部に向けてやや広がっている。整 形は見られないが、表面は基部、体部、内面ともになめらか。	内孔直径 2.8cm 外形直径 7.8cm

6区69号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長幅	厚重	厚重				
第151図 PL.80	1	鉄滓	埋没土中 完形	長幅	7.3 5.2	厚重	3.9 102.1		土砂が酸化し酸化土砂を生成した際に付着した礫を持つ鉄 滓。木炭痕が見られ、鉄部は気泡がやや多く滓質はやや粗 いか。	
第151図 PL.80	2	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土中 破片	長幅	(5.0) 8.1	厚重	3.5 178.4		平面不整楕円形。厚さ2cmでやや薄い。上面、下面に木炭 痕が見られる。滓質は密。上面より、下面に多く気泡が見 られる。	
第151図 PL.80	3	土製品 羽口	底面直上 基部欠損	長幅	(13.5) 11.5	厚重	10.9 1248.8	胎土はやや粗く、 0.5cmほどの礫が 混じる。	大型の羽口。先端部が残り、基部が欠損。先端部全面にガラ ス質が残存し、頸部に椀形鍛冶滓が付着している。滓に 木炭痕が見られる。通風孔の内面は多角形の形状を持ち、 その辺はやや湾曲する。	外形直径 9.5cm 内孔直径 3.1cm(異形) 挿入角度約35 度

6区104号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長幅	厚重	厚重				
第151図 PL.81	4	石製品 石臼(上臼)	埋没土中 4/5	長幅	34.5 (37.5)	厚重	12.6 19400.0	牛伏砂岩	底面に挽き目の痕跡が明瞭に認められる。片減りするが挽 き目の痕跡が明瞭に残ることから再度挽き目を入れたと考 えられる。供給孔及び軸受孔の直径約4cm。	

6区90号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚重				
第151図 PL.81	5	在地系土器 内耳鍋	埋没土中 口縁部破片	口底	— —	高	—	片岩を含む細砂粒 少量/—/にぶい黄 褐	口唇部は平坦面をなす。内耳は細い棒状。器面はヨコナ デ、ナデ。外面、炭素吸着。	中世～近世。
第151図 PL.81	6	鉄製品 不明	底面直上16.1cm 不明	長幅	8.0 4.7	厚重	1.4 56.6	鉄	板状の鉄製品。全体にひび割れし、劣化している。使用目 的は不明。	

6区82号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				縦横	厚重	厚重				
第151図 PL.81	7	銭貨 寛永通寶 (四文銭)	底面直上 完形	縦横	2.832 2.824	厚重	0.134 4.4	銅	四文銭。11波。面、背ともに郭、輪、字、波紋ともに彫が 深く明瞭。背の輪の幅がやや右上が狭く、左下が広い。	
第151図 PL.81	8	鉄製品 釘	底面直上 破片	長幅	2.8 2.7	厚重	0.8 3.7	鉄	意図的に脚端部より2.7cmで90°曲がっており、L字形の釘。 頭部が欠損しており、脚部は端部をやつぶれている。	

6区119号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				縦 横	厚 重				
第151図 PL.81	9	銭貨 洪武通寶他	底面上13.2cm 完形	長 幅	2.4 2.5	厚 重	0.5 10.0	銅	洪武通寶を含む3枚が癒着した状態。全体的に劣化が激しい。洪武通寶の面は彫が深く郭、輪、字の判別可能。もう一方の面も面の彫りが深く、郭と外縁はやや明瞭だが、字は摩滅により銭種は不明。
第151図 PL.81	10	銭貨 治平元寶他	底面上17cm 完形	長 幅	2.7 2.8	厚 重	0.5 9.1	銅	治平元寶を含む3枚癒着。治平元寶は郭、輪、字はさびに覆われている範囲が多い。もう一面が背は見えており、郭、輪は彫が深く明瞭だが、さびの中に種子痕(モミガラか)が見える。

6区141号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				縦 横	厚 重				
第151図 PL.81	11	銭貨 正隆元寶	底面上2.1cm 一部欠損	縦 横	- 2.526	厚 重	0.265 1.3	銅	正隆元寶。劣化により「正」の字が欠損しているが、「隆」と「寶」の字が見られる。面の郭、輪は明瞭。背は郭、輪ともにさびが多く覆われており不明瞭。

6区103号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第152図 PL.81	1	肥前磁器 染付小碗	埋没土中 完形	口 底	7.6 3.3	高	4.3	不明/-/灰白	外面に虫籠文。縦格子目文に虫を3か所配す。体部下位と高台外面に圈線。内面は口唇直下に2重、見込みに1重の圈線。底部中央に宝珠文か。	18世紀後半～ 19世紀。
第152図 PL.81	2	肥前磁器 染付小碗	埋没土中 1/4	口 底	(7.8) (3.0)	高	5.2	夾雑物無し/-/灰白	焼成不良。体部外面に矢羽根文。体部下位と高台外面に圈線。内面は口唇直下に2重、見込みに1重の圈線。	18世紀後半。
第152図 PL.81	3	瀬戸陶器 すり鉢	埋没土中 体部下位～底部 破片	口 底	- (10.5)	高	-	黒色鈹物粒少量/ -/にぶい黄橙	左回転ロクロ整形。外面の体部下位は回転へら削り。底部は回転糸切り離し後無調整。内面には14本1単位のクシ目。内面は使用により磨滅、平滑になっている。錆釉。	江戸時代。
第152図 PL.81	4	瀬戸陶器 すり鉢	埋没土中 体部下位～底部 1/3	口 底	- (12.6)	高	-	黒色鈹物粒少量/ -/灰黄	左回転ロクロ整形。外面の体部下位は回転へら削り。底部周縁部は磨滅。底部は回転糸切り離し後無調整。内面には12本1単位のクシ目。内面は使用により磨滅、平滑になっている。錆釉。	江戸時代。

6区83号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第152図	5	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	口 底	-	高	-	細砂粒/還元焰や や軟質/灰黄	紐づくり成形。内外面とも横ナデ。外面には沈線区画の上にクシ状工具による刺突文と波状文が配される。	
第152図 PL.82	6	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土中 体部下位～高台 部	口 底	- 5.5	高	-	夾雑物少量/-/に ぶい黄橙	鉛釉。外面の見込み以下は化粧ぬぐい。	17世紀末～ 18世紀前半。
第152図 PL.82	7	在地系土器 内耳鍋か	埋没土中 体部破片	口 底	- -	高	-	夾雑物少量/-/に ぶい黄・黒	小破片。器面はナデ。外面に粘土紐の接合痕が残る。外面炭素吸着。	製作時期不 詳。

6区94号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第152図 PL.82	8	瀬戸・美濃 陶器 碗	埋没土中 体部下位～高台 部1/3	口 底	- (5.1)	高	-	夾雑物少量/-/灰 黄	無文か。灰釉。貫入入る。	江戸時代。
第152図 PL.82	9	瀬戸陶器 すり鉢	埋没土中 体部下位～底部 破片	口 底	- -	高	-	黒色・白色鈹物粒 少量/-/灰黄褐	底部外面は回転へら削り調整。内面にスリ目。使用により磨滅している。外面に錆釉。	江戸時代。
第152図 PL.82	10	在地系土器 すり鉢か	埋没土中 口縁部破片	口 底	- -	高	-	細砂粒少量/-/灰 黄	口唇端部は平坦面をなす。外面側は外方に突出する。器面はヨコナデ。	江戸時代か。

6区140号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第152図 PL.82	11	製作地不詳 火消し壺	底面上29.4cm 体部中位～脚部 1/3	口 底	- (19.6)	高	-	粗砂粒・白色鈹物 粒/-/明赤褐	平底の底部に半球形の脚が3か所付く。器面はナデ調整。	製作時期不 詳。
第152図 PL.82	12	鉄製品 釘	埋没土中 完形	長 幅	4.4 1.0	厚 重	0.8 2.5	鉄	砂が混じったさびに覆われている。くの字状に曲がる。断面は長方形。頭部は欠損。	

7区178号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第156図 PL.82	1	瀬戸・美濃 陶器 徳利	埋没土中 体部下位～底部 破片	口 底	- (7.0)	高	-	黒色鈹物粒少量/ -/灰	外面、柿釉か。	江戸時代。
第156図 PL.82	2	常滑陶器 甕か	埋没土中 胴部破片	口 底	- -	高	-	白色鈹物粒多量/ -/橙	大型品。紐づくり成形。外面にナデ調整。外面に自然釉付着か。	中世。
第156図 PL.82	3	礫石器 石皿	底面上16.3cm 1/2	長 幅	46.5 (36.7)	厚 重	(24.4) 24820.0	牛伏砂岩	表面に浅鉢状の磨面が認められ特に底部付近が滑らかである。裏面は全体的に凹凸が認められ打割面と考えられる。	

7区179号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高					
第156図 PL.82	4	瀬戸・美濃 磁器 染付碗	埋没土中 3/4	口 底	(8.8) 3.6	高	4.8	不明/-/灰白	端反碗。体部外面に染付文。口唇部直下と高台境に圈線。内面は口唇部直下に幅広い圈線。見込みにも圈線。その中に不明文。	江戸～明治時 代。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.82	5	肥前磁器 染付碗	埋没土中 1/2	口底	(10.2) 4.3	高	5.0	夾雑物無し/-/灰白	外面、体部は雪輪梅樹文。高台に2重の圏線。	18世紀後半。
第156図 PL.82	6	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	埋没土中 1/3	口底	(9.8) 4.6	高	2.0	夾雑物微量/-/褐灰	体部外面は回転へら削り。錆釉。体部外面は釉を拭い取っている。	19世紀。

7区150号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.82	7	銭貨 寛永通寶	床面直上 一部欠損	縦横	2.296 2.293	厚重	0.144 1.9	銅	新寛永。面の郭、輪は明瞭。背は彫が浅く郭、輪ともに不明瞭。字の判読は可能だが、広い範囲がさびで覆われている。また、輪が一部欠けている。	

7区54号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.82	8	瀬戸・美濃 陶器 植木鉢	埋没土中 体部下位～高台 部破片	口底	- (19.0)	高	-	夾雑物少量/-/灰白	外面に灰釉。高台内に墨書。	江戸時代。
第156図 PL.82	9	在地系土器 火鉢蓋	埋没土中 破片	口底	(34.1) (31.3)	高	(3.8)	夾雑物少量/-/明赤褐	器肉厚い。焙烙の天地を逆転させたような形状。口縁部はヨコナデ。下端寄りと天井部への移行部分に回転へら削り。天井部外面には成形時の面を残す。	製作時期不詳。

7区56号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.82	10	瀬戸・美濃 磁器 染付碗	埋没土中 1/3	口底	(8.6) (3.5)	高	4.4	夾雑物無し/-/灰白	端反碗。内外面に植物文。	江戸～明治期。
第156図 PL.82	11	瀬戸・美濃 磁器 染付小碗	埋没土中 1/3	口底	(9.3) (3.9)	高	5.0	夾雑物無し/-/灰白	焼成不良。外面は上下の圏線区画内に染付文。高台境近くと高台境に圏線。内面は口唇部直下に2重、見込みに1重の圏線。底部中央に不明銘。	江戸～明治期。
第156図 PL.82	12	瀬戸陶器 すり鉢	埋没土中 体部下位～底部 破片	口底	- (13.4)	高	-	黒色鉱物粒少量/ -/浅黄	体部外面下半は右回転ロクロ整形によるへら削り。底部周縁部はわずかに磨滅。底部外面は回転へら削り調整。内面は24本あるいは12本1単位のクシ目。錆釉。	復旧痕出土と接合。江戸時代。
第156図 PL.82	13	在地系土器 焙烙	埋没土中 破片	口底	(35.0) -	高	-	夾雑物少量/-/に ぶい褐	底部は凸レンズ状か。砂底状。	攪乱出土と接合。江戸～明治時代。

7区57号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第156図 PL.83	14	石製品 石製品	埋没土中 完形	長幅	6.2 5.7	厚重	1.5 52.1	流紋岩	砥石の転用品の可能性ある。全体的に多方向の細かい線条痕が多数認められる。表裏面に墨書があり、赤外線カメラ写真で表面は「安政四年 金鶴島 上州□□□」、裏面は「沢五郎」と判読できた。	

8-2区231号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第158図	1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口	8.6			細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。内面はナデ。	体部～底部は器面磨滅。

8-2区230号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第158図	2	土師器 羽釜	底面直上 口縁部～胴部片	口	18.0			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口唇端部は平坦面をなす。鈔の貼付は口縁部とのバランスを欠く。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り・ナデ。内面は横位のナデ。	
第158図	3	土師器 羽釜	底面上1.7cm 口縁部～胴部上 位片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	成形が粗雑で口縁部は波打っている。口縁部は横ナデ。鈔貼付後、周縁部にナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位・斜横位のへらナデ。	

10-2区181号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第171図 PL.83	1	土師器 杯	底面上14.4cm 1/2	口高	13.0 3.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は体部上位に成形時のナデの面を残す。以下底部まで手持ちへら削り。内面はナデ。	
第171図	2	土師器 杯	底面上14.3cm 1/2	口	15.4			礫・粗砂大の片岩 /良好/橙	器面磨滅。	
第171図	3	土師器 小型甕	底面直上 口縁部～胴部上 位片	口	14.0			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	外面磨滅。

10-2区188号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第171図	4	土師器 杯	底面上1cm 口縁部～体部片	口	12.4			細砂粒/良好/橙	器面磨滅。	

土坑出土遺物観察表

10-2区220号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第171図 PL.83	5	土師器 杯	底面下4.1cm 3/4	口 底	13.7 9.4	高	3.9	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちへら削り。底部外面も 手持ちへら削り。中央に「8」の字状のへら描き文、内面は 口縁部が左下から右上に向けて右傾するへら磨き。底部は 螺旋状にへら磨き。	

10-2区264号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第171図	6	土師器 杯	底面直上 1/3	口	13.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面には成形時のナデの面を残す。 以下底部は手持ちへら削り。	

10-2区208B号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第171図	7	土師器 杯	底面上5.9cm 1/4	口	12.0			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい橙	器面磨滅。	
第171図	8	土師器 杯	底面下4.6cm 1/3	口 底	18.0 12.0	高	5.0	粗砂粒/良好/橙	器面磨滅。体部外面は手持ちへら削りと考えられる。	
第171図	9	土師器 甕	底面上9.8cm 口縁部～胴部上 位片	口	23.0			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のへら削り。内面は横位 のナデ。	

10-2区180号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第171図	10	土師器 小型甕	埋没土中 口縁部～胴部上 位片	口	14.2			粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。	器面やや磨滅。

10-2区272号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚	重			
第171図 PL.83	11	鉄製品 鋏鋤先	底面下直上	長 幅	8.3 7.4	厚 重	1.3 45.7	鉄	装着部の上面が一部欠損している鋏鋤先。先端は欠けている。 また、劣化による膨らみも見られる。0.5cm程度の接 続部分がある。	

11区45号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第173図	1	土師器 鉢	底面上17.3cm 口縁部～体部片	口	29.2			粗砂粒・細砂粒/ 良好/にぶい黄橙	外面は磨滅。口縁部直下に沈線状。内面はナデ。	

11区65号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第173図 PL.83	2	土師器 杯	埋没土中 2/3	口 高	12.7 4.8			礫・粗砂粒・赤色 粘土粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。	器面磨滅。
第173図 PL.83	3	土師器 杯	底面上3.3cm、 底面下6.3cm 3/4	口 高	16.0 6.2			粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内 面はナデ。	
第173図	4	土師器 甕か	底面上18.5cm 口縁部～胴部上 位片	口	22.6			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のへら削り。	器面磨滅。

11区44号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚	重			
第173図 PL.83	5	礫石器 凹石	埋没土中 2/3	長 幅	(10.4) 11.0	厚 重	6.8 709.5	牛伏砂岩	表裏面のほぼ中央に漏斗状の凹みが認められる。表面の凹 みの内部は径5mm程度のほぼ円形の痕跡が累積した状態 である。外面は自然面であるか加工面であるか判断できない。	

6-2区403号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	高	厚	重			
第175図	1	土師器 甕	埋没土中 体部下位～底部	底	7.2			細砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	胴部外面はへらナデに近い削り。内面はへらナデ。	器面やや磨滅。

9区355号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚	重			
第175図 PL.83	2	土師器 杯	埋没土中 口縁部・体部一 部欠	口 高	13.1 4.7			粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。体部から底部外面は手持ちへら削り。内 面はナデ。	器面やや磨滅。

8-2区1002号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	厚	重			
第175図 PL.83	3	鉄製品 釘	埋没土中 破片	長 幅	2.3 0.7	厚 重	0.6 1.7	鉄	頭部、脚部欠損。詳細不明。若干さびによる膨れの影響が 現在の形状に見られる。	

遺物観察表

10-2区690号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL.83	4	土師器 杯	埋没土中 1/2	口 高	12.8 3.1		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面には成形時のナデの面を残す。 底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	

10-2区927号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL.83	5	土師器 杯	埋没土中 1/3	口	12.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。内面はナデ。	器面磨滅。

10-2区347号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図 PL.83	6	土師器 杯	埋没土中 1/2	口 高	15.6 3.0		粗砂粒/良好/橙	平面形は長円形を呈するか。口縁部は横ナデ。	器面磨滅。

11区307号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図	7	土師器 杯	埋没土中 口縁部～体部片	口	16.0		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面は口縁部直下に成形時のナデの 面を残し、以下に手持ちへら削り。内面はナデ。	

10-2区440号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図	8	須恵器 長頸壺	埋没土中 胴部上位片				黒色鈹物粒/還元 焰・軟質/浅黄	直径が大き過ぎるか。ロクロ整形、回転は右回りか。中心 寄り是不定方向のナデ。	

10-2区618号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図	9	土師器 鉢	埋没土中 口縁部～体部上 位片	口	27.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部外面は斜位のへら削り。	器面磨滅。

10-2区599号ピット出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
		礫	埋没土中 完形	長 幅	76.5 57.4	厚 重	17.0 45.3	牛伏砂岩	計測のみ

7区復旧痕出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第193図 PL.83	1	瀬戸・美濃 磁器 染付小碗	埋没土中 完形	口 底	8.7 3.6	高	4.5	夾雑物無し/-/灰 白	端反碗。内外面に植物文。	同図10と揃い か。江戸～明治 時代。
第193図 PL.83	2	製作地不詳 磁器 染付碗	埋没土中 2/3	口 底	(9.7) 3.8	高	5.5	夾雑物無し/-/灰 白	口唇部直下と体部下位に1重の圏線。この区画内に草花文 と文字の上絵。高台境にも1重の圏線。内面底部中央に草 花文。	江戸～明治時 代。
第193図 PL.83	3	瀬戸・美濃 陶器 掛分碗	埋没土中 高台部	口 底	— 4.2	高	—	夾雑物微量/-/褐 灰	体部を打ち欠き、円盤状に二次加工している。	As-A下。
第193図 PL.83	4	肥前磁器 染付皿	埋没土中 1/2	口 底	(9.8) 6.8	高	2.3	夾雑物無し/-/灰 白	高台は蛇の目凹型高台。口縁部外面に植物文。高台境に圏 線。内面は口縁部と底部中央に染付文。	江戸時代。
第193図 PL.83	5	肥前磁器 仏飯器	埋没土中 脚部	口 底	— 4.5	高	—	夾雑物無し/-/灰 白	上端の欠損部には二次加工が施されているか。基部に圏線。	18世紀後半。
第193図 PL.83	6	瀬戸・美濃 陶器 練鉢か	埋没土中 口縁部～体部上 位破片	口 底	(35.1) —	高	—	— 黄	外面は回転へら削り。灰釉。	江戸時代。
第193図 PL.83	7	瀬戸・美濃 陶器 徳利	埋没土中 体部下位～高台 部	口 底	— 11.3	高	—	— 灰	低い高台が付く。鉄釉。高台寄りの外面は鉄化粧風。	江戸時代。
第193図 PL.83	8	在地系土器 か 焔炉	埋没土中 体部中位3/4	口 底	— —	高	—	— 暗 褐灰	さな受けか。内面の中位に突起を3か所貼付する。外面は 中位に沈線が廻り、その下位にクシ目状の飾り。	
第193図 PL.83	9	在地系土器 焙烙	埋没土中 破片	口 底	— —	高	—	— 黄	口唇部は断面形が丸みをおびる。内耳の横断面が偏平で、 下端は底面に接する。器面はヨコナデ。口縁部は炭素吸着。 底面はヒビ割れ状態。	江戸時代。
第193図 PL.83	10	在地系土器 焙烙	埋没土中 破片	口 底	— —	高	—	— に ぶい赤褐	底部は丸底。凹レンズ状を呈す。砂底状。器面はナデ。口 縁部から底部に移行する部分にへら削り。外面に炭素吸着。	江戸～明治時 代。
第195図 PL.84	11	銭貨 寛永通寶	埋没土中 完形	縦 横	2.441 2.448	厚 重	0.144 3.5	銅	新寛永。面の郭、輪は明瞭。字もほぼ明瞭だが、一部摩滅 か。背は彫が浅いが郭、輪が明瞭。	
第195図 PL.84	12	銅製品 キセル雁首	埋没土中 完形	長 幅	6.0 1.3	厚 重	1.1 8.6	銅	雁首の首がつぶれ、火皿は欠損。また首の上部、下部が圧 力がかかって変形したと見られる。つなぎ目は見られない。	

遺構外出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図 PL.84	1	縄文土器 深鉢	7-2区104号竪穴 建物 口縁部片				A	口唇部に棒状具の刻み目を施して小波状縁を作出。0段多 条のRL縄文を横位・多段に施す。内面横位磨き。	関山Ⅱ式

遺構外出土遺物観察表

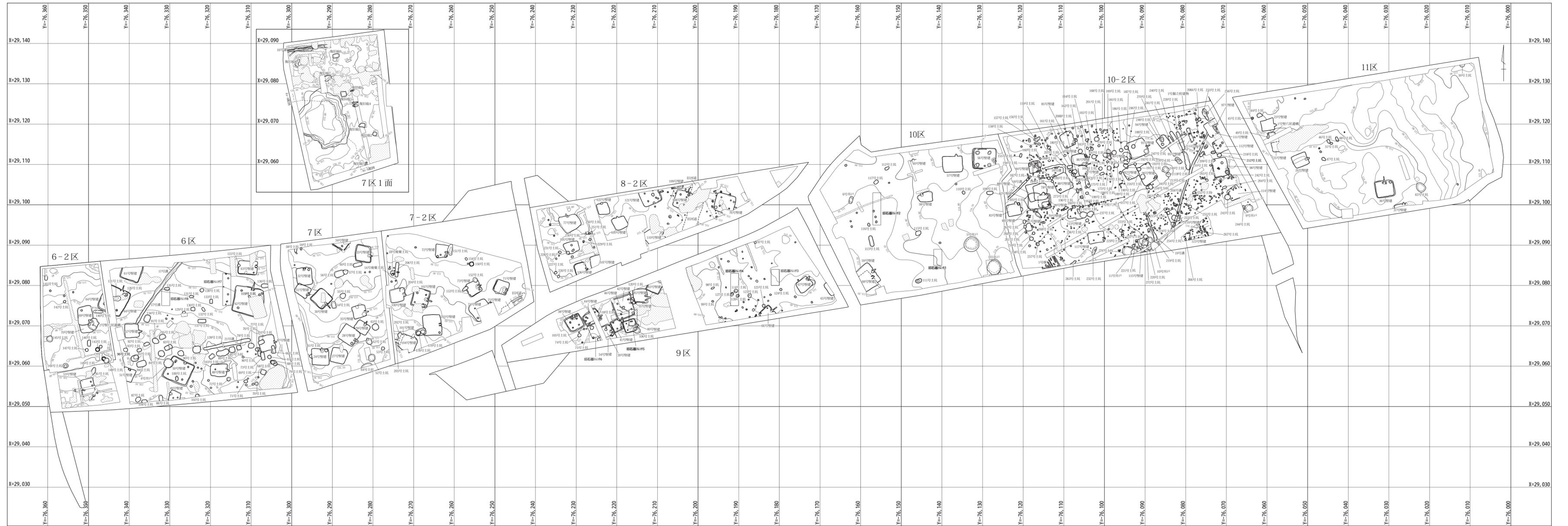
挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第196図 PL.84	2	縄文土器 深鉢	10-2区599号 ピット 口縁部片				B	口縁部に扇状把手を施し、剣先状の単列角押文により文様を構成。内外面共にやや風化。	阿玉台Ib式	
第196図 PL.84	3	縄文土器 深鉢	9区遺構確認面 口縁部片				D	隆帯の渦巻文や楕円区画文を施す。内外面共に著しい風化。	加曾利E2式	
第196図 PL.84	4	縄文土器 深鉢	10-2区119号竪 穴建物 胴部片				C	沈線懸垂文を施し、列点文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	堀之内1式	
第196図 PL.84	5	剥片石器 石鏃	7-2区103号竪穴 建物 完形	長 幅	1.8 1.4	厚 重	0.5 1.0	黒曜石	押圧剥離により両面加工する。	凹基無茎鏃
第196図 PL.84	6	礫石器 棒状礫	7-2区103号竪穴 建物 完形	長 幅	11.5 3.1	厚 重	1.9 93.9	雲母石英片岩	円柱状の整った形態を呈しており全体的に整形されている可能性がある。	
第196図 PL.84	7	礫石器 棒状礫	7-2区103号竪穴 建物 完形	長 幅	11.4 1.8	厚 重	0.9 33.3	雲母石英片岩	円柱状の整った形態を呈しており全体的に整形されている可能性がある。	
第196図	8	土師器 杯	8-2区南部遺構 確認面 1/4	口 高	12.2 2.6			粗砂粒・細砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。外面体部には成形時のナデの面を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第196図 PL.84	9	須恵器 杯	7-2区西部遺構 確認面 1/2	口 底	11.7 6.2	高	2.8	粗砂粒・細砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り離し後、無調整。	
第196図	10	須恵器 高台付杯	10区遺構確認面 体部下位～底部 1/4	台	12.4			粗砂粒/還元焰軟 質/灰黄	ロクロ整形、回転は左回りか。体部外面の高台部寄りには回転ヘラ削りか。高台部の回転削り出し高台は磨滅。底部を切り離し後、回転ヘラ調整。	器面磨滅。
第196図 PL.84	11	瀬戸・美濃 陶器 染付碗	7区攪乱 体部下位～高台 部	口 底	- 3.0	高	-	夾雑物無し/-/灰 黄	外面高台境、内面の見込みに圏線。中央に不明文。	19世紀。
第196図 PL.84	12	肥前磁器 染付碗	7区攪乱 1/3	口 底	(10.2) 4.0	高	4.5	夾雑物無し/-/灰 白	体部外面に雪輪梅樹文か。高台内に不明銘。	19世紀。
第196図 PL.84	13	製作地不詳 陶器 蓋か	7区攪乱 完形	口 底	3.7 1.3	高	1.5	夾雑物無し/-/に ぶい黄	下面は無釉。	江戸時代。
第196図 PL.84	14	肥前磁器 染付小杯	7区攪乱 1/3	口 底	(6.8) 2.6	高	2.8	夾雑物無し/-/灰 白	外面に染付文。	江戸時代。
第196図 PL.84	15	製作地不詳 陶器 灯火皿	7区攪乱 1/3	口 底	(10.0) (5.4)	高	(2.2)	夾雑物少量/-/灰 白	外面は体部以下に回転ヘラ削り。釉は鉄釉か。外面は拭い とっている。	江戸時代。
第196図	16	在地系土器 焙烙	7区攪乱 破片	口 底	- -	高	-	夾雑物少量/-/に ぶい黄褐	底部は丸底。凹レンズ状を呈す。底部外面はヒビ割れ状。器面はナデ。口縁部から底部に移行する部分にヘラケズリ。	江戸～明治時 代。
第196図 PL.84	17	萩陶器 小碗	6区47号竪穴建 物 口縁部～体部破 片	口 底	(7.1)			夾雑物少量/にぶ い橙	口縁部は短い端反り。外面、鉄釉と内面施釉の灰白釉をビラ掛け。内面、藁灰釉と考えられる失透性の灰白色の釉。	19世紀。
第196図	18	在地系土器 すり鉢か	10-2区北部遺構 確認面 体部下位破片	口 底	- -	高	-	片岩含む粗砂粒多 量/-/灰	器面、磨滅。	中世か。
第196図 PL.84	19	石製品 砥石	7区 不明	長 幅	(11.8) (7.9)	厚 重	4.7 485.3	牛伏砂岩	表裏面及び左側面に砥面が認められる。正面は下方に向かい 研ぎ減りしており、幅5mm程度の浅い線条痕が認められ る。裏面と左側面の砥面はほぼ平坦である。上面から右側 面にかけては自然面の可能性があり円礫を利用している可 能性が高い。	
第196図 PL.84	20	鉄製品 釘	8-2区遺構確認 面 一部欠損	長 幅	5.7 1.2	厚 重	1.4 8.2	鉄	砂をかんだ錆に覆われている。縦に劣化による割れが入り、 大きく破損している。頭部、脚部が欠損。	
		石製品 砥石	6区遺構確認面 完形	長 幅	5.1 2.8	厚 重	1.9 22.6	牛伏砂岩		計測のみ
		剥片石器 石核	9区遺構確認面 不明	長 幅	- -	厚 重	- 565.7	硬質泥岩		計測のみ

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第635集

塩川砂井戸遺跡(2) 池 石 田 遺 跡

(都)3.3.2 吉井北通り線社会資本整備総合交付金
(防災・安全/活力基盤)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

- | | | |
|-----|----------------------|-------|
| 付図1 | 塩川砂井戸遺跡(6～11区)全体図 | 1:400 |
| 付図2 | 塩川砂井戸遺跡ピット(10-2区)全体図 | 1:100 |



付図1 塩川砂井戸遺跡(6～11区)全体図

: 掘乱
 0 1:400 20m

